

## 教養教育科目

(1)整理番号	1
(2)区分番号	1
(3)科目種別	スタディスキル導入科目
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎ゼミナール (Basic Seminar)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	学生の所属によって異なる（時間割及び掲示を確認してください）
(10)担当教員（所属）	学生の所属によって異なる（時間割及び掲示を確認してください）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的・能動的学修の態度を獲得すること（学び続ける力）</li> <li>○資料（情報）の検索・収集・整理に関する基本的技能を習得し、初歩的な研究倫理観を育むこと（解決していく力）</li> <li>○問題発見能力を高めること（解決していく力）</li> <li>○基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること（解決していく力）</li> <li>○学生と担当教員、および学生相互におけるコミュニケーションをとれること（解決していく力）</li> <li>○安全で健康的な学生生活を送ることができると（解決していく力）</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>基礎ゼミナールの最大の目的は、学生の主体的・能動的な学修の能力を形成することです。主体的・能動的学修とは、自ら課題を設定し、その課題に対して自分自身、そして社会や学会が納得できるような解を模索していくことです。大学生活そして社会に出てからも主体的・能動的学修は常に求められます。だからこそ基礎ゼミナールでは、主体的・能動的学修を実践するための基礎を築くために、①～⑥の具体的到達目標を定めています。</p> <p>主体的・能動的学修の能力を養うためには、拙くても良いし、失敗しても良いので、まずは主体的・能動的学修に挑戦し、実際に経験してみることが大事です。そして学修の過程や結果を学修記録簿を作成して、学修を自ら管理していく習慣を確立していけば、徐々に主体的・能動的学修の力が育まれていきます。そのためにも安全で健康的な学生生活を送るための基本ルールを身につけることや、学生相互や教員との円滑なコミュニケーションを育むことが望まれます。</p> <p>そこで基礎ゼミナールは、少人数クラスを編成し、教員の支援のもとで、学生が自ら分析や調査、討論、発表等を行う「ゼミナール方式」を採用しています。</p> <p>基礎ゼミナールのエッセンスは、学生一人ひとりが、教員や仲間の助けを借りながら、探</p>

	求していく過程に宿っています。恥ずかしがったり、失敗を恐れたりせず、探求の世界に飛び込んでみましょう。
(16)授業の内容予定	<p>担当教員により、異なりますが、以下の内容を含みます。</p> <p>①主体的・能動的学修の体験  ②初歩的な研究倫理観の涵養  ③資料（情報）の検索・収集・整理、および発表  ④弘前大学における学生生活の基本ルールの体得</p> <p>一例としては以下の通りです。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 安全で健康な学生生活  第3回 大学における学習の進め方と研究倫理  第4回 資料探しの方法 図書館の活用  第5回 レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方  第6回 課題テーマ選定  第7回 課題テーマに関する情報収集  第8回 課題テーマに関する分析1  第9回 課題テーマに関する分析2  第10回 分析結果に関する討議  第11回 課題テーマに関する分析3  第12回 レポート作成  第13回 発表資料作成  第14回 報告会  第15回 授業の振り返り</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	主体的・能動的学修は授業時間だけでは完結しません。特に復習を欠かさず実施し、学修記録簿を作成し自分たちの探求の足跡をノートやデータの形でしっかり記録し、授業の節目節目に振り返ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じて、担当教員から指定があります。
(21)参考文献	「スタディガイド」「新入生のための学生生活ガイド」※いずれも教養教育ガイダンスの際に配付されています。 必要に応じて、担当教員からも紹介があります。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成績評価はペーパーテストではなく、学生の活動や成果を教員が観察し、その質を判断する「パフォーマンス評価」によって行います。</p> <p>パフォーマンス評価では、授業の到達目標ごとに設けられている評価基準表（ルーブリック）に基づき評価します。</p> <p>各到達目標が標準的な水準に達していれば「優」、秀でた行動が多ければ「秀」に、逆に体験に不十分な部分が多ければ低い評価になります。</p> <p>そして、授業に遅刻せず、しっかりと出席し、教員の指示をよく理解して、授業に積極的に参加することが大前提として重要です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	少人数ゼミナール

(25)留意点・予備知識	基礎ゼミナールで実践する探究活動は、受験勉強のような「あらかじめ正解の定められた課題に、素早く正確に答えていく」というものではありません。学生の中には、あまりにも受験勉強に慣れ親しんでしまったせいで、戸惑いを覚える方もいるかもしれません。そのようなときには、担当教員に迷わず相談するようにしてください。
(26)オフィスアワー	担当教員によります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	担当教員によります。
(28)その他	後期に開講される「地域学ゼミナール」を履修するためには、「基礎ゼミナール」の単位を修得していることが条件となります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	2
(2)区分番号	2
(3)科目種別	スタディスキル導入科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域学ゼミナール (Regional-Study Seminar)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	人文社会科学部・医学部保健学科・農学生命科学部：火曜日3・4時限 教育学部・医学部医学科・理工学部：木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	クラスにより異なる（掲示を確認してください）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学部横断チームの一員として自分の役割を認識し行動できること（学び続ける力）</li> <li>○学部横断チームの一員として他者の役割を判断し適切に働きかけることができること（解決していく力）</li> <li>○地域の問題に関する資料(情報)の検索・収集・整理ができること（解決していく力）</li> <li>○発表会で適切な行動ができること（解決していく力）</li> <li>○地域が有している課題を発見できること（解決していく力）</li> <li>○地域が有している課題に対し、解決策を提案できること（解決していく力）</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異なる学問分野を学んでいる学生6人程度ずつのチーム編成を行い、チームごとに問題解決学習（PBL：Problem Based Learning）を体験してもらいます。</li> <li>○個人・チームで主体的かつ能動的に活動する基礎的な力を培います。</li> <li>○異分野のメンバーで構成されたチームの中で、多元的な視点や考え方があることへの認識を深めます。</li> <li>○テーマは弘前や津軽地方・青森県の地域課題を取り扱います。</li> <li>○活きた地域の問題の解決に取り組むことで、問題解決の奥深さや難しさ、面白さを肌で感じ、地域の問題解決への意欲を高めます。</li> <li>○基礎ゼミナールで培った「大学での学びの基礎的な力」、いわゆるスタディスキル（自主的な学習態度、情報の検索・収集・整理、課題発見能力、文章構成力・発表能力・討論能力など）を活用し向上させます。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス：授業概要の説明と学習目標の設定</p> <p>第2回 チームビルディング演習：チームビルディングの意義と方法について体験的に学習</p> <p>第3回 ブレインストーミング演習：ブレイン</p>

	<p>ンストーミングの意義と方法について体験的に学習</p> <p>第4回 KJ法演習：KJ法の意義と方法について体験的に学習</p> <p>第5回 PBL①：グループ再編、チームビルディング、テーマ説明</p> <p>第6回 PBL②：問題の構造や原因の明確化</p> <p>第7回 PBL③：中間発表準備</p> <p>第8回 PBL④：中間発表</p> <p>第9回 PBL⑤：中間発表</p> <p>第10回 PBL⑥：問題解決策を検討</p> <p>第11回 PBL⑦：問題解決策を検討</p> <p>第12回 PBL⑧：最終発表準備</p> <p>第13回 PBL⑨：最終発表準備</p> <p>第14回 PBL⑩：最終発表（前半）</p> <p>第15回 PBL⑪：最終発表（後半）</p> <p>※クラスにより異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>この科目において、授業時間では、教員によるこれから行うべき作業の説明と、チーム内での情報や意見の交換、チームの成果に関する全体への報告を行います。</p> <p>このため、授業時間外では、チームの各メンバーと役割分担して、次の授業に向けた資料収集や資料分析、自分の考えの整理、報告書や発表資料作成などをしっかりと行う必要があります。</p> <p>毎回、チーム内での打合せを踏まえ、その都度自分が担当すべき作業を十分認識して、授業時間外の学習に取り組んでください。</p> <p>自分が担当すべき作業を行わないでいると、チームの作業の遅れや質の低下につながります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>特定の教科書は使用されません。</p> <p>全クラス同一のワークシートが配布されます。</p> <p>必要に応じて、授業進行に必要な作業説明資料等が配布される場合があります。</p>
(21)参考文献	<p>問題解決のために必要な文献等は、教員等の支援を受けながら、チーム内で役割分担して探します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>本科目は問題解決学習の「体験」を重視しています。</p> <p>学生自身が自分の達成度を判断できるように、授業の到達目標ごとの評価基準表（ルーブリック）を配布します。この表の評点2以上を目指して受講してください。</p> <p>受講生が各回の学習において、チームのメンバーとともに、能動的・協働的に参加する行動を一通り行えていれば「優」と評価します。</p> <p>発表やチーム内での活動などにおいて、特に秀でた点を教員が確認できた場合には「秀」と評価します。</p> <p>欠席や遅刻が多い、チーム内の作業を怠るなど授業への参加度合いが劣る場合にはその程度に応じて「良」「可」「不可」と評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	

	<p>通常の講義でなく、グループワークが中心です。</p> <p>教員は、行うべき作業の説明と、各チームの進行状況の管理を行います。情報を集めたり、整理したり、分析したり、解決策を考えたり、報告書を作成したり、発表を行ったりするのはチームで役割分担して行います。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>所属が異なる学生でチームを編成しますので、授業時間外にチームで相談する時間を調整することが困難です。授業中にチームでの相談を終え、授業時間外は個人での作業を行うよう、メリハリつけましょう。</p> <p>欠席や遅刻については、自分自身の体験の欠落をもたらすのみならず、チームのメンバーの体験を阻害するものであるため、厳しくチェックします。</p>
(26)オフィスアワー	担当教員によります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	担当教員によります。
(28)その他	「地域学ゼミナール」を履修するためには、「基礎ゼミナール」の単位を修得していることが条件となります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	3
(2)区分番号	3
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の行政－地域司法－（Government of Aomori－Regional justice－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員（所属）	平野 潔（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の行政に関わりのある見識を深めること ○行政に関する知識を活用して、地方自治体の全体像や地域社会が抱える課題、課題解決の展望を理解すること
(15)授業の概要	この講義は、ゲストスピーカーの講話を聴いて、青森県の司法の現状を知ることからスタートします。その後、担当教員が補足的な説明をしながら青森県の司法が抱える問題を抽出します。その抽出した問題について、受講者の皆さんが、自分なりの解決方法を考え、それを学生同士で議論してもらうこととなります。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 司法制度の概要―青森県の現状も含めて― 第3回～第5回 裁判員裁判の現状と課題 第3回 ゲストスピーカーによるレクチャー 第4回 補足説明等 第5回 ディスカッション 第6回～第8回 成年後見制度の現状と課題 第6回 ゲストスピーカーによるレクチャー 第7回 補足説明等 第8回 ディスカッション 第9回～第11回 司法過疎を巡る諸問題 第9回 ゲストスピーカーによるレクチャー 第10回 補足説明等 第11回 ディスカッション 第12回～第14回 被害者支援と条例 第12回 ゲストスピーカーによるレクチャー 第13回 補足説明等 第14回 ディスカッション 第15回 授業のまとめ ※ゲストスピーカーのご都合で順番や内容は変更になる可能性があります。詳しくは第1回の授業で説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：新聞をよく読むなどして、つねに現在の司法に関する問題を把握するようにしてください。 復習：3回分の授業が終了した後は、その間

	題に関する文献を読むなどして、理解を深めていってください。文献に関しては開講時に提示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。必要に応じて資料が配布されます。
(21)参考文献	基本的な文献に関しては、開講時に提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1つのテーマについて3つのレポートが課されます。 ①ゲストスピーカーの講話に関するレポート ②補足的な説明に関するレポート ③ディスカッションを踏まえたレポート このレポートの合算で成績評価を行います。つまり毎回の授業時に提出するレポートで100%の評価をします。期末試験は行いません。 それぞれの採点の基準は以下の通りです。 ①②については、ゲストスピーカーの講話や補足的な説明の内容を理解した上で感想等を書くことができるか ③については、グループワーク等の内容を踏まえてより深い考察ができているか
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	1つのテーマに関して、最初の回はゲストスピーカーによるレクチャーを行います。2回目は、担当教員がゲストスピーカーによるレクチャーを受けて、補足的な説明をします。この際、演習問題を提示し、受講者の皆さんに考えてもらう時間も設けます。3回目は、提示された課題について授業の前半は各自でレポートを作成してもらい、後半では学生同士のディスカッションをしてもらいます。
(25)留意点・予備知識	・ゲストスピーカーとして学外の方をお呼びするので、学生として(弘大生として)恥ずかしくない態度で授業を聞いて下さい。 ・ディスカッション等のグループワークが苦手な学生でも履修できます。現時点であれば知識に差はなく、多少おかしなことを言っても、みんなの知識がない状態なので目立ちません。このような形式の授業は今後増えていくことが予想されるので、早い段階で慣れた方がいいと思います。
(26)オフィスアワー	木曜1・2限(8:40~10:10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただ、その場合には、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにはしてもらえると助かります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	テーマの第1回目には、青森県内の司法関連機関の職員の方などをお呼びして、県内の司法にまつわる様々な課題について講義をしていただきます。



## 教養教育科目

(1)整理番号	4
(2)区分番号	4
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の行政－弘前市の地方自治－ (Government of Aomori－Hirosaki's Local Government－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	児山 正史 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の行政に関わりのある見識を深めること ○行政に関する知識を活用して、地方自治体の全体像や地域社会が抱える課題、課題解決の展望を理解すること
(15)授業の概要	○弘前市の行政の活動について学びます。 ○他の自治体の事例や、地方自治に関する一般的な事柄についても学びます。 ○地方自治体の行政の課題についての議論も行います。
(16)授業の内容予定	第1回 イントロダクション 第2回 弘前市の歴史 第3回 身近な地方自治(1) 水道 第4回 同(2) ごみ処理 第5回 同(3) 水道民営化(議論) 第6回 同(4) ごみ有料化(議論) 第7回 まちづくり(1) りんごのまちづくり 第8回 同(2) 都市計画 第9回 同(3) 中心市街地活性化 第10回 同(4) 弘前市のまちづくり(議論) 第11回 地方自治体の持続可能性(1) 財政 第12回 同(2) 行政改革 第13回 同(3) 市町村合併 第14回 同(4) 市町村合併(議論) 第15回 住民の政治参加
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	議論の予習として、自分の意見を考えてくる必要があります。 議論の後や授業を受けた後に、レポートを作成する必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用せず、プリントを配布します。
(21)参考文献	授業中に配布するプリントで適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>レポート（3回）の点数を合算して成績評価を行います。配点は各3分の1です。レポートのテーマは下記のとおりです。</p> <p>1回目：水道民営化、または、ごみ有料化</p> <p>2回目：弘前市のまちづくり</p> <p>3回目：特に興味を持ったテーマ</p> <p>テーマに沿って記述しているかななどを基準に採点します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業で取り上げたテーマに関する議論も行います。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	金曜日7・8時限（他の曜日・時限でも可）。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:koyamatd@hirosaki-u.ac.jp">koyamatd@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	弘前市の行政の活動などについて学びます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	5
(2)区分番号	5
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の行政－地域ボランティア入門－ (Government of Aomori－Introduction to local volunteer studies－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○李 永俊(人文社会科学部)、平野 潔(人文社会科学部)、日比野 愛子(人文社会科学部)、小谷田 文彦(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の行政に関わりのある見識を深めること ○行政に関する知識を活用して、地方自治体の全体像や地域社会が抱える課題、課題解決の展望を理解すること
(15)授業の概要	○ボランティアに関する基礎的な概念について学習し、理解を深める。 ○社会学や経済学、法学を用いて、地域社会が抱える課題についての分析を行う。 ○ボランティアの実践を通して、地域社会の課題を解決する力を養う。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション(李) 第2回 地域社会が抱えている諸課題について－社会経済環境の変化と地域社会－(李) 第3回 ボランティアとは－なぜ、ボランティアが必要なのか－(李) 第4回 災害の歴史(李) 第5回 東日本大震災と弘前大学ボランティアセンター①(李) 第6回 東日本大震災と弘前大学ボランティアセンター②(李) 第7回 東日本大震災と弘前大学ボランティアセンター③(李) 第8回 ワークショップ1 ー地域課題と大学生ー①(李・日比野) 第9回 ワークショップ1 ー地域課題と大学生ー②(李・日比野) 第10回 ワークショップ1 ー地域課題と大学生ー③(李・日比野) 第11回 過疎問題(小谷田) 第12回 子ども食堂(平野) 第13回 ワークショップ2 ー新たなボランティア活動を提案する①ー(日比野) 第14回 ワークショップ2 ー新たなボランティア活動を提案する②ー(日比野) 第15回 ワークショップ2 ー新たなボランティア活動を提案する③ー(日比野) 第16回 期末レポート
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	地域に潜んでいるボランティアニーズについて、ヒアリング調査やデータ分析、現地調査

	などを通して、その背景などを理解するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	防災工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会システム工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	弘前大学人文学部ボランティアセンター編『チーム・オール弘前の一年—岩手県野田村の復興支援・交流活動の記録—』(2012)弘前大学出版会 李永俊・渥美公秀監修『東日本大震災からの復興(3)—たちあがるのだ—北リアス・岩手県九戸郡野田村のQOLを重視した災害復興研究』(2016)弘前大学出版会
(21)参考文献	李永俊・渥美公秀監修『東日本大震災からの復興(1)—想いを支えに—聴き書き、岩手県九戸郡野田村の震災の記録—』(2014)弘前大学出版会 李永俊・渥美公秀監修『東日本大震災からの復興(2)—がんばるのだ—岩手県九戸郡野田村の地域力—』(2015)弘前大学出版会 渥美公秀『災害ボランティア—新しい社会へのグループ・ダイナミクス—』(2014)弘文堂
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度、リアクションペーパーを総合して、評価全体の30%) 中間評価(ワークショップの内容、グループワークの態度、発表の態度、同30%) 期末評価(理解度の確認、同40%) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義とワークショップを併用します。授業の最後にその日の講義の内容について質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。また、ワークショップの最後にはグループ別に発表をしてもらいます。
(25)留意点・予備知識	ボランティア活動を積極的に参加することをお勧めします。
(26)オフィスアワー	水曜日、10時00分から12時00分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yjlee@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	弘前大学ボランティアセンターに登録することをお勧めします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	6
(2)区分番号	6
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－商業、サービス業の役割－ (Economy/Industry of Aomori－Aomori's Economy・Industry Rore of Commerce and Service Industry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	保田 宗良 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する ○経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること
(15)授業の概要	○青森県の経済・産業事情を公的資料で概要を把握する。 ○観光を推進する事由、地域社会における検討課題を公的資料から把握する。 ○商店街、食品スーパーが、地域社会に与える様々な影響を事例から学習する。
(16)授業の内容予定	1 青森県の経済事情 2 青森県の雇用事情 3 青森県の産業構造 4 青森県の流通産業の課題 5 青森県の地域ブランドの課題 6 青森県の観光振興 7 津軽地域の観光振興 8 弘前市の観光振興 9 前半の学習をまとめたグループワーク 10 青森市の商業事情 11 八戸市の商業事情 12 弘前市の商業事情 13 弘前市の食品スーパーの考察 14 弘前地域の商店街の課題、買い物弱者対策 15 半期のまとめ、グループワーク及び議論した内容の発表 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、講義の要点を復習します。次回の講義の概要を説明し、予習することを示唆します。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	毎回、必要な資料を配付します。
(21)参考文献	講義時間に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>中間レポート(40点)+学期末試験(40点)+小テスト(20点)</p> <p>小テストは4回行います。各5点満点。正確な事実関係の理解を基本に、自分の意見が記述されていることを重要視します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	通常の講義形式+グループワーク
(25)留意点・予備知識	地元新聞の事例を精読すると、理解が進みます。
(26)オフィスアワー	木曜日、金曜日 12時~12時30分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えてください。
(28)その他	青森県内全域を対象に、学習します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	7
(2)区分番号	7
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－地域活性化について－ (Economy/Industry of Aomori－a study on regional activation－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	村中 文人(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する</p> <p>○経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○地域社会を構成する諸要素(ひと、もの、かね、情報等)の働きについて学習し、理解を深める。</p> <p>○地域社会システム(産業、行政、教育等)の特性を学び、地域社会が抱えている問題を解決するための方法について考える技術を学修する。</p> <p>○地域活性化の一例としてアルコール産業(酒造業)を例に、地域と産業の関わり合いについての具体的事例を学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回(4/11) イントロダクション</p> <p>第2回(4/18) 考えるためのツール</p> <p>第3回(4/25) 地域社会を構成するもの</p> <p>第4回(5/9) 「ひと」を理解するために小テスト</p> <p>第5回(5/16) 青森県の現状と課題</p> <p>第6回(5/23) 産業の機能と役割について</p> <p>第7回(5/30) イノベーション(1)</p> <p>第8回(6/6) イノベーション(2)</p> <p>第9回(6/13) 一次産業について 中間レポート課題提示</p> <p>第10回(6/20) 金融の機能と役割について</p> <p>第11回(6/27) 行政の機能と役割について 中間レポート回収</p> <p>第12回(7/4) 大学と知財化戦略</p> <p>第13回(7/11) 都市の再編成と地域活性化 小テスト</p> <p>第14回(7/18) 観光まちづくりと地域活性化 期末レポート課題提示</p> <p>第15回(7/25) 地域間連携について</p>

	第16回(8/1) 授業を振り返って 期末レポート回収 ※地域産業の取り組み等の紹介は、講義の進捗状況により数回行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習用の資料を適時配布しますので、よく読んでその意味内容を把握して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。
(21)参考文献	随時授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20%(授業中の小テスト、2回) 中間評価30%(中間レポート) 期末評価50%(レポート)  各評点の合算により最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行います。 学生数が少ない場合は、講義の他、随時質問を行い回答させる形式で進めます。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありませんが、自分の頭で考えて多くの情報を吟味整理し、自分なりの方針を立てるといった技法を身につけることが目的であることに留意して下さい。 多くのことに興味を持ち、自分の生き方や考え方と関連づけて理解し、知識化するという習慣を持つことを期待します。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス PXF05004@nifty.ne.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	8
(2)区分番号	8
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－企業と経営－ (Economy/Industry of Aomori－Business Management－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 純一郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する ○経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること
(15)授業の概要	近年の少子化・高齢化にともなう人口減少＝市場の縮小は、青森県の地場企業に厳しい状況をもたらしています。 そこで、主に青森県の地場企業の経営を、企業だけではなく、地域の自治体や住民との連携を視野に入れて検討します。具体的には、地域自体の魅力を高める地域ブランドの手法などを学びます。 また授業のうち一回は、担当教員が参与している『青森県社会経済白書』の内容を題材として、青森県庁の担当職員と議論する予定です。 この機会を活用して、受講生の皆さんが地域の一員として、企業や自治体等の連携について実践的に学ぶことを期待します。
(16)授業の内容予定	以下は予定です。変更もありえます。 第1回 イントロダクション 第2回 企業とは何か、経営学とは何か 第3回 地域ブランドの議論の背景 第4回 教科書以外のケース・スタディ 第5回 農産物ブランドの持続的発展 第6回 方法論と教科書以外のケース・スタディ 第7回 地域が支える観光地ブランド 第8回 定義と地域ブランドづくり 第9回 中間試験 第10回 教科書以外のケース・スタディ 第11回 ブランド形成における付加価値 第12回 地域ブランド形成のプロセス 第13回 教科書以外のケース・スタディ 第14回 食とグルメのブランド化 第15回 北東北三県の地域ブランドと新幹線効果 第16回 期末試験  *なお、授業のうち一回は、青森県庁の職員から『青森県社会経済白書』の内容についてご紹介いただく予定です。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を中心として予習する他に、自分のお気に入りの地域ブランドについて、日頃から情報収集しておくといいでしょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	佐々木純一郎編著(2013)『地域経営の課題解決—震災復興、地域ブランドそして地域産業連関表』同友館
(21)参考文献	青森地域社会研究所編(2019)『変化する青森県の経済と産業』東奥日報社 弘前大学附属図書館所蔵
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価:30%。毎回講義内容に関して、200字以内(以前のツイッターの字数程度)の小文を書いて提出してもらいます。 中間評価(試験あるいはレポート):35% 期末評価(試験あるいはレポート):35% 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は問われませんが、「経営学の基礎」などの関連する授業を同時並行して受講なさると学習効果を高められます。経営学の用語は日常的に用いられているものが多いので「理解できている」と思い込みがちです。しかしながら、経営学も学問である以上、厳密な定義や論理が必要とされます。その点に留意なさるとよいと思います。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階。 おかげさまで複数のご来室が重なる場合も多々あります。 できれば事前にメールで予約されたほうが確実です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	HPアドレス Eメールアドレス sasajun@hirosaki-u.ac.jp  NPOひろだりサーチ <a href="http://www.hirodai-r.org/main/">http://www.hirodai-r.org/main/</a>
(28)その他	<a href="http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2222&amp;text=%8D%B2%81%58%96%D8+%8F%83%88%EA%98%59&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=">http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2222&amp;text=%8D%B2%81%58%96%D8+%8F%83%88%EA%98%59&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	9
(2)区分番号	9
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－地域課題解決論－ (Economy/Industry of Aomori－Solutions for regional challenges－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	野口 拓郎(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する</p> <p>○経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○青森県をはじめ、全国的に過疎高齢化が進み、教育・医療・交通・経済など様々な分野で地域課題が表面化しています。</p> <p>○この授業はそれらの地域課題に触れ、どうすれば解決することができるのかを考えていきます。</p> <p>○青森県と大きく地域事情が異なる西日本、そして海外の現状についても学び、そことの比較を通して青森県や東北地方を深く捉えていきます。</p> <p>○地方公務員やNPO職員、地域おこし協力隊・青年海外協力隊、フリーランス等で地域おこしに関する仕事に就きたい学生にオススメです。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、過疎高齢化がもたらす地域課題の概要</li> <li>2. 地域課題の各論①</li> <li>3. 地域課題の各論②</li> <li>4. 行政(県庁、市役所等)の取り組み</li> <li>5. 地域おこし協力隊の課題と可能性</li> <li>6. 地域比較による「当たり前」「常識」の再確認</li> <li>7. マンガや映画をヒントとした地域おこしのノウハウ</li> <li>8. 地域おこしにおけるゲストハウスの果たす役割</li> <li>9. 現役大学生が挑む地域おこし</li> </ol>

	<p>10. 地方の中小企業における新しい挑戦</p> <p>11. 発展途上国の地域課題</p> <p>12. 発展途上国の地域課題 ネパールを中心として</p> <p>13. 戦後日本の農山村における貧困からの脱却</p> <p>14. 西日本の地域課題と取り組みについて 中国・四国地方を中心に</p> <p>15. 試験および解説</p> <p>主に上記のテーマを扱っていきますが、状況によって若干の変更があります。</p> <p>計15回授業となり、最終回は筆記試験となります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】 今みなさんが日常を過ごしている弘前市、および、みなさんの地元が抱える様々な課題について整理し、ノートに書き込んだ状態で授業に参加すること。</p> <p>【復習】 授業で扱った地域課題が、自分自身の地元等では解決に向けてどう取り組まれているか調べること。</p> <p>※将来地域おこしに関連した仕事に就きたい学生にはお勧めします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	<p>あなたの地元および青森の地方新聞（東奥日報、北海道新聞等）</p> <p>「地域おこし協力隊 日本を元気にする60人の挑戦」学芸出版社</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>毎回のレポートおよび授業への参加姿勢（60点）</p> <p>期末試験（40点） ※持ち込み不可</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に座学形式でおこないます。
(25)留意点・予備知識	<p>特にありませんが、ある程度の熱意は求めます。</p> <p>障害等により履修上何らかの配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:noguchi@hirosaki-u.ac.jp">noguchi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<p>講師プロフィール</p> <p>・地域おこし協力隊サポートデスク 上級専</p>

専門相談員

- ・弘前大学非常勤講師（元・弘前大学COC推進室 助教）
- ・弘前市地域おこし協力隊アドバイザー
- ・弘前圏域移住コーディネーター

## 教養教育科目

(1)整理番号	10
(2)区分番号	10
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－原子燃料サイクルの理解 － (Economy/Industry of Aomori－ Understanding the nuclear fuel cycle－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○工藤 幸清(保健学研究科)、對馬 恵 (保健学研究科)、小山内 暢(保健学研究 科)、寺島 真悟(保健学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な 知識を獲得する ○経済・産業に関する知識を活用して、経 済・産業が青森の地域社会に与える様々な影 響を理解すること
(15)授業の概要	○青森県の六ヶ所村にある原子燃料サイク ルを学ぶために、放射線を見て触れて身近に感 じるところから授業を展開した後、原子力に ついて学習します。 ○六ヶ所村原子燃料サイクル施設を見学し、 実際の再処理工場(再処理施設)、高(低) レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(廃棄 物管理施設)、ウラン濃縮工場(加工施設) 等について理解を深めます。
(16)授業の内容予定	放射線を見て触れて身近に感じる試みとし て、授業の第2回～第6回は、グループに分か れ、測定や観察を行う。 第8回ではグループごとに発表する。発表する テーマの割当は授業時に決定する。 原子燃料サイクル理解のため、第11回～第15 回は、六ヶ所村・原子燃料サイクル施設に行 き、1日の集中授業形式となる。  毎回、全教員が担当します。 第1回 ガイダンス(工藤、對馬、小山内、寺 島) 第2回 テーマ1：自然放射線(工藤、對馬、小 山内、寺島) 身近な放射線理解のため、 いろいろなものからの放射線をサーベイメータ (GM)にて測定をする。 第3回 テーマ2：放射線の減弱(工藤、對馬、 小山内、寺島) 放射線を測定しながら、遮 蔽による減弱と距離による減弱を調べる。 第4回 テーマ3：自然放射線(工藤、對馬、小 山内、寺島) 自然の放射線理解のため、 いろいろな場所をサーベイメータ(NaIまたは CsI)にて測定をする。 第5回 テーマ4：α線・霧箱(工藤、對馬、小

	<p>山内, 寺島)</p> <p><math>\alpha</math>線をサーベイメータにて測定する。また, 霧箱により放射線の飛跡を観察する。</p> <p>第6回 テーマ5: ポータブルエックス線発生装置(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>エックス線の散乱線をサーベイメータにて測定する。</p> <p>注意: 保健学科での開講です。</p> <p>第7回 発表の準備: スライド作成(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>第8回 グループ発表(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>第9回 放射線の健康影響(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>第10回 原子力について(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>第11~15回 六カ所原子燃料サイクル施設見学(1日)(工藤, 對馬, 小山内, 寺島)</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の履修人数は実測や見学があるため, 上限30名(1グループ6名, 5グループ)程度</li> <li>・保健学科での開講もあるため移動には十分注意すること。</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられる放射線に関する事項について, その意味や内容を整理し, 理解しておくようにしてください。さらに, 施設見学では学んだ内容についてA4, 2枚のレポート(1枚は1600字)を提出してもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	原子力工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	原子核関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。必要な教材は配布します。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への参加度: 50% (テーマへの参加姿勢含む)</p> <p>中間評価 (テーマ発表) : 25%</p> <p>期末評価 (施設見学レポート) : 25%</p> <p>上記を合算して評価する。</p> <p>※施設見学に参加できない場合は評価されません。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業形態は演習, 発表, 施設見学等です。学生が主体的に取り組む内容です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は問いません。授業内容を十分に吸収して学生本人が説明できるように留意して下さい。
(26)オフィスアワー	普段, 本町地区キャンパスにいますので, 事前にメールにて連絡をお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>工藤 幸清: <a href="mailto:kohsei@hirosaki-u.ac.jp">kohsei@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>對馬 惠: <a href="mailto:tmegumi@hirosaki-u.ac.jp">tmegumi@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>小山内 暢: <a href="mailto:ominoru@hirosaki-u.ac.jp">ominoru@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>寺島 真悟: <a href="mailto:s-tera@hirosaki-u.ac.jp">s-tera@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	11
(2)区分番号	11
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の経済・産業－量子ビーム（ニュートリノ、放射光、中性子、レーザー等）融合化科学の世界－（Economy/Industry of Aomori－Synchrotron Light in TOHOKU Japan－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	石山 新太郎（理工学研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する</p> <p>○経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>量子ビーム（ニュートリノ、放射光、中性子、レーザー等）融合化科学の世界          ー太陽光の10億倍の輝度（明るさ）の巨大な顕微鏡「次世代放射光施設」が東北にやってくるー</p> <p>この講義では、講義後に講義内容の把握ならびに独自のアイディアの創出を目的としたグループディスカッションを行い、隔回において各自アイディアの発表を行いアイディアのブラッシュアップを図ります（見通す力）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前半は、最先端材料・医療科学を含んだ量子ビーム科学の基礎知識（大型施設建設からその原理及び利用）に関する講義を行います。</li> <li>・中盤では東北大学にまもなくやってくる次世代放射光施設SLiT-J（Synchrotron Light in Tohoku-Japan）に関する概要講義を東北大学・多元物質科学研究所放射光産学連携準備室から招聘した複数のゲストスピーカーから、その原理、計測利用方法、利用効果などに関する講演をオムニバス形式で進めます。</li> <li>・最終後半では、全修学生により創出されたアイディアの発表とディスカッションを通じて洗練された最終版をレポートとしてまとめて提出してもらいます。アイディアの想起範囲は、材料科学関係、計測技術関係、経済効果関係、関連技術の新規起業関係とし、特にこれら量子ビーム科学が青森県にもたらす技術的・経済的効果を念頭にアイディア想起に努めてください。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナノサイズ（十億分の一）の微小構造物質開発をめぐるナノアプリケーションの国際競争の時代に突入している。そのためには太陽</li> </ul>



光の10億倍の輝度（明るさ）を有する巨大な顕微鏡ともいえる次世代放射光施設が重要な役割を担い、これにより原子・分子・ナノの構造や、電子に係る機能が見えてくることからより新しい機能を持つ材料やデバイスの開発、生命機構、創薬の研究開発が可能となります。そして、そのための新しい放射光施設（SLiT-J）がまもなく東北の地にやってきます。

この施設では、人工光合成の実現のカギを握る植物の光合成反応の触媒の構造の解明、携帯端末ディスプレイの省エネ化技術、エコタイヤ開発による燃費向上、燃料電池やリチウムイオン電池の高性能化等に関する研究開発を行うことで「COOL CHOICE青森」のCO2削減対策や青森県地域振興にも大いに貢献いたします。

・本講義では、我が国を代表する大強度陽子加速器施設（J-PARC）や大型放射光施設（Spring-8）など我が国の量子ビーム科学の代表的拠点である各種大型研究施設の他、まもなく東北の地にやってくる太陽光の10億倍の輝度（明るさ）の巨大な顕微鏡「次世代放射光施設SLiT-J（=Synchrotron Light in Tohoku-Japan）」の紹介を通じて量子ビーム計測の原理、期待される最新研究の現状さらには今後期待される医療関係における新たな量子ビーム融合化研究などを解説しつつ、これら大規模研究施設の今後の青森県の地域貢献の観点での新たな利用展開方策を探る。

・本講義内容は医学部を含め全学生向きであり、その進め方はグループワーク形式でそれぞれ独自の研究分野における新規研究分野での開拓提案を募集する。

・本講義は、東北にまもなくやってくる放射光施設や大強度陽子加速器施設（J-PARC）の建設・研究や産業利用を含めた施設の魅力（青森の経済・産業に関わりのある基礎的な知識を獲得する）について実務者を通じてわかりやすく解説することを目的としており、講義後受講者側からの独特特異な研究利用・産業利用の提案をしてもらう（経済・産業に関する知識を活用して、経済・産業が青森の地域社会に与える様々な影響を理解すること）。

第1回オリエンテーション

第2回量子ビーム科学の基礎知識（材料科学と量子ビーム）

第3回量子ビーム科学の基礎知識（大型放射光Spring-8）

第4回量子ビーム科学の基礎知識（大強度陽子加速器施設J-PARC）

第5回量子ビーム科学の基礎知識（量子ビーム融合化科学）

第6回次世代放射光SLiT-Jの施設概要

第7回次世代放射光SLiT-Jの計測原理

第8回次世代放射光SLiT-Jを利用した研究

第9回次世代放射光SLiT-Jの産業分野への貢献

第10回弘前大学における量子ビームによる先進がん治療研究

第11回弘前大学における量子ビーム融合化による先進がん治療研究

第12回想起アイデアの発表及びディスカッション（I）

	<p>第13回想起アイデアの発表及びディスカッション (II)  第14回想起アイデアの発表及びディスカッション (III)  第15回最終レポート提出</p> <p>※なお、ゲストスピーカ都合により講義順番が変更になる場合があります。  ※また、本講義はグループディスカッション制をとっているため、受講生人数が最低必要数 (15名以上) を割る場合閉講となります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>・毎回の授業で取り上げる量子ビーム科学の諸概念について、その意味内容を整理し、理解しておくようにしてください。  ・大型施設における最新計測技術を中心に講義を進めるので、これら関連情報はインターネットに公開掲載されているものが多いので事前に情報を得ておくようにしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(工学)
(18)学問分野3(副学問分野)	応用物理物性関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし (量子ビーム科学は、新学術研究領域であるため)
(21)参考文献	機能物質・材料開発と放射光-SPring-8の産業利用 (新材料・新素材シリーズ、シーエムシー出版) など講義の中で随時紹介いたします。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>講義受講態度 (発表及び応答態度)、各回ならびに最終レポートで総合評価いたします。  [平常評価] 授業への参加度、受講・議論・発表態度ならびにレポート提出での評価を行います (評価全体の30%)  [期末評価] 最終講義後、最終レポートの提出を要請いたします (評価全体の70%)。特に最終レポートについては、その着想アイデアの独自性・斬新性が問われますので、講義後半の発表・ディスカッションの場でのブラッシュアップに心がけてください。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。講義後半に行う想起アイデアの発表/ディスカッションでは受講者間での質疑応答のほか当方からの着想や方法論のアドバイスをいたしますので、それを参考に独自の着想、発表方法ならびに着想を実現化するためのまとめ方について学んでください。
(25)留意点・予備知識	本講座は、量子ビーム科学という新たな新学術研究領域を与えられた場合の受講者側からの斬新なアイデア創出方法、アイデアを実現するための発表方法ならびにアイデアの具体的方策及び実現時の社会的インパクト想起方法について学んでいくためものですので、あくまで独自性を重視し、自分だけの力で調査し考え抜くことでの斬新なアイデア創出を心がけてください。
(26)オフィスアワー	月曜日17:00-17:30 理工学2号館902号室にて
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp">ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	大型施設における最新計測技術を中心に講義を進めるので、これら関連情報はインター

ネットに掲載されているものが多いので事前に情報を得ておくように。

## 教養教育科目

(1)整理番号	12
(2)区分番号	12
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の文化－青森の手工芸－ (Culture of Aomori－handicrafts in Aomori prefecture－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	安川 あけみ (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の文化・文化財に関わりのある見識を深めること ○青森に根ざす様々な文化・文化財を題材として、青森の地域社会を理解すること
(15)授業の概要	・衣服材料の構造や性質を知り、適切な管理方法を学びます。 ・衣服に必要な機能を知り、自身の衣生活を見直す知識を身につけます。 ・青森の伝統的な手工芸を知り、それらが生まれた背景を考えます。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス, 衣服の起源 2. 衣服の色彩が与える印象と青森の地域性 3. 衣服の形が与える印象と青森の地域性 4. 衣服材料の構造と性質, 青森の地域性 5. 衣服に必要な機能と装い方, 青森の地域性 6. 衣服の汚れと洗浄, 青森の地域性 7. こぎん刺しに見る青森の特性 8. 菱刺しに見る青森の特性 9. 裂き織りに見る青森の特性 10. 青森の特産物を用いた染色 (1) 理論 11. 青森の特産物を用いた染色 (2) 実験 12. こぎん刺し (1) 刺し方 13. こぎん刺し (2) 小物の製作 14. 裂き織り (1) 基礎 15. 裂き織り (2) 応用 16. 試験 *事業の進行状況により、多少の内容変更があることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：日常の衣生活に興味を持ち、自身の問題点を見つけておいてください。 復習：授業内容を生かして青森の衣文化を理解し、自身の衣生活を改善するよう努めてください。 (予習および復習に、各2時間程度を求めます。)
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	民俗学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	

	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
(21)参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（小レポート）：20% 実験レポートおよび実習作品の出来栄え：40% 期末評価（期末試験）：40% 以上を合算して最終的な成績評価が行われる予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義ですが、内容理解のために実習や実験を取り入れます。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月第1または第2土曜、いずれか1日、9:00～16:10に実験・実習を含む集中講義を行う予定です。受講者の人数により日にちの選択ができない場合があります。この集中講義に出られることを受講の条件とします。</li> <li>・授業の進行状況により、内容や順序を変更することがあります。</li> <li>・毎回出席を取ります。</li> <li>・平常授業中に、小レポートを課します。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00 授業や会議等の時間を除く。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:vasukawa@hirosaki-u.ac.jp">vasukawa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実験・実習を伴います。

## 教養教育科目

(1)整理番号	13
(2)区分番号	13
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の文化－青森の文化財－ (Culture of Aomori－Cultural property of Aomori－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○関根 達人(人文社会科学部)、須藤 弘敏(非常勤講師)、山田 巖子(人文社会科学部)、上條 信彦(人文社会科学部)、片岡 太郎(人文社会科学部)、福井 敏隆(ゲストスピーカー)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の文化・文化財に関わりのある見識を深めること ○青森に根ざす様々な文化・文化財を題材として、青森の地域社会を理解すること
(15)授業の概要	○本州の北端に位置する青森県は、西の日本海と東の太平洋に挟まれており、古くから海を媒介として汎列島の規模での広域な文化交流が見られます。青森県は津軽・南部・下北の3地域で文化に違いがみられるのもユニークな点です。この授業では、遺跡、出土遺物、建造物、美術工芸品、民俗文化財など、県内に残る多様な文化財について、知識を習得します。 ○多種多様な文化財を通して、この地域の歴史や文化を学びます。 ○多種多様な文化財を通して、他地域との交流の歴史を理解します。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス、青森の史跡1(遺跡) 【関根】 第2回 青森の史跡2(城跡など) 【関根】 第3回 青森の造形1【須藤】 第4回 青森の造形2【須藤】 第5回 青森の建造物1【福井】 第6回 青森の建造物2【福井】 第7回 青森の建造物3【福井】 第8回 青森の建造物4【福井】 第9回 青森の建造物5【福井】 第10回 青森の考古資料1(旧石器～弥生) 【上條】 第11回 青森の考古資料2(古代～中・近世) 【上條】 第12回 青森の考古資料と遺跡の保存活用1 【片岡】 第13回 青森の考古資料と遺跡の保存活用2 【片岡】 第14回 青森の占い行事と修正会【山田】 第15回 無形民俗文化財と地域の資源化【山田】 第16回 予備日
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業のなかで指示します。

(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	芸術関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ありません。
(21)参考文献	青森県教育委員会編『青森県の文化財』1997年 附属図書館で閲覧可 弘前市教育委員会編『弘前の文化財』2010年 附属図書館で閲覧可 沢田正昭編『遺物の保存と調査』2003年、クバプロ 【第12・13回】 附属図書館で閲覧可 山路興造「修正会の変容と地方伝播」(守屋毅編『仏教と日本人7 芸能と鎮魂』人文民俗学研究室で閲覧可1988年、春秋社)【第14・15回】 人文民俗学研究室で閲覧可 岩本通弥編『ふるさと資源化と民俗学』2007年、吉川弘文館 【第14・15回】人文民俗学研究室で閲覧可 山田巖子編『(シンポジウム記録) 津軽の年占行事 七日堂祭を考える』2017年、弘前大学地域未来創生センター)【第14・15回】人文民俗学研究室で閲覧可
(22)成績評価方法及び採点基準	6名の担当者が担当授業内で、授業の理解度を確認するための課題(ミニテストやレポートなど)を出します。5回担当する福井は30点満点、それ以外の5名は14点満点です。それらの合計し100点満点で成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバス式の講義です。
(25)留意点・予備知識	多様な文化財を網羅的に理解するため、休まずすべての授業を受講するよう心掛けてください。
(26)オフィスアワー	水曜日1・2時限目【関根達人】
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	関根達人 sekine(at)hirosaki-u. ac. jp (at)を@に替えてください。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	14
(2)区分番号	14
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の文化－雪と氷とスポーツ－ (Culture of Aomori－winter sports－skiing－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○高橋 俊哉(教育学部)、棟方 達也(非常勤講師)、大島 義晴(非常勤講師)、中田 良子(非常勤講師)他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の文化・文化財に関わりのある見識を深めること ○青森に根ざす様々な文化・文化財を題材として、青森の地域社会を理解すること
(15)授業の概要	2泊3日の宿泊を伴う集中授業です。少人数クラスによるスキー技術の習得を中心に北国の気候、風土、文化について学んでいきます。
(16)授業の内容予定	<p>日程：2019.2.17～19(2泊3日)          場所：鱒ヶ沢スキー場          実習費：¥30,000程度(宿泊費、食費、リフト券、交通費)          ※変更する場合があります。</p> <p>第1回 技能レベルチェック          第2回 歩行・登行・制動・方向転換等の基本技術          第3回 制動要素を含むターン技術(プルークボーゲン、シュテムターン)          第4回 青森県の気候とウインタースポーツ          第5回 大回り①(整地・中斜面)          第6回 大回り②(整地・中急斜面)          第7回 小回り①(整地・中斜面)          第8回 スキー技術の構造について          第9回 小回り②(整地・中急斜面)          第10回 大回り③(ナチュラルバーン・中斜面)          第11回 大回り④(ナチュラルバーン・中急斜面)          第12回 バックカントリーの世界          第13回 小回り③(ナチュラルバーン・中斜面)          第14回 小回り④(ナチュラルバーン・中急斜面)          第15回 谷回りの連続          第16回 技能テスト</p> <p>技能上達の状況により、授業内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に初すべりをすることが望ましい。講習期間には自主練習の時間があるので、各回の内容を復習しておくこと。



(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	「日本スキー教程」 山と溪谷社
(22)成績評価方法及び採点基準	実技試験（50%）とレポート（50%）を総合して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、実習
(25)留意点・予備知識	後期開始時にガイダンスを行いますので掲示に注意してください。 未経験者、初心者、中上級者、いずれも受講可能です。 用具のレンタルも可能です。
(26)オフィスアワー	月、水12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:toshiya@hirosaki-u.ac.jp">toshiya@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	15
(2)区分番号	15
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の文化－北日本学－（Culture of Aomori－Northern Japan studies－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	下田 雄次（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の文化・文化財に関わりのある見識を深めること</p> <p>○青森に根ざす様々な文化・文化財を題材として、青森の地域社会を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○青森の民俗芸能や祭り（いわゆる無形の文化財）を題材としながら、青森の文化や歴史、現代社会の諸相に迫ります。</p> <p>○実際に対象地域の民俗芸能や祭りに携わっている人々と対話をして、その知識や技術、考え方、立場などに触れながら議論を行い、理解を深めてゆきます。</p> <p>○地域文化を担う人々や、人々の実践に触れ、関わりあいを持ちながら当事者の側に寄り添った視座の獲得をめざし、地域社会に対する理解を深めてゆきます。</p> <p>○学習者自らの体感をともなった「身体を通じた学び」を行い、学習者自身が自らの立場を越えて、地域文化実践の一端に立脚するような「体験をともなう学び」をしてゆきます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本授業の概要説明と北日本の民俗芸能・祭りについて（概要）</li> <li>2 青森県の民俗芸能・祭について（概要）</li> <li>3 ディスカッション（各人の地元の文化や、関心事などについて。）</li> <li>4 対象にする民俗芸能・祭について（ネプタ、津軽地方の祭囃子、津軽地方の獅子踊）</li> <li>5 ゲストスピーカーを迎えるための準備。</li> <li>6 ゲストスピーカーを交えたディスカッション（ネプタ）</li> <li>7 前回の振り返りと、次回に向けた学習</li> <li>8 ゲストスピーカーを交えたディスカッション（津軽地方の祭囃子）</li> <li>9 前回の振り返りと、次回に向けた学習</li> <li>10 ゲストスピーカーを交えたディスカッション（津軽地方の獅子踊）</li> <li>11 前回の振り返りと、次回に向けた学習</li> <li>12 無形文化の伝承と課題について</li> <li>13 ゲストスピーカーを交えたディスカッション（「無形文化の伝承と課題」弘前藩の武術）</li> <li>14 前回の振り返りと、まとめ</li> </ol>

	<p>15 全体の振り返りと、まとめ、ディスカッション</p> <p>16 振り返りと試験</p> <p>*ゲストの都合などにより、内容予定が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示をします。
(18)学問分野1(主学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて資料を配付
(21)参考文献	必要に応じて指示
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 6割 (授業への参加度や、リアクションペーパーの内容に基づきます。RPは各自なりの問題意識に基づいて書かれたものをとくに評価します。)</p> <p>期末評価 4割 (理解度の確認)</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式が基本になりますが、ゲストスピーカーを迎えて話を伺ったり、テーマを設定して意見交換やディスカッションを行ったりします。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:yuji.s.jpn@gmail.com">yuji.s.jpn@gmail.com</a> <a href="https://hokubunken.jimdo.com/">https://hokubunken.jimdo.com/</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	16
(2)区分番号	16
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の文化ーやさしい日本語で留学生と話そうー (Culture of Aomori-Let's talk with International students by easy Japaneseー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の文化・文化財に関わりのある見識を深めること ○青森に根ざす様々な文化・文化財を題材として、青森の地域社会を理解すること
(15)授業の概要	・青森県に位置する弘前大学に在籍する国内学生また留学生との交流を通して、お互いの地域に対する意識や意見を交換します。 ・青森を代表するキャンプ地の1つである常盤野の岩木青少年スポーツセンターでキャンプを行い、地域の環境への取組を実践的に学びます。 ・常盤野周辺を歩き、文化財や人の暮らしに触れることもできます。
(16)授業の内容予定	夏至に近い6月15日、16日(土・日)(悪天候の場合、22日・23日に変更)に、弘前市常盤野地区に位置する岩木山青少年スポーツセンターにおいて、留学生と日本人学生が混じったクラスで炊事(自分達で料理を作る)キャンプを行うプロジェクトワークの形で行う授業です。  この授業は、第1回目から第9回目までは大学の教室で計画や準備を行い、第10回目～第14回目の5コマは一泊二日でキャンプに参加することで授業出席とみなします。第15回目は、また大学の教室で行います。 6月15日・16日また22日・23日の両方とも大雨が降った場合は、市内の公民館や公園などで代替となる活動を行う予定です。 基本的に、学期中に総額2600円程度(バス代、テントサイト使用料1人600円、テント貸出料360円～270円、炊事用薪、木炭)【食材費は別:食材の内容と費用はグループにより異なる】の費用がかかる予定です。また、寝袋もそれぞれ、自分で準備しなければなりません(友だちから借りてもいいです)。  基本的に留学生と日本人の人数は同じで、合計人数の上限は、バスに乗れる44名です。どちらかの希望者が多い場合は多い方がくじ引きになる可能性もあります。

	<p>1回目 授業の進め方、費用、「やさしい日本語」の説明。</p> <p>2回目 ゲストスピーカー（高田敏幸氏：岩木山自然学校顧問／登山ガイド）による常磐野地区に関する講義。</p> <p>3回目 料理グループに分かれ、料理の計画を立てる（1回目）</p> <p>4回目 料理グループに分かれ、料理の計画を立てる（2回目）</p> <p>5回目 ゴミ処理と学校文化（小・中・高の教科書内容 美化委員会 廃品回収 ゴミ処理場見学 文化祭 ペットボトルのキャップ 集め 等）グループで発表する</p> <p>6回目 レジャー班に分かれ、出し物について計画を立てる。（1回目）</p> <p>7回目 レジャー班に分かれ、出し物について計画を立てる。（2回目）</p> <p>8回目 再度、料理の話し合い。テントグループ顔合わせ。</p> <p>9回目 悪天候の場合の活動内容を確認</p> <p>10回目～14回目 6月15・16日（または23・24）に岩木山青少年スポーツセンターでキャンプ</p> <p>15回目 振り返り</p> <p>* 予定は変更になる可能性があることを十分理解してください。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	配付資料をよく読んで、十分理解して授業に臨み、授業後は疑問点を解消すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業で資料を配付します。
(21)参考文献	授業中に指定します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>毎回のリフレクションシート 30%</p> <p>授業への参加度 40%（キャンプで積極的に活動する）</p> <p>最終レポート 30%</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、グループワーク
(25)留意点・予備知識	学期中に総額2600円程度（バス代、テントサイト使用料1人600円、テント貸出料360円～270円、炊事用薪、木炭）【食材費は別：食材の内容と費用はグループにより異なる】の費用がかかる予定です。
(26)オフィスアワー	火曜日12:40～14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko(アットマーク)hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	17
(2)区分番号	17
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の歴史－青森県の150年－ (History of Aomori－150 Years in Aomori Prefecture－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	池田 憲隆 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の歴史に関わりのある見識を深めること ○歴史に関する知識を活用して、経済や社会、民族、文化など多様なアプローチから青森の歴史を理解すること
(15)授業の概要	青森県の歴史に関する社会経済的トピックスを4つ取り上げ、その概要を説明します。それを受けて、受講生はそのトピックスを掘り下げるべく各自問題を作成します。それについて、自ら資料を探索し、回答を作成して提出します。4つのトピックスは以下の通りです。 1. 青森県の誕生 2. 鉄道の開通 3. 戦争をめぐる 4. 経済成長と地域開発
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 トピックス1の概説と問題案作成 第3回 トピックス1の補遺と問題案および回答案の作成と提出 第4回 講評および最終回答案の提出 第5回 トピックス2の概説と問題案作成 第6回 トピックス2の補遺と問題案および回答案の作成と提出 第7回 講評および最終回答案の提出 第8回 トピックス3の概説と問題案作成 第9回 トピックス3の補遺と問題案および回答案の作成と提出 第10回 講評および最終回答案の提出 第11回 トピックス4の概説と問題案作成 第12回 トピックス4の補遺と問題案および回答案の作成と提出 第13回 講評および最終回答案の提出 第14回 ゲストスピーカー (竹村俊哉黒石高校教諭) による授業(1) 第15回 ゲストスピーカー (竹村俊哉黒石高校教諭) による授業(2) ゲストスピーカーの都合によって、順番が変更される場合もあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各トピックスについて、1回目の授業を受けて、とりあえず自ら問題案を作成して提出します。次の授業までに、資料を探索しつつ、その問題案への回答案を作成し、2回目の授

	業終了時に回答案を提出します。3回目の授業では提出された回答案に対する講評をおこない、それを参考にして訂正をしたものを最終回答案として提出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	使用しません。
(21)参考文献	小岩信竹他『青森県の百年』（山川出版社、1987）。その他の参考文献については、講義レジュメ（要綱）に記載するとともに、授業中にも紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	回答案4つの内容によって、評価します。採点基準については、初回の講義時に具体的に説明します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と論述と講評がセットになります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日13:00～14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nikeda(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	18
(2)区分番号	18
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の歴史－写真で見る青森の近代－ (History of Aomori－Modern Aomori viewed from pictures－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○高瀬 雅弘(教育学部)、今泉 忠淳(医学研究科)、中園 裕(ゲストスピーカー)、中園 美穂(ゲストスピーカー)、村上 亜弥(ゲストスピーカー)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の歴史に関わりのある見識を深めること ○歴史に関する知識を活用して、経済や社会、民族、文化など多様なアプローチから青森の歴史を理解すること
(15)授業の概要	○写真を用いて青森の近代の歴史の諸側面を読み解く ○「フォト・リテラシー」(写真に関する読み書き能力)を高める ○担当者がそれぞれ撮影・収集した写真をもとに、近代の青森の歴史や社会・生活の変化について講義する
(16)授業の内容予定	<p>近年、歴史資料としての写真への注目が高まっています。加えてデジタルカメラやスマートフォンが普及し、記録する方法としての写真の可能性を大きく広げてきました。歴史上、これほどまでに多くの人々が写真に親しみ、写真を使って発信する時代はなかったといえます。</p> <p>この授業では、写真を用いて青森の近代の歴史いくつかの側面を読み解きます。さらに1枚の写真からどのようなことを読み取ることができるのかについて考察することで、受講者の皆さんが「フォト・リテラシー」(写真に関する読み書き能力)を高めることを目標とします。</p> <p>授業では、5人の担当者がそれぞれ撮影・収集した写真をもとに、近代の青森の歴史や社会・生活の変化について講義します。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 弘前界限① モノクロ写真を通して見る街並み(今泉) 第3回 弘前界限② 街と人のすがた(今泉) 第4回 弘前界限③ 路上観察のすすめ(今泉) 第5回 青森のメディアと写真(高瀬) 第6回 都市と建築の近代(高瀬) 第7回 軍隊と戦争(高瀬)</p>



	<p>第8回 学校と地域社会（高瀬）  第9回 弘前大学の近代（高瀬）  第10回 県都青森市の近代（村上）  第11・12回 青森県の近代（中園美穂）  第13・14回 青森県の現代（中園裕）  第15回 授業内容の総括と理解度の確認</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回の授業内容について、事前にシラバスを確認し、関連文献などに図書館で触れるようにしてください。授業後は配付資料やノートをもとにきちんと振り返りを行ってください。また、普段から写真を撮影すること、および過去に撮影された写真（新聞・雑誌・インターネットなど）に積極的に触れる機会をもつようにしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考文献	各回の授業担当者が適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（授業への参加度。毎回の授業についてのリアクションペーパーに基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%）と期末評価（理解度の確認。同70%。すべての授業内容を出題範囲とする）とを合算して評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義内容についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。</p>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでローカル科目「青森の歴史—青森の歴史A—」「青森の歴史—青森の歴史B—」を履修した学生は、この授業を受講することができません。</li> <li>・講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りします。</li> <li>・受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、担当者の講義にしっかりと耳を傾け、内容を理解することが求められます。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	<p>取りまとめ教員：高瀬雅弘  第1回の授業の際にお伝えします。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>取りまとめ教員：高瀬雅弘  第1回の授業の際にお伝えします。</p>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	19
(2)区分番号	19
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の芸術－青森の色感嗜好－ (Art of Aomori－Color sense preference of people in Aomori－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	石川 善朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森と関わる芸術に関する見識を深めること</p> <p>○芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○商品開発の基礎としてのデザイン色彩に関する事柄について学びます。</p> <p>○青森県の色感嗜好調査を元にして、感覚言語を用いたイメージ色彩分析や、色感嗜好及びデザインマーケティングにおける企画構成作業を学習します。</p> <p>○近隣の外部調査と演習を織り交ぜながら青森県の商品開発の捉え方を学習します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業当初は講義で、デザインと産業とのかかりについて考察します。</p> <p>次に商品開発の実際について基本的なことを考察し、調査研究などを織り交ぜながら、青森県に即した商品開発の方法を考察します。</p> <p>授業1回目：ガイダンス、授業の進め方          授業2回目：広義のデザインについてと工業デザインの考察。          授業3回目：企業が生産する製品とそれを購入する行為におけるデザイン発想について。          授業4回目：デザイン発想の細分化と色彩を応用したデザインマーケティングについて。          授業5回目：プレゼンテーション：青森県の色感嗜好について。          宿題：次週までに弘前市近隣の物販店の商品調査          授業6回目：調査発表とディスカッション（前半）          授業7回目：調査発表とディスカッション（後半）          授業8回目：形容詞の対比における色彩イメージ理論「きわだち」と「まとまり」          授業9回目：形容詞の対比における色彩イメージシート作成―「きわだち」と「まとまり」          授業10回目：青森県の商品開発を想定し、各自で青森県の商品開発を具体化する（5テーマぐらい）          授業11回目：商品テーマコンセプトシートの講義</p>

	<p>授業12回目：商品テーマコンセプトシートの演習          授業13回目：消費者ターゲットプロフィールの講義          授業14回目：消費者ターゲットプロフィールの演習          授業15回目：テーマコンセプトシートとターゲットプロフィールの発表（前半）          授業16回目：テーマコンセプトシートとターゲットプロフィールの発表（後半）</p> <p>都合により内容を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（シラバスに沿った次週の過程を調査しておく）：2時間          復習（授業内容をまとめておく）：2時間以上を毎週行うこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	こちらで準備した物以外は特になし
(21)参考文献	授業の中で適宜指示をする
(22)成績評価方法及び採点基準	テーマコンセプトシートとターゲットプロフィールの発表とテーマコンセプトシートとターゲットプロフィールの内容により評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>受講態度：20%          学外調査と研究発表：20%          最終レポート：60%          で評価します。</p>
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	平日の昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	○受講希望者が多数の場合は抽選もあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	20
(2)区分番号	20
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の芸術－日本近現代文学における「青森」表象－ (Art of Aomori－Representation of Aomori in Modern Literature－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	尾崎 名津子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森と関わる芸術に関する見識を深めること</p> <p>○芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○青森にゆかりのある日本近現代文学作品の読解を行う。</p> <p>○青森にゆかりのある日本近現代文学の作家について見識を深める。</p> <p>○文学作品に描かれた故郷を理解することで、地域社会と文化の関わりを理解する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：鈴木清順と旧制弘前高校</p> <p>第3回：『弘高青春物語』について</p> <p>第4回：日本近現代文学における〈故郷〉概念の変遷</p> <p>第5回：太宰治の人生</p> <p>第6回：太宰治と弘前</p> <p>第7回：太宰治と故郷</p> <p>第8回：太宰治と葛西善蔵</p> <p>第9回：葛西善蔵の人生</p> <p>第10回：葛西善蔵の作品を読む</p> <p>第11回：太宰治『津軽』を読む</p> <p>第12回：永山則夫と青森</p> <p>第13回：永山則夫の〈文学〉</p> <p>第14回：永山則夫と寺山修司</p> <p>第15回：寺山修司『田園に死す』</p> <p>レポート提出</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習]毎回の授業で取り上げる人物や、その人物の主要な作品について整理し、把握しておくようにしてください。</p> <p>[復習]毎回の講義内容を整理し、その人物や作品が置かれていた状況について、考えを深めるようにしてください。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時に紹介します。 場合によってはプリントを配布し教科書とすることもあります。
(21)参考文献	以下の図書は弘前大学附属図書館にて閲覧可能です。 鎌田紳爾『二人の修ちや 太宰治と寺山修司』（未知谷、2014年） 鎌田慧『椎の若葉に光あれ 葛西善蔵の生涯』（岩波書店、2006年）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：40%（毎回講義内容に関してコメントを書き、提出する。） 期末レポート：60% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義を行います。 場合によっては履修者にその場で意見を聞くこともあります。
(25)留意点・予備知識	日本近現代文学史に関する知識（高等学校卒業までに学習する程度）が具わっていた方が早く理解が深まります。
(26)オフィスアワー	メールにより日時の相談に応じます。 研究室：人文社会科学部棟230
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス：ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	21
(2)区分番号	21
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の芸術－針穴から眺める弘前－ (Art of Aomori－Hiroasaki looking from a pinhole－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 光輝 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森と関わる芸術に関する見識を深めること</p> <p>○芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○写真術の歴史を辿りながら映像の出現と定着の方法を学習します。</p> <p>○薬剤調合による感光剤を用いたサイアノタイプによる作品制作をおこないます。</p> <p>○針穴カメラを自作して写真機の仕組みを理解します。</p> <p>○製作した針穴カメラで弘前市内を撮影し、写真作品を完成させます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 資料鑑賞</li> <li>2 青写真 (サイアノタイプ) 薬液制作</li> <li>3 青写真 (サイアノタイプ) 原稿制作</li> <li>4 青写真 (サイアノタイプ) 作品制作</li> <li>5 青写真 (サイアノタイプ) 作品完成</li> <li>6 針穴写真についての講義</li> <li>7 針穴の制作</li> <li>8 暗箱の制作</li> <li>9 撮影と現像 (風景)</li> <li>10 撮影と現像 (静物)</li> <li>11 撮影と現像 (人物)</li> <li>12 撮影と現像 (野外)</li> <li>13 スキャンとポジの作成</li> <li>14 作品印刷</li> <li>15 作品発表と講評</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。写真の撮影と現像の未経験者を歓迎します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。針穴写真機を作成して撮影と現像をおこないますので材料費(1,000円)が必要となります。
(21)参考文献	田所美恵子『針穴写真を撮る』(雄鶏社)、教員研究室

	田所美恵子『針穴のパリ』（河出書房新社）、教員研究室
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は、授業への取り組み状況60点、課題作品40点の合計でおこないます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習と実習
(25)留意点・予備知識	作業する暗室の収容人数の関係上、受講者を最大12名とします。授業初日に抽選をおこないます。 写真現像の薬液を使用するのでエプロン等の用意が必要です。
(26)オフィスアワー	前後期、水曜 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://www.facebook.com/hirodaibi">http://www.facebook.com/hirodaibi</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	22
(2)区分番号	22
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の民俗・芸能－弘前藩のサムライ文化－ (Folklore/Performing Arts of Aomori－The samurai culture of the Hirosaki domain－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	山田 史生(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の民俗・芸能に関わりのある見識を深めること ○民族・芸能に関する知識を活用して、青森に固有の精神文化を理解すること
(15)授業の概要	○弘前藩のサムライによって伝承されてきた錦風流尺八について、歴史を学ぶ。 ○塩ビ管をもちいて錦風流尺八の本曲を吹奏できるように練習する。  ※受講にあたっては「じっさいに塩ビ管を吹きこなせるように授業時間以外にも自学自習する必要がある」ということを覚悟してください。いつまでも音が出せないと受講していても楽しくありません。「是が非でも音を出してやる」という気概をもって受講してください。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の進め方のガイダンスおよび教材の指示 第2回 錦風流尺八の歴史について (1)、塩ビ管の吹奏練習(1) 第3回 錦風流尺八の歴史について (2)、塩ビ管の吹奏練習(2) 第4回 中国における禅思想について、塩ビ管の吹奏練習(3) 第5回 日本における禅思想について、塩ビ管の吹奏練習(4) 第6回 錦風流本曲「調」について (1)、塩ビ管の吹奏練習(5) 第7回 錦風流本曲「調」について (2)、塩ビ管の吹奏練習(6) 第8回 錦風流本曲「下り葉」について (1)、塩ビ管の吹奏練習(7) 第9回 錦風流本曲「下り葉」について (2)、塩ビ管の吹奏練習(8) 第10回 錦風流本曲「通・門付・鉢返し」について、塩ビ管の吹奏練習(9) 第11回 錦風流本曲「松風調・松風」について、塩ビ管の吹奏練習(10) 第12回 錦風流本曲「三谷清攬」について、塩ビ管の吹奏練習(11) 第13回 尺八吹奏とマインドフルネスについて、塩ビ管の吹奏練習(12)



	<p>第14回 受講生による課題曲の発表(1)  第15回 受講生による課題曲の発表(2)</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の授業が異なる場合がありますが、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習として、尺八の吹奏の十分な練習を求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	塩ビ管(1100円)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(50%) 第14・15回の授業における尺八吹奏(50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業の前半は講義形式の座学ですが、授業の後半はじっさいに塩ビ管を吹きます。
(25)留意点・予備知識	予備知識はなんにも要りませんが、「音が出せるようになるまで練習する」という決意をもって履修してください。音さえ出せるようになれば、奥深いサムライ文化にご案内します。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	23
(2)区分番号	23
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の民俗・芸能－楽器の世界－ (Folklore/Performing Arts of Aomori－ World of Music Instruments－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の民俗・芸能に関わりのある見識を深めること ○民族・芸能に関する知識を活用して、青森に固有の精神文化を理解すること
(15)授業の概要	○「人間とは何か」という視点から楽器を研究することの意義を考察する。また、各楽器が、誰が、誰に、いつ、どこで、どのように作られ、奏でられてきたかを知ることにより、青森や世界の諸文化の実相に触れる。また、授業では講義に加え、楽器の実演や製作をまじえる。 ○津軽三味線やお囃子などの青森の芸能を通じて、青森の民俗・芸能に関わりのある見識を深めるとともに、民族・芸能に関する知識を活用して、青森に固有の精神文化を理解する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 人間と音、そして、音楽と楽器 第3回 楽器と音具 第4回 楽器の素材 第5回 楽器の形態学 第6回 楽器の地域性 第7回 津軽三味線 第8回 グラスハーブ 第9回 サンポーニャ 第10回 スティールパン 第11回 尺八 第12回 囃子 第13回 しの笛とフルート 第14回 ささやきの壁 第15回 まとめ 授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	富田晃『楽器は語る：津軽三味線からステールパンまで』 千里文化財団
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、レポート(1/3)、試験(1/3)を総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および演習
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	24
(2)区分番号	24
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－青い森の食材機能学－ (Nature of Aomori－Healthy function of food materials in Aomori－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○前多 隼人(農学生命科学部)、岩井 邦久(農学生命科学部)、七島 直樹(保健学研究科)、藤田 俊文(保健学研究科)、富澤登志子(保健学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	青森県は生産量がりんご、カシス、ごぼうなど生産量が日本一の食品がたくさんある。これらの食材には病気の予防や改善に役立つ優れた機能があることが明らかになってきた。 青森県は平均寿命が全国最下位であり、生活習慣病の患者割合も高い地域だが、食品の機能性を正しく理解し食生活を改善することで改善してゆける可能性がある。 本講義では県産食材の最新の健康機能性について学ぶ。 また機能性食品などの健康機能性を生かした付加価値の高い食品の開発事例について紹介し、食品素材の特徴を生かした地域産業を活性化の方法について考える。
(16)授業の内容予定	第1回 食材機能を学習するにあたっての基本的な生化学や栄養学(七島) 第2回 カシスのフィトエストロゲン効果について(七島) 第3回 抗酸化力と健康 (富澤) 第4回 カシスの血管への影響(富澤) 第5回 身近な食材の機能性(納豆, リンゴ, きのこと等)(岩井) 第6回 青森県の特徴ある機能性食材とその利用(アピオス, ガマズミ, クラゲ, ツルアラメ)(岩井) 第7回 りんごの成分と健康機能性研究(前多) 第8回 食品素材と生活習慣病予防研究(前多) 第9回 青森県の機能性食材(ナガイモ)(加藤) 第10回 青森県の機能性食材(サケ)(加藤) 第11回 運動と代謝(藤田) 第12回 運動と栄養(藤田) 第13回 青森のお米を使った新しい日本酒生産、シードル、酒米の機能性 (ゲストスピーカー：：(地独)青森県産業技術

	<p>センター 弘前工業研究所 齋藤知明)  第14回 県産食品を使った地域創生(青森県農産物加工研究所の取り組み)  (ゲストスピーカー：(地独)青森県産業技術センター 農産物加工研究所 落合瞳子)  第15回 県産食品を使った地域創生(八戸地域の取り組み)  (ゲストスピーカー：八戸工業高等専門学校 山本歩)  ※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>①講義での指示に従い、取り上げた地域の食材や食品の機能性に関する予習、復習をおこなうこと。  ②講義での受講内容を基に、指示されたレポートを作成し、講義の理解を深めること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特段、指定することはありません。適宜プリント等資料を配付します。
(21)参考文献	<p>青い森の食材研究会編集の青森県産機能性食品素材データベース  (<a href="http://www.21aomori.or.jp/kinou/">http://www.21aomori.or.jp/kinou/</a>)</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 平常評価：リアクションペーパー、小レポート、小テスト(60%)  2. 期末レポート(各担当教員が担当講義終了時に指示します)(40%)  ※以上の1、2の内容を鑑みて総合的な評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義主体で行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県の食資源について一緒に学びます。</li> <li>・講義を受講することで食と健康、食資源を使った地域の活性化についての興味が深まることを期待します。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	<p>研究室に在室しているときであれば、曜日・時間帯は指定しません。但し事前にメールで予約して下さい。  農学生命科学部2階227室 前多</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hayatosp@hirosaki-u.ac.jp">hayatosp@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<p>本講義では県内の研究施設で活躍している皆さんの先輩をゲストスピーカーとして呼び、県産食品についての講義をして頂きます。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	25
(2)区分番号	25
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－青森の地理－ (Nature of Aomori－Geography of Aomori－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高橋 未央 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	○三方を海に囲まれ、火山、山地、平野の発達が良好な青森の自然景観を学ぶ。 ○壮大なスケールで形成された地球環境のしくみを地理学的な視点で考察する。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 グローバルに見た日本の気候と地形 第3回 海洋の影響を強く受ける青森の気候 第4回 多様な自然環境をもつ青森 第5回 気候変化と植生(1) 第6回 気候変化と植生(2)－世界の平野と青森の平野－ 第7回 気候変化と植生(3) 第8回 生活の基盤となる地形・平野 第9回 世界の平野 第10回 青森の平野 第11回 さまざまな湖の景観 第12回 さまざまな湖の成因 第13回 日本の火山 第14回 火山のなりたち 第15回 火山災害と火山の恵み 第16回 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業終了時に示す課題についてミニレポートを作成すること
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	地図帳 (中学校・高等学校で使用したものでもよい)
(21)参考文献	講義の中で必要な参考文献を指示します
(22)成績評価方法及び採点基準	試験：15回の講義内容の理解度をはかります
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tamio@hirogaku-u.ac.jp">tamio@hirogaku-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	26
(2)区分番号	26
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－白神学Ⅱ－ (Nature of Aomori－Introduction to the Shirakami Mountains II－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○中村 剛之(農学生命科学部)、石川 幸男(農学生命科学部)、大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	○ 白神山地の生物相の成り立ちについて学ぶ。 ○ 森林生態学の視点から森林の移り変わりを学ぶ。 ○ 現地での実習を通して、生物相の調査方法、水生生物の生態観察、環境測定などの手法を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 白神昆虫相の成り立ち 昆虫の多様性 (中村剛之) 第2回 白神昆虫相の成り立ち 対馬海流(暖流)の影響 (中村剛之) 第3回 白神昆虫相の成り立ち 動物相の調査方法 (中村剛之) 第4回 白神、森の生態 木の年輪から知る環境変動の実態 (石川幸男) 第5回 白神、森の生態 群落分布の成り立ち (石川幸男) 第6回 白神、森の生態 ニホンジカが植物群落にもたらす影響 (石川幸男) 第7～10回 西目屋村で実習(1日で集中して実施) 森林観察、フィールドワーク・動物相の調査手法(中村剛之・石川幸男) 第11回 十二湖一小宇宙の生態学 大きい湖・小さい湖 (大高明史) 第12～14回 深浦町十二湖で実習(1日で集中して実施) 環境測定、サンプリング、森林観察(大高明史・中村剛之・石川幸男) 第15回 十二湖一小宇宙の生態学 ミジンコはすごい (大高明史)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業をうける前に、白神学Ⅰで学んだ関連する講義について教科書やノートを読み返す、教材を事前に読んでおくなどの予習を十分に行っておくこと。(予習復習は最低でもそれぞれ2時間程度行う必要があります)



(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中、適宜指示あるいは資料が配布され ます。 大高担当部分：ブナの森の湖沼群。白神山 地・十二湖の水生生物を探る。大高明史著。 弘大ブックレット No. 8. 弘前大学出版会、 619円
(21)参考文献	白神学入門〈改訂版〉、白神学入門〈2017〉 ※ ※本授業の履修に際して新しく購入する必要 はありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度） 25% 3人の教員が課すレポートによる評価 75% （@25%） を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	3人の教員によるオムニバス授業。 各教員が2回ずつ講義を行います。そのうえ で、別の日程で白神山地を訪れ、授業の内容 にそった自然観察など実習を行います。
(25)留意点・予備知識	前年に白神学 I を受講し、単位取得済みの学 生を対象とします。 現地での実習を伴うため、受講生の人数を20 人に制限し、希望者が多い場合は抽選を行 います。 実習の当日は雨具、山歩きに適切な靴（また は長靴）、リュックサックなど最低限の装備 が必要になります。さらに、もしもに備え、 事前に学生保険に加入しておいて下さい。
(26)オフィスアワー	中村 水曜日、木曜日 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	中村剛之 <a href="mailto:dhalma@hirosaki-u.ac.jp">dhalma@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実習が週末に行われるなど、講義や実習の実 施日が変則的となります。日程等は初回授業 のガイダンスの中で説明されます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	27
(2)区分番号	27
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－白神学Ⅰ－ (Nature of Aomori－Introduction to the Shirakami MountainsⅠ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○中村 剛之(農学生命科学部)、石川 幸男(農学生命科学部)、丹波 澄雄(理工学研究科)、根本 直樹(理工学研究科)、大高明史(教育学部)、赤田 辰治(農学生命科学部)、佐々木 長市(農学生命科学部)、上條 信彦(人文学部)、本多 和茂(農学生命科学部)、山岸 洋貴(白神自然環境研究所)、殿内 暁夫(農学生命科学部)、丸居 篤(農学生命科学部)、小林 一也(農学生命科学部)、石田 祐宣(理工学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	○世界自然遺産である白神山地の自然について理解を深める。 ○同じ白神山地をフィールドとしつつさまざまな分野、切り口の研究活動があることを学ぶ。 ○フィールドワークの手法とその面白さを学ぶ。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：世界自然遺産としての白神生態系と植物群落 (石川幸男)</li> <li>2. 白神山地の気象 (石田祐宣)</li> <li>3. リモートセンシングとGISデータから見える白神山地 (丹波澄雄)</li> <li>4. 白神山地の大地の生い立ち (根本直樹)</li> <li>5. 白神山地の自然環境の歴史的変遷 (上條信彦)</li> <li>6. 森に支えられる河川生態系 (大高明史)</li> <li>7. 白神山地のキノコ (殿内暁夫)</li> <li>8. 白神山地に侵入するニホンジカとその影響 (中村剛之)</li> <li>9. 白神山地の土壌 (佐々木長市)</li> <li>10. 白神に生息するプラナリアの知見から出発した研究 (小林一也)</li> <li>11. 春に咲く花達 (山岸洋貴)</li> <li>12. 白神山地の植物－シラネアオイの生活史特性－ (本多和茂)</li> <li>13. 白神山地は「緑のダム」になり得るか</li> </ol>

	<p>(丸居篤)</p> <p>14. 白神山地におけるブナ林の遺伝子多様性について (赤田辰治)</p> <p>15. 白神にくらす昆虫たち (中村剛之)</p> <p>16. テスト (中村剛之)</p> <p>※教員の都合などにより、講義の順番が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>教科書である『白神学入門〈2017〉』の次の授業に該当する箇所を事前に読んでおくこと。</p> <p>その上で分からない専門用語はその意味などを事前に調べ理解しておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	<p>個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連</p>
(18)学問分野2(副学問分野)	<p>森林圏科学関連</p>
(18)学問分野3(副学問分野)	<p>環境保全対策関連</p>
(19)実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20)教材・教科書	<p>『白神学入門 (2017)』弘前大学出版会</p>
(21)参考文献	<p>授業中に適宜紹介されます。 付属図書館で白神山地関連の図書を見ておくことをおすすめします</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常・中間評価：小テスト (60%)</p> <p>期末評価：期末テスト (40%)</p> <p>上記を合算して成績評価が行われる予定です。</p>
(23)授業形式	<p>講義</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>オムニバス形式の講義方式です。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>特別な予備知識は必要ありません。</p>
(26)オフィスアワー	<p>中村剛之</p> <p>オフィスアワー 水曜日・木曜日 12:00-14:00</p> <p>コラボ弘大5階 白神自然環境研究センター</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>担当教員 中村剛之</p> <p><a href="mailto:dhalma@hirosaki-u.ac.jp">dhalma@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>白神自然環境研究センター ホームページ</p> <p><a href="http://www.hirosaki-u.ac.jp/shirakami/">http://www.hirosaki-u.ac.jp/shirakami/</a></p>
(28)その他	<p>受講者は休日等を利用して授業のテーマである白神山地を訪れてみる事をおすすめします。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	28
(2)区分番号	28
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－青森の地震と火山－ (Nature of Aomori－Earthquakes and volcanoes in Aomori－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○片岡 俊一 (理工学研究科)、佐々木 実 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	授業では、まず地震が起きること、火山が存在する一般的な理由を学び、地球の営みについての見識を深めます。ついで、青森県が被災した地震について、その被害と特徴を学び、災害についての理解を深めます。火山については、過去数百万年にわたり青森の大地を形成してきた歴史と、将来災害を引き起こす可能性がある活動について理解を深めます。一方で、自治体等が実施している地震・火山災害の軽減策を学びます。 この授業を通じて、 ○青森県周辺で地震が起こること、青森県内に火山があること、これらを統一的に説明できるモデルがあることを理解します。 ○青森県における地震災害、火山災害の理解を深めます。
(16)授業の内容予定	1. イントロ 片岡 2. 青森県について、および災害対応の主体 片岡 3. プレートテクトニクス 佐々木 4. 火山の活動と人間社会 佐々木 5. 地震の発生と地震動 片岡 6. 日本の地震対策の歴史 片岡 7. 1968年十勝沖地震と1994年三陸はるか沖地震 片岡 8. 1983年日本海地震および歴史地震災害 片岡 9. 最近の地震災害 片岡 10. 自治体の地震災害軽減方策 (片岡) 11. 岩木火山の活動と災害 佐々木 12. 十和田火山の活動と災害 佐々木 13. 八甲田火山の活動と災害 佐々木 14. 巨大噴火 佐々木 15. 自治体の火山災害軽減方策 (片岡) 16. 試験 佐々木・片岡

	授業の執行状況などにより、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	青森県の地理の知識が必要になります。授業で最低限の知識は説明しますが、地図帳などを利用して積極的に勉強して下さい。基本的には、復習に力を入れ、次回の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしましょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	防災工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。必要な図等は授業中にプリントとして配布されます。
(21)参考文献	青森県史 自然編 地学
(22)成績評価方法及び採点基準	原則として期末試験の結果で成績を決めます。授業への参加度合いも最大±5%程度勘案する可能性はあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で学びます。
(25)留意点・予備知識	津波を含む地震災害とその軽減策の一般的な講義は、教養科目(自然・科学)「環境と生活ー日本の地震防災ー」で講義されます。
(26)オフィスアワー	片岡分 木曜日, 16:30~17:30. 基本的には, 部屋にいるときは質問などに対応します。 佐々木分 月曜日, 17:40~18:40. 基本的には, 部屋にいるときは質問などに対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	片岡分 <a href="mailto:kataoka@hirosaki-u.ac.jp">kataoka@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka</a> 佐々木分 <a href="mailto:minoru@hirosaki-u.ac.jp">minoru@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~minoru">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~minoru</a>
(28)その他	上述したように、青森県に注目して地震と火山を説明します。青森県内の4つの地方公共団体から防災への取組を2回の講義に分けて説明してもらう予定にしています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	29
(2)区分番号	29
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－青森の雪とウィンタースポーツ － (Nature of Aomori－Aomori's Snow and Winter sport －)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○小玉 正志(教育学部)、太田 誠耕(教育学部) 佐藤剛(教育学部)、八木橋 綱三(非常勤講師)、 桜庭 秀樹(非常勤講師)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	2泊3日の宿泊を伴う集中授業です。 少人数クラスにより、初めての人から経験者までレベルに応じてスノーボードの技術を習得します。スノースポーツができる人しか体験できない、雪景色や雪の結晶、動物の足跡などを観察します。また、冬季の自然を体感することにより、冬季の自然災害やスノースポーツを利用した観光資源についても学びます。
(16)授業の内容予定	日程：2019.12.26～28(2泊3日) 場所：青森スプリングリゾートスキー場 実習経費：30,000円程度(宿泊費、食費、リフト券)(変更する場合があります)  1回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭 2回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭 3回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭 4回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭 5回目スノーボードの滑走レベル(初心者から

	<p>上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>6回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>7回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>8回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と冬の天候や雪質の変化を体感します。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>9回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と標高の変化による雪の結晶の違いの観察をします。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>10回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と動物の足跡の観察 担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>11回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得と動物の足跡の観察 担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>12回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得とスキー場への来場者を観察することにより, 青森の冬の観光はどうあるべきか考える。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>13回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の習得とスキー場への来場者を観察することにより, 青森の冬の観光はどうあるべきか考える。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>14回目青森県の冬季観光の現状を学ぶ(特にスキー場への来場者を観察したことを基本として)。(講義) 担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>15回目スノーボードの滑走レベル(初心者から上級者)に応じた技術の総括とスキー場への来場者のスノースポーツレベルの観察する。スノースポーツを観光資源とするには何が必要かを考える。担当 小玉, 太田, 佐藤, 八木橋, 桜庭</p> <p>スノーボードの技術を習得します。 習得したスノボードの技術を駆使することにより, スノースポーツをできる人のみでできる以下の様々な事柄を経験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の天候や雪質の変化を体感します。</li> <li>・雪の結晶を観察します。</li> <li>・動物の足跡を観察します。</li> <li>・青森県の冬季の観光の現状を講義で学びます。</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>10月はじめにガイダンスを行いますので掲示に注意して下さい。</p> <p>12月上旬にもガイダンスがあります。</p>

	<p>用具はレンタルもありますが、自分の物を準備した方が良いと思います。</p> <p>授業の予習；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の観光はどのようになっているか？特にインバウンドについて。</li> <li>・雪の結晶，動物の足跡について，調べれておく。</li> </ul> <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなスノーボードの技術を学んだかメモしておく。</li> <li>・自分か観察した雪の結晶，動物の足跡についてまとめておく。</li> <li>・スキー場にはどのような人たちが来ているのかを観察し，記録しておく。</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（ガイダンスを含む）（60%），レポートの内容（20%），技術の習得状況（20%）等で総合的に判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と実習
(25)留意点・予備知識	人数制限があります。 希望者多数の場合，抽選になります。
(26)オフィスアワー	小玉正志；火曜日12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mkodama@hirosaki-u.ac.jp←迷惑メール防止のため一部を全角にしています。半角にしてメールして下さい。
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	30
(2)区分番号	30
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－食育概論①－ (Nature of Aomori－Introduction to the education for food priduction and nutrition－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	荒川 修(農学生命科学部)、川崎 通夫(農学生命科学部)、前田 智雄(農学生命科学部)、松崎 正敏(農学生命科学部)、○石塚 哉史(農学生命科学部)、遠藤 明(農学生命科学部)、丹藤 雄介(保健学研究科)、伊藤 大雄(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	最近のわが国において食生活を巡り、栄養バランスの偏り、不規則な食事、若年層の習慣病・肥満の増加等の問題が叫ばれており、この危機的状況を改善するために2005年に政府は食育基本法を施行しました。 こうした状況を踏まえ、栄養、食生活、食の安全、食料政策、食糧需給、食環境、食文化という食に纏わる事象の特徴や課題についても学び、食育を実践する上で必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。それに加えて、本学が立地している青森県における食と農の特色を学ぶことにより、地域での食と農の在り方について説明できるような知識を身につけます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス(石塚) 第2回 食育推進に関する施策の現状と課題(石塚) 第3回 地域・家庭・学校・企業での食育推進(石塚) 第4回 食文化の継承と課題(石塚) 第5回 食事と栄養と健康(丹藤) 第6回 食事と生活習慣病(丹藤) 第7回 日本型食生活と大学生の食生活(丹藤) 第8回 地域における栄養指導の実際(外部講師：丹藤担当) 第9回 食べ残しの現状と諸課題(泉谷) 第10回 食育が食べ残し削減に与える効果(泉谷) 第11回 農地と肥料と環境保全(遠藤) 第12回 日本のコメ(川崎) 第13回 日本の野菜(前田) 第14回 青森県における果物の栽培と利用

	(荒川) 第15回 日本の畜産(松崎) ※講義の順番は都合により前後する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の前に食・農・健康に関するニュースにおいて興味・関心のある事項を整理しておく と理解度を高める上で効果的です。 多くの教員から広範囲のことを学びますので、その都度復習することを心がけて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は指定しません。教員ごとに必要に応じて資料を配布します
(21)参考文献	①食育入門(生活に役立つ食のサイエンス) 垣原登志子ほか編 共立出版 2160円 愛媛大学で食育の教科書として使われています。日本の食・農・健康について包括的に解説されています。 ②あおり食育検定公式テキスト あおり食育検定委員会編 無料 毎年最新データに更新されます。あおり食育検定の問題は、全てこのテキストから出題されます。冊子体の入手方法や無料ダウンロードは下記のサイトから。 <a href="http://syokulove-aomori.net/kentei.html">http://syokulove-aomori.net/kentei.html</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	①平常評価：リアクションペーパー(60%) ②中間評価：レポート(20%) ③期末評価：期末レポート(20%) ※以上の①～③の内容を鑑みて総合的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義主体で行います。2回は、学外からスピーカーを招聘する予定です。
(25)留意点・予備知識	高校までの知識があれば理解できる内容にします。生きる基本は「食」です。講義を聞いて、自分の食生活や青森県の食材を改めて見直すことをお勧めします
(26)オフィスアワー	研究室に在室しているときであれば、曜日・時間帯は指定しません。但し、事前にメールで予約して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	s-ishi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	31
(2)区分番号	31
(3)科目種別	ローカル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の自然－食育概論②－ (Nature of Aomori－Introduction to the education for food production and nutrition－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○伊藤 大雄(農学生命科学部)、川崎 通夫(農学生命科学部)、前田 智雄(農学生命科学部)、松崎 正敏(農学生命科学部)、石塚 哉史(農学生命科学部)、遠藤 明(農学生命科学部)、丹藤 雄介(保健学研究科)、泉谷 眞美(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の自然に関わりのある見識を深めること ○自然に関する知識を活用して、青森の食材、地形、気候、資源、自然災害などを理解すること
(15)授業の概要	わが国では2005年に食育基本法が施行されました。「食」(消費者)と「農」(生産者)の乖離、食生活や栄養バランスの乱れ、生活習慣病の顕在化などに、私たち一人一人が真剣に向き合い、改善・解決してゆくことが求められています。本講義では、食生活について深く考え、地域の食材を理解し、健康な食生活を実践する力を身につけるために、田畑の土と肥料、農薬・遺伝子組み換え作物の安全性や、青森県の主要農産物の栽培方法・流通などについて総合的に学びます。また、青森県の事例を中心に、食物栄養や生活習慣病についてもあわせて学習します。「食育概論①」より農業・地域食材に重点を置いています。
(16)授業の内容予定	1 ガイダンス(伊藤) 2 世界の食と農を巡る問題(石塚) 3 日本および青森県の食と農を巡る問題(石塚) 4 青森県のリンゴ栽培(伊藤) 5 農場見学(伊藤) 6 農薬と遺伝子組み換え作物(伊藤) 7 食べ残しの現状と食育の効果(泉谷) 8 日本型食生活と大学生の食生活(石塚) 9 青森県と北日本の野菜(前田) 10 野菜と健康な食生活(前田) 11 農地と肥料と環境保全(遠藤) 12 青森県の畜産(松崎) 13 日本の稲作(川崎) 14 食事と栄養と健康(丹藤) 15 食事と生活習慣病(丹藤) 講義の順番は都合により前後する場合があります。

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	普段から食・農・健康に関するニュースに興味を持ち、下記の参考書も活用して主体的に学習して下さい。 多くの教員から広範囲のことを学びますので、その都度十分に復習し、レポート課題は十分時間をかけて真剣に取り組んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は指定しません。教員ごとに必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	①食育入門(生活に役立つ食のサイエンス) 垣原登志子ほか編 2014年発行 共立出版 2160円 愛媛大学で食育の教科書として使われています。日本の食・農・健康について包括的に解説されています。 ②あおもり食育検定公式テキスト あおもり食育検定委員会編 無料 毎年最新データに更新されます。あおもり食育検定の問題は、全てこのテキストから出題されます。冊子体の入手方法や無料ダウンロードは下記のサイトから。 <a href="http://syokulove-aomori.net/kentei.html">http://syokulove-aomori.net/kentei.html</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常の取組姿勢を評価の一部とします(20%程度)。また各教員がレポート、あるいは授業中に小テストを実施して理解度を評価します(80%程度)。欠席により小テストが受けられなかった場合の代替措置は原則として行いません。期末試験は実施しません。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義主体で行いますが、第5回は藤崎農場の見学です。貸し切りバスの予算が確保できた場合はバスを利用し、帰着が12:30頃になります。予算がつかない場合は、土曜日の午前中に振替授業を実施し、現地集合・現地解散(旅費自己負担)とします。見学の都合上、100名の履修制限を行いますが、昨年は履修者29名で、抽選は行っていません。
(25)留意点・予備知識	高校までの知識があれば理解できる内容にします。生きる基本は「食」です。講義を聞いて、自分の食生活や青森県の食材を改めて見直すことをお勧めします。
(26)オフィスアワー	オフィスは藤崎農場なので、事前にメールで連絡を下さい。文京町にいる時間に面会します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	daiyu@hirosaki-u.ac.jp (伊藤大雄)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	32
(2)区分番号	32
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－国際協力－ (Global Society/Economy－International Cooperation－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	和氣 太司 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	○グローバル化する世界における国際協力に関する目標や理念を理解した上で、政府、国際機関、民間企業の国際協力への取組みについて学習し、理解を深める。 ○国際協力に関する知識に基づき、ビジネスやキャリアについて分析を行う。
(16)授業の内容予定	第1回オリエンテーション 第2回開発途上国の現状と課題 第3回世界の援助潮流－MDGsとSDGs 第4回国際協力の仕組み 第5回国際協力と経済発展 第6回民間企業の国際協力 第7回国際キャリアを考える 第8回海外の事例－東南アジア (ASEAN、インドネシア) 第9回海外の事例－南アジア (バングラデシュ、インド) 第10回海外の事例－中東 (石油資源と援助) 第11回海外の事例－アフリカと中国 第12回分野別の国際協力－教育 第13回分野別の国際協力－保健・医療 第14回分野別の国際協力－科学技術・文化 第15回授業の総括と理解度の確認
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として新聞、テレビ、インターネットなどを通じて国際協力や国際社会の動向について情報収集をしてください。復習として授業で出された課題について参考文献等で調べてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介されます。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。毎回の授業内容に関する質問やコメントに基づく。評価全体の30%） レポート評価（課題に関してレポートを提出する。評価全体の30%） 期末評価（理解度の確認。評価全体の40%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式です。授業の最後に質問・コメントを書いたペーパーを提出してもらい、次回の授業で紹介・回答する。
(25)留意点・予備知識	受講に当たって特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	33
(2)区分番号	33
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－中国経済と日本－ (Global Society/Economy－ The Chinese Economy and Japan－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	黄 孝春 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	・中国経済はアメリカに次ぐ世界第2の経済大国にまで成長し、近年の米中経済摩擦からみて中国経済の存在はますます大きくなっている。また日本の隣国ということもあって常に日本経済から影響を受けてきたし、また日本への影響は今後ますます強くなると考えられる。 ・この授業では、複数の視点を組み合わせた複眼的な思考で中国経済をとらえたい。具体的には歴史の中で、グローバルの中で、都市・農村の二重構造として、地域の集合として、そして経済発展の制約要因から中国経済を総合的には理解したうえで「中国崩壊論」と「中国脅威論」というまったく異なる中国経済論の問題点を検討する。 ・そのうえで日本との関係について考察したい。
(16)授業の内容予定	第1回 中国経済への招待 第2回 20世紀の中国経済 第3回 社会主義の模索と市場経済化 第4回 農業・農村・農民問題 第5回 企業体制改革とその行方 第6回 地域発展戦略と産業・人口の集積 第7回 財政制度改革と中央－地方関係 第8回 世界最大の資本大国の金融システム 第9回 貧困、失業及び所得格差 第10回 人口と社会保障 第11回 エネルギー問題 第12回 経済発展と多様化する環境問題 第13回 対外貿易と直接投資 第14回 香港・台湾と中国の関係 第15回 中国と日本との経済関係
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられる内容について予習と復習によってその内容を理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	梶谷懐・藤井大輔編著『現代中国経済論』ミネルヴァ書房、2018年
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト(40%)と期末評価(60%)を合算して評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義の内容についての質問や感想を書いた文章を提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特段の予備知識は必要ませんが、関連のニュース報道に関心を持ってほしいです。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	huang@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	34
(2)区分番号	34
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－外から見た「日本」「青森」－ (Global Society/Economy－“Japan”and “Aomori” seen from overseas－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○笹森 圭子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	○青森の文化・産業などを調査し、地域について課題を把握する ○求められる「グローバル人材」について考察する ○外から見た「日本」「青森」について調査し、課題・解決策を考察する
(16)授業の内容予定	<p>学年末休業中に台湾（高雄市・台北市・桃園市）にて、研修・調査を行います。研修前後に行われる事前・事後指導も必須です。（留意点をよく読んでください） 事前に青森の文化、産業などを調査し、地域についての課題を洗い出し、学年末休業中に台湾南部の高雄市および北部の台北市・桃園市にて、課題について比較、調査し、青森に適した解決策を考えていきます。学生交流、ビジネスマンとの座談会（駐在日本人）、企業訪問、現地調査などを行い、働き方や仕事・学業への意識を比較、考察します。帰国後は調査結果等を基に報告書と次年度への課題をまとめます。（渡航期間は2週間程度を予定）</p> <p>●授業ガイダンス：9月27日（金）10：20～ 場所は後日掲示予定 （参加が難しい場合は要相談）</p> <p>2019.10.1～2020.2.20 事前指導として、役割分担、プレゼンテーションの作成、台湾についての事前調査等を実施します。なお、実施日時については、参加希望者の空きコマを調整してスケジュールを組みます。</p> <p>【研修参考日程】昨年度のスケジュールです。（今年度のスケジュールはガイダンスでお知らせします。）</p>

	<p>※【】内は授業回数相当の時間を表していません。計15回分</p> <p>H31.2.24(日) 青森 発 → 羽田・成田 → 高雄市 着  25(月) 協定校訪問 (国立高雄大學)  【2回分】  26(火) 企業訪問① 【2回分】  27(水) 高雄日本人学校、協定校訪問 (国立屏東大學)、ビジネスマンとの座談会  【3回分】  28(木) 台南市、屏東縣 調査  3. 1(金) 高雄市内 調査  2(土) ホームステイ (一泊)  3(日) 高雄市 → 台北市  4(月) 台北市内 調査  5(火) 協定校訪問 (中国文化大学)、台湾原住民博物館訪問【3回分】  6(水) 協定校訪問 (開南大学)、企業訪問②【3回分】  7(木) 企業訪問③【2回分】  8(金) 台北発 → 羽田 → 青森着</p> <p>2020.3 事後指導として、3月中に参加者の都合を確認後、2回実施します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>事前指導において、各学生それぞれに担当の役割を割り振ります。担当となった部分について、学生本人が主体的に準備・調査等を行ってまいります。参加学生全員で意見交換を行う場として、事前指導の時間を利用します。その上で予習として、指定した図書を読み、台湾についてと日本及び世界の現代史について知識を深めておくこと、復習としては研修後の事後指導で、研修のフィードバックを全体で発表し、次につなげる課題を探します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>事前指導・課題への取り組み 30%  研修中の態度・取り組み 40%  事後指導・報告書 30%</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義及びワークショップ形式、プレゼンテーション
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修を考えているものは、授業ガイダンスに必ず出席すること。</li> <li>・渡航前の事前指導、帰国後の事後指導に必ず出席すること。</li> <li>・研修費用(渡航費用を含む)は本人負担になることについて十分理解するとともに、保護者の同意を得ること。</li> <li>・渡航国の情勢の急な変化により中止となることがあることに留意すること。</li> <li>・海外研修前に実施する危機管理オリエンテーションを必ず受けること。(実施時期未定)</li> <li>・履修の上限：10人(履修希望者が多数の場合)</li> </ul>

	合は抽選により決定します。 ・履修を取りやめる場合は、期間中に必ず連絡すること。
(26)オフィスアワー	水 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	総合教育棟2階 教員室B214 kay*hirosaki-u.ac.jp (*を@に変更してください。)
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	35
(2)区分番号	35
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－Anthropology of Japanese social structure－ (Global Society/Economy－Anthropology of Japanese social structure－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	Globalization surrounding Japanese social / economic environment is explored through anthropological monographs.
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：日本社会へのまなざし Introduction: Seeing Japan</li> <li>2. 『菊と刀』第5章解説 The Chrysanthemum and the Sword (CS), Ch. 5</li> <li>3. 『菊と刀』第7章解説 CS7</li> <li>4. 『菊と刀』第9章解説 (上) CS9</li> <li>5. 『菊と刀』第9章解説 (下) CS9</li> <li>6. 『菊と刀』第11章解説 CS11</li> <li>7. 発表のための解説 Instruction for Presentation</li> <li>8. 個別発表と討論① Presentation and discussion</li> <li>9. 個別発表と討論② Presentation and discussion</li> <li>10. 『選挙』解説 Introduction for Film Campaign</li> <li>11. 『選挙』視聴と解説 (上) Film: Campaign</li> <li>12. 『選挙』視聴と解説 (中) Film: Campaign</li> <li>13. 『選挙』視聴と解説 (下) Film: Campaign</li> <li>14. Presentation and discussion</li> <li>15. Presentation and discussion. Conclusion</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Assignments and preparation for presentation. 文献の購読と発表の準備
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Ruth Benedict, The Chrysanthemum and the Sword ルース・ベネディクト『菊と刀』 <a href="http://english.gzeic.edu.cn/ewebeditor/uploadfile/20141121103238299.pdf">http://english.gzeic.edu.cn/ewebeditor/uploadfile/20141121103238299.pdf</a> 想田和弘『選挙』DVD
(21)参考文献	TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	発表100% Presentation (100).
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と討論 Lecture and in-class discussion.
(25)留意点・予備知識	講義・発表等、授業のすべてを英語で行います。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目 (要予約)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	36
(2)区分番号	36
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－Human conditions: An anthropological perspective－ (Global Society/Economy－Human conditions: An anthropological perspective－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること</p> <p>○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○映像人類学と民族誌映像の視聴をつうじて、人間の条件の多様性についての知識を深めます。</p> <p>By viewing work of visual anthropology and ethnographic film, plurality of human condition will be explored and discussed.</p> <p>○社会変化、文化変容、信仰体系、芸術、贈与交換などが地域的な社会生活や経済活動に深くかかわっていることを理解します。</p> <p>Particular light will be shed onto social change/modernity, belief system, art and gift exchange (still an important element in any micro-scale transactions!).</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論：文化人類学とグローバル社会 Introduction: Cultural anthropology and global society</li> <li>2. グローバル化と性的マイノリティの生き様について Globalization and livelihood of sexual minority</li> <li>3. 映像 Ladies of My Family 視聴</li> <li>4. 発表① Presentation</li> <li>5. 贈与交換の変容がミクロ経済に与える影響について Impact on micro economy by transformation of gift exchange</li> <li>6. 映像 Kula 視聴</li> <li>7. 発表② Presentation</li> <li>8. 呪術、信仰と情報の結びつきについて Relationship between witchcraft, beliefs and information</li> <li>9. 映像 Azande Witchcraft 視聴</li> <li>10. 発表③ Presentation</li> <li>11. 儀礼と芸能の社会的作用について Social interaction of ritual and folk art performance</li> <li>12. 映像『ふるさとの伝承』視聴 Japanese example</li> <li>13. 発表④ Presentation</li> </ol>

	14. それぞれの発表を振り返って Summary of presentations 15. まとめ Conclusion
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation for and reflection of presentation.
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	TBA
(21)参考文献	TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	発表(映像の理解と考察度) 100% Presentation (100)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	テーマ別の講義～映像の視聴～発表のクールを4回行います。 Lecture followed by viewing a film and presentation.
(25)留意点・予備知識	講義・映像の視聴・個人発表など、授業のすべてを英語で行います。 個人発表に時間をかけるため、履修制限あります(12名以内)。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目(要予約)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	suwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教養教育科目

(1)整理番号	37
(2)区分番号	37
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済ーグローバル市民になるためハワイに学ぶ地域社会ー (Global Society/Economy-Tomorrow's "Glocal" Citizens Incorporating Hawaii Community Infrastructure -)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)、多田 恵実 (教育推進機構)、小野 真実 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり 方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	学生はそれぞれが設定した弘前地域についての社会的課題についての調査 を後期1学期間かけて行い、またオンラインでハワイ現地との密な連絡を取り 合いながら学び、成果発表会以外に4つの発表会を自ら催行する。1)渡航先での 地域健康サポートフェア、2)ハワイ島コナ市庁での青森の生活改善および フィールド医療についての発表、帰国後は3)イングリッシュ・ラウンジと4) 保健学科で弘前市民向けの成果発表会を学生自身で行います。 授業内での研究発表、学内研究発表、ハワイ島での市民対象の研究発表、 帰国後の弘前地域市民に向けての研究発表、学内報告研究発表、と学生は 数々のプレゼンテーションをこなすうちにおのずと自らの研究対象に関する 理解を深め、日英のプレゼンテーション能力を涵養します。受け身の授業で はなく、自らが当事者となり周囲に働きかけることができるような人材を育 てま す。
(16)授業の内容予定	2019年10月1日～2020年2月7日(教養教育後期授業) 第1回オリエンテーション 第2回ハワイの歴史(1)、各自の課題設定 第3回ハワイの歴史(2)、各自の事前調査プレゼンテーション(1) 第4回ハワイの言葉(1)、スカイプ授業(1) 第5回ハワイの言葉(2)、スカイプ授業(2) 第6回青森県の健康対策(1) 第7回青森県の健康対策(2) 第8回各自の事前調査プレゼンテーション(2) 第9回各自の事前調査プレゼンテーション(3) 第10回ハワイの社会(1) 渡航準備のための英語(1) 第11回ハワイの社会(2) 渡航準備のための英語(2) 第12回学内研究発表(1) 第13回学内研究発表(2) 第14回ハワイとのスカイプ授業(3) 第15回プレゼンテーションスキルの訓練 第16回渡航前最終チェック  授業後スケジュール  2020年2月10日(月)～20日(木) 渡航、コナ到着、コナ見学、ブルー・ゾーンズ 紹介、ホストファミリーと歓迎ピクニック、コナ滞在(ホームステイ開始)、 健康マネジメント、プラントベースト食生活、発表打ち合わせ、老齡健康部 局、NELHAの持続可能な漁業ツアー、市役所にて第一回発表「メンタルヘルス &エイジング」医師・州上院議員による災害時メンタルヘルスを含む講演、 第二回発表 健康フェア開催、健康な老齡生活、UHCC(ハワイ大学コミュニ ティカレッジ)教育システム、天文台見 学  同年2月20日(木)～3月 帰国・調査結果まとめ、イングリッシュ・ラウンジ での発表、一般弘前市民向けミニ健康フェア(本町)を2か国語 で
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各自の設定する課題をおおよそ9月に決定し、概要を最初の時間に提出しても らいます。予備知識は必要ありませんが、各自の専門や興味関心に基づいた 課題設定を念頭において、調査の方法などを考えておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内でハンドアウトを配布します。

(21)参考文献	イングリッシュラウンジにある英語の書籍、各自の設定した課題に係る文献 書籍、スピーキング力育成ソフトウェア等
(22)成績評価方法及び採点基準	1) 渡航前クラス内課題 20% 2) 事前プレゼンテーション 30% 3) 現地での活動参加と協力 30% 4) 発表会 20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	渡航前の各自の調査課題についての準備と遂行が重要で事前プレゼンテーションと合わせて50%を占めます。 各自の課題決定後、(1)調査の内容をプレゼンテーション(2)学内研究発表(3)ハワイ島現地での市民に向けたプレゼンテーション(4)帰国後、弘前地域市民に向けたプレゼンテーション(5)学内研究報告と多くの発表の機会を持つ中で、自らの発信能力を高め英語力を育てます。
(25)留意点・予備知識	事前スケジュールでの調査課題を丹念にできる方、英語のスキルをさらに磨きたい、プレゼンテーション力を付けたいかた、すべての活動に積極的に参加できる方、現地での活動にはチーム内での協力は不可欠ですので、人と協力して物事を達成できる方が望ましい。
(26)オフィスアワー	下記のイングリッシュラウンジでの担当者の時間を見て、相談しに来てください。研究室でも受け付けます。メールして都合を問い合わせてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	バーマン・シャーリー <a href="mailto:siberman@hirosaki-u.ac.jp">siberman@hirosaki-u.ac.jp</a> 多田 恵実 <a href="mailto:tadameg@hirosaki-u.ac.jp">tadameg@hirosaki-u.ac.jp</a> イングリッシュ・ラウンジ HP→ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ セミナースケジュール→ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>



## 教養教育科目

(1)整理番号	38
(2)区分番号	38
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバル社会・経済－国際データ解析演習 － (Global Society/Economy－Intoroduction to data analysis for the international economics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	桑波田 浩之 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバル化する社会・経済に関する見識を深めること ○グローバル化する社会・経済に関する知識を活用して、海外ビジネスのあり方や多様な働き方を理解すること
(15)授業の概要	・表計算ソフト (Microsoft Excel) を用いた実習を通じ、論文・レポートに必要なデータ処理、統計分析の手法を習得する。 ・演習では、国際経済に関連するデータ(人口・GDP・面積等)を用い、大量で複雑なデータの特徴を、数量的・視覚的に示す方法を学ぶ。 ・統計学の基本的な考え方にに基づき、Excelを用いた初歩的な推定・検定・回帰分析の手法を身に付ける。
(16)授業の内容予定	第 1回：ガイダンス・授業のためのセットアップ 第 2回：Excelの基本操作(1)：Excelへの入力・数式・関数 第 3回：Excelの基本操作(2)：表計算 第 4回：Excelの基本操作(3)：グラフの作成 第 5回：Excelの基本操作(4)：データの並び替えと抽出 第 6回：基本統計量(1)：度数分布表 第 7回：基本統計量(2)：平均・分散・標準偏差 第 8回：基本統計量(3)：2次元データの整理・分析 第 9回：マクロとユーザー定義関数 第 10回：確率分布と乱数 第 11回：点推定と区間推定 第 12回：仮説検定 第 13回：2標本検定 第 14回：回帰分析 第 15回：まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布した練習問題を復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	情報科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－

(20)教材・教科書	縄田和満『Excelによる統計入門 ー Excel2007対応版ー』朝倉書店
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加 (50%)、宿題 (20%)、最終課題 (30%) の比重で、総合的に成績を評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	情報総合処理センター・実習実で講義を行い、学生がコンピュータを操作する演習の時間を多く設ける。
(25)留意点・予備知識	特に必要としない。
(26)オフィスアワー	水曜1・2・3・4限 (メールを貰えれば、他の時間帯でも対応可能)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kuwahata@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	39
(2)区分番号	39
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国際地域－地域研究入門－ (International Area Studies－Introduction to Area Studies－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	白石 壮一郎 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○国際地域に関する見識を深めること</p> <p>○国際地域に関する知識を活用して、国家間の歴史、文化、学術的な関わりといった国際交流を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>●「経済」（「経済学」ではありません）について、われわれは知っているようでよく知りません。しかし、「経済とはお金の動きだけを言うのではない」「人間の生産・消費・交換などの活動は経済合理性（損得）だけでは説明できない」というような話に興味をもつ人は多いようです。</p> <p>●たとえば、マサイのようなアフリカの牧畜民もお金を使う。でもお金の使い方、お金についての考え方はわれわれとはさまざまな点でちがっています。両者の共通点をさぐっていくことで、われわれは経済的な価値や人間の交換という行為の本質を考えることができるのです。この意味で、人類学が対象とするアジア・アフリカの諸社会における事例をもとにした知識を得ることは、国際理解にとどまらず自社会の経済行為・社会行為を理解することにもつながります。</p> <p>●この講義では、人間の身近な経済活動についてみていくことを通して、交換、信用取引、貨幣、権力などの意味を考えます。世界の諸社会の事例を用いて、経済人類学の基本的な考え方を身につけます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>01. はじめに：交換、貨幣と人間</p> <p>02. モノの値段と価値①：レクチャー</p> <p>03. モノの値段と価値②：ディスカッション</p> <p>04. モノの固有性・交換可能性</p> <p>05. おカネの機能①：レクチャー</p> <p>06. おカネの機能②：ディスカッション</p> <p>07. 貨幣の哲学、交換の倫理</p> <p>08. 不毛な論争？：合理 VS. 倫理、形式 VS. 実体</p> <p>09. 日常の経済①：ねだり・ねだられる社会での交換と交渉（ケニア）</p> <p>10. 日常の経済②：お金にジェンダーはあるか？（スリランカ、マレーシア）</p> <p>11. 日常の経済③：賃金の高低で働く量を操作する（コロンビア、アルゼンチン）</p> <p>12. 日常の経済④：情の経済がはたらかない</p>

	<p>とき（ケニア）</p> <p>13. 家政（オイコノミア）から国家資本制まで</p> <p>14. 信用取引の歴史と貨幣による取引</p> <p>15. ふりかえりとまとめ</p> <p>※ 留学生数などの受講者の状況によって、講義内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	前半（第07講くらいまで）は、事前に教科書を読んでおく必要があります。そのほか、予習が必要なときには指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経済学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	太田至・曾我亨 編『遊牧の思想：人類学がみる激動するアフリカ』昭和堂、2019年
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テストや小レポートを4-5回課し、これをもとに評価します（100%）。期末試験・レポートはなし。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	受講者数にもよりますが、講義形式と演習形式を半々で。演習形式は、グループワークおよび質疑応答による議論です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	水曜日の昼休みから14時までの時間帯
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	40
(2)区分番号	40
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国際地域－世界史概観－ (International Area Studies－Outlines of the World history－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	篠塚 明彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○国際地域に関する見識を深めること</p> <p>○国際地域に関する知識を活用して、国家間の歴史、文化、学術的な関わりといった国際交流を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○現在の高等学校世界史のあり方についての課題を踏まえ、高等学校での学習と異なった視点から世界史を概観します。</p> <p>○西欧中心の世界史像を批判的に検討し、各地域に暮らす人々の視点から捉え、多角的に世界史を見つめ直します。</p> <p>○日本史と世界史を統一的に把握していきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション～高校世界史をクリティカルに考える～</p> <p>第2回 なぜ世界史の教科書はオリエントから始まるのか</p> <p>第3回 キリスト教はなぜ広まったのか</p> <p>第4回 イスラーム世界の成立は何をもたらしたのか</p> <p>第5回 遣唐使はなぜ有名なのか</p> <p>第6回 モンゴル帝国が世界を変えた</p> <p>第7回 大航海のもたらした影響・その光と影を考える</p> <p>第8回 アジアへの憧れから進出へと転換するヨーロッパ</p> <p>第9回 イスラーム諸帝国がヨーロッパに及ぼした影響</p> <p>第10回 国民国家が作られる</p> <p>第11回 世界史の中の明治日本</p> <p>第12回 帝国主義は世界をどのように変えたのか</p> <p>第13回 なぜナチスは勢力を拡大したのか</p> <p>第14回 「民族」とはなにか</p> <p>第15回 まとめ～現代の諸課題と世界史～</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>手元に高等学校の時に使用した世界史の教科書があれば、一通り目を通しておいて下さい。</p> <p>授業では、毎時間ごとにリアクション・ペーパーを配布し、意見・感想を求めます。</p>

	また、次回の学習のために必要な学習課題を提示する場合があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業に合わせて適宜プリントを作成して配布します。
(21)参考文献	吉田悟郎『世界史学講義（上）（下）』御茶の水書房、1995年 K・M・パニツカル『西洋の支配とアジア 1498－1945』藤原書店、2000年 タミム・アンサーリー『イスラームから見た「世界史」』紀伊國屋書店、2011年 羽田正『新しい世界史へー地球市民のための構想』岩波新書、2011年
(22)成績評価方法及び採点基準	(1) 平常評価 (30%) : 毎回 (計14回)、授業の終わり10分程度をあて、講義を受けて学んだこと、考えたことについてミニレポートを書いてもらいます。 (2) 期末試験 : (70%) : 課題を提示し、それについての論考をまとめる論述試験を実施します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	受講生と対話しながらの講義形式で行います。また、前時のリアクションペーパーの記述内容をもとに対話を進めることもあります。
(25)留意点・予備知識	とくに深い予備知識は求めません。高校時代に世界史が苦手だった人、嫌いだった人も是非足を運んで下さい。なぜ、苦手なのか、なぜ嫌いなのか考えてみましょう。
(26)オフィスアワー	水曜日3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:a-shino@hirosaki-u.ac.jp">a-shino@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	高等学校教諭の実務経験に基づき、授業を実施します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	41
(2)区分番号	41
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国際地域－国際交流－ (International Area Studies－International exchange－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	福田 健一 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○国際地域に関する見識を深めること ○国際地域に関する知識を活用して、国家間の歴史、文化、学術的な関わりといった国際交流を理解すること
(15)授業の概要	○国際地域の基本的な理論や国際地域の様々な交渉(地域間、国家間、国際間、人間関係論)の理解を深めます。国際地域の交渉の理論や実践を考察します。①理論を教えます。②それを映像で理解を深めます。③理論、映像に解説を加えます。この①②③の順番で授業を進めます。
(16)授業の内容予定	第 1 回 弘前リンゴ農家の国内地域戦略 第 2 回 弘前リンゴ農家の国際地域戦略 第 3 回 青森農産物の国際地域戦略 第 4 回 国際地域交渉理論 ①サウンドバ イト ②三分割法 第 5 回 国際地域交渉理論 ③リアルス トーリー法 ④コア法・サポーター法 第 6 回 国際地域(アメリカ① 大統領選 トランプ・クリントン) 第 7 回 国際地域(アメリカ② 大統領選 トランプ・クリントン) 第 8 回 国際地域(ニジェール 青年海外 協力隊 日本人女性看護師) 第 9 回 国際地域(ラオス 青年海外協力 隊 日本人女性音楽教師) 第 10 回 国際地域(ラオス 青年海外協力 隊 日本人女性美術教師) 第 11 回 国際地域(カンボジア 日本の大 学の学術協力団 アンコールワット修復) 第 12 回 国際地域(南アフリカ エイズ問 題について) 第 13 回 国際地域(南アフリカ エイズ治 療のコピー薬の使用の是非①) 第 14 回 国際地域(南アフリカ エイズ治 療のコピー薬の使用の是非②) 第 15 回 国際地域(南アフリカ エイズ治 療のコピー薬の使用の是非③)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	準備学習としては、復習を重視して関係する分野の文献を確認するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しませんが、プリント、資料などを配布します。
(21)参考文献	追って提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	試験はしません。出席を重視します。他にはレポート提出などで総合的に判断します。 授業参加50%・レポート50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	授業に関連する文献を読むことをお勧めします。
(26)オフィスアワー	授業終了時にお気軽にいろいろ質問してください。質問以外のことも受け付けますので、気軽に話してください。少しでも学生の皆さんの国際社会での知識と感性を磨くお手伝いをしたいです。青森出身なので、少しでも貢献したいですし、楽しく青森のこともお話ししましょう。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業終了後に質問などを受けます。
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	42
(2)区分番号	42
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国際地域－現代中東を見る－ (International Area Studies－Introduction to the Contemporary Middle East－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	亀谷 学(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○国際地域に関する見識を深めること ○国際地域に関する知識を活用して、国家間の歴史、文化、学術的な関わりといった国際交流を理解すること
(15)授業の概要	○現代の中東地域について、その歴史的背景を踏まえつつ理解するために、映像資料と口頭での解説を併用しながら、それぞれの国や地域の視点から解説する。 ○映像を通じて、イメージの中の中東と実際の中東のギャップについて考え、異文化・多文化理解のための基礎的な認識を身につけることを目指す。
(16)授業の内容予定	第1回 インタロダクション 第2回 アフガニスタン 第3回 イラク 第4回 イラン 第5回 サウジアラビア 第6回 チュニジア 第7回 エジプト 第8回 シリア 第9回 トルコ 第10回 クルド 第11回 パレスチナ 第12回 イスラエル 第13回 中東からヨーロッパへの難民 第14回 湾岸諸国 第15回 まとめ  ※内容や順番は受講者数などによって変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] マスメディアのニュース、ウェブサイトなどから各回のテーマとなる国・地域について情報を収集し、それを授業で得た知識と比較できるように準備する。 [復習] 授業で扱われた題材について、授業内容と関連する情報の調査や提示された参考文献を読むなどして理解を深める。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－

(20)教材・教科書	なし。毎回の授業ごとにプリント、資料を配布します。
(21)参考文献	酒井啓子『「中東」の考え方』（講談社現代新書2053、2010年） 私市正年・浜中新吾・横田貴之編『中東・イスラーム研究概説』（明石書店、2017年） この他にも授業中に適宜参考文献を挙げる。
(22)成績評価方法及び採点基準	成績は、①毎回の授業でのリアクションペーパー（映像等の内容の要約を含む）による平常点評価が50%、②期間中に行う課題による評価が50%、とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	原則として講義形式を取りますが、映像資料を主に使ってそれに関連する解説、考察を行っていきます。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	水曜 12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kameya.m(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	43
(2)区分番号	43
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国際地域－ラテン語入門－ (International Area Studies－Introduction to Latin－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	今井 正浩(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○国際地域に関する見識を深めること ○国際地域に関する知識を活用して、国家間の歴史、文化、学術的な関わりといった国際交流を理解すること
(15)授業の概要	ラテン語 (lingua Latīna) は、古代ローマ帝国の言語として成立したという歴史的背景をもつ一方で、中世から近世・近代にかけて公用語・学術語として広く使用されてきました。ラテン語の学習は、ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての西洋古典古代 (Classical Antiquity) についての基本的な理解を深めるのに役立つだけでなく、現代にいたるヨーロッパの歴史文化の展開を深く理解する上で、きわめて有意義です。 本講義ではラテン語の基礎文法の学習を通して、ヨーロッパの歴史文化についての理解を深めることを目標としています。
(16)授業の内容予定	ラテン語のアルファベット表記・発音から始めて、名詞の変化、動詞の活用、基本的なシンタックスにいたるまで、ラテン語の基礎文法について、わかりやすく解説します。  第1回 ラテン語のアルファベット・発音・アクセント他 第2回 名詞の変化 (1) 第1変化名詞 第2変化名詞 第3回 動詞の活用 (1) 第1活用動詞 第2活用動詞 第4回 名詞の変化 (2) 第3変化名詞 第5回 動詞の活用 (2) 第3活用動詞 第4活用動詞 第6回 名詞の変化 (3) 第4変化名詞 第5変化名詞 第7回 中間試験 (45分) 及び前半の振り返り 第8回 形容詞の変化 第9回 動詞の活用 (3) 動詞の時制 態法 第10回 動詞の活用 (4) 動詞の時制 態法 第11回 ラテン語の文章構造 (1) 第12回 ラテン語の文章構造 (2) 第13回 ラテン語の文章構造 (3)

	<p>第14回 ラテン語の文章構造（4）  第15回 期末試験（45分）及び授業全体の総括</p> <p>なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってくる場合は、その都度説明をします。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業終了後に復習点、次回の予習点を伝えます（なお、予習・復習は、最低でも各2時間とる必要があります）。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	田中利光著『ラテン語初歩／改訂版』（岩波書店刊，2002年）
(21)参考文献	<p>以下に、ラテン語の辞書を紹介します。また、ラテン語と「兄弟分」の古典ギリシア語の基礎文法書を紹介します。</p> <p>（1）田中秀央著『増訂新版／羅和辞典』（研究社刊）</p> <p>（2）水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』（岩波書店刊，1990年）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	中間試験（50パーセント）＋期末試験（50パーセント）を合算して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式の授業ですが、質疑応答等を含めた学生諸君との双方向的な授業の要素を一部に取り入れます。
(25)留意点・予備知識	ラテン語を学ぶにあたって、予備知識等は必要ありません。
(26)オフィスアワー	毎週月曜日の午後4時～6時をオフィスアワーの時間帯に設定しています。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス masahiro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	45
(2)区分番号	45
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	比較文化－世界と日本のアニメー (Comparative Culture－Comparative Culture : World and Japanese Animation History－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	石川 善朗(教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○比較文化に関する見識を深めること ○比較文化に関する知識を活用して、異なる文化圏の映像作品や音楽作品、文化交流の歴史や展望を理解すること
(15)授業の概要	○日本のアニメーション史の考察や、世界のアニメーション史の考察、アニメーション技術の知識などを学習します。 ○実際のアニメーションを通して時代ごとや国ごとの特色の変遷も理解します。
(16)授業の内容予定	授業当初は世界各地域ののアニメーション通史を学びます。 次に日本のアニメーションについては、誕生から現在までを通して考察し、世界のアニメーションと比較しながらどのような特徴があるのかを考えます。  授業1回目：全体の授業ガイダンスと、アニメーション学に関する参考書の紹介など。  授業2回目：北アメリカのアニメーション史 (USAを中心に、ウォルトディズニーとフィッシャー兄弟のアニメスタジオやWBのスタジオについて)  授業3回目：北アメリカのアニメーション史 (カナダを中心にUSAのディズニー以外のスタジオとカナダ国営アニメ制作部門について)  授業4回目：西ヨーロッパのアニメーション史 (フランスを中心にヨーロッパアニメの盛んな地域について)  授業5回目：西ヨーロッパのアニメーション史 (イギリスを中心にロンドンの商業アニメについて)  授業6回目：東ヨーロッパのアニメーション史 (チェコ、クロアチアなどのアニメの盛んな国々)  授業7回目：ロシアのアニメーション史

	<p>(人形アニメに始まり、プロバガンダから独特の表現に至る発展について)</p> <p>授業8回目：日本以外のアジアのアニメーション史 (アジアで最初に長編アニメを制作した中国を中心に、アジア諸国のアニメ)</p> <p>授業9回目：日本のアニメ史：黎明期 (大正6年より始まる日本アニメの3人の開拓者達)</p> <p>授業10回目：日本のアニメ史：戦前・戦中期 (軍部の勃興とプロバガンダアニメ、さらに反戦を表現に織り込んだアニメーター達について)</p> <p>授業11回目：日本のアニメ史：戦後期(東映動画) (東映動画を中心に日本アニメの再編と基礎が築かれた時代)</p> <p>授業12回目：日本のアニメ史：戦後期(虫プロダクション) (虫プロダクションを中心に、アニメーションの再認識と手塚治虫の活躍)</p> <p>授業13回目：日本のアニメ史：TVアニメの誕生 (世界最初の毎週30分テレビアニメの誕生から深夜アニメの始まり)</p> <p>授業14回目：日本の現代アニメ史：1963年から1990年まで (劇場用アニメとテレビアニメやパッケージメディアの共存)</p> <p>授業15回目：日本の現代アニメ史：1990年から2013年まで (日本アニメの現状と商業作品など)</p> <p>授業16回目：アニメーションの技術</p> <p>都合により内容を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習(アニメーション学入門の該当項目を読む)：2時間 復習(紹介されたアニメを選択して見ておく)：2時間 以上を毎週行うこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>参考文献にあげた平凡社、平凡社新書291「アニメーション学入門」著者：津堅信之は教材とします。準教科書として各自購入することを強く勧めます。</p>
(21)参考文献	<p>平凡社、平凡社新書291「アニメーション学入門」著者：津堅信之 八幡書店、「日本アニメ史学研究序説」著者：北野太乙 フィルムアート社、「ユーロ・アニメーション」著者：昼間行雄・権藤俊司・編集部編</p>

(22)成績評価方法及び採点基準	受講態度：20% 最終レポート：80% で評価する
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた歴史講義と視聴覚機器による時代ごとのアニメーションの鑑賞による考察。
(25)留意点・予備知識	アニメーションをある程度理解しておくこと。平凡社、平凡社新書291「アニメーション学入門」著者：津堅信之を読了しておくことが望ましいです。
(26)オフィスアワー	平日昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirozen@hirosaki-u.ac.jp">hirozen@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	46
(2)区分番号	46
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	比較文化－世界の映画史－ (Comparative Culture－Comparative Culture : Movie history of the world－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	石川 善朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○比較文化に関する見識を深めること</p> <p>○比較文化に関する知識を活用して、異なる文化圏の映像作品や音楽作品、文化交流の歴史や展望を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○世界の映画の歴史をその誕生期から現在まで、所謂「芸術映画」や「商業映画」といわれることなどを含めて、歴史的に学習します。</p> <p>○保存可能な映画と瞬間芸術である舞台演劇との違いについても考察します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業当初は講義で、世界の映画の通史を学びます。</p> <p>次に個々の地域及び国の事例をより深く考察し、それぞれの映画の特徴を考えます。特に映画の誕生した国と発展した国の違いについては、誕生から現在までを通して考察します。</p> <p>授業1回目：全体の授業ガイダンスと、映画に関する参考書の紹介など。</p> <p>授業2回目：映画の誕生 (世界最初の有料スクリーン投射の映画など)</p> <p>授業3回目：フランスからアメリカへ (第一次世界大戦と映画人達、さらにエジソンの特許告発などから逃れて)</p> <p>授業4回目：5大メジャーについて (大映画会社の組織が誕生し、制作から興行までを独占)</p> <p>授業5回目：大恐慌時代の映画 (安い娯楽を求めて)</p> <p>授業6回目：アメリカ映画の大発展期 (世界の映画はアメリカを中心に大衆娯楽映画の時代)</p> <p>授業7回目：アメリカ映画の転換期 (アメリカ映画の限界)</p>



	<p>授業8回目：ヨーロッパの映画界の様子 (大衆娯楽路線では無い、文芸映画を中心に)</p> <p>授業9回目：テレビ時代の到来と共存 (大衆の映画離れとTV界との共存路線)</p> <p>授業10回目：各種パッケージやネットメディアと映画 (映画館の上映とは別の世界)</p> <p>授業11回目：現在の映画界 (実体験を味わうことと劇場映画)</p> <p>授業12回目：世界の各種映画賞 (アメリカアカデミー賞と世界的な映画の賞)</p> <p>授業13回目：フィルムからデジタルへ (フィルムが使われない映画制作とデジタル撮影の功罪)</p> <p>授業14回目：映画の中の技術 (制作者の意図と撮影方法・表現方法)</p> <p>授業15回目：映画と舞台芸術 (視聴する側の生の目とカメラの目)</p> <p>都合により内容を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習(次週選択された世界各国の映画を調査しておく)：2時間 復習(紹介された映画を選択しておく)：2時間 以上を毎週行うこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	こちらで用意した教材以外特になし。
(21)参考文献	各映画論の書籍が出版されています。自分が気に入った書籍を熟読しておくとい良いでしょう。
(22)成績評価方法及び採点基準	2点のテーマを授業の最後で提示し、それぞれについてまとめてA42枚程度のレポートを提出し内容を評価します。80% 授業態度20%で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と視聴覚機器による各時代の映画の特定部分の鑑賞。
(25)留意点・予備知識	過去の各国の映画をある程度理解しておくこと。
(26)オフィスアワー	平日の昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	47
(2)区分番号	47
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	比較文化－オルガンとヨーロッパの街，文化－ （Comparative Culture－European cities, cultures and organs－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	水木 順子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○比較文化に関する見識を深めること ○比較文化に関する知識を活用して，異なる文化圏の映像作品や音楽作品，文化交流の歴史や展望を理解すること
(15)授業の概要	○ヨーロッパ（イタリア、スペイン、フランス、ドイツなど）で発達したパイプオルガンと楽曲を通して異なる国や時代の楽器・作品を生んだ背景を考え、国々の文化的特徴を比較する。 ○グループごとに各国の文化の多様性について調べ、自分が属する文化との違いや共通点などを認識し発表することによりチームとしての問題解決能力を養い、国際地域に関する見識を深める。 ○ほかのグループの発表内容方法などを聞くことにより、いろいろな立場・視点から物事を見たり考えたりする力を養う。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 パイプオルガンの起源－古代における楽器の発明と役割－ 第3回 パイプオルガンの変遷－世俗と宗教－ 第4回 パイプオルガンの構造－鍵盤・パイプ・風－ 第5回 イタリアのパイプオルガン／声、石畳と広場、祭り 第6回 スペインのパイプオルガン／教会建築様式、異文化の交流 第7回 フランスのパイプオルガン／鐘、見えるものと見えないもの 第8回 ネーデルランド・ドイツのパイプオルガン／メカニズムの発達、ヨーロッパのクリスマス 第9回 日本のパイプオルガン／現代における楽器の存在 第10回 中間まとめ 第11回 イタリアの文化的特徴と比較（グループ発表・質疑応答） 第12回 スペインの文化的特徴と比較（グループ発表・質疑応答） 第13回 フランスの文化的特徴と比較（グループ発表・質疑応答） 第14回 ドイツの文化的特徴と比較（グ

	<p>グループ発表・質疑応答)  第15回 日本の文化的特徴と比較 (グ  グループ発表・質疑応答)  第16回 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習としては、各回の終わりに提示する内容  について調べるなどの準備をしてください。  復習としては、その日の講義の内容とそれ  に対する疑問点や自分なりの考察をミニレポ  ートとしてまとめ、次の授業時に提出してく  ださい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(授業への参加度。毎回のミニレ  ポートの内容に基づく): 35%  グループ発表(質疑応答を含む): 30%  期末試験(レポートA4 1枚以内): 35%  上記を合算して最終的な成績評価を行う予定  です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>映像や音楽作品の鑑賞を含んだ講義形式で  す。毎回授業の最後にミニレポートを提出し  てもらいます。また、グループ発表に向けた  グループワークも行います。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>受講にあたっては特段の予備知識は必要とし  ません。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mizuki-j@hirossaki-u.ac.jp">mizuki-j@hirossaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	48
(2)区分番号	48
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－イタリアの美術－ (World Art/Performing Arts－Italian Renaissance and Baroque Art－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	出 佳奈子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること</p> <p>○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>イタリアにおけるルネサンスからバロック／ロココにかけての美術史の流れを辿っていきます。そこでは、個々の作品の表現的特徴のみならずそれらが生み出された歴史的・社会的背景、さらにはそれぞれの作品とそれらを目にしていた受容者との関係に言及し、この時代のイタリアにおける美術作品のあり方を歴史的コンテクストに置き直して理解していくことが目指されます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1回目 答書を添付 ガイダンス：講義の概要説明とアンケート</p> <p>2回目 初期ルネサンス1：フィレンツェの画家たち（マザッチョ、フラ・アンジェリコ、フィリッポ・リッピなどの作品について解説します。</p> <p>3回目 初期ルネサンス2：中部から北イタリアの画家たち（アレツツォのピエロ・デラ・フランチェスカ、マントヴァのマンテーニャ）の作品について解説します。</p> <p>4回目 初期ルネサンス3：再びフィレンツェの画家たち——ボッティチェッリ、ピエロ・ディ・コジモの作品について解説します。</p> <p>5回目 初期ルネサンス4：ヴェネツィアの物語画（ベッリーニ族、カルパッチョなどの作品）と宗教行事の関係について解説します。</p> <p>6回目 盛期ルネサンス1：レオナルド・ダ・ヴィンチの影響力およびローマにおけるラファエロの作品について解説します。</p> <p>7回目 盛期ルネサンス2：ヴェネツィア絵画（ジョルジョーネ、ティツィアーノなどの作品）について解説します。</p> <p>8回目 ミケランジェロの作品とマニエリスムの美術について解説します。</p> <p>9回目 パルマにおける画家コレッジョの活躍およびカラッチ一族への影響について解説します。</p>

	<p>10回目 ローマ・バロック1：カラヴァッジョとカラヴァジェスキの作品について解説します。</p> <p>11回目 ローマ・バロック2：ベルニーニの彫刻について解説します。</p> <p>12回目 ロココ：ティエポロの壁画およびヴェネツィア近郊のヴィツラ装飾について解説します。</p> <p>13回目 これまでの授業内容を振り返りつつ、イタリアの諸都市と美術作品の関係に考察します。(グループ作業・演習)</p> <p>14回目 これまでの授業内容を振り返りつつ、イタリアの諸都市をめぐる美術旅行マップを作製します。(グループ作業・演習)</p> <p>15回目 これまでの授業内容を振り返りつつ、前回作成した美術旅行マップについて発表を行います。(グループ作業・演習)</p> <p>16回目 期末試験</p> <p>※場合に応じて、授業の内容・順番は変更することもあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習が重要です。授業で配布したプリントや紹介した参考文献等に目を通してください。予習復習については、週各2時間ずつを目安に行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	文化人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	授業の進行に応じて紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表・レポート(50%)と期末試験(50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義および演習
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは特に設けていません。必要がある場合は、下記のメールアドレスを通じて連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	49
(2)区分番号	49
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－芸術身体論：ピアノ入門 －（World Art/Performing Arts－an introduction to piano performance－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦（教育学部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること
(15)授業の概要	○世界の芸術・芸能と身体との関係についてピアノという楽器を通して見識を深める。 ○世界の芸術・芸能と身体との関係についてその文化背景についても理解する。
(16)授業の内容予定	芸術と身体との関係を、ピアノという楽器を通して実践する。主なトピックは以下の通り（1から14の順番は授業の進行状況により変わることがあります）：  1) ピアノと指の関係 2) ピアノと身体との関係 3) 演奏するための体を示唆するアレクサンダー・テクニクについて 4) ピアニストの演奏（モーツァルト） 5) ピアニストの演奏（ドビュッシー） 6) ピアニストの演奏（シェーンベルク） 7) ピアニストの演奏（アイヴズ） 8) 即興演奏について 9) 現代音楽の奏法について 10) プリペアドピアノ 11) 12音技法 12) 図形楽譜 13) 日本のピアノ音楽 14) さまざまなピアニスト 15) 受講生による発表
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	講義中に指示します。
(21)参考文献	『音楽家のためのアレクサンダー・テクニク入門』（春秋社）
(22)成績評価方法及び採点基準	

	課題：70% 最終発表：30パーセント
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予備知識	ピアノの基礎的なテクニックが必要。
(26)オフィスアワー	メールでアポイントを取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:timada@hirosaki-u.ac.jp">timada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	50
(2)区分番号	50
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－芸術身体論：ピアノ入門 － (World Art/Performing Arts－an introduction to piano performance－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること
(15)授業の概要	○世界の芸術・芸能と身体との関係についてピアノという楽器を通して見識を深める。 ○世界の芸術・芸能と身体との関係についてその文化背景についても理解する。
(16)授業の内容予定	芸術と身体との関係を、ピアノという楽器を通して実践する。主なトピックは以下の通り(1から15の順番は授業の進行状況により変わることがあります)：  1) ピアノと指の関係 2) ピアノと身体との関係 3) 演奏するための体を示唆するアレクサンダー・テクニックについて 4) ピアニストの演奏 (モーツァルト) 5) ピアニストの演奏 (ドビュッシー) 6) ピアニストの演奏 (シェーンベルク) 7) ピアニストの演奏 (アイヴズ) 8) 即興演奏について 9) 現代音楽の奏法について 10) プリペアドピアノ 11) 12音技法 12) 図形楽譜 13) 日本のピアノ音楽 14) さまざまなピアニスト 15) 受講生による発表
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	講義中に指示します。
(21)参考文献	Robert Walker著『Sound Projects』(Oxford University Press)
(22)成績評価方法及び採点基準	



	パーティシペーション（70%）と最終発表（30%）により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	emailにてアポイントを取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:timada@hirosaki-u.ac.jp">timada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	51
(2)区分番号	51
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－西洋美術史入門－ (World Art/Performing Arts－Introduction to the History of Western Art－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	宮坂 朋(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること
(15)授業の概要	○西洋美術史のパノラマを眺め渡す ○作品の見どころを理解する
(16)授業の内容予定	1回目 導入 2回目 ギリシア(小テストあり) 3回目 ローマ(この回は小テストはありません) 4回目 キリスト教美術(以下毎回小テストあり) 5回目 ロマネスク 6回目 ゴシック 7回目 ルネサンスⅠ 8回目 ルネサンスⅡ 9回目 北方ルネサンス 10回目 バロックⅠ 11回目 バロックⅡ 12回目 ロココ 13回目 19世紀 14回目 現代 15回目 まとめと期末試験 (受講生の理解度に合わせて内容や進み方に変更もあります)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 1 教科書を開講までに購入して読んでおき、古代から現代までの大まかな流れを頭に入れておくこと。 予習 2 毎回の授業で教科書1章ずつ進みます。授業冒頭に簡単な小テストを行うので、予習しておくこと。 復習 毎回の授業で見た作品を目に焼き付けましょう。視覚的に記憶することが美術史の基礎と言えます。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	考古学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	田中英道(監修)『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年。1905円＋税。

(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『世界美術大全集』全29冊,小学館,1992-1997年。</li> <li>・『西洋美術館』小学館,1999年。</li> <li>・高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』岩波書店、1960年。</li> <li>・『新共同約聖書』。</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の小テスト：60% (小テストは教科書を読んでいけば出来る簡単な問題です)</li> <li>・期末試験(前もって試験問題を通知した上、持ち込み不可で実施)：40%</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義中心ですが、質問や意見交換、発表などを交えます。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習が必要です。</li> <li>・予備知識としては、高校の世界史程度。</li> <li>・人文社会科学部の「形態文化論」②(宮坂担当)を取った人におすすめです。形態文化論では古代オリエント～古代ローマの作品を取り扱いましたが、この授業ではその後の作品について勉強します。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	火曜日5/6限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tomo(a)hirosaki-u.ac.jp * (a)は@
(28)その他	欠席5回で不可となります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	52
(2)区分番号	52
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－音楽人類学－ (World Art/Performing Arts－Anthropology of music－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること</p> <p>○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○音源の批判的な聴取を身に着けることにより、幅広いスタイルや文化的背景を持った音楽を聴く耳を養います。</p> <p>○種としてのヒトが人間らしく存在する一条件である音楽が多様性に満ちていることを学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方解説と概説</li> <li>2. 『パフォーマンスの音楽人類学』 (以下P0と略) 序章</li> <li>3. 『扉をたたく人』 視聴</li> <li>4. P0 1章</li> <li>5. P0 2章</li> <li>6. P0 3章 (上)</li> <li>7. P0 3章 (下)</li> <li>8. P0 4章 (上)</li> <li>9. P0 4章 (下)</li> <li>10. P0 5章</li> <li>11. P0 6章</li> <li>12. P0 7章</li> <li>13. 特講：西アジア音楽から見たグローバル化</li> <li>14. 特講：アフリカン・ディアスポラとグローバル化</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を繰り返し読んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	諏訪淳一郎『パフォーマンスの音楽人類学』勁草書房 2012年
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内容の理解度を示す質問票(60%)、授業内容からの考察をまとめる最終課題レポート(40%)

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	多数の音源を再生しながら、教科書等の内容について詳説していきます。 講義終了前の10分程度はその回の授業に関する質問票を書いて提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	専門知識は不要ですが、音楽に対する興味と問題意識を持って授業に臨んでください。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目（要予約）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	53
(2)区分番号	53
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能—名作アニメ『フランダースの犬』で学ぶ近代ヨーロッパ史— (World Art/Performing Arts—Modern European History through A Dog of Flanders—)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	足達 薫 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること</p> <p>○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○文学作品及びそれに基づく映像作品に関する視覚的・歴史医学的分析の方法を身につけること。(見通す力)</p> <p>○19世紀か○ウィーダによる小説『フランダースの犬』及びそれに基づく映像作品の中の描写に関する分析を通じて、歴史学及び美術史学の研究観点を学びます。(見通す力)</p> <p>○19世紀～20世紀初期のヨーロッパ史の基本的問題(身分、信仰、共同体、貧困、慈善活動、動物への愛)を理解します。(見通す力)ら20世紀初期にかけてのヨーロッパ近代史の基本的問題を理解すること。(見通す力)</p>
(16)授業の内容予定	<p>受講者は、ウィーダによる原作小説『フランダースの犬』日本語版(新潮文庫)を読むとともに、及びそれに基づく映像作品(可能な限り、1997年の日本で制作された劇場アニメ映画版)を視聴していることが受講条件となります(それらのテキストは以下「留意点・予備知識」に示しました)。</p> <p>1回目:『フランダースの犬』に注目する意味——問題提起と参考資料の紹介</p> <p>2回目:ウィーダによる原作小説の精読——基本的設定の理解</p> <p>3回目:劇場映画版と原作小説の比較——改変箇所への注目</p> <p>4回目:ロマン主義芸術としての『フランダースの犬』——『マッチ売りの少女』との比較</p> <p>5回目:少年の運命が意味するもの——近代における身分と人生を決定する条件</p> <p>6回目:キリスト教会はなぜ少年を救わなかったのか(1)キリスト教徒は何か</p> <p>7回目:キリスト教会はなぜ少年を救わなかったのか(2)信仰のかたちと世界観</p> <p>8回目:キリスト教会はなぜ少年を救わなかったのか(3)近代以前の孤児たち</p> <p>9回目:1800年代の「どん底の人々」——ルポ</p>

	<p>ルタージュ文学との比較  10回目：画家への道（1）1800年代の美術との比較  11回目：画家への道（2）アカデミーとサロン  12回目：画家への道（3）生前は評価されなかった天才画家という神話  13回目：犬と人間の絆をめぐる神話——動物愛護運動形成期の作品としての『フランダースの犬』  14回目：総括（1）8つの疑問とそれへの答え  15回目：総括（2）様々なバージョンの比較</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習]受講者は、ウィーダによる原作小説『フランダースの犬』日本語版（新潮文庫など）を読むとともに、及びそれに基づく映像作品（1975年のテレビ版ではなく、1998年劇場映画版）を視聴する。  [復習]毎回の授業内容を自分で要約する文章を作成することを推奨します。試験対策にもなります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	毎回プリントを配布します。
(21)参考文献	1回目に参考資料リストを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（授業への参加度。毎回の授業内容に対するコメントカードの内容に基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%）  期末評価（理解度を確認するためのレポート。同70%）  上記を合算して成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>講義形式です。授業の最後にその日の講義・映像の内容についての質問・感想を書いたコメントカードを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>受講者は、ウィーダによる原作小説『フランダースの犬』日本語版（可能な限り以下；ウィーダ『フランダースの犬』村岡花子訳、新潮社（新潮文庫）、1954（2002）年）を読むとともに、映像作品（可能な限り以下；『THE DOG OF FLANDERS 劇場版フランダースの犬』黒田昌郎監督、松竹・日本アニメーション・三井物産株式会社、1997年；DVD版、『劇場版フランダースの犬』SHV、1998年）を視聴していることが受講条件です。映画版は、ほとんどのWEBストリーム配信で視聴可能です。</p>
(26)オフィスアワー	水曜13:00～14:00、人文社会科学部3階、芸術史研究室。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kaorucci※hirosaki-u. ac. jp ※はアットマークです。
(28)その他	なし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	54
(2)区分番号	54
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－現代の音楽入門－ (World Art/Performing Arts－contemporary music: an introduction to music from Debussy to Jpop－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること
(15)授業の概要	○音楽という現象を20世紀以降の現代音楽、ポップミュージック、諸民族の音響、サウンドスケープ、同時代性、グローバル化等を中心にオーヴァーヴューし、音楽についての見識を深める。 ○上記を踏まえ現代の音楽の文化背景を理解する。
(16)授業の内容予定	以下の15項目をオーヴァーヴューすることで20世紀以降の音楽の見識を深め、その背景を理解する：  1) 西洋と東洋 2) フランス近代音楽 ドビュッシー 3) フランス近代音楽 サティ 4) 12音技法について シェーンベルク 5) 12音技法について ベルク、ウェーベルン 6) アメリカ実験音楽 アイヴズ 7) アメリカ実験音楽 ケージ、ライヒ 8) カナダの音楽 シェーファーとサウンドスケープ 9) 南米 ピアソラ他 10) 日本 武満徹、三善晃、坂本龍一他 11) ポップスとポストコロニアル 12) バルトークとプロコフィエフ 13) フリッパーズギター 13) 演奏家について 14) 音楽教育について 15) 小さな音楽、大きな音楽 (1から15はキーワードで順番は必要に応じて変わります。)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	言語学関連



(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』（恒星社厚生閣）
(21)参考文献	講義中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	タームペーパーにより評価します（100%）。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	様々な視聴覚資料を活用した講義です。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	emailにてアポイントを取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:timada@hirosaki-u.ac.jp">timada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	55
(2)区分番号	55
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	世界の芸術・芸能－音楽研究入門－ (World Art/Performing Arts－An introduction to musicology－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	朝山 奈津子 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること</p> <p>○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して、世界の美術作品や音楽などを題材に、人間文化の諸相を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750) の音楽活動と主要作品の概要を理解すること。</p> <p>○音楽の研究方法の初歩を理解すること。</p>
(16)授業の内容予定	<p>音楽は、素晴らしいものです！ といっても、その素晴らしさはいったいどこから来るのでしょうか？ なぜ、私たちは音楽を聴いて感激するのでしょうか？ 「音楽学」は、こうした疑問に答えることを目指す学問です。音楽をもっと楽しむために、新たな音楽に出会うために、好きな音楽を広めるために、あるいは、よりうまく演奏するために、音楽学は役立ちます。</p> <p>なお、ほんらい音楽学の対象は幅広く、何もクラシック音楽に限定されるものではありません。本授業では例として、クラシック音楽の研究方法の中から、「歴史的音楽学」を紹介します。</p> <p>トピックとして、以下のものを予定しています。(受講生の関心や理解度に応じて変更することがあります。)</p> <p>第1回 1) なぜバッハ？ : (導入) 芸術と芸術学、音楽と音楽学</p> <p>第2回 2) バッハって誰？ : 作曲家の伝記研究</p> <p>第3回 3) バッハの曲ってどれ？ : 楽譜資料の整備と作品の年代特定</p> <p>第4回 4) バッハの曲ってどんなの？ : 様式研究の方法</p> <p>4-1) 鍵盤曲 : 書法の分析 (1) : クラヴィア作品</p> <p>第5回 (2) : オルガン作品</p> <p>第5回 4-2) 管弦楽曲 : 楽曲形式の分析</p> <p>第6回 4-3) 教会カンタータ : 歌詞と音楽の関係 (1) パロディ技法</p>

	<p>第7回  (2) コラールカンタータ  第8回 4-4) 受難曲：神学的アプローチ  (1)：キリスト教の福音書における受難物語  第9回  (2)：バッハによる聖書解釈としての受難曲  第10回 4-5) 連作曲集 (1)：バッハの体系的創作  第11回 4-6) 連作曲集 (2)：カノン  第12回 5) バッハの曲ってどうやって弾くの？歌うの？  5-1) 装飾音と楽器：演奏慣習の問題  第13回 5-2) 楽譜のエディションの問題  第14回 6) 「Bach は小川ではなく大海である」：作品の後世への影響  第15回 7) バッハはいかにして巨匠となったか？：バッハの受容史</p>
<p>(17)準備学習(予習・復習)等の内容</p>	<p>授業内で扱う楽曲の視聴。授業では一部しか試聴できないことが多いので、かならず予習・復習として全体を聴いて下さい。毎週の平均で各2時間程度が必要です。</p> <p>3声のシンフォニア 第9番BWV 795  トッカータとフーガ ニ短調 BWV 565  F. ブゾーニ編曲：トッカータとフーガ ニ短調 BWV 565  コラール〈われらの救い主なるイエス・キリスト Jesus Christus unser Heiland〉BWV 363  《さまざまな手法による18のライプツィヒ・コラール18 „Leipziger“ Chorale》より〈われらの救い主なるイエス・キリスト〉BWV 665, 666  『クラヴィーア練習曲集』第3部より〈われらの救い主イエス＝キリスト〉BWV 688, 689  半音階的幻想曲とフーガ ニ短調 BWV 903  2声のインヴェンション 第6番 ホ長調BWV 777  《平均律クラヴィーア曲集》第1巻より第2番ハ短調BWV 847  《フランス組曲》第6番 ホ長調 BWV 817  オルガン・ソナタ第6番 ト長調 BWV 530  《イタリア協奏曲》BWV 971  無伴奏チェロ組曲第1番BWV1007  無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番BWV1004  《音楽の捧げ物》BWV1079  ヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロのためのソナタBWV1039  《ブランデンブルク協奏曲》全6曲  《管弦楽組曲》全4曲  カンタータ第147番《心と口と行ないと生活が Herz und Mund und Tat und Leben》  カンタータ第4番《キリストは死の縄目に繋がれたり Christ lag in Todes Banden》  カンタータ第16番《神の時は最良の時 Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit》  《マタイ受難曲》BWV244  《ゴルトベルク変奏曲》BWV988  《ゴルゴベルク変奏曲の主題に基づく14のカノン》BWV 1087</p> <p>ほか、授業時に指示します。</p>
<p>(18)学問分野1(主学問分野)</p>	<p>芸術関連</p>

(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要な譜例は授業中に配布します。 試聴音源は、大学の契約する音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用して下さい。アクセス方法（IDおよびパスワード）は初回授業時にお知らせします。
(21)参考文献	弘前大学付属図書館本館所蔵： 『音楽大事典』全5巻（平凡社、1981-1983） 礪山雅他編著『教養としてのバッハ 生涯・時代・音楽を学ぶ14講』（春秋社、2012） Ch. ヴォルフ『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：学識ある音楽家』秋元里予訳（春秋社、2004） M. ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』小林義武他訳（東京書籍、2001） 角倉一朗監修『バッハ事典』（音楽之友社、1993） 角倉一朗監修『バッハ叢書』全10巻と別巻2巻（白水社、1976-1997）※第1-9巻と別巻1のみ所蔵。  教育学部音楽教育講座所蔵（閲覧の際は教員に直接申し込んで下さい）： 『ニューグローブ世界音楽大事典』全21巻と別巻2巻（講談社、1993）  青森県立図書館所蔵：  M. ペッツォルト『バッハの街』小岩信治、朝山奈津子訳（東京書籍、2005） D. シューレンバーグ『バッハの鍵盤音楽』佐藤望他訳（小学館、2001） 礪山雅他監修『バッハ事典』（東京書籍、1996）  県内図書館に所蔵なし： 『バッハ全集』（小学館、1996-1999）全15巻 ※CDと論文や対訳などを含む単行本のセット
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回のリアクションペーパー（40%）：予習・復習として鑑賞した経験や、講義における疑問点、意見などの質および量 期末レポート（60%）：授業で提示した研究方法と、自身の音楽経験を踏まえて述べているかどうか
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義にもとづき、バッハの作品を、楽譜を見ながら視聴します。
(25)留意点・予備知識	五線譜は読めなくとも構いません。作品鑑賞の際には著作権違反をすることがないように注意して下さい。インターネット上の資料を使う場合には、大学が指定する音楽配信サービスやパブリックドメインのものを利用して下さい。
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約の上、随時可。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	バッハの時代の教会音楽に関する授業の中で、キリスト教、特にルター派の思想に言及

します。特定の宗教を布教する目的はありませんが、不快に感じる方は履修を控えて下さい。

## 教養教育科目

(1)整理番号	56
(2)区分番号	56
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地球環境－21世紀の地球環境問題①－ (Global Environment－Problems of global environment in the 21st century－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○石田 清(農学生命科学部)、長南 幸安(教育学部)、松山 信彦(農学生命科学部)、泉谷 眞実(農学生命科学部)、谷田 貝 亜紀代(理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○21世紀の人類全体の課題である地球環境に関する見識を深めること ○地球環境に関する知識を活用して、21世紀の人類全体の課題である地球環境について、学際的な観点から理解すること
(15)授業の概要	<p>経済成長や人口増大により、人類は20世紀に深刻な環境問題に直面しました。環境問題の解決は21世紀の人類の重要な課題です。この授業では、専門分野の異なる多くの教員から、現代の様々な環境問題の発生要因や実態、克服にむけた取り組みを自然科学と社会科学の両面にわたって学ぶことにより、地球規模の環境問題について深く考える力を身につけます。専門分野の異なる5人の教員が社会科学と自然科学にまたがる下記の内容を分担してカバーします。</p> <p>(1) 発展途上国と環境問題(人口増加、森林破壊)  (2) 気候変動と環境汚染へのアプローチ(地球温暖化、オゾン破壊、酸性雨)  (3) 水資源・食料生産へのアプローチ(砂漠化、土壌侵食、食糧問題)  (4) 自然生態系破壊へのアプローチ(海洋汚染、森林減少、野生生物の絶滅)  (5) 人類を含む生態系へのアプローチ(生物資源枯渇、外来種、環境保全)  (6) 環境問題に関する法的整備(排出量取引、環境税)</p> <p>担当する教員の専門分野により、内容が若干変化しますので、授業内容予定も参考にして下さい。</p>
(16)授業の内容予定	<p>・第1～4回  産業革命以降の人間の活動は、直接的・間接的に大量の生物種の減少と絶滅、そして生態系の破壊を引き起こしています。その一方で、わが国の里地里山に見られるように、自然に対する人間の働きかけが減少することによって多くの種が絶滅の危機に晒されるようになった事例もあります。こうした生物多様</p>

	<p>性の現状を概説するとともに、希少種保全のための理論的背景と保全活動の具体例について解説します。（石田：4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5～8回 食糧の生産は、地球の限られた大地で営まれ、農業生態系という独特な物質循環を形成しています。この人為生態系において私たちは、集約化・多施肥によって食糧生産性を向上させてきましたが、同時に環境負荷という問題も引き起こしてきました。そこで本講義では、食糧生産に関わる環境負荷と環境汚染の実態、また大きな問題である放射性Csの土壌中での挙動を概説します。（松山：4回）</li> <li>・第9～10回 大気及び水質の環境基準の設定と基準が達成されているかどうかの評価方法、大気環境及び水質環境の保全への取り組みについて学びます。（長南：2回）</li> <li>・第11～12回 環境問題を解決するためには、技術の発展を踏まえて、「人間の環境への働きかけを制度的にコントロールする」必要があります。そのコントロールを、どのような主体が、どのような方法で行うのが環境問題を解決する上で、人類最大の課題といえます。ここでは、様々な試みを紹介しながら、環境問題解決のための制度的な問題について学びます。（泉谷：2回）</li> <li>・第13～15回 地球大気の構造とそれを維持するためのエネルギー収支について説明した後、地球温暖化とオゾンホールメカニズムについて考えます。地球温暖化に伴う今後の気候変化についても論じます（谷田貝：3回）</li> <li>・第16回：期末テスト</li> </ul> <p>* 講義の順番は変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義ノートにより毎回十分に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地球惑星科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	参考書は各教員が講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	最終回（第16回）に行うテストで評価します。 最終回に行うテストでは、A4用紙1枚以内（両面可）の手書きしたメモの持ち込みを認めます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	5人の教員によるオムニバス形式で行います。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ishidak@hirosaki-u.ac.jp（石田清）

(28)その他

特にありません。



## 教養教育科目

(1)整理番号	57
(2)区分番号	57
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地球環境－21世紀の地球環境問題②－ (Global Environment－Problems of global environment in the 21st century－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○伊藤 大雄(農学生命科学部)、東 信行(農学生命科学部)、青山 正和(農学生命科学部)、石川 幸男(農学生命科学部)、鄒 青穎(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○21世紀の人類全体の課題である地球環境に関する見識を深めること ○地球環境に関する知識を活用して、21世紀の人類全体の課題である地球環境について、学際的な観点から理解すること
(15)授業の概要	<p>経済成長や人口増大により、人類は20世紀に深刻な環境問題に直面しました。環境問題の解決は21世紀の人類の重要な課題です。この授業では、専門分野の異なる多くの教員から、現代の様々な環境問題の発生要因や実態、克服にむけた取り組みを自然科学と社会科学の両面にわたって学ぶことにより、地球規模の環境問題について深く考える力を身につけます。専門分野の異なる5人の教員が社会科学と自然科学にまたがる下記の内容を分担してカバーします。</p> <p>(1) 自然災害とその対応(土砂災害、災害軽減策)</p> <p>(2) 気候変動と環境汚染へのアプローチ(地球温暖化、オゾン破壊、酸性雨)</p> <p>(3) 水資源・食料生産へのアプローチ(砂漠化、土壌侵食、食糧問題)</p> <p>(4) 自然生態系破壊へのアプローチ(海洋汚染、森林減少、野生生物の絶滅)</p> <p>(5) 人類を含む生態系へのアプローチ(生物資源枯渇、外来種、環境保全)</p> <p>(6) 環境問題に関する法的整備(排出量取引、環境税)</p> <p>担当する教員の専門分野により、内容が若干変化しますので、授業内容予定も参考にして下さい。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回～第4回・・・地球温暖化問題に関して、そのメカニズム、予測技術、人間社会及び自然界への影響、技術対策などを学びます。地球温暖化問題に関連づけながら、食糧問題やオゾン層破壊問題についても学びます。(伊藤)</p>

	<p>第5回・・・環境問題解決の大原則である「汚染者支払い原則」について理解した後、環境問題を解決するための社会的制度や国際的な取り決めについて、地球温暖化問題を例にして学びます。（伊藤）</p> <p>第6回～第7回・・・アジアの湿潤変動帯における土砂災害、特に地すべり、崩壊、土石流などの自然現象を対象とし、いくつかの国の事例からそれらのメカニズムや発生場の地形・地質特徴を理解し、さらに災害軽減への対策について議論します。（鄒）</p> <p>第8回～第10回・・・人間活動により環境に排出される汚染物質である重金属とダイオキシンをとりあげ、生態系、とくに土壤生態系に及ぼす影響について、その概略を学びます。また、乾燥地域において問題となる砂漠化、ならびに湿潤地域において問題となる酸性雨が、土壤と植生に及ぼす影響について、その概略を学びます。（青山）</p> <p>第11回～第13回・・・地球の生物は、現在6度目のしかしながら人間が直接の原因となるはじめての生物大絶滅期を迎えています。その直接的な原因は人間活動による熱帯林減少などの生息地の消失に加え、野生生物の乱獲や移入などがあげられます。講義ではそれらの現状に関する概略を理解し、あるべき未来像について論議します。（東）</p> <p>第14回～第15回・・・長年にわたって調査を続けてきた北海道の結果を例として、明治以降の人間活動が野生動物、とくにシカに与えた影響と、その結果として植物が被っている影響を解説します。それらをもとに、生物間の相互作用を認識することの重要性を理解しつつ、今後の課題を考えます。（石川）</p> <p>第16回 期末テスト</p> <p>授業の順番は前後することがあります。その場合は事前にお知らせします。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	環境問題に関連した書籍を読み問題意識を持っておくことが望ましいです。また、テスト範囲はとても広いので、講義で配布された資料や講義ノートにより毎回十分に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	参考書は各教員が講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	各教員の評点を、その担当回数に応じて加重平均して最終評価とします。鄒、伊藤、青山、東は期末テストで評価します。期末テストでは、A4用紙1枚以内（両面可）

	<p>の手書きしたメモの持ち込みを認めます。石川は、毎回の授業終了時に提出する小レポートによって評価します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	5人の教員によるオムニバス形式で行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00、金曜日16:30~17:30 臨時の会議や出張の場合は席をはずします。オフィスは藤崎町にあるので、予めメールで確認してからお越し下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	daiyu@hirosaki-u.ac.jp (伊藤大雄)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	58
(2)区分番号	58
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地球環境－21世紀の地球環境問題③－ (Global Environment－Problems of global environment in the 21st century－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○石田 清(農学生命科学部)、長南 幸安(教育学部)、松山 信彦(農学生命科学部)、泉谷 眞実(農学生命科学部)、谷田 貝 亜紀代(理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○21世紀の人類全体の課題である地球環境に関する見識を深めること ○地球環境に関する知識を活用して、21世紀の人類全体の課題である地球環境について、学際的な観点から理解すること
(15)授業の概要	<p>経済成長や人口増大により、人類は20世紀に深刻な環境問題に直面しました。環境問題の解決は21世紀の人類の重要な課題です。この授業では、専門分野の異なる多くの教員から、現代の様々な環境問題の発生要因や実態、克服にむけた取り組みを自然科学と社会科学の両面にわたって学ぶことにより、地球規模の環境問題について深く考える力を身につけます。専門分野の異なる5人の教員が社会科学と自然科学にまたがる下記の内容を分担してカバーします。</p> <p>(1) 発展途上国と環境問題(人口増加、森林破壊)  (2) 気候変動と環境汚染へのアプローチ(地球温暖化、オゾン破壊、酸性雨)  (3) 水資源・食料生産へのアプローチ(砂漠化、土壌侵食、食糧問題)  (4) 自然生態系破壊へのアプローチ(海洋汚染、森林減少、野生生物の絶滅)  (5) 人類を含む生態系へのアプローチ(生物資源枯渇、外来種、環境保全)  (6) 環境問題に関する法的整備(排出量取引、環境税)</p> <p>担当する教員の専門分野により、内容が若干変化しますので、授業内容予定も参考にして下さい。</p>
(16)授業の内容予定	<p>・第1～4回  産業革命以降の人間の活動は、直接的・間接的に大量の生物種の減少と絶滅、そして生態系の破壊を引き起こしています。その一方で、わが国の里地里山に見られるように、自然に対する人間の働きかけが減少することによって多くの種が絶滅の危機に晒されるようになった事例もあります。こうした生物多様性の現状を概説するとともに、希少種保全の</p>

	<p>ための理論的背景と保全活動の具体例について解説します。(石田：4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5～8回 食糧の生産は、地球の限られた大地で営まれ、農業生態系という独特な物質循環を形成しています。この人為生態系において私たちは、集約化・多施肥によって食糧生産性を向上させてきましたが、同時に環境負荷という問題も引き起こしてきました。そこで本講義では、食糧生産に関わる環境負荷と環境汚染の実態、また大きな問題である放射性Csの土壌中での挙動を概説します。(松山：4回)</li> <li>・第9～10回 大気及び水質の環境基準の設定と基準が達成されているかどうかの評価方法、大気環境及び水質環境の保全への取り組みについて学びます。(長南：2回)</li> <li>・第11～12回 環境問題を解決するためには、技術の発展を踏まえて、「人間の環境への働きかけを制度的にコントロールする」必要があります。そのコントロールを、どのような主体が、どのような方法で行うのかが環境問題を解決する上で、人類最大の課題といえます。ここでは、様々な試みを紹介しながら、環境問題解決のための制度的な問題について学びます。(泉谷：2回)</li> <li>・第13～15回 地球大気の構造とそれを維持するためのエネルギー収支について説明した後、地球温暖化とオゾンホールメカニズムについて考えます。地球温暖化に伴う今後の気候変化についても論じます(谷田貝：3回)</li> <li>・第16回：期末テスト</li> </ul> <p>* 講義の順番は変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義ノートにより毎回十分に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地球惑星科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	参考書は各教員が講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	最終回(第16回)に行うテストで評価します。最終回に行うテストでは、A4用紙1枚以内(両面可)の手書きしたメモの持ち込みを認めます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	5人の教員によるオムニバス形式で行います。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ishidak@hirosaki-u.ac.jp (石田清)
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	59
(2)区分番号	59
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地球環境－気候変動と現代社会－ (Global Environment－Climate Change and Our Society－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	野尻 幸宏 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○21世紀の人類全体の課題である地球環境に関する見識を深めること</p> <p>○地球環境に関する知識を活用して、21世紀の人類全体の課題である地球環境について、学際的な観点から理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○気候変動の科学について広く学ぶ。</p> <p>○気候変動の自然と社会への影響について広く学ぶ。</p> <p>○気候変動の対策について広く学ぶ。</p> <p>○そのために、必要な解説を加えながら国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)による報告書を読む。</p> <p>○問題全体の理解を通して、重要な環境問題である気候変動が自然科学・現代社会・国際関係と深く関連していることを理解する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>IPCC(気候変動に関する政府間パネル)による報告書は、3つの作業部会が作成し、最も詳細な本文、重要な事項をまとめた技術要約、特に重要な事項をまとめた政策決定者向け要約(SPM)からなります。</p> <p>本講義では、SPMの和訳を用いて、気候変動の自然科学、自然生態系と人間社会への影響、気候変動を抑制する対策について学びます。</p> <p>統合報告書は全体を統合した報告書であり、講義の復習として読みます。</p> <p>第1回 ガイダンス 気候変動とは</p> <p>第2回 第1作業部会報告書「自然科学的根拠」：観測された気候の変化</p> <p>第3回 第1作業部会報告書「自然科学的根拠」：気候変動をもたらす要因</p> <p>第4回 第1作業部会報告書「自然科学的根拠」：気候システムの理解</p> <p>第5回 第1作業部会報告書「自然科学的根拠」：気候の将来予測と気候の安定化(小テスト)</p> <p>第6回 第2作業部会報告書「影響、適応及び脆弱性」：気候変動の観測された影響</p> <p>第7回 第2作業部会報告書「影響、適応及び脆弱性」：将来のリスクと適応の機会</p> <p>第8回 第2作業部会報告書「影響、適応及び脆弱性」：各地域のリスクと適応の可能性</p> <p>第9回 第2作業部会報告書「影響、適応及び脆弱性」：将来のリスクマネジメント(小テ</p>

	<p>スト)</p> <p>第10回 第3作業部会報告書「気候変動の緩和」：気候変動の緩和とは</p> <p>第11回 第3作業部会報告書「気候変動の緩和」：緩和経路および緩和措置</p> <p>第12回 第3作業部会報告書「気候変動の緩和」：部門別および部門横断の緩和経路</p> <p>第13回 第3作業部会報告書「気候変動の緩和」：緩和政策および制度（小テスト）</p> <p>第14回 統合報告書：気候変動の原因、将来のリスクと影響</p> <p>第15回 統合報告書：持続可能な開発に向けた将来経路、気候変動対策</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	報告書の和訳冊子を講義後に読み返すことで理解を深めてください。より詳細に学習するためには、参考文献として示す環境省のURLに解説資料や英文の原報告書へのリンクがありますので、参照することが勧められます。
(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	環境解析評価関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「気候変動2014 IPCC第5次評価報告書 政策決定者向け要約」の和訳はホームページで公開されているので、ダウンロードして印刷することができます。ただし、製本した印刷冊子が扱いやすいので、講義時に購入することを勧めます。実費相当（1000円程度）で頒布します。
(21)参考文献	IPCC第5次評価報告書の政策決定者向け要約の和訳は、 第一作業部会は気象庁・文部科学省 第二作業部会と統合報告書は環境省 第三作業部会は経済産業省のホームページで公開されています。 これらは環境省の下記URLに統合されています。理解を助ける解説資料も公開されています。 <a href="http://www.env.go.jp/earth/ipcc/5th/">http://www.env.go.jp/earth/ipcc/5th/</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	3回の小テスト：各20% 各作業部会報告書解説の最終回（5, 9, 13回）を予定しています。 平常評価（講義への参加度）：40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	上記報告書と和訳冊子を読み進め、重要な図表等について詳細に解説をします。
(25)留意点・予備知識	和訳冊子を、初回あるいは2回目の講義時に購入してください。 毎年開催される気候変動枠組み条約の締約国会議（COP2Xといわれる）では、世界の気候変動への取り組みが議論されます。このような、気候変動に関する国際動向のニュースに関心を持つことは、講義の理解を助けます。
(26)オフィスアワー	水曜 8:40~10:10 理工学部1号館515号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:nojiri@hirosaki-u.ac.jp">nojiri@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	とくになし

## 教養教育科目

(1)整理番号	60
(2)区分番号	60
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	グローバルヘルスー世界の健康問題ー (Global Healthーglobal healthー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	櫻庭 裕文(医学研究科)、照井 健(医学研究科)、富田 哲(医学研究科)、佐々木 伸也(医学研究科)、松崎 康司(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバルヘルスに関する見識を深めること ○グローバルヘルスに関する知識を活用して、現代日本および諸外国における健康問題や疾患、病態について理解すること
(15)授業の概要	○消化器の機能と生じる疾患について学ぶ ○内分泌機能の特徴と疾患について学ぶ ○精神神経医学に関する特徴と問題となっている疾患について学ぶ ○小児特有の特徴と小児に生じる疾患について学ぶ ○皮膚の構造と機能および皮膚に生じる疾患について学ぶ ○上記に関する知識を活用して、健康問題や疾患、病態について理解する
(16)授業の内容予定	消化器内科学講座 櫻庭 裕文 第1回 腸管粘膜免疫の機能と役割 第2回 増え続ける炎症性腸疾患I 潰瘍性大腸炎 第3回 増え続ける炎症性腸疾患II クロウン病 内分泌代謝内科学講座 照井 健 第4回 内分泌に関する疾患(内分泌機能の特徴と疾患①) 第5回 内分泌に関する疾患(内分泌機能の特徴と疾患②) 第6回 内分泌に関する疾患(内分泌機能の特徴と疾患③) 神経精神医学講座 富田 哲 第7回 精神神経医学に関する疾患(精神神経医学に関する特徴と問題となっている疾患①) 第8回 精神神経医学に関する疾患(精神神経医学に関する特徴と問題となっている疾患②) 第9回 精神神経医学に関する疾患(精神神経医学に関する特徴と問題となっている疾患③) 小児科 佐々木 伸也 第10回 小児に発生する疾患(小児特有の特



	<p>徴と小児に生じる疾患①)  第11回 小児に発生する疾患 (小児特有の特  徴と小児に生じる疾患②)  第12回 小児に発生する疾患 (小児特有の特  徴と小児に生じる疾患③)  皮膚科 松崎 康司  第13回 皮膚に発生する疾患 (皮膚の構造と  機能および皮膚に生じる疾患①)  第14回 皮膚に発生する疾患 (皮膚の構造と  機能および皮膚に生じる疾患②)  第15回 皮膚に発生する疾患 (皮膚の構造と  機能および皮膚に生じる疾患③)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業中に指示するほか、理解を深めるため、配布プリントや資料などで復習することが必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。ただし、各講師が授業中に紹介することがあります。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の講義で行なう小テストで評価します。この小テストで6割以上の正解で単位を取得できますが、全体の2/3以上の出席が前提条件です。小テストは、各講師の判断により必ずしも毎回ではないこともあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	PC、ハンドアウト使用
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	急患、手術、病棟業務がありますので担当教官にその都度確認して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	全体的な質問は小林恒(わたる)まで wako@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	講義内容には病院等での医師としての実務経験に関する内容が含まれる。

## 教養教育科目

(1)整理番号	61
(2)区分番号	61
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本文化とは何か－ (Japan－What is Japanese culture－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	吉田 比呂子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>日本文化という先入観が如何に形作られたか、近頃、テレビで盛んに放送される日本文化、日本の伝統に対する手放しの賛美とその価値観の形成の背景にある意図や社会環境を見直し、考えることが必要である。</p> <p>①当たり前のように受け入れてしまっている現状について考察する視点を持つ。</p> <p>②今まで使用していた教科書等の先入観や価値観を見直すこと。</p> <p>③自己の問題意識と傾向を明確にすることを目的としている。</p> <p>④与えられた問題ではなく、自分自身で問題を設定し、その問題に対して仮説を立てて、検証する形でレポートを作成することを目的としている。</p>
(16)授業の内容予定	<p>身近な「言葉」や「物語」を手がかりとして、これらに込められた「伝統」と「価値観」という先入観と意図や意識を読み解く。また、現在使用されている「学術用語」や「教科書用語」の作られ方や意図や目的を探る。</p> <p>①ガイダンス          ②日本文化とは何か？          ③文化と伝統の作られ方          ④明治という時代の矛盾－賛美と卑屈－          ⑤日本文化は何時から特別、特殊になったのか          ⑥文化の価値は特殊性か、普遍性か          ⑦浦島太郎とかぐや姫は日本文化の特殊性を持っているのか          ⑧9世紀という時代、書き言葉からの出発          ⑨書き言葉として作られた日本語          ⑩言文一致運動と書き言葉          ⑪言葉と論理性と価値観          ⑫自己の価値観と論理性を見直す          ⑬情報と如何に付き合うか          ⑭自己の論理性を作る</p>

	<p>⑮レポートを書くとは  ⑯レポートを纏める。  講義の進み方によって内容等が前後することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>参考文献等、関連する書籍に目を通しておい  てください。予習2時間、復習2時間程度が必  要です。自己の今までの価値観の形成という  ことを考える客観的視点が必要です。また、  多角的で多様な情報と如何に付き合い、取捨  選択できることを目指してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	文学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>プリントを配布する。必要に応じて本や資料  を紹介する。</p>
(21)参考文献	<p>①「国語」という思想—近代日本の言語認  識—イ・ヨンスク、岩波現代文庫  ②翻訳語成立事情 柳父章  岩波新書</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>講義の中で課題を2回—20%  相談等、質疑応答10%  最終レポート70%</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>講義を中心に行うが、人数によっては個別の  相談日を設けて個々のレポート作成相談と質  疑応答を行う時間を設ける。レポート作成を  中心に行う。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>参考文献等を事前に目を通しておくこと、与  えられた問題ではなく自己で問題を見出し、  仮説を立てて検証を行うことが出来るように  する。</p>
(26)オフィスアワー	<p>前期火曜日 11時から12時 後期火曜日  14時から15時</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:yusida@hirosaki-u.ac.jp">yusida@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	62
(2)区分番号	62
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本—学習中の言語でのコミュニケーション— (Japan—Practice of communication by the languages we are learning—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本の文明・文化に関する見識を深めること ○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること
(15)授業の概要	国内学生・留学生との課題解決活動を通して以下について扱います。 ・文化的自己認識 ・文化的世界観の枠組みに関する知識 ・外国語運用能力に関する知識 ・他文化への姿勢(感情移入・好奇心・寛容性)
(16)授業の内容予定	予定は変更になる場合があります。  1回目 授業の説明とやさしい日本語入門 2回目 スマホの写真を使って話す 3回目 偏愛マップを使って話す 4回目 異文化間能力(知識)について、講義とグループワーク 5回目 トピックのリストを使って話す。 6回目 異文化間能力(態度、スキル)について、講義とグループワーク 7回目 ゲーム、または大学紹介作成 8回目 ゲーム、または大学紹介作成 9回目 ゲームの進行練習(体育館) 10回目 合宿(担当 進行:松岡(岩手)、英語:宮本(秋田)、アクティビティ:小山(弘前)) 11回目 合宿(担当 進行:松岡(岩手)、英語:宮本(秋田)、アクティビティ:小山(弘前)) 12回目 合宿(担当 進行:松岡(岩手)、英語:宮本(秋田)、アクティビティ:小山(弘前)) 13回目 合宿(担当 進行:松岡(岩手)、英語:宮本(秋田)、アクティビティ:小山(弘前)) 14回目 合宿(担当 進行:松岡(岩手)、英語:宮本(秋田)、アクティビティ:小山(弘前)) 15回目 ふりかえり
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	大学紹介を作ったり、偏愛マップを作ったりするために、その準備が必要です。

	グループワークのシートも、家で書いてくる 時があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリント
(21)参考文献	必要に応じて紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート 50% リフレクションシート 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義とグループ活動
(25)留意点・予備知識	合宿には、かならず、上履き(体育館で活動できるもの)を持参してください。ない場合、ビニールスリッパで過ごします。体育館で行うゲーム(椅子取りゲームや綱引きのような)もありますので、注意してください。Never forget to bring a pair of sports shoes (for the floor of the gym) to the camp. If you don't have one, you have to use vinyl slippers for 2 days. Some games in the gym will be played as ice break like tug of war or musical chair.
(26)オフィスアワー	火曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko (アットマーク) hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	63
(2)区分番号	63
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本の消費文化－（Japan－Anthropology of Japanese Consumer Culture－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎（国際連携本部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○現代日本の消費文化について、変身、消尽という2つのキーワードから学びます。</p> <p>This course explores contemporary Japanese consumer culture with the keywords of transformation and consumption.</p> <p>○波及効果の高い日本の消費文化の変容と持続の側面から、世界の消費文化のトレンドについて考えます。</p> <p>Trends of global consumer culture is explored through Japanese examples.</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概説 Introduction</li> <li>2. アニメ『千と千尋の神隠し』を観る(その1) Spirited Away</li> <li>3. アニメ『千と千尋の神隠し』を観る(その2) Spirited Away</li> <li>4. アニメ『千と千尋の神隠し』を観る(その3) Spirited Away</li> <li>5. アニメ『千と千尋の神隠し』を観る(その4) Spirited Away</li> <li>6. アニメ『千と千尋の神隠し』を観る(総括) Conclusion of Spirited Away</li> <li>7. 消費文化における変身とはなにか Transformation: An introduction</li> <li>8. なんちゃって制服の世界 'Nanchatte' school uniform</li> <li>9. アンチエイジング化粧品のグローバル化 Globalization of anti-aging cosmetics</li> <li>10. 「アイドルになる」ということ Becoming idol</li> <li>11. 消費文化における消尽とはなにか Consumption: An introduction</li> <li>12. オタク的消費 Otaku culture</li> <li>13. 20世紀末のお笑い Owarai</li> <li>14. 祭礼における消尽 Consumption in ritual and festival</li> <li>15. まとめ Conclusion</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	毎回の内容について自分で調べ（予習）、授業内容について理解してください（復習）。
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『千と千尋の神隠し』DVD
(21)参考文献	授業で紹介します。 TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート Essays
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義は日本語ですが、パワーポイントは英語で作ります。 Lectures are in Japanese but the slides are in English. Essays can be in English.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	64
(2)区分番号	64
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本文学とアイデンティティの形成 － (Japan－Modern Japanese literature and the formation of identity－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	サダ ハナ ジョイ (国際連携本部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本の文明・文化に関する見識を深めること ○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること
(15)授業の概要	In this course we will examine the lives and works of modern Japanese authors whose writings illuminate the formation of Japanese identity. In addition to discussing assigned texts and examining related resources, we will view screen versions of selected works in order to deepen our understanding of them.  ○近代の日本文学に反映されている日本人のアイデンティティの形成を考察します。 ○テキストについてのディスカッション、関連資料の解読に加え、映画を鑑賞することを通して作品への理解を深めます。
(16)授業の内容予定	1: Introduction 2: The Broken Commandment 『破戒』 3: The Broken Commandment 『破戒』 4: The Broken Commandment 『破戒』 5: Foreign Studies 『留学』 6: Foreign Studies 『留学』 7: No Longer Human 『人間失格』 8: No Longer Human 『人間失格』 9: No Longer Human 『人間失格』 10: A Personal Matter 『個人的体験』 11: A Personal Matter 『個人的体験』 12: Deep River 『深い河』 13: Deep River 『深い河』 14: Deep River 『深い河』 15: Review and essay submission
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Students will be required to read literary works and prepare for the discussions which will be held at each session. Review: They will be required to reflect on the content of the course in order to write their final essay.



	予習：学生は作品を読み、毎行なわれるディスカッションの準備をします。復習：コースの内容を振り返りながらファイナルレポートに取り組みます。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	The literary works listed above will be lent out. 上記の文学作品を貸し出します。
(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on class participation(30%) and a final essay (70%). 評価和授業参加(30%)とレポート(70%)に基づいて行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be held bilingually, in Japanese and English. 授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity: 20, including up to 5 Japanese students. 定員：20名、内日本人学生を5名までとする。日本人学生はToeic550の英語力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業で教員にスコアを提示し、許可を得てください。
(26)オフィスアワー	Tuesday 9・10 By appointment.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	65
(2)区分番号	65
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本の女性による文学－（Japan－Japanese women writers and their literature－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	ワダ ハナ ジョイ（国際連携本部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>In this course we will read works by Japanese woman writers that reflect the evolution of gender roles from the Meiji era to the present. We will discuss the works under consideration、examine related resources and watch screen versions in order to gain a deeper understanding of what they convey.</p> <p>○明治時代から今日までジェンダーロールを取り上げた日本の女性作家による文学作品について学びます。 ○作品についてディスカッションをし、関連資料の解読に加え映画を見ながら内容を考察します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1: Introduction 2: House of the Sleeping Beauties 『眠れる美女』 3: House of the Sleeping Beauties 『眠れる美女』 4: Sandakan Brothel No. 8 『サンダカン八番娼館』 5: Sandakan Brothel No. 8 『サンダカン八番娼館』 6: Sandakan Brothel No. 8 『サンダカン八番娼館』 7: The Waiting Years 『女坂』 8: The Waiting Years 『女坂』 9: The Twilight Years 『恍惚の人』 10: The Twilight Years 『恍惚の人』 11: The Twilight Years 『恍惚の人』 12: Woman on the Other Shore 『対岸の彼女』 13: Woman on the Other Shore 『対岸の彼女』 14: Woman on the Other Shore 『対岸の彼女』</p>

	15:Review and essay submission
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Students are required to read and prepare for discussions held in each session.Review: They are required to reflect on the content of the course in order to write their final essay.  予習：学生は作品を読み、授業で行なうディスカッションの準備をします。復習：コースの内容を振り返り、ファイナルレポートに取り組む。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	The books listed above will be lent out. 上記の文学作品は貸し出します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on class participation (30%) and a final essay (70%).  評価は授業参加(30%)とレポート(70%)に基づき、行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be conducted bilingually, in Japanese and English.  授業は日本語と英語の両方で行ないます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity: 20, including up to 5 Japanese students.  定員：20名、内日本人学生を5名までとする。
(26)オフィスアワー	Tuesday 9・10 By appointment.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	66
(2)区分番号	66
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本—津軽近代文化史— (Japan—Survey of the modern cultural history of Tsugaru—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○サワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)、杉山 祐子 (人文社会科学部)、山田 巖子 (人文社会科学部)、関根 達人 (人文社会科学部)、長谷川 成一 (ゲストスピーカー)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本の文明・文化に関する見識を深めること ○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること
(15)授業の概要	This course is an introduction to the modern cultural history of Tsugaru. It guides students on a historical journey from feudal times to the present. After gaining a grasp of the history of the region, students will be introduced to its folkbeliefs, music and literature. Finally, the effects of western impact and modernization will be considered.  ○近代に至るまでの津軽文化の変動について学びます。 ○地域の歴史を把握し、信仰、音楽や文学を検証します。 ○西洋文化の影響と近代化について学びます。
(16)授業の内容予定	1: Introduction— Sawada 2: The history of Tsugaru (津軽の歴史) — Hasegawa and Sawada 3: Field Trip to Hirosaki Castle (弘前城見学) —Sawada 4: Field trip to Samurai dwellings (武家屋敷見学) —Sawada 5: Field trip to Zenringai Temples (禅林街見学) —Sawada 6: The Ainu and Wajin of Tsugaru (津軽のアイヌと和人) — Sekine and Sawada 7: Folkbeliefs of Tsugaru(津軽の信仰) — Yamada and Sawada 8: Tsugaru Shamisen (津軽三味線) —Sawada 9: Tsugaru Shamisen (津軽三味線) — Sasakawa and Sawada 10: Modern authors From Tsugaru (津軽の近代作家) —Sawada 11: Modern authors From Tsugaru (津軽の近

	代作家) -Sawada 12: Field trip to Mt Iwaki Shrine (岩木山神社見学) - Sawada 13: Western impact(ウエスタン・インパクト) -Sawada 14: Field trip to historical church (弘前協会見学) -Sawada 15: Modernization (近代化) Sugiyama and Sawada 16: Exam -Sawada
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Readings will be assigned before lectures and field trips Review: Reflection on content of readings, lectures and fieldtrips to prepare for examination.  予習: テキストを読んでからレクチャーを聴き、フィールドへ出かけます。復習: 試験に向けて学習内容を復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	文学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『An Introduction to Tsugaru Studies in Japanese and English 日本語と英語で読む津軽学入門』 Hiroasaki University Press
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on class participation (30%) and a take-home examination (70%) .  評価は授業への参加度(30%)と試験(70%)に基づき行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be conducted bilingually, in Japanese and English.  授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity: 20, including up to 5 Japanese students.  定員: 20名、内日本人学生を5名までとする。日本人学生にはToeic550の英語能力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業で教員にスコアを提示し、許可を得てください。
(26)オフィスアワー	Tuesday 9・10 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	67
(2)区分番号	67
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本における地域ツーリズムRegional Tourism in Japan①－ (Japan－Regional tourism in Japan－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	カワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>This course aims to enable students to acquire practical knowledge regarding the promotion of tourism both within Aomori Prefecture and abroad and improve their communication skills as well as deepen their understanding of cultural differences. Students will be given first hand experience of promoting tourism in Hirosaki.</p> <p>They will be given an overview of the work undertaken by the Hirosaki Tourism Convention Bureau and its promotional methods.</p> <p>International and Japanese students will collaborate to compile short articles for the Tourism and Convention Bureau website. They will attend meetings with staff to discuss their findings.</p> <p>○青森県の国内外における実践的なプロモーションについて学び、体験することで日本文化・異文化への理解を深めます。</p> <p>○観光情報の記事の作成を通じ、日本の観光分野における情報発信の手法について学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preliminary guidance</li> <li>2. Networking skills</li> <li>3. Personal Histories and the use of namecards</li> <li>4. Company overview – The Hirosaki Tourism and Convention Bureau</li> <li>5. Fieldwork 1</li> <li>6. Article writing and discussion of findings 1</li> <li>7. Fieldwork 2</li> <li>8. Article writing and discussion of findings 2</li> <li>9. Fieldwork 3</li> </ol>

	<p>10. Article writing and discussion of findings 3  11. Fieldwork 4  12. Article writing and discussion of findings 4  13. Fieldwork 5  14. Article writing and discussion of findings 5  15. Review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Preparation: Students will be required to visit and photograph the sites they choose to write about. Review: They will be required to reflect on their activities to write their final report.</p> <p>予習：学生は文書で紹介する場所へ出向き、記載する写真を撮り情報収集します。復習：コースの内容を振り返り、ファイナル・レポートを作成する。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	芸術関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>Handouts will be provided.</p> <p>資料は配布されます。</p>
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>Evaluation will be based on work performance (80%) and a final report (20%) .</p> <p>採点は実習評価（80%）と最終レポート（20%）を基に総合的に行なわれます。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>Students will be required to undertake group and pair work and report regularly to the Hirosaki Tourist Convention Bureau.</p> <p>学生はグループ・ワーク、ペア・ワークを行い、定期的に弘前観光コンベンション協会に課題を提出する。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>Numbers are strictly limited and a high standard of conduct is required of participants who should have a high level of English.</p> <p>参加人数は制限され、高い英語能力が要求されます。登録は教員の許可を得た学生に限られます</p>
(26)オフィスアワー	<p>Tuesday 9・10  By appointment</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	68
(2)区分番号	68
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本における地域ツーリズムRegional Tourism in Japan②－ (Japan－Regional tourism in Japan－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	ワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>This course aims to enable students to acquire practical knowledge regarding the promotion of tourism both within Japan and abroad and improve their communication skills as well as deepen their understanding of cultural differences. Students will be given a first hand experience of promoting tourism in Hirosaki.</p> <p>They will be given an overview of the work undertaken by the Hirosaki Tourism and Convention Bureau and its promotional methods. International and Japanese students will collaborate to compile short articles for the bureau website. They will attend meetings with staff to discuss their findings.</p> <p>○青森県の国内外における実践的なプロモーションについて学び、体験することで日本文化・異文化への理解を深めます。</p> <p>○観光情報の記事の作成を通じ、日本の観光分野における情報発信の手法について学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preliminary guidance</li> <li>2. Networking skills</li> <li>3. Personal histories and the use of namecards</li> <li>4. Company overview – The Hirosaki Tourism and Convention Bureau</li> <li>5. Fieldwork 1</li> <li>6. Article writing and discussion of findings 1</li> <li>7. Fieldwork 2</li> <li>8. Article writing and discussion of findings 2</li> <li>9. Fieldwork 3</li> <li>10. Article writing and discussion of</li> </ol>



	findings 3 11. Fieldwork 4 12. Article writing and discussion of findings 4 13. Fieldwork 5 14. Article writing and discussion of findings 5 15 Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Students will be required to visit and photograph the sites they are asked to write about. Review: They will reflect on their activities to write their final report.  予習：学生は文章で紹介する場所へ出向き、掲載する写真を撮り、情報収集します。復習：活動内容を振り返り、ファイナルレポートを作成する。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Handouts will be provided.  資料を配布します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on work performance (80%) and a final report (20%).  評価は課題への取り組み(80%)と最終レポート(20%)を基に総合的に行なわれます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Students will be required to undertake group and pair work and report regularly to the Tourism and Convention Bureau.  受講者はグループ・ワーク、ペア・ワークを行い、定期的に弘前観光コンベンション協会に課題を提出する。
(25)留意点・予備知識	Numbers are strictly limited and a high standard of conduct is required of participants who should have a high level of English.  参加人数は制限され、高い英語能力が要求されます。教員の許可を得た学生に限られます。
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	69
(2)区分番号	69
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本のスポーツー（Japan－Traditional Japanese sportsー）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○カワダ ハナ ジョイ（国際連携本部）、高橋 俊哉（教育学部）、福島 成利（ゲストスピーカー）、水上 知剛（ゲストスピーカー）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本の文明・文化に関する見識を深めること ○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること
(15)授業の概要	This course enables students to experience the mental and physical discipline which Aikido , Kendo and Judo offer.The history and cultural significance of each sport is introduced before students are guided through its basic forms and rules.  ○合気道、剣道と柔道の修養を通じ、日本文化を学びます。 ○それぞれの武道の歴史や社会的意義を学ぶとともに、実践的な練習を行います。
(16)授業の内容予定	1: Introduction はじめに-Sawada 2: Aikido 合気道-Mizugami and Sawada 3: Aikido 合気道-Mizugami and Sawada 4: Aikido 合気道-Mizugami and Sawada 5: Aikido 合気道-Mizugami and Sawada 6: Aikido 合気道-Mizugami and Sawada 7: Kendo 剣道-Fukushima and Sawada 8: Kendo 剣道-Fukushima and Sawada 9: Kendo 剣道-Fukushima and Sawada 10:Kendo 剣道-Fukushima and Sawada 11:Kendo 剣道-Fukushima and Sawada 12:Judo 柔道-Takahashi and Sawada 13:Judo 柔道-Takahashi and Sawada 14:Judo 柔道-Takahashi and Sawada 15:Judo 柔道-Takahashi and Sawada 16:Judo 柔道-Takahashi and Sawada
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation:Students are expected to practice what they have been taught in order to make progress in subsequent classes and review for their tests.  予習：次回の授業に向けてそれまでの内容を練習します。復習を繰り返すことを通してテストの準備をします。

(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Handouts will be provided. 資料を配布します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on class participation(10%) and the results of 3 tests (90%). 評価は授業参加(10%)と3回のテスト(90%)に基づいて行われます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes are taught bilingually, in Japanese and English. 授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity: 20, including up to 3 Japanese students. 定員：20名、内日本人学生を3名までとする。 日本人学生はToeic550相当の英語能力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業で教員にスコアを提示し、許可を受けてください。
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	70
(2)区分番号	70
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本の戦争文学－ (Japan－Japanese war literature－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	サワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>This course harnesses literature as a means of gaining a deeper understanding of how WWI is remembered in Japan. We will read fiction, non-fiction, comics and picturebooks which portray war as well as watching their screen versions.</p> <p>○文学を活用し、第二次世界大戦が日本においてどのように記憶されているのか学びます。</p> <p>○戦争に関連するフィクション、ノン・フィクション、漫画や絵本、映画により、日本および諸外国の歴史や現状、展望について検証します。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and historical overview 歴史的背景</li> <li>2. Historical overview continued</li> <li>3. Harp of Burma 1 『ビルマの竖琴』</li> <li>4. Harp of Burma 2</li> <li>5. Unexpected muteness 1 『不意のおし』</li> <li>6. Unexpected muteness 2</li> <li>7. Bones 『骨』</li> <li>8. Barefoot Gen 1 『はだしのゲン』</li> <li>9. Barefoot Gen 2</li> <li>10. Barefoot Gen 3.</li> <li>11. Picturebook workshop 1 絵本ワークショップ</li> <li>12. Picturebook workshop 2</li> <li>13. The Hiroshima Panels, 『原爆の図』</li> <li>14. The Friends 1 『夏の庭』</li> <li>15. The Friends 2</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Preparation: Students will be given reading assignments to prepare for discussions held in class. Review: They will be required to reflect on the content of classes to write their final essays</p> <p>予習：グループ・ディスカッションにそなえ</p>

	て作品を読みます。復習：コースの内容を振り返りながらファイナル。レポートを書きます。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Books will be lent. 本は貸し出します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on class participation (30%) and a final essay (70%). 評価は授業参加度(30%)とレポート(70%)によって行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be taught bilingually, in Japanese and English. 授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity:20, including up to 5 Japanese students. 定員20名、内日本人学生を5名までとする。日本人学生はToeic 550相当の英語力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業で教員にスコアを提示し、許可を得てください。
(26)オフィスアワー	Wed5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	71
(2)区分番号	71
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－日本の絵本の世界－（Japan－The world of Japanese picturebooks－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	サワダ ハナ ジョイ（国際連携本部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>This course explores the world of Japanese picturebooks. It harnesses picturebook theory to examine how picturebooks convey meaning. It then traces the evolution of picturebooks in Japan and examines predominant themes which recur in widely-read works created by contemporary Japanese picturebook makers.</p> <p>○日本の絵本から日本文化を学びます。 ○絵本論を活用し絵本の日本での展開をたどり、今日広く読まれている作品の主たるテーマを検証します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1: Introduction 2: How picturebooks make meaning-1 3: How picturebooks make meaning-2 4: How picturebooks make meaning-3 5: How picturebooks make meaning-4 6: A history of Japanese picturebooks-1 7: A history of Japanese picturebooks-2 8: A history of Japanese picturebooks-3 9: Contemporary picturebook makers-1 10: Contemporary picturebook makers-2 11: Contemporary picturebook makers-3 12: Contemporary picturebook makers-4 13: Contemporary picturebook makers-5 14: Supervision of essay-writing-1 15: Supervision of essay-writing-2</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students will be required to prepare for group presentations.</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備をします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	芸術関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Texts will be lent. テキストを貸し出します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on presentations (40%) and a final essay (60%). 評価はプレゼンテーション(40%)とレポート(60%)に基づいて行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be taught bilingually, in Japanese and English. 授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Class capacity: 20, including up to 5 Japanese students. 定員20名、内日本人学生を5名までとする。日本人学生はToeic550相当の英語能力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業で教員にスコアを提示し、許可を得てください。
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	72
(2)区分番号	72
(3)科目種別	グローバル科目
(4)授業科目名〔英文名〕	日本－津軽の工芸－ (Japan－Crafts of the Tsugaru region－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	サワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)、関根 達人 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本の文明・文化に関する見識を深めること</p> <p>○日本の文明・文化に関する知識を活用して、日本および諸外国の歴史や現状、展望について理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>This course enables students to acquire a thorough understanding of the historical and social background of the major crafts produced in the Tsugaru region and experience them first-hand. Time will be spent studying Jomon pottery, indigo dying, Koginzashi embroidery and Neputa-e painting.</p> <p>○津軽地方の工芸の歴史的・社会的背景を検証し、体験実習を行ないます。 ○縄文土器、藍染め、こぎんざしとねふた絵について学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Overview (Sawada)</li> <li>2. Jomon Art Lecture (Sekine and Sawada) 縄文土器、</li> <li>3. Jomon art fieldtrip 1(Sawada)</li> <li>4. Jomon art fieldtrip 2(Sawada)</li> <li>5. Noragi (Sekine and Sawada) 野良着</li> <li>6. Indigo dyeing (Sawada) 藍染め</li> <li>7. Koginzashi 1(Sawada) こぎんざし</li> <li>8. Koginzashi 2(Sawada)</li> <li>9. Tsugaru nuri lecture(Sawada) 津軽塗</li> <li>10. Tsugaru nuri fieldtrip (Sawada)</li> <li>11. Neputa-e lecture(Sawada) ねふた絵</li> <li>12. Neputa-e-tracing(Sawada)</li> <li>13. Neputa-e-ink(Sawada)</li> <li>14. Neputa-e-wax (Sawada)</li> <li>15. Neputa-e-color(Sawada)</li> <li>16. Final exam (Sawada) 試験</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Readings will be assigned.</p> <p>テキストを予習します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連



(18)学問分野2(副学問分野)	考古学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Handouts will be provided. 資料を配布します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	Evaluation will be based on students' submissions (40%) and a final exam (60%). 評価は提出物(40%)と試験(60%)に基づいて行なわれます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	Classes will be held bilingually in Japanese and English. 授業は日本語と英語の両方で行なわれます。
(25)留意点・予備知識	Students will be required to buy their own materials for craftwork undertaken in class. (Total estimated cost: ¥2500~¥3000 depending on what each student decides to make.) 材料費：¥2500~¥3000 Class capacity: 20, including up to 3 Japanese students. 定員20名内日本人学生を3名とする。日本人学生はToeic 550相当の英語力を要する。登録を希望する学生は1回目の授業でスコアを教員に提示し、許可を受けてください。
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	73
(2)区分番号	73
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－あおもりの暮らし－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Living of Aomori－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	李 永俊 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	本講義では、本学が位置している青森県の暮らしを学習テーマとして取り上げる。学習者が自ら行う情報収集、課題発見、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、暮らしの現状を把握し、その解決策を模索する課題探求型アクティブラーニングで行う。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 社会経済データとは 第3回 RESASの使い方 ―利用方法と基本操作― 第4回 RESASの使い方 ―応用編(データを用いた計量分析)― 第5回 ワークショップⅠ 問題発見① 第6回 ワークショップⅠ 問題発見② 第7回 課題紹介&グループ編成 第8回 ワークショップⅡ 暮らしの現状を発見する① 第9回 ワークショップⅡ 暮らしの現状を発見する② 第10回 中間報告会 暮らしの現状を発見する 第11回 先進的な地域との比較 ① 第12回 先進的な地域との比較 ② 第13回 ワークショップⅢ 未来新聞を作ろう① 第14回 ワークショップⅢ 未来新聞を作ろう② 第15回 中間報告 未来新聞を作ろう 第16回 最終成果報告
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	準備学習としては ① 統計学や計量経済学などの基礎的な用語を予習・復習してください。 ② ワークショップの事前準備として、データの収集・分析などを予習して来るようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	日経ビッグデータ (2016) 『RESASの教科書』 日経BPマーケティング 李永俊・石黒格 (2008) 『青森県で生きる若者たち』弘前大学出版会 石黒格・李永俊・杉浦裕晃・山口恵子 (2012) 『東京に出る若者たち』ミネルヴァ書房
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (平常の発表、グループワークの参加度など) : 20% 中間評価 (中間発表、発表資料) : 30% 期末評価 (最終発表、期末レポート (報告書)) : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習・研究によって進めます。
(25)留意点・予備知識	小グループでの協働作業が中心の授業であるので、必ず出席することを前提とします。
(26)オフィスアワー	毎週水曜日 10時00分～12時00分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:yjlee@hirosaki-u.ac.jp">yjlee@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	74
(2)区分番号	74
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－消費者問題の取り組み－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Introduction to Consumer Affairs－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○福田 進治 (人文社会科学部)、保田 宗良 (人文社会科学部)、加藤 徳子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	今日の日本社会では、強引な勧誘や不公正な契約、架空請求や不当表示など、消費生活をめぐるトラブルが絶えず生じています。また、私たち自身の消費生活のあり方が社会環境や自然環境に影響を与えることが問題になっていきます。そこで、この授業では以下の3点を中心に消費者問題を学びます。 ○青森県内の消費者問題の状況を学びます。 ○消費者問題から身を守るための方法を身に付けます。 ○誰もが安心して暮らせる消費社会の構築に主体的に関わっていく方法を考えます。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション (福田) 第2回 青森県の環境施策と持続可能な社会 (永井雄人/白神自然学校) 第3回 食の安全と青森県の地産地消 (斗澤康弘/十和田おいらせ農協) 第4回 多文化共生社会の消費行動(1) (加藤徳子/消費生活アドバイザー) 第5回 多文化共生社会の消費行動(2) (同上) 第6回 情報メディアと消費者問題(1) (坂本久美子/青森県消費生活センター) 第7回 情報メディアと消費者問題(2) (同上) 第8回 青森県消費生活センター見学・研修(1) 第9回 青森県消費生活センター見学・研修(2) 第10回 消費者契約をめぐるトラブル (花田勝彦/青森県弁護士会) 第11回 ライフサイクルの管理と設計 (福田・加藤) 第12回 消費者志向経営推進の取り組み(1) (大西二郎/NACS東北支部) 第13回 消費者志向経営推進の取り組み(2)

	(同上) 第14回 消費者市民社会を考える(1)(福田・保田・加藤) 第15回 消費者市民社会を考える(2)(同上)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	日頃から消費者問題に関係するニュースに耳を傾けて下さい。自分自身の生活の中で消費者問題について考えて下さい。適宜課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経済学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しません。
(21)参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	○平常評価(50%)：毎回の授業の終わりに、小レポートを提出してもらいます。平常の授業に臨む姿勢と各回の授業の理解度を確認します。 ○期末評価(50%)：最後の2回の授業をワークショップとし、その成果を踏まえて最終レポートを提出してもらいます。授業全体の理解度と到達度を判定します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	地域の専門家によるオムニバスの授業です。各回の授業では、講義だけでなく、受講者による調査・討論・発表などの実践的な取り組みを折り込み、消費者問題について主体的に考えます。また、青森県消費生活センター(青森市)見学・研修を行います(授業2回分)。最後の2回は、授業全体のまとめとして、受講者全員によるワークショップを行います。
(25)留意点・予備知識	消費者問題をさらに学びたい人は、人文社会科学部専門科目・特設講義「消費者問題の理論と実践」(後期開講)を受講して下さい。
(26)オフィスアワー	○福田 火曜日～金曜日 12:00～13:00 ○保田 木曜日・金曜日 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	○福田 shinji[at]hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	この授業では、消費者問題全般を学ぶとともに、青森県における消費者問題の取り組みを学びます。このため、青森県内で消費者問題に関わって活動されている地域の専門家の方々に非常勤講師またはゲストスピーカーとして講義を担当して頂くことをお願いしています(上記「授業の内容予定」参照)。 みなさんは消費者問題に関心があるかどうかに関わらず、消費者として生活しています。卒業後も、消費者として生活していくでしょう。しかし、みなさんが消費者問題を学ぶ機会は非常に少ないというのが現状です。是非、この授業で消費者として社会生活を送っていくための基礎知識と基本的スキルを身に付けて下さい。

## 教養教育科目

(1)整理番号	75
(2)区分番号	75
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－介護文化と高齢化－ (Diversity and Revitalization in Aomori －Aging Society and Care Culture－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○木立 るり子(保健学研究科)、米内山 千賀子(保健学研究科)、北嶋 結(保健学 研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な 魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活 性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○過疎に近い地域で、困難や今後の心配事が 多くありながらも元気に生活する高齢者につ いて、フィールドワークを通して理解する ○地域包括ケアシステムの現状に関する理解 を深め、今後求められる地域ケアと自分た ちに可能な方策を導く
(16)授業の内容予定	第1回目10/3：ガイダンス、フィールドワーク の注意点(木立) 第2回目10/10：高齢期の変化についてなど (米内山) 第3回目10/17：認知症高齢者の地域ケアの現 状など(北嶋) 第4回目10/24：制度、システムの概要など (北嶋) 第5回目10/31：在宅療養システムと介護文化 への連結(木立) 第6回～8回目11/2(土)12：40～17：30： フィールドワーク1・2・3 第9回～11回目11/9(土)12：40～17：50： フィールドワーク4・5・6(上記とは別の地域 の高齢者) 第12回目11/14：グループワーク1：過疎地域 の高齢者の生活について 第13回目11/21：グループワーク 2： 今後の地域ケアの課題と方策につ いて 第14回目11/28：プレゼンテーション1&意見 交換 第15回目12/5：プレゼンテーション2&意見交 換(上記と異なるグループ)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：講義のテーマについて、統計資料や厚 生労働省のHPからの予習が必要です。 フィールドの自治体資料による予習が 必要です。 復習：課題の抽出や考察の際に必要な資料の 収集が求められます。

(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	適宜授業の中で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：担当教員ごとに提示される課題について提出されたレポート（小レポート含む）20% フィールドワークの準備、インタビューへの取り組み方 30% 期末評価：グループワークと期末発表 50% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	3分の1は講義ですが、その後は、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションです。 ただし、受講人数に応じて回数を変更する場合があります。
(25)留意点・予備知識	地域に出向いて初対面の方とお話しします。やり方については事前にオリエンテーションしますが、服装、態度には十分注意していただきます。 事前に地域包括支援センターの許可をいただいています。 フィールドワークであること、移動時間を考慮し、土曜日の午後3コマ続きで2回分の予定を組んでいます。 土曜日2回の出席が難しい場合は受講を遠慮してください。 正門前からバスもしくはタクシーで送迎予定です。 協力者の個人情報保護に関しては厳守してください。
(26)オフィスアワー	授業に関する問い合わせは、各授業担当者へしてください。 オフィスアワーは随時ですが、メールで予約して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kidachi@hirosaki-u.ac.jp">kidachi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	弘前市における地域ケアの現状を学ぶために、フィールドワークではゲストスピーカーによる説明がなされます。 →実務経験のある教員による授業科目に該当、地域志向科目に該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	76
(2)区分番号	76
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地域社会とジェンダー－ (Diversity and Revitalization in Aomori－G n d e r a n d Society－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○羽瀨 一代(人文社会科学部)、今田 匡彦(教育学部)、山田 巖子(人文社会科学部)、出 佳奈子(教育学部)、諏訪 淳一郎(国際連携本部)、武内 裕明(教育学部)、古村 健太郎(人文社会科学部)、尾崎 名津子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○ジェンダー問題について、人々の生活に関わり、国や地域社会における様々な政策展開に左右されていることを理解する。とくに青森県においてもジェンダー・セクシュアリティに関わる問題があることを知る。 ○組織活動におけるジェンダー問題として日本のみならず、世界の経済に影響を与えられていることを理解する。 ○少子・高齢化問題とのかかわりを知る。 ○ジェンダー論により、現代社会の直面する課題がどのようなものであるかを知り、その解決方法を考える。 ○「ジェンダー＝社会的性差」という視点は、現在では、差別や抑圧的イデオロギー、制度の告発に利用されるという運動的な側面を超え、より一般的に社会を把握するための概念措置となっていることを理解する。 ○思想的な色合いよりも社会科学的な思考法としての「ジェンダー視点」を学ぶ。 ○ジェンダーは、どのような社会的現象にでも内在するため、担当教員のそれぞれの専門分野における最新のトピックをジェンダーという概念措置を利用して講義します。 ○また青森県にある文化財やそれ以外の地域にある文化財とジェンダーのかかわりについて学びます。
(16)授業の内容予定	1～2 文学とジェンダー(尾崎) 3～4 社会心理学とジェンダー(古村) 5～6 教育役割とジェンダー(武内) 7～8 仏教の女性不浄観と民俗(山田) 9～10 美術史にみるジェンダー(出) 11～12 文化人類学におけるジェンダー研究(諏訪) 13～15 ジェンダーを超えて：セクシュアリ



	ティとはなにか（今田） 16 まとめ（試験日：羽瀨）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ジェンダー・セクシュアリティに関わる ニュース視聴や文化作品に触れておいてくだ さい。1週間に4時間（1日40分）の予習・復習 が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	講義内で資料を配布いたします
(21)参考文献	講義中に指示します
(22)成績評価方法及び採点基準	レポートと試験をおこないます。講義中の内 容をもとにして自身で文献を調べたり、現代 の社会現象を思考し考察できているかどうか を採点基準とします。レポート：50%；試 験：50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバス講義
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	月曜日12時～12時半
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ichiyo@hirosaki-u.ac.jp">ichiyo@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	77
(2)区分番号	77
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－雪国活性化論－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Living with Snow－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○長南 幸安(教育学部)、北原 啓司(教育学部)
(11)地域志向科目	<b>地域志向科目</b>
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○青森や津軽などの雪国の生活に関して、どのような問題があるのか、その原因は何であるか、魅力は何かを学習し、理解する。 ○雪国での生活の問題点や魅力を理解し、それを克服し、雪とともに暮らす生活を楽しめるものにするためにはどうすべきか、どのような方法があるかを考察する。
(16)授業の内容予定	北原(前半7回担当) 雪国であるという条件を決してハンディキャップとするのではなく、むしろ一つの武器としてまちづくりや地域計画に活用している自治体が、国内にいくつもある。その紹介を含めながら、雪国の都市計画の新たな可能性を探る。 1. 雪国の活性化とは 2. 雪国の住まい・まち－行政施策から見た雪国活性化－ 3. 雪国ならではのまちづくり 4. 雪と向き合う新しい仕組み－地域通貨－ 5. 弘前市の雪対策の実態(講師：弘前市スマートシティ推進室) 6. 雪国学とは 7. 総合演習(雪対策とボランティア)  長南(後半8回担当)： 雪の誕生から消滅までを調べ、H2Oの固体状態である氷の種々の特性を学び、積雪の有効利用、アイスバーン対策、雪遊び、雪が青く見えること等を考える。 1. 雪の分類 2. 雪の性質 3. 雪の生成メカニズム 4. 利雪 5. 雪の観察 6. 人工雪の生成 7. 雪を使った発電実験 8. 融雪実験 但し、積雪状況などにより内容が異なる場合がある。 3回を座学で実施し、残り5回は演習(観察・実験を含む)として集中講義形式(1日間で実施)で実施する予定。  →2019年度は、2020年1月17日(金)【センター試験前日のため全日休講日】の8:40～17:30(5コマ分)に集中講義を実施予定
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：次回行う講義内容を確認しておくこと。(120分) 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。(120分)
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	建築学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地球惑星科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	北原(50%)と長南(50%)の課題レポートの総合評価を合算して行う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	北原は、講義形式で行うが、11月中旬に、弘前市スマートシティ推進室の出前講座を用いたゲスト講師とのディスカッションを取り入れ、最終講義では、海外の論文を用いた演習を実施する。

	長南は、講義（座学3回）とあわせて、集中形式（5回分）で演習・実験を行う。
(25)留意点・予備知識	講義の一部に演習・実験を行うので、受講者数の制限をかけます。また学生自身の過失等による事故が発生した場合に備え、傷害保険や賠償責任保険等の加入を推奨します。
(26)オフィスアワー	北原 水 12:00~12:40  長南 月~金 8:00~8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北原 E-mail: <a href="mailto:mxg02632@hirosaki-u.ac.jp">mxg02632@hirosaki-u.ac.jp</a>  長南 E-mail: <a href="mailto:cho@hirosaki-u.ac.jp">cho@hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス: <a href="http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html">http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html</a>
(28)その他	弘前市よりゲスト講師を招きます。また講義も青森県や弘前市などの雪国に関する事例を学びます。教育学部生涯教育課程地域生活専攻2年次選択必修の「雪国活性化論」の振り替え科目です。未習得の学生で選択する場合は受講してください。この場合、登録のコード番号は、教育学部で設定される「雪国活性化論」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANEIで確認して下さい。

## 教養教育科目

(1)整理番号	78
(2)区分番号	78
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－原発・核燃と地域社会－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Nuclear Fuel Cycle and Regional Society－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	泉谷 眞実 (農学生命科学部)、大谷 伸治 (教育学部)、河合 正雄 (人文社会科学部)、鈴木 裕史 (理工学部)、永瀬 範明 (理工学部)、根本 直樹 (理工学部)、福田 進治 (人文社会科学部)、○宮永 崇史 (理工学部)、大坪 正一 (非常勤講師) 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	青森県六ヶ所村には、日本の原子力政策の基幹をなす核燃料サイクル施設が建設され、青森県の政治・経済・社会にさまざまな影響を与えてきましたが、2011年の福島第一原発事故以来、原発の安全神話が崩れるとともに、この施設の必要性にも疑問の目が向けられるようになりました。 そこで、この授業では、原子力発電、再処理事業、核燃料サイクルの概要を学びながら、青森県の未来にとって核燃料サイクル施設が必要かどうか、核燃料サイクルに頼らないエネルギー政策は可能かどうかといった諸問題について、多様な学問分野の視点から多角的に学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 イントロダクション (福田進治) 第2回 青森県における原子力開発 (宮永崇史) 第3回 放射能・放射線・放射性物質 (鈴木裕史) 第4回 下北半島の地質環境 (根本直樹) 第5回 内部被曝 (遠藤順子/健生病院) 第6回 戦後日本政治と原子力「平和利用」 (大谷伸治) 第7回 原発と基本的人権 (河合正雄) 第8回 青森県と核燃マネー (福田進治) 第9回 青森県経済の抱える諸問題 (大坪正一) 第10回 青森県の地域づくり政策 (泉谷眞実) 第11回 核燃の数理 (永瀬範明) 第12回 原発のコスト (福田進治) 第13回 再生可能エネルギー政策の現状と課題 (泉谷眞実)

	<p>第14回 地域エネルギー事業～市民の挑戦～  (富岡哲平/NPO法人グリーンシティ)  第15回 全体討論  ※これらの他に、開講期間中の休日に青森県内の原発または核燃料サイクル施設の現地視察を行うことを予定しています。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>各回の授業の前に、各自で教科書の関連箇所を読んでおいて下さい。  日頃から、新聞やテレビなどのニュースをよく見て、原発、再処理、核燃料サイクルに関連する問題について理解を深めるよう努めて下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経済学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>○大坪正一・宮永崇史(編)『環境・地域・エネルギーと原子力開発ー青森県の未来を考えるー』弘前大学出版会、2013年、1400円(税抜)</p>
(21)参考文献	<p>○鎌田 慧『六ヶ所村の記録ー核燃料サイクル基地の素顔ー』岩波現代文庫、2011年、1080円+1360円(税抜)  ○朝日新聞青森総局『核燃マネーー青森からの報告ー』岩波書店、2005年、1900円(税抜)</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(50%)と期末評価(50%)の合計で評価します。  平常評価は、適宜出題される小レポートなどの課題への取り組みの状況に関する評価とします。  期末評価は、最終回の全体討論の参加状況および期末レポートの内容に関する評価とします。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバスによる講義・質疑応答の他に、現地視察、全体討論を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	各教員のオフィスアワーに準じて設定しています。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>○宮永崇史(科目代表)  <a href="mailto:takaf@hirosaki-u.ac.jp">takaf@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	<p>上記のとおり、この授業では、核燃料サイクル施設をめぐる諸問題を学ぶことを通して、青森県の将来について考えます。このため、大学教員だけでなく、青森県内で医師として活動されている方(遠藤)、地域エネルギー事業に従事されている方(富岡)にゲストスピーカーとして講義を担当して頂くことをお願いしています。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	79
(2)区分番号	79
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地域活性化論①－ (Diversity and Revitalization in Aomori －Regional Activation－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○長南 幸安(教育学部)、小倉 亮(ゲストスピーカー)、藤田 邦雄(ゲストスピーカー)、川崎 武志(非常勤講師)、坂本 謙二(非常勤講師)、岡部 敏弘(非常勤講師)、村中 文人(非常勤講師)、神田 昌彦(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。 ○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。
(16)授業の内容予定	1回目にはガイダンスを行ない、2回目以降各講師がそれぞれ2回ずつ講義を担当する。 1回目：ガイダンス(長南担当)：4/11(木) 17:40～ 総合教育棟406講義室  集中講義日程：講義室は未定です。決定次第、アナウンスします。 2019/5/25(土) 小倉先生(1～2コマ目：8:40～10:10 10:20～11:50) 坂本先生(3～4コマ目：12:40～14:10 14:20～15:50) 川崎先生(5コマ目：16:00～17:30)  2019/5/26(日) 川崎先生(1コマ目：8:40～10:10) 村中先生(2～3コマ目：10:20～11:50 12:40～14:10) 岡部先生(4～5コマ目：14:20～15:50 16:00～17:30)  2019/6/1(土) 神田先生(1～2コマ目：8:40～10:10 10:20～11:50) 藤田先生(3～4コマ目：12:40～14:10 14:20～15:50)

	<p>講義テーマ（予定・順不同）</p> <p>神田先生  1) 子供の科学する心をはぐくむために  2) 地域の環境再生とエネルギー問題を考える</p> <p>小倉先生  1) 青森県における発酵食品  2) 発酵食品を利用した地域活性化</p> <p>坂本先生  1) 下北地域の地域興しの歩み 観光が地域を救う  2) これからの地域興し 下北地域での起業の事例 下北ジオパーク認定後の課題</p> <p>藤田先生  1) 青森の豊かで活力ある地域づくりをめざして（原子燃料サイクル事業の現状について）  2) 青森の豊かで活力ある地域づくりをめざして（原子燃料サイクル事業と地域振興の関わりについて）</p> <p>村中先生  1) 青森県活性化の課題  2) 青森県活性化のために</p> <p>岡部先生  1) 青森県の森林資源を如何に活用すべきか？  2) 青森県における再生エネルギーの取り組みについて</p> <p>川崎先生  1) RESAS（地域経済分析システム）の目的と使い方  2) RESAS（地域経済分析システム）を活用して青森の地域特性を分析する</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>講師ごとに異なるテーマや方法論に柔軟に対応して理解に努めることを求める。  予習として、青森県の地域活性化の問題点をまとめておくこと。  復習として、青森県の地域活性化の問題点の解決方法を考えること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の際にプリント等が配付される。
(21)参考文献	授業の際に紹介される。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>各講師が提示する課題によるレポートの成績（各1/7の比重）に、授業への取り組み方を加味して評価する。  各講師のレポートは、簡潔にわかりやすくA4版1枚程度でまとめること。川崎先生は、電子メールで提出。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	非常勤講師7名によるオムニバス形式の集中講義。
(25)留意点・予備知識	自らの研究課題や進路を考えることにも、役立ててほしい。

	<p>川崎先生は、アクティブ・ラーニングとして、ノートパソコンを使うので、持っている人は持参して下さい。また大学の無線LANに接続できる様にして下さい。</p> <p>7人の先生のレポート評価の平均点で算出するので、レポート未提出（0点・出席のみは評価しない）が一つでもあると単位修得は厳しくなるので、注意すること。</p>
(26)オフィスアワー	<p>代表：長南 幸安 月～金 8：00～8：30</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>代表：長南 幸安 E-mail：<a href="mailto:cho@hirosaki-u.ac.jp">cho@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	<p>青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師の講義です。内容も青森県に関する地域活性化の事例を学びます。</p> <p>教育学部生涯教育課程地域生活専攻2年次選択必修の「地域活性化論Ⅳ」の振り替え科目です。</p> <p>未習得の学生で選択する場合は受講してください。この場合、登録のコード番号は、教育学部で設定される「地域活性化論Ⅳ」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANETで確認して下さい。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	80
(2)区分番号	80
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地域活性化論②－ (Diversity and Revitalization in Aomori －Regional Activation－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○長南 幸安(教育学部)、小倉 亮(ゲストスピーカー)、藤田 邦雄(ゲストスピーカー)、川崎 武志(非常勤講師)、坂本 謙二(非常勤講師)、岡部 敏弘(非常勤講師)、村中 文人(非常勤講師)、神田 昌彦(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。 ○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。
(16)授業の内容予定	1回目にはガイダンスを行ない、2回目以降各講師がそれぞれ2回ずつ講義を担当する。 1回目：ガイダンス(長南担当)：10/3 (木) 17：40～ 総合教育棟406講義室  集中講義日程：講義室は未定です。決定次第、アナウンスします。 2019/10/12(土) 岡部先生(1～2コマ目：8：40～10：10 10：20～11：50) 坂本先生(3～4コマ目：12：40～14：10 14：20～15：50) 川崎先生(5コマ目：16：00～17：30)  2019/10/13(日) 川崎先生(1コマ目：8：40～10：10) 村中先生(2～3コマ目：10：20～11：50 12：40～14：10) 神田先生(4～5コマ目：14：20～15：50 16：00～17：30)  2019/10/14(月) 体育の日・祝日 小倉先生(1～2コマ目：8：40～10：10 10：20～11：50) 藤田先生(3～4コマ目：12：40～14：10 14：20～15：50)

	<p>講義テーマ（予定・順不同）</p> <p>神田先生  1) 子供の科学する心をはぐくむために  2) 地域の環境再生とエネルギー問題を考える</p> <p>小倉先生  1) 青森県における発酵食品  2) 発酵食品を利用した地域活性化</p> <p>坂本先生  1) 下北地域の地域興しの歩み 観光が地域を救う  2) これからの地域興し 下北地域での起業の事例 下北ジオパーク認定後の課題</p> <p>藤田先生  1) 青森の豊かで活力ある地域づくりをめざして（原子燃料サイクル事業の現状について）  2) 青森の豊かで活力ある地域づくりをめざして（原子燃料サイクル事業と地域振興の関わりについて）</p> <p>村中先生  1) 青森県活性化の課題  2) 青森県活性化のために</p> <p>岡部先生  1) 青森県の森林資源を如何に活用すべきか？  2) 青森県における再生エネルギーの取り組みについて</p> <p>川崎先生  1) RESAS（地域経済分析システム）の目的と使い方  2) RESAS（地域経済分析システム）を活用して青森の地域特性を分析する</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講師ごとに異なるテーマや方法論に柔軟に対応して理解に努めることを求める。 予習として、青森県の地域活性化の問題点をまとめておくこと。 復習として、青森県の地域活性化の問題点の解決方法を考えること。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の際にプリント等が配付される。
(21)参考文献	授業の際に紹介される。
(22)成績評価方法及び採点基準	各講師が提示する課題によるレポートの成績（各1/7の比重）に、授業への取り組み方を加味して評価する。 各講師のレポートは、簡潔にわかりやすくA4版1枚程度でまとめること。川崎先生は、電子メールで提出。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	非常勤講師7名によるオムニバス形式の集中講義。
(25)留意点・予備知識	自らの研究課題や進路を考えることにも、役立ててほしい。

	<p>川崎先生は、アクティブ・ラーニングとして、ノートパソコンを使うので、持参して下さい。また大学の無線LANに接続できるようにして下さい。</p> <p>7人の先生のレポート評価の平均点で算出するので、レポート未提出（0点・出席のみは評価しない）が一つでもあると単位修得は厳しくなるので、注意すること。</p>
(26)オフィスアワー	<p>代表：長南 幸安 月～金 8：00～8：30</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>代表：長南 幸安 E-mail：<a href="mailto:cho@hirosaki-u.ac.jp">cho@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	<p>青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師の講義です。内容も青森県の地域活性化に関する事例を学びます。</p> <p>教育学部生涯教育課程地域生活専攻2年次選択必修の「地域活性化論Ⅳ」の振り替え科目です。</p> <p>未習得の学生で選択する場合は受講してください。この場合、登録のコード番号は、教育学部で設定される「地域活性化論Ⅳ」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANETで確認して下さい。</p>

教養教育科目

(1)整理番号	81
(2)区分番号	81
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化ー人口減少社会の再デザイン：新幹線をキーワードにー (Diversity and Revitalization in AomoriーRedesign of shrinking society with the keyword 'Shinkansen'ー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	櫛引 素夫 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること</p> <p>○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること</p>
(15)授業の概要	<p>○日本でも最も激しい人口減少と高齢化に直面している青森県、そして津軽地方において、「それでも持続可能な社会を考案し、実際に構築していく担い手」となる自覚と視点を培えるよう、実際に社会へ出て、「解消・軽減・達成可能な課題」を見だし、テキスト化(記事化)するとともに、当事者や第三者に提言する営みを目指します。</p> <p>○対象とするテーマは自由ですが、授業としては「駅・鉄道」に重点を置き、特に「新青森駅」に焦点を当てます。実際に現地へのエクスカージョンを予定しています。</p> <p>○原則として、複数学部メンバーで構成するグループを単位として活動します。また、外部からさまざまなゲストスピーカーを招いて問題提起や助言をいただくとともに、最終的な成果を学内にとどめるのではなく、関係する方々や市民の方にも届けられるよう、プレゼンの場合は「公開」とすることを想定しています。対象が特定できる記事や提言が生まれれば、実際に先方へ届けることを想定します。また、執筆した記事は「新聞」等の形態のメディアの素材とし、原則として公表することを想定しています。</p> <p>○以上の作業を通じて、実社会との接点を具体的に見いだすとともに、社会人基礎力を磨き、より充実した学修・研究と就職活動につながる総合力や協調性を磨きます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>☆木曜日の授業12コマに加え、土曜日に3コマ分の新青森駅エクスカージョンを実施します。</p> <p>(履修者の都合を勘案して日程決定。参加できなかった人は自主エクスカージョンを実施)</p> <p>☆日程や内容は、授業の進展状況や社会的トピックス、ゲストスピーカーの都合に応じて変更する場合があります。</p> <p>(かっこ内は日程の予定)</p> <p>(1) ガイダンスと授業外学習「発見・弘前」提示 (4月11日)</p> <p>(2) アイスブレイクとグループ作成、「発見・弘前」報告 (4月18日)</p> <p>(3) ゲストスピーカー講話「弘前市のこれまでとこれから」およびグループ調整 (4月25日) : 弘前市職員を予定</p> <p>(4) ゲストスピーカー講話「人口減少と若者I」 (5月9日) : 学生団体LFV事務局長を予定</p> <p>(5) ゲストスピーカー講話「人口減少と若者II」 (5月16日) : コスプレ企画主宰の学生を予定</p> <p>(6) ゲストスピーカー講話「弘前の路地裏」と弘前探訪検討 (5月23日) : 弘前路地裏探偵団メンバーを予定</p> <p>(7) 弘前探訪結果の報告 (5月30日)</p> <p>(8) 新青森駅エクスカージョンの予習・検討 (6月6日)</p> <p>(9) ~ (11) 新青森エクスカージョン (6月8日・土または6月15日・土)</p> <p>(12) 新青森エクスカージョンの振り返りと記事化 (6月13日または6月20日) =中間評価</p> <p>(13) プレゼンテーション準備 (6月27日)</p> <p>(14) プレゼンテーションとピア・レビュー=相互評価 (7月4日)</p> <p>(15) 振り返り (7月11日) =最終評価</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○この授業では、マスメディアやソーシャルメディアにおいて、鉄道をはじめとする地域の諸問題がどう報じられているかを十分に理解する必要があります。</p> <p>○〔予習〕授業1時間について2時間をめどに、新聞・テレビ・ネット等のメディアに目を通して「地域の今」に関心を向けてください。</p> <p>○〔復習〕授業で扱ったテーマや制度、用語等について、メディアや企業、自治体のサイト等で、授業1時間について2時間をめどに確認してください。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。日々の新聞や青森県の情報を使ったメディア等が教科書代わりになります。積極的に閲覧してください。
(21)参考文献	以下の情報や資料を積極的に入手し、閲覧してください。 ○青森県社会経済白書（青森県庁サイトからダウンロード可。 <a href="https://www.pref.aomori.lg.jp/kensei/tokei/shakai-keizaihakusho.html">https://www.pref.aomori.lg.jp/kensei/tokei/shakai-keizaihakusho.html</a> ) ○東洋経済オンライン連載「新幹線は街をどう変えるのか」 ( <a href="https://toyokeizai.net/category/ChangeCityOfftheShinkansen">https://toyokeizai.net/category/ChangeCityOfftheShinkansen</a> )
(22)成績評価方法及び採点基準	以下の評価を組み合わせ、多面的・総合的に評価します。 ○平常評価（ワークシート、授業時の積極的な発言や参画）：30% ○期末評価（期末の記事執筆とプレゼン）：50% ○中間評価（新青森駅等のエクスカージョンのリポート）：20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	原則としてグループ活動によって進めます。
(25)留意点・予備知識	○Moodleを活用予定です。大学のメールアドレスを使用可能な状態にしておいてください。 ○メディア、地域情報サイト、パンフレット、行政・企業サイト、さらには身近な景観など、さまざまなものごとを「情報源」と意識し、自らが「メディアになり得る」感覚を磨いてください。
(26)オフィスアワー	特に設けませんが、要望に応じて時間をつくり、対処します。また、Moodleを活用予定ですので、オンラインでの相談・指導にも対応します。
(27)メールアドレス・HPアドレス	Eメール：kushibiki@aomori-u.ac.jp、HP： <a href="https://researchmap.jp/motookushibiki/">https://researchmap.jp/motookushibiki/</a> （研究者Researchmap）
(28)その他	○Moodleを活用予定です。 ○担当教員は地方紙記者として、地域の諸課題を取材、執筆した経験があります。「実務経験のある教員による授業科目」に該当します。 ○弘前市内の地域活動に関わる人々、県内の学生団体の代表らをゲストスピーカーに招きます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	82
(2)区分番号	82
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－青森の声の文化入門 － (Diversity and Revitalization in Aomori－Introduction to the Culture of "Voice" in Aomori－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	山田 巖子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な 魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活 性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	声の文化の特徴を把握し、イタコと呼ばれる 青森県に特徴的な巫女の声や昔話の声などの 青森県の声の文化の遺産を知る。 話型やモチーフなど口承文芸研究の基礎的な 術語を理解する。 消えゆく声の文化に対する記録や再生の取り 組みについて知り、自身の実践につなげる。 日常の中の声の文化を対象化する。
(16)授業の内容予定	1 イン트로ダクション 2 声の文化の「発見」 3 声の文化の特徴 4 東アジアの巫女と「芸能」 5 青森県の巫女と「声」の修得 6 盲僧の「声」と「上演」 7 昔話の「発見」 8 昔話の「時」と「場」 9 青森県の昔話 10 昔話の伝播・型 11 遠野の昔話の「実践」 12 伝説と風景 13 日常の「話」と「語り」 14 レポート作成に向けて 15 まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 単元に関わる下調べをする 復習 講義を受けて認識の変化を確認する。 知識を定着させる。
(18)学問分野1(主学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	言語学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中指示します。
(21)参考文献	『岩波講座日本文学史 第16巻 口承文学 1』『17巻 口承文学2・アイヌ文学』岩波 書店 w-J・オング『声の文化と文字の文化』藤原

	書店 図書館にあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	コメントペーパーと授業中の発言（２割）、 レポート（８割）で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	映像や音声を用いて授業をします。ゲストス ピーカーによる授業があります。
(25)留意点・予備知識	民俗と文化、民俗学が関連授業です。
(26)オフィスアワー	月曜日 12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:itsuko@hirosaki-u.ac.jp">itsuko@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特記事項なし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	83
(2)区分番号	83
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地域社会とメディア－ （Diversity and Revitalization in Aomori－Media and Regional Society－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	松本 悦子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○メディア論の基礎的な知識や方法論を学び、現代社会を眺める視座を身に付けることを目指します。○地域社会における生活とメディアの関係性を考えるために、地域活動の見学等を行い、青森における地域メディアの役割と可能性について考察します。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス（この授業を受講するにあたって） 第2回 社会とメディア 第3回 メディアと文化 第4回 マス・メディアとコミュニケー ション 第5回 地域社会とコミュニティ・メディア 第6回 エスニック・メディアの役割と社会 第7回 多文化化する社会とメディア 第8回 マイノリティとメディア 第9回 青森の生活と地域メディア 第10回 地域活動参加のためのガイダンス 第11回 地域活動の見学・弘前の子育て支 援センター（予定） 第12回 地域活動の見学・弘前の子育て支 援センター（予定） 第13回 グループワーク 第14回 プレゼンテーションと意見交換 第15回 グローバル化時代の地域メディア の役割と課題 *進行状況により、順番が入れ替わることがあります。 *6月（いずれかの土曜日もしくは日曜日）に学外活動を行う予定です。日時の詳細は初回の授業でお伝えします。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	日頃からネット以外の地域のメディア（陸奥新報、アップルウェブ、広報誌など）に接してみましょう。また、積極的に弘前の町を歩き、チラシやポスターにも目を配るとよいと思います。



(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	授業内で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 平常評価：50%(授業への参加度、取り組み姿勢、各授業終わりに提出してもらうコメントカード等) 2. 期末評価：50%(期末レポート) 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。 学則により全体で3分の2以上出席しなければ評価の対象となりません。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半は講義形式が主ですが、必要に応じてグループワークを行います。学生数が少ない場合は、講義の他、随時質問を行い回答してもらう形式で進めます。後半は地域活動の見学、グループワーク、プレゼンテーションなどの予定です。ただし、受講者数に応じて変更する場合があります。
(25)留意点・予備知識	* 予備知識は問われませんが、日頃から子育てや働き方など「生活」に関わるニュースに関心を持つと学習効果を高められると思います。また、女性や子ども、高齢者、外国人などの存在や視点、そして子育てや介護など「ケア」の課題にも目を配っておくとよいと思います。* 学生傷害保険に加入しておいてください。
(26)オフィスアワー	毎週金曜日12時～12時40分、講師控室にいます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業内でお知らせします。
(28)その他	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	84
(2)区分番号	84
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地方農山村の暮らしを知る・考える①－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Regional Sociology－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○成田 凌(非常勤講師)、羽瀨 一代(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○日本の「最周縁」の青森県のなかでも、さらに周辺に位置づけられる過疎市町村の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて考える。 ○産業構造や人口動態、生活環境が大きく変わるなかで、人びとの暮らしはどのように変化し、現在いかなる課題に直面しているのかをフィールドワークでの知見をふまえて議論をおこない、理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回： ガイダンス・イントロダクション 第2回： 地方農山村の現状についての概説(1) 第3回： 地方農山村の現状についての概説(2) 第4回： 地方農山村の現状についての概説(3) 第5回： 青森県・津軽地方の事例(1) 第6回： 青森県・津軽地方の事例(2) 第7回： 青森県・津軽地方の事例(3) 第8回： テーマ設定・グループ分け／調査倫理・調査依頼の方法についての説明 第9回： 中間(レポート)報告会／聞き取り調査の事前準備 第10回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(1) 第11回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(2) 第12回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(3) 第13回： 補足講義／最終報告会に向けての経過報告・準備(1) 第14回： 補足講義／最終報告会に向けての

	<p>経過報告・準備 (2) 第15回： 最終報告会・ディスカッション</p> <p>※授業内容は、受講者数や進行状況などに応じて変更することがあります。基本的には、受講者の関心に応じていくつかのグループに分けて作業や報告・ディスカッションをおこないます。</p> <p>※1~2度、週末に学外でのフィールドワークを実施します(終日、講義約3回分を代替休講)。調査対象地は受講者の関心に沿って選定しますが、2018年度は黒石市や田舎館村、外ヶ浜町といった弘前市の周辺市町村に行きました。</p> <p>※各回の授業は、初回と最終回は成田・羽瀨で、残りは成田が担当する予定です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は求めませんが、授業内での指示やコメントに応じて、関連文献の講読やレポートの作成・報告準備などをしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。必要な資料は、授業内で適宜提示されます。
(21)参考文献	山下祐介, 2012, 『限界集落の真実：過疎の村は消えるのか?』筑摩書房。 山本努, 2017, 『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学(増補版)』学文社。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度) : 50% 中間評価(中間報告・レポート) : 20% 期末評価(最終報告・レポート) : 30% 以上を合算して最終的な成績評価をおこなう予定です。また、グループでのフィールドワーク・聞き取り調査の実施が単位取得の必須条件になります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半は講義を、後半はグループワークを中心におこないます。とくに後半はグループでの活動が基本となるため、基本的には毎回出席することが前提となります。
(25)留意点・予備知識	フィールドワーク・聞き取り調査を予定しているため、学生保険加入を履修の条件とします。また、調査時にかかる交通費等は自己負担となります。予備知識は必要ありませんが、上記で紹介した文献のうち、自分の関心に近いものを一読しておくことで授業内容の理解の助けになると思います。まずは図書館などで手に取ってみてください。
(26)オフィスアワー	水曜日：16時～18時(授業の前後に要連絡)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	narita-ryo@hirosaki-u.ac.jp (@は半角にしてください)
(28)その他	毎回の講義で、質問や議論をおこなうので、積極的な参加を求めます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	85
(2)区分番号	85
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－地方農山村の暮らしを知る・考える②－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Regional Sociology－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○成田 凌(非常勤講師)、羽瀨 一代(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	○日本の「最周縁」の青森県のなかでも、さらに周辺に位置づけられる過疎市町村の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて考える。 ○産業構造や人口動態、生活環境が大きく変わるなかで、人びとの暮らしはどのように変化し、現在いかなる課題に直面しているのかをフィールドワークでの知見をふまえて議論をおこない、理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回： ガイダンス・イントロダクション 第2回： 地方農山村の現状についての概説(1) 第3回： 地方農山村の現状についての概説(2) 第4回： 地方農山村の現状についての概説(3) 第5回： 青森県・津軽地方の事例(1) 第6回： 青森県・津軽地方の事例(2) 第7回： 青森県・津軽地方の事例(3) 第8回： テーマ設定・グループ分け／調査倫理・調査依頼の方法についての説明 第9回： 中間(レポート)報告会／聞き取り調査の事前準備 第10回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(1) 第11回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(2) 第12回： 学外でのフィールドワーク・聞き取り調査(3) 第13回： 補足講義／最終報告会に向けての経過報告・準備(1) 第14回： 補足講義／最終報告会に向けての

	<p>経過報告・準備 (2) 第15回： 最終報告会・ディスカッション</p> <p>※授業内容は、受講者数や進行状況などに応じて変更することがあります。基本的には、受講者の関心に応じていくつかのグループに分けて作業や報告・ディスカッションをおこないます。 ※1~2度、週末に学外でのフィールドワークを実施します(終日、講義約3回分を代替休講)。調査対象地は受講者の関心に沿って選定しますが、2018年度は黒石市や田舎館村、外ヶ浜町といった弘前市の周辺市町村に行きました。 ※各回の授業は、初回と最終回は成田・羽瀨で、残りは成田が担当する予定です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内での指示やコメントに応じて、関連文献の講読やレポートの作成・報告準備などをしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。必要な資料は、授業内で適宜提示されます。
(21)参考文献	山下祐介, 2012, 『限界集落の真実：過疎の村は消えるのか?』筑摩書房. 山本努, 2017, 『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学(増補版)』学文社.
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度) : 50% 中間評価(中間報告・レポート) : 20% 期末評価(最終報告・レポート) : 30% 以上を合算して最終的な成績評価をおこなう予定です。また、グループでのフィールドワーク・聞き取り調査の実施が単位取得の必須条件になります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半は講義を、後半はグループワークを中心におこないます。とくに後半はグループでの活動が基本となるため、基本的には毎回出席することが前提となります。
(25)留意点・予備知識	フィールドワーク・聞き取り調査を予定しているため、学生保険加入を履修の条件とします。また、調査時にかかる交通費等は自己負担となります。予備知識は必要ありませんが、上記で紹介した文献のうち、自分の関心に近いものを一読しておくことで授業内容の理解の助けになると思います。まずは図書館などで手に取ってみてください。
(26)オフィスアワー	授業の前後に事前連絡のこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	narita-ryo@hirosaki-u.ac.jp (@は半角にしてください)
(28)その他	毎回の講義で、質問や議論をおこなうので、積極的な参加を求めます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	86
(2)区分番号	86
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－省エネ・低炭素社会実現への「学ぶ・考える・教える」弘大アクションプランCOOL CHOICE弘大（未来のために、いま選ぼう。）－（Diversity and Revitalization in Aomori－COOL CHOICE HIRODAI－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	石山 新太郎（理工学研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	本講義は、毎講義前半は「COOLCHOICE青森」に関する現状解説を各分野から招聘したゲストスピーカーを交えて行った後、グループディスカッションによる各受講者からの独自のCOOL CHOICE活動のアイデアを創出を進める。 最終的には各独自発想のCOOLCHOICE活動をとりまとめ弘前大学施可能なCOOL CHOICE弘大のアクションプランにまとめ上げてゆく（解決していく力）。
(16)授業の内容予定	・2015年の米国、中国を含むすべての国が参加した京都議定書につづくパリ協定やSDGs（Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標））では、地球の気温上昇を2℃未満に抑えるため温室効果ガスの排出量を今世紀後半にゼロまたはマイナスとする達成目標値が設定されている。それを受け各国ではそれぞれの達成目標値ならびに具合的方策が提示され我が国では国及び地方において独自のアクションプランとして現在さまざまな形での活動が開始されている。青森県では「COOL CHOICE青森」活動として青森市が環境フェア2018等の開催を行うことで環境改善、再生エネルギー利用等の市民意識の高揚とその積極的利用が図られている。 本講義では、この「COOL CHOICE」に沿って様々な分野で活動最前線に立たれ実務経験を積んでいる青森県下で活躍されている下記ゲストスピーカーを招聘し、幼少～大人までの環境教育の在り方や自動運転ハイブリッド

カー体験、省エネ住宅・設備機器や環境活動体験、持続可能な農業経営学、再生エネルギーと組み合わせたごみ処理減容化技術、ごみからのバイオガス製造、CO2を資源化した最新鋭CO2利用発電技術開発（Game Changing Technology）などの環境出前講座・講義を通じて、子どもから大人まで青森の環境改善に取り組むことのできる省エネ・低炭素社会実現への「学ぶ・考える・教える」弘大アクションプラン（COOL CHOICE弘前大学）にまとめ上げることを目的とした教養教育講座を開催する。

・本講義内容は、人文・教育、理工、農業等学生向きで、講義の進め方はワークショップ形式でフィールドワークや施設見学等を通じてそれぞれ独自の分野におけるアクションプランの提案を募集する。

・本講義内容は毎回各方面でCOOL CHOICE活動に携わる実務経験者からの体験談・実務内容の現状を議論の中心に置きつつ（青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること）、独自の世界観・価値観からの特異な活動を様々な人との議論を経て創出するための授業である（青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること）。

第1回ガイダンス

第2回省エネ・低炭素社会実現に向けた「COOL CHOICE青森」の活動概要説明（石山）

第3回NPO法人AEPEC青森県環境パートナーシップの省エネ住宅家電対策の現状（白鳥五大（AEPEC青森県環境理事）+石山）

第4回NETトヨタ（株）のハイブリッドカーの紹介（中村公佳（ネッツトヨタ（株）+石山）

第5回NETトヨタ（株）の自動運転技術の紹介（鎌田文史（ネッツトヨタ（株）+石山）

第6回青森田中学園持続可能な農業経営（庄子元（青森田中学園）+石山）

第7回イオン青森チアーズクラブによる環境活動の取り組み（三橋邦夫（イオン青森店チアーズクラブ）+石山）

第8回青森エコクリエーション（株）の太陽光発電+ごみ処理減容化施設紹介（倉西実（青森エコクリエーション（株）+石山）

第9回西田組（株）のごみからのバイオガス製造技術（伊東英俊（西田組（株））

第10回太陽光発電+ごみ処理減容化施設の見学（倉西実（青森エコクリエーション（株）+石山）

第11回大深度高温地熱発電計画（ガイア/アグニ計画）の開発現状（石山）

第12回想起アイデアの発表/ディスカッション（I）（石山）

第13回想起アイデアの発表/ディスカッション（II）（石山）

第14回想起アイデアの発表/ディスカッション（III）（石山）

第15回COOLCHOICE弘大のアクションプランのまとめ/レポート提出（石山）

※なお、ゲストスピーカーの都合により講義順番・内容を変更する場合があります。

(17)準備学習(予習・復習)等の内容

・事前に国策COOL CHOICEの活動目標等を調べておくとともに、全国展開している様々な活動内容や組織を調べるにより重複の無い

	<p>ように独自の活動アイデアを練るようにしてください。</p> <p>・教材・参考資料は各講義において適時配布する。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会システム工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地球資源工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中に適時検討用教材を配布する。
(21)参考文献	授業中に適時参考資料を配布する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>受講態度（発表/応答時）ならびに最終レポートによる総合評価を行う。</p> <p>[平常評価] 授業への参加度、受講・討議・発表態度ならびに各回ごとのレポート提出・内容により評価する（評価全体の30%）。</p> <p>[期末評価] 最終講義後、最終レポートの提出を要請する（総合評価の70%）。特にレポート内容においては、想起活動アイデアの独自性・斬新性を評価する。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。外部への見学会を介して毎回の発表/ディスカッションを通じて独自の活動アイデアの創出に努めてください。
(25)留意点・予備知識	全国展開している様々な活動内容や組織を調べることにより重複の無いように独自の活動アイデアを練るようにしてください。
(26)オフィスアワー	月曜日17:00～17:30 理工学2号館902号室にて
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp">ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容は生活、エネルギー、環境等多岐にわたる内容であることから広くインターネット等を探索し、問題意識や国際的な情報に常日頃接していることが肝要である。</li> <li>・講義全般においては実務的実践内容を重視するため、多岐分野から講師を招聘し、実務活動紹介を実施する。</li> </ul>



## 教養教育科目

(1)整理番号	87
(2)区分番号	87
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の多様性と活性化－2020年東京オリンピックとロボット革命－ (Diversity and Revitalization in Aomori－Robotics Multi-core Project－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	石山 新太郎 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること ○青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
(15)授業の概要	本講義は、ゲストスピーカーを招聘しAIロボットや自動化技術の現状の紹介・解説を交えながら、各種分野に適応可能な独自AIロボットのニーズ開拓ならびに新技術創出を目指している。独自アイデアの発表/ディスカッションを各講義ごとに行い、これを通じて独自アイデアのブラッシュアップを行ってゆく(解決してゆく力)。
(16)授業の内容予定	・2010年東京オリンピック開催時を契機に、我が国では一般民生などにも多様なAIロボットの实用化導入が急がれている。例えば、対象物に物理的作用(例えば加工)を及ぼした結果生じた対象物の変化に対応して作業を自律的に継続できるのかという技術命題を解決できるAIロボットや現実世界と仮想世界を融合させるMR(Mixed Reality)映像技術(=コンピュータグラフィックス(CG)のみで表現されるバーチャルリアリティ(VR)から一歩進んだ複合現実の世界)を駆使することにより、遺伝子アルゴリズム(GA法)によるAI知能ロボット(GA-AI搭載型MOS制御ロボット)による宇宙・海洋・原子力・医療・農業・交通など様々な分野で活躍できるAIロボットの利用技術開発を進めている。 ・本講義では、上記各分野における当該AI制御ロボット制御技術を駆使して次世代動運転エコカー技術等に関する最新技術開発状況について各種機器装置のデモンストレーションならびに施設見学等を通じた実体験をもとにRMP技術のさらなる利用分野の開拓目として、低炭素社会の実現、教育、文化、生活、エネルギー、芸術、音楽、医療等の広範な分野か

	<p>らのニーズを聞き取りながらその新規開発分野の開拓ならびにその方向性について探索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義内容は、理工学、人文・教育、農学、医学等学生向きで、講義の進め方はワークショップ形式で装置・施設体験等を通じてそれぞれ独自の分野における新規開発分野の開拓提案を募集する。</li> <li>・本講義では青森県下において表記開発利用に関する各方面において実務的活動を行っている者をゲストスピーカーとして招聘し（青森が孕む様々な問題や青森が持つ様々な魅力を理解すること）、その技術を議論の中心として各自特異な新技術提案を行ってもらう（青森の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること）</li> </ul> <p>第1回オリエンテーション（石山）  第2回ロボテックス・マルチコア・プロジェクトの概要（石山）  第3回宇宙分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第4回海洋分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第5回原子力分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第6回医療分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第7回農業分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第8回交通分野でのAIロボットの開発ニーズと開発の現状（石山）  第9回NETトヨタ（株）ハイブリッドエコカーの紹介（中村公佳（ネットトヨタ（株）+石山）  第10回NETトヨタ（株）自動運転技術の紹介（鎌田文史（ネットトヨタ（株）+石山）  第11回青森県エコクリエイション（株）ごみ処理減容化施設におけるAIロボットニーズ（倉西実（青森エコクリエイション（株）+石山）  第12回想起アイデアの発表/ディスカッション（I）（石山）  第13回想起アイデアの発表/ディスカッション（II）（石山）  第14回想起アイデアの発表/ディスカッション（III）（石山）  第15回全体総括/レポート提出</p> <p>※ゲストスピーカーの都合により講義順番が変更になる可能性がある。  ※また、本講義はグループディスカッション制をとっているため、受講生人数が最低必要数（15名以上）を割る場合閉講となります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前にAIならびにロボット工学に関する予備知識を習得しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	ロボティクス関連
(18)学問分野2(副学問分野)	航空宇宙工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	材料工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	講義中に参考資料の紹介を随時行う。

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>受講態度（発表/ディスカッション）及び各回ならびに最終レポートを総合的に評価。          [平常評価] 授業への参加、毎回の授業における受講・討議・発表態度ならびにレポートの提出により評価（評価全体の30%）          [期末評価] 全体講義終了後、最終レポートの提出を要請する（評価全体の70%）。特にレポート内容においてはその独創性・独自性を重点的に評価する。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>基本は講義形式です。各講義ごとにグループディスカッションを交えて、独自アイデアのターゲット分野の選択ならびにアイデアのブラッシュアップに努めてください。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>最新鋭AI制御型ロボテックス関連の情報はインターネットを介して入手することができるので事前にこれらの情報を収集するとともに、それらの情報を基に独自の独創的なロボットならびにその利用方法について検討を進めておいてください。</p>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日17：00-1730          理工学2号館902号室にて</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	88
(2)区分番号	88
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の食と産業化—食生活論— (Food and Industrialization in Aomori—Eating habits theory—)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	李 秀眞(教育学部)、小野 恭子(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の強みである食について、理解すること ○食への理解をもとに、青森の食が抱える問題やさらなる飛躍に向けた方策を考察すること
(15)授業の概要	○日本の食文化の特徴および青森も食文化の特徴について考察する。 ○青森の地域課題として、青森の食が抱える問題とその解決方法について考える。 ○個人の発達段階に応じた食生活の問題点とその解決方法について考える。 ○自分の食生活を見直し、自分の食生活の問題点とその解決方法について考える。
(16)授業の内容予定	1：ガイダンス(小野・李) 2：食生活の変化(小野) 3：食文化と地域性(小野) 4：青森県の食生活とその背景(小野) 5：海外における食生活実践例(李) 6：給食からみる国別現状(李) 7：発達段階と食生活(小野) 8：青森県の特産物と食生活(小野) 9：行事食と郷土食(小野) 10：学校における食育の現状と実践例(小野) 11：成人に対する食育の現状と実践例(小野) 12：食育実践に向けたグループディスカッション(小学生を対象とした実践)(小野・李) 13：食育実践に向けたグループディスカッション(成人を対象とした実践)(小野・李) 14：食育実践に向けたグループディスカッション(高齢者を対象とした実践)(小野・李) 15：プレゼンテーション発表(小野・李)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	食育に関する実践事例を収集し、簡潔にまとめること。さらに大学生に対する食育を実践する具体的な方法について調べ、簡潔にまとめること
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料配布
(21)参考文献	石毛 直道『日本の食文化史——旧石器時代から現代まで』, 岩波書店, 2015 石川寛子, 芳賀登『郷土と行事の食』, 雄山閣出版, 1999
(22)成績評価方法及び採点基準	講義の際におけるコメント(30%)及びグループディスカッションへの参加状況(30%), レポート等(40%)を総合して評価。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義及びグループディスカッションによるグループワーク。
(25)留意点・予備知識	食文化、食育、食生活に関する資料や情報に関心を持つこと。
(26)オフィスアワー	火曜日10:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:leesujin@hirosaki-u.ac.jp">leesujin@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	89
(2)区分番号	89
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森の食と産業化－Cultural anthropology of local food and dietary practice－ (Food and Industrialization in Aomori－Cultural anthropology of local food and dietary practice－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○諏訪 淳一郎(国際連携本部)、杉山祐子(人文社会科学部)、近藤史(人文社会科学部)、平井太郎(地域社会研究科)、佐藤孝宏(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の強みである食について、理解すること ○食への理解をもとに、青森の食が抱える問題やさらなる飛躍に向けた方策を考察すること
(15)授業の概要	○青森の食の多様性について特に食文化の観点から学びます。 Diversity of Food in Aomori from a cultural point of view will be explored. ○文化資源として青森の食が持っている潜在性について、フィールドトリップの体験から学びます。 Through excursions, potential of cultural resource in Aomori local food will be explored.
(16)授業の内容予定	1. 概説 General Introduction: 2. 石川地区訪問ガイダンス(諏訪・近藤) Suwa & Kondo: Instruction for excursion 3～6. フィールドトリップ: 津軽あかつきの会訪問・サンフェスタ石川と近隣散策(諏訪・杉山・近藤) Suwa, Sugiyama & Kondo: Excursion to Tsugaru Akatsuki no Kai, Murakami & Sun Festa Ishikawa. 7. 発表1(諏訪・近藤) Suwa & Kondo: Student Presentation 8. 発表2(諏訪) Suwa: Student Presentation 9. ベジタリアンランチ(諏訪) Suwa: Vegan lunch 10. 発表1(諏訪) Suwa: Student Presentation 11. 発表2(諏訪) Suwa: Student Presentation 12. 発表3(諏訪) Suwa: Student Presentation 13. 津軽・青森における職と文化ツーリズム(平井) Hirai: Food and Cultural Tourism in Tsugaru/Aomori

	<p>14. 青森の農業におけるインターン研修について (佐藤) Sato: Technical Intern Training Program in Aomori's Agriculture</p> <p>15. まとめ (諏訪) Suwa: Conclusion</p> <p>フィールドトリップは授業4回分です。The field trip counts four class hours.</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内容と発表に関する予備知識を得、それらに関するまとめを行うこと。preparation for class materials (upon announcement), and preparation and reflection on assignments.
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生産環境農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なしNone.
(21)参考文献	適宜授業で紹介します。TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	発表80%、レポート10%、授業参加10% Presentation (80), reflection paper (10) and productive participation (10).
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	野外学習があります。 Outdoor activity included.
(25)留意点・予備知識	発表を含む授業のすべてを英語で行います。English is the standard regardless of number of Japanese natives. 履修制限あります(特別聴講学生を含めて20名以内)。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	90
(2)区分番号	90
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	市民参加と地域づくりー津軽地域の医療者と患者のケアリングー (Citizen Participation and Regional Construction—Caring and the relationship between medical staff and patient in the Tsugaru area—)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○工藤 せい子(保健学研究科)、佐藤 真由美(保健学研究科)、工藤 ひろみ(保健学研究科)、諸岡道比古(弘前大学名誉教授非常勤講師)、ゲストスピーカー2名
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○市民参加の観点から地域づくりについて理解すること ○市民参加・地域づくりへの理解を元に、青森における市民参加による地域作りの可能性について考察すること
(15)授業の概要	医学部(医学科・保健学科)の学生の受講を期待する 津軽の患者会での活動を通じた医療者と患者で育むケアリングについて、ケアリングという理論ができた経緯と概要について述べる。 慢性疾患(リウマチ)とともに30年以上歩んできたクライアントをゲストに迎え、医療者の在り方、ひいては人としての在り方を考える。生き方・死生観については、宗教哲学専門の非常勤講師を迎えて、具体的な事例を紹介しながら、様々な事象において「生きるとは何か」「死ぬ」とはどういうことか、考えることができる。また、人生観や死生観について「語り合い」、学生自らの生き方を見つめなおす。津軽というこの地域から慢性の疾患を抱えて生きてきた市民を参加させることで、生きること、死ぬこと、そして、ケアリングという概念の明確化を目指す。  ・医療従事者には欠かせないケアリングとはなにかが解る(解決していく力) ・慢性疾患を持った市民を参加させることで、医療従事者のあり方が解る(解決していく力) ・「生きる」とはどういうことか考えることができる(解決していく力) ・「死ぬ」とはどういうことか考えることができる(解決していく力)
(16)授業の内容予定	第1回 4月15日 オリエンテーション(工藤せい子、佐藤真由美) 第2回 4月22日 ケアリングという理論ができた経緯とケアリングとは何か(同上)



	<p>第3回 5月11日 ケアリング倫理の提唱者とケアリングの理論家について(同上)</p> <p>第4回 5月13日 慢性疾患とともに歩んだ患者と医療者とのケアリング(同上)</p> <p>第5回 5月20日 慢性疾患とともに歩んだクライアント(同上)</p> <p>(演習活動含む)(同上、ゲストスピーカー：鈴木純子さん)</p> <p>第6回 5月27日 慢性疾患とともに歩んだクライアント(同上)</p> <p>(演習活動含む)(同上、ゲストスピーカー：浅瀬石のり子さん)</p> <p>第7回 6月3日 死について考える(演習活動)(工藤せい子、佐藤真由美、諸岡道比古)</p> <p>第8回 6月10日 死を通してみた生を考える(死生観とは)(諸岡道比古)</p> <p>第9回 6月17日 科学は生き方を与えられるか(科学と哲学)(同上)</p> <p>第10回 6月24日 具体的事例から死を考える(死生観の諸相：岸本英夫)(同上)</p> <p>第11回 7月1日 具体的事例から死を考える(死生観の諸相：北原怜子)(同上)</p> <p>第12回 7月8日 看護学生と死について語る(講義)(工藤せい子、佐藤真由美)</p> <p>第13回 7月18日 具体的事例から死を考える(死生観の諸相：中村久子)(諸岡道比古)</p> <p>第14回 7月22日 生きることとは(諸岡道比古)</p> <p>第15回 7月29日 生きることとは(諸岡道比古)</p> <p>第16回 8月5日 レポート作成(演習活動)(工藤せい子、佐藤真由美)</p> <p>※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	紹介された引用・参考文献を読むことを勧めます
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	言語学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	随時配布または提示します
(21)参考文献	第2回目に紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度。演習活動と授業内容に対するリアクションなど、単なる出席回数ではない 評価全体の30%) 期末評価(理解度の確認70%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です 演習活動①：4~5名を1グループとして、死について語ってもらう 演習活動②：ゲストスピーカーを迎え、長期的の病気体験を語ってもらい、それに対して、学生の立場から自由に質疑応答を行ってもらう
(25)留意点・予備知識	演習活動に積極的に参加することを望みます
(26)オフィスアワー	随時メールで予約お願いします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	

	工藤せい子 : <a href="mailto:seikoku@hirosaki-u.ac.jp">seikoku@hirosaki-u.ac.jp</a> 佐藤真由美 : <a href="mailto:sato-ma@hirosaki-u.ac.jp">sato-ma@hirosaki-u.ac.jp</a> 諸岡道比古 : <a href="mailto:morooka@hirosaki-u.ac.jp">morooka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	臨床で体験した事例やリウマチ患者の会での体験を通して、臨場感のある講義になるよう工夫しています

教養教育科目

(1)整理番号	91
(2)区分番号	91
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	市民参加と地域づくりー若者の政治参加ー (Citizen Participation and Regional Construction-The Youth Participation in Politics-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	森本 洋介 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○市民参加の観点から地域づくりについて理解すること ○市民参加・地域づくりへの理解を元に、青森における市民参加による地域作りの可能性について考察すること
(15)授業の概要	・全国的に課題となっている若者の政治参加のあり方について、青森県の若者の政治参加の向上を念頭に置いて学ぶ。 ・若者の政治がなぜ低いのかを多面的に考察する (CP・DP2 解決する力)。 ・そもそも民主主義とは何か、なぜ若者が政治参加することが重要なのか、学校における政治的中立性とは何か、主権者教育はどうあるべきか、などといった現代の課題についても学習し、自分なりの回答を導き出す (CP・DP2 解決する力)。 ・テレビ、新聞、SNSといったメディアによる情報の伝え方についても多面的に解釈する能力 (メディア・リテラシー) を、演習を通して身に付ける (CP・DP2 解決する力)。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 (全国・青森の) 若者の「低投票率」について考える 第3回 民主主義とは何か (これまでの教育でどのように習ってきたか) 第4回 主権者教育について考える 第5回 学校における政治的中立性のあり方とは 第6回 青森県における若者の政治参加について (ゲスト講演) 第7回 メディア・リテラシーとは何か 第8回 メディア言語について学ぶ 第9回 メディアは構成されている 第10回 メディアは「現実」である 第11回 メディア・テキストの背景について考える 第12回 青森県の若者の政治参加向上を目指す提案を考える (活動の説明) 第13回 青森県の若者の政治参加向上を目指す提案を考える (調査) 第14回 青森県の若者の政治参加向上を目指す提案を考える (発表資料作成) 第15回 青森県の若者の政治参加向上に関する提案を発表する ※受講者数によっては計画を変更する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として、各回の授業前にそのテーマについて自分なりに調べてくること (毎回授業の導入として受講者から話題提供を行います)。日ごろからネットニュースだけでなく、新聞やテレビなどの政治・社会的な話題について幅広く情報を収集しておくこと。特に青森県の情報については意識するようしておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。適宜指示する。
(21)参考文献	・長谷川一・村田麻里子編著『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』2015年9月10日、三省堂 ・森本洋介、岡井寿美代、久保敬「小学生～高校生向け ネット時代のメディア・リテラシー教材」第6回鈴木みどりメディア・リテラシー研究基金研究助成金成果報告書、2013年3月31日、 <a href="http://www.mlpj.org/cv/bun_shtml">http://www.mlpj.org/cv/bun_shtml</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (毎回の授業における発表や提出物など) 50%、期末評価 (最終課題) 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的にグループワーク等を入れながら補足的に講義を行うが、ゲストによる講演や講義なども授業内容によって実施する。
(25)留意点・予備知識	・本授業ではその回のテーマについて自分たちで調べたり、話し合ったりすることが授業の進め方になります。 ・授業第12～14回はグループで調査およびその整理を行う時間です。第15回は各グループが発表します (動画、パワーポイントや模造紙など)。成果について青森県選挙管理委員会事務局に送る予定です。
(26)オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) <a href="http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=1653&amp;head=&amp;hid=&amp;sid=&amp;rev=1&amp;ssid=&amp;fvid=18701&amp;text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&amp;ca1">http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=1653&amp;head=&amp;hid=&amp;sid=&amp;rev=1&amp;ssid=&amp;fvid=18701&amp;text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&amp;ca1</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	92
(2)区分番号	92
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	市民参加と地域づくりーまち育てのススメー (Citizen Participation and Regional Construction—Encouragement for Community Management—)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	北原 啓司(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○市民参加の観点から地域づくりについて理解すること ○市民参加・地域づくりへの理解を元に、青森における市民参加による地域作りの可能性について考察すること
(15)授業の概要	○まち育てについて学びます。 ○復興まちづくりの現場について学びます。 ○公共によるまち育てについて、地方自治の仕組みや市民参加の計画づくり、地域公共交通、エリアマネジメント等の事例を学びます。
(16)授業の内容予定	<p>まちを大きくすることを目標としてきた価値観から、つくったものをどのように上手く使い、しかも育て続けていけるかという価値観にシフトしつつある現在、一度形づくられた都市を、改めて「編集」していくといったまち育てについて学んでいきます。</p> <p>こうしたまち育てにおいては、まちを「たべる人」でありながら「つくる人」となり参加していくといった、「新しい公共」がキーワードとなります。本講義では、新しい公共によるまち育てについて、新たな地方自治の仕組みや市民参加の計画づくり、地域公共交通、エリアマネジメント等の事例から習得していきます。</p> <p>また実際に関与している復興まちづくりの現場に関する講義も実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションーまち育てのススメー</li> <li>2 成長社会のまちづくりから成熟社会のまち育てへ</li> <li>3 まちをつくる人とたべる人</li> <li>4 「空間」を「場所」に変えるまち育て</li> <li>5 新しい公共による参加とは</li> <li>6 津軽におけるまちを育てる参加</li> <li>7 高齢社会における居住政策</li> <li>8 景観まちづくりと参加</li> <li>9 震災復興まちづくり(1)ープレ復興</li> </ol>

	<p>－</p> <p>10 震災復興まちづくり (2)－ポスト復興</p> <p>－</p> <p>11 「場所」と「交通」を生み出す新しい公共</p> <p>12 参加型まちづくりの実践</p> <p>13 「空間」を「場所」に変えるマネジメント (1)－公と私の複合－</p> <p>14 「空間」を「場所」に変えるマネジメント (2)－所有から利用へ－</p> <p>15 弘前・黒石のまち育て</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の講義内容を踏まえ、様々なまちづくりの取組事例等を調査・考察し、ワークショップ的演習及び期末レポート作成に備えること
(18)学問分野1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	北原啓司、「空間」を「場所」に変えるまち育て－まちの創造的編集とは－、2018年、萌文社
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（各講義後半のワークショップ発表等）：15%、期末評価（期末レポート）：85%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回、70分程度、講義を行い、その後各テーマについてのワークショップ的演習を実施する
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	93
(2)区分番号	93
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカーションー陸奥湾の生物学ー (Excursions in Aomori-Marine Biology in Mutsu Bayー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○大高 明史(教育学部)、美濃川 拓哉 (東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター 准教授)(非常勤講師)、藤本 心太(東北 大学浅虫海洋生物学教育研究センター助教) (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然 について、探求していくことができるように なること
(15)授業の概要	○ 陸奥湾での生物調査を通して、野外観察 の方法と危険回避の方法を身につける。 ○ 野外および実験室で陸奥湾の生物を観察 し、海洋生物生物についての理解を深める。 ○ 浅虫水族館を訪問し、陸奥湾の特徴とそ の生物学的特性について学ぶ。
(16)授業の内容予定	事前ガイダンス(1回分) 1日目(9月16日): 昼にセンターに集合。ウ ニの発生に関する講義と発生実験(3回分) 2日目(9月17日):ウニの採集と発生の観察 (4回分) 3日目(9月18日):陸奥湾の動物の多様性に関 する講義、海岸生物の採集と観察(4回分) 4日目(9月19日):海岸動物の観察、浅虫水族 館訪問(3回分)。 天候によっては、内容や順序を変更するこ とがあります
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	陸奥湾の生物群集の特徴や棘皮動物の初期発 生について、事前に学習しておいてくださ い。陸奥湾の生物については、センターのHP が参考になります。 <a href="http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/">http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab- www/asamushi/</a> 棘皮動物の発生については、高等学校の教科 書や図表集が参考になります。
(18)学問分野1(主学問分野)	水圏応用科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	実習時に紹介します。図鑑類を含みます。
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>実習時の取り組み(評価全体の50%) レポート(理解度および意欲の確認, 50%) 上記を合算して成績評価を行います。</p>	同
(23)授業形式	演習	
(24)授業形態・授業方法	野外実習, 実験室での顕微鏡観察, 講義, 浅虫水族館訪問を含みます。実習の区切りごとにまとめの時間を設けます。	
(25)留意点・予備知識	<p>高等学校での生物の履修履歴は不問。泳げなくても履修可能です。</p> <p>実験室のスペースの関係で, 履修人数は20名を上限とします。希望者多数の場合は抽選を行ったのち, メールによる確認を経て履修を決定します。履修者が決定したら, 事前に弘前大学内で, 実験や観察のための1時間ほどのガイダンスを行います。</p> <p>センターまでの交通費(電車で往復2240円; 自家用車の利用も可)と食費(期間中の合計3560円)シーツ類のクリーニング代(410円)は学生の実費負担です。学生傷害保険に加入している必要があります。野外(海中を含む)での活動に適した服装と装備が必要です。具体的には, 後日, 指示します。</p>	
(26)オフィスアワー	月曜日9・10時限	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ohata@hirosaki-u.ac.jp">ohata@hirosaki-u.ac.jp</a>	
(28)その他	履修の決定(4月)から実習(9月)まで間があります。この間, 夏休みを利用して海に出かけることをおすすめします。	

## 教養教育科目

(1)整理番号	94
(2)区分番号	94
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー津軽平野の自然と人間生活ー (Excursions in AomoriーExcursion for nature and human life in Tsugaru Plainー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○小岩 直人(教育学部)、高橋 未央(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	・津軽平野の特色を地理学的な観点で解説、その後、地形図や空中写真を使った地理的な調査を室内で実施した上で、津軽平野西部の巡検を実施します(バスを利用)。 ・各自が調査した結果を持ちいて津軽平野に生活する人々の今後の課題について議論を行います。 ・このような調査をもとに、地理学的な観点から、自然の成り立ち、および自然と人間生活と関係をふまえて、地域を理解する能力を養います。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 津軽平野とは？ 3. 津軽平野の気候環境 4. 空中写真判読ー台地ー 5. 空中写真判読ー低地ー 6. 岩木川下流部の地形 7. 白神山地の自然環境 8. 空中写真判読ー白神山地ー 9. 現地調査 1 10. 現地調査 2 11. 現地調査 3 12. 調査結果整理 1 13. 調査結果整理 2 14. 成果発表会 1 15. 成果発表会 2
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各授業時に理解できなかった内容は復習を必ずすること、また、終了できなかった作業がある場合には必ず次回までに仕上げておくことが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	防災工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-



(20)教材・教科書	特に指定はしません
(21)参考文献	授業中に紹介する予定です.
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート（60%），発表等（40%）によります.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・演習・野外実習
(25)留意点・予備知識	野外巡検に参加できない場合は，単位取得が不可能となります．鉛筆（6色程度）を各自で準備してください．
(26)オフィスアワー	水曜日 10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:koiwa@hirosaki-u.ac.jp">koiwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	95
(2)区分番号	95
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の農の可能性① － (Excursions in Aomori－The Future of Agriculture based on the Practices of Aomori－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	平井 太郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて鱒ヶ沢の例に即して学ぶ。 ・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の概要説明 第2回 講義 都市農村共生の現在 鱒ヶ沢の事例に即しながら 第3-7回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加 (1) 第8-12回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加 (2) 第13-15回 総括と展望 (1) 鱒ヶ沢都市農村共生プログラムは年間7-8回、土休日を中心に行われおり、受講者はこのうち希望する2日分、参加する。 (2) プログラムは1日が朝9時(変動あり)から夕方5時までであり、1日参加することにより5回分(1.5時間×5回=7.5時間)と見なす。 (3) 「総括と展望」では、教員とプログラム関係者(町役場・農場・参加学生等)に対して、受講者の経験や知見をプレゼンテーションしてもらい意見交換する。 ○ 青森県鱒ヶ沢町では2009年から大都市(東京)の会社員や学生に農業体験の機会を提供する試みが続いている。多くの学生はその後も継続して鱒ヶ沢に通い、うち1名は移住してくるなど一定の成功を収めつつある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕 概要説明と講義を踏まえ(1)農業法人経営、(2)農産物直販、(3)6次産業化、(4)自然エネルギー(再生可能エネルギー)といったキーワードについて習得しておく。 〔復習〕 参加したプログラムについて、(1)いつ、どこで何をした(聞いたか)、(2)(1)について具体的な数値(何分間に何をどれくらいの

	量行い、どう貨幣換算されるか)を挙げて記録しておく。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会経済農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業に対する参加度(8割)と「総括と展望」プレゼンテーション(2割)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と実習、プレゼンテーション
(25)留意点・予備知識	学生保険加入を履修の条件とする。
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	96
(2)区分番号	96
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の農の可能性② ー (Excursions in AomoriーThe Future of Agriculture based on the Practices of Aomoriー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	平井 太郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて鱒ヶ沢の例に即して学ぶ。 ・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の概要説明 第2回 講義 都市農村共生の現在 鱒ヶ沢の事例に即しながら 第3-7回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加 (1) 第8-12回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加 (2) 第13-15回 総括と展望 (1) 鱒ヶ沢都市農村共生プログラムは年間7-8回、土休日を中心に行われおり、受講者はこのうち希望する2日分、参加する。 (2) プログラムは1日が朝9時(変動あり)から夕方5時までであり、1日参加することにより5回分(1.5時間×5回=7.5時間)と見なす。 (3) 「総括と展望」では、教員とプログラム関係者(町役場・農場・参加学生等)に対して、受講者の経験や知見をプレゼンテーションしてもらい意見交換する。 ○ 青森県鱒ヶ沢町では2009年から大都市(東京)の会社員や学生に農業体験の機会を提供する試みが続いている。多くの学生はその後継続して鱒ヶ沢に通い、うち1名は移住してくるなど一定の成功を収めつつある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕 概要説明と講義を踏まえ(1)農業法人経営、(2)農産物直販、(3)6次産業化、(4)自然エネルギー(再生可能エネルギー)といったキーワードについて習得しておく。 〔復習〕 参加したプログラムについて、(1)いつ、どこで何をした(聞いたか)、(2)(1)について具体的な数値(何分間に何をどれくらいの

	量行い、どう貨幣換算されるか)を挙げて記録しておく。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会経済農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業に対する参加度(8割)と「総括と展望」プレゼンテーション(2割)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と実習、プレゼンテーション
(25)留意点・予備知識	学生保険加入を履修の条件とする。
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	97
(2)区分番号	97
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンーコミュニティと地域活動ー (Excursions in Aomoriー Introduction to local activitiesー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	近藤 史 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	<p>・この授業では、現代の都市と農村が抱える問題解決策としての都市農村共生プログラムについて、鱒ヶ沢の例(※)に即して学びます。</p> <p>・受講者自身がこのプログラムに参加し、農業生産法人で農作業を体験するとともに、現場で農家や他大学の学生、大都市の企業・団体の職員などと意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議・提案します。</p> <p>※青森県鱒ヶ沢町では2009年から大都市(東京)の会社員や学生に農業体験の機会を提供する試みが続いている。多くの学生はその後も継続して鱒ヶ沢に通い、うち1名は移住してくるなど一定の成功を収めつつある。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業の概要説明 第2回 講義 都市農村共生の現在 鱒ヶ沢の事例に即しながら 第3-7回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加(1) 第8-12回 鱒ヶ沢 都市農村共生プログラムへの参加(2) 第13-15回 総括と展望</p> <p>(1) 鱒ヶ沢都市農村共生プログラムは年間7-8回、土休日を中心に行われおり、受講者はこのうち希望する2日分、参加する。</p> <p>(2) プログラムは1日が朝9時(変動あり)から夕方5時までであり、1日参加することにより5回分(1.5時間×5回=7.5時間)と見なす。</p> <p>(3) 「総括と展望」では、教員とプログラム関係者(町役場・農場・参加学生等)に対して、受講者の経験や知見をプレゼンテーションしてもらい意見交換する。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 概要説明と講義をふまえ、(1) 農業法人経営、(2) 都市農村交流、(3) 田んぼ

	<p>や果樹のオーナー制度、(4) 六次産業化、といったキーワードについて学習しておく。          [復習] 参加したプログラムについて、(1) いつ、どこで、何をしたか(聞いたか)、          (2) (1) について具体的な名称や数値(何人で何時間かけて、何の作業を何ヘクタールおこなったか、それによって将来得られる収穫量や現金収入はどれくらいか、など)をあげて記録しておく。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業に対する参加度(8割)と「総括と展望」プレゼンテーション(2割)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と実習、プレゼンテーション
(25)留意点・予備知識	(1) 学生教育研究災害傷害保険と(2) 学研災付帯賠償責任保険への加入を履修の条件とする
(26)オフィスアワー	<a href="mailto:fumi.k@hirosaki-u.ac.jp">fumi.k@hirosaki-u.ac.jp</a> に問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:fumi.k@hirosaki-u.ac.jp">fumi.k@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	98
(2)区分番号	98
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森県の企業の魅力を発信①ー (Excursions in Aomoriー Transmission of attractive company in Aomoriー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小寺 将太 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ取材を行い、現地調査のスキルを身につけていきます ○各学部之力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力を記事を作成して発信していきます ○青森県内の企業の魅力を発信する実践を通して、県内企業の発信力が低いという課題を解決していくことが本講義の目的です
(16)授業の内容予定	1. 青森県内の企業・業界を知る期間 (4回) (4/15. 4/22. 5/13. 5/27) 第1回 青森県内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる① 第2回 青森県内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる② 第3回 業種・職種の違いを知り自分の興味がある企業を調べる 第4回 弘前市内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる 2. 取材の準備期間～取材スキルを身につける!～ (4回) (6/10. 6/24. 7/8. 7/22) 第5回 取材の方法論を学ぶ 第6回 取材先の下調べと質問項目づくり① 第7回 質問項目づくり② 第8回 取材のシュミレーション (取材のリスク管理編) 3. 実際に企業に訪問し、取材を実践する期間 (3回) (8/9を予定) 第9回～11回 実際に企業を訪れ、インタビューし情報をまとめる 4. 記事を作成し、まとめていく期間 (4回) (8/10を予定) 第12回～15回 記事の書き方を学び、取材結果の記事としてまとめていきいき



	<p>ます。 最後にプレゼン大会を実施し、発表して いきます</p> <p>※1、2に関しては隔週で実施します。 ※3、4に関しては8月中に2日間の集中講 義として実施します（オリエンテーション時 に相談しながら決定）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間は、チームを組み、ワークショップ形式で行ないます。予習・復習として、チームの中で設定した課題に取り組み、資料等を準備してくる必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度とチームへの貢献度（60%）、記事の完成度（40%）で成績判定を行ないます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ワークショップ・グループワーク形式
(25)留意点・予備知識	学生賠償責任保険への加入が必須です。また、コンピューターの持参を推奨します。
(26)オフィスアワー	随時、メールにて受け付けます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:odesho316@gmail.com">odesho316@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	99
(2)区分番号	99
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森県の企業の魅力を発信②ー (Excursions in Aomoriー Transmission of attractive company in Aomoriー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小寺 将太 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ調査を行い、現地調査のスキルを身につけていきます ○各学部の力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力をどのように発信していけばよいか解決策を企画・提案していきます ○青森県内の企業の魅力を発信する企画の実践を通して、県内企業が抱える課題を解決していくことが本講義の目的です
(16)授業の内容予定	1. 青森県内の企業を知る期間 (4回) (10/4.10/11.10/18.11/1) 青森県の魅力的な企業を様々なツール (県内企業を紹介する雑誌やWEB) を用いて調べる 第1回 青森県内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる① 第2回 青森県内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる② 第3回 業種・職種から自分の興味がある企業を調べる 第4回 弘前市内の企業の魅力を様々なツールを用いて調べる  2. 調査のスキルや方法や発信方法を学ぶ期間 (4回) (11/15.11/29.12/6.12/20) 取材に必要なスキル (質問項目立て、インタビューの方法等)、プレゼン資料をまとめる方法を学ぶ 第5回 取材の方法論&発信方法を学ぶ 第6回 取材先の下調べ&質問項目づくり① 第7回 質問項目づくり② 第8回 取材のシュミレーション (リスク管理編)  3. 実際に企業に訪問し、取材を実践する期間 (3回) (12/26を予定)

	<p>第9回～11回 実際に企業を訪れ、インタビューし情報をまとめる</p> <p>4. 発信ツールを作成し、プレゼン実践期間(4回)(1/11を予定)</p> <p>第12回～15回 県内企業の魅力を他の学生に伝えるにはどうすればよいかを考え、プレゼン資料を作成する</p> <p>また、簡易な副次的ツールを作成し、プレゼンとして発表する</p> <p>※1, 2に関しては隔週で実施します  ※3, 4に関しては12月、1月で集中講義として実施します(オリエンテーション時に相談しながら決定)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間は、チームを組み、ワークショップ形式で行ないます。予習・復習として、チームの中で設定した課題に取り組み、資料等を準備してくる必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度とチームでの貢献度(60%)、プレゼン資料及び発信ツールの完成度(40%)で成績判定を行ないます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ワークショップ・グループワーク形式
(25)留意点・予備知識	学生賠償責任保険への加入が必須です。また、コンピューターの持参を推奨します。
(26)オフィスアワー	随時、メールにて受け付けます
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	odesho316@gmail.com
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	100
(2)区分番号	100
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカーションーResearch in communal sustainabilityー (Excursions in AomoriーResearch in communal sustainabilityー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○現地調査のノウハウを身につけること</p> <p>○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○個別の課題を設定して調査し、それをドキュメントする方法について学びます。</p> <p>Documentation skill will be acquired through individually designed research project.</p> <p>○調査対象を青森周辺に設定することによって、幅広い角度から地域の生活などについて学びます。</p> <p>local ways of life will be learned from various angles through field research in Aomori.</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概説 Introduction</li> <li>2. フィールドワークとは何か What is fieldwork?</li> <li>3. フィールドワークの具体的手法 Specific ways of field work</li> <li>4. 調査計画：どのようにして課題と調査対象を設定するのか Reserach outline: How to set it up</li> <li>5. 調査計画の指導① Instruction for the plan</li> <li>6. 調査計画の指導② Instruction for the plan</li> <li>7. トラベローグの手法 Travelogue</li> <li>8. 映像民族誌の手法 Visual ethnography</li> <li>9. 民族誌の手法 Ethnography</li> <li>10. ライフヒストリーの手法 Life history</li> <li>11. 調査倫理とラポール Ethics and rapport</li> <li>12. 社会の持続性とは何か What is a sustainable society?</li> <li>13. フィールドワークとタビ Fieldwork and travelling</li> <li>14. 発表(1) Presentation</li> <li>15. 発表(2) Presentation</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	個人のプロジェクト遂行にあたっての事前準備と授業で受けた指導の飲み込みが必須となります。

	Individual effort for presentation is indispensable aside from online or archival researches.
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし。None.
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	フィールドワークの成果物 100% Field project (100)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	導入のための講義Introduction 40%、課題指導Individual coaching 30%、授業時間内の作業In-class work 30%
(25)留意点・予備知識	学生の要望によって授業を英語で行うことがあります。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	suwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	101
(2)区分番号	101
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンーMaking ethnography of local issuesー (Excursions in Aomoriー Making ethnography of local issuesー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○現地調査のノウハウを身につけること</p> <p>○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○地域の生活に関する個別の関心に基づいた民族誌的調査を設計し、それを土台にフィールド調査を行います。</p> <p>Student is expected to design and conduct an ethnographic research on local lives of any particular topic chosen by student.</p> <p>○授業の最後には、調査結果をもとに文章またはビジュアルによる民族誌的な報告を取りまとめられます。</p> <p>The result of reach must be completed in the forms of an ethnographic report in writing or visual representation.</p>
(16)授業の内容予定	<p>1. 序：フィールドワークの思考 Introduction of ideas of fieldwork</p> <p>2. 民族誌データを集めるための方法論 Summary for conducting research with ethnographic data</p> <p>3. 調査計画を作成するための指導：アウトラインを作成する Research outlines</p> <p>4. 作成したアウトラインについての講評 Comments on research outline</p> <p>5. 作成したアウトラインについての指導 Instruction for improvement of research outline</p> <p>6. 調査内容を熟成させるための指導：段階 ① Instruction for ripening research contents</p> <p>7. 調査内容を熟成させるための指導：段階 ② Instruction for ripening research contents</p> <p>8. 偶然の連続としてのフィールドワーク Fieldwork as a series of chances</p> <p>9. フィールドデータを表現するために In order for expressing field data</p> <p>10. 学生の進捗状況に応じた集団及び個別指導：段階① Group and individual consultation</p> <p>11. 学生の進捗状況に応じた集団及び個別</p>

	指導：段階② Ditto 1 2. 学生の進捗状況に応じた集団及び個別 指導：段階③ Ditto 1 3. 学生の進捗状況に応じた集団及び個別 指導：段階④ Ditto 1 4. 学生の進捗状況に応じた集団及び個別 指導：段階⑤ Ditto 1 5. 発表 Presentation
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業や指導の内容をノートにとり、 フィールドワークのために覚えておいてくだ さい。 Please take note all the instruction and suggestions for a better fieldwork.
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし。 None.
(21)参考文献	授業で紹介します。 TBA
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加10%、課題90% Participation 10% and ethnography 90%.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業時間にかかわらず個人でフィールドワー クをしてもらいます。 Instruction and research activity.
(25)留意点・予備知識	You can receive instruction and submit ethnography in English. 履修制限あります(10名以内)。
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目(要予約)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	102
(2)区分番号	102
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー北日本の民俗芸能・祭りー (Excursions in AomoriーFolk Performing Arts and Festivals in Northern Japanー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	下田 雄次 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○現地調査のノウハウを身につけること</p> <p>○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○青森県を中心として、各地の民俗芸能や祭りに関わる人々の姿に触れます。</p> <p>○当事者の立場に立脚した視座を獲得しながら、各地域においてこれらの文化がもつ意味や社会的機能、人々の考え方や価値観などについて理解を深めてゆきます。</p> <p>○各地の民俗芸能や祭りがどのような受け継がれ、実践されているか、どのような意味や価値、魅力、あるいは課題や展望が認識されているか等といった点に着目しながら、地域の人々の生活の営みの中にある存在として、これらの文化を捉え、考えてゆきます。</p> <p>○この授業では、映像や音声を用いた現場の状況説明を基本にして各地の事例を見てゆきます。</p> <p>○各地における調査の方法に触れながら、現地調査についても学びます。</p> <p>○祭囃子や芸能の所作などの体験学習も行います。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本授業の概要説明と北日本の芸能・祭について (概要)</li> <li>2 青森県の芸能・祭について (概要)</li> <li>3 地域の芸能・祭り (津軽地方の「岩木山の登拝行事」を事例に。)</li> <li>4 地域の芸能・祭り (津軽地方の「虫送り行事」を事例に。)</li> <li>5 地域の芸能・祭り (七戸町の「盆踊り」を事例に。)</li> <li>6 地域の芸能・祭り (七戸町の「剣舞踊り」を事例に。)</li> <li>7 振り返りとディスカッション</li> <li>8 地域の芸能・祭り (弘前市岩木地区の「獅子踊り」を事例に。)</li> <li>9 地域の芸能・祭り (津軽地方の「ネプタ」を事例に。)</li> <li>10 地域の芸能・祭り (津軽地方の「祭囃子」を事例に。)</li> </ol>



	<p>11 地域の芸能・祭り（岩手県気仙地方の「権現舞」を事例に。）</p> <p>12 振り返りとディスカッション</p> <p>13 まとめ</p> <p>14 テーマを設定したディスカッション。</p> <p>15 テーマを設定したディスカッション。</p> <p>16 振り返りと試験</p> <p>*最新の事例を盛り込んだり要望に応えたりする際に、内容予定を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示をします。
(18)学問分野1(主学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて資料を配付
(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 6割（授業への参加度や、リアクションペーパーの内容に基づきます。RPは各自なりの問題意識に基づいて書かれたものをとくに評価します。）</p> <p>期末評価 4割（理解度の確認）</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	祭囃子や芸能の所作などの体験学習、映像の視聴、ディスカッション、リアクションペーパーの活用、講義など。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	特にありません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:yui.s.jpn@gmail.com">yui.s.jpn@gmail.com</a> <a href="https://hokubunken.iimdo.com/">https://hokubunken.iimdo.com/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	103
(2)区分番号	103
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー津軽の歴史を辿る① － (Excursions in Aomori－Follow the history of Tsugarui－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	小田桐 睦弥 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	津軽地域の歴史、特に近世（江戸時代）について、座学で概要を学びます。 その後、各自で歴史に関する学習テーマを設定します。歴史研究や、施設のありかたなど現代的なテーマも期待します。博物館や図書館などの施設を活用したり、町歩きをしながら、そのテーマについての解決策を模索します。 その上で、ポスターセッションもしくはオーラル発表形式（パワーポイント可）で、発表会とディスカッションを行います。積極的な質疑応答を期待します。
(16)授業の内容予定	1～4回（1日目） オリエンテーション／津軽の歴史を学ぶ（講義室で座学形式） 5～7回（2日目） テーマ設定／グループ分け／ディスカッション／見学施設の設定（講義室で作業） 8～11回（3日目） 施設見学／町歩き／ディスカッション（現地集合・現地解散） 12～14回（4日目） 発表準備（講義室で作業） 15回（5日目） 発表会（講義室で発表会）  ※それぞれの日程は連続しない可能性があります（1～3日目が連続する3日間、翌週4～5日目の2日間など）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として、以下に示した参考文献のうち最低1冊を読んでおくようにしてください。発表準備が4日目に終わらなかったグループは、5日目までに完成するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	長谷川成一ほか編『青森県の歴史』（山川出版社・2012年）、長谷川成一『弘前藩』（吉川弘文館・2004年）、本田伸『弘前藩』（現代書館・2008年）→全て大学図書館にあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（受講の様子を考慮します）4割、ディスカッション・フィールドワーク3割、発表会3割を目途に総合評価を行います。 必要に応じて、レポート課題を課す場合があります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	座学、フィールドワーク、ディスカッション、発表会
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日当たりのコマ数が多いので欠席すると次の日に内容が分からなくなります。欠席をしないようにしてください。1日目に欠席した学生はその後の受講を認めません。</li> <li>・フィールドワークの際は雨天決行しますので、雨具等の準備、暑さ・寒さ対策をしてください。昼食休憩をとりますので、外食するか持参する場合は飲食可能な場所で食事をするようにしてください。</li> <li>・発表はポスターセッション（手書き・印刷どちらも可）もしくはオーラル発表形式（レジメ配布・パワーポイントどちらも可）とします。発表会までに受講生の多数決で発表の方法を決定したいと思います。</li> <li>・詳しい時間や日程は掲示しますので、掲示板を見るようにしてください。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	特に設定しませんが、メールなどでの問い合わせに応じます。 ※メール送信の際の注意事項（青森エクスカッションの受講生であること、学籍番号・氏名を明記してください） 講義内容に関する問い合わせ以外（受講の可否など）は教務課にお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mutsumi.o.shiraiishiあっとgmail.com（あつとを@に変更してください）
(28)その他	施設見学の入館料は各自払いになります。4日目に金額をお知らせしますので、4～5日目に支払いをお願いします。学生料金の適用される場所も多いので、学生証を持参してください。  最後の発表会の準備とパワーポイントの作成などにパソコンを使用します。各グループで1名以上の持参が必要です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	104
(2)区分番号	104
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカーションー津軽の歴史を辿る② － (Excursions in Aomori－Follow the history of Tsugaru－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	小田桐 睦弥 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	津軽地域の歴史、特に近世（江戸時代）について、座学で概要を学びます。 その後、各自で歴史に関する学習テーマを設定します。歴史研究や、施設のありかたなど現代的なテーマも期待します。博物館や図書館などの施設を活用したり、町歩きをしながら、そのテーマについての解決策を模索します。 その上で、ポスターセッションもしくはオーラル発表形式（パワーポイント可）で、発表会とディスカッションを行います。積極的な質疑応答を期待します。
(16)授業の内容予定	1～4回（1日目） オリエンテーション／津軽の歴史を学ぶ（講義室で座学形式） 5～7回（2日目） テーマ設定／グループ分け／ディスカッション／見学施設の設定（講義室で作業） 8～11回（3日目） 施設見学／町歩き／ディスカッション（現地集合・現地解散） 12～14回（4日目） 発表準備（講義室で作業） 15回（5日目） 発表会（講義室で発表会）  ※それぞれの日程は連続しない可能性があります（1～3日目が連続する3日間、翌週4～5日目の2日間など）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として、以下に示した参考文献のうち最低1冊を読んでおくようにしてください。発表準備が4日目に終わらなかったグループは、5日目までに完成するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	長谷川成一ほか編『青森県の歴史』（山川出版社・2012年）、長谷川成一『弘前藩』（吉川弘文館・2004年）、本田伸『弘前藩』（現代書館・2008年）→全て大学図書館にあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（受講の様子を考慮します）4割、ディスカッション・フィールドワーク3割、発表会3割を目途に総合評価を行います。 必要に応じて、レポート課題を課す場合があります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	座学、フィールドワーク、ディスカッション、発表会
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日当たりのコマ数が多いので欠席すると次の日に内容が分からなくなります。欠席をしないようにしてください。1日目に欠席した学生はその後の受講を認めません。</li> <li>・フィールドワークの際は雨天決行しますので、雨具等の準備、暑さ・寒さ対策をしてください。昼食休憩をとりますので、外食するか持参する場合は飲食可能な場所で食事をするようにしてください。</li> <li>・発表はポスターセッション（手書き・印刷どちらも可）もしくはオーラル発表形式（レジメ配布・パワーポイントどちらも可）とします。発表会までに受講生の多数決で発表の方法を決定したいと思います。</li> <li>・詳しい時間や日程は掲示しますので、掲示板を見るようにしてください。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	特に設定しませんが、メールなどでの問い合わせに応じます。 ※メール送信の際の注意事項（青森エクスカッションの受講生であること、学籍番号・氏名を明記してください） 講義内容に関する問い合わせ以外（受講の可否など）は教務課にお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mutsumi.o.shiraiishiあっとgmail.com（あつとを@に変更してください）
(28)その他	施設見学の入館料は各自払いになります。4日目に金額をお知らせしますので、4～5日目に支払いをお願いします。学生料金の適用される場所も多いので、学生証を持参してください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	105
(2)区分番号	105
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカーションー青森県の川づくりー (Excursions in AomoriーRiver management and restoration in Aomori.ー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高橋 雅雄(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○青森県の湿地環境とそこに住む生物(主に鳥類)の特徴と生態を知る。 ○生物多様性保全の重要性や課題、人間の経済活動や地域社会との関係性を考える。
(16)授業の内容予定	座学5回(ガイダンス1回を含む)と集中講義2回(野外実習・グループワーク)として開講します。 集中講義の詳しい日程は開講後に調整し通知します。 受講者数によって、授業内容に変更が出る場合があります。  1回目:授業ガイダンス(シラバスに記載された曜日及び時間での開講)  2回目:湿地環境と生息生物の概要について 3回目:湿性環境と生息生物の調査手法について 4回目:湿性環境の危機について *上記3回はシラバスに記載された曜日及び時間で開講します。3回分を通じたレポートを課します。  5~9回目:岩木川下流域の環境と生息生物の観察(野外実習:開講日時は後日通知します) *1日を使って岩木川下流域へ行き、環境と生息生物(主に鳥類)を観察します。レポートを課します。  10回目:グループワークの概要説明とテーマ選定(開講日時は後日通知します) *湿地環境についてグループ毎に研究テーマを設定し、グループワークをします。  11~15回目:グループワーク及びプレゼン

	<p>テーション（開講日時は後日通知します）</p> <p>*グループ毎にテーマについて研究し、プレゼンテーションをします。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 野外実習とグループワーク及びプレゼンテーションにおいては、関係資料の事前学習が必要です。</p> <p>[復習] 2回のレポートを復習とします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	農業工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（授業への参加度）：20%</p> <p>中間評価（レポート2回）：40%</p> <p>期末評価（グループワークとプレゼンテーション）：40%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	本講義は、座学・野外実習・グループワーク及びプレゼンテーションから成ります。
(25)留意点・予備知識	<p>野外実習、グループワーク及びプレゼンテーションはそれぞれ1日集中とし、日程は授業内で決定します。</p> <p>学生傷害保険に加入しておいてください。</p> <p>野外実習の際のお昼ご飯は各自で用意してください。</p>
(26)オフィスアワー	随時（問い合わせは以下のメールアドレスまで）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hachi77vanelius@yahoo.co.jp">hachi77vanelius@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	<p>・青森県内の湿地環境を実際に視察調査し、本県の自然環境の豊かさを実感し、生物多様性保全の重要性と課題について学びます。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	108
(2)区分番号	108
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の生物学①ー (Excursions in AomoriーBiology in Aomori Prefectureー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	工藤 誠也(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然 について、探求していくことができるように なること
(15)授業の概要	○身近にみられる生物について知識を身につ ける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行き その生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表す る
(16)授業の内容予定	第1回 授業ガイダンス 第2回 生物の系統と分類 第3回 生物の系統と分類(青森に生息する動 植物について) 第4回 生物の進化 第5回 青森に生息する動植物とその生態 第6回～10回 野外実習(集中講義 5コマ分) 第11回 グループワーク(1) 第12回 グループワーク(2) 第13回 グループワーク(3) 第14回 グループワーク(4) 第15回 プレゼンテーション・総括 ※集中講義の実施日程により、授業内容は前 後する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	身近に見られる生物について関心を持ち、図 鑑などで調べる。プレゼンテーションに ついては個別に相談を受け付けます。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関 連
(18)学問分野2(副学問分野)	森林圏科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません
(21)参考文献	授業内で適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	演習へ取り組み(評価全体の30%)とプレゼン テーションの完成度(20%)、レポートの評価 (50%)を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	第1～5回は講義、第6回～10回(5コマ分)は 野外実習を実施します。以降第11～14回は野



	外実習での観察結果をまとめ、プレゼンテーションを作成するグループワークです。プレゼンテーションは第15回に発表し、内容について議論します。
(25)留意点・予備知識	青森県立自然ふれあいセンターへの移動は貸切バスを利用します。野外実習は休日の実施となる場合があります。
(26)オフィスアワー	月曜13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kudo.biol@gmail.com">kudo.biol@gmail.com</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	109
(2)区分番号	109
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の生物学②ー (Excursions in AomoriーBiology in Aomori Prefectureー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	工藤 誠也(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然 について、探求していくことができるよう になること
(15)授業の概要	○身近にみられる生物について知識を身に つける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行き その生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表 する
(16)授業の内容予定	第1回 授業ガイダンス 第2回 生物の系統と分類 第3回 生物の系統と分類(青森に生息する動 植物について) 第4回 生物の進化 第5回 青森に生息する動植物とその生態 第6回～10回 野外実習(集中講義5コマ分) 第11回 グループワーク(1) 第12回 グループワーク(2) 第13回 グループワーク(3) 第14回 グループワーク(4) 第15回 プレゼンテーション・総括 ※集中講義の実施日程により、授業内容は前 後する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	身近に見られる生物について関心を持ち、図 鑑などで調べる。プレゼンテーションに ついては個別に相談を受け付けます。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関 連
(18)学問分野2(副学問分野)	森林圏科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません
(21)参考文献	授業内で適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	演習へ取り組み(評価全体の30%)とプレゼン テーションの完成度(20%)、レポートの評価 (50%)を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	第1～5回は講義、第6回～10回(5コマ分)は 野外実習を実施します。以降第11～14回は野

	外実習での観察結果をまとめ、プレゼンテーションを作成するグループワークです。プレゼンテーションは第15回に発表し、内容について議論します。
(25)留意点・予備知識	青森県立自然ふれあいセンターへの移動は貸切バスを利用します。野外実習は休日の実施となる場合があります。
(26)オフィスアワー	月曜13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kudo.biol@gmail.com">kudo.biol@gmail.com</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	110
(2)区分番号	110
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の生物学③ー (Excursions in AomoriーBiology in Aomori Prefectureー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	工藤 誠也(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然 について、探求していくことができるよう になること
(15)授業の概要	○身近にみられる生物について知識を身に つける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行き その生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表す る
(16)授業の内容予定	1日目 第1回～5回 生物の系統と分類、進 化、青森に生息する動植物とその生態 2日目 第6回～10回 野外実習 3日目 第11回～15回 グループワークとプレ ゼンテーション、総括
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	身近に見られる生物について関心を持ち、図 鑑などで調べる。プレゼンテーションに ついては個別に相談を受け付けます。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関 連
(18)学問分野2(副学問分野)	森林圏科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	ー
(20)教材・教科書	特に指定しません
(21)参考文献	授業内で適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	演習へ取り組み(評価全体の30%)とプレゼン テーションの完成度(20%)、レポートの評価 (50%)を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1日目は講義形式、2日目は野外実習を実施し ます。3日目には野外実習での観察結果をまと めたプレゼンテーションを作成・発表し、そ の内容について議論します。
(25)留意点・予備知識	青森県立自然ふれあいセンターへの移動は貸 切バスを利用します
(26)オフィスアワー	月曜13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kudo.biol@gmail.com
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	111
(2)区分番号	111
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー深浦町と弘前大学① ー (Excursions in AomoriーExcursion to Fukauraー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	関井 清乃 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○世界遺産の白神山地や、生物相豊かな深浦海岸などを有する自然豊かな地域である深浦町を実際に訪れて、ハイキングや磯採集などを通してその豊かな自然資源について学ぶ ○深浦町は弘前大学の臨海実験所(深浦実験所)や宿泊施設(深浦ハウス)があるなど、大学との縁も深い場所であり、弘前大学として地域にどのような貢献ができるかを考えてみる ○決まった答えが用意されている授業ではないため、まずは拙くても構わないので自分の考えを述べ、他者と意見を交換し、まとめていく力を身につける
(16)授業の内容予定	毎月第1土曜日、計3回の集中講義として開催します(2019年7月6日、8月3日、9月7日)。  第1回～5回(7月6日)：午前：世界遺産としての白神山地および森林生態学の基礎に関する講義、 午後：十二湖周辺の散策およびイトウ養魚場見学(5回分)。 移動は弘前大学からバスが出ますが、お昼の代金は各自で用意する必要があります(1000円程度)。  第6回～10回(8月3日)：午前：海洋生態学の基礎に関する講義、 午後：深浦臨海実験所での磯収集(5回分)。 移動は弘前大学からバスが出ますが、お昼の代金は各自で用意する必要があります(1000円程度)。  第11回～15回(9月7日)：グループでのブレインストーミング、討論、発表、質疑応答、相互評価(5回分)。 どんな人と同じグループになるかはこの日まで分からないので、自分の意見をしっかりと用

	<p>意しておいてください。</p> <p>エクスカッション中を含め、友人同士で毎回行動できるわけではありません。学部を超えて、知らない学生ともしっかりコミュニケーションをとれることが望ましいです。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業と授業の間が1ヶ月ほど空くので、その間に授業内で指示する調査項目等を各自調べておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業での発言、参加、貢献度（出席点は含まない）：65%</p> <p>プレゼンテーション：20%</p> <p>期末レポート：15%</p> <p>学生参加型学修のため、深浦町へのエクスカッションや話し合いなどへの積極的な参加が重要となります。上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。成績評価における期末レポートの割合は15%ですが、提出しなければ、すべて出席していても原則不可になります。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	野外実習2回、グループワーク1回
(25)留意点・予備知識	<p>7月、8月の実習は、ハイキングコースで森林散策、深浦臨海実験所裏の浅瀬で磯採集を行います。</p> <p>怪我などが心配な方は傷害保険などへの加入をおすすめします（強制ではありません）。</p>
(26)オフィスアワー	コラボ弘大 407、月曜日から金曜日、10時から17時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	112
(2)区分番号	112
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー深浦町と弘前大学② ー (Excursions in AomoriーExcursion to Fukauraー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	関井 清乃 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○世界遺産の白神山地や、生物相豊かな深浦海岸などを有する自然豊かな地域である深浦町を実際に訪れて、ハイキングや磯採集などを通してその豊かな自然資源について学ぶ ○深浦町は弘前大学の臨海実験所(深浦実験所)や宿泊施設(深浦ハウス)があるなど、大学との縁も深い場所であり、弘前大学として地域にどのような貢献ができるかを考えてみる ○決まった答えが用意されている授業ではないため、まずは拙くても構わないので自分の考えを述べ、他者と意見を交換し、まとめていく力を身につける
(16)授業の内容予定	毎月第2土曜日、計3回の集中講義として開催します(2019年7月13日、8月10日、9月14日)。1日目と2日目は実際に深浦町を訪れます。  第1回～5回(7月13日): 午前:世界遺産としての白神山地および森林生態学の基礎に関する講義、 午後:十二湖周辺の散策およびイトウ養魚場見学(5回分)。 移動は弘前大学からバスが出ますが、お昼の代金は各自で用意する必要があります(1000円程度)。  第6回～10回(8月10日): 午前:海洋生態学の基礎に関する講義、 午後:深浦臨海実験所での磯収集(5回分)。 移動は弘前大学からバスが出ますが、お昼の代金は各自で用意する必要があります(1000円程度)。  第11回～15回(9月14日):グループでのブレインストーミング、討論、発表、質疑応答、相互評価(5回分)。

	<p>どんな人と同じグループになるかはこの日まで分からないので、自分の意見をしっかり用意しておいてください。</p> <p>エクスカージョン中を含め、友人同士で毎回行動できるわけではありません。学部を超えて、知らない学生ともしっかりコミュニケーションをとれることが望ましいです。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業と授業の間が1ヶ月ほど空くので、その間に授業内で指示する調査項目等を各自調べておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業での発言、参加、貢献度（出席点は含まない）：65%</p> <p>プレゼンテーション：20%</p> <p>期末レポート：15%</p> <p>学生参加型学修のため、深浦町へのエクスカージョンや話し合いなどへの積極的な参加が重要となります。上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。成績評価における期末レポートの割合は15%ですが、提出しなければ、すべて出席していても原則不可になります。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	野外実習2回、グループワーク1回
(25)留意点・予備知識	<p>7月、8月の実習は、ハイキングコースで森林散策、深浦臨海実験所裏の浅瀬で磯採集を行います。</p> <p>怪我などが心配な方は傷害保険などへの加入をおすすめします（強制ではありません）。</p>
(26)オフィスアワー	コラボ弘大 407、月曜日から金曜日、10時から17時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	113
(2)区分番号	113
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンーCultural anthropology of exhibitionsー (Excursions in AomoriーCultural anthropology of exhibitionsー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○諏訪 淳一郎(国際連携本部)、片岡 太郎(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	○路上のデザインと遺跡を対象とした視聴覚的な側面についてフィールドワークし、文化人類学的な学修を身に着けます。 Anthropological study based on the audiovisual aspects in field work will be conducted through observing street designs and archaeological sites. ○青森の地域性について考古学的遺跡と路上景観のフィールドトリップから学習します。 Locality of Aomori will be explored through making field trips to archaeological sites and contemporary street landscape.
(16)授業の内容予定	1. 授業テーマの概説と学習の要領について Introduction 2. 人類学と考古学 Anthropology and archaeology 3. 収集と展示の文化史 Cultural history of collection and exhibition 4. 路上観察①(文京キャンパス周辺) Field trip on street (near the campus) 5. 路上観察①発表 Presentation on FT 6. 路上観察②(土手町周辺) Field trip on street (Dotemachi) 7. 路上観察②発表 Presentation on FT 8. 青森県内の縄文遺跡群と遺跡展示について Archaeological sites and display in Aomori 9～13. 展示の研究: 青森県立美術館、三内丸山遺跡、小牧野館(授業5回分) Field study in exhibition: Aomori Art Museum, Sannaimaruyama, Komakino

	<p>14. フィールドトリップ発表 Presentation on FT</p> <p>15. まとめ Conclusion</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内容に関する予備の知識とまとめに取り組む。Study of and reflection on in-class materials.
(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	None. なし。
(21)参考文献	TBA 授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表80%、授業への参加度20% Presentation 80%. Participation 20%.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	積極的に討論する。県内遺跡等へのフィールドトリップには週末の一日を費やすが必ず参加すること。 Open discussion is expected. One-day excursion is scheduled on a Saturday which you must attend.
(25)留意点・予備知識	発表を含む授業のすべてを英語で行います。演習なので、履修制限があります(20名程度)。 Attendance in all the trips is indispensable for grading.
(26)オフィスアワー	水曜日9・10時限目(要予約)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:suwa@hirosaki-u.ac.jp">suwa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	114
(2)区分番号	114
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカージョンー青森の民間信仰と心理療法の接点ー (Excursions in Aomori-folk faith and psychotherapyー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	安達 知郎(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○現地調査のノウハウを身につけること ○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること
(15)授業の概要	巫者信仰、心理療法の基本についての講義、および、巫者信仰に関連する場所でのフィールドワーク
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 巫者信仰の概要 第3回 巫者信仰の実際 (DVD) 第4回 心理療法の概要 第5回 心理療法の実際 (DVD) 第6回 フィールドワーク(赤倉)の準備 第7～9回 フィールドワーク(赤倉) 第10回 フィールドワーク(赤倉)のまとめ 第11回 フィールドワーク(神社)の準備 第12～14回 フィールドワーク(神社) 第15回 フィールドワーク(神社)のまとめ  *第1～5回、第6～10回、第11～15回、それぞれ、1日で行います。 *日程については後日、連絡します。 *授業内容、進度は変更の可能性があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に指定図書を読み、まとめる(図書については後日、連絡する)。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。 適宜、授業内で配布します。
(21)参考文献	適宜、授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業態度、および、学期末のレポートを総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、および、フィールドワーク

(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi (アットマーク) hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	115
(2)区分番号	115
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	青森エクスカーションー質的社会調査入門ー (Excursions in Aomori-Intoroduction to Qualitative Reserchー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現地調査のノウハウを身につけること</li> <li>○現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるようになること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義と実践を通して多様なデータ素材に対する感受性を磨き、質的社会調査の方法を学ぶ</li> <li>○質的社会調査を通して、私たちの身の回りの社会＝青森県を中心とした地域社会への理解を深める</li> <li>○質的社会調査の代表的な方法である様々な観察法・聞き取り・ドキュメント分析について紹介し、それぞれについて簡単な実践を行う</li> <li>○大学周辺地域をフィールドに各自の関心に基づいた社会調査を行い、他者に対してプレゼンテーションを行うことで、質的社会調査の一連の過程を習得・実践できるようになる</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>社会調査とは、自らの問題意識に基づいてデータを収集し、収集したデータを使って社会について考え、その結果を示すという一連の過程を指します。</p> <p>この社会調査ということばからすぐに連想されるのは、アンケート調査に代表される「量的調査」「統計的調査」だと思います。他方、社会調査には「質的調査」と呼ばれる方法があります。これは視覚・聴覚はもちろんのこと、嗅覚や味覚、触覚といった五感で感じ取る情報を素材とした社会調査です。</p> <p>この授業では、講義と実践を通して多様なデータ素材に対する感受性を磨き、質的社会調査の方法を学び、私たちの身の回りの社会＝青森県を中心とした地域社会への理解を深めることを目標とします。</p> <p>質的社会調査の代表的な方法である様々な観察法・聞き取り・ドキュメント分析について紹介し、それぞれについて簡単な実践を行います。そのうえで大学周辺地域をフィールドに各自の関心に基づいた社会調査を行い、他者に対してプレゼンテーションを行うことで、質的社会調査の一連の過程を習得・実践できるようになることを目指します(社会調査士の資格取得に必要な授業科目「【F】質</p>

	<p>的な調査と分析の方法に関する科目」に対応しています)。</p> <p>第1回 オリエンテーション：質的調査とは  第2回 まちを観る(1)―考現学と路上観察の視点―  第3回 まちを観る(2)―路上観察の実践―  第4回 まちを観る(3)―成果の共有―  第5回 写真で観る(1)―ビジュアル調査法―  第6回 写真で見る(2)―ビジュアル調査の実践―  第7回 人を観る(1)―参与観察と非参与観察―  第8回 人を観る(2)―観察調査の企画―  第9回 人を観る(3)―観察調査の実践―  第10回 人の話を聴く(1)―聞き取り調査の方法―  第11回 人の話を聴く(2)―ライフストーリーインタビューの企画―  第12回 記録を読み解く(1)―ドキュメント分析の方法―  第13回 記録を読み解く(2)―データ収集と分析方法―  第14回 質的調査のまとめ方  第15回 プレゼンテーション</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	普段から身の回りにあるものごとに目を向け、写真を撮影したりメモを取って記録するなどして、観ること・聴くこと・書くことへの感性を高めるように心がけてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣.</li> <li>・May, Tim, 2001=2007, 中野正大訳『社会調査の考え方―論点と方法』世界思想社.</li> <li>・大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』ミネルヴァ書房.</li> <li>・山北輝裕, 2011, 『はじめての参与観察―現場と私をつなぐ社会学』ナカニシヤ出版.</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度。グループワークへの参加や小課題の提出状況に基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%)、期末プレゼンテーション(同30%)、期末レポート(同40%)とを合算して評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式と演習形式を併用します。またグループないし個人によるデータの収集・分析とそれに基づいたプレゼンテーションを行ってまいります。
(25)留意点・予備知識	・座学だけではない、演習やグループワークをとまなう授業ですので、他者との協力・協調が求められる場面があります。このことを承知のうえで履修してください。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りします。</li> <li>・ 受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	第1回授業の際にお伝えします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回授業の際にお伝えします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	116
(2)区分番号	116
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－青森のアートマネジメントと文化戦略－ (Regional-Project Seminar－Art Worlds in Aomori－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○朝山 奈津子(教育学部)、出 佳奈子(教育学部)、塚本 悦雄(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	○地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 ○「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。 ○以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
(16)授業の内容予定	近年の「アート」をめぐる諸問題を整理した上で、青森および弘前の実情をに即し、地域のための「アート・プロジェクト」の企画を考えます。その際に、以下の観点を踏まえることを求めます。 ・地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に考えることができる。 ・「何でもアート」に陥らないために、アートの概念を説明できる。 ・アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールできるようになる。  第1回：「芸術」ってなに？——芸術、アート、文化財、そして文化資源 この授業で出てくる言葉をまずは整理しておきます。  第2回：「芸術」と「アート」って違うのかな？ 私達はこの言葉から何をイメージし、どのような意味で使っているのでしょうか。言葉の由来からざっくり見渡します。  第3回：「アート・ワールド」ってなんだろう？ 「アート」や「芸術」は誰が作ったり受け取ったりするのでしょうか。20世紀の「アート・ワールド」という考え方について、解説します。  第4回：「芸術」って必要なの？



	<p>芸術は社会にとってどんな役割を期待されているのか。「芸術の公共性」をキーワードに考えます。</p> <p>第5回：アート・プロジェクトってなんだっけ？ 「作者」と「作品」と「観る人・聴く人」の関係は、すっかり過去のものというわけではありませんが、近年は新しい関係を作ろうとする動きが目立っています。20世紀初頭にこうした動きがどのように始まったのかを概観します。</p> <p>第6回：アート・プロジェクトって、大丈夫？ 21世紀、アート・プロジェクトと地域コミュニティの関係が深まりつつありますが、その危うさも指摘されるようになりました。最新の研究を踏まえつつ、問題点を整理します。</p> <p>第7回：弘前ではこんな風にやっています 弘南鉄道・弘前中央駅構内の「ギャラリーまんなか」の運営と、こうした施設を利用するアーティストの活動について紹介します。</p> <p>第8-9回：津軽ではこんな風にやっています 弘前市を中心にイベントを企画運営している団体の方に、実際にこれまでに行った催しについて、2回に渡ってお話していただきます。</p> <p>第10-13回：イベントを実際に企画してみよう 各班で1つ、イベントを考えてみましょう。誰に、どのように、何をしてもらうのか。お金はどうやって都合するか。当日までの時間の流れはどうか。具体的なことまで詰めておかななくてはなりません。担当教員のほか、NPO法人の経験者の方が来て下さいますので、助言を仰ぐことができます。</p> <p>第14-15回：制作発表会 イベントの目的や具体的な運営手順を発表して、実現できそうか、クラス全体で議論しましょう。NPO法人の経験者の方が来てコメントして下さいます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>第6回までは、映像、音源などを試聴し、自分の考えをまとめる(場合によっては学習システム上に投稿する)予習課題を課します。第11-15回は各グループで設定したプロジェクトについて、授業時間外に相談したりシミュレーションを行ったり、場合によっては予行演習や現地視察が必要になることがあります。授業の準備には週平均4時間程度が必要となります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しません。
(21)参考文献	

	<p>【弘前大学附属図書館 所蔵】</p> <p>佐々木健一『美学への招待』、中央公論社、2004年。（中公新書1741）  山本晋司編『資源化する文化』、弘文堂、2007年。（資源人類学2）  アーサー・ダントー「アート・ワールド」、西村清和編『分析美学基本論文集』、勁草書房、2015年、9-35頁。  渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学：境界線上の音楽』、春秋社、2013年。  ハワード・ベッカー『アート・ワールド』後藤将之訳、慶應大学出版会、2016年。  熊倉純子監修、菊地拓児、長津結一郎編『アートプロジェクト（芸術と共創する社会）』、水曜社、2014年。  クレア・ビショップ『人工地獄：現代アートと観客の政治学』大森俊克訳、フィルムアート社、2016年。  弘前市教育委員会編『弘前の文化財』、弘前市教育委員会、2017年。  小林真理編『文化政策の思想』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在1）  小林真理編『拡張する文化政策』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在2）</p> <p>【弘前市立図書館 所蔵】</p> <p>荻野昌弘編『文化遺産の社会学』、新曜社、2002年。</p> <p>【青森公立大学図書館 所蔵】</p> <p>藤田直哉編著『地域アート：美学／制度／日本』、堀之内出版、2016年。</p> <p>【県内に所蔵なし】</p> <p>小林真理編『文化政策の展望』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在3）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	各回の課題への取り組み（20%）：期日どおりに提出されたかどうか、課題に対して自分の意見を持つと努めているか 授業内のディスカッションへの取り組み（40%）：コメントの質および量 研究発表への取り組み（40%）：話し合いへの参加の積極性、情報収集の質および量
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義をもとに、グループディスカッション、グループワークを行います。
(25)留意点・予備知識	「芸術」についての予備知識や技術、また演奏・制作・作曲などの経験は必要ありません。
(26)オフィスアワー	電子メールで連絡の上、随時可。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	朝山奈津子（教育学部音楽学研究室）： <a href="mailto:asayaman@hirosaki-u.ac.jp">asayaman@hirosaki-u.ac.jp</a> 出佳奈子（教育学部美術史・美術理論研究室）： <a href="mailto:idek_48@hirosaki-u.ac.jp">idek_48@hirosaki-u.ac.jp</a> 塚本悦雄（教育学部彫刻研究室）： <a href="mailto:etsuka@hirosaki-u.ac.jp">etsuka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	117
(2)区分番号	117
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ーサウンドスケープ入門ー (Regional-Project Seminarーan introduction to soundscape studiesー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	○ヒトが生まれる以前から存在した音に着目し、どのような奇蹟を齎したかを、実際に在る地域のサウンドスケープを通して検証し、その意義や限界を理解する。 ○上記から抽出された素材を利用し、地域に根差したアート・プロジェクトを企画、実施するための手法を身に付ける。
(16)授業の内容予定	1) サウンドウォーク 2) サウンドスケープ 3) サウンドスケープ・デザイン 4) サウンド・エデュケーション 5) 図形楽譜 6) 視覚と聴覚 7) 音とことば 8) 音と音楽 9) 基調音 10) 信号音 11) 標識音 12) 身体 13) 即興演奏 14) アコースティック・コミュニケーション 15) 文化政策：アート・プロジェクト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』(恒星社厚生閣)
(21)参考文献	『世界の調律』(平凡社)
(22)成績評価方法及び採点基準	プレゼンテーションにより評価します(100%)。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義+演習

(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取って下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:timada@hirosaki-u.ac.jp">timada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	118
(2)区分番号	118
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－地域課題解決の実践（基礎）－（Regional-Project Seminar－Practice of solving regional problems (basic)－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	米田 大吉（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>現実の地域社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。</p> <p>この演習では、1年次の「地域学ゼミナール」の学びを深め、自らの課題認識を具現化し、仲間と共有するためのワークセッションを繰り返します。必要に応じて、フィールドワークを盛り込みます。課題の裏側にある本質を議論し、社会で活躍できる社会人に必要な能力を高めることを到達目標にします。</p> <p>1)身の回りにある課題の本質を把握し、その普遍性を整理して、評論家ではなく実践者・当事者として行動できる</p> <p>2)自分の考えを自分の言葉でまとめ、きちんと他者に伝えられる が評価ポイントです。</p>
(16)授業の内容予定	<p>※日程は変更になる場合があります。</p> <p>第1講「地域学ゼミナール」とはなんだったか ☞「課題」という言葉を定義し議論します。</p> <p>第2講「課題」の本質は何か ☞「課題」の解決方法について議論し、仮説をまとめます。</p> <p>選択確定後</p> <p>第3講「ゲストスピーカーに聞く①」 ※ゲストスピーカー招聘回 ☞ゲストスピーカーを招き、第2講でまとめた自分たちの仮説の妥当性を検証します。</p> <p>第4講「課題解決案を議論しよう」 ☞解決案をグループで議論します。</p> <p>第5講「解決策をまとめよう」 ☞解決案を自分たちの言葉でまとめます。</p> <p>第6講「ゲストスピーカーに聞く②」 ※ゲストスピーカー招聘回 ☞ゲストスピーカーを招き、自分た</p>

	<p>ちの解決策の妥当性や有効性を検証します。  第7講「課題解決案を議論しよう」☞解決案をグループで議論します。  第8講「解決策をまとめよう」☞解決案を自分たちの言葉でまとめます。  第9講「ゲストスピーカーに聞く③」※ゲストスピーカー招聘回  ☞ゲストスピーカーを招き、自分たちの解決策の有効性や実現可能性を検証します。  第10講「課題解決案を議論しよう」☞解決案をグループで議論します。  第11講「解決策をまとめよう」☞解決案を自分たちの言葉でまとめます。  第12講「解決策をまとめよう」  第13講「伝えるために必要なことを再確認しよう」  第14講「自分たちの考えを伝えよう」※ゲストスピーカー招聘回  第15講「自分たちの活動を振り返ろう」</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	進捗に応じて、レポートを課します。レポートはペーパーではなくデータでの提出を求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて提示します。
(21)参考文献	都度授業内で提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>レポートの内容(自分の言葉で書いているか、課題を自分ごとで考えているか) : 40%</p> <p>授業時の参加姿勢(発言姿勢・EntrepreneurShip) : 60%</p> <p>※単に発言するだけでなく、「評価を受け、見直し、発言し直す」ことが大切です。正解を知っていることではなく、正解により近づこうという姿勢を評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ワークセッション・ゲストスピーカーの招聘・必要に応じてフィールドワーク
(25)留意点・予備知識	<p>求めたい予備知識</p> <p>1年次の地域学ゼミナールに対する理解・不満・反省・批判精神</p>
(26)オフィスアワー	土日を含む毎日。 <a href="http://platform-aomori.org/">http://platform-aomori.org/</a>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>ビジネス用メールアドレス</p> <p><a href="mailto:daikichi@platform-aomori.org">daikichi@platform-aomori.org</a></p>
(28)その他	最大でも20人程度での開講を希望していません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	119
(2)区分番号	119
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－地域課題解決の実践（発展）－（Regional-Project Seminar－Practice of solving regional problems（development）－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員（所属）	米田 大吉（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>現実の地域社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。</p> <p>この演習では、1年次の「地域学ゼミナール」の学びを深め、自らの課題認識を具現化し、その解決策をProductとして創り出すためのワークショップを繰り返します。フィールドワークを1回以上盛り込みます。</p> <p>課題の裏側にある本質を議論し、社会で活躍できる社会人に必要な能力を高めることを到達目標にします。</p> <p>1)身の回りにある課題の本質を把握し、その普遍性を整理して、評論家ではなく実践者・当事者として行動し、課題を解決できる</p> <p>2)自分の考えを自分の言葉でまとめ、意見が違ふ他者にきちんと伝えられるが評価ポイントです。</p>
(16)授業の内容予定	<p>※日程は変更になる場合があります。1回以上フィールドワークがあります。</p> <p>第1講「地域学ゼミナール」とはなんだったか ⇨「課題」という言葉を定義し議論します。</p> <p>第2講「課題」の本質は何か ⇨「課題」の解決方法について議論し、仮説をまとめます。</p> <p>選択確定後</p> <p>第3講 解決すべき「課題」はなにか ⇨第2講でまとめた自分たちの仮説の妥当性を検証します。</p> <p>第4講「課題解決案を議論しよう」 ⇨解決案をグループで議論します。</p> <p>第5講「解決策をまとめよう」 ⇨解決案を自分たちの言葉でまとめます。</p> <p>第6講第7講「フィールドワーク」</p> <p>第8講「解決策をまとめよう」 ⇨解決案を自分たちの言葉でまとめます。</p> <p>第9講「ゲストスピーカーに聞く」※ゲスト</p>

	<p>スピーカー招聘回          ↳ゲストスピーカーを招き、自分たちの解決策の有効性や実現可能性を検証します。          第10講「課題解決案を議論しよう」 ↳解決案をグループで議論します。          第11講「解決策をまとめよう」 ↳解決案を自分たちの言葉でまとめます。          第12講第13講「フィールドワーク」          第14講「自分たちの考えを伝えよう」※ゲストスピーカー招聘回          第15講「自分たちの活動を振り返ろう」</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	進捗に応じて、レポートを課します。レポートはペーパーではなくデータでの提出を求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて提示します。
(21)参考文献	都度、授業内で提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>レポートの内容（自分の言葉で書いているか、課題を自分ごとで考えているか）：60%          授業時の参加姿勢（発言姿勢・EntrepreneurShip）：40%          ※「評価を受け、見直し、発言し直す」ことが大切です。正解を知っていることではなく、正解により近づこうという姿勢を評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ワークセッション・ゲストスピーカーの招聘・フィールドワーク
(25)留意点・予備知識	<p>求めたい予備知識          ①1年次の地域学ゼミナールに対する理解・不満・反省・批判精神          ②時事問題や日本の地域課題に対する個人の意見</p>
(26)オフィスアワー	土日を含む毎日。 <a href="http://platform-aomori.org/">http://platform-aomori.org/</a>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>ビジネス用メールアドレス  <a href="mailto:daikichi@platform-aomori.org">daikichi@platform-aomori.org</a></p>
(28)その他	最大でも20人程度での開講を希望しています。



## 教養教育科目

(1)整理番号	120
(2)区分番号	120
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ー地域メディア活用の実践ー (Regional-Project Seminarーlocal media literacyー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	大浦 雅勝 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>インターネットによる地域情報の発信を通じて、ビジネスに不可欠なインターネットリテラシーを向上させる講義です。具体的には、私たちの暮らす地域の魅力である文化・歴史・企業・店舗・イベント・人などを個人やグループワークで発見します。地域の魅力を伝えるために取材を行い記事を書きインターネット上のニュース媒体（ブログ）に掲載します。掲載した記事をSNSなどを活用してアクセスを増加させます。最後に情報発信による効果の測定をします。実社会で役立つスキルが身につく講義です。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1講「地域とインターネットメディア」 地域社会のビジネスでメディアがどのように利用されているのか、どのような状態を目指すのかを学びます。</p> <p>第2講「メディアの役割とは何か」 5～6人1チームで、「メディア」について客観的な議論をグループごとに行い、メディアの役割や目的を明確にします。</p> <p>第3講「わたしたちの暮らす弘前について」 (ゲストスピーカー招聘) 地域社会で活躍する社会人をゲストに招き、地域と都市部の違いについてディスカッションします。グループごとに発表します。</p> <p>第4講「地域の魅力を発見する」 私たちの地域の魅力についてディスカッションして記事のネタ（取材対象）を決定します。</p> <p>第5講「取材に関する注意と著作権」 (ゲストスピーカー招聘) 取材の際の注意事項や著作権や肖像権について学びます。</p> <p>第6講「インターネット上の記事の書き方」 インターネット特有の記事の書き方、写真や動画の使い方を学びます。</p> <p>第7講「記事の書き方と予定稿」 CMS（ワードプレス）の操作方法、予定稿の作</p>

	<p>成について学びます。</p> <p>第8講 フィールドワーク「地域での取材活動」 実際に取材活動及び記事作成をします。</p> <p>第9講 フィールドワーク「地域での取材活動」 実際に取材活動及び記事作成をします。</p> <p>第10講 フィールドワーク「地域での取材活動」 実際に取材活動及び記事作成をします。</p> <p>第11講「記事の公開とSNSによる拡散」 記事の公開とSNSについての拡散について学びます。</p> <p>第12講「データ解析とユーザー行動」 記事のアクセス数を確認し、ユーザーの行動分析などについて学びます。</p> <p>第13講「成果発表」（ゲストスピーカー招聘） ネタ選び、記事掲載で苦労したこと、アクセス数や改善案を発表します。</p> <p>第14講「成果発表」（ゲストスピーカー招聘） ネタ選び、記事掲載で苦労したこと、アクセス数や改善案を発表します。</p> <p>第15講「振り返り」 取組を通じてどのようなことを学んだのかを話し合い振り返ります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>地域情報を発信している媒体について調べる こと</p> <p>自分の暮らす地域の資源や魅力・産業について 知ること</p> <p>グローバル社会における地域の役割について 考えること</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間情報学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書なし。必要な資料は授業で都度配布。 インターネットが利用できる端末とインターネット 接続環境。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記者ハンドブック 第13版 新聞用字用語集 (一般社団法人共同通信社)</li> <li>・弘前経済新聞(みんなの経済新聞ネット ワーク)</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(授業への取り組み姿勢) 50%</p> <p>期末評価(記事のアクセス数及び内容) 50%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	インターネットの知識やフィールドワークに 必要なスキルを座学で学びます。必要に応じて グループワークを行います。フィールド ワークは個人単位で実施します。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットサービスの利活用知識</li> <li>・地域社会で起きていることを意識し、地域 社会の一員として自分事で考えること</li> <li>・地域メディア(新聞)の購読</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:oura@hirosaki.keizai.biz">oura@hirosaki.keizai.biz</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	121
(2)区分番号	121
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－健康革命を学ぶ－ (Regional-Project Seminar－Seminar in Health Innovation－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	村下 公一 (COI研究推進機構)、沢田 かほり (医学研究科)、徳田 系代 (医学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	弘前大学では、医学研究科が中心となって、ビッグデータを活用した認知症や生活習慣病など病気の予兆発見の開発や、予防法を開発する研究とビジネス化に取り組んでいます。プロジェクト名は「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」(弘大COI事業)です。この授業では、同プロジェクトを事例として取り上げます。  ○弘大COI事業の概要を理論的・経験的に知り、その先進性や今後の課題を理解する(なお医学に関する専門知識は不要です) ○弘大COI事業の現状を踏まえて、プロジェクトの改善や青森短命県返上に向けた社会実装の具体案を企画する * 弘前市(岩木町)で演習があります。
(16)授業の内容予定	1～4回：講義パート 「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」の概要について、講義を行います。 1. オリエンテーション 2. 弘大COI事業に関する講義 3. 弘大COI事業に関する講義 4. 弘大COI事業に関する講義  5～11回：実習パート 「プロジェクト健診」の現場にいき大学の地域社会への貢献の実際の姿を学びます。 調査後、「健康診断を更に地域住民の健康に資するものにするために、どのように改善していけば良いのか」中間発表を行います。 (健康診断の実習では、週末に1日集中講義の形で行います。(実習分は授業およそ3回分としてカウントします。5月26日or27

	<p>日を第一候補に調整)</p> <p>5. プロジェクト健診準備  6. プロジェクト健診準備  7. プロジェクト健診準備  8. プロジェクト健診演習  9. プロジェクト健診演習  10. プロジェクト健診演習  11. プロジェクト健診演習 (まとめ)</p> <p>12~15回: 最終発表パート  講義・実習の結果を踏まえて、「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」あるいは「プロジェクト健診」に関する考究の結果を報告します。</p> <p>12. 最終発表準備  13. 最終発表準備  14. 最終発表  15. 最終発表</p> <p>※本講義は演習形式の授業のため、演習の進捗次第では授業内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の進捗に則して適宜指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の進捗に則して適宜指示する。
(21)参考文献	授業の進捗に則して適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への参加を中心に成績判定を行う。(参加は出席点ではない)</p> <p>良い成績を採るためには、調査や最終発表で質の高いパフォーマンスをみせる必要がある。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義, 演習, ならびに実習がある。
(25)留意点・予備知識	<p>「なるべく早く医療の現場を体験したい」と考えている医学科や保健学科の学生にとって「いわき町健康診断」の実習は良い学習機会となる。</p> <p>授業では、マルマンコンピュータ・花王・ライオンといった優良企業との連携についても学ぶ機会がある。地域振興やイノベーションの創出に関心のある学生の受講を期待している。</p>
(26)オフィスアワー	メールでアポイントメントをとること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:murasita@hirosaki-u.ac.jp">murasita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<p>服装やマナーを守れない学生は、実習に参加できない。</p> <p>判断基準については授業内で周知する。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	122
(2)区分番号	122
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－弘前市の課題と発展を考える－ (Regional-Project Seminar－Designing and Creating the future of Hirosaki－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○森 樹男 (人文社会科学部)、蒔田 純 (教育学部) 他に1～2名担当予定。
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	○弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合います。 ○テーマは、Ⅰ. 青森の地域生活課題、Ⅱ. 持続的な街づくり、Ⅲ. 若者の政治参加です。 ○各テーマは日替わりで、前半はテーマに沿ったゲストスピーカー（弘前市役所職員など）が講義を行います。 ○後半は、参加している市内の大学生と一緒にグループディスカッションをおこない、地域の発展のために学生自身ができることについて考えます。 ○「大学コンソーシアム学都ひろさき」によって運営される科目です。
(16)授業の内容予定	Ⅰ. 青森の地域生活課題 第1回 青森の地域生活課題を知る 第2回 地域生活課題の見方 第3回 地域生活課題を抱える人との関係づくり① 第4回 地域生活課題を抱える人との関係づくり② 第5回 地域共生社会の実現に向けて私達にできること  Ⅱ. 持続的な街づくり 第6回 持続可能な街づくりとは何だろうか？ 第7回 持続可能な開発 (SDGs) と弘前市の街づくり 第8回 他の自治体におけるSDGsを活かした街づくり 第9回 弘前・青森とSDGs 第10回 地域活性化のために何が必要か

	<p>Ⅲ. 若者の政治参加</p> <p>第11回 若者の政治参加概論</p> <p>第12回 新しいアイデアの作り方</p> <p>第13回 グループワーク（投票について）</p> <p>第14回 グループワーク（投票率向上施策について）</p> <p>第15回 グループ発表</p> <p>※8月20日（火）～22日（木）の3日間で行う集中講義です。</p> <p>※講師の都合により、講義の順序が変更になることもあります。</p> <p>※希望者多数の場合は、抽選をおこないます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>普段から、「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことがおこなわれているのか、関心を持つようにしてください。</p> <p>この他、予習・復習内容については、適宜指示する。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。必要に応じて、資料等を配布します。
(21)参考文献	授業の中で、必要に応じて提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価：20%</p> <p>中間評価（グループディスカッションの発表内容）：30%</p> <p>期末評価（最終レポート）：50%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>講義形式です。</p> <p>複数の教員（市内の大学教員含む）によるオムニバス形式となります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>8月20日（火）～22日（木）の3日間、下記の場所で行う集中講義です。</p> <p>時間：9時30分～18時20分(予定)</p> <p>場所：ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール</p>
(26)オフィスアワー	木曜17時40分～18時30分（森）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>mori(at)hirosaki-u.ac.jp</p> <p>※(at)は@に置き換えてください。</p>
(28)その他	<p>開講前（前期授業期間中）に授業に関するガイダンスを行います。ガイダンスの開催日時についてはポスター等、学内の掲示で確認してください。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	123
(2)区分番号	123
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－大学改革の理論と実践①－ (Regional-Project Seminar－Theory and Practice of Higher Education Research－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	西村 君平 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	○大学教育の理論を手がかりに、弘前大学の地域志向の教育改革について学びます。 ○弘前大学が青森に根ざした大学になるための改革について企画します。
(16)授業の内容予定	1 オリエンテーション 2 大学の歴史① 大学の誕生 3 大学の歴史② 制度としての大学教育の確立 4 大学の歴史③ 日本の大学制度 (戦前) 5 大学の歴史④ 日本の大学制度 (戦後) 6 地域志向の大学改革 7 地域志向の大学改革に関する評価 8 地域志向の大学改革に関する調査 1 (方法論) 9 地域志向の大学改革に関する調査 2 (模擬調査) 10 地域志向の大学改革に関する調査 3 (調査計画) 11 地域志向の大学改革に関する調査 4 (調査報告) 12 地域志向の大学改革に関する調査 5 (企画づくり) 13 地域志向の大学改革に関する調査 6 (企画づくり) 14 地域志向の大学改革に関する調査 7 (中間報告) 15 まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1～4回が終わった時点、6～7回が終わった時点で復習課題を出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	吉見俊哉(2011)「大学とは何か」岩波書店。
(21)参考文献	なし

(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参画 (60%)、中間報告 (プレゼン : 15%)、最終報告 (レポート : 25%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1~6回が講義、7~14回が演習です。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kunpei.nishimura.a6@tohoku.ac.jp">kunpei.nishimura.a6@tohoku.ac.jp</a>
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	124
(2)区分番号	124
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－大学改革の理論と実践②－ (Regional-Project Seminar－Theory and Practice of Higher Education Research－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	西村 君平 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	○大学教育の理論を手がかりに、弘前大学の地域志向の教育改革について学びます。 ○弘前大学が青森に根ざした大学になるための改革について企画します。
(16)授業の内容予定	1 オリエンテーション 2 大学の歴史① 大学の誕生 3 大学の歴史② 制度としての大学教育の確立 4 大学の歴史③ 日本の大学制度 (戦前) 5 大学の歴史④ 日本の大学制度 (戦後) 6 地域志向の大学改革 7 地域志向の大学改革に関する評価 8 地域志向の大学改革に関する調査1 (方法論) 9 地域志向の大学改革に関する調査2 (模擬調査) 10 地域志向の大学改革に関する調査3 (調査計画) 11 地域志向の大学改革に関する調査4 (調査報告) 12 地域志向の大学改革に関する調査5 (企画づくり) 13 地域志向の大学改革に関する調査6 (企画づくり) 14 地域志向の大学改革に関する調査7 (中間報告) 15 まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1～4回が終わった時点、6～7回が終わった時点で復習課題を出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	吉見俊哉(2011)「大学とは何か」岩波書店。
(21)参考文献	なし

(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参画 (60%)、中間報告 (プレゼン : 15%)、最終報告 (レポート : 25%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1~6回が講義、7~14回が演習です。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kunpei.nishimura.a6@tohoku.ac.jp">kunpei.nishimura.a6@tohoku.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	125
(2)区分番号	125
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ー子ども・子育てと地域ー (Regional-Project Seminar-service learning of child care and social supportー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○増田 貴人 (教育学部)、深作 拓郎 (生涯学習教育研究センター)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	地域社会参加には実際にはいろいろなアプローチが考えられるが、本授業においては、企画の対象を「子ども(概ね年長幼児から小学生くらい)」とすることで、それを発揮するためのプログラムを学生自ら企画・実践をする、いわば育児分野を切り口にした地域社会参加を考えてもらう。 いわば、体験的学習につなげていくサービスマーケティングを企図しており、そのなかで、以下の3点を学んでもらうよう指向している。 ①子ども・家族と絡めた地域社会活動につながる知識・技術・マナーを講義等で学ぶ ②実際に地域のなかで育児支援活動を企画・準備・実践してみることで、地域社会参加について体験的に深めていく。 ③学生個々の地域社会の当事者意識の醸成
(16)授業の内容予定	授業の構成は以下のとおりです。ただし、受講者数や進捗状況、ゲストスピーカーの都合等により、内容・順序の変動があります。  1. オリエンテーション 2. 大学生が地域活動に参加する意義 3-7. 地域活動に参加する上での必要な知識・技術・姿勢の習得 3. 地域社会参加の実際 4. 育児における地域参加の視点 5. 子どもたちの安全 6. 育児性の視点 7. ユニバーサルデザインの視点 8-12. 地域活動への参加(「タぐれ児童館」)のための企画・立案 8. 立案のためのガイダンス 9. 地域活動への参加の企画・立案(下見) 10. 地域活動への参加の企画・立案(討議) 11. 地域活動への参加の企画・立案(案の

	作成) 12. 地域活動への参加の企画・立案（修正） 13-14. 地域活動への参加(実践) 15. 振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・実際の地域参加の実習を伴う内容として、育児中の方々や子ども達と関わる実践を組み入れます。そのため、企画や実践に主体的に学ぶ姿勢が必須となります。 ・講義で紹介された参考文献には必ず目を通すとともに、日々のニュース・新聞をもチェックするように心がけてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料を配付します。
(21)参考文献	深作拓郎他（2018）弘大ブックレット13「社会とかかわって学ぶ～大学生が取り組んだ世代性と市民性のサービス・ラーニング実践～」弘前大学出版会。 その他適宜授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	本科目は、下記2点の総合的判断から評価を行います。 1. 毎回授業後の小レポート（30%程度） 2. 最終講義後の大レポート（70%程度）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	企画策定と実践実習を含みます
(25)留意点・予備知識	〈1〉受講に際して学部学科は問いませんが、実践を実施する関係上、受講者を25名程度までとします。 〈2〉課外活動（実習）を含むことから、保険加入を必須とします。事前に学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び学研災付帯賠償責任保険に加入しているか確認して下さい。未加入の場合は、別途保険料の負担を求めます（保険料は授業中に案内します）。
(26)オフィスアワー	事前に連絡している限りは随時とします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tmasuda@hirosaki-u.ac.jp（増田） takurou@hirosaki-u.ac.jp（深作）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	126
(2)区分番号	126
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－地域製品の創作A－ (Regional-Project Seminar－Making Area Product A－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	・わら細工による創作 ・後帯機による手織物の創作
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 わら細工(藁文化について) 第3回 わら細工(ヨリ) 第4回 わら細工(フラボーづくり) 第5回 わら細工(鍋敷き) 第6回 わら細工(自由創作1) 第7回 わら細工(自由創作2) 第8回 わら細工(鑑賞) 第9回 手織物(織物文化について) 第10回 手織物(織機の制作) 第11回 手織物(糸張) 第12回 手織物(課題1) 第13回 手織物(自由制作1) 第14回 手織物(自由制作2) 第15回 手織物(鑑賞)  授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習をめぐり、日ごろから手作業におけるものづくりに励んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリントを配ります。
(21)参考文献	『モラ、グアテマラの織物編』NHK出版
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、創作物(1/3)、レポート(1/3)を総合して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習および制作

(25)留意点・予備知識	受講希望者多数の場合は、初回時において人数を制限することがあります。材料費をいただきます。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	127
(2)区分番号	127
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ー下北・台湾命の絆プロジェクトー外国人観光客誘致事業に関する調査①ー (Regional-Project Seminarー Bonds of Life between Shimokita and Taiwan : Investigating for Attracting Foreign Touristsー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	呉 書雅 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>背景：現在、下北地域県民局は、人口減少対策の一つとして、平成26年度から、「台湾」をターゲットとしたインバウンド事業に取り組んでいます。そうした中で注目を集めているのが、下北と台湾の絆です。昭和40年代、下北の医師不足を解消するために、台湾から多くの医師が来日しました。医師たちは現むつ市・風間浦村・大間町・佐井村に赴任し、下北の人々の命を救いました。このことは今もなお下北と台湾の「命の絆」として、人々の心に残っています。この授業では、こうした観点から、「命の絆」に関する調査結果に基づいて、台湾をターゲットにした下北への観光客誘致（インバウンド）事業について考察します。</p> <p>○1～4回目の授業では、「命の絆」に関する知識の学びます。</p> <p>○5回目の授業以降では、基礎的なデータ分析について学び、その手法を活かして観光客誘致事業について分析します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1～4回：知識 「命の絆」に関する知識を学びます。講義・グループ討論などを行います。</p> <p>5～13回：考察（総合教育棟情報処理演習室（総合教育棟2F）） 基礎的な統計手法について学びます。学んだ手法を活かして、地域課題を考察します。 数学が苦手でも大丈夫です！</p> <p>14～15回：提案 考察した結果を踏まえて、下北地域の課題解決に繋がる提案をしてもらい、意見交換します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業ごとに指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業に対する参加度、平常ミニレポート):50% 中間評価(中間レポート):25% 期末評価(期末レポート):25% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1-4回:主に講義・グループ討論によって進めます。 5-13回:主に講義・演習によって進めます。 14回-15回:主に演習・グループ討論によって進めます。
(25)留意点・予備知識	・地域に関心ある方、公務員志向の方、台湾に興味のある方、中国語の学習を活用したい方の履修を歓迎します。 ・前期の「地域プロジェクト演習-下北・台湾命の絆プロジェクト①-」では、下北の風間浦村を中心にして、授業を進めます。後期の「地域プロジェクト演習-下北・台湾命の絆プロジェクト②-」では、下北の佐井村・大間町を中心にして、授業を進めます。前期と後期では、考察地域が異なります。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	shuyawu.tw[at]gmail.com [at]を@に変換
(28)その他	「命の絆」に関する知識の学びをはじめとして、下北地域の観光や下北の自治体に関する事例についても学びます。



## 教養教育科目

(1)整理番号	128
(2)区分番号	128
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ー下北・台湾命の絆プロジェクトー外国人観光客誘致事業に関する調査②ー (Regional-Project Seminarー Bonds of Life between Shimokita and Taiwan : Investigating for Attracting Foreign Touristsー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	呉 書雅 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>背景：現在、下北地域県民局は、人口減少対策の一つとして、平成26年度から、「台湾」をターゲットとしたインバウンド事業に取り組んでいます。そうした中で注目を集めているのが、下北と台湾の絆です。昭和40年代、下北の医師不足を解消するために、台湾から多くの医師が来日しました。医師たちは現むつ市・風間浦村・大間町・佐井村に赴任し、下北の人々の命を救いました。このことは今もなお下北と台湾の「命の絆」として、人々の心に残っています。この授業では、こうした観点から、「命の絆」に関する調査結果に基づいて、台湾をターゲットにした下北への観光客誘致（インバウンド）事業について考察します。</p> <p>○1～4回目の授業では、「命の絆」に関する知識を学びます。</p> <p>○5回目の授業以降では基礎的なデータ分析について学び、その手法を活かして観光客誘致事業について分析します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1～4回：知識 「命の絆」に関する知識を学びます。講義・グループ討論などを行います。</p> <p>5～13回：考察（総合教育棟情報処理演習室（総合教育棟2F）） 基礎的な統計手法について学びます。学んだ手法を活かして、地域課題を考察します。 数学が苦手でも大丈夫です！</p> <p>14～15回：提案 考察した結果を踏まえて、下北地域の課題解決に繋がる提案をしてもらい、意見交換します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業ごとに指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業に対する参加度、平常ミニレポート):50% 中間評価(中間レポート):25% 期末評価(期末レポート):25% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1-4回:主に講義・グループ討論によって進めます。 5-13回:主に講義・演習によって進めます。 14回-15回:主に演習・グループ討論によって進めます。
(25)留意点・予備知識	・地域に関心ある方、公務員志向の方、台湾に興味のある方、中国語の学習を活用したい方の履修を歓迎します。 ・前期の「地域プロジェクト演習-下北・台湾命の絆プロジェクト①-」では、下北の風間浦村を中心にして、授業を進めます。後期の「地域プロジェクト演習-下北・台湾命の絆プロジェクト②-」では、下北の佐井村・大間町を中心にして、授業を進めます。前期と後期では、考察地域が異なります。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	shuyawu.tw[at]gmail.com [at]を@に変換
(28)その他	「命の絆」に関する知識の学びをはじめとして、下北地域の観光や下北の自治体に関する事例についても学びます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	129
(2)区分番号	129
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－公民館へのアクションリサーチ (Regional-Project Seminar－Action Research for KOMINKAN－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	松本 大 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	○弘前市の地区公民館において、子どもを対象とした事業を企画・実施することをとおして、公民館や地域に関する理解を深めます。 ○公民館での事業実施によって、実際に地域住民の学びを支援することを目指します。
(16)授業の内容予定	※内容は変わる可能性があります。 第1回：ガイダンス 第2回：公民館とは何か 第3回：学びとは何か 第4回：ワークショップとは何か 第5回：子どもを対象としたワークショップに関する事例の情報収集 第6回：子どもを対象としたワークショップに関する事例の検討 第7回：公民館における子どもを対象とした事業の検討 (1) 第8回：公民館における子どもを対象とした事業の検討 (2) 第9～13回：公民館における事業の準備 第14回：公民館における連携事業の実施 第15回：まとめとふりかえり
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・子どもを対象とした社会教育実践やワークショップの事例についての情報収集 ・対象地域の特徴についての情報収集
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業中に適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度(グループワークでの積極性や発言の質)、文献収集・情報収集の質、事業運営への貢献等)：50% 期末評価(期末レポート)：50%

	上記を合算して最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	前半は講義を行います。中盤以降はグループにわかれ事業の準備を進めます。
(25)留意点・予備知識	<p>(1) 実際に公民館に行き職員や住民と交流します。子どもや地域住民、公民館職員と適切なコミュニケーションをとることが求められます。</p> <p>(2) 準備の過程や当日の運営のなかで、一緒に授業を受ける学生との積極的な関わりが求められます。</p> <p>(3) 公民館での事業は土曜に行うこととなります。そのため、授業は変則的なスケジュールとなります。具体的なスケジュールは初回の授業で説明します。</p>
(26)オフィスアワー	木曜12～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変換)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	130
(2)区分番号	130
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－フィールドワークの世界－ (Regional-Project Seminar－The Introduciton to Fieldwork－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	羽渕 一代 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○この授業では、身近にあるメディアとしてケータイをトピックにフィールドワークの手法を説明します。</p> <p>○教科書にある地域におけるメディアのフィールドワークの事例を学び、青森県内地域へと応用する手法を学びます。</p> <p>○社会学、人類学の手法を用いることによって、社会の様相を理解する方法を学びます。</p> <p>○青森県内のメディア状況をフィールドワークで把握します。</p> <p>○そのうえで、メディア環境の問題を明らかにすることで環境改善デザインをおこないます。</p> <p>○フィールドワークの基本的技術に関する知識の習得をします。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フィールドワークとは何か (イントロダクション)</li> <li>2 社会調査の種類とその技法 (調査技術の概要)</li> <li>3 日本からケニアに行くこと (事例紹介)</li> <li>4 フィールドワークで利用するメディアとその変遷 (調査技術の変遷)</li> <li>5 若者のメディア、ケータイ (調査のトピック概要)</li> <li>6 弘前フィールドワークのテーマ</li> <li>7 テーマの焦点化</li> <li>8 調査地選定</li> <li>9 調査対象選定</li> <li>10 調査実施1</li> <li>11 調査実施2</li> <li>12 調査実施3</li> <li>13 分析結果の発表</li> <li>14 発表手法の検討と発表準備</li> <li>15 発表</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を講義がはじまるまでにすべて読んでおいてください。

	データを収集して、仮の分析をおこなったうえで講義時間にその内容を発表してもらうことがあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	羽渕一代・内藤直樹・岩佐光広編『メディアのフィールドワークーアフリカとケータイの未来』北樹出版
(21)参考文献	授業内で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内での発言(30%)と班に分かれてのフィールドワークの成果発表(70%)で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式と演習形式
(25)留意点・予備知識	フィールドワークは、授業時間内におこなうとは限りません。調査設計上、もっとも適切な時間におこなうことになります。
(26)オフィスアワー	月曜日12時～12時半
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ichiyo@hirosaki-u.ac.jp">ichiyo@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	131
(2)区分番号	131
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－津軽三味線（発展） －（Regional-Project Seminar－Advanced Class of Tsugaru Shamisen－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること
(15)授業の概要	津軽三味線の演奏講習。 津軽地方の芸術文化に関する体験的学習。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 構え方 第3回 撥の持ち方 第4回 叩き方 第5回 課題曲A 1 第6回 課題曲A 2 第7回 課題曲A 3 第8回 課題曲B 1 第9回 課題曲B 2 第10回 課題曲B 3 第11回 創作曲1 第12回 創作曲2 第13回 創作曲3 第14回 リハ 第15回 公演  授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習をめぐり、毎回の内容を十分にイメージトレーニングしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	適宜プリントを配ります。
(21)参考文献	富田晃『楽器の世界』千里文化財団
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、技術の習得度(1/3)、最終発表会(1/3)を総合的に評価
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習・演奏・公演
(25)留意点・予備知識	

	津軽三味線経験者向けの授業です。 最終公演の日時・場所についてはのちほどお知らせします。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。



## 教養教育科目

(1)整理番号	132
(2)区分番号	132
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ー地域産品の創作Cー (Regional-Project Seminar-Making Area Product C-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	木工品(青森の地域産材を材料とし、一つの塊から削りだすもの)の創作。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 木について 第3回 道具について(のこぎり) 第4回 道具について(のみ) 第5回 道具について(やすり) 第6回 制作 木取り(大鰐町わにもっこ) 第7回 制作 加工1(大鰐町わにもっこ) 第8回 制作 加工2(大鰐町わにもっこ) 第9回 制作 加工3(大鰐町わにもっこ) 第10回 制作 加工4(大鰐町わにもっこ) 第11回 仕上げ1 第12回 仕上げ2 第13回 塗装1 第14回 塗装2 第15回 鑑賞 授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習をめぐり、日ごろから手作業におけるものづくりに励んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、技能習得(1/3)、作品(1/3)を総合して評価します。
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	演習および制作
(25)留意点・予備知識	学生保険加入を履修の条件とします。 第6-10回の大鰐町わにもっこでの活動日は集中授業です。 実施日時は初日にお知らせします。 材料費は実費を徴収します。できた作品は各自のものです。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	133
(2)区分番号	133
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－地域産品の創作E－ (Regional-Project Seminar－Making Area Product E－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	○サンポーニャやパンパイプと呼ばれる楽器を制作します。 ○青森における文化創造と地域の活性化をめざして一般公開の公演をおこないます。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 ラテンアメリカの音楽と楽器について 第3回 サンポーニャづくり 材料の選び方 第4回 サンポーニャづくり 長さ決め 第5回 サンポーニャづくり 切断 第6回 サンポーニャづくり 調整 第7回 サンポーニャづくり 組み立て 第8回 演奏練習 オホス・アスレス(基礎) 第9回 演奏練習 オホス・アスレス(発展)  第10回 演奏練習 ヌカジャクタ(基礎) 第11回 演奏練習 ヌカジャクタ(発展) 第12回 演奏練習 カンシオン・ウワイノ(基礎) 第13回 演奏練習 カンシオン・ウワイノ(発展) 第14回 リハ 第15回 公演  授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間(1日40分)の予習・復習をめぐり、毎回の授業内容を整理し、理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリントを配ります。
(21)参考文献	富田晃『楽器は語る』千里文化財団
(22)成績評価方法及び採点基準	

	授業への参加姿勢(1/3)、成果物(1/3)、最終発表会(1/3)を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習および制作と公演
(25)留意点・予備知識	受講希望者多数の場合はガイダンスにて人数を制限することがあります。 実施日と材料費についてガイダンスの時おしらせします。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	134
(2)区分番号	134
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－観光基礎論－ (Regional-Project Seminar－Introduction to Tourism Industry－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	西谷 雷佐(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○青森県の観光を考えるにあたって必要な観光の基礎知識を学習します。</p> <p>○特に、地域に観光客を呼び込むための着地型観光に焦点を当て、インバウンド観光、DMO、グリーンツーリズム、教育旅行などのテーマごとに現在の観光について解説していきます。</p> <p>○観光を考えるために必要な発想法や観光商品の組み立て方などを演習を通して学習します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1講 インTRODクション～そもそも観光とは何か？～</p> <p>第2講 独創的思考法を磨く～考える力・発想法・気付く力～</p> <p>第3講 旅行業とは何か？～旅行業収益の仕組み～ 観光商品の作り方</p> <p>第4講 暮らしぶりに注目した着地型観光の現状</p> <p>第5講 観光業界トレンドキーワードの検証</p> <p>第6講 インバウンドの最新事情①</p> <p>第7講 インバウンドの最新事情②</p> <p>第8講 Destination Marketing/Management Organizationの検証</p> <p>第9講 グリーンツーリズム/民泊の検証</p> <p>第10講 人口減少問題における観光の役割</p> <p>第11講 新しい修学旅行の提案</p>

	<p>第12講 これからの時代の観光とは?①</p> <p>第13講 これからの時代の観光とは?②</p> <p>第14講 最終プレゼンテーション①</p> <p>第15講 最終プレゼンテーション②</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】観光に関する情報を地元新聞やテレビの旅番組などから得るようにしておいてください。</p> <p>【復習】学んだことを生かして、地域の観光旅行商品を分析して見てください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	授業内にて適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(取り組み姿勢及び毎回のミニレポート) 50%</p> <p>毎回講義内容に対して150字程度のミニレポートを書いて提出してもらいます。</p> <p>期末評価(プレゼンテーション) 50%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>原則1コマ90分を「レクチャー」・「グループディスカッション」・「フィードバック」という3セクションに分けて授業実施します。最終成果は個人レポートとなります。</p> <p>また、グループディスカッションでは積極的に主体的な発言と行動を求めます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>講義を「受ける」という受け身ではなく、自分の考えを積極的に発表してくれることを期待します。また、予備知識は特に必要ありませんが、観光の動向やトレンドは日々変化しています。日頃から地元紙やテレビの旅番組の情報を意識すると良いでしょう。</p>
(26)オフィスアワー	なし(事前申し出があれば個別対応)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	135
(2)区分番号	135
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習ーアート・プロジェクト入門ー (Regional-Project Seminarーan introduction to the study of art projectー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高橋 憲人(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○特定の地域で開催されるアートイベントの多くは、「参加型」を標榜しているものであっても、予め企画者側によって目指すべき最終成果が設定されています。しかし、芸術とは、自身の生活環境(地域)のなかで物事と照応しながら、その環境を少しずつ変化させてゆくプロセスそのものはずです。この授業では、従来のアートイベントを批判的に検討し、自身の生活環境を基盤とした芸術活動の可能性について考えます。</p> <p>○授業内での演習(ワークショップ)を通して、生活環境のなかでの自身とさまざまな素材(地域資源)との関係性を経験的に学びます。そこから、授業の最終段階として、一人ひとりが生活環境のなかの物事を素材にした芸術実践のエクササイズをデザインします。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 プロセスとしての芸術</p> <p>第3回 ワークショップ〈1〉テクスチャを撮る</p> <p>第4回 ワークショップ〈2〉フロタージュ</p> <p>第5回 ワークショップ〈3〉テクスチャを持ち寄る</p> <p>第6回 ワークショップ〈4〉スタンピング</p> <p>第7回 振り返り</p> <p>第8回 身ぶりとしてのランドスケープ</p> <p>第9回 芸術とテクスチャ性(textility)</p> <p>第10回 素材との照応(correspondence)</p> <p>第11回 変化の音楽</p> <p>第12回 地域のパブリックアートを調査する発表</p> <p>第13回 地域のパブリックアートを調査する発表</p> <p>第14回 期末課題 エクササイズをデザインする発表</p> <p>第15回 期末課題 エクササイズをデザインする発表</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で学んだことを普段の生活のなかでも考えてみる。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	Ingold, T. 2015. The Life of Lines. Abingdon: Routledge. (日本語訳が出版されていますが、誤訳が多いためおすすめしません。) ティム・インゴルド(2017)『メイキング：人類学・考古学・芸術・建築』金子遊・水野友美子・小林耕二訳, 左右社.
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：各授業毎のリアクションペーパー, 授業に対する参加度 80% 期末評価：期末発表でのプレゼンテーション 20% 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	前半はワークショップ型の演習で、授業の最後にその日の活動について書いたリアクションペーパーを提出し、次回の授業の際に発表してもらいます。後半は、前半で学んだことをベースに、生活環境のなかを調査したり、そのなかにある物事を素材に芸術実践を考案したりし、その成果をプレゼンテーションしてもらいます。
(25)留意点・予備知識	受講者数は20名を上限とするため、履修制限をかける場合があります。 弘前大学構内を予定していますが、屋外で行うワークショップがあります。 芸術についての予備知識や専門技能は必要ありません。
(26)オフィスアワー	Eメールでアポイントを取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： <a href="mailto:tonke1205@gmail.com">tonke1205@gmail.com</a> HPアドレス： <a href="https://researchmap.jp/epidendroidae">https://researchmap.jp/epidendroidae</a>
(28)その他	特になし。



## 教養教育科目

(1)整理番号	136
(2)区分番号	136
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－食と地域づくり－ (Regional-Project Seminar－Food culture and Regional Activation－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	柴田 彩子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>○食を、地域の資源として活用する上で必要な視点を学びます。</p> <p>○青森県内外の食に関するグループ活動を事例に、食に関わる地域づくりの実例を学びます。あわせて、外部者が取りうるさまざまな支援の形を学びます。</p> <p>○地域を紹介するフリーペーパーを題材に、地域の特徴ある食文化をどのように紹介しているか、情報発信のあり方について検討します。</p> <p>○地域の特徴的な食を紹介するプレゼンテーションを行うことで、地域の資源である食にアプローチし、情報発信する手法を身につけます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(1) 授業の概要説明</p> <p>(2) 食と地域づくりについての概要説明 宿題およびプレゼンテーションの説明</p> <p>(3) プレゼンテーションその1：青森県もしくは出身都道府県の特産農水産物または特徴的な食品を1つ取り上げ、紹介します。</p> <p>(4) 地域の食 - 郷土料理・B級グルメ・ソウルフード</p> <p>(5) 地域の生活文化を支える拠点—各地の農産物直売所</p> <p>(6) グループ同士の連携を生かした加工品づくり—青森県上北郡横浜町の産直グループ「なたねの会」</p> <p>(7) 伝承料理の継承から提供へ—弘前市の伝承料理研究グループ「津軽あかつきの会」</p> <p>(8) 地域の歴史に基づいたそば処の運営—山梨県南巨摩郡早川町赤沢のそば屋「そば処武蔵屋」</p> <p>(9) 直売所について聞く—弘前市の伝承料理研究グループ「津軽あかつきの会」</p> <p>(10) 畑の豊かさを生かした加工品づくり—弘前市相馬地区「そうまのニケ」</p> <p>(11)、(12) 食文化の掘り起こしと情報発</p>

	<p>信 山梨県南巨摩郡早川町のまちづくりNPO、日本上流文化圏研究所発行のフリーペーパー「やまたらけ」を題材に、雑穀文化・保存食・そば・大豆と味噌・ジビエなど、地域の特徴ある食文化をどのように紹介しているか検討します。</p> <p>(13)、(14) プレゼンテーションその2：「地域の食」を調査し、情報発信のスタンスでプレゼンテーションします。</p> <p>(15) 振り返りとまとめ</p> <p>※学習状況・授業の進行状況により、授業の内容予定を変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回の授業内容を復習し、実際の自分自身の食生活や、ほかの授業・研究等との関連を考えて下さい。</p> <p>独自に調べたことなどがあつたら、コメントカードに記入して下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会経済農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は指定しません。資料を準備します。
(21)参考文献	<p>『聞き書青森の食事』、「日本の食生活全集青森」編集委員会編、農山漁村文化協会、1986年 (大学図書館に蔵書あり。青森以外の都道府県の巻もあります。)</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>コメントカードの内容 (65%)</p> <p>[評価の観点] 授業の内容を理解しているか。自分自身の専門分野、日常生活・身の回り、報道などと結び付け、考えを深めているか。</p> <p>プレゼンテーション・レポート (35%)</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>講義・ディスカッションを織り交ぜて進めます。</p> <p>授業の最後にその日の内容についての考えや質問などを記入したコメントカードを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>資料等は原則、紙では配布しません。クラウドサービスを利用し、所定のフォルダ(初回授業時に指定します)にアップロードしますので、必要な場合は各自プリントアウトして下さい。授業中、PC・タブレット等で閲覧することも可能です。</p> <p>コメントカードの提出(出欠の確認)もオンライン上で行いますので、ネットワークに接続できる機器(PC・タブレット・スマートフォン等)を持参して下さい。</p>
(26)オフィスアワー	特になし。相談等ある場合は、事前にメールにて連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>メールアドレス：<a href="mailto:ayako_s@hirosaki-u.ac.jp">ayako_s@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>授業用ツイッターアカウント：@shokuchiiki</p>
(28)その他	<p>○津軽地方を中心に、青森県内の食文化について、背景となる自然・歴史・社会的環境を踏まえて紹介します。(地域志向科目)</p> <p>○担当教員は地域づくりNPO勤務経験のある実務経験者です。(実務家教員)</p> <p>○弘前市地域おこし協力隊経験者で、津軽あ</p>

かつきの会会員をゲストスピーカーとしてお招  
きします。（地域志向科目、実務家教員）

## 教養教育科目

(1)整理番号	137
(2)区分番号	137
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－地域生活調査実習－ (Regional-Project Seminar-Practice Research in Regional Life-Style-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること</p> <p>○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること</p>
(15)授業の概要	<p>○2008年に公布・施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称・歴史まちづくり法)に基づいた歴史まちづくりについて学ぶ</p> <p>○弘前市が指定する「趣のある建物」「景観重要建造物」について、その所有者や利用者、指定制度を運用する行政担当者を対象に、建物にまつわる記憶や思いについて聞き取り調査を行う</p> <p>○調査結果に基づき、今後の保存と活用に向けた課題を探る</p>
(16)授業の内容予定	<p>近年、近代建築(定義は様々であるが、概ね明治から昭和戦前期までに建てられた建築)の価値が見直され、各地で保存と活用に向けた取り組みがされています。2008年に公布・施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称・歴史まちづくり法)に基づいた歴史まちづくりもその一環です。</p> <p>戦災を免れた弘前市は近代建築の宝庫であり、文化財指定を受けた建築以外にも、「趣のある建物」「景観重要建造物」を選定・指定して、その価値を後世に伝えようとしています。しかし近代建築の保存や維持は容易なことではありません。運動の盛り上がりにもかかわらず、取り壊される建物も少なくありません。</p> <p>では、保存されるべき建物とはどのようなものなのでしょうか。そしてモノとしての建物には、どのような人びとの記憶＝歴史が宿っているのでしょうか。</p> <p>本調査では、弘前市が指定する「趣のある建物」「景観重要建造物」について、その所有者や利用者、指定制度を運用する行政担当者を対象に、建物にまつわる記憶や思いについて聞き取りを行い、それらを記録するとともに、今後の保存と活用に向けた課題を探ります。</p>

	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 イメージづくり 弘前市内の近代建築探訪</p> <p>第3回 弘前市内の建物について 弘前の近代建築の歴史と特徴</p> <p>第4回 既存の調査成果に学ぶ 過去に行われた聞き取り調査の成果の学習と共有</p> <p>第5回 調査の準備① 弘前市役所訪問・意見交換と打ち合わせ</p> <p>第6回 調査の準備② 調査項目の検討</p> <p>第7～11回 現地調査 弘前市内の「趣のある建物」 「景観重要建造物」を対象に</p> <p>第12・13回 データの整理・分析 聞き取りメモや写真の整理と読み取り</p> <p>第14回 プレゼンテーションの準備</p> <p>第15回 最終プレゼンテーション パワーポイントを用い、調査・分析内容についての報告</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	前半部分の講義の内容を振り返るとともに、聞き取りや観察といった社会調査の方法について自ら積極的に学習すること、調査対象に関わる歴史資料・文献を、図書館や書店などで検索・購読すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。授業の際にプリント資料を配付します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高瀬雅弘編, 2018, 『人と建物がつむぐ街の記憶——山形県鶴岡市を訪ねて(1)』弘前大学出版会.</li> <li>・高瀬雅弘編, 2019, 『人と建物がひらく街の記憶——山形県鶴岡市を訪ねて(2)』弘前大学出版会.</li> </ul> <p>その他の参考文献については授業中に適宜紹介します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(講義内容を理解し、準備作業などに意欲的に取り組む姿勢が見られるか。評価全体の20%)、プレゼンテーションの内容(現地調査の内容を要領よくまとめているか。同30%)、期末レポートの内容(文献に基づく学習と現地調査とを総合的にまとめた記述ができているか。同50%)に基づき評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と現地調査(聞き取りおよび観察)、データの整理・分析、プレゼンテーションからなります。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる作業が多く、かつ現地調査をとまなう授業であるので、私的な都合よりも共同作業を優先してもらう必要があります。</li> <li>・調査対象者の都合によっては、通常の授業時間外に調査を実施することがあります。</li> </ul>

	履修にあたっては、以上の点を十分に承知しておいてください。
(26)オフィスアワー	第1回の授業の際にお伝えします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回の授業の際にお伝えします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	138
(2)区分番号	138
(3)科目種別	学部越境型地域志向科目
(4)授業科目名〔英文名〕	地域プロジェクト演習－北東北の舞踏と芸能ワークショップ－(Regional-Project Seminar-Workshop for Northern Tohoku Butoh and Folk Dances－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	グリゴレ・イリナ・フロレンティナ(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○青森の地域課題の解決や資源の活用の先行事例を学び、その意義や限界を理解すること ○青森の地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画したり、実施したりできるようにすること
(15)授業の概要	青森県をクリエイティブな地域として再発見するために、文化人類学およびパフォーマンス研究の立場から、イメージ、踊り、コミュニティなどのキーワードによる創作ワークショップを行い、映像・展示・インスタレーションという民族誌の最新手段を実践していきます。
(16)授業の内容予定	1. 序－文化人類学と民族誌と踊り：「青森県」のキーワードによるグループの踊りの創作と発表 2. 演劇人類学：踊りの創作と発表 3. 踊りと人類学：踊りの創作と発表 4. イメージの人類学－映画『裸の島』：「シマ」「ムラ」のキーワードによるグループの踊りの創作と発表 5. 展示とインスタレーション：踊りの創作と発表 6. 津軽の獅子舞についての展示プロセス：踊りの創作と発表 7. 音と人類学：踊りの創作と発表 8. 土方巽と舞踏：踊りの創作と発表 9. 田中浜と場踊り：踊りの創作と発表 10. 雪雄子の踊り：踊りの創作と発表 11. 民族誌と言葉、エッセイ、絵本と詩の教室：発表作品の準備 12. 踊りの作品を作るイメージの背景－映画『春にして君を思う』、あるいは自然と人間の孤独：発表作品の準備 13. 音響と映像の制作：発表作品の準備 14. リハーサル、パンフレットの制作 15. 発表会
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	青森県における風景、場所、人についての映像表現のための準備
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連

(18)学問分野3(副学問分野)	民俗学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	<p>①シェクナー『パフォーマンス研究—演劇と文化人類学の出会うところ』1998 人文書院</p> <p>②Barba and Savarese, A Dictionary of Theatre Anthropology, The Secret Art of the Performer; Second Edition 2006, Routledge.</p> <p>③ 箭内匡、『イメージの人類学』2018、せりか書房</p> <p>④ 諏訪淳一郎、『パフォーマンスの音楽人類学』勁草書房2012</p> <p>⑤ Arnd Schneider, Alternative Art and Anthropology, Global Encounters, 2017 Bloomsbury</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	ワークショップ参加度30%、レポート20%、創作発表50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>各回の冒頭に授業のテーマについて講義し、グループワークによる踊りの創作と上演の企画を行います。</p> <p>English can be used for instruction and classworks.</p>
(25)留意点・予備知識	踊りの経験や特段の予備知識は必要としませんが、演習形式のため履修制限があります。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	動きやすい服装で来てください。



## 教養教育科目

(1)整理番号	139
(2)区分番号	139
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	くらし・文化－武道の世界－ (Living/Culture－Janese Budo Culture - Judo --)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高橋 俊哉 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○人間生活の多様性についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間のくらしを支えている社会と文化の状況を理解できるようになること
(15)授業の概要	柔道を通して武道文化を理解します。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 基本動作1 礼法、姿勢、組み方、崩し、歩き方、体さばき、受身1 3. 基本動作2 受身2 4. 基本動作3 受身3 5. 対人技能 投技 手技 6. 対人技能 投技 腰技 7. 対人技能 投技 足技 8. 対人技能 投技 捨身技 9. 対人技能 寝技 抑技 10. 対人技能 寝技 絞技 11. 対人技能 寝技 関節技 12. 形 投の形1 13. 形 投の形2 14. 形 投の形3 15. 形 投の形4
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の技術内容を確実に習得して次回に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	実技試験(50%)、レポート(50%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、演習
(25)留意点・予備知識	経験の有無は問いません。 柔道着のない人には貸し出します。
(26)オフィスアワー	月、水12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	140
(2)区分番号	140
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	くらし・文化－子どもの育ちと教育福祉文化論－ (Living/Culture－Think about the growth of children from the perspective of education, welfare and culture－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	深作 拓郎 (生涯学習教育研究センター)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○人間生活の多様性についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間のくらしを支えている社会と文化の状況を理解できるようになること
(15)授業の概要	○子どもが健やかに育っていくために必要な地域社会の環境について、教育・福祉・文化の領域から横断的に学ぶ。 ○子どもの育ちを支援する社会資源や社会保障の構造とそこに込められる理念について学習し、理解を深める。 ○子どもの育ちを支援することをめざしたさまざまな施策や取り組みを具体的に学び、子どもの豊かな育ちのための地域社会の環境醸成について理解を深めていく。
(16)授業の内容予定	1 回目 ガイダンス 2 回目 子ども観の変遷と多様な「育」 3 回目 青森県の家庭・家族事情 4 回目 学校の外で学ぶこととは 5 回目 社会教育の基本概念 6 回目 子どもの社会教育・放課後の世界 7 回目 子どもにとっての「遊び」の意味 8 回目 児童福祉の概要 9 回目 児童館・学童保育(放課後児童クラブ) 10 回目 青森県内における児童館活動の実際 11 回目 青森県内の学校外活動の実際 12 回目 子どもの権利条約とは 13 回目 子どもの文化芸術活動 14 回目 大学生の地域子育て支援 15 回目 子どもの育ちと地域社会 授業の進行状況等により、実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・配布資料並びにノートの整理 ・コメントペーパーへの記入(次の授業時に提出) ・参考文献の通読と整理 ・授業内容に関連する新聞記事のクリッピング ・子育て支援活動への参加とレポート
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域

(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	深作拓郎他編『大学生が本気で考える子どもの放課後』学文社、2018年 深作拓郎編著『地域で遊ぶ、地域で育つ子どもたち』、学文社、2012年 増山均『子ども組織の教育学』青木書店 増山均『子ども研究と社会教育』青木書店 佐藤一子・増山均編『子どもの文化権と文化的参加』第一書林
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート(70%)、参加態度・提出物(30%)で判断します
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式が主ですが、ワークショップなども取り入れた参加型の授業にします。
(25)留意点・予備知識	子どもに関わる諸活動は、「良かれと思った大人の都合」で展開されがちです。「子ども主体」すなわち子どもの立場に立つて…というまなざしを養うことが大事です。逐次情報提供していきます。講義の枠に留まらず、地域社会で展開されている実践活動に積極的に参加していくことも希求します。
(26)オフィスアワー	学外(地域)との連携推進を目的とした部局に所属する教員であるため、出張や打ち合わせが多く毎週決まった時間が空いているわけではありませんが、平日の8時半～10時は研究室に在席していることが多いです。事前にご連絡いただくと確実です。研究室は、人文棟3階304研究室です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takurou@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	講義の内容をただ覚えるのではなく、講義の内容を「自分自身の問題」として問い直すこと、それが大学の講義を受ける姿勢であり、大学で学ぶということです。そのためには、紹介された文献に目を通したり、日ごろから書籍や新聞、雑誌を丹念に目を通すこと、さまざまな実践活動に参加していくなど、自ら学ぶ姿勢がとても重要です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	141
(2)区分番号	141
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	歴史・地理－考古学入門Ⅰ－ (History/Geography－Introduction to archeologyⅠ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	関根 達人(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界史や日本史, 地理学, 考古学あるいはこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 歴史や地理を理解できるようになること
(15)授業の概要	○歴史研究の方法として考古学という学問の特徴を理解します。 ○考古学の基本的な考え方や専門用語を身につけます。 ○考古学の基本である発掘調査成果について発掘調査報告書から読み解く力を養います。 ○発掘調査報告書に基づき過去の歴史を考える力を養います。
(16)授業の内容予定	1回目 ガイダンス 2回目 発掘調査報告書とは何か 3回目 遺跡の自然環境 4回目 遺跡の歴史的環境 5回目 調査方法 6回目 層序 7回目 検出遺構(1) 竪穴住居跡(縄文) 8回目 検出遺構(2) 竪穴住居跡(古代) 9回目 検出遺構(3) 竪穴住居跡以外の遺構 10回目 出土遺物(1) 土器 11回目 出土遺物(2) 石器 12回目 出土遺物(3) 金属製品・木製品 13回目 出土遺物(自然遺物) 14回目 自然科学的考察 15回目 考察 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	配布するプリント類に目を通して復習しておきましょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ありません。
(21)参考文献	鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会 ISBN4-13-022051-9 附属図書館
(22)成績評価方法及び採点基準	中間試験20% 期末試験80%

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライドや配布資料に基づく講義です。
(25)留意点・予備知識	授業の中で、青森県内で発掘中の遺跡に関する現地説明会の情報を流します。遺跡の発掘現場を見学できる機会はそうは多くないので、可能な限り参加し、授業の理解に役立てましょう。
(26)オフィスアワー	水曜日 1・2時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に替えてください。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	142
(2)区分番号	142
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	歴史・地理－歴史を学ぶために－ (History/Geography－For learning Japanese History－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	武井 紀子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界史や日本史, 地理学, 考古学あるいはこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 歴史や地理を理解できるようになること
(15)授業の概要	○日本史の様々な史料を具体的に取り上げ、それらから読み取れることを丁寧に追っていきます。 ○高校の教科書などの簡潔な記述の裏に膨大な史料による証明があることを示し、歴史学の奥深さを学びます。
(16)授業の内容予定	各テーマ、史料や画像を使いながら、2～3回の時間を使って講義していきます。  第1回 ガイダンス — 日本の歴史を研究する — 第2回 即位儀礼と大嘗祭 (1) 第3回 即位儀礼と大嘗祭 (2) 第4回 即位儀礼と大嘗祭 (3) 第5回 国風文化と「唐物」 (1) 第6回 国風文化と「唐物」 (2) 第7回 国風文化と「唐物」 (3) 第8回 蒙古襲来と鎌倉武家社会 (1) 第9回 蒙古襲来と鎌倉武家社会 (2) 第10回 蒙古襲来と鎌倉武家社会 (3) 第11回 近世日本における「四つの口」 (1) 第12回 近世日本における「四つの口」 (2) 第13回 近世日本における「四つの口」 (3) 第14回 ビゴーの見た近代日本 (1) 第15回 ビゴーの見た近代日本 (2) 第16回 学期末考査
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各テーマのはじめにプリントを配布します。毎回事前・事後によく読んで予習・復習をしてください。高校までで日本史を学習していた人は、その内容を思い出しおいて下さい。 また、毎回講義のまとめ、感想や質問をリアクションペーパーに書いてもらうので、しっかりと授業を聞いてください。

(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	講談社学術文庫『日本の歴史』（講談社、2008年～） このほか授業中に適宜指示します。図書館に行き行って手に取ることで、授業の内容を深く理解することができます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（毎回のリアクションペーパーの内容）（30％）と期末試験（70％）の成績を総合的に評価されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	必要な文献や資料をプリントで配り、関連する写真や図版等をスライドで見せながら、講義形式を進めていきます。参加者は、講義の最後に毎回の講義の内容や質問をリアクションペーパーにまとめて提出します。質問事項は次の時間に答えるようにし、フィードバックしていきます。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ではありませんが、積極的に講義に関する事柄を自分の力で考えていく必要があります。
(26)オフィスアワー	火曜日10:00-12:00。ただし、研究室（人文333）在室時にはいつきても構いません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に置き換えて下さい。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	143
(2)区分番号	143
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	歴史・地理－歴史への誘い－ (History/Geography－Introduction to History－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	荷見 守義 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界史や日本史, 地理学, 考古学あるいはこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 歴史や地理を理解できるようになること
(15)授業の概要	○歴史学に関する基礎的な概念について, 中国史とその近接領域を事例として学習し理解を深める。 ○歴史学の基礎的な手法や知識に基づいて, 中国史の史実の構築について分析を行う。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス～漢字・漢文と中国史～ 第2回 現存する史記と東洋文庫 第3回 司馬遷と武帝 第4回 正史について学ぶ 第5回 簡牘と石刻 (リアクションペーパー①) 第6回 映像で見る三国志 第7回 陳寿と三国志 第8回 三国志演義の世界 第9回 三国志における正統性 第10回 後漢末の政情と党錮の禁 (リアクションペーパー②) 第11回 黄巾の乱と曹操 第12回 三国志における赤壁の戦 第13回 三国志演義における赤壁の戦 第14回 赤壁の戦とは (リアクションペーパー③) 第15回 鄱陽湖の戦と朱元璋 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられる歴史学の概念・事例について, その意味内容を整理し, 理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	考古学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。毎回、プリントを配布し、それに基づいて授業を行います。
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します



(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（部分的理解度についてリアクションペーパーを授業4～5回ごとに提出して貰います。単なる出席回数ではありません。評価全体の30%） 期末評価（全般的理解度の確認。同70%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式ですが、一部、リアクションペーパーに対する回答を織り込みます。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、前回までの内容についてプリント及びそれに関連する事項についてよく理解しておいて下さい。後続の授業をその理解を前提に進めます。
(26)オフィスアワー	月曜日、11時50分から12時40分までにおいでください。 この時間に研究室不在の場合、メールアドレスまで連絡事項を伝えて下さい。 研究室は、人文社会科学部棟4階412です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hasumim (at) hirosaki-u. ac. jp   なお、 (at) を@に置き換えて下さい。
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	144
(2)区分番号	144
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	歴史・地理－考古学の基礎－ (History/Geography－ Basics of archaeology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	上條 信彦 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界史や日本史, 地理学, 考古学あるいはこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 歴史や地理を理解できるようになること
(15)授業の概要	○考古学全般における発掘から整理・分析に至る分析法および研究法(資料の対象、歴史学における位置づけ)について概説する。 ○考古学の歴史について世界と日本の双方から概説する。 ○考古学からみた日本の歴史(旧石器～古代が中心)について、最近の北日本の調査事例をふまえて通史的に講義する。
(16)授業の内容予定	①ガイダンス ②考古学とは何か《用語解説》 考古学の研究史 ③考古学の研究法 年代決定と型式から分布と時間へ ④考古学の研究法 型式から機能・文化の復元へ ⑤青森県の考古学の研究史から世界遺産を考える ⑥旧石器時代の考古学 海外 200万年前 日本 6万年前～16000年前 ⑦⑧縄文時代の考古学と北海道・北東北の縄文遺跡群 約16,000年前～3,000年前(紀元前10世紀) ⑨農耕文化の起源と展開 ⑩⑪弥生時代の考古学と砂沢・垂柳遺跡 紀元前10世紀中頃から3世紀中頃 ⑫古墳時代の考古学と北東北 3世紀半ばすぎから7世紀末 ⑬古代(飛鳥・奈良・平安時代)の考古学 6世紀末～12世紀前半(1192年) ⑭古代末から中世への変動、貴族社会から武家社会への変革と考古学 ⑮まとめと試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回に資料を配付します。資料を読み込み、必ず復習をしてください。また講義内容に関する一般書、概説書、図録、ホームページを閲覧し専門用語などについて理解を深めてもらいたい。

(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	各回に資料を配付します。
(21)参考文献	講義中に知らない用語が出てくることや、写真や図を見たほうが理解の補助になるので、高校時に使用した図説や用語集があるとよい。例えば実教出版『必携 日本史用語』、山川出版社『日本史用語集』、山川出版社『詳説日本史図録』など
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式、プロジェクターも使います。
(25)留意点・予備知識	本講義は高校の歴史（日本史・世界史）を受講済であることが望ましい。日本史を受講したものは、高校時に使用した図説や用語集があるとよい。 まずは中央図書館にある考古学関連の図書を眺めること。一度は博物館・遺跡を訪ねてみよう。
(26)オフィスアワー	215号室（上條） 月～金随時、10：00～13：00、17：00～がつかまりやすいです。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	HP： <a href="http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/">http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/</a> 「弘前大学の考古学」 HPアドレス：kamijo(あっと) hirosaki-u.ac.jp（あっと）を@に変換してください。
(28)その他	歴史・考古学関係に意欲的な受講者を望みます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	145
(2)区分番号	145
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	歴史・地理－〈日本〉の歴史－ (History/Geography－History of “Japan”－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	大谷 伸治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界史や日本史、地理学、考古学あるいはこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、歴史や地理を理解できるようになること
(15)授業の概要	○地域史の視点から、日本文化の多様性を学ぶ ○国号〈日本〉の由来と歴史を学ぶ ○思想史の視点から、国民国家〈日本〉がいかにつくられたかを学ぶ ○画一的な〈日本〉像を相対化し、国際社会・グローバル化社会における〈日本〉のあり方を考える
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 古地図でみる〈日本〉 第3回 地域からみる〈日本〉(1) 第4回 地域からみる〈日本〉(2) 第5回 地域からみる〈日本〉(3) 第6回 国号〈日本〉の来歴(1) 第7回 国号〈日本〉の来歴(2) 第8回 国号〈日本〉の来歴(3) 第9回 「天下」とは？ 第10回 「百姓」とは？ 第11回 「国民」の誕生(1) 第12回 「国民」の誕生(2) 第13回 「国民」の誕生(3) 第14回 「国民」の誕生(4) 第15回 「国民」の誕生(5) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] レポート作成にむけて、初回に提示する参考文献のなかから1冊を選んで読む。 [復習] 自分の歴史認識の変容・深化の過程を記録しておく。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。

(21)参考文献	授業の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>[平常評価] 授業への参加度（毎回の授業についてのリアクションペーパーに基づく。単なる出席回数ではない）30%</p> <p>[中間評価] 中間レポート35%</p> <p>[期末評価] 期末レポート35%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p> <p>授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>主に講義形式によって進めます。題材に応じて、グループワークをおこなうこともあります。</p> <p>授業の最後にその日の講義の内容についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>○予備知識の有無は問いません。</p> <p>○授業中は、ノートやメモを取りながら聴いてください。前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。</p> <p>○講義中の途中入退室や私語、飲食は厳禁です。受講のマナーを守ることができない学生の履修は固くお断りします。</p>
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp">s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	146
(2)区分番号	146
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	思想－中国の思想－ (Philosophy－Chinese thought－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	山田 史生 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○思想, 宗教, 哲学, 歴史, 倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて, 既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>○ホウ居士の語録をじっくりと読み解く。</p> <p>○「漢文・書き下し文・現代語訳」を読み、内容を理解し、教員の解説を聞いたうえで全員で議論する。</p> <p>※議論が盛り上がらないようであれば、指名して発言を求めるともある。</p> <p>※発言を求められたら、とにかく声を出してください。全員で「読み・考え・語り合う」という授業を目指します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業の進め方のガイダンスおよび教材の指示</p> <p>第2回 石頭との問答・馬祖との問答・薬山との問答</p> <p>第3回 齊峰との問答 (前)</p> <p>第4回 齊峰との問答 (後)</p> <p>第5回 丹霞との問答 (前)</p> <p>第6回 丹霞との問答 (後)</p> <p>第7回 百霊との問答・普濟との問答・長髭との問答</p> <p>第8回 松山との問答 (前)</p> <p>第9回 松山との問答 (中)</p> <p>第10回 松山との問答 (後)</p> <p>第11回 本谿との問答・大梅との問答・大毓との問答</p> <p>第12回 則川との問答・洛浦との問答・石林との問答</p> <p>第13回 仰山との問答・谷隠との問答・看經僧との問答</p> <p>第14回 化縁僧との問答・牧童との問答・座主との問答・靈照との問答</p> <p>第15回 禪の思想について</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合がありますが、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	最終レポートに向けて、授業時の議論を踏まえた復習をすることを望みます。

(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	第1回の授業のときに指示します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(50%) 最終レポート(50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式(教科書の全文を朗読します) 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	予備知識はなんにも要りませんが、チンプンカンプンの議論に食らいついてきてくれる 「好奇心」と「遊び心」とをもったひとに受講してほしいとおもいます。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:fumio@hirosaki-u.ac.jp">fumio@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	147
(2)区分番号	147
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	思想－倫理学の基礎A－（Philosophy－An Introduction into Ethics A－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	横地 徳広（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○思想、宗教、哲学、歴史、倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>愛し喜び、あるいは、悲しみ苦しみながら生きる私は、誰ともとりかえのきかない私です。</p> <p>こうした自分の固有性を〈他者との関わり〉が産み出しています。</p> <p>自己と他者とその関わりので成り立ちを確かめる手がかりを受講生のみなさんはこの授業で獲得します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>この授業では、精神と身体を別の存在と考える「心身二元論」という観点から西洋倫理思想史に登場する重要概念が説明されます。</p> <p>この概念を思考の道具にして読み解かれるのは、現代社会における多様な事象です。</p> <p>このとき受講生のみなさんは、哲学の問いをみずから問うことを通じて、倫理的思考を身につけることができます。</p> <p>また、哲学的思考の深まりを確かめるため、毎回コメント・ペーパーの記述が求められます。</p> <p>そのつどの講義で学ばれる概念は、たとえば、（１）偶然性と生存、（２）死と良心、（３）時間と自由、（４）愛と記憶、（５）人間の定義…といったものです。</p> <p>複数回の講義にわたって同一概念の検討が行なわれます。</p> <p>生命倫理学・環境倫理学・技術倫理学・医療倫理学にかんする情報は適宜おりませられます。</p> <p>基本的な授業計画は以下です。変更の場合は事前にお知らせがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 デカルト哲学の基礎</li> <li>3 心身問題の基礎その1</li> <li>4 心身問題の基礎その2</li> <li>5 夢懷疑とマラン・ジェニー（悪霊）</li> </ol>



	<p>6 哲学的懐疑の展開  7 心身問題の現在  8 心・脳・身体の三項図式  9 免疫的自己と身体の哲学  10 DVD講義『ブレード・ランナー』  11 DVD講義『サロゲート』  12 DVD講義『ボディ・スナッチャー』  13 生物と人工物の差異とその学的意味  14 倫理的存在とは何か  15 まとめとペーパー提出</p> <p>ただし、DVD資料を用いた講義が行われる場合、授業延長や、9・10限と11・12限の連続授業になります。  授業予定の詳細は、プリントが配布されます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>講義内容には連続性があるので、受講生は配布資料をもとにして図書館で学習内容の拡張と深化を試み、次回講義の予習とすることができます。また、講義中に記したコメント・ペーパーを講義後に加筆および修正することで復習を行なうことが可能です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野3(副学問分野)	情報科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>横地ほか編著『映画で考える生命環境倫理学』（勁草書房、2019年）  各自で購入してください。プリントも配布されます。</p>
(21)参考文献	<p>デカルト『方法序説』、デカルト『省察』。  ※図書館にあります。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（コメント点）＋特別評価（優秀なコメントや発言に加点）：100%  ただし、全15回中10回以上の出席が必要です。</p> <p>受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが評価対象となります。  哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。  コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。  コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。  上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。  介護実習などによる公欠は、その証明書コピーを提出してください。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。
(25)留意点・予備知識	<p>コメント・ペーパーを提出した受講生には、教養教育カウンターにてペーパーが返却されます。  第何回のペーパーを提出したのか、授業で配布された予定表を使って各自がしっかり把握してください。</p>

	<p>提出者以外の学生は各自でコメント・ペーパーを保存および管理します。 第15回講義では各自がそのコメント・ペーパーをまとめて提出します。</p> <p>受講希望者が教室収容人数を超える場合は、コメントペーパー提出による抽選があります。 第1回講義には必ず出席し、座席がない場合や教室に入れない場合でも、教室とその付近に待機してください。 第1回講義は前後半2回にわけてガイダンスが行なわれる可能性があります。 授業の相談がある場合は必ずメールをください。</p>
(26)オフィスアワー	<p>オフィスアワーは在室時（西洋倫理思想史研究室、人文414）ですが、事前にメールでアポをとってください。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>メールアドレスは、西洋倫理思想史研究室（人文414）に掲示されます。</p>
(28)その他	<p>21世紀科目「哲学の基礎」の読替科目です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	148
(2)区分番号	148
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	思想－倫理学の基礎B－ (Philosophy－An Introduction into Ethics B－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	横地 徳広 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○思想, 宗教, 哲学, 歴史, 倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて, 既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>人間は、とりかえのきかない、この地球で生きています。 この倫理的意味を考えることが、この授業の目標です。 こうした哲学的思考の深まりを確かめるため、毎回コメント・ペーパーの記述が求められます。</p> <p>エートスは「住まうこと」を原義としています。 地球のどこにせよ、或る土地に人びとが住まうとき、その土地には「習俗」というエートスが形成されます。 同時に、そこに生きる一人ひとりの人間は、そうした習俗のもと、他者とのかかわりのなかで自身の「性格」というエートスを形成していきます。 こうした「エートスの学 (エピステーメー・エーティケー)」は、命ある人間が或る環境に住まうという意味で「生命環境倫理学」だと言えます。</p> <p>講義では、西洋倫理思想史の観点から、ドイツ生命環境倫理学への概念史を受講生のみなさんは学びます。 わけても質と量の関係に注目して「空間性」の歴史的変容を確かめます。 また「計算的理性」が拡大していくプロセスを見定めます。 こうしてドイツ生命環境倫理学への概念史をたどることになります。</p>
(16)授業の内容予定	<p>西洋倫理思想史を学ぶ科目ですから、ドイツ生命環境倫理学への概念史をたどるさいにも、哲学や文学、映画など文化的作品との関連が重点的にとりあげられます。 受講生のみなさんは、たとえば下記のテーマに注目してドイツなど欧米社会の諸相を倫理的観点から確かめます。</p>

	<p>予定の変更がある場合は事前にお知らせがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 生命環境倫理学とは何か</li> <li>3 バイオスフィアとテクノスフィア</li> <li>4 『巨人ゴーレム』の検討〈1〉：創造と制作</li> <li>5 『巨人ゴーレム』の検討〈2〉：映画と洗脳</li> <li>6 近代社会と時空間概念</li> <li>7 『薔薇の名前』の検討〈1〉：知の独占と写本</li> <li>8 『薔薇の名前』の検討〈2〉：言語による共同体形成</li> <li>9 エックハルトと、ドイツ語で哲学すること</li> <li>10 科学革命と宗教改革</li> <li>11 グーテンベルク活版印刷と宗教改革</li> <li>12 生命環境倫理学関連作品の検討〈1〉：クローンと遺伝子操作</li> <li>13 生命環境倫理学関連作品の検討〈2〉：クローンと臓器工場</li> <li>14 ヒトゲノムは『生命の聖書』ではない</li> <li>15 まとめとペーパー提出</li> </ol> <p>DVD資料を用いた授業が行われるさい、授業延長や、7・8限と11・12限の連続授業になります。 詳しい予定は、プリントを配布します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>講義内容には連続性があるので、受講生は配布資料をもとにして図書館で学習内容の拡張と深化を試み、次回講義の予習とすることができます。 また、講義中に記したコメント・ペーパーを講義後に加筆および修正することで復習を行なうことが可能です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』（知泉書館）、 ヨアヒム・シルト『図説 ドイツ語の歴史』（大修館書店）の一部など、諸テキストのコピーが配布されます。</p>
(21)参考文献	授業中に適宜、紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（コメント点）＋特別評価（優秀なコメントや発言に加点）：100% ただし、全15回中10回以上の出席が必要です。</p> <p>受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが評価対象となります。 哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。 コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれ</p>

	る予定です。介護実習などによる公欠は、その証明書コピーを提出してください。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。
(25)留意点・予備知識	コメント・ペーパーを提出した受講生には、教養教育カウンターにてペーパーが返却されます。 第何回のペーパーを提出したのか、授業で配布された予定表を使って各自がしっかり把握してください。 提出者以外の学生は各自でコメント・ペーパーを保存および管理します。 第15回講義では各自がそのコメント・ペーパーをまとめて提出します。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは在室時です。 西洋倫理思想史研究室（人文414）まで。必ず事前に面会予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	メールアドレスは人文414に掲示されます。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	149
(2)区分番号	149
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	言語学の世界－日本語を知る－ (The World of Linguistics－Japanese Linguistics 101－Socio Linguistics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 和之 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○言語学あるいはその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、言語を社会や人間との関係から理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>言語学の世界～日本（語）を知る」では、ことば、とくに日本語（「国語」ではないところに注意を要します）を中心に、ことばを社会や人間との関係から科学的に考え、説明できるようになる授業展開をします。</p> <p>人文社会科学部以外の学生にとっては、ことばはどのように説明されるのかや、留学生にとっては日本の言語学は言語をどのように説明しているのかなど、専門性から離れ、互いに楽しめ納得できる大学らしい（Universal）講義を目指します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>言語学とは何か。</p> <p>人間が使っていることばを、ことばと関係するいろんな領域との関係から考える研究領域です。いろんな領域とは、たとえば地域や歴史であったり環境、地域の構成員、地域や国の経済力、人間のこころだったりします。</p> <p>方言と共通語の関係や日本語と外国語の関係も扱う対象の一つです。たとえば辞書を「ひく」と風邪を「ひく」ですが、どうして「ひく」と言われるのでしょうか。「オレの車、引ッパッテクヨ」という言い方は変ですか？“Pull Forward my car”とは言わないのだろうか？</p> <p>この講義では、日本語を中心として、そんなことばの不思議について考え、説明できるようになる基礎力を培います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の機能</li> <li>2. 国語と日本語</li> <li>3. 言語学的研究手法</li> <li>4. 日本語の諸相</li> <li>5. 音声と音韻の違い(1)</li> <li>6. 音声と音韻の違い(2)</li> <li>7. 語彙の定義と体系(1)</li> <li>8. 語彙の定義と体系(2)</li> <li>9. 文法と文法論(1)</li> <li>10. 文法と文法論(2)</li> </ol>

	11. 文字と表記(1) 12. 文字と表記(2) 13. カタカナ外来語と日本語 14. 国語と公用語 15. 日本語の特徴 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	積極的な講義への参加意欲と参加姿勢を必要とします。参加意欲と参加姿勢とは、受講者としてなぜこの講義に参加する(したい)のかとか、そういう自らの欲求を教室で確認し、表現できるかといった「自分の意見を表現する力」が求められるということです。高校までの、ひたすら聞き手に徹することができるという姿勢とは違った受講生でいられるかが重要です。各回の授業で取り上げられた講義内容について、その内容を理解できるように整理してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	とくに指定しません。必要に応じ資料を配付します。
(21)参考文献	講義中に、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	学期末の試験で評価します。(100%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中の口頭での回答を求める対話形式の講義。
(25)留意点・予備知識	ことばに関する講義であり、受講生が持つ知識や意見の表現力を求めます。
(26)オフィスアワー	研究室在室時は随時。火曜日11時50分から13時00分は確実。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/">http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	150
(2)区分番号	150
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	言語学の世界－医療におけるノンテクニカルスキル入門－ (The World of Linguistics－Basic Non-Technical Skills in Health Science and Medicine－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	野坂 大喜 (保健学研究科) 藤岡 美幸 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○言語学あるいはその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、言語を社会や人間との関係から理解できるようになること
(15)授業の概要	一般的にスキルにはテクニカルスキルとノンテクニカルスキルとがあります。専門技術であるテクニカルスキルに対して、ノンテクニカルスキルは専門分野を問わず論理的に考え、相手にわかりやすく伝達するための技術です。医療分野だけでなく航空業界など多くの業界で広く取り入れられており、ロジカルシンキングや言語技術とも言われています。本授業では演習方式でノンテクニカルスキルについて学習し、医療での活用についても解説します。言語技術の基本的知識の習得を通じて、論理的思考回路を身につけるとともに大学生・社会人に要求されるコミュニケーション能力を獲得することが、本授業の目標です。
(16)授業の内容予定	第01回 10月1日 言語技術とは？－あなたのノンテクニカルスキル度は？－ (野坂) 言語技術(思考を論理的に組み立て相手が理解できるように表現する技術)の基礎について学びます 第02回 10月8日 相手との問答のための言語技術 (野坂) 相手の問いに即座に的確に答える技術を身につけるには 第03回 10月15日 問答技術演習 (野坂) 相手の問いに即座に的確に答える技術を身につけるグループセッション 第04回 11月5日 情報伝達のための言語技術 (野坂) 混在する情報の中から「事実」と「意見」を区別し、惑わされずに適切な判断ができる技術について学びます 第05回 11月12日 情報伝達のための言語技



	<p>術（野坂）  混在する情報の中から「事実」と「意見」を  区別し、惑わされずに適切な判断ができる技  術についてグループレッスンします  第06回 11月19日 情報伝達技術演習1(描写  分析)（野坂）  視覚で捉えた対象の構成要素を空間的に配列  し論理的に並べることで相手に対してわかり  やすく伝達する技術について学びます  第07回 11月26日 情報伝達技術演習1(描写  分析)（野坂）  視覚で捉えた対象の構成要素を空間的に配列  し論理的に並べることで相手に対してわかり  やすく伝達する技術についてグループレッス  ンします  第08回 12月 3日 情報伝達技術演習2(説明  分析)（野坂）  相手が知らないことを答えることになるた  め、疑問を解決するのに必要充分且つ秩序  だった情報提示をするための技術について学  びます  第09回 12月10日 情報伝達技術演習2(説明  分析)（野坂）  相手が知らないことを答えることになるた  め、疑問を解決するのに必要充分且つ秩序  だった情報提示をするための技術についてグ  ループレッスンします  第10回 12月17日 情報伝達技術演習3(報告  分析)（野坂）  自分の体験や自分のかかわっている仕事の進  み具合、ある出来事の経過などについて、情  報を相手に伝達する技術について学びます  第11回 12月24日 情報伝達技術演習3(報告  分析)（野坂）  自分の体験や自分のかかわっている仕事の進  み具合、ある出来事の経過などについて、情  報を相手に伝達する技術についてグルーブ  レッスンします  第12回 1月 7日 状況認知のための言語技  術（野坂）  自分の視点を明確に認識して、その視点から  得られた情報について論理的に考えてみる技  術を学びます  第13回 1月14日 情報分析のための言語技  術（野坂）  私たちの周囲に溢れているあらゆる情報につ  いて、適切に分析して解釈する技術を学びま  す  第14回 1月21日 絵画の分析（野坂）  客観的に絵画を分析する技術について学びま  す  第15回 1月28日 絵画の分析演習（野坂）  客観的に絵画を分析する技術についてグルー  プレッスンします  第16回 2月 4日 ノンテクニカルスキル度  評価（野坂・藤岡）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>テキスト『大学生・社会人のための言語技術  トレーニング』のほか、言語技術トレーニ  ング用課題を配布します。  また授業スライドは授業で指定するHPよりダ  ウンロード可能としますので、事前に一読し  予習を行ってください。  授業でのレッスン内容を基に日常生活の中で  日々試してみることがノンテクニカルスキル  習得の近道です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	言語技術のレッスン速習版 つくば言語技術研究所 ※一般販売しておりません。受講者が決定次第、共同購入を行います。
(21)参考文献	1)大学生・社会人のための言語技術トレーニング 三森 ゆりか 大修館書店 2)外国語を身につけるための日本語レッスン 三森 ゆりか 白水社 3)外国語で発想するための日本語レッスン 三森 ゆりか 白水社 4)患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門 日本医療マネジメント学会 メディカ出版
(22)成績評価方法及び採点基準	グループ演習への取り組み(50%)とグループ課題提出(50%)をもって評価します。 取り組み、課題それぞれ6割以上を合格基準とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および演習(トレーニング)を主体として行います。
(25)留意点・予備知識	積極的にグループ課題に取り組むことを評価対象とします。
(26)オフィスアワー	月曜日：17:00～18:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	野坂： <a href="mailto:hnozaka@hirosaki-u.ac.jp">hnozaka@hirosaki-u.ac.jp</a> 藤岡： <a href="mailto:mfujioka@hirosaki-u.ac.jp">mfujioka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	151
(2)区分番号	151
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	文学—スペイン語とスペイン文化— (Literature—Spanish and Spanish Culture—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	—
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、文学と歴史・社会の関連を学びその意義を理解できるようになること
(15)授業の概要	○スペイン語を学習しスペインの文化にふれる。スペイン語をはじめて学ぶ人のための授業です。 ○スペイン語文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得るとともに、歴史・社会との関連を学びその意義を理解します。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 ABC 第3回 数字 第4回 あいさつ 第5回 スペイン文化・食 第6回 自己紹介 第7回 スペイン文化・衣 第8回 レストランにて 第9回 スペイン文化・住 第10回 通りにて 第11回 スペイン文化・スポーツ  第12回 百貨店にて 第13回 スペイン文化・音楽 第14回 復習 第15回 まとめと試験 授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業以外でもテレビ、ラジオなどでできるだけスペイン語にふれるようにすること。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習をめぐり、毎回の内容を十分に習得してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	—
(20)教材・教科書	阿由葉恵利子『スペイン語レッスン1』スリーエーネットワーク
(21)参考文献	特になし。

(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、小テスト(1/3)、試験(1/3)を総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、会話演習
(25)留意点・予備知識	木曜放課後図書館グループラーニングルームにて課外活動としてスペイン語勉強会をしています。 スペイン語中級者はそちらにご参加ください。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	152
(2)区分番号	152
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	文学—スペイン語とラテンアメリカ文化— (Literature—Spanish and Latin America Culture—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	富田 晃(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、文学と歴史・社会の関連を学びその意義を理解できるようになること
(15)授業の概要	○スペイン語を学習しラテンアメリカの文化にふれる。スペイン語初級者のための授業です。 ○スペイン語文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得るとともに、歴史・社会との関連を学びその意義を理解します。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 ABC 第3回 数字 第4回 あいさつ 第5回 ラテンアメリカ文化・食 第6回 自己紹介 第7回 あいさつ 第8回 ラテンアメリカ文化・衣 第9回 レストランにて 第10回 ラテンアメリカ文化・住 第11回 通りにて 第12回 ラテンアメリカ文化・スポーツ  第12回 百貨店にて 第13回 ラテンアメリカ文化・音楽 第14回 復習 第15回 まとめと試験 授業の進行状況等により、変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業以外でもテレビ、ラジオなどでできるだけスペイン語にふれるようにすること。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習をめぐり、毎回の内容を十分に習得してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	阿由葉恵利子『スペイン語レッスン1』スリーエーネットワーク
(21)参考文献	特になし。

(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、小テスト(1/3)、試験(1/3)を総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と会話練習
(25)留意点・予備知識	木曜放課後図書館グループラーニンググループにて課外活動としてスペイン語勉強会をしています。 スペイン語中級者はそちらにご参加ください。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	153
(2)区分番号	153
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	文学－中国の文学－ (Literature－Chinese literature－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	山田 史生 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、文学と歴史・社会の関連を学びその意義を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○『論語』をじっくりと読み解く。</p> <p>○「漢文・書き下し文・現代語訳」を読み内容を理解し、教員の解説を聞き、それを踏まえて全員で議論する。</p> <p>※議論が盛り上がらないようであれば、指名して発言を求めるともある。</p> <p>※発言を求められたら、とにかく声を出してください。「読み・考え・語り合う」という授業を目指します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業の進め方のガイダンスおよび教材の指示</p> <p>第2回 「学而第一・為政第二」を読む</p> <p>第3回 「里仁第四」を読む</p> <p>第4回 「公冶長第五・雍也第六」を読む</p> <p>第5回 「述而第七・泰伯第八」を読む</p> <p>第6回 「子罕第九・郷党第十」を読む</p> <p>第7回 「先進第十一・顔淵第十二」を読む</p> <p>第8回 「子路第十三・憲問第十四」を読む</p> <p>第9回 「衛霊公第十五・季氏第十六」を読む</p> <p>第10回 「陽貨第十七・微子第十八」を読む</p> <p>第11回 「子張第十九・堯曰第二十」を読む</p> <p>第12回 孔子の生涯について</p> <p>第13回 孔子の思想について</p> <p>第14回 諸子百家における儒家について(前)</p> <p>第15回 諸子百家における儒家について(後)</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合がありますが、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業での議論を踏まえ、最終レポートに向けて、十分に復習することを望みます。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	第1回の授業のときに指示します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(50%) 最終レポート(50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式(教科書の全文を朗読します) 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	予備知識はなんにも要りませんが、「これから自分はどう生きてゆけばよいのだろう」という人生の悩みをいただいているひとに受講してほしいとおもいます。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:fumio@hirosaki-u.ac.jp">fumio@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	154
(2)区分番号	154
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	文学－現代女性文学の世界－ (Literature－The world of the contemporary literature produced by women－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 愛理 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、文学と歴史・社会の関連を学びその意義を理解できるようになること
(15)授業の概要	読書会 (リテラチャー・サークル) という形式を用いて、本 (文学) を読むことの楽しみや意味について考える。 江國香織、川上弘美、小川洋子などの短編作品を用いて現代女性文学に触れるとともに、彼女たちの作品が受け容れられ読まれている理由について、また同時代文学として現代文学を読んでいく意味についても考える。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 江國香織「デューク」 第2回 江國香織「夏の少し前」読書会 第3回 江國香織「いつかずっと昔」読書会 第4回 江國香織「晴れた空の下で」読書会 第5回 江國香織「スイート・ラバース」 「草之丞の話」読書会 第6回 江國香織「子供たちの晩餐」読書会 第7回 江國香織「鬼ばばあ」「夜の子供たち」読書会 第8回 江國香織「さくらんぼパイ」読書会 第9回 江國香織「ねぎを刻む」「緑色のギンガムクロス」読書会 第10回 川上弘美「神様」読書会 第11回 川上弘美「夏休み」「花野」読書会 第12回 川上弘美「クリスマス」「離さない」読書会 第13回 小川洋子「アンジェリーナ」読書会 第14回 小川洋子「誰かが君のドアを叩いている」「また明日…」読書会 第15回 小川洋子「クリスマスタイム・イン・ブルー」「彼女はデリケート」読書会  ※受講人数や授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として、授業で取り扱う作品を必ず読み終えていてください。 気になるところに印をつけたり、疑問に思っ

	たことや感じたことなどをメモしたりしておく とよいでしょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	江國香織『つめたいよるに』（新潮社）、川上弘美『神様』（中央公論社）、小川洋子『アンジェリーナ』（角川書店）
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	読書会への参加度（毎回の授業での様子に基づきます。単なる出席回数ではありません。）・50% 読書ノートの記述内容・50% 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に少人数のグループ学習によって進めます。
(25)留意点・予備知識	本を読むこと自体が嫌いな人には不向きな内容になるので、履修をお勧めしません。
(26)オフィスアワー	水曜日の13時から14時です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:esuzuki@hirosaki-u.ac.jp">esuzuki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	155
(2)区分番号	155
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	文学－日本の異界文学－ (Otherworldly Literature in Japan)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ソロン ジョシマ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○文学ならびにその学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、文学と歴史・社会の関連を学びその意義を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○クラス・ディスカッションを行う</p> <p>○日本における様々な「異界」と関わる芸術作品を広く調査して考察する</p> <p>○ジャンル、媒体(メディア)、時代を越境し、精読することにより、学生は「幽霊」や「異界」についての既存概念を問い直す</p> <p>*授業内容は基本的に英語になるが、必要に応じて日本語による補助も行い、読む宿題の言語も自由に選べる</p> <p>○Have class discussion</p> <p>○Survey Japanese artistic engagement with a variety of "otherworlds"</p> <p>○Read a wide range of ghostly texts crossing genres, media, and historical epochs</p> <p>○Challenge preconceptions of ghostliness and otherworldliness through careful and creative close reading.</p> <p>*Class will primarily be held in English, but Japanese language support will be provided when necessary, and homework may be read in either language</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス：異界とは</p> <p>第2回 前近代的な異界：『古事記』、</p> <p>第3回 前近代的な異界：能楽、その他</p> <p>第4回 前近代的な異界：続き</p> <p>第5回 民俗学の異界：柳田国男</p> <p>第6回 民俗学の異界：井上ひさし</p> <p>第7回 民俗学の異界：妖怪、その他</p> <p>第8回 近代的な異界：内田百閒</p> <p>第9回 近代的な異界：幸田露伴</p> <p>第10回 近代的な異界：川端康成</p> <p>第11回 身体的な異界：満洲国日本語文学</p> <p>第12回 身体的な異界：江戸川乱歩</p> <p>第13回 ポストモダン的な異界：大江健三郎</p> <p>第14回 ポストモダン的な異界：村上春樹</p> <p>第15回 復習</p> <p>*授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します</p> <p>Week 1 - Orientation: Thinking about Otherworlds</p> <p>Week 2 - Premodern Otherworlds: Kojiki</p> <p>Week 3 - Premodern Otherworlds: Noh</p> <p>Week 4 - Premodern Otherworlds: (continued)</p> <p>Week 5 - Folkloristic otherworlds: Yanagita Kunio</p> <p>Week 6 - Folkloristic otherworlds: Inoue Hisashi</p> <p>Week 7 - Folkloristic otherworlds: "Yokai," etc</p> <p>Week 8 - Modern Otherworlds: Uchida Hyakken</p> <p>Week 9 - Modern Otherworlds: Koda Rohan</p> <p>Week 10 - Modern Otherworlds: Kawabata Yasunari</p> <p>Week 11 - Bodily Otherworlds: Japanese Literature in Manchukuo</p>

	<p>Week 12 - Bodily Otherworlds: Edogawa Ranpo  Week 13 - Postmodern Otherworlds: Oe Kenzaburo  Week 14 - Postmodern Otherworlds: Murakami Haruki  Week 15 - Review  *Course schedule is subject to change. Any changes will be discussed in class</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 毎週、授業の前に作品を熟読し、クラス・ディスカッションを基にする短い考察文を書くこと。  Carefully read assignments before class and prepare notes for class discussion each week.  [復習] 毎週、授業内容をノートで記録し、以降の授業のクラス・ディスカッションなどで参照すること。  Write and organize notes after each class, and refer to them in future class discussions.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	各回に資料を配布します。 Readings will be distributed weekly.
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>パーティシペーション(予習メモ、クラス・ディスカッションへの積極的参加) 50%  ショート・プレゼンテーション(英語) 25%  期末 レポート(英語/日本語) 25%  Participation (prepared notes, active group discussion): 50%  Short Presentation (English): 25%  Final Report: 25%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>受講生による主体的なクラス・ディスカッションに、適宜、教員が文脈づけるように解説を交えます。  Class participants will actively participate in class discussion, with the instructor providing explanation and context as appropriate.</p>
(25)留意点・予備知識	<p>クラス・ディスカッションおよびショート・プレゼンテーションを含めて、授業時間は英語で行う予定です。但し、  〈1〉読む宿題は日本語OK 〈2〉期末エッセーは日本語OK  〈3〉英語学習の科目ではないため、受講生の英語能力に対する評定することはありません。  Class will be conducted in English, including class discussion and short presentations. However (1) homework *may* be read in Japanese (2) The final essay *may* be written in Japanese (3) Because the primary goal of this class is not English language study, participants will not be graded on the quality of their English.</p>
(26)オフィスアワー	<p>イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください  During my shift in the English lounge or by e-mail appointment. The English Lounge schedule can be checked on the English Lounge website</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:isolomon@hirosaki-u.ac.jp">isolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<p>English Lounge イングリッシュ・ラウンジ  <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a></p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	156
(2)区分番号	156
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－音楽入門－ (Art－an intordction to music－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○音楽を中心としたさまざまな芸術の演奏、制作プロセスを通して、その形式（具体的に目に見える部分、音で聞こえる部分）を理解する（学識と理解）。</p> <p>○音楽を中心としたさまざまな芸術の演奏、制作プロセスを通して、その内容（目に見えない、音で聞こえないは文脈、背景）を理解する（学識と理解）。</p> <p>○音楽を中心としたさまざまな芸術の演奏、制作プロセスを通して、その様式（目に見え、音で聞こえるが、形式とは異なる部分）を理解する（学識と理解）。</p> <p>○形式、内容、様式相互の関連について見識を深める（学識と理解）。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業の到達目標と概要に立ち会うための具体的内容（素材）は以下の通りである：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィギュアスケート</li> <li>2) 舞踊</li> <li>3) ピアノ演奏</li> <li>4) ヴァイオリン演奏</li> <li>5) ことば</li> <li>6) 詩</li> <li>7) 服飾</li> <li>8) 映画</li> <li>9) 狂言</li> <li>10) サウンドスケープ</li> <li>11) ポストコロニアル</li> <li>12) ポップ・ミュージック</li> <li>13) 哲学</li> <li>14) 大きな芸術、小さな芸術</li> <li>15) 形式；内容；様式</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。毎回の授業で教科書の予習・復習箇所を提示する。参考文献については講義中に指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』（恒星社厚生閣）
(21)参考文献	スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
(22)成績評価方法及び採点基準	タームペーパーにより評価する（100％）。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	様々な視聴覚資料を用いた講義です。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	メールでアポイントを取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:timada@hirosaki-u.ac.jp">timada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	157																																
(2)区分番号	157																																
(3)科目種別	社会・文化																																
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－将棋の世界－ (Art－Syohgi World－)																																
(5)対象学年	1																																
(6)必修・選択	選択必修																																
(7)単位	2																																
(8)学期	後期																																
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限																																
(10)担当教員(所属)	○細川 洋一郎（保健学研究科）、敦賀 英知（保健学研究科）																																
(11)地域志向科目	-																																
(12)難易度(レベル)	レベル2																																
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力																																
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること																																
(15)授業の概要	日本特有のゲームである将棋の歴史から現在のルールおよびタイトル戦の制度までを学ぶ。 実際に将棋の戦法の進化を体験する。																																
(16)授業の内容予定	<table border="0"> <tr> <td>第1回：将棋のルールと制度</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第2回：詰みとは</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第3回：将棋の手筋と囲い</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第4回：将棋の終盤</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第5回：将棋の戦法 棒銀1</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第6回：将棋の戦法 棒銀2</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第7回：将棋の戦法 四軒飛車</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第8回：将棋の戦法 腰掛銀</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第9回：将棋の戦法 矢倉</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第10回：将棋の戦法 横歩取り</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第11回：将棋の実戦1</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第12回：将棋の実戦2</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第13回：将棋の戦法 最近居飛車</td> <td>細川洋一郎</td> </tr> <tr> <td>第14回：将棋の戦法 最近の振り飛車</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第15回：将棋の実戦3</td> <td>敦賀英知</td> </tr> <tr> <td>第16回：期末試験</td> <td></td> </tr> </table>	第1回：将棋のルールと制度	敦賀英知	第2回：詰みとは	敦賀英知	第3回：将棋の手筋と囲い	敦賀英知	第4回：将棋の終盤	細川洋一郎	第5回：将棋の戦法 棒銀1	細川洋一郎	第6回：将棋の戦法 棒銀2	細川洋一郎	第7回：将棋の戦法 四軒飛車	細川洋一郎	第8回：将棋の戦法 腰掛銀	細川洋一郎	第9回：将棋の戦法 矢倉	細川洋一郎	第10回：将棋の戦法 横歩取り	細川洋一郎	第11回：将棋の実戦1	敦賀英知	第12回：将棋の実戦2	敦賀英知	第13回：将棋の戦法 最近居飛車	細川洋一郎	第14回：将棋の戦法 最近の振り飛車	敦賀英知	第15回：将棋の実戦3	敦賀英知	第16回：期末試験	
第1回：将棋のルールと制度	敦賀英知																																
第2回：詰みとは	敦賀英知																																
第3回：将棋の手筋と囲い	敦賀英知																																
第4回：将棋の終盤	細川洋一郎																																
第5回：将棋の戦法 棒銀1	細川洋一郎																																
第6回：将棋の戦法 棒銀2	細川洋一郎																																
第7回：将棋の戦法 四軒飛車	細川洋一郎																																
第8回：将棋の戦法 腰掛銀	細川洋一郎																																
第9回：将棋の戦法 矢倉	細川洋一郎																																
第10回：将棋の戦法 横歩取り	細川洋一郎																																
第11回：将棋の実戦1	敦賀英知																																
第12回：将棋の実戦2	敦賀英知																																
第13回：将棋の戦法 最近居飛車	細川洋一郎																																
第14回：将棋の戦法 最近の振り飛車	敦賀英知																																
第15回：将棋の実戦3	敦賀英知																																
第16回：期末試験																																	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：教科書を指定するので良く読んで予習してください。 復習：授業の前に前回の内容の小テストをするので、良く復習してください。																																

(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	羽生善治著、羽生流で強くなる はじめての将棋、2016年（成美堂出版）
(21)参考文献	羽生善治著、羽生善治のみるみる強くなる将棋入門-5カ条で勝ち方がわかる、2009年（池田書店） NHK教育テレビ将棋講座（日曜午前10時から）は大変参考になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（小テスト、授業中の棋譜提出、授業態度）（20%） 期末試験（ルール、詰め将棋、次の一手、歴史およびタイトル戦の知識）（80%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式と将棋の実戦
(25)留意点・予備知識	将棋が指せるようになり戦法の意味を知るには、自分自身の努力が必須でそれが評価に反映します。
(26)オフィスアワー	水曜日を除く17:30～18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス <a href="mailto:hosokawa@hirosaki-u.ac.jp">hosokawa@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	第13回および第14回に青森将棋連盟師範の奈良岡実先生をゲストスピーカーとして招き、最新の将棋会の情報ならびに定跡を講義してもらいます。



## 教養教育科目

(1)整理番号	158
(2)区分番号	158
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－声楽入門Ⅰ－ (Art-Introduction to Vocal Music Ⅰ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	杉原 かおり (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	西洋音楽に基づいた音楽の発声の基礎に触れ、自然で無理のない歌い方を理解することができるようにします。そのために「プロの歌手はなぜ声量があるのか?」「なぜホールに声が響き渡るのか?」など、歌う声について興味を持ち、よい発声とはどのようなものかを考えながら、歌唱発声の基礎を学び、各人の習熟度にあった小品を歌います。また、伴奏の説明を通して楽曲について知見を広めます。
(16)授業の内容予定	以下の内容を、それぞれの授業の中で、個人の習熟度に合わせた発声指導・歌唱指導を交えながら行います。また音楽史や音楽と文学の関係についても必要に応じて講義します。 (指導例) 第1回 ガイダンスと発声 声を出しながら体の使い方の基本を学ぶ 第2回 発声 声を出しながら体の使い方の基本を学ぶ 第3回 発声と練習曲コンコーネ1番 学習方法を知る 第4回 発声と練習曲コンコーネ2・3番 第5回 発声と練習曲コンコーネ4・5番 共通課題 楽曲の学習方法を知る 第6回 発声と練習曲コンコーネ6・7番 共通課題 楽曲の譜読み 第7回 発声と練習曲コンコーネ7番まで復習 共通課題 楽曲の演奏表現 第8回 練習曲コンコーネ8番と課題楽曲の仕上げ 第9回 練習曲コンコーネ9・10番 自由選択 楽曲①の選曲 (個人の声質やソルフェージュ能力などを考慮して選曲) 第10回 練習曲コンコーネ10・11番 自由選択 楽曲①の演奏表現 第11回 練習曲コンコーネ11・12番 自由選択 楽曲①の仕上げ 第12回 練習曲コンコーネ12・13番 自由選

	<p> <b>択楽曲②の選曲</b>            第13回 練習曲コンコーネ13・14番 自由選  <b>択楽曲②の演奏表現</b>            第14回 練習曲コンコーネ14・15番 自由選  <b>択楽曲②の仕上げ</b>            第15回 練習曲15番までの復習と課題曲・選            択曲から選択した1曲の仕上げ            第16回 任意の楽曲発表         </p> <p>           曲目は学習者の状況を見て教員が助言しま            す。それぞれの実態に応じてすすめていきま            すので、内容が変更になる場合もあります。            なお、毎時間が評価の対象です。         </p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>           毎日の練習を必ず行うこと。運動選手と同じ            で、歌を歌うには歌う筋力が必要です。残念            ながら歌う筋力は運動だけでも身についま            せん。毎日歌うことで育っていきますので、            毎日の練習は欠かさず行ってください。         </p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番中声用, 各人の習熟度に合わ せてその都度指示します。
(21)参考文献	必要に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、個人指導、全体指導
(25)留意点・予備知識	読譜できること。西洋音楽を基にして展開す る授業です。
(26)オフィスアワー	月曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kabochan@hirosaki-u.ac.jp">kabochan@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	受講中は教員と相談の上、教育学部の練習室 の使用を認めることもあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	159
(2)区分番号	159
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－声楽入門Ⅱ－ (Art-Introduction to Vocal Music Ⅱ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	杉原 かおり (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	西洋音楽に基づいた音楽の発声の基礎に触れ、自然で無理のない歌い方を理解し、簡単な曲で実践できるようにします。声楽入門Ⅰで学んだ歌唱発声の基礎を定着させ、各人の声質や習熟度にあった選曲について考察し理解できるようにします。また、伴奏の説明を通して楽曲について知見を広めます。
(16)授業の内容予定	以下の内容を、それぞれの授業の中で、各人の習熟度に合わせた発声指導・歌唱指導を交えながら行います。また音楽史や音楽と文学の関係についても必要に応じて講義します。  (指導例) 第1回 ガイダンスと発声 声を出しながら体の使い方の基本を学ぶ 第2回 発声 声を出しながら体の使い方の基本を学ぶ 第3回 発声と練習曲コンコーネ1・16番 学習方法を知る 第4回 発声と練習曲コンコーネ17番 第5回 発声と練習曲コンコーネ18番 共通 課題楽曲の学習方法と譜読み 第6回 発声と練習曲コンコーネ19番 共通 課題楽曲演奏表現 第7回 練習曲コンコーネ20番と課題楽曲の仕上げ 第8回 練習曲コンコーネ21番 自由選択楽曲①の選曲(個人の声質やソルフェージュ能力などを考慮して選曲) 第9回 練習曲コンコーネ22番 自由選択楽曲①の演奏表現 第10回 練習曲コンコーネ23番 自由選択楽曲①の仕上げ 第11回 練習曲コンコーネ24番 自由選択楽曲②の演奏表現 第12回 練習曲コンコーネ25番 自由選択楽曲②の演奏表現 第13回 練習曲コンコーネ25番復習 自由選択楽曲②の演奏表現と仕上げ 第14回 練習曲コンコーネ26番 自由選択楽

	<p>曲③の演奏表現  第15回 練習曲コンコーネ26復習 自由選択  楽曲③の演奏表現と仕上げ  第16回 任意の楽曲発表</p> <p>曲目は学習者の状況を見て教員が助言します。それぞれの実態に応じてすすめていきますので、内容が変更になる場合もあります。なお、毎時間が評価の対象です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎日の練習を必ず行うこと。運動選手と同じで、歌を歌うには歌う筋力が必要です。残念ながら歌う筋力は運動だけでも身につけません。毎日歌うことで育っていきますので、毎日の練習は欠かさず行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番中声用、各人の習熟度に合わせてその都度指示します。
(21)参考文献	必要に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、個人指導、全体指導
(25)留意点・予備知識	読譜できること。西洋音楽を基にして展開する授業です。
(26)オフィスアワー	月曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kabochan@hirosaki-u.ac.jp">kabochan@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	受講中は教員と相談の上、教育学部の練習室の使用を認めることもあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	160
(2)区分番号	160
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－彫刻入門Ⅰ－（Art－Basic study of sculptureⅠ－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	塚本 悦雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○講義では古今東西の様々な彫刻作品をスライドで鑑賞し、彫刻芸術への知識・理解を深める。 ○彫刻の様々な技法、素材を紹介し、それらと表現の関わりについて考察する。 ○上記で得た知識・理解を生かし、各自がそれぞれテーマを決定し、アイデアスケッチ、マケット制作（粘土で制作後素焼きする）を経て、小さい木彫作品を制作する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション、講義「彫刻の現在」 第2回：講義「概説：西洋彫刻史から見る時代精神と芸術」 第3回：講義「概説：日本彫刻史から見る時代精神と芸術」 第4回：講義「技法と表現」 第5回：講義「木彫について」 第6回：木彫制作の実践 ・ 作品の構想、アイデアスケッチ、マケット制作（粘土） 第7回： " ・ マ ケット完成（焼成シテラコッタへ） 第8回： " ・ 道具 について 第9回： " ・ 木取り 第10回： " ・ 粗彫り 第11回： " ・ 中彫り（中 間講評） 第12回： " ・ 仕上げ 第13回： " ・ " 第14回： " ・ 完成（場合 によっては着彩） 第15回：講評、片付け
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	出来るだけ多くの彫刻作品（古今東西様々な）、特に具象的に表現されたものを、実物や図版などで観るなどして、知識を広めておくことが望まれます。この学習を週4時間程度行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	建畠覚造他「彫刻をつくる(新技法シリーズ)1」美術出版、舟越桂「森へ行く日」求龍堂 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業は演習形式で行います。講義で得た知識や理解を作品制作の実践を通し、さらに深めていきます。また、全回を通じて、様々な作家を(簡単にですが)紹介していきます。
(25)留意点・予備知識	作業しやすい服装で受講してください。教材費(桂材、楠材など)として1000円程度が必要です。彫刻作品を数多く観てください。図版でも良いですが、美術館、ギャラリー、神社仏閣、町の中にあるモニュメントなど、それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望まれます。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:etsuka@hirosaki-u.ac.jp">etsuka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	161
(2)区分番号	161
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－彫刻入門Ⅱ－ (Art－Basic study of sculpture Ⅱ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	塚本 悦雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○講義では古今東西の様々な彫刻作品をスライドで鑑賞し、彫刻芸術への知識・理解を深める。 ○彫刻の様々な技法、素材を紹介し、それらと表現の関わりについて考察する。 ○上記で得た知識・理解を生かし、各自がそれぞれテーマを決定し、アイデアスケッチ、マケット制作(粘土で制作後素焼きする)を経て、小さい石彫作品を制作する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション、講義「彫刻の現在」 第2回：講義「概説：西洋彫刻史から見る時代精神と芸術」 第3回：講義「概説：日本彫刻史から見る時代精神と芸術」 第4回：講義「技法と表現」 第5回：講義「石彫について」 第6回：石彫制作の実践 ・ 作品の構想、アイデアスケッチ、マケット制作(粘土) 第7回： // ・ マケット完成(焼成しテラコッタへ) 第8回： // ・ 道具について 第9回： // ・ 荒どり 第10回： // ・ 粗彫り 第11回： // ・ 中彫り (中間講評) 第12回： // ・ 仕上げ 第13回： // ・ 磨き 第14回： // ・ 完成 第15回：講評、片付け
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	出来るだけ多くの彫刻作品(古今東西様々な)、特に具象的に表現されたものを、実物や図版などで観るなどして、知識を広めておくことが望まれます。この学習を週4時間程度行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業は演習形式で行います。講義で得た知識や理解を作品制作の実践を通し、さらに深めていきます。また、全回を通じて、様々な作家を（簡単にですが）紹介していきます。
(25)留意点・予備知識	作業しやすい服装で受講してください。教材費（滑石、耐水ペーパーなど）として1000円程度が必要です。彫刻作品を数多く観てください。図版でも良いですが、美術館、ギャラリー、神社仏閣、町の中にあるモニュメントなど、それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望まれます。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:etsuka@hirosaki-u.ac.jp">etsuka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	162
(2)区分番号	162
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－合奏法入門Ⅰ－ (Art－Beginning level of the Wind Ensemble Ⅰ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	和田 美亀雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○ボディー・パーカッションとヴォイス・アンサンブルを通して演奏表現の基礎を体得する。 ○オーケストラについて楽器編成の種類、楽器学や総譜の読譜法などを通して合奏の仕組みを理解する。
(16)授業の内容予定	1. ボディー・パーカッションの基本的技術を学ぶ。 2. リズム及びテンポの「感覚」、「響きの創造」について学ぶ。 3. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術を訓練する。(1) 4. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術を訓練する。(2) 5. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術を訓練する。(3) 6. 3重奏のアンサンブルを土台に4重奏の合奏を体験学習する。 7. ヴォイス・アンサンブルの基本的技術を学ぶ。 8. メロディーの表現法、ハーモニーの純正律和音の音程づくりを訓練する。 9. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合奏(合唱)技術を訓練する。(1) 10. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合唱技術を訓練する。(2) 11. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合唱技術を訓練する。(3) 12. 「オーケストラ」の世界を探求する。 13. 「オーケストラの楽器」について学ぶ。 14. 「オーケストラに携わる人々」について学ぶ。 15. 「日本と世界のオーケストラ比較」について学ぶ。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	日々の訓練が必須になります。復習課題を毎日約1時間、規則正しく練習して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜、プリントを配布します。
(21)参考文献	必要に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎時の授業をもって評価しますが、特に復習の習熟度を重要視します。(90%)演奏発表(10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式。
(25)留意点・予備知識	楽譜が読めること。楽器演奏の経験がある人が望ましいです。
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mikio@hirosaki-u.ac.jp">mikio@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	163
(2)区分番号	163
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－合奏法入門Ⅱ－ (Art－Beginning level of the Wind Ensemble Ⅱ－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	和田 美亀雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>○ボディー・パーカッションとヴォイス・アンサンブルの基礎を土台に楽器演奏能力を高める。</p> <p>○オーケストラという合奏形態における演奏及び合奏能力の見極めや演奏表現について学び、指揮者や組織・運営面なども含めてオーケストラを深く理解する。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボディー・パーカッションの技術を学ぶ。</li> <li>2. リズム及びテンポの「感覚」「表現力」「精緻度」や「響きの創造」について実践する。</li> <li>3. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術のレベルアップを目指す。 (1)</li> <li>4. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術のレベルアップを目指す。 (2)</li> <li>5. アンサンブルの基本である3重奏を土台として合奏技術のレベルアップを目指す。 (3)</li> <li>6. 3重奏のアンサンブルを土台に4重奏の合奏を体験学習する。</li> <li>7. ヴォイス・アンサンブルの技術を学ぶ。</li> <li>8. メロディーの表現法、ハーモニーの純正律和音の響きについてレベルアップを目指す。</li> <li>9. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合奏(合唱)技術のレベルアップを目指す。(1)</li> <li>10. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合唱技術のレベルアップを目指す。(2)</li> <li>11. アンサンブルの基本である3重唱を土台として合唱技術のレベルアップを目指す。(3)</li> <li>12. 「オーケストラ」の歴史について特に日本のプロ・オーケストラを中心に学ぶ。</li> <li>13. 「オーケストラ」の組織について特に日本のプロ・オーケストラを中心に学ぶ。</li> </ol>

	<p>14. 「オーケストラ」の運営について特に日本のプロ・オーケストラを中心に学ぶ。</p> <p>15. 「オーケストラ」の指揮者について学ぶ。</p> <p>☆ 授業の進捗状況により、内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	日々の訓練が必須になります。復習課題を毎日約1時間、規則正しく練習して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜、プリントを配布します。
(21)参考文献	必要に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎時の授業をもって評価しますが、特に復習の習熟度を重要視します。(90%)演奏発表(10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式。
(25)留意点・予備知識	楽譜が読めること。楽器演奏の経験がある人が望ましいです。
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	164
(2)区分番号	164
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－日本画入門Ⅰ－（Art－Japanese PaintingⅠ－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	蝦名 敦子（教育学部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○日本画の様々な様式を鑑賞しながら、その理解を深める。 ○制作過程や基礎的な技法について学習し、植物のモチーフを使用して、小品を制作する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション（授業の進め方と「日本画の様式」（鑑賞）） 第2回 スケッチ（鉛筆） 第3回 スケッチ、写生（着彩：水彩、色鉛筆など） 第4回 写生（着彩）完成。構図の検討、下図の完成。 第5回 下図のコピーの準備。パネルの準備と紙貼り（水張り） 第6回 地塗り←材料・用具の説明（1）、胡粉（白色）の作り方 第7回 トレースと骨描き←材料・用具の説明（2）、具墨で濃淡をつける。 第8回 下塗り 第9回 描き起こしと着彩 第10回 着彩（背景） 第11回 着彩（大まかな色の重ね塗り） 第12回 着彩（全体と部分） 第13回 着彩（細部） 第14回 仕上げ 第15回 講評会（準備と片付けを含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	画集や展覧会の作品を鑑賞してください。制作時間が足りない場合は、授業以外の空いている時間を使って進めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	必要に応じて、資料を配付します。
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。作品に反映。評価全体の30%）

	提出物（レポート、写生画、日本画作品、同50%） 講評会（鑑賞、同20%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	実際に講義の理解を深めると同時に、演習形式で実践をします。制作をしながら実感的理解が得られるように進めます。
(25)留意点・予備知識	木製パネルは各自用意してもらいます。用具・材料は備品を使用できます。紙・絵の具代として500円が必要です。
(26)オフィスアワー	木曜日14:30～15:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:eatsuko@hirosaki-u.ac.jp">eatsuko@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	165
(2)区分番号	165
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－日本画入門Ⅱ－（Art－Japanese Painting Ⅱ－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	蝦名 敦子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○日本画の様々な作品鑑賞を通して、さらに発展的に理解を深める。 ○小動物（剥製や自然物）をモチーフとして制作し、表現力をさらに高める。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション（授業の進め方と「様々な日本の絵画」（鑑賞）） 第2回 スケッチ（鉛筆、色鉛筆） 第3回 写生（着彩：水彩、色鉛筆など） 第4回 写生（着彩）完成。構図の検討、下図の完成。 第5回 下図のコピーの準備。パネルの準備と紙貼り（揉み紙） 第6回 地塗り←材料・用具、技法の説明（1）、多様な絵の具。 第7回 トレースと骨描き←材料・用具、技法の説明（2） 第8回 下塗り 第9回 描き起こしと着彩 第10回 着彩（背景） 第11回 着彩（大まかな色の重ね塗り） 第12回 着彩（全体と部分） 第13回 着彩（細部） 第14回 仕上げ 第15回 講評会（準備と片付けを含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	引き続き画集や展覧会の作品を鑑賞してください。制作時間が足りない場合は、授業以外の空き時間に進めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じて資料を配付します。
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。作品に反映。評価全体の30%） 提出物（レポート、写生画、日本画作品、同

	50%) 講評会 (鑑賞、同20%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	実際に講義の理解を深めると同時に、演習形式で実践をします。制作をしながら実感的理解が得られるように進めます。
(25)留意点・予備知識	木製パネルは各自用意してもらいます。用具・材料は備品を使用できます。紙・絵の具代として500円が必要です。
(26)オフィスアワー	木曜日14:30~15:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	eatsuko@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	166
(2)区分番号	166
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術ーデザイン入門ー (Art-Introduction to Designー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 光輝 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○形態と色彩における美の基本を理解し、その法則を用いることで美しい作品を作り出す方法を学習します。 ○講義と作品制作を通して、デザインに重要な形の対称性と色彩の調和を理解します。 ○既存の商品パッケージデザインを分析し、改良するための計画を立案します。 ○計画レジュメと課題作品の制作をおこない、作品発表と展示、講評を実施します。
(16)授業の内容予定	1：ガイダンス、参考作品紹介 2：講義（シンメトリー） 3：練習作品（紋切り） 4：課題作品①制作 5：課題作品①制作 6：課題作品①制作 7：作品発表、講評 8：資料鑑賞（DVD） 9：商品パッケージのリデザイン 10：調査、商品購入 11：分析、計画、レジュメ作成 12：計画発表 13：課題作品②制作 14：課題作品②制作 15：作品発表、講評
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。内容については各授業で示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。 制作のための消耗品購入のため実習費（500円）を徴収します。
(21)参考文献	高橋正人、『基礎デザイン』（岩崎美術社） 南雲治嘉、『視覚表現』（グラフィック社） 三井秀樹、『形的美とは何か』（NHKブックス）

	三井秀樹、『美の構成学』（中公新書） 全て教員研究室で閲覧できます。
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は、授業への取り組み状況60点、課題作品40点の合計でおこないます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習、作品制作
(25)留意点・予備知識	制作した作品は学内掲示板等に展示し、公開する予定です。
(26)オフィスアワー	前後期 水曜 9、10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://www.facebook.com/hirodaibi">http://www.facebook.com/hirodaibi</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	167
(2)区分番号	167
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－鍵盤楽器演習A－ (Art－Style and performance of keyboard music (A)－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	朝山 奈津子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>・ピアノ、パイプオルガン、チェンバロ、クラヴィコードのために書かれた作品を取り上げ、演奏を目的として分析を行います。</p> <p>・楽譜に書かれている音高や各種の記号を手がかりに、鍵盤音楽を再構成する方法を研究します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>初回の授業で、各人が研究する楽曲を決めます。各回の授業では、輪番で2-3名の受講者の演奏を全員で聴き、最適の演奏様式について話し合ったり、調べたりします。必要に応じて、音楽史や音楽理論の講話、資料収集の実習を行います。受講者の希望に応じて、随時、開講時限外での個人指導も行います。最終時限（第16回）で成果発表会を行います（試験ではありません）。</p> <p>以下は、レッスン・スケジュールの一例です。</p> <p>第1回：ガイダンス、課題の選定  第2回：楽曲前半の譜読み  第3回：楽曲中盤の譜読み  第4回：楽曲全体の譜読み  第5回：楽曲前半の曲想  第6回：楽曲中盤の曲想  第7回：楽曲後半の曲想  第8回：楽曲全体の曲想  第10回：楽曲前半の技術的困難を生じる箇所  の練習方法検討  第11回：楽曲中盤の技術的困難を生じる箇所  の練習方法検討  第12回：楽曲後半の技術的困難を生じる箇所  の練習方法検討  第13回：楽曲全体の速度設定の決定  第14回：仕上げ  第15回：おさらい会リハーサル  第16回：おさらい会</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各自が選んだ課題について、毎日40分以上の練習を行って下さい。練習場所や楽器が確保

	できない場合は、教員に相談のこと（教育学部の施設を使用できます）。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に、各人の課題を配布します。
(21)参考文献	授業中に、各人の課題に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の授業に備えてきちんと練習し、楽曲について深く考えたかどうか（100%） 最終的な完成度や演奏技術の習熟は評価対象としません。授業を通じての各人の上達度を評価します。試験は行いません。おさらい会は練習のための動機づけにおこなうものです。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、個人指導、全体指導
(25)留意点・予備知識	大譜表が読めること。鍵盤楽器の演奏経験があり、両手での演奏に困難がないこと。
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約のうえ、随時可。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:asayaman@hirosaki-u.ac.jp">asayaman@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	受講者多数の場合は抽選を行います。なお、前年度までに「鍵盤楽器演習B」を受講し、「不可」、「可」および「良」以外の成績を得ている場合には、抽選の対象とせず、履修を認めます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	168
(2)区分番号	168
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－鍵盤楽器演習B－ (Art－Style and performance of keyboard music (B)－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	朝山 奈津子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること</p>
(15)授業の概要	<p>・ピアノ、パイプオルガン、チェンバロ、クラヴィコードのために書かれた作品を取り上げ、演奏を目的として分析を行います。</p> <p>・楽譜に書かれている音高や各種の記号を手がかりに、鍵盤音楽を再構成する方法を研究します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>初回の授業で、各人が研究する楽曲を決めます。各回の授業では、輪番で2-3名の受講者の演奏を全員で聴き、最適の演奏様式について話し合ったり、調べたりします。必要に応じて、音楽史や音楽理論の講話、資料収集の実習を行います。受講者の希望に応じて、随時、開講時限外での個人指導も行います。最終時限（第16回）で成果発表会を行います（試験ではありません）。</p> <p>以下は、レッスン・スケジュールの一例です。</p> <p>第1回：ガイダンス、課題の選定          第2回：楽曲前半の譜読み          第3回：楽曲中盤の譜読み          第4回：楽曲全体の譜読み          第5回：楽曲前半の曲想          第6回：楽曲中盤の曲想          第7回：楽曲後半の曲想          第8回：楽曲全体の曲想          第10回：楽曲前半の技術的困難を生じる箇所          の練習方法検討          第11回：楽曲中盤の技術的困難を生じる箇所          の練習方法検討          第12回：楽曲後半の技術的困難を生じる箇所          の練習方法検討          第13回：楽曲全体の速度設定の決定          第14回：仕上げ          第15回：おさらい会リハーサル          第16回：おさらい会</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各自が選んだ課題について、毎日40分以上の練習を行って下さい。練習場所や楽器が確保

	できない場合は、教員に相談のこと（教育学部の施設を使用できます）。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に、各人の課題を配布します。
(21)参考文献	授業中に、各人の課題に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の授業に備えてきちんと練習し、楽曲について深く考えたかどうか（100%） 最終的な完成度や演奏技術の習熟は評価対象としません。授業を通じての各人の上達度を評価します。試験は行いません。おさらい会は練習のための動機づけにおこなうものです。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、個人指導、全体指導
(25)留意点・予備知識	大譜表が読めること。鍵盤楽器の演奏経験があり、両手での演奏に困難がないこと。
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約のうえ、随時可。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:asayaman@hirosaki-u.ac.jp">asayaman@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	受講者多数の場合は抽選を行います。なお「鍵盤楽器演習A」（前年度以前含む）を受講し、「不可」、「可」および「良」以外の成績を得ている場合には、抽選の対象とせず、履修を認めます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	169
(2)区分番号	169
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－囲碁入門－ (Art－Introduction to Go－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山田 史生 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○碁の打ち方について、基礎から学ぶ。 ○囲碁の基本ルール等の習得および実戦  ※講師として、古川元 (青森県最強位) 古川こんゆ (日本棋院プロ棋士) をお招きし、望みうる最高レベルでの指導をおこないます。人生を豊かにするすべとして囲碁をおぼえてください。
(16)授業の内容予定	第1回 囲碁の基本ルールの解説 (1) 第2回 囲碁の基本ルールの解説 (2) 第3回 2眼生き・欠け眼について (1) 第4回 2眼生き・欠け眼について (2) 第5回 2眼生き・欠け眼について (3) 第6回 基本死活の訓練 (1) 第7回 基本死活の訓練 (2) 第8回 基本死活の訓練 (3) 第9回 基本死活の訓練 (4)。9路盤での実戦 (1)。 第10回 基本死活の訓練 (5)。9路盤での実戦 (2)。 第11回 基本死活の訓練 (6)。9路盤での実戦 (3)。 第12回 基本死活の訓練 (7)。13路盤での実戦 (1)。 第13回 基本死活の訓練 (8)。13路盤での実戦 (2)。 第14回 基本死活の訓練 (9)。13路盤でのAIとの実戦 (1)。 第15回 基本死活の訓練 (10)。13路盤でのAIとの実戦 (2)。 第16回 学期末テスト  ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合がありますが、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テストに向けて、各回の授業内容について十分に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	第16回目に行う全10問のテスト (100%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	第1～8回は囲碁の基本について講義します。第9回以降は、授業の前半は講義形式の座学ですが、授業の後半はじっさいに対局します。
(25)留意点・予備知識	予備知識はなんにもありませんが、講義内容で理解できないことがあれば、その場で遠慮なく質問してください。受講者全員で疑問の解決を共有し、全員が「碁が打てる」ようになることを目指しましょう。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:fumio@hirosaki-u.ac.jp">fumio@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	170
(2)区分番号	170
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－囲碁入門その後－ (Art-After that introduction to Go-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山田 史生 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	○発展的な碁の打ち方について学ぶ。  ※まったくの初心者ではなく、ひととおり碁の打ち方を知っているひと（前期の「囲碁入門」を受講したひとなど）が対象。 ※講師として、古川元（青森県最強位）古川こんゆ（日本棋院プロ棋士）をお招きし、望みうる最高レベルでの指導をおこないます。 人生を豊かにするすべとして囲碁をおぼえてください。
(16)授業の内容予定	第1回 囲碁というゲームについての解説 第2回 基本死活について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第3回 基本死活について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第4回 定石について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第5回 定石について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第6回 布石について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第7回 布石について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第8回 手筋について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第9回 手筋について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第10回 ヨセについて。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第11回 ヨセについて。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第12回 置碁について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(1) 第13回 置碁について。13路盤で対局し、局後に2局を解説。(2) 第14回 13路盤でのAIとの実戦。(1) 第15回 13路盤でのAIとの実戦。(2) 第16回 学期末テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テストに向けて、各回の授業内容について十分に復習すること。

(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	第16回目に行う全10問のテスト (100%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業の前半は講義形式の座学ですが、授業の後半は実際に対局します。
(25)留意点・予備知識	講義内容で理解できないことがあれば、その場で遠慮なく質問してください。受講者全員で疑問の解決を共有し、全員が有段者になることを目指しましょう。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	171
(2)区分番号	171
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－津軽三味線（入門）－（Art－Introduction of Tsugaru Shamisen－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員（所属）	富田 晃（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	・津軽三味線初心者のための授業です。 ・津軽じょんから節の演奏練習します。 ・最終回に発表会をおこないます。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 構え 第3回 撥の持ち方 第4回 撥の叩き方 第5回 弦の押さえ方 第6回 調弦の仕方 第7回 津軽じょんから節 1段A 第8回 津軽じょんから節 1段B 第9回 津軽じょんから節 1段C 第10回 津軽じょんから節 2段A 第11回 津軽じょんから節 2段B 第12回 津軽じょんから節 3段A 第13回 津軽じょんから節 3段B 第14回 リハ1 第15回 リハ2 第16回 公演 授業の進行状況等により、変更することがあります。 Tsugaru Shamisen Lessons
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。1週間に4時間（1日40分）の予習・復習をめぐり、毎回の内容を十分に習得してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリントを配ります。
(21)参考文献	富田晃『楽器は語る』千里文化財団
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、技術の習得度(1/3)、最終発表会(1/3)を総合的に評価 Participation attitude and skills acquisition

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および演奏
(25)留意点・予備知識	<p>受講希望者多数の場合は、初回に制限することがあります。</p> <p>三味線・撥は必要に応じレンタルします。レンタル代は初回にお知らせします。</p> <p>Enrollment capacity is limited. Adjust for the first time.</p>
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:atomita@hirosaki-u.ac.jp">atomita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	172
(2)区分番号	172
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－音楽と哲学A－作曲を通して考察する － (Art-Music and Philosophy A - thinking through compsiton of songs－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	清水 稔(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	・音楽行為を哲学的に捉えるとどのような関係性が生じているかということ、言葉との関係性を中心に考察しながら曲作りを通して学ぶ。 ・現代の音楽環境を考える上でのDTMやインターネット、動画といったメディアとの関連も学ぶことで、これからの芸術や教育の在り方について考察する。
(16)授業の内容予定	第1回 言葉と音楽(シニフィエとシニフィアンから読み解く) 第2回 感情とリズム 第3回 音楽における時間と空間の関係(差異と反復) 第4回 二部形式の言葉のアンサンブル 第5回 感情とメロディ 第6回 楽曲の作成 第7回 映像と音楽 第8回 身体表現と音楽(振り付けの意味作用) 第9回 音楽行為と技術の関係(DTMの意義) 第10回 音楽行為と技術の関係(インターネットの活用) 第11回 音楽動画の作成(構成の立案) 第12回 音楽動画の作成(制作) 第13回 音楽動画の作成(意見交換と修正) 第14回 品評会 第15回 音楽行為における意味作用(シニフィカション)と作品の意義
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・授業内で出された創作の課題について次の回まで仕上げてくる(2時間)。 ・授業内で出てきた用語や哲学者については授業の指示をもとに予習をする(2時間)。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の中でプリントの資料を配布する。パソコンで制作をするので、パソコンを持参できることが条件となる。
(21)参考文献	白取春彦監修 (2016) 「『哲学』は図で考えると面白い」 青春出版社 シヨーン・ホール (2013) 「イメージと意味の本」 (前田茂訳) フィルムアート社 他は、その都度、授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表やグループ討議への参加といった学習姿勢 (15%) 授業内で制作した作品など課題の達成度 (50%) 最終的な作品とノート内容 (35%) 上記をもとに総合的に評価をする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	・グループでの作品制作をしながら、その作品をもとに講義をする。 ・場合によっては議論や発表を伴う。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	E-mailでアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp">m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	173
(2)区分番号	173
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	芸術－音楽と哲学B－作曲を通して考察する － (Art-Music and Philosophy B - thinking through compsiton of songs－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	清水 稔 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
(15)授業の概要	・音楽行為を哲学的に捉えるとどのような関係性が生じているかということ、楽器や電子音との関係性を中心に考察しながら曲作りを通して学ぶ。 ・現代の音楽環境を考える上でのDTMやインターネット、動画といったメディアとの関連も学ぶことで、これからの芸術や教育の在り方について考察する。
(16)授業の内容予定	第1回 自然と音楽 (シニフィエとシニフィアンから読み解く) 第2回 自然と人為 第3回 音楽における時間と空間の関係 (差異と反復) 第4回 ミニマルミュージックの鑑賞 第5回 ミニマルミュージックの創作 第6回 儀式と音楽 第7回 物語と音楽 第8回 効果音と音楽 (音の意味作用) 第9回 創造行為と技術の関係 第10回 複製技術とライブの意義 第11回 音楽動画の作成 (構成の立案) 第12回 音楽動画の作成 (制作) 第13回 音楽動画の作成 (意見交換と修正) 第14回 品評会 第15回 音楽行為における意味作用 (シニフィカション) と作品の意義
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・授業内で出された創作の課題について次の回まで仕上げてくる (2時間)。 ・授業内で出てきた用語や哲学者についてノートにまとめてレポート作成に活用し、次の回で扱う内容については授業での指示をもとに予習をする (2時間)。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	授業で資料となるプリントを配布する。パソコンを用いて作曲をするのでパソコンが必要となる。
(21)参考文献	白取春彦監修 (2016) 「『哲学』は図で考えると面白い」 青春出版社 シヨーン・ホール (2013) 「イメージと意味の本」 (前田茂訳) フィルムアート社 他は、その都度、授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表やグループ討議への参加といった学習姿勢 (15%) 授業内で制作した作品など課題の達成度 (50%) 最終的な作品とレポート (35%) 上記をもとに総合的に評価をする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の制作と講義が中心に活動をする。</li> <li>・ 場合によっては、グループで制作し、作品に対する討議や発表を伴う。</li> </ul>
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	E-mailでアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp">m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。



## 教養教育科目

(1)整理番号	174
(2)区分番号	174
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会—知的財産概論— (Political Economy and Social Sciences—Introduction to Intellectual Property—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	内山 大史 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○知的財産の基礎を学ぶ ○知的財産の制度や活用の方法などを踏まえて、大学における調査研究活動、社会における価値創造の留意点について認識する
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回～第8回 特許制度概要 (特許、意匠、商標等) 第9回～第11回 調査学習、グループ学習 (具体的な知的財産についての調査) 第12回～第14回 発表・プレゼンテーション (調査結果を発表) 第15回 総合討論、総括
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習]各グループ回の冒頭には知的財産に関する予備的な学習が必要です。 [復習]各グループ回修了後、具体的な案件の確認や課題等探索が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。講義中、適宜プリント等が配布されます。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (ミニレポート) : 40% 期末評価 (発表) : 60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半は座学中心、後半はアクティブ・ラーニング型の授業 (調査、グループ学習、発表など) となります。
(25)留意点・予備知識	エクセル、パワーポイントを利用しますが、特別なスキル等は必要ありません。
(26)オフィスアワー	

	月曜日12～13時ですが、具体的な日時については事前にメールで確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	daishi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	175
(2)区分番号	175
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－経営学入門Ⅰ②－ (Political Economy and Social Sciences－ Introduction to Management I－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	大倉 邦夫(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○われわれが生活する上での商品やサービスを生産・供給している企業の経営活動について学ぶ ○企業の経営活動がわれわれの生活にどのようにして支えているのか理解を深める
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 企業経営の全体像: 『もしドラ』の「ドラ」とは?、経営学の全体像 第3回 企業と会社 第4回 企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 第5回 企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 第6回 競争戦略のマネジメント (Part. 1): 基本的な考え方 第7回 競争戦略のマネジメント (Part. 2): 違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争 第8回 学習状況の確認(中間試験含む)と振り返り 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 マクロ組織のマネジメント 第12回 ミクロ組織のマネジメント 第13回 経営学の広がり: ファミリービジネスのマネジメント 第14回 ソーシャル・ビジネス 第15回 学習状況の確認(期末試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	普段から, 自主的にニュースを見たり新聞を読み, 企業行動について少しでも関心を持つようにしてください。そうすることで, 以下にあるような予習・復習が大きな意義を持つようになります。 予習: 講義終了時に, 次回どこを学習するか指定するので, その該当部分を事前に読んでくること。

	復習：講義で学習した内容をふまえ、新聞やビジネス雑誌を読み、事例分析をおこなう。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学』（第2版）（2012）碩学舎
(21)参考文献	特に指定はありません
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（中間試験あるいは中間レポート）：30% 期末評価（期末試験あるいは期末レポート）：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを使用した講義形式です。 必要に応じて、新聞や雑誌のコピーを配布します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません
(26)オフィスアワー	金曜日3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	k_ohkura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	176
(2)区分番号	176
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－ゲーム理論の基礎－ (Political Economy and Social Sciences－ Introduction of Game Theory－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	小谷田 文彦 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	この講義では、「ゲーム理論」を学びます。ゲーム理論とは、「相互依存関係がある状況での合理的な意志決定」に関する学問です。 社会においては、多くの場合、自分の行動は他人に何らかの影響を与えます。また、他人の行動を考慮した上で自分の行動を決定する必要がある場合もあります。このような状況を「相互依存関係のある状況」と呼びますが、その様な状況に直面した場合、我々はどのように考え、行動すべきでしょうか。この講義では、ゲーム理論を通してそのための思考プロセスを学びます。 また、相互依存関係は社会の様々な場面で登場することから、ゲーム理論は経済学、経営学、政治学、社会学、生物学、等を学ぶ際の必須の知識となっています。ゲーム理論を学ぶことによって、皆さんは社会を新しい視点から認識できるようになるでしょう。
(16)授業の内容予定	第1回 ゲーム理論とは何か 第2回 ゲームを解いてみよう1 第3回 ゲームを解いてみよう2 第4回 繰り返しゲームと協調 第5回 不確実性の存在と合理的な意思決定1 第6回 不確実性の存在と合理的な意思決定2 第7回 交渉と自己拘束 第8回 戦略的な情報利用1 第9回 戦略的な情報利用2 第10回 所有と経営の分離 第11回 危険の分担と契約 第12回 入札の理論 第13回 進化と学習のゲーム 第14回 多人数協力ゲーム 第15回 まとめと復習 第16回 学期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	[予習]講義中に指示する事柄について調べておいて下さい。 [復習]講義中に用いた演習問題について、自力で解答できるようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	用いません。
(21)参考文献	武藤滋夫著『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001 神戸伸輔著『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社、2004 渡辺隆裕著『ゼミナールゲーム理論入門』日本経済新聞出版社、2008  (全て弘大図書館で閲覧可能です)
(22)成績評価方法及び採点基準	学期末試験で評価(100%)します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	通常の講義形式です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	水曜日10時から11時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	177
(2)区分番号	177
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－市場社会と政府の経済入門 － (Political Economy and Social Sciences －Introduction to Public Finance－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	金目 哲郎 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○政府の経済活動を理解するための経済学や財政学の基本的知識を学びます。 ○市場社会における政府の経済活動のあり方を考えます。
(16)授業の内容予定	国や地方自治体による経済活動(これを「財政」と呼びます)を通して, 私たち住民の生活は安全と豊かさを享受し, 生活の利便の向上が図られています。ここでの経済活動とは, 人々から租税を集めて, これを財源にして行政サービスを提供することを指しています。市場社会において, なぜ, 私たちは租税を支払うのか, なぜ, 政府の経済活動を通して社会保障や教育が行われるのか, すべてを市場メカニズムに任せたらいけないのか, といった問いを考えていきます。 第1回 政府の経済活動とは何か(ガイダンス, 政府の経済活動) 第2回 政府の経済活動とは何か(財政とは何か) 第3回 予算とは何か(予算とは) 第4回 予算とは何か(日本の予算) 第5回 租税の根拠としくみ(租税とは, 租税根拠, 租税体系) 第6回 租税の根拠としくみ(租税制度と社会のあり方) 第7回 租税の根拠としくみ(身近な税) 第8回 租税の使途はどうなっているのか(戦後の予算をみる視点, 国の予算) 第9回 租税の使途はどうなっているのか(「財政」と「市場」で行うこと) 第10回 所得の再分配がなぜ必要か 第11回 地方自治体の予算と決算(国と地方の財政関係, 地方自治体の決算) 第12回 地方自治体の予算と決算(身近な自治体の財政状況をみるポイント) 第13回 自治体職員による講話(地方自治体の施策ほか) 第14回 社会的危機・格差社会と財政の関係

	<p>(日本の財政, 何が問題か)</p> <p>第15回 社会的危機・格差社会と財政の関係 (所得(再)分配, 政府の果たす役割)</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>※授業の進行状況等により, シラバスと実際の内容と異なる場合には, その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回の授業内容を講義ノートや配付資料, 参考文献等で復習することが必要です。復習を怠ると次回の授業が理解できなくなります。また, 授業内容に関連させたミニレポートが宿題として数回(例年4, 5回程度)課されます。ミニレポート形式の宿題を作成する時間も十分確保してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書の指定はありません。必要に応じて, プリント資料が配付されます。
(21)参考文献	<p>(1) 神野直彦『財政のしくみがわかる本』(2007) 岩波ジュニア新書</p> <p>(2) 宇沢弘文『社会的共通資本』(2000) 岩波新書</p> <p>(3) 篠原正博ほか編著『テキストブック 地方財政』(2017) 創成社</p> <p>(4) 林宏昭・橋本恭之『入門 地方財政(第3版)』(2014) 中央経済社</p> <p>(5) 井手英策『財政から読みとく日本社会』(2017) 岩波書店</p> <p>上記(1)は講義で扱うテーマ全体を体系的に理解するのに大変役立ちます。(2)は「ゆたかな社会」をつくるための条件と, 政府の役割が理解できます。(3)と(4)は地方自治体の財政のしくみや課題を学ぶための入門書です。(5)は財政学者の視点から日本社会が直面する課題を問う新書で学生皆さんに一読を薦めます。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>(1) 平常評価(ミニレポート等): 40%</p> <p>ミニレポート形式の宿題(例年4, 5回程度の実施)を期日までに提出しない場合は加点対象となりません。</p> <p>(2) 期末評価(期末試験): 60%</p> <p>上記(1)と(2)を合算して最終的な成績評価を行う予定です。なお, 期末試験では, 授業の理解度・習得度が採点基準となります。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式によります。板書による講義を基本とし, 必要に応じ資料等を活用する予定です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありません。今後, 政治・経済学を専門的または学際的に学んでみたい人や, 将来, 地方自治体などの公的部門で働きたい人には知っておいてほしい授業内容です。
(26)オフィスアワー	水曜日12時~13時(他の曜日・時限でも可)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	通常の講義のほかに, 授業時間の中で1回程度, 青森県内の自治体職員をお招きして自治



体施策に関わる講話を実施する予定です。詳細が決まりましたら、授業時にお知らせします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	178
(2)区分番号	178
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－入門マクロ経済学－ (Political Economy and Social Sciences－ Introduction to Macroeconomics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	山本 康裕 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○経済学とは何か、マクロ経済学とは何かを講義します。 ○一国全体の経済活動の水準(国民所得)がいかに決定するかを学びます。 ○政府が行う財政政策と中央銀行が行う金融政策が国民所得をどのように変動させるかを学びます。
(16)授業の内容予定	この講義の内容予定は下記となります。 第1回 日本経済の現状とガイダンス 第2回 経済学の基本用語 第3回 経済の基本問題、マクロ経済学とミクロ経済学 第4回 GDPの算出方法 第5回 数学補論(グラフの読み方) 第6回 古典派経済学とケインズ経済学の学説 第7回 国民所得決定理論(45度線分析)への準備 第8回 消費関数 第9回 国民所得決定理論(45度線分析) 第10回 乗数効果 第11回 税金を導入した国民所得決定理論I 第12回 税金を導入した国民所得決定理論II 第13回 貿易のある経済における国民所得決定理論 第14回 流動性選好仮説 第15回 金融政策の効果 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	この講義は積み上げ式の講義であり、毎回の講義の復習を怠るとすぐにはぐれてしまうでしょう。講義の復習が予習も兼ねていると認識してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	法学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	講義の内容を理解するための練習問題のプリントを配布することもある。
(21)参考文献	第1回の講義にて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の講義の最後に講義の感想及び理解できなかったことを記述したノートを提出し、それを各回2点の範囲で評価し、15回の講義で総計0点から30点の範囲で評価する。講義をしつかりと聞いていないと判断した場合はゼロ点とすることもある。期末試験は70点であり、合計得点を評価とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書にて講義する。
(25)留意点・予備知識	義務教育レベルの数学知識が必要であるが、第5回の講義にて、この講義を理解するために必要な数学知識を解説する。
(26)オフィスアワー	火曜日7.8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	公開しません。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	179
(2)区分番号	179
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会—社会学入門— (Political Economy and Social Sciences—Introduction to Sociology—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること</p>
(15)授業の概要	<p>○「社会」というものをめぐる常識を疑う、批判的に考察する</p> <p>○身近な生活を理解するための社会学の基礎的な概念を紹介する</p> <p>○他の社会科学の各分野でも取り扱われる概念を取り上げ、それらが現代社会を理解する道具としてどれだけ有効であるかについて考える</p> <p>○社会学のもつ可能性や限界について考えること</p>
(16)授業の内容予定	<p>社会学は、受講者の皆さんの多くにとって、大学で初めて触れる学問領域のひとつです。「社会」ということばは、人々にとって空気のように当たり前存在するものであって、その意味について深く考える機会というのはそれほど多くなかったことでしょう。</p> <p>この授業では、そんな当たり前のような「社会」ということばにとことんこだわり、「社会」というものを、少しだけ違った角度から眺めてみたいと思います。そして皆さんが、身の回りにある常識を疑う、批判的に考察できるようになることを目標とします。</p> <p>講義にあたっては、前半部分で身近な生活を理解するための社会学の基礎的な概念を紹介し、後半部分では他の社会科学の各分野でも取り扱われる概念を取り上げ、それらが現代社会を理解する道具としてどれだけ有効であるかについて考えていきます。</p> <p>社会学は、社会科学のなかでも比較的新しい学問であり、それゆえに誰もが関わりやすく、ツッコミがいのあるものでもあります。「社会」について考えることが第一の目標だとすると、社会学のもつ可能性や限界について考えることが第二の目標になります。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 わたしたちの今いる場所—「社会」とは何か—</p>

	第3回 近代社会の見取り図 第4回 社会の一員になる—社会化— 第5回 「成長する」ということ—役割の変 化— 第6回 目に見える規則・目に見えない規則 —社会規範— 第7回 人とふれあうこと—生活と相互行為 — 第8回 「格差」をとらえる—社会階層— 第9回 働くことの意味—労働と余暇— 第10回 愛情のありか—家族— 第11回 地域社会のゆくえ—コミュニティと ボランティア— 第12回 福祉社会への問い—福祉国家をめ ぐって— 第13回 環境との共生—近代社会システムへ の告発— 第14回 後期近代社会—不可能性の時代— 第15回 授業の総括と理解度の確認
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられる社会学の諸概念について、その意味内容を整理し、理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	—
(18)学問分野3(副学問分野)	—
(19)実務経験のある教員による授業科目について	—
(20)教材・教科書	特定の教科書は指定しません。
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介しま す。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度。毎回の授業内容 に対するリアクションペーパーの内容に基づ く。単なる出席回数ではない。評価全体の 30%)と期末評価(理解度の確認。同70%) とを合算して評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後にその日の 講義・映像の内容についての質問・感想を書 いたリアクションペーパーを提出してもら い、次回の授業の際に紹介・回答するという 方法をとります。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げ となるので、教室内でのマナーを守れない学 生の履修は固くお断りします。受講にあつ ては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	第1回授業の際にお伝えします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回授業の際にお伝えします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	180
(2)区分番号	180
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－経営学入門Ⅰ①－ (Political Economy and Social Sciences－ Introduction to Management I－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	熊田 憲 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○われわれが生活する上での商品やサービスを生産・供給している企業の経営活動について学ぶ ○企業の経営活動がわれわれの生活にどのようにして支えているのか理解を深める
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 企業経営の全体像: 『もしドラ』の「ドラ」とは? 第3回 経営学の全体像 第4回 企業と会社 第5回 企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 第6回 企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 第7回 競争戦略のマネジメント (Part.1): 基本的な考え方 第8回 競争戦略のマネジメント (Part.2): 違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 マクロ組織のマネジメント 第12回 ミクロ組織のマネジメント 第13回 キャリアデザイン 第14回 経営学の広がり (Part.1): ファミリービジネスのマネジメント 第15回 経営学の広がり (Part.2): 病院組織のマネジメント 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	普段から, 自主的にニュースを見たり新聞を読み, 企業行動について少しでも関心を持つようにしてください。そうすることで, 以下にあるような予習・復習が大きな意義を持つようになります。 予習: 講義終了時に, 次回どこを学習するか指定するので, その該当部分を事前に読んでくこと。

	復習：講義で学習した内容をふまえ、新聞やビジネス雑誌を読み、事例分析をおこなう。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学』（第2版）（2012）碩学舎
(21)参考文献	特に指定はありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（中間試験あるいは中間レポート）：30% 期末評価（期末試験あるいは期末レポート）：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを使用した講義形式です。 必要に応じて、新聞や雑誌のコピーを配布します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	熊田：人文社会科学部，火曜日，11：50～12：40 事前にメールでコンタクトを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kumata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	181
(2)区分番号	181
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－発想筋120%にアップー (Political Economy and Social Sciences－ Practice for innovative idea－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○日比野 愛子(人文社会科学部)、曾我 亨(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびに これら学問の近接領域についての学識を得る こと ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会へ の理解を深めること
(15)授業の概要	青森県は産業基盤が弱く、新産業を生みださ ないかぎり、未来はありません。この授業で は、青森県の未来に必要なアイデアをどん どん出します。各学部の強みを活かしながら、 チームを組んで青森の課題をみつけ、現 実的・非現実的を問わず、その解決のための ビジネスアイデアを出せるようにします。
(16)授業の内容予定	第1回 アイスブレイク 各学部の学生がもつ 強みを知り、最強のチームをつくる。 第2回 ビジョン アイデア創出の根幹にビ ジョンを据える。 第3回 アイデア量産① 課題を解決するに はどうしたらよいか。マンダラートや掛け算 ストーミング、ワールドカフェなど、アイ ディアを量産するための技術を習得する。 第4回 アイデア量産② 課題を解決するに はどうしたらよいか。マンダラートや掛け算 ストーミング、ワールドカフェなど、アイ ディアを量産するための技術を習得し、活用 する。 第5回 アイデア量産③ 課題を解決するに はどうしたらよいか。マンダラートや掛け算 ストーミング、ワールドカフェなど、アイ ディアを量産するための技術を習得し、定着 させる。 第6回 イノベーション 社会で生じる革新に ついて理解する。 第7回 青森の地域課題 「人材不足」の課題 を取り上げ、青森県では採用や就労をめぐり どのような困難があるかを理解する。 第8回 アイデアソン① 青森の地域課題を 解決するためのアイデアを形にする「アイ デアソン」を実施する。(案の作成) 第9回 アイデアソン② 青森の地域課題を 解決するためのアイデアを形にする「アイ デアソン」を実施する。(案の改善) 第10回 アイデアソン③ 青森の地域課題



	<p>を解決するためのアイデアを形にする「アイデアソン」を実施する。(案の強化)</p> <p>第11回 プレゼンテーションの準備</p> <p>第12回 プレゼンテーション 青森の地域課題を解決するためのアイデアを事業計画の形でまとめ、発表する。</p> <p>第13回 アイデア拡大① 青森の地域課題を解決するにはどうしたらよいか。アンチ・プレーストリーミングなど、より広い枠組みからアイデアを創出するための技術を習得する。</p> <p>第14回 アイデア拡大② 青森の地域課題を解決するにはどうしたらよいか。アンチ・プレーストリーミングなど、より広い枠組みからアイデアを創出するための技術を習得し、活用する。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※作業の進捗状況に応じて授業の内容・順番を多少変更することがあります。</p> <p>※各回、日比野・曾我が担当する予定です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間はチームごとにワークショップをおこないます。予習・復習として、チームの中で設定した課題にとりくむ、資料等を用意する、ワークショップで出た話題についての検討を進めることを求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし。授業では適宜配布資料や、作業用のシートを活用します。
(21)参考文献	須藤順・原亮(2016)『アイデアソン!: アイデアを実現する最強の方法』徳間書店
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームとしてのプレゼンテーションの完成度(40%)</li> <li>・チームへの貢献度(40%)</li> <li>・個人のリフレクション・レポート(20%)</li> </ul>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的にワークショップ形式でおこない、座学が一部あります。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	火曜 14時20分—15時50分 / 水曜 12時—12時30分(日比野)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	受講希望人数が多い場合は、受講制限をかけることがあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	182
(2)区分番号	182
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－はじめての会计学－ (Political Economy and Social Sciences－ Basic Accounting－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	内藤 周子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○財務諸表の仕組みや構造について理解を深める。 ○経営管理のための会計情報の活用方法についての知識を得る。
(16)授業の内容予定	第1回：イントロダクション 第2回：社会における会計の役割 第3回：複式記入の原理 (1) 複式記入のルール 第4回：複式記入の原理 (2) 複式記入の実践 第5回：財務諸表のしくみ (1) 企業会計の基本：キャッシュフローから利益へ 第6回：財務諸表のしくみ (2) 収益の認識と測定など 第7回：財務諸表分析 (1) 財務諸表分析を学ぶ意義 第8回：財務諸表分析 (2) 成長性の分析など 第9回：経営管理のための利益と原価 第10回：利益計画のための会計 (1) 経営計画・利益計画はなぜ必要なのか？ 第11回：利益計画のための会計 (2) 大綱的利益計画と損益分岐点の計算 第12回：意思決定のための会計 (1) 意思決定と代替案の選択 第13回：意思決定のための会計 (2) 意思決定に必要な原価情報 第14回：財務諸表監査と会計専門職としての公認会計士 第15回：会計のさまざまな領域 第16回：期末テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習) 授業は、教科書に沿って行います。 電卓で計算しながら教科書の数値を追って、よく読むことが予習になります。

	<p>(復習)  授業で配布する問題や、教科書の問題  (training) について、電卓を用いて自らの  手を動かして解くこと。</p> <p>※通して教科書を読むことをおすすめしま  す。難しいと思っても教科書を複数回読んで  もらいたい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	原俊雄・高橋賢編著『テキスト会計学講義』 中央経済社、2018年。
(21)参考文献	随時、案内します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート・小テスト等（10%）、期末テス ト（90%）。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予 定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心に行います。随時、計算問題を解 きます。
(25)留意点・予備知識	簿記、会計学、経営学に関する科目を履修す ることを望みます。
(26)オフィスアワー	金曜日5.6時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	183
(2)区分番号	183
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－政治学入門－ (Political Economy and Social Sciences－Introduction to Political Science－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	蒔田 純 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	・この授業では、政治に関する基本的な仕組みを理解した上で、政治事象について自ら考え、分析するための基礎を身につけることを目的とする。 ・政治とは何か、政治学とは何か、という政治学を学ぶ上で基礎となる問題について理解を得るため、毎回、政治に関する基本的概念を取り上げ、分かりやすく解説していく。 ・その際は、現実の政治行政の動きや実例を交え、できるだけ受講者が具体的にイメージしながら学べるような講義としたい。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション、政治とは何か 第2回 政治権力 第3回 国家 第4回 民主主義、自由主義 第5回 代表制と選挙 第6回 権力分立と政治制度 第7回 政党制 第8回 議会 第9回 官僚制 第10回 行政国家 第11回 政策形成過程 第12回 圧力団体 第13回 世論とマスコミ 第14回 地方政治 第15回 まとめ、政治の役割
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、次回講義についてのレジュメを配布するので、参考文献や関連資料に目を通し、自分なりの問題意識を持ってもらいたい。講義終了後は積極的に質問してもらいたい。その他、受講者には、新聞、ニュース等で実際に起こっている具体的なトピックについて常に敏感にアンテナを張り、その内容や問題点等について考えてほしい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学 第3版』有斐閣、2007年 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『新版 はじめて出会う政治学—フリー・ライダーを超えて』有斐閣、2003年 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年 村松岐夫・辻中豊・伊藤光利『日本の政治』有斐閣、2001年
(22)成績評価方法及び採点基準	・レポートの点数：評価全体の70% (授業内容を理解したうえで、政治事象について因果関係を明らかにしながら論理的に説明できるかどうか) ・平常点：同30% (小課題の提出、リアクションペーパーを通じた主体的な授業への参加)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式。各回、ポイントをまとめたレジュメを用いて講義を行う。授業の最後にその日の講義内容についてのリアクションペーパーを提出してもらう。また、授業中の質問を歓迎する。一つの質問をきっかけに教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りする。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:jun.makita@hirosaki-u.ac.jp">jun.makita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	184
(2)区分番号	184
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会－異端の経済学－ (Political Economy and Social Sciences－introduction to political economy－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	細矢 浩志(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること</p>
(15)授業の概要	<p>カール・マルクス(1818～1883年)の考えにもとづく経済学の総称である「マルクス経済学」は, 「資本主義」と呼ばれる経済システムを歴史的な存在と捉え, その内的構造と歴史的生成・発展・消滅の仕組みについて批判的な解明を試みる経済学大系のひとつです。マルクスは, 高校の教科書ではアダム・スミス, ケインズと並ぶ著名な経済学者の一人に数えられ, 彼の名著『資本論』も古典としての名声は高いけれど, いまではマルクス(とその諸業績)が取り上げられる機会はめっきり減ってしまいました。「異端」と名付けた所以です。こうした状況を踏まえ, 授業では以下の点に留意して解説していきます。</p> <p>○「マルクス経済学」を構成する基本的な概念について学びます</p> <p>○同経済学の切り口や問題意識が経済社会を分析・理解するうえでどのような意味を持つのかについて検討します</p> <p>○同経済学の学問体系として意義と限界について考えます</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：社会発展における労働の役割</p> <p>第3回：商品の価値と使用価値</p> <p>第4回：貨幣と商品の価格</p> <p>第5回：剰余価値の生産</p> <p>第6回：資本主義的生産様式の初段階と現段階</p> <p>第7回：労働力の価値と賃金</p> <p>第8回：資本の蓄積過程と雇用・失業問題</p> <p>第9回：資本の循環と回転</p> <p>第10回：社会的総資本の再生産と流通</p> <p>第11回：利潤と利潤率, 競争と利潤率の均等化</p> <p>第12回：商品流通と商業資本</p>

	<p>第13回：サービス産業とサービス資本  第14回：信用制度と金融資本  第15回：恐慌と景気循環  第16回：試験</p> <p>*授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習]教科書の事前学習が必要です。 [復習]ノートを整理し教科書を読み直してください。必要に応じて参考文献等を読み知識を確実なものにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	北村洋基『[改訂新版]現代社会経済学』2013年、桜井書店
(21)参考文献	富塚良三『経済原論(簡約版)』2007年、有斐閣 K. マルクス『資本論』新日本出版社 その他必要に応じて適宜指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内容の理解度と、理論的な思考力や学習意欲・問題関心の成長度とを総合して評価します。筆記試験90%(理解力30%, 論理的構成力30%, 表現力30%), 授業への参加態度10%(事前準備, 質問・意見等)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配付資料と提示教材(スライド等)に沿って解説します。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありませんが、日ごろから社会や経済に対して関心と問題意識を持つことが望まれます。
(26)オフィスアワー	月17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	大学の講義とは、中・高校のように無批判的・丸暗記的な学習を行なう場ではなく、さまざまな問題に対する自分なりの解答を得るのに必要な情報やヒントを探す場であると考えています。したがって、授業は受講生諸君の自主的な学習を基礎にして成り立っていることを肝に銘じ、主体的に学ぶ姿勢をもって臨んでくれることを希望します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	185
(2)区分番号	185
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会A－「市民生活と法」入門－ (Law and Society A－Introduction to “civil life and law”－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	長谷河 亜希子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること</p>
(15)授業の概要	<p>1 この授業は特殊な授業形態を取ります。下記の「準備学習の内容」および「成績評価」の欄を熟読してください。</p> <p>2 法学を学ぶ際には、新聞から得られる知識が欠かせません。そのため、この授業では、前半約40分は、授業日前1週間(毎週木～水)の「朝日新聞」の記事に関して、皆さんと意見交換を行います。毎回、出席者全員に、興味を持った新聞記事について、興味を持った理由や感想、意見などを述べてもらいます。各自、ノートを用意し、そのノートに選択した記事を張り付け、自分の意見を記載しておいてください。</p> <p>3 授業時間の後半(約45分間)は法学の基礎的知識を身につけるための講義を行います。川名壮志著『密着 最高裁の仕事－野暮で真摯な事件簿』岩波新書(2016年11月発行)を全員で輪読し、質疑応答に加えて、教員が解説しますので、各自必ずこの本を持参してください。加えて、授業ノートをきちんととってください。</p> <p>4 したがって、受講生のノートには、①切り抜いた新聞記事&amp;その記事へのコメント、②授業ノートが毎週、繰り返し記述されていくこととなります。</p> <p>5 受講生の上記「ノート」は、授業最終日にその場で回収します(成績評価に用いるためです)。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1回 オリエンテーション</p> <p>2回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、川名壮志著『密着 最高裁の仕事－野暮で真摯な事件簿』岩波新書(2016年11月発行)の「第1章 わが子と思いきや赤の他人だった ――親子関係不存在確認訴訟で</p>



	<p>みる最高裁のしくみ——」(1)  3回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第1章(2)  4回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第1章(3)  5回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、「第2章 夫は「主人」ではない妻のアイデンティティ——夫婦別姓にみる大法廷——」(1)  6回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第2章(2)  7回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第2章(3)  8回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第2章(4)  9回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、「第3章 死刑と無期懲役のわかれみち——死刑破棄事件にみる裁判員裁判の難しさ——」(1)  10回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第3章(2)  11回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第3章(3)  12回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第3章(4)  13回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、「第4章 求刑超えに「待った」をかけた最高裁——アマチュア市民とプロ裁判官をつなぐ最終審——」(1)  14回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第4章(2)  15回 新聞記事に関する各自のコメント(前半約45分)、第4章(3)</p> <p>教科書として使用する川名壮志著『密着最高裁の仕事—野暮で真摯な事件簿』岩波新書(2016年11月発行)には、憲法、民法、刑法など様々な法分野の話題や、裁判例が出てきます。そこで、それら専門的な話題を理解できるように、質疑応答を行い、教員が解説を加えます。それによって、本の内容の理解を深めるとともに、様々な法分野について知識を身に着けることを目標としています。</p>
<p>(17)準備学習(予習・復習)等の内容</p>	<p>1 授業日前1週間(授業当日の木曜日から翌週の水曜日まで)の「朝日新聞」の記事から、興味がある記事の一つを選択し、ノートに張り付ける。</p> <p>2 ノートに貼り付けた記事に関し、「①新聞発行日、②掲載ページ、③記事の内容(1~2行)、④記事に関する感想・意見など(5~8行)を口頭で発表できるように自分のノートに記載しておく(授業では、そのメモを読み上げる)。</p> <p>3 自分の意見をまとめる際には、その事柄について、簡単に調べてみるなど、知識の吸収に努め、独りよがりのコメント、上から目線のコメントにならないように心がけること。</p>
<p>(18)学問分野1(主学問分野)</p>	<p>法学関連</p>
<p>(18)学問分野2(副学問分野)</p>	<p>-</p>
<p>(18)学問分野3(副学問分野)</p>	<p>-</p>

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	川名壮志著『密着 最高裁の仕事―野暮で真摯な事件簿』岩波新書（2016年11月発行）を、各自必ず持参してください。朝日新聞は弘大生協にて、お得な学割価格で購読できます
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>毎年、受講者はさほど多くありません。そのため、毎回全員に新聞記事に関するコメントの発表をしてもらうこととなります。加えて、新聞記事に関するコメントの発表を行わなかった場合には、出席とみなしません。また、後半約45分の輪読・解説の時間帯にも、一人最低1回は質問をしてください。</p> <p>従って、成績は、①毎回の授業での新聞記事へのコメント、②教科書の内容についての質問、③授業ノートの内容で評価します（授業内容を的確に把握していると評価できる内容か）。基本的には、1回の授業につき、上記の観点から7～8点満点で評価をし、それを積み重ねます（計100点）。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	受講生からの発言プラス講義
(25)留意点・予備知識	<p>法学の基礎知識は必要ありませんが、日々、新聞やニュースのチェックを怠らないようにしてください。基本的な知識がないと、内容のあるコメントができないためです。また、事前の予習が必要な授業ですので、安易な気持ちで選択しないことをお勧めします。</p> <p>毎年、学生の皆さんのコメントや質問に感心したり、考えさせられたりということがあり、教員も楽しみにしている授業です。最初から上手にコメントや質問ができる必要はありません。授業を重ねるうちに、毎年皆さん上手になっていきますので、その点をご心配なく。</p> <p>また、素早く文章を書く能力を磨くことも目的としています。（電子）辞書等を使用して語彙を増やし、普段から、文章を書く機会を増やすように心がけてください。</p>
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	186
(2)区分番号	186
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会A－民法法入門－ (Law and Society A－Introduction to Private Law－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	吉村 顕真(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること
(15)授業の概要	民法は私人間の生活関係を規律した法律ですが、これは財産関係を規律する「財産法」と家族関係を規律している「家族法」に大きく分けられます。とりわけ「財産法」はその範囲が広く、一通り理解することが大変であることから「財産法」に焦点を当てて、その全体を概説していきます。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション、序論：授業の概要、民法典の構造など 第2回 民法典の歴史、民法の大原則、契約の成立 第3回 契約の有効性：契約当事者・契約成立過程における意思表示の規制 第4回 契約の有効性：契約成立過程における意思表示・内容の規制 第5回 代理人による契約成立：代理総論、有権代理、無権代理、表見代理 第6回 契約成立に伴う物権変動：物権法の全体構造、物権変動、対抗要件 第7回 契約の履行：正常な履行、履行過程における牽連関係 第8回 契約の不履行：履行強制、損害賠償、契約解除 第9回 債権の回収：相殺、債権譲渡 第10回 債権の保全：債権者代位権、詐害行為取消権 第11回 債権の担保：人的担保、物的担保 第12回 時効による権利の得喪：時効総論、取得時効、消滅時効 第13回 法定債権①：不法行為の成立要件と効果 第14回 法定債権②：特殊の不法行為 第15回 法定債権③：不当利得、事務管理 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業終了前に復習すべきところを述べます。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	初回の授業までに指示します。
(21)参考文献	適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験80%、平常点・リアクションペーパー(20%)で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	『私法学』、『民法』、『生活政策論』の前提科目として履修してください。
(26)オフィスアワー	水曜日10:30~11:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の授業時にお知らせします。
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	187
(2)区分番号	187
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会B-日本国憲法①-【P中学校・特支・養教1年次】 (Law and Society B-The Constitution of Japan-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	宮崎 秀一 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること</li> <li>○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること</li> <li>○学校教員に必要となる法に関する知識を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の法体系と現行憲法制定の経緯および立憲主義の意義を理解する。</li> <li>○憲法に関する改正論議や人権の国際化などの動向を知る。</li> <li>○専門教科に関わらず、人権学習や法教育の重要性を理解する。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>(第1回) 法の中の法としての憲法：憲法の最高法規性</li> <li>(第2回) 押し付け憲法論再考：日本国憲法制定史</li> <li>(第3回) 元号・君が代・日の丸：象徴天皇制と国民主権</li> <li>(第4回) 定住外国人の参政権：国際化時代の外国人の人権</li> <li>(第5回) 妊娠中絶、尊厳死：自己決定権</li> <li>(第6回) LGBT、同性婚：法の下での平等と幸福追求権</li> <li>(第7回) エホバの証人輸血拒否・剣道授業：思想・信教の自由</li> <li>(第8回) 靖国閣僚参拝、大嘗祭：政教分離原則</li> <li>(第9回) 夫婦ベッセイ：個人の尊厳と両性の平等</li> <li>(第10回) 義務教育と不登校：教育を受ける権利と学習の自由</li> <li>(第11回) 死刑は残虐刑か？：人身の自由と適正法手続</li> <li>(第12回) 国会議員選挙区割、合区：一票の格差</li> <li>(第13回) 裁判員制度：司法の独立と国民の司法参加</li> <li>(第14回) 喫煙規制、景観保全、：自治体条例と地方自治</li> <li>(第15回) 日米安保条約、新安保法制：平和主義と憲法改正問題</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：各回のテーマについて、中学・高校の社会科、公民科(現代社会、政治経済)で学

	習したこととの付き合い合わせをしてみてください。 復習：新聞、ネット、TV番組等で各テーマの最新の動向をフォローしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	初宿正典ほか『目で見える憲法（第5版）』（有斐閣） 山下友信ほか『ポケット六法 平成31年版』（有斐閣）
(21)参考文献	・森英樹『主権者は君だ』（岩波ジュニア新書） ・初宿正典ほか『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣） ・高橋和之ほか『法律学小辞典』（有斐閣） ・自爆連『あたらしい憲法草案のはなし』（太郎次郎社） その他テーマ毎の【必読文献】【推薦図書】【参照サイト】は授業で紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	中間評価（小レポート20%）・期末評価（期末レポート80%）（レポート課題の詳細は授業で指示します）の総合で最終評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	憲法に関する基本原理を「覚える」だけでなく、それが現実の政治や私たちの生活とどのようにかかわっているかを授業の中で「考え、気付く」機会を共有するような授業にしたいと思います。
(25)留意点・予備知識	普段から、新聞、テレビニュースなどで政治的・社会的事件と憲法との関連を意識し注視して下さい。
(26)オフィスアワー	講師は非常勤講師のため、質問等は講義後か下記メールアドレスまでお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	miyashu(at)jomon.ne.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	188
(2)区分番号	188
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名[英文名]	法と社会B-日本国憲法②-【M、S、P2年次以上】 (Law and Society B-The Constitution of Japan)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	河合 正雄 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること ○学校教員に必要な法に関する知識を体得すること
(15)授業の概要	○日本国憲法の基本的な原理や概念を学ぶ ○基本的な憲法判例を学ぶ ○時事問題にも触れ、憲法問題が生活に根ざしていることを実感する
(16)授業の内容予定	第1回 : 立憲主義と憲法 : I部1章 第2回 : 人権総論 : II部1章 第3回 : 包括的人権 : II部2章 第4回 : 平等 : II部3章 第5回 : 思想・良心の自由、信教の自由 : II部4章 第6回 : 学問の自由 : II部4章 第7回 : 表現の自由 : II部5章 第8回 : 中間試験(1-7回)、経済的自由権 : II部6章 第9回 : 身体的自由権 : II部7章 第10回 : 生存権 : II部8章 第11回 : 教育を受ける権利、労働基本権 : II部8章 第12回 : 選挙権と選挙制度 : III部1章 第13回 : 国会、内閣 : III部3章・4章 第14回 : 裁判所 : III部5章 第15回 : 平和主義 : III部9章 第16回 : 期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 : 事前に教科書(特に日本の部分)に目を通すほか、日頃から時事問題に接するよう心がけてください。 復習 : レジュメや教科書を見返し、基本的な原理や概念を説明できる状態にしておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	倉持孝司ほか編『憲法のいま—日本・イギリス』(敬文堂、2015年)2,800円+税
(21)参考文献	西原博史ほか編著『教職課程のための憲法入門(第2版)』(弘文堂、2019年)2,200円+税
(22)成績評価方法及び採点基準	中間試験40%、期末試験60%。授業への参加度を加減することがあります。 1. 立憲主義など憲法学が論じている基本的な事柄を説明できること。 2. 講義で説明した判例や学説の概要について説明できること。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	ある程度詳細なレジュメを配布した上で、講義への集中力を高めるため、板書も用いつつ口頭で説明します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	

	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば喜んで対応いたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="http://hue2.im.hirosaki-u.ac.jp/html/100000700_ja.html">http://hue2.im.hirosaki-u.ac.jp/html/100000700_ja.html</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	189
(2)区分番号	189
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会B-日本国憲法③-【H、A2年次以上】 (Law and Society B-The Constitution of Japan-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	大竹 昭裕(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること</p> <p>○学校教員に必要となる法に関する知識を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>○学校教員としてだけでなく社会を構成する一員として、日常生活を営む上で求められる憲法感覚・人権感覚を磨いていきたい。</p> <p>○基本的人権の問題に焦点を当て、現実生活の中で生じた具体的事例を通して問題の所在を把握し、それに関わる議論状況や裁判所の判断内容を的確に理解することができるよう授業を進めていく。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 人権序説(1)</p> <p>2 人権序説(2)</p> <p>3 人権の享有主体(1)</p> <p>4 人権の享有主体(2)</p> <p>5 私人間における人権規定の効力(1)</p> <p>6 私人間における人権規定の効力(2)</p> <p>7 包括的基本権(1)</p> <p>8 包括的基本権(2)</p> <p>9 法の下での平等(1)</p> <p>10 法の下での平等(2)</p> <p>11 自由権と社会権(1)</p> <p>12 自由権と社会権(2)</p> <p>13 自由権と社会権(3)</p> <p>14 自由権と社会権(4)</p> <p>15 自由権と社会権(4)</p> <p>16 学期末試験</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：教科書に収録された判例の中から次の授業で取り上げるものを予告しますので、あらかじめ読んでおいて下さい。</p> <p>復習：授業で配布するレジュメや教科書を読み返すと同時に、裁判所の判断に対する自分の考えをまとめてみて下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初宿正典編著『基本判例憲法25講 [第4版]』(成文堂)</li> <li>・各自任意の六法全書(例えば、『ポケット六法』(有斐閣))</li> </ul>
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷部・石川・央戸編『憲法判例百選I・II [第6版]』(有斐閣)</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成績評価：授業への参加度と授業に関する小レポート(20%)、学期末試験(80%)とします。</p> <p>採点基準：①授業で取り上げた判例や学説の概要について説明できること。 ②上記①を踏まえて、筋道を立てて自らの考えを論理的に展開できること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	所々に空欄のあるレジュメを配布します。授業ではこの空欄を補いながら口頭で説明していきます。
(25)留意点・予備知識	メディアでは様々な憲法問題が取り上げられています。日頃からこれらに目を向けて下さい。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	190
(2)区分番号	190
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会B-日本国憲法⑤-【P小学校1年次】 (Law and Society B-The Constitution of Japan-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小野 昇平(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること</li> <li>○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること</li> <li>○学校教員に必要となる法に関する知識を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的人権および立法・司法・行政それぞれの担う役割についての説明。</li> <li>○憲法が問題となった具体的な事例を素材とし、その事例を通じて、日常生活の様々な場面で憲法が問題となることを説明する。</li> <li>○上記の事例の多くは、学校生活に関連するものであり、教員として日本国憲法の理念に沿った教育・学校運営を行うことの重要性を説明する。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 : 憲法は何のためにあるのか</li> <li>第2回 : 国会、内閣の役割とは</li> <li>第3回 : 国民主権、選挙の意義とは</li> <li>第4回 : 憲法9条と自衛権、自衛隊、在日米軍</li> <li>第5回 : 司法の役割とは</li> <li>第6回 : 憲法が問題になる具体的事例</li> <li>第7回 : 性犯罪再犯防止法(仮)とプライバシー権</li> <li>第8回 : 一票の較差と平等権</li> <li>第9回 : 男女の不平等?夫婦同姓問題と平等権</li> <li>第10回 : ピアノ伴奏拒否事件と思想良心の自由</li> <li>第11回 : 剣道履修拒否事件と信教の自由</li> <li>第12回 : 自衛隊官舎ビラ配布事件と表現の自由</li> <li>第13回 : 外務省機密漏えい事件と知る権利</li> <li>第14回 : 教育を受ける権利と学校教育</li> <li>第15回 : 価値問題調整原理としての憲法</li> </ul> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習 : 初回は憲法の条文をよく読んでみてください。二回目以降は講義内で提示される予習テーマについて自分で調べてみてください。</p> <p>復習 : 毎回の講義の最後に提示された問題に</p>

	ついて自分なりの考えをまとめておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	各自日本国憲法の条文を入手しておくこと。
(21)参考文献	戸松秀典『プレップ憲法』（第四版）弘文堂、2016年 君塚正臣『高校から大学への憲法』（第二版）法律文化社、2016年 初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』（第五版）有斐閣アルマ、2017年
(22)成績評価方法及び採点基準	中間レポート：40% 期末試験：60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライドや映像教材を使用する。
(25)留意点・予備知識	講義に関連する問題等について疑問を持ち、質問等をすることを推奨する。
(26)オフィスアワー	講師は非常勤講師のため、質問等は講義後か下記メールアドレスまでお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	東北女子大学家政学部：小野昇平 shohei-o(at)tojo.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	191
(2)区分番号	191
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	法と社会B-日本国憲法④-【全学部2年次、P1年次未修得者】 (Law and Society B-The Constitution of Japan-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	大竹 昭裕 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○法学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問に基づいて日常生活における法についての理解を深めること</p> <p>○学校教員に必要となる法に関する知識を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>○学校教員としてだけでなく社会を構成する一員として、日常生活を営む上で求められる憲法感覚・人権感覚を磨いていきたい。</p> <p>○基本的人権の問題に焦点を当て、現実生活の中で生じた具体的事例を通して問題の所在を把握し、それに関わる議論状況や裁判所の判断内容を的確に理解することができるよう授業を進めていく。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 人権序説 (1)</p> <p>2 人権序説 (2)</p> <p>3 人権の享有主体 (1)</p> <p>4 人権の享有主体 (2)</p> <p>5 私人間における人権規定の効力 (1)</p> <p>6 私人間における人権規定の効力 (2)</p> <p>7 包括的基本権 (1)</p> <p>8 包括的基本権 (2)</p> <p>9 法の下での平等 (1)</p> <p>10 法の下での平等 (2)</p> <p>11 自由権と社会権 (1)</p> <p>12 自由権と社会権 (2)</p> <p>13 自由権と社会権 (3)</p> <p>14 自由権と社会権 (4)</p> <p>15 自由権と社会権 (4)</p> <p>16 学期末試験</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：教科書に収録された判例の中から次の授業で取り上げるものを予告しますので、あらかじめ読んでおいて下さい。</p> <p>復習：授業で配布するレジュメや教科書を読み返すと同時に、裁判所の判断に対する自分の考えをまとめてみて下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初宿正典編著『基本判例憲法25講 [第4版]』(成文堂)</li> <li>・各自任意の六法全書(例えば、『ポケット六法』(有斐閣))</li> </ul>
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷部・石川・央戸編『憲法判例百選I・II [第6版]』(有斐閣)</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成績評価：授業への参加度と授業に関する小レポート(20%)、学期末試験(80%)とします。</p> <p>採点基準：①授業で取り上げた判例や学説の概要について説明できること。 ②上記①を踏まえて、筋道を立てて自らの考えを論理的に展開できること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	所々に空欄のあるレジュメを配布します。授業ではこの空欄を補いながら口頭で説明していきます。
(25)留意点・予備知識	メディアでは様々な憲法問題が取り上げられています。日頃からこれらに目を向けて下さい。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	192
(2)区分番号	192
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－放射線リスクコミュニケーションの理解－ (Environment and Life Sciences－Radiation risk communication－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○木立 るり子(保健学研究科)、若山 佐一(保健学研究科)、武尾 照子(保健学研究科)、北宮 千秋(保健学研究科)、田中真(保健学研究科)、對馬 惠(保健学研究科)、則包 和也(保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	放射線や原子力による恩恵を受ける一方で、事故や災害等のリスクに備える必要があります。そこで、放射線の基礎的な知識、および、「放射線を如何に考えるか?」について、リスクコミュニケーションの視点から一緒に考えます。 (1) 放射線の単位や日常生活に関わっている放射線の機能・役割について理解する (2) リスクコミュニケーションの概念を理解し、その視点から放射線に関するリスク認知やメディアの反応、危機管理について考察する (3) 事例を基に、放射線リスクコミュニケーションの現状、重要性、多様性、および、実施に必要な技術や課題について考察する
(16)授業の内容予定	第1回10/4: ガイダンス (木立) 第2回10/11: 日常生活に関連する放射線の一般的知識1 (對馬) 第3回10/18: 日常生活に関連する放射線の一般的知識2 (對馬) 第4回11/1: 日常生活に関連する放射線の一般的知識3 (對馬) 第5回11/8: 放射線のリスク認知とバイアス1 (則包) 第6回11/15: 放射線のリスク認知とバイアス2 (則包) 第7回11/22: メディアとリスク認知 (木立) 第8回11/29: リスクアナリシスとリスクマネジメント (武尾) 第9回12/6: リスクコミュニケーションの概要 (北宮)

	<p>第10回12/13：リスクコミュニケーションの方法（若山）</p> <p>第11回12/20：カードゲームを通して考えるリスク認知の多様性（則包他）</p> <p>第12回1/10：バーチャル家族ロールプレイを通して考えるリスク認知（則包他）</p> <p>第13回1/16：福島の事例からリスクコミュニケーションを考える（グループワーク1）（木立他）</p> <p>第14回1/24：福島の事例からリスクコミュニケーションを考える（グループワーク2）（木立他）</p> <p>第15回1/31：発表・意見交換（木立他）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>オムニバスで行いますので担当教員の連続性にもよりますが、授業終了時に課題を提示し、次回の講義に確認します。</p> <p>また、授業で提示された参考文献で、毎回のテーマの予習をしてきてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業の時に適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価：担当教員ごとに提示される課題について提出されたレポート60%</p> <p>期末評価：プレゼンテーションの準備、発表資料、質疑応答40%</p> <p>上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習形式で行います。
(25)留意点・予備知識	<p>実験キット等を用いた演習方法やグループワークの関係で受講生は30人程度に制限します。</p> <p>将来的に住民や児童・生徒と関わる仕事を目指している学生を歓迎します。</p>
(26)オフィスアワー	保健学研究科教員はそれぞれ実習等があり、随時、メールで予約のうえに対応することになります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kidachi@hirosaki-u.ac.jp">kidachi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	放射線リスクコミュニケーションの研修を受け、福島県において実践経験のある教員が担当します。



## 教養教育科目

(1)整理番号	193
(2)区分番号	193
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－総合エネルギー学－ (Environment and Life Sciences－Energy Perspectives－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○井岡 聖一郎(地域戦略研究所)、伊高健治(地域戦略研究所)、官 国清(地域戦略研究所)、久保田 健(地域戦略研究所)、小畠 秀和(地域戦略研究所)、本田明弘(地域戦略研究所)、吉田 暁弘(地域戦略研究所)、阿布 里提(理工学研究科)、神本 正行(青森キャンパス学長特別補佐)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	一般教養として、エネルギーに関わる者として備えておくべきエネルギーに関する基礎知識、社会実装の基本的な内容を学びます。
(16)授業の内容予定	01回目 4月11日 木曜日 エネルギー問題を考えるにあたって(井岡) 02回目 4月18日 木曜日 青森, 日本, そして世界のエネルギー事情(神本) 03回目 4月25日 木曜日 地球温暖化と省エネルギー(久保田) 04回目 5月09日 木曜日 太陽エネルギー(伊高) 05回目 5月16日 木曜日 原子燃料サイクルのしくみと安全性(対応者:井岡) 06回目 5月23日 木曜日 放射線の基礎と管理(対応者:井岡) 07回目 5月30日 木曜日 北日本の風力・潮力(本田) 08回目 6月06日 木曜日 エネルギーの貯蔵技術(吉田) 09回目 6月13日 木曜日 未利用熱の利用(小畠) 10回目 6月20日 木曜日 バイオマスエネルギー(官) 11回目 6月27日 木曜日 地熱エネルギー(井岡) 12回目 7月04日 木曜日 温泉熱の利用(井岡) 13回目 7月11日 木曜日 地中熱の利用(井岡) 14回目 7月25日 木曜日 自然エネルギーと地域社会(阿布)

	15回目 8月01日 木曜日 まとめとレポート (井岡)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	参考図書等のエネルギー関連書物を読んで、エネルギーに関する理解を深めて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球資源工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しませんが、授業では資料を配布します。
(21)参考文献	久保田健・神本正行編(2017)『再生可能エネルギーで地域を変える』(弘前大学出版会)など
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価および期末評価で評価します。平常評価は、授業への参加度20%と小テスト30%からなります。なお、本講義はオムニバス形式のため小テストを実施する教員、実施しない教員がいます。期末評価は、期末レポート50%からなります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式です。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	基本的に、弘前に常駐しておりません。そのため、下記アドレスまで御連絡下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ioka@hirosaki-u.ac.jp">ioka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	194
(2)区分番号	194
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－日本の地震防災－ (Environment and Life Sciences－Earthquake disaster mitigation in Japan－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	片岡 俊一 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>我々の身の回りの自然環境は、時として災害として我々に影響を与えます。自然災害の軽減には、自然現象の物理的な知識に加え、人間が生活を営む場所・施設の知識が必要です。この授業では、地震と津波を題材にこの2つの知識を深め、さらに現在行われている軽減策を学びます。この授業を通じて、次のような学識を得ます。</p> <p>○地震が起こる自然環境の理解とそれを意識した生活についての学識を得る。</p> <p>○地震、津波が人間に与える影響を理解できる。</p> <p>自然現象は妨げることはできませんが、災害を軽減することは可能です。その方策について学ぶことは有意義だと思います。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 過去の地震災害</li> <li>3) 自然災害とは、災害対応の主体</li> <li>4) 地震が起きる場所</li> <li>5) 地震と地震動</li> <li>6) 場所により異なるゆれ</li> <li>7) 地震動予測 (そのために)</li> <li>8) 地震動予測</li> <li>9) 構造物の応答</li> <li>10) 地震時に家屋内で起こること</li> <li>11) 地震災害軽減技術</li> <li>12) 地震対策について</li> <li>13) 津波の発生と被害事例</li> <li>14) 津波の伝播と津波対策</li> <li>15) 試験</li> <li>16) 試験返却と解説</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>この授業の予習として、授業期間中のできるだけ早い時期に参考文献および課題図書を読むことが望まれます。基本的には、復習に力を入れ、次の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしましょう。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	防災工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	地球惑星科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。必要な図等は授業中にプリントとして配布されます。また、授業で利用する資料などは片岡のホームページ（ <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka/">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka/</a> ）を通じて学内にのみ公開されます。
(21)参考文献	大崎順彦著、「地震と建築」、岩波新書黄版240、岩波書店、1993（出版元在庫僅少）。 首藤伸夫・片山恒雄共著、「テクノライフ選書 大地が震え海が怒るー自然災害はなくせるかー」、オーム社、1996 武村雅之著、「地震と防災」、中公新書1961、中央公論新社、2008。
(22)成績評価方法及び採点基準	原則としてレポートと期末試験の結果で成績評価を行う予定です。ただし、場合によっては授業への参加態度を最大±5%評価する可能性があります。 ・レポート(45%)：指定する図書の内容報告をしてもらい、着眼点、まとめ方等を評価します。 ・期末評価(55%)：授業内容についての理解度を図る記述式の試験によって評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で学びます。
(25)留意点・予備知識	青森県の地震災害とその対応については、ローカル科目である青森の自然ー青森の地震と火山ーで学びます。この授業では、より一般的なことを学びます。
(26)オフィスアワー	火曜日、15:00～16:00。基本的には、部屋にいるときは質問などに対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kataoka@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kataoka</a>
(28)その他	清水建設（株）技術研究所における実務経験および、大学教員として参画した自治体における災害軽減策検討の各種委員会（例えば、平成27年度青森県地震・津波被害想定調査）における経験に基づいて「災害軽減技術」を紹介します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	195
(2)区分番号	195
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－放射線概論－ (Environment and Life Sciences－Introduction of Radiology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	細川 洋一郎(保健学研究科)、工藤 幸清(保健学研究科)、寺島 真悟(保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	現代医療には放射線はなくてはならないものです。このレベルの放射線は健康にどの程度、どのように作用するのでしょうか。それを知るためには、放射線の基礎(放射線物理)の上に、放射線の生物影響、放射線防護の理念、放射線の医療応用等、幅広い領域を学ばなければなりません。この授業では放射線の基礎を学んだうえで、低線量被ばくの影響を考え、さらに現在の放射線の医療応用を放射線診断利用と放射線治療に分け紹介します。
(16)授業の内容予定	第1回 放射線を理解するための基礎知識 担当：細川洋一郎 第2回 放射線とは 担当：寺島真悟 第3回 放射線の相互作用 担当：寺島真悟 第4回 放射線の化学作用 担当：寺島真悟 第5回 放射線の生物作用 担当：寺島真悟 第6回 放射線の人体影響 担当：寺島真悟 第7回 環境放射線について 担当：工藤幸清 第8回 放射線の特徴 担当：工藤幸清 第9回 放射能の性質 担当：工藤幸清 第10回 放射線に関する法規制について 担当：工藤幸清 第11回 低線量放射線について 担当：工藤幸清 第12回 放射線の医療応用 放射線診断1 (一般X線撮影、IVR、X線CT) 担当：細川洋一郎

	<p>第13回 放射線の医療応用 放射線診断2 (MRI、超音波検査、核医学検査) 担当：細川洋一郎</p> <p>第14回 放射線の医療応用 放射線治療1 (放射線腫瘍学の基礎、放射線治療の原理) 担当：細川洋一郎</p> <p>第15回 放射線の医療応用 放射線治療2 (放射線治療の実際) 担当：細川洋一郎</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当者の最後の授業(6回目、11回目、15回目)に試験をするので、しっかりと復習をしてください。また、細川と寺島は、授業の前に前回の復習テストを行います。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	人間情報学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教員が資料を配布します。
(21)参考文献	青山喬著、放射線基礎医学、2,013年 (金芳堂)
(22)成績評価方法及び採点基準	小テストおよび授業態度(20%) 各々の担当者による最終テスト(80%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	放射線の本質を理解するためには、自然科学的な定量的判断が必須です。そのため、本講義においては初歩的な物理、化学および数学(自然対数等)の知識を必要とします。
(26)オフィスアワー	水曜日を除く17:30~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hosokawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	196
(2)区分番号	196
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－環境と生活A①－ (Environment and Life Sciences－Environment and life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	長南 幸安 (教育学部)
(11)地域志向科目	<b>地域志向科目</b>
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	○大気・水・大地からエネルギーに至るまで人間活動と環境や暮らし・生活がどのような関係にあるかを学びます。 ○環境中に放出された化学物質が人間を含む生物系に及ぼす影響や、リサイクルやゴミ問題とエネルギーなどの環境問題を考察する方法も学びます。 ○いくつかのテーマにおいては地域志向科目として青森県を例に取りあげて、環境と生活の関係性を考えます。
(16)授業の内容予定	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。  1. ガイダンス 2. 生活と環境 3. 化学物質と環境 4. エネルギーと環境 5. 水と環境 6. 大気と環境 7. 大地と環境 8. 食物と環境 9. 公害と環境 10. ゴミ・廃棄物と環境 11～15. フィールドワーク  フィールドワークとして青森県内の施設見学(1日)を行い、企業の方からのレクチャーを受けます。講義5回分をフィールドワークにあてます。  → フィールドワークの日程が決定次第お知らせします。 → 2018年度は6月23日(土)に決定しました。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	環境問題に関するテレビ・新聞・雑誌などのマスメディアからの情報に日頃から興味・関心を示し、収集や整理をして、自分なりの意見や考えを持っておくことが予習として必要です。(120分) 講義内容を踏まえて、環境問題の情報を再分析してみることが復習です。(120分)
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境解析評価関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は特に指定しません。
(21)参考文献	授業中に必要に応じて、参考文献を紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	基本的に課題レポート(100%)で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・フィールドワーク
(25)留意点・予備知識	授業の一部として、フィールドワークを土日祝日で行う予定です。通常の講義は10回とし、残りの5回をフィールドワークにあてます。詳細は決定次第連絡します。このフィールドワークに参加できる者を優先的に受講を認めます。無料バスの手配上、受講者数の制限をかけます。  参考として昨年度の実施例 → 前期のフィールドワーク(講義5回分)は2017年6月17日(土)に決定しました。そのためバス(無料)の手配の都合上、受講者数

	<p>を70人までとします。基本的に6／17に参加できる者を優先します</p> <p>→ 今年度（2018年度）も前期のフィールドワーク（講義5回分）は2018年6月23日（土）に決定しました。そのためバス（無料）の手配の都合上、受講者数を70人までとします。基本的に6／23に参加できる者を優先します</p> <p>持ち物として、筆記用具と昼食のみです。また学生自身の過失等による事故が発生した場合に備え、傷害保険や賠償責任保険等の加入を推奨します。</p>
(26)オフィスアワー	月～金曜日 8：00～8：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>cho@hirosaki-u.ac.jp</p> <p><a href="http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html">http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html</a></p>
(28)その他	<p>青森県内の企業の講師からレクチャーを受けます。内容も青森県の環境に関する事例を学びます。</p> <p>教育学部生涯教育課程地域生活専攻1年次必修の「地域自然環境概論I」の振り替え科目です。</p> <p>未習得の学生は受講してください。この場合、登録のコード番号は、教育学部で設定される「地域自然環境概論I」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANETで確認して下さい。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	197
(2)区分番号	197
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－環境と生活A②－ (Environment and Life Sciences－Environment and life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	長南 幸安 (教育学部)
(11)地域志向科目	<b>地域志向科目</b>
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	○大気・水・大地からエネルギーに至るまで人間活動と環境や暮らし・生活がどのような関係にあるかを学びます。 ○環境中に放出された化学物質が人間を含む生物系に及ぼす影響や、リサイクルやゴミ問題とエネルギーなどの環境問題を考察する方法も学びます。 ○いくつかのテーマにおいては地域志向科目として青森県を例に取りあげて、環境と生活の関係性を考えます。
(16)授業の内容予定	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。  1. ガイダンス 2. 生活と環境 3. 化学物質と環境 4. エネルギーと環境 5. 水と環境 6. 大気と環境 7. 大地と環境 8. 食物と環境 9. 公害と環境 10. ゴミ・廃棄物と環境 11～15. フィールドワーク  フィールドワークとして青森県内の施設見学(1日)を行い、企業の方からのレクチャーを受けます。講義5回分をフィールドワークにあてます。  → フィールドワークの日程が決定次第お知らせします。 → 2018年度は、11月23日(金) 勤労感謝の日・祝日に決定しました。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	環境問題に関するテレビ・新聞・雑誌などのマスメディアからの情報に日頃から興味・関心を示し、収集や整理をして、自分なりの意見や考えを持っておくことが予習として必要です。(120分) 講義内容を踏まえて、環境問題の情報を再分析してみることが復習です。(120分)
(18)学問分野1(主学問分野)	<b>学際・新領域</b>
(18)学問分野2(副学問分野)	<b>環境保全対策関連</b>
(18)学問分野3(副学問分野)	<b>環境解析評価関連</b>
(19)実務経験のある教員による授業科目について	<b>実務教員</b>
(20)教材・教科書	教科書は特に指定しません。
(21)参考文献	授業中に必要に応じて、参考文献を紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	基本的に課題レポート(100%)で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・フィールドワーク
(25)留意点・予備知識	授業の一部として、フィールドワークを土日祝日で行う予定です。通常の講義は10回とし、残りの5回をフィールドワークにあてます。詳細は決定次第連絡します。このフィールドワークに参加できる者を優先的に受講を認めます。無料バスの手配上、受講者数の制限をかけます。  参考として昨年度の実施例 → 後期のフィールドワーク(講義5回分)は2017年11月23日(木)

	<p>勤労感謝の日の祝日に決定しました。そのためバス（無料）の手配の都合上、受講者数を70人までとします。基本的に11/23に参加できる者を優先します</p> <p>→ 今年度（2018年度）も後期のフィールドワーク（講義5回分）は2018年11月23日（金）勤労感謝の日の祝日に決定しました。そのためバス（無料）の手配の都合上、受講者数を70人までとします。基本的に11/23に参加できる者を優先します</p> <p>持ち物として、筆記用具と昼食のみです。また学生自身の過失等による事故が発生した場合に備え、傷害保険や賠償責任保険等の加入を推奨します。</p>
(26)オフィスアワー	月～金曜日 8:00～8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>cho@hirosaki-u.ac.jp</p> <p><a href="http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html">http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html</a></p>
(28)その他	<p>青森県内の企業の講師からレクチャーを受けます。内容も青森県の環境に関する事例を学びます。</p> <p>教育学部生涯教育課程地域生活専攻1年次必修の「地域自然環境概論I」の振り替え科目です。</p> <p>未習得の学生は受講してください。この場合、登録のコード番号は、教育学部で設定される「地域自然環境概論I」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANETで確認して下さい。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	198
(2)区分番号	198
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－生き延びるための地震学入門－ (Environment and Life Sciences－ Introduction to seismology for survival－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	小菅 正裕(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	2011年東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波は、太平洋沿岸地域に極めて大きな被害をもたらしました。人命を守るためにはハード的な防災も大事ですが、知識も大きな備えになります。この授業では、地震現象についてどこまでわかっているか、どこがわかっているのか、そしてどのように備えようとしているのかを学びます。また、地震の解明は地球内部で起こっている現象の解明とも密接につながっていることと、それを支える科学・技術についても学びます。さらに、地震防災は科学・技術の進歩だけでは実現できず、社会との関わりも重要であることを理解します。
(16)授業の内容予定	1. 導入 2. 地球の構造とプレート 3. 地震の発生メカニズム 4. 地震の発生予測 5. あなたの町の地震防災 6. 津波の発生メカニズム 7. 津波警報のしくみ 8. 中間試験と解説 9. 内陸地震と活断層 10. 揺れの予測 11. 東北地方太平洋沖地震と津波 12. 首都直下地震 13. 南海トラフの地震 14. これからに備える 15. 期末試験と解説  なお、授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	配布される資料集の図と説明を見て予習します。授業における板書では資料集の図の番号が引用されますので、復習では、ノートに書いた内容が図のどこから読み取れるのかを考えます。

(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	防災工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。必要な図などは資料集として配布されます。
(21)参考文献	上大岡トメ・上大岡アネ『生き延びるための地震学入門』（幻冬舎） 大木聖子・瀬藤一起『超巨大地震に迫る』（NHK 出版新書） 平田 直『首都直下地震』（岩波新書） 川田恵昭『津波災害 増補版』（岩波新書） 片田敏孝『人が死なない防災』（集英社新書）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（小テスト、授業への参加度）：10% 中間評価（中間レポート、中間試験）：60% 期末評価（期末試験）：30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行います。スライドや実際の機材を活用して理解を助けるようにします。調べ学習や発表形式での授業も行います。
(25)留意点・予備知識	予備知識は特に必要としません。
(26)オフィスアワー	毎週木曜日16:00～17:30 理工学部1号館226号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mkos@hirosaki-u.ac.jp">mkos@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	199
(2)区分番号	199
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－放射線の理解－ (Environment and Life Sciences－Understanding radiation－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○澄川 幸志(保健学研究科)、富澤 登志子(保健学研究科)、若山 佐一(保健学研究科)、寺島 真悟(保健学研究科)、吉田 光明(被ばく医療総合研究所)、伊藤 巧一(保健学研究科)、工藤 幸清(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	○一般教養として、また医療保健に関わる者として備えておくべき放射線に関する基礎的な知識、放射線防護と被ばくに関する基本的な内容を学ぶ。 ○上記知識に基づいて、放射線が人体に及ぼす影響、および人間が放射線とどのように関わっているのかを学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回(4/11):放射線のパイオニアたち(担当:若山佐一) 第2回(4/18):放射線の基礎と緊急被ばく医療(担当:若山佐一) 第3回(4/25):半減期・半価層について考える(担当:工藤幸清) 第4回(5/9):放射能について考える(担当:工藤幸清) 第5回(5/16):放射線をみてみよう(担当:工藤幸清) 第6回(5/23):チェリノブイリ事故について考える(担当:工藤幸清) 第7回(5/30):放射線と放射能:(担当:寺島真悟) 第8回(6/6):放射線を測る方法:(担当:寺島真悟) 第9回(6/13):体細胞に対する放射線影響の特徴(担当:伊藤巧一) 第10回(6/20):放射線被ばくと疾患との関連性(担当:伊藤巧一) 第11回(6/27):放射線の人体影響(担当:吉田光明) 第12回(7/4):染色体線量評価(担当:吉田光明) 第13回(7/11):原子力災害医療体制(担当:富澤登志子)

	<p>第14回(7/25)：被ばく医療の実際（担当：富澤登志子）  第15回(8/1)：原子力発電所と再処理のしくみと安全対策（担当：澄川幸志）  第16回(8/8)：試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に示す課題（課題のある場合）についてレポートを作成すること。</li> <li>・次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書は使用しませんが、あらかじめ授業で使用する資料を配布します。  第3回以降は弘前大学Moodle (<a href="https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/">https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/</a>) を用いてのテキストおよび授業資料の配布を行うので、各自で事前に印刷またはタブレットやPC等にダウンロードし授業に臨むこと。</p>
(21)参考文献	<p>日本アイソトープ協会「放射線のABC」（丸善）  日本アイソトープ協会「やさしい放射線とアイソトープ」第4版（丸善）  日本アイソトープ協会「看護と放射線」第1版（丸善）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験の得点（100点満点）で成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>講義形式で行う。クリッカー（レスポンスカード）を使用する授業があります。  配布の授業資料、パワーポイント等を使用する。</p>
(25)留意点・予備知識	進んで履修してください。配布資料により、予習復習して授業に臨んで下さい。
(26)オフィスアワー	事前に連絡をください。調整いたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若山：<a href="mailto:swaka@hirosaki-u.ac.jp">swaka@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・工藤：<a href="mailto:kohsei@hirosaki-u.ac.jp">kohsei@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・寺島：<a href="mailto:s-tera@hirosaki-u.ac.jp">s-tera@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・伊藤：<a href="mailto:kohito@hirosaki-u.ac.jp">kohito@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・吉田：<a href="mailto:myoshida@hirosaki-u.ac.jp">myoshida@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・富澤：<a href="mailto:tmtott@hirosaki-u.ac.jp">tmtott@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・澄川：<a href="mailto:otsumi@hirosaki-u.ac.jp">otsumi@hirosaki-u.ac.jp</a></li> </ul>
(28)その他	本講義は保健学科各専攻共通科目である3年次前期開講の医療リスクマネジメントと関連した内容です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	200
(2)区分番号	200
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	環境と生活－人類とエネルギー－ (Environment and Life Sciences－Energy for humanity－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 一哉 (理工学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然環境を意識した生活ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人間が環境に与える影響、環境が人間に与える影響について理解できるようになること
(15)授業の概要	○エネルギーの価値に関する基礎的な理解を深める。 ○エネルギーを消費することに関する基礎的な概念を学ぶ。 ○人類が抱えるエネルギー問題を俯瞰し、素の理解を深める。 ○様々なエネルギー資源とその活用の仕方、およびそれらの将来予測について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 人類がエネルギーを消費することの意義 第3回 エネルギーとエネルギーを使うということ 第4回 エネルギーの三大課題 第5回 エネルギー資源・資源の枯渇 第6回 さまざまなエネルギー資源 第7回 原子核反応 (核分裂炉) 第8回 放射線について知っておくべきこと 第9回 再生可能エネルギーの可能性 第10回 地球温暖化－1 第11回 地球温暖化－2 第12回 基幹エネルギー創造への新たな挑戦 (核融合炉) 第13回 水素エネルギー 第14回 これまでのまとめ・グループディスカッション 第15回 レポート試験と解説、および先端研究紹介
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられ内容について、その意味内容を整理し、理解しておくようにしてください。 授業毎に宿題をだし、期限までに提出してもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	毎回の授業でプリントを配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、宿題の提出状況と点数など：50% グループディスカッションへの参画度など：10% 期末レポート・試験など：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に、講義資料に沿った講義を行います。 質疑やグループディスカッションを通して、 講義内容の理解を深めます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日・9:20~10:20
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	k_sasaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	201
(2)区分番号	201
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	工学の世界ーバイオイメーシングと細胞生物学ー (The World of Engineeringー Bioimaging and Cell Biologyー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	岩井 草介 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○工学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、工学技術を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○生物学の発展に大きな貢献を果たしてきた顕微鏡や蛍光タンパク質などのバイオイメーシング技術について、基礎的な原理から理解する。</p> <p>○いくつかの基本的な顕微鏡については、実習を通して実際にその操作法を学ぶ。</p> <p>○細胞生物学の分野を中心に、バイオイメーシング技術によって解明されたさまざまな生命現象を学ぶ。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 光学顕微鏡の原理(1) レンズと分解能</li> <li>3. 実習(1) 光学顕微鏡の基本操作</li> <li>4. 光学顕微鏡の原理(2) 照明法とコントラストの増強</li> <li>5. 実習(2) 暗視野顕微鏡による原形質流動の観察</li> <li>6. 蛍光現象と蛍光顕微鏡の原理</li> <li>7. 実習(3) 蛍光顕微鏡による真核細胞の観察</li> <li>8. 細胞の蛍光染色・生物の光障害</li> <li>9. 光学顕微鏡以外の顕微鏡ー電子顕微鏡、原子間力顕微鏡</li> <li>10. 蛍光タンパク質(1) GFPの発見</li> <li>11. 蛍光タンパク質(2) 応用技術</li> <li>12. 共焦点顕微鏡とその他の超解像顕微鏡</li> <li>13. 画像処理・解析(実習4: ImageJによる画像処理入門)</li> <li>14. その他の光関係タンパク質の利用ー発光タンパク質、オプトジェネティクス</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>授業の進行状況によっては、予定が変更されることもあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業内容の理解につとめ、不明な点が残らないように復習する。</li> <li>・授業中に紹介された参考文献などを読み、さらに理解を深める。</li> <li>・授業で紹介した画像処理ソフトを用いて、実際に各種の画像処理を試してみる。</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。毎回プリントが配布されます。
(21)参考文献	・原口徳子・平岡泰『ビジュアルバイオロジー』（サイエンス社） ・曾我部正博・臼倉治郎編『バイオイメージング』（共立出版） ほか、授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、実習レポートなど）：70% 期末評価（期末レポート）：30% 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義では、適宜プロジェクタが用いられます。 顕微鏡を用いた実習が3回、PCを用いた実習が1回あります。
(25)留意点・予備知識	高校程度の物理および生物の知識があると便利ですが、それらが無い場合もその都度説明するように努めます。
(26)オフィスアワー	水曜日14:00~15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:iwai-so@hirosaki-u.ac.jp">iwai-so@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	対象としては、将来研究で顕微鏡やGFPなどを使う可能性のある人を想定していますが、バイオイメージングについて単純に興味がある人も歓迎します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	202
(2)区分番号	202
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	工学の世界－自然の計測－ (The World of Engineering－remote sensing－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	丹波 澄雄 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○工学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、工学技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	自然を対象とした計測の一つに遠隔計測（リモートセンシング）があります。リモートセンシングによって広範囲を短時間に計測することができます。授業ではリモートセンシングの原理から実際の応用例まで最新の成果など具体例を提示しながら解説します。副題が「自然の計測」ですので、「計る」ということの基本的な原理を理解できることを目敵として授業を進めます。
(16)授業の内容予定	第1回 リモートセンシングはどんな技術なの？ (1) 第2回 リモートセンシングはどんな技術なの？ (2) 第3回 リモートセンシングはどんな技術なの？ (3) 第4回 どうすれば衛星画像を見ることができるの？ (1) 第5回 どうすれば衛星画像を見ることができるの？ (2) 第6回 どんなセンサーからどんな衛星画像が撮れるの？ (1) 第7回 どんなセンサーからどんな衛星画像が撮れるの？ (2) 第8回 どんなセンサーからどんな衛星画像が撮れるの？ (3) 第9回 どんなセンサーからどんな衛星画像が撮れるの？ (4) 第10回 衛星画像からどんな地図が作れるの？ (1) 第11回 衛星画像からどんな地図が作れるの？ (2) 第12回 どんな人工衛星が使われているの？ (1) 第13回 どんな人工衛星が使われているの？ (2) 第14回 どんな人工衛星が使われているの？ (3) 第15回 衛星リモートセンシングの現在未来授業の進行状況等により、シラバスと実際の

	内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	非常に広い範囲の話題に触れます。知らない言葉が出てきたら興味を持って調べることが必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	環境解析評価関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	岩男 弘毅 (著), 村井 俊治 (監修) リモートセンシング読本 日本測量協会 ISBN4-88941-000-7
(21)参考文献	授業中に適宜参考になるURLを示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート(50%)、演習、授業への参加度(50%)により最終的な成績評価を行う予定です。レポート課題は授業を通して数回出します。期限を過ぎて提出されたレポートは減点されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プロジェクターを用いて資料を提示しながら解説する形態を取ります。
(25)留意点・予備知識	出席は必ず取ります。欠席することのない様に注意すること。 教科書のサブタイトルはインターネットの情報満載ですので、インターネットから適切な情報を得る能力が必要となります。
(26)オフィスアワー	月曜日 17:30~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tanba_stu@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://www.t-lab.st.hirosaki-u.ac.jp/">http://www.t-lab.st.hirosaki-u.ac.jp/</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	203
(2)区分番号	203
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	工学の世界－再生可能エネルギーの物理入門 － (The World of Engineering－Physics of renewable energy: an Introduction －)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	渡邊 良祐 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○工学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、工学技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	太陽電池、風力発電等の環境に優しいエネルギー技術について、その原理と動向を基礎から考えていきます。科目の前半では多様な種類の再生可能エネルギーの概観について学びます。科目の後半では特に太陽電池に注目し、様々な太陽電池の物理的な基礎を理解していきます。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンスとイントロダクション (第2回～第7回：再生可能エネルギーの概観) 2. 再生可能エネルギーの概観 3. 太陽電池 4. 太陽熱発電 5. 風力発電 6. バイオマス 7. 地熱、潮汐、その他のエネルギー 8. まとめと中間試験  (第9回～第15回：様々な太陽電池とその物理) 9. シリコン太陽電池① 10. シリコン太陽電池② 11. 化合物太陽電池① 12. 化合物太陽電池② 13. 有機太陽電池 14. ペロブスカイト太陽電池 15. まとめ 16. 期末試験  ※進度に合わせて内容を変更する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で取り上げられた内容について、その意味内容を整理し理解を深めてください。興味を持った事柄について、より深く学ぶ姿勢が望まれます。
(18)学問分野1(主学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	エネルギー学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	物性物理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	佐藤勝昭「太陽電池のキホン」(ソフトバンククリエイティブ) 藤井照重 他「再生可能エネルギー技術」(森北出版) Peter Wurfel「太陽電池の物理」(丸善) 「IPCC(気候変動に関する政府間パネル)再生可能エネルギー源と気候変動緩和に関する特別報告書」(SRREN) その他、必要に応じ紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行います。
(25)留意点・予備知識	予備知識は特に仮定しません。
(26)オフィスアワー	月曜日12:00-13:00(理工学部1号館457室)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ryowat@eit.hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	204
(2)区分番号	204
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	工学の世界－昆虫機能利用学入門－ (The World of Engineering－Introduction to insect biotechnology and mimetics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	金児 雄 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○工学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、工学技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	われわれの生活では昆虫に基づく様々な技術が古くから使用されている。そこで昆虫特有の体の構造や発育システム、また行動様式について学習するとともに、その利用方法について紹介する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 昆虫とは何か 第3回 昆虫利用の歴史 第4回 昆虫の飼育技術 第5回 昆虫ホルモンと発育 第6回 昆虫ホルモンの利用－成長制御剤 第7回 昆虫の行動とその利用 第8回 昆虫と微生物 第9回 昆虫遺伝子工学を支える技術 第10回 昆虫遺伝子工学の基礎 第11回 昆虫工場 第12回 トランスジェニック昆虫 第13回 ゲノム編集と昆虫 第14回 バイオミメティクス 第15回 授業の総括と期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられる昆虫の機能とその利用について、自分なりに整理し、しっかりと理解しておくようにして下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	ナノマイクロ科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	農芸化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	藤崎憲治・西田律夫・佐久間正幸編「昆虫科学が拓く未来」(2009)京都大学学術出版会 鈴木幸一・竹田敏・桑野栄一・山川稔・伴戸久徳・本田洋・田村俊樹・木村登著「昆虫機能利用学」(1997)朝倉書店
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度):10%、期末試験:90% 上記により総合的な成績評価を行います。

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主にパワーポイントを用いて、多くの図や写真を示しながら講義する。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	在室中はいつでも。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	メールアドレス： <a href="mailto:yukaneko@hirosaki-u.ac.jp">yukaneko@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	205
(2)区分番号	205
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界－食と生活の酵素科学－ (The World of Agriculture－Enzyme science for food and life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	濱田 茂樹 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	生命科学・生物工学の中心的位置を占める酵素について、専門分野を学ぶ前段として高校の内容も復習しながら学んでいきます。また、身の回りの食品や製品が酵素によってどのように作られているかを解説します。特に、糖質に関する酵素を中心に話します。
(16)授業の内容予定	1回：ガイダンス 2回：酵素研究の歴史 3回：酵素工学とは 4回：酵素の触媒能・特異性 5回：酵素の分類と利用① 6回：酵素の分類と利用② 7回：酵素が作られるまで・核酸 8回：酵素が作られるまで・アミノ酸 9回：酵素が作られるまで・タンパク質 10回：酵素の速度と基質濃度の関係 11回：酵素の性質 (pH・温度) 12回：糖質の基本構造 13回：糖質関連酵素の利用法 ① 14回：糖質関連酵素の利用法 ② 15回：糖質関連酵素の利用法 ③
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は特に必要ありませんが、復習で講義内容をしっかり理解してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は指定しません。必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	酵素－科学と工学 (講談社)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (小テスト：100%) 毎回の講義で小テストを課します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業中に配布する資料を用いて授業を行います。

(25)留意点・予備知識	農学生命科学部だけでなく他学部の学生の積極的な受講を期待します。
(26)オフィスアワー	木曜午後
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:shamada@hirosaki-u.ac.jp">shamada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実務（国立研究開発法人の研究者）経験のある教員が担当する。

## 教養教育科目

(1)整理番号	206
(2)区分番号	206
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界－農業と環境－ (The World of Agriculture－Agriculture and Environment－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○藤崎 浩幸(農学生命科学部)、濱田 茂樹(農学生命科学部)、泉谷 眞実(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	○次の1)～3)について学識を得ます。 1)コメをめぐる生産と消費、流通、政策の現状 2)コメの品質・食味・加工品 3)コメ生産の場である水田や農村の多面的機能(交流・文化・環境)  ○上記の学識に基づいて、農業生産の意義と環境とのかかわりについて理解を深めます。
(16)授業の内容予定	<第1部 農業生産と食料消費>担当: 泉谷眞実(農学生命科学部) 第1回 ガイダンス この講義の概要 お米を生産する農家の現状 第2回 お米の流通の仕組み 第3回 お米の消費構造: 家庭での消費 第4回 お米の消費構造: 外食や加工品での消費 第5回 お米をめぐる国の政策 <第2部 コメの品質・食味・加工品>担当: 濱田茂樹(農学生命科学部) 第6回 お米の食味を決める品種の力 第7回 品種改良、玄米と白米の違い 第8回 食味ランキング、お米の成分① 第9回 お米の成分②、米粉とは? 第10回 米粉パンに適したお米とは? <第3部 農業農村の多面的機能>担当: 藤崎浩幸(農学生命科学部) 第11回 農業農村の役割と多面的機能 第12回 田舎を楽しむグリーン・ツーリズム 第13回 青森県のグリーン・ツーリズム(学外者の話題提供) 第14回 水田生態系と農業農村整備 第15回 農村景観と農業農村整備
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に授業内容に関連した本を読んだりWebページを調べたりしておく、授業の理解が

	容易になります。 また、各回の授業内容については、授業中メモを取るだけでなく、記憶が薄れないうちに、自分の言葉による講義ノートに再構築してください。 詳細については、各部門ごとの担当教員の指示にしたがってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	農業工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。
(21)参考文献	必要に応じて、講義の際に紹介があります。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの部門ごとにそれぞれ100点満点で行った評価を単純に平均します。また、3部門の平均点が60点を上回っていても、ある部門についてレポート未提出など履修放棄相当と判断される場合には、この科目全体を履修放棄したものとします。</li> <li>・ 泉谷担当回（第1部） 毎回の授業で小テストを行います（80点）。最終回の授業終了後に作成・提出されたレポートを評価します（20点）。</li> <li>・ 濱田担当回（第2部） 毎回の授業で、授業内容に関連した小テストを課し、各回20点満点で評価します（合計100点）。</li> <li>・ 藤崎担当回（第3部） 毎回の授業で、授業内容に関連した理解度チェックテストやアンケートや、予習復習ミニレポートを課し、各回15点満点で評価します。また最終回の授業中にミニレポートを課し、これを40点満点で評価します。</li> </ul> <p>採点は、授業内容の理解度と、自己の考えの明解さとその根拠の論理性、表現力を評価します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	通常の講義形式で、板書や配付資料、プロジェクター・ビデオなどの視覚機材を適宜使用します。
(25)留意点・予備知識	農学生命科学部以外の学生の積極的な受講を期待します。
(26)オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泉谷</li> <li>・ 濱田 木曜日（午後）</li> <li>・ 藤崎（とりまとめ） 火曜日11:40～13:10 （これ以外も対応可能）</li> </ul>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泉谷 <a href="mailto:izumiya@hirosaki-u.ac.jp">izumiya@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・ 濱田 <a href="mailto:shamada@hirosaki-u.ac.jp">shamada@hirosaki-u.ac.jp</a></li> <li>・ 藤崎（とりまとめ） <a href="mailto:fusa@hirosaki-u.ac.jp">fusa@hirosaki-u.ac.jp</a></li> </ul>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	207
(2)区分番号	207
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界－入門・果物の経済学－ (The World of Agriculture－Fruits Economics : An Introduction－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	成田 拓未 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	○「青森県において生産される主要な農産物であるりんごを題材に、生産、流通、加工、消費、貿易等の各側面について、経済的な視点から学ぶ ○農業が、農産物を作る営みであるだけでなく、農産物をお金に換える営みでもあることを学ぶ ○農業が、人々の生活を豊かにするだけでなく、農家の生活を維持する営みでもあることを学ぶ
(16)授業の内容予定	ガイダンス (第1回) 第2回 津軽のりんごの歴史① 第3回 津軽のりんごの歴史② 第4回 世界のりんご市場① 第5回 世界のりんご市場② 第6回 日本のりんご市場① 第7回 日本のりんご市場② 第8回 りんご農家の経営実態 第9回 りんごの流通の仕組み① 第10回 りんごの流通の仕組み② 第11回 りんごの流通の仕組み③ 第12回 りんごの消費動向① 第13回 りんごの消費動向② 第14回 りんごの加工業 第15回 りんごの貿易問題
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	リアクションペーパーとレポートによって評価します。レポートでは、論理的で説得力のある文章を書けるか否かを問います。したがって、授業中の説明、板書、配布資料をもとに、授業後にノートの再構築を行うようにしてください。授業の記憶が鮮明なうちに、授業の論理展開をノートに書き留めておけば、レポート作成時に大きな力となるでしょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜配布します
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	リアクションペーパー (60%)、授業中に課すレポート (40%)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	

	板書、配布資料、パワーポイント等を活用した講義形式です。
(25)留意点・予備知識	農業に関するニュース、新聞等の情報に関心をもつようにすると良いでしょう。地方紙には、りんごのニュースが毎日のように掲載されています。
(26)オフィスアワー	研究室（農学生命科学部、1階、135-1）に在室中は、いつでも対応します。また、事前にメールで連絡していただければ、確実に対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tnarita@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/staff/takumi-narita">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/staff/takumi-narita</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	208
(2)区分番号	208
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界－作物学入門－ (The World of Agriculture－Introduction to crop science－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	川崎 通夫(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	私たちの食糧基盤として重要な穀類・マメ類・イモ類などの作物に関する基礎知識を紹介する。また、青森県の農作物についても紹介する。
(16)授業の内容予定	1. 作物とは？作物学とは？ 2. 日本の食用作物 3. 世界の食用作物 4. 穀類の概要 5. イネ 6. コムギ、トウモロコシ 7. マメ類の概要 8. ダイズ、アズキなど 9. イモ類の概要 10. ジャガイモ、サツマイモ 11. ナガイモ 12. 糖料作物 13. 油料作物 14. 繊維作物 15. その他の作物、総括 16. 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業の後は復習して下さい。また、必要に応じ適宜予習して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません
(21)参考文献	作物学用語辞典 編 日本作物学会 星川清親 著 新編食用作物学 養賢堂
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験(70%)やレポートなどの課題学習(30%)の結果で評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配布資料やパワーポイントを用いて、講義形式で行う。

(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	在室している時は、いつでも来て下さい。 メールにて予約して頂くと助かります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kawasaki@hirosaki-u.ac.jp">kawasaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません



## 教養教育科目

(1)整理番号	209
(2)区分番号	209
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界－環境バイオテクノロジー－ (The World of Agriculture－Environmental biotechnology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	園木 和典 (農学生命)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	この授業では、人間または生物を取り巻く自然環境に、地球規模で起こっている問題を解決するためにバイオテクノロジーをどのように役立てることができるのか解説します。
(16)授業の内容予定	この授業では、環境バイオテクノロジーとはどのようなバイオテクノロジーのことを指す言葉であるのかをまず理解し、そのテクノロジーが必要となった背景を考えます。その背景にある課題をどのようなバイオテクノロジーを利用して解決することができるのかを学習します。そして、各講義中のディスカッションを通して、環境に対するバイオテクノロジーの貢献について理解を深めるだけでなく、新しいバイオテクノロジーの利用について考えていきます。  1. 環境バイオテクノロジーの背景① 2. 環境バイオテクノロジーの背景② 3. 環境浄化とバイオテクノロジー① 4. 環境浄化とバイオテクノロジー② 5. 環境浄化とバイオテクノロジー③ 6. 環境浄化とバイオテクノロジー④ 7. 資源利用とバイオテクノロジー① 8. 資源利用とバイオテクノロジー② 9. 資源利用とバイオテクノロジー③ 10. 資源利用とバイオテクノロジー④ 11. 資源利用とバイオテクノロジー⑤ 12. 資源利用とバイオテクノロジー⑥ 13. バイオテクノロジーを用いた循環型社会形成① 14. バイオテクノロジーを用いた循環型社会形成② 15. 環境問題へのバイオテクノロジーの利用について総合討論
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義ごとに紹介範囲の復習を行い、専門用語の意味などを理解しておくこと。 毎回のディスカッションで発言した内容を振り返り考えを広げること。

(18)学問分野1(主学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	農芸化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	指定しません。必要に応じて資料を配布します。
(21)参考文献	必要に応じて講義の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を行います。基礎知識（40%）と環境問題に関する記事についての論述（60%）から評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書形式で進め、必要に応じて資料を提示・配布します。 毎回ディスカッションを実施します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって特段の予備知識は必要としません。考える姿勢を求めます。
(26)オフィスアワー	月曜日8:30-9:00としますが在室している時間はこれに限りません。 出張等で不在にしたり時間を変更することがあります。 居室は農学生命科学部附属遺伝子実験施設209室です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sonoki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	210
(2)区分番号	210
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	農学の世界—イネ（稲）を学ぶ—（The World of Agriculture—Explore World of Rice—）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	姜 東鎮（農学生命科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○農学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、農業、農村、農業技術を理解できるようになること
(15)授業の概要	私達が主として食べているコメはイネからできます。しかし、正確にいうとコメとイネは違うものです。知っているつもりで実はよく知らないイネについて学びます。イネには様々なものがあります。例えば、水田で栽培するものだけでなく畑でも栽培できるもの、温度または光に敏感なもの、好ましくない環境下でも生き延びるもの等々、種類もたくさんあって、大変面白い植物（作物）です。そのイネのからだを理解することから私達が食べるコメになるまで、イネについて一つ一つ解説します。
(16)授業の内容予定	1回 ガイダンス、イネという作物 2回 イネ種子から発芽①（種子はどうなっている？） 3回 イネ種子から発芽②（芽をどのように出すのか？胚と胚乳の働きは？） 4回 イネ種子から発芽③（芽の出し方に環境条件が重要） 5回 苗の成長（生長は環境条件に大きく左右される） 6回 イネの葉①（葉は複雑な構造をしている） 7回 イネの葉②（光合成を行う葉はどうなっている？） 8回 イネの茎（茎はいつ出る？その発生と作りは？） 9回 イネの分けつ（分けつって何？） 10回 イネの根①（根の種類は様々、どんな形？） 11回 イネの根②（環境条件によってその作り方や形が違う） 12回 イネの穂（穂はいつからでき、どのように大きくなるのか？） 13回 イネの開花・受精（イネの花は一生でたった2時間しか咲かない） 14回 登熟（私達が食べるお米はこうしてできる） 15回 米の品質（使えるコメとダメなコメ） 16回 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	

	毎回の授業で取り上げられた内容を復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	○イネの生理と栽培, 2018. 農文協. ○イネの成長, 星川清新著, 1975. 農文協.
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、授業内容に対するリアクションペーパーを取る場合もあります。単なる出席回数ではありません。評価全体の30%） 期末評価（理解度の確認。評価全体の70%） 16回目に実施。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本パワーポイントを使用して進めますが、必要に応じて板書も行います。 イネの実物を見せながらの解説もあります。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	○研究室（五所川原市金木農場）：木～金曜日、9時から13時迄。 ○生物共生教育研究センター控室（農学生命科学部151号室）：火曜日、15時から17時迄 ○出張が多いため、予め連絡ください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	djkang@hirosaki-u.ac.jp（姜 東鎮） <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/kyousei/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/kyousei/</a> （生物共生教育研究センター）
(28)その他	世界のイネ種をみることができます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	211
(2)区分番号	211
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	数学の世界ー自然現象を微分方程式でシミュレーションしようー (The World of Mathematics—Mathematical modelings and simulation methods for understanding the natural phenomena—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	廣田 淳一 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	ー
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○数学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、日常の事象を理解できるようになること
(15)授業の概要	・自然現象のシミュレーションを通して微分方程式の解法を学び、応用できるようにする。 ・いろいろな分野の実際的问题を例として、微分・積分が実際にどのように使われ、どのようにして問題を解決するかを学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 シミュレーションの準備1 1: ものの見方を変えてみよう, 2: 解析学の世界へ, 3: 微分方程式とは, 4: Excelを使ってみよう 第3回 人口の予測 予測の原理 学修記録1(1-2回) 第4回 人口の予測 シミュレーションをしてみよう まずは基本形で 第5回 鑑識入門 学修記録2(3-4回), 小テスト1(2-4回) 第6回 シミュレーションの準備2 1: 線形代数, 2: 微分の拡張, 3: 尤もらしい直線を引こう 第7回 生存競争 被食者と捕食者モデル 学修記録3(5-6回), 小テスト2(2-6回) 第8回 人工透析装置を考えてみよう 第9回 生態系 湖を浄化する 学修記録4(7-8回) 第10回 美術品の贋作 美術品と放射線 小テスト3(2-9回) 第11回 感染症はどう流行するか? 学修記録5(9-10回) 第12回 化学反応のシミュレーション 第13回 宇宙旅行をしてみよう スターボウ(星虹) 学修記録6(11-12回), 小テスト4(2-12回) 第14回 森林火災の広がりとは? セルオート

	<p>マトンで考えてみよう 第15回 美しい形と強度 巨匠の世界 学修記録7(13-14回), 小テスト5 (2-15回)</p> <p>基本的に上記内容で行いますが, いろいろ新作を用意しています. したがって, 授業の進捗やシミュレーションのレベルに合わせて適宜変更する場合もあります. その際は授業の中で事前に伝達します. また, 授業の進行状況により, 実際の内容と進み具合が異なる場合はその都度説明を行います.</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料を事前にクラウド上にuploadします. 予めダウンロードし内容を一読以上(予習)してください. 予習より復習に十分時間をかけてください.</li> <li>・予習はアップロードされた授業内容を一読する, 用語等や中抜きされた箇所を調べる, などに2h程度,</li> <li>・復習は, 授業の振り返り, Excelでの実際のシミュレーションの再確認等で, 2h程度行う必要があります.</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(工学)
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は指定しません. 講義資料は事前にクラウド上にuploadします.
(21)参考文献	<p>(1)D. バージェス/M. ポリー著 微分方程式で数学モデルを作ろう 日本評論社</p> <p>(2)三井和夫著 数学モデルを作って楽しく学ぼう Excelコンピュータシミュレーション 森北出版</p> <p>(3)David M. Bourg著 ゲーム開発のための物理シミュレーション Ohm社</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義数回おきに復習を兼ねた小テスト(15-25分程度)を実施します. 小テスト後, 講評・解説等を行い, 講義内容の浸透を図ります.</li> <li>・講義2回に1通の学修記録を提出してもらいます. (様式は後ほど指定します)</li> <li>・小テスト: 80%, 学修記録: 20% とし, これらを合算して成績を評価します.</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体ですが, 演習問題を多くし尚且実際にExcelを用いた実習を行うことで理解を深めます.
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休まないこと.</li> <li>・あらかじめアップロードしたノートを前提に講義を進めますので, 少なくとも1回は目を通しておいてください.</li> </ul>
(26)オフィスアワー	月~金 17:30以降 本町地区です.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirota@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	ありません

## 教養教育科目

(1)整理番号	212
(2)区分番号	212
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	数学の世界－保健データを読み解くために－ (The World of Mathematics－A primer of statistics to study health data－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	廣田 淳一 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○数学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、日常の事象を理解できるようになること
(15)授業の概要	保健データや各種実験データの見方、データ処理の方法等、統計的なもの見方、考え方を数理統計学をもとに学びます。 統計学は、効率よくデータを集める方法、データを分析し結論を導く方法を取りあつかう学問です。 具体的には、 ・誤差解析により、測定値の不確かさの程度が評価できるようになる。 (データ解析により誤差を推定し、そこからどのような結論が引き出せるかを理解する) ・測定データを通して確率及び確率密度分布等の基本的な部分を理解し、最小二乗法によりデータ解析及び推定が実際にできるようになる、ことを行います。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 測定とデータ解析の関係 レベルテスト(統計学に必要な数学素養のチェック) 第3回 確率から確率分布へ 学修記録1(1-2回) 第4回 確率変数と確率分布 小テスト1(2-3回) 第5回 確率変数の関数 学修記録2(3-4回) 第6回 多次元分布から誤差伝搬へ 第7回 2項分布 学修記録3(5-6回), 小テスト2(2-6回) 第8回 ポアソン分布 第9回 正規分布 学修記録4(7-8回) 第10回 中心極限定理 小テスト3(2-9回) 第11回 点推定法 学修記録5(9-10回) 第12回 区間推定法 第13回 検定 学修記録6(11-12回), 小テスト4

	<p>(2-12回)  第14回 最小二乗法  第15回 最小二乗法と相関  学修記録7(13-14回), 小テスト5  (2-15回)</p> <p>授業の進行状況により, 実際の内容と進み具合が異なる場合はその都度説明を行います.</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料を事前にクラウド上にuploadします. 予めダウンロードし内容を一読以上(予習)してください. 予習より復習に十分時間をかけてください.</li> <li>・予習はアップロードされた授業内容を一読する, 疑問点などを抽出し調査する, などに2h程度,</li> <li>・復習は, 授業の振り返り, 事前の疑問点への回答等, さらに自ら演習問題を検索・検討する等, 2h程度行う必要があります.</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	解析学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	応用数学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は特に指定しません.</li> <li>・講義資料は事前にクラウド上にuploadします.</li> </ul>
(21)参考文献	<p>(1) J. R. Taylor 著 林茂雄・馬場涼訳 「計測における誤差解析入門」 [(株)東京化学同人]</p> <p>(2) 篠崎信夫著 「統計解析入門」 (サイエンス社)</p> <p>(3) 吉澤康和著 「新しい誤差論」 (共立出版)</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義数回おきに復習を兼ねた小テスト(15-25分程度)を実施します. 小テスト後, 講評・解説等を行い, 講義内容の浸透を図ります.</li> <li>・講義2回に1通の学修記録を提出してもらいます. (様式は後ほど指定します)</li> <li>・小テスト: 80%, 学修記録: 20% とし, これらを合算して評価します.</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体ですが, 演習問題を多くし, これらを解くことで理解を深めます.
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休まないこと</li> <li>・事前配布のノートを読んで来ていることを前提に講義を進めます.</li> </ul> <p>したがって, 1度はノートを読んで来て, さらに疑問点などを抽出して講義に臨むことが望ましいです.</p>
(26)オフィスアワー	月～金 17:30以降 本町地区です.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ihirota@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	ありません



## 教養教育科目

(1)整理番号	213
(2)区分番号	213
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名[英文名]	数学の世界－実感する数学－ (The World of Mathematics－Applying Math to Society－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	高田 晃 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○数学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、日常の事象を理解できるようにすること
(15)授業の概要	身の回りの現象と数学の関わりについて学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 確率① 第2回 確率② 第3回 確率③ 第4回 分数① 第5回 分数② 第6回 指数① 第7回 指数② 第8回 指数③ 第9回 素数① 第10回 素数② 第11回 微分・積分① 第12回 微分・積分② 第13回 微分・積分③ 第14回 虚数① 第15回 虚数②
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容を復習し、理解を深めるとともに、配布するプリントに事前に目を通しておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	指定しない
(21)参考文献	数学の言葉で世界を見たら、大栗博司著、幻冬舎
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート (100%) により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	文系学部学生諸君、数学が苦手な学生諸君を歓迎します。
(26)オフィスアワー	いつでもどうぞ。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail: <a href="mailto:takada@cc.hirosaki-u.ac.jp">takada@cc.hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス: <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	214
(2)区分番号	214
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	数学の世界－社会科学のための数学入門－ (The World of Mathematics－Introductory of Mathematics for Social Science－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	花田 真一 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○数学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、日常の事象を理解できるようになること
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微分を応用して最適化問題が解けるようになる</li> <li>・数列の考え方を理解する</li> <li>・積分を応用して関数と面積の関係を理解する</li> <li>・行列を用いて連立方程式を解けるようになる</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス  第2回：多変数関数の微分：坂の傾きを知ろう  第3回：一階の条件と全微分：山のてっぺんを探そう  第4回：陰関数の微分：複雑な山を簡単に分析しよう  第5回：制約付き最適化問題：社会科学で探すべき点は？  第6回：ラグランジュの未定乗数法：実際に問題を解いてみよう  第7回：中間テスト  第8回：数列：規則的に並んだ数をどう考える？  第9回：積分の基礎：複雑な関数の面積をどう計算する？  第10回：積分の応用：社会全体の利益をどう考える？  第11回：行列：数の箱から何が分かる？  第12回：行列の演算：数の箱で計算してみよう  第13回：逆行列：割り算は少し難しい  第14回：行列と連立方程式：複雑な連立方程式を簡単に解いてみよう  第15回：講義の復習  第16回：期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義資料を事前にアップロードするので、各自で予習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	代数学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必携の教科書は指定しない。事前にアップロードされた各回の講義資料を用意しておくこと。
(21)参考文献	講義内で紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の確認テスト：10% 中間試験：40% 期末試験：50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回の講義は 前回の確認テストの解説（10分程度）→今回の講義内容の概観（5分程度）→本講義（60分程度）→確認テスト（15分程度） を基本サイクルとして行う。
(25)留意点・予備知識	高校の数学Ⅱまでの知識を前提とし、数学B以降の部分については確認を行いながら講義を進める。 また、文系の学生と理系の学生では数学知識のベースが異なるため、その点を評価に加味する。
(26)オフィスアワー	月曜日14:30-15:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	shanada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	受講生の理解度等に応じて内容を変更する場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	215
(2)区分番号	215
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界—宇宙線の謎— (The World of Physics—Introduction to Cosmic Ray Physics—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	高橋 信介 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>宇宙線とは宇宙空間を高エネルギーで飛び交っている極めて小さな粒子等の総称です。地球には宇宙線が飛来し、その一部は大気に衝突してたくさんの二次宇宙線を生成しながら地表に降り注いでいます。これらの宇宙線は私たちの体や大気をすり抜けて地中や海中へ突入しています。日常生活では意識することのない自然現象を物理学の基礎知識を用いて学習します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス、宇宙線とは、微分と積分</p> <p>第2回 宇宙線の観測、空気シャワー</p> <p>第3回 電子ボルト、ジュール、1アンペア、1クーロン</p> <p>第4回 高校物理と大学の物理1、落下の運動方程式(微分方程式)を解く、小テスト1(15分)</p> <p>第5回 高校物理と大学の物理2、力学的エネルギー保存、ネイピアの数</p> <p>第6回 高校物理と大学の物理3、地球に穴を空けたら</p> <p>第7回 振り子の運動、実体振り子、慣性モーメント、小テスト2(15分)</p> <p>第8回 重力加速度の測定</p> <p>第9回 ケプラーの法則</p> <p>第10回 クーロンの法則、アンペールの法則、1A、1V、1W、小テスト3(15分)</p> <p>第11回 素粒子の分類、高エネルギーの物理(特殊相対性理論)、崩壊寿命の延び</p> <p>第12回 放射線(宇宙線)の検出器</p> <p>第13回 一次宇宙線、二次宇宙線、小テスト4(15分)</p> <p>第14回 宇宙線国際会議への参加</p> <p>第15回 有効数字、まとめ、期末試験(40分)</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の終わりに15分程度の小テストを4回程度実施する予定ですので、基本的な用語や概念を復習しておくこと。具体的に数値をあてはめた場合の計算を練習しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	宇宙物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(小テスト4回):40% 期末評価(期末試験):60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式、黒板とプロジェクタを使います。
(25)留意点・予備知識	数値計算を行いますので関数電卓を持参してください。 高校の物理の基礎知識が必要です。
(26)オフィスアワー	理工学部1号館3階333室 前期:月曜日 17時から18時 後期:月曜日 17時45分から18時45分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	taka_lec@hirosaki-u.ac.jp (耳を@に置き換えて下さい)
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	216
(2)区分番号	216
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名[英文名]	物理学の世界－実感する物理学－ (The World of Physics－Applying Physics to Society－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高田 晃 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	身の回りの物理現象を取り上げながら、物理学全般を学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 運動とエネルギー① 第2回 運動とエネルギー② 第3回 運動とエネルギー③ 第4回 波動① 第5回 波動② 第6回 波動③ 第7回 熱と温度① 第8回 熱と温度② 第9回 電磁気学① 第10回 電磁気学② 第11回 相対性理論① 第12回 相対性理論② 第13回 相対性理論③ 第14回 ミクロの物理学① 第15回 ミクロの物理学②
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容を復習し、理解を深めるとともに、配布するプリントに事前に目を通しておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	物性物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	指定しない
(21)参考文献	よくわかる物理、福江純著、日本実業出版社 ぼくらは「物理」のおかげで生きている、横川淳著、実務教育出版
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート(100%)により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	文系学部学生諸君、物理が苦手な学生諸君を歓迎します。
(26)オフィスアワー	いつでもどうぞ。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail: <a href="mailto:takada@cc.hirosaki-u.ac.jp">takada@cc.hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス: <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	217
(2)区分番号	217
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－物理学への招待－ (The World of Physics－Introduction to Physics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	手塚 泰久 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	我々の日常生活の周りには、多くの物理現象があります。物理現象は決して難しいことではありません。「物理学」は身近な物理現象に対する素朴な疑問を持つことから始まります。興味が持てれば、難解な数学も単なる道具であることが判るはずでです。この講義は、「物理学」へ進むためのイントロダクションです。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 運動I 第3回 運動II 第4回 運動III 第5回 力と運動I 第6回 力と運動II 第7回 仕事とエネルギー 第8回 周期運動 第9回 連続体の力学 第10回 波動 第11回 熱と温度 第12回 電荷と電流 第13回 電磁気学 第14回 光と電磁波 第15回 期末テスト(60分)とふりかえり
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 指定した教科書を事前に読んでおいてください。 [復習] 教科書の例題や練習問題をやって理解を深めて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	物性物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	天文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	地球惑星科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	原康夫 「物理学入門」 (学術図書出版)
(21)参考文献	適宜授業で配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：30% 授業への参加度によって評価します。 中間評価：30% 何度か行う小テストで評価します。その時点での理解度をチェックしま

	す。 期末評価：40% 期末試験またはレポートによって評価します。 上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義形式で行われます。
(25)留意点・予備知識	単に数式を解くのではなく、物理現象を統一的に理解しているかどうかを評価します。数式の問題に加えて論述式の問題も出します。
(26)オフィスアワー	木曜日17:30-18:00 (理工学部1号館154室)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス : <a href="mailto:tezuka@hirosaki-u.ac.jp">tezuka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	218
(2)区分番号	218
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－医療系の物理学－ (The World of Physics－Physics for paramedic－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	中原 岳久 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	物理学とは、様々な自然現象の中から規則性を見つけ出すことと、その規則性を用いて別の自然現象を説明すること、という2つのことからなっています。生命現象も自然現象の一部であり、物理学の視点から説明できることも多くあるはずですが、このような考え方は、これから自然科学を志す者にとって必要なものだと思います。 ※履修者は、医学部保健学科の放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻の学生を優先します。
(16)授業の内容予定	1. 物理学の理解に必要な知識 2. 力学 (運動) 3. 力学 (回転運動) 4. 力学 (流体) 5. 波動 (音) 6. 波動 (光) 7. 熱現象 8. 熱力学 9. 電磁気学 (電場と磁場) 10. 電磁気学 (電流) 11. 電磁気学 (電磁誘導) 12. 電子と制動放射 13. 原子の構造 14. 放射能と放射線 15. 問題演習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	『1単位取得のためには予習15時間、講義15時間、復習15時間の合計45時間の学習が必要です。』 少なくとも高校の物理及び指定教科書を読んでから講義に臨むこと。 復習として指定教科書に付されている練習問題などを解答して該当箇所の理解を深めておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	医歯薬系の物理学 からだと生命の基礎原理 林 一 編 発行元：丸善出版
(21)参考文献	高校の物理の教科書、参考書など
(22)成績評価方法及び採点基準	全ての講義への出席と期末試験の受験を前提として、 期末試験の成績（100%）で評価します。 また、物理学の考え方の理解を、計算能力や公式の暗記より優先します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で行います。
(25)留意点・予備知識	高校で物理が苦手だった人や履修していなかった人は予習・復習をしっかりとっておいて下さい。
(26)オフィスアワー	水・木の14時～19時 メールで予約して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tnakahar@hirosaki-u.ac.jp">tnakahar@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	219
(2)区分番号	219
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－現代物理学入門－ (The World of Physics－Introduction to modern physics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	仙洞田 雄一 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○現代の物理学の根幹である量子論と相対論の基礎事項・概念を把握する ○それらがさまざまな自然現象、とりわけ宇宙や天体現象の理解のためにどのように役立つかを把握する
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 電磁気学 (Maxwell方程式 その1) 第3回 電磁気学 (Maxwell方程式 その2) 第4回 電磁気学 (電磁波と天文観測) 第5回 特殊相対性理論 (Lorentz変換 その1) 第6回 特殊相対性理論 (Lorentz変換 その2) 第7回 特殊相対性理論 (質量とエネルギーの等価性) 第8回 量子論 (前期量子論) 第9回 量子論 (Schrödinger方程式、波動関数) 第10回 量子論 (原子のエネルギー準位、スピン) 第11回 素粒子物理 (素粒子模型) 第12回 素粒子物理 (宇宙線) 第13回 重力 (Newtonの万有引力) 第14回 重力 (一般相対性理論) 第15回 重力 (宇宙膨張、重力波)  時間配分を変更することがあり、その場合は都度説明します
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業の内容予定を参考とし、参考書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行なってください
(18)学問分野1(主学問分野)	宇宙物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	素粒子関連
(18)学問分野3(副学問分野)	天文学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	

	砂川重信「電磁気学」(1987年、岩波書店) 小林努「相対性理論」(2017年、日本評論社) 風間洋一「相対性理論入門講義」(1997年、培風館) 阿部龍蔵「量子力学入門」(1987年、岩波書店) 米谷民明「量子論入門講義」(1998年、培風館) 御領潤「力学」(2017年、日本評論社) 佐藤勝彦「相対性理論」(1996年、岩波書店)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(適宜行なう理解確認のための小テスト): 50% 期末評価(レポート): 50% 上記を合算して成績評価を行ないます
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書とスライド等の視聴覚教材を用います
(25)留意点・予備知識	微分積分学、力学、電磁気学の基礎的な知識を前提とします
(26)オフィスアワー	授業期間中の火曜授業日17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	220
(2)区分番号	220
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界—身の回りの物理— (The World of Physics—Physics in daily life—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	遠田 義晴(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○様々な物理現象を理解するための基本的な物理を学ぶ。 ○身の回りにある物理現象を各回のテーマに選び、その仕組みを理解する。
(16)授業の内容予定	第1回 単位や有効数字 第2回 速度と加速度 第3回 等速運動と等加速度運動 第4回 運動の法則 第5回 運動量保存則 第6回 円運動 第7回 単振動 第8回 仕事と仕事率 第9回 エネルギー保存則 第10回 力のつりあい 第11回 熱力学の法則 第12回 熱機関 第13回 静電力とクーロンの法則 第14回 電気回路 第15回 電場と磁場
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 教科書の予習が必要です。 [復習] 教科書の章末問題の復習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	物性物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	楽しみながら学ぶ物理学入門 山崎耕造 著 共立出版
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(50%)、小テスト(50%)により評価されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	各章の終了後に小テストを行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	

	木曜日17:00~18:00 理工学部1号館157号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	—
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	221
(2)区分番号	221
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－相対性理論入門－ (The World of Physics－Introduction to special and general relativity－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 松夫 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○アインシュタインの発見した相対性理論の基礎を学びます ○上記学問の知識や技能に基づき、身近な物理現象を学びます
(16)授業の内容予定	<p>この授業では1900年代初頭にアインシュタインが発見した相対性理論の入門を行います。当時の常識ではとても信じられない理論でしたが、現在では実験や天体の観測から100%正しいことが知られています。この授業を受けることにより、常識を打ち破るような100%正しい事実が存在することを体験することができます。大学生のときにこのような教養を得ることはこれからを生き抜く上で大変貴重なものです。</p> <p>第1回 ニュートン力学  第2回 ガリレイ変換不変性  第3回 特殊相対性理論 光速度不変の原理  第4回 ローレンツ変換不変性  第5回 特殊相対性原理から導かれる現象Ⅰ (時間の遅れ、双子のパラドクスなど)  第6回 特殊相対性原理から導かれる現象Ⅱ (ミューオンの寿命、長さの収縮など)  第7回 テンソル  第8回 運動量保存則  第9回 運動方程式  第10回 <math>E=mc^2</math>  第11回 試験  第12回 一般相対性理論 等価原理、計量仮説、一般相対性原理  第13回 重力場中での自由粒子、接続  第14回 共変微分、曲率テンソル  第15回 アインシュタイン方程式  第16回 ニュートン極限</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	<p>予習は必要ありません。</p> <p>復習をし、次回の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	素粒子関連
(18)学問分野2(副学問分野)	宇宙物理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	幾何学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	試験で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	物理学は数式を言語としています。日本語になじまないと日本人と話せないように数式になじまないと物理学を理解できません。この講義では基本的に数式で授業を行います。ただし、用いる数式については極力0から説明を行いますので予備知識のない文系の学生の参加も歓迎です。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし。



## 教養教育科目

(1)整理番号	222
(2)区分番号	222
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－物理学入門－ (The World of Physics－Introduction to Physical Science－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	黒川 敦 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○高校で「物理」を履修してこなかった大学1年生向けに授業構成された物理学入門を学びます。 ○力学や電磁気学などが、図や写真、実物を用いて、わかりやすく説明されます。 ○物理全体、特に身近な物理現象が理解できるようになります。
(16)授業の内容予定	1: ガイダンスとイントロダクション 2: 位置、速度、加速度 3: ニュートンの運動の法則 4: 摩擦と力のつり合い 5: 仕事とエネルギー 6: 等速円運動 7: 振動 8: 前半のまとめと中間試験 9: 連続体の力学 10: 波動 11: 熱と温度 12: 電荷と電流 13: 電磁気学 14: 原子物理学と原子核 15: 後半のまとめと期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 指定した教科書の予定箇所を事前に読んでおくこと [復習] 授業でメモした内容と学んだ箇所を読んで理解を深めること
(18)学問分野1(主学問分野)	物性物理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	熱工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	原康夫著 『第3版 物理学入門』 (学術図書出版)
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (授業への参加度) : 30% 中間評価 (中間試験) : 20% 期末評価 (期末試験) : 50%

	上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主にプロジェクタを使用した授業です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要ありません。 高校で「物理」を履修した人や、大学で物理もしくは力学を学んだ人には不向きな科目です。
(26)オフィスアワー	月曜日16:00-17:00 (理工学部 1号館 358室)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメール : kurokawa アット eit.hirosaki-u.ac.jp ホームページ : <a href="http://www.eit.hirosaki-u.ac.jp/~kurokawa/">http://www.eit.hirosaki-u.ac.jp/~kurokawa/</a>
(28)その他	電機メーカーで長年半導体や電気に関する業務に従事した経験を活かし、身近な物理現象を説明します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	223
(2)区分番号	223
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学の世界－物理学の基礎－ (The World of Physics－Basic understanding of physics－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	金本 俊幾 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○物理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、物理現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	これから物理学を学びたいという人を対象として、物理学の基礎を初歩から学びます。身の回りで生じている物理現象の原理が説明できるようになります。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 運動 第3回 力と運動(1) 第4回 力と運動(2) 第5回 仕事とエネルギー 第6回 周期運動 第7回 連続体の力学 第8回 波動 第9回 前半のまとめと中間テスト 第10回 熱と温度(1) 第11回 熱と温度(2) 第12回 電荷と電流 第13回 電磁気学(1) 第14回 電磁気学(2)、原子物理学、原子核 第15回 後半のまとめと期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は教科書の予定箇所を読んでおくこと。復習はノートに取った内容を読み返し、演習問題を見直しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	機械力学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	熱工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	原康夫著 『第3版 物理学入門』 (学術図書出版)
(21)参考文献	西尾成子著 『こうして始まった 20世紀の物理学』 (裳華房)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：20%、中間テスト：40%、期末試験：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式とし、適宜演習も行います。

(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	毎週火曜日 10:00~11:00 理工学部 1号館 3階 362室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="https://www.eit.hirosaki-u.ac.jp/~kana/">https://www.eit.hirosaki-u.ac.jp/~kana/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	224
(2)区分番号	224
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－実感する化学A－ (The World of Chemistry－Applying Chemistry to Society (A)－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	高田 晃 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	地球環境の諸問題を化学の視点から学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 空気汚染① 第2回 空気汚染② 第3回 空気汚染③ 第4回 オゾン層破壊① 第5回 オゾン層破壊② 第6回 オゾン層破壊③ 第7回 気候変動① 第8回 気候変動② 第9回 気候変動③ 第10回 エネルギー① 第11回 エネルギー② 第12回 飲料水汚染① 第13回 飲料水汚染② 第14回 酸性雨① 第15回 酸性雨②
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容を復習し、理解を深めるとともに、教科書を事前に読んでおいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー関連化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	実感する化学 上巻 地球感動編 訳者：廣瀬 千秋 出版社：NTS
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート(100%)により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	文系学生諸君、化学が苦手な学生諸君を歓迎します。実感する化学Aでは「実感する化学」上巻を使用し、実感する化学Bでは下巻を使用しますが、両講義は連動していません。どちらか一方のみの受講でも両方の受講でも歓迎します。
(26)オフィスアワー	いつでもどうぞ。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail: <a href="mailto:takada@cc.hirosaki-u.ac.jp">takada@cc.hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス： <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	225
(2)区分番号	225
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－実感する化学B－ (The World of Chemistry－Applying Chemistry to Society (B)－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高田 晃 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	生活に密着した諸問題を化学の視点から学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 原子力発電① 第2回 原子力発電② 第3回 原子力発電③ 第4回 電池① 第5回 電池② 第6回 電池③ 第7回 プラスチック① 第8回 プラスチック② 第9回 プラスチック③ 第10回 医薬と薬物① 第11回 医薬と薬物② 第12回 医薬と薬物③ 第13回 遺伝子組換えと生命にかかわる分子① 第14回 遺伝子組換えと生命にかかわる分子② 第15回 遺伝子組換えと生命にかかわる分子③
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容を復習し、理解を深めるとともに、教科書を事前に読んでおいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	有機材料関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	実感する化学 下巻 生活感動編 訳者：廣瀬 千秋 出版社：NTS
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート(100%)により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	文系学部学生諸君、化学が苦手な学生諸君を歓迎します。実感する化学Aでは「実感する化学」上巻を使用し、実感する化学Bでは下巻を使用しますが、両講義は連動していません。どちらか一方のみの受講でも両方の受講でも歓迎します。
(26)オフィスアワー	いつでもどうぞ。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail: <a href="mailto:takada@cc.hirosaki-u.ac.jp">takada@cc.hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス： <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/takada/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	226
(2)区分番号	226
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－毒の話－ (The World of Chemistry－poisons, toxins, and venoms, viewing from chemistry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	橋本 勝 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○私たちの周りには、様々な毒が存在することを ○毒物がどのように利用・悪用されてきたかを知 ○毒性の発現の理由の概要を知る。 ○中毒事故を防ぐ社会の仕組みを知る。 ○毒物研究が科学の発展に貢献してきたことを知る。
(16)授業の内容予定	1) この講義の進め方 2) 中毒とは 3) アルコールの毒 4) 古代からの毒物、 5) 身近な毒 6) 戦争、殺人に用いられた毒 7) フグ、トリカブト、ペラドンナの毒 8) 覚せい剤、麻薬 9) 海生生物の毒、 10) 陸上動物の毒 11) 植物の毒 12) カビの毒 13) ドーピング 14) 放射能の毒 15) 薬害
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は特に必要ありません。 講義で興味を持った内容について、自身で深く調べてみることを勧めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	有機化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体分子化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	農芸化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は特に使用しません。
(21)参考文献	講義の構築に以下の書籍を参考にしました。 興味の持った内容を掘り下げてみることを勧めます。(ただし、絶版本もあります。) 1. 齊藤勝裕、「毒と薬のひみつ」、ソフトバンククリエイティブ 2. 齊藤勝裕、「毒の事件簿、歴史は毒

	<p>で作られる」、技術評論社</p> <p>3. 田中真知、「へんな毒、すごい毒、こっそり打ち明ける毒学入門」、技術評論社</p> <p>4. 佐藤健太郎、「世界史を変えた薬」講談社現代新書</p> <p>5. 山崎幹夫、「毒の話」、中公新書</p> <p>6. 山崎幹夫、「薬の話」、中公新書</p> <p>7. 山崎幹夫、「面白いほどよくわかる薬と薬」、日本文芸社</p> <p>8. 山崎幹夫ら、「天然の毒、毒草、毒虫、毒魚」、講談社サイエンティフィック</p> <p>9. Anthony T. Tu、「事件から見た毒トリカブトからサリンまで」、化学同人</p> <p>10. Anthony T. Tu、「毒物中毒用語辞典」、化学同人</p> <p>11. Anthony T. Tu、「サリン事件、科学者の目でテロの真相に迫る」、東京化学同人</p> <p>12. Anthony T. Tu、「世の中に潜む毒物」、東京化学同人</p> <p>13. 船山信次、「毒の科学、毒と人間のかかわり」ナツメ社</p> <p>14. 船山信次、「毒と薬の世界史、ソクラテス、錬金術、ドーピング」ナツメ社</p> <p>15. チョ・ギョン Chol「Why?有毒生物」学研</p> <p>16. 福岡大学学生部編、「酒、ドラッグ、そしてエイズ」、三共出版</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（ミニテスト）：50%</p> <p>期末評価（期末レポート）：50%</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを使用して講義を勧めます。
(25)留意点・予備知識	<p>学んだ知識で人を傷つけることを決してしないでください。</p> <p>現在の技術ではほとんどの毒の場合、痕跡量でも特定することは可能です。特定できない無い場合は、特に知識がある人物であると特定が容易です。</p>
(26)オフィスアワー	月曜日12：00-14：00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail:hmasaru@cc.hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務（財団法人の研究者）経験のある教員が担当する。



## 教養教育科目

(1)整理番号	227
(2)区分番号	227
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界ーグローバルな化学ー (The World of ChemistryーChemistry the central scienceー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	中川 公一 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	大学で学び、また、必要とされる専門知識をより深める上でその土台となる基礎的学問が化学です。大学レベルへと一歩踏み込んだ授業を展開する予定です。日本語の化学の教科書を用いて授業を行います。基礎的な化学の学び方や化学的現象の理解を習得でき、さらに化学の力を向上させることが可能です。授業を通して、より深く化学を理解できるものと思います。 さらに、大学以上の教育で役立つ主な項目、原子の電子軌道、元素の周期律、化学結合論、物質の性質、化学反応論などについて学びます。従って、専門知識をより高める上での「サイエンス(生物学や物理学)」などを学ぶための基礎でもあります。
(16)授業の内容予定	内容予定： 第1回： 第0章 物質を見る目としての化学  第2-3回： 第1章 原子・元素・単体 (物質を考える基礎である原子は、物質を構成する基本的粒で、重さに応じた名称や元素記号がある事を学びます。) 第2章 原子軌道 (軌道を回る電子は固有のエネルギーを持っていて、不連続である量子の概念や原子の電子軌道などを理解します。)  第4-5回： 第3章 元素の周期律 (物質を構成する原子・元素には、類似した性質を示す特徴があることを理解し、軌道電子のエネルギーを理解し遷移金属元素の理解を深めます。)  第6-7回： 第4章 化学結合 (原子と原子が結ばれる結合には、原子の電子配置により性質が異なることや結合を作る電子の分極などを学びます。)  第8-9回： 第5-6章 化学式(分子や構造式)・化学反応 (分子式や化学構造を理解し、化学反応に影響する因子や反応過程について学びます。)  第10-11回： 第7章 酸・塩基/酸化・還元 (酸・塩基の定義を元に酸化/還元反応を学びま

	す。) 第12回： 第8章 物質の三態(個体・液体・気体) (固体、液体、気体での構成粒子の状態や溶液の分子間力、固体-液体-気体での構成粒子の状態を学びます。) 第13-14回： 第9章 有機化学と有機化合物(種類や特性) (有機化合物の性質や反応、生化学の概要などについて学びます。) 第15回： 期末試験とふり返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業を受ける前に、あらかじめ教科書を熟読し自分なりの内容の理解が重要です。また、章末の練習問題は、学んだ理解を深めるために大いに役立ちます。 5月末頃に中間クイズがあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	機能物性化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	有機化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	杉森 彰・富田 功『Catch Up 大学の化学講義 改訂版』(裳華房)を用います。
(21)参考文献	浅野ほか共著「化学 物質・エネルギー・環境 第4版」学術図書出版社など
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業態度など)： 10% クイズ形式評価： 10% 期末評価(期末試験)： 80% 上記を合算して、総合的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書形式
(25)留意点・予備知識	「上級の化学」を履修するために、本科目を先ず履修することが望まれます。
(26)オフィスアワー	平日8:30-17:00 (昼休み以外)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:nakagawa@hirosaki-u.ac.jp">nakagawa@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://personal.hs.hirosaki-u.ac.jp/~nakagawa/">http://personal.hs.hirosaki-u.ac.jp/~nakagawa/</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	228
(2)区分番号	228
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名[英文名]	化学の世界－生活の化学A－ (The World of Chemistry –Chemistry in deily life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	鷺坂 将伸 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○化学の基礎を学ぶ(化学の基礎を紐解きながら、化学的現象や化学製品について理論的に理解する) ○化学の基礎を踏まえて、今後の人類の生活とそこに利用される化学技術の望ましい形を想像する
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 銅と文明 3. 鉄と生活 4. 貴金属の利用 5. 重金属と人間 6. ケイ素とアルミニウム 7. アルカリ土類金属と人間 8. アルカリ金属と工業 9. 電気と化学 10. 触媒と反応 11. 水と生命 12. 地球環境と化学 13. エネルギーと化学 14. 燃焼と火災 15. セッケンと洗剤
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	大学での学習には予復習が必須です。講義はそれを補うものと考えてください。そのためにも、教科書を必ず入手し、教科書を事前に読んでおいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	無機材料化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	エネルギー関連化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	有機化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	芝哲夫著『化学物語25講 ― 生きるために大切な化学の知識』(化学同人)を中心に講義を進めます。事前に購入してください。
(21)参考文献	日本化学会編『化学ってそういうこと! 夢が広がる化学の世界』(化学同人)を副読本として薦めます。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の講義のはじめに前回の講義内容の小テストを行います。その小テストの総合的な結果(60%)および、授業への参加度(40%)を考慮して評価とします。小テストを受験しなければ成績評価の対象とは見なしません。必ず、小テストを受験して下さい。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	初回を除き、毎回の講義の最初の10分は、小テストを行います。その後、プロジェクターを利用して各回のテーマに関する講義を行います。

(25)留意点・予備知識	<p>・高校での化学の履修は必ずしも必要ではありません。受験化学で大きな比重であった数式計算は出きるだけ避け、現象理解を優先します。化学嫌いの人には化学は楽しい分野である事を、化学系の人には受験化学に無かった化学の実際を感じていただきたいと願っています。</p>
(26)オフィスアワー	月曜日 17:30~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	e-mail : <a href="mailto:sagisaka@hirosaki-u.ac.jp">sagisaka@hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス : <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~lclab/index.html">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~lclab/index.html</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	229
(2)区分番号	229
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－化学入門A－ (The World of Chemistry－Introduction to Chemistry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	長南 幸安 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○高校で習う主な項目、原子の構造、元素の周期律、化学結合、物質の性質、化学反応などについて学びます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物質の構造-原子の構造 (第1回)</li> <li>2. 物質の構造-化学結合 (第2回)</li> <li>3. 物質の状態-気体・液体 (第3回)</li> <li>4. 物質の状態-固体 (第4回)</li> <li>5. 物質の反応-化学反応 (第5回)</li> <li>6. 物質の反応-酸と塩基 (第6回)</li> <li>7. 物質の反応-酸化と還元 (第7回)</li> <li>8. 中間試験・45分 (1回～7回まで) +まとめ・45分 (第8回)</li> <li>9. 無機物質-非金属元素 (第9回)</li> <li>10. 無機物質-金属 (第10回)</li> <li>11. 有機化合物一般-有機化合物の基礎 (第11回)</li> <li>12. 有機化合物一般-有機化合物の種類 (第12回)</li> <li>13. 有機化合物一般-芳香族化合物 (第13回)</li> <li>14. 合成高分子 (第14回)</li> <li>15. 生体を構成する有機化合物 (第15回)</li> <li>16. 期末試験・45分 (9回～15回まで) +まとめ・45分 (第16回)</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習としては、次回の講義テーマのテキスト内容を読み、ある程度自分なりに理解しておくこと。(90分) 復習としては、講義で学んだテーマについて教科書掲載の例題・演習問題を解き、理解の確認を行うこと。(90分)
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	無機・錯体化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	有機化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	川村康文・芝原寛泰・佐竹彰治監修『ドリルと演習シリーズ 基礎化学』(電気書院)
(21)参考文献	ト部 吉庸 『化学の新研究』(三省堂) 高校の化学の教科書
(22)成績評価方法及び採点基準	中間評価(中間試験): 50% 期末評価(期末試験): 50% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行われます。
(25)留意点・予備知識	授業は大学レベルの内容まで含まれます。
(26)オフィスアワー	月～金曜日 8:00～8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	cho@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html">http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	230
(2)区分番号	230
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－生活の化学B－ (The World of Chemistry－Science in Everyday Life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○長南 幸安 (教育学部)、橋本 勝 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○私たちの生活に関わるすべてが化学物質であることを理解する。 ○化学反応が、「さびる」と言った現象を引き起こしたり、「エンジン」を動かすと言った技術につながっていることを理解する。 ○化学の発展が私たちの生活に恩恵を与えたと同時に、公害など問題をもたらしてきたことを知る。 ○さまざまな現象を化学の目でとらえ、それに魅了された偉大な先人たちが現在の化学を発展させてきた歴史を知る。
(16)授業の内容予定	以下にテーマとして扱うテキスト内容と担当者を示します。講義の順番を示したものではありません。 テーマの順番は、出張・会議などの担当者の都合により変更になる場合があります。  1. オリエンテーション (長南) 2. 銅と文明 (橋本) 3. 鉄と生活 (橋本) 4. 香りの分子 (橋本) 5. 農薬とフェロモン (橋本) 6. 薬と作用 (橋本) 7. ビタミンと病気 (橋本) 8. ホルモンと生体情報 (橋本) 9. 電気と化学 (長南) 10. 触媒と反応 (長南) 11. 地球環境と化学・水と生命 (長南) 12. エネルギーと化学・燃焼と火災 (長南) 13. セッケンと洗剤 (長南) 14. 味と自然界の右左・栄養とアミノ酸 (長南) 15. ゴムとナイロン・プラスチックと生活 (長南)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	大学での学習には予復習が必須です。講義はそれを補うものと考えてください。そのためにも、教科書を必ず入手し、予習として教科書を事前に読んでおくこと。(120分)

	また復習として講義の後には、章末問題を解いておくこと。(120分)
(18)学問分野1(主学問分野)	機能物性化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	無機材料化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体分子化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	芝哲夫著『化学物語25講 ― 生きるために大切な化学の知識』(化学同人)を中心に講義を進めます。
(21)参考文献	日本化学会編『化学ってそういうこと! 夢が広がる化学の世界』(化学同人)を副読本として薦めます。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の講義のはじめに前回の講義内容の小テスト(10点満点)を行います。(但し、15回目のみ講義の終わりに当日の講義内容の小テストも行います。)</li> <li>・小テストは14回行い、140満点を100点満点に換算して評価します。</li> <li>・欠席するとその回の小テストが0点となるので注意してください。</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバス形式
(25)留意点・予備知識	予備知識 高校での化学の履修は必ずしも必要ではありません。受験化学で大きな比重であった数式計算は出きるだけ避け、現象理解を優先します。化学嫌いの人には化学は楽しい分野である事を、化学系の人には受験化学に無かった化学の実際を感じていただきたいと願っています。
(26)オフィスアワー	長南：月～金 8:00～8:30 橋本：月曜日 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	連絡先(長南) <a href="mailto:cho@hirosaki-u.ac.jp">cho@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実務(財団法人の研究者)経験のある教員が担当する。

## 教養教育科目

(1)整理番号	231
(2)区分番号	231
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－医療系の基礎化学－ (The World of Chemistry－Co-Medical Chemistry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	七島 直樹(保健学研究科)、中野 学(保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	高校化学の内容を加えながら大学化学の基礎レベルまで解説します。日常に存在する物質や現象を理解するための基礎理論を中心に学びますが、医療技術者が行う生体試料の化学的分析など検査の基盤となる基礎化学および生化学についても学びます。 ※履修者は、医学部保健学科の検査技術科学専攻と放射線技術科学専攻の学生を優先します。
(16)授業の内容予定	中野担当 第1回：原子の構造と放射能 第2回：原子の電子構造 第3回：周期表と元素 第4回：化学結合と分子 第5回：物質の量と状態 第6回：溶液の化学 第7回：酸・塩基と酸化・還元 第8回：授業の振り返りと中間試験  七島担当 第9回：有機化合物の構造、異性体と立体化学、有機化学反応、高分子化合物 第10回：糖質の化学構造と性質 第11回：脂質の化学構造と性質 第12回：アミノ酸とタンパク質 第13回：核酸(核酸の化学構造と性質) 第14回：核酸(遺伝子工学) 第15回：授業全体の振り返りと期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に教科書を読んでおくこと、演習問題は特に復習する事。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体分子化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	有機化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	齋藤勝裕 他 「コ・メディカル化学－医療・看護系のための基礎化学－」(裳華房)
(21)参考文献	図書館に参考図書が多数あります。



(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：授業への参加度 20% 期末評価：中間試験 40%、期末試験 40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 なお、出席が3分の2に満たない場合は、自動的に不合格になります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書とスライドを用いた講義形式になりますが、授業の終盤には演習問題を解いて応用力を身に着けます。
(25)留意点・予備知識	講義・演習問題が理解できない場合はそのままにせず、遠慮しないで質問してください。
(26)オフィスアワー	随時対応しますが事前にE-mailによる予約をお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	中野： <a href="mailto:mnakano@hirosaki-u.ac.jp">mnakano@hirosaki-u.ac.jp</a> 七島： <a href="mailto:nnaoki@hirosaki-u.ac.jp">nnaoki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	232
(2)区分番号	232
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－米国式基礎化学－ (The World of Chemistry－American Basic Chemistry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	太田 俊 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○我々の日常生活、さらには生命活動と密接に関連することから化学は、教養として身につけておくべき重要な科目です。</p> <p>○本科目では、その基礎となる高校レベルの化学を学び直します。</p> <p>○高校から一步進んだ授業を展開するため、米国の高校で採用されている教科書を用いて授業を行います。</p> <p>○この授業を実践することにより、化学に関する基礎的な学力を身につけ、さらには英語力を向上させることができると期待できます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>教科書に沿いながら以下の内容を学びます (チャプター番号は教科書に準拠)。 履修学生の所属分布や授業理解度等を考慮して、内容や進度を調整することがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス (授業の目的、進め方、教科書購入方法の説明), 教養としての化学 第2回 Chapter 1: Matter and change 第3回 Chapter 3: Atoms: The building blocks of matter (The structure of atoms) 第4回 Chapter 3: Atoms: The building blocks of matter (Counting atoms) 第5回 Chapter 3: Atoms: The building blocks of matter (Exercise for counting atoms) 第6回 Chapter 6: Chemical Bonding (Covalent bonding) 第7回 Chapter 6: Chemical Bonding (Ionic bonding) 第8回 Chapter 6: Chemical Bonding (Exercise for chemical bonding) 第9回 中間試験, Chapter 7: Chemical formulas and chemical compounds (Ionic Compounds) 第10回 Chapter 7: Chemical formulas and chemical compounds (Molecular Compounds)</p>

	and Oxidation Number) 第11回 Chapter 7: Chemical formulas and chemical compounds (Quantitative Analysis) 第12回 Chapter 8: Chemical equations and reactions 第13回 Chapter 9: Stoichiometry 第14回 Exercise for chapters 7-9 第15回 全体のまとめと期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：次回の授業範囲を確認し、英語で書かれた専門用語の意味程度は調べておいてほしい(1.5時間程度)。 復習：宿題として課された問題(主に章末問題)には確実に取り組み、それ以外の章末問題にも自ら取り組むこと(2.5時間程度)。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	著者名 Mickey Sarquis and Jerry L. Sarquis 書籍名 Holt McDougal Modern Chemistry 出版社名 Houghton Mifflin Harcourt Publishing Company Web配信のデジタル版(1年ライセンス)を購入してください。 初回の授業においてアカウント取得方法を説明します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	中間試験:50%, 期末試験:50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書の内容について日本語で解説します。
(25)留意点・予備知識	英語の教科書を使用しますが、ほとんどが高校化学の授業で取り扱う内容です。
(26)オフィスアワー	火曜日 16:00~17:30 (理工学部2号館510号室)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： <a href="mailto:shunohta@hirosaki-u.ac.jp">shunohta@hirosaki-u.ac.jp</a> HPアドレス： <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~shunohta/">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~shunohta/</a> (検索エンジンを用いて「太田 錯体」で検索した方が早くみつかります)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	233
(2)区分番号	233
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－化学の基礎入門－ (The World of Chemistry－Introduction and Fundamentals of Chemistry－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	北川 文彦 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○原子の構造、元素の周期律、化学結合、物質の性質、化学反応などの大学化学の基礎を学ぶ ○大学化学の基礎を踏まえて、自然科学を理解し、専門知識をより高める
(16)授業の内容予定	1: 化学の必要性 2: 原子・元素・単体 3: 原子軌道 (1) 量子数 4: 原子軌道 (2) フント則 5: 元素の周期律 (1) 元素の性質 6: 元素の周期律 (2) 無機化合物 7: 化学結合 (1) 結合の基礎 8: 化学結合 (2) シグマ・パイ結合 9: 化学式 10: 化学反応 (1) 化学平衡 11: 化学反応 (2) 反応速度 12: 酸・塩基 13: 酸化・還元 14: 物質の三態 15: 溶液の物性
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業を受ける前に教科書を熟読しておくことが肝要です。また、授業の最後に小テストを行いますので、それを基に毎回復習をしておくことが理解を深めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	無機・錯体化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	分析化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	杉森 彰・富田 功「Catch Up大学の化学講義」(掌華房)を用います。また、講義の最後で行う小テストでは、電卓(できれば関数電卓)が必要です。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度、小テスト等): 20% 中間評価(中間試験、レポート等): 30%

	<p>期末評価（期末試験）：50%  上記を合算し、総合的に成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式によって進めます。授業の最後にその日の講義内容についての問題を解いてもらい、提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	高校で全く化学を学習したことのない人には履修を勧められません。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー：毎週火曜日16：30～18：00 （理工2号館502号室）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： <a href="mailto:kitagawa@hirosaki-u.ac.jp">kitagawa@hirosaki-u.ac.jp</a> HP： <a href="http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kitagawa/">http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~kitagawa/</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	234
(2)区分番号	234
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界－食と生活の酵素化学－ (The World of Chemistry－Enzymes around your life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	吉田 孝 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○授業では始めに、生体触媒と呼ばれる「酵素」について概説をします。</p> <p>○酵素の源となる生物、微生物を用いた伝統的な発酵食品について広く学びます。</p> <p>○発酵は科学のみならず文化とも深い関係があります。世界最古の発酵食品の1つ、アルコールを軸にして東洋・西洋の違いを対比します。</p> <p>○現代の生活に溶け込んだ酵素利用技術について、幾つか概説します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>微生物や酵素、それらを組み合わせた食品製造技術などについて説明します。</p> <p>1回目：ガイダンス</p> <p>2回目：酵素について</p> <p>3回目：チーズを食べると牛がいなくなる？</p> <p>4回目：豆を酵素で分解すると</p> <p>5回目：カビが生えた魚、腐った魚・・・</p> <p>7回目：前半部分のまとめと中間試験（30分程度）</p> <p>8回目：炭水化物は人類を滅ぼすか？</p> <p>9回目：アルコール発酵：共通点と多様性</p> <p>10回目：さまざまなアルコール発酵(1)</p> <p>11回目：さまざまなアルコール発酵(2)</p> <p>12回目：発酵雑学</p> <p>13回目：現代の酵素テクノロジー（1）</p> <p>14回目：現代の酵素テクノロジー（2）</p> <p>15回目：後半のまとめと後半試験（30分程度）</p> <p>* 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] タンパク質やアミノ酸の構造、炭水化物の種類、微生物に関する初歩的な知識は理解を助けます。</p> <p>[復習] 授業後は、プリントを再読しながらノートを清書し、当日の説明のポイントや学習内容についての理解を深めること。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体分子化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配付します。
(21)参考文献	参考図書として、 「酵素」一島英治著、ISBN 978-4486015345 「麹」一島英治著、ISBN 978-4588213816 専門書としては「応用微生物学」村尾・荒井、ISBN 978-4563077075など
(22)成績評価方法及び採点基準	前半、後半それぞれまとめのテストを行い、その平均した評点(70%)と、平常評価(授業への参加度30%)を総合して評価とします。二回のテストを受けなければ成績評価の対象としない。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業は板書を中心に各トピックについて口頭で説明しながら進めます。必要に応じてプリントを配布します。
(25)留意点・予備知識	○構造式や化学反応式なども出てきます。化学の素養があると理解しやすい箇所があります。 ○自分の手で字を書く、メモをとる行為から知的・積極的な姿勢が養われます。ノートをきちんと書く技術が求められます。
(26)オフィスアワー	金曜の11時から17時ころまでに来てください。研究室はコラボ弘大603号室です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ytakashi@hirosaki-u.ac.jp">ytakashi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	235
(2)区分番号	235
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名[英文名]	化学の世界－カリカリベーコンはどうして美味しいにおいなの？－ (The World of Chemistry－Chemistry in the kitchen－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	橋本 勝 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようにすること
(15)授業の概要	○ 台所にある食品を化学の視点で学ぶ。 ○ 食品にはさまざまな機能を持つ化学物質が含まれていることを知る。 ○ 食品の色や香りなどのサイエンスに触れる。 ○ 食品への人工的な添加物の意味や安全性を学ぶ。 ○ 好奇心こそが科学の源であることを知る。
(16)授業の内容予定	以下のスケジュールで授業を計画していますが、進捗により前後する場合があります。 第1回：この講義の進め方、受講に対する留意点 第2回： ニンジンを食べると、暗間でも目が見えるの？ ビートを食べると、どうしておしっこが赤くなるの？ ジャガイモはどうしてだんだん緑色になるの？ アボカドはどうしてすぐに茶色くなるの？ 第3回： 着色料の色はどうして違うの？ サーモンやエビはどうしてピンク色なの？ トニックウォーターは紫外線を当てると光るの？ 第4回 生のインゲンマメにはどうして毒があるの？ 毒キノコにはどうして毒があるの？ リンゴの種は、本当にシアン化物を含むの？ 第5回 貝の中毒の原因は？ フグを食べると、どうして危険なの？ 第6回 チョコレートをどうしてイヌにあげちゃダメなの？ お酒をちゃんぽんすると、二日酔いになるの？ どうして芽キャベツを嫌う人がいるの？ アーティチョークは飲み物を甘くするの？ 第7回 ミラクルフルーツは酸っぱい食べ物を甘くするの？ 歯磨き後のオレンジジュースは、どうして苦いの？ 肉をスモークすると、風味がよくなるの？ 第8回 腐った牛乳はどうして酸っぱいの？ パクチーはセッケンの味がするの？ ディールとスペアミントは何が共通なの？ コーヒーはどうして苦いの？ ビールにはどうして独特の苦味と風味があるの？ 第9回 ニンニクを食べると、どうして息が臭くなるの？ アスパラガスを食べると、どうしておしっこがにおうの？ ドリアンはどうしてこんなに強烈なおいなの？ 第10回 カリカリベーコンはどうして美味しいにおいなの？ 魚はどうして魚臭いの？ ブルーチーズはどうしてひどいにおいなの？



	<p>豆を食べると、オナラがでるの？  タマネギを切ると、どうして涙が出るの？  第11回  どんな成分が唐辛子を辛くするの？  ミントはどうして口のなかでスーッとするの？  パチパチキャンディーはどうしてはじけるの？  わさびの辛さのとは？  七面鳥を食べると眠くなるの？  第12回  チーズを食べると本当に悪夢を見るの？  ナツメグは幻覚剤になるの？  紅茶とコーヒーの興奮作用ってどう違うの？  アフサンを飲むと幻覚を見るの？  第13回  エナジードリンクって、本当に効くの？  薬とグレープフルーツは一緒に食べちゃダメなの？  どうしてレモンが壊血病を防ぐの？どうしてナッツでアレルギーになるの？  ダニにかまれると、肉アレルギーになるの？  どうして丁子油が防腐剤になるの？  グルタミン酸ナトリウムで本当に具合が悪くなるの？  第14回  どうして甘味料が砂糖の代わりになるの？  亜硫酸塩はどうしてお酒に入っているの？  バナナと一緒に置いた果物はどうして早く熟すの？  ゼリーに果物を入れると、どうして固まらないの？  クリームを泡立たせると、どうしてふんわりするの？  第15回  チョコレートは冷蔵庫に入れておくべきなの？  ビール瓶はどうして褐色のガラスなの？  ジャムはどうして固まるの？  赤ワインはどうして苦くて辛口なの？  シャンパンの泡で風味が増すって本当？</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回講義分について教科書を読んでから臨んでください。  興味を持ったことについて、自分でさらに掘り深めることを勧めます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	<p><b>有機化学関連</b></p>
(18)学問分野2(副学問分野)	<p><b>生体分子化学関連</b></p>
(18)学問分野3(副学問分野)	<p><b>農芸化学関連</b></p>
(19)実務経験のある教員による授業科目について	<p><b>実務教員</b></p>
(20)教材・教科書	<p>Andy Brunning 著、高橋秀依、夏苺英昭 訳  カリカリベーコンはどうして美味しいにおいなの？ 食べ物・飲み物にまつわるカガクのギモン  化学同人、  2016年12月15日出版</p>
(21)参考文献	<p>特に指定はしませんが関連書籍は数多く出版されています。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 (ミニテスト) : 50%  期末評価 (期末レポート) : 50%</p>
(23)授業形式	<p>講義</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>パワーポイントを使って講義を勧めます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>とくに、化学の知識は必要としません。  食品の科学をとおして有機化学に触れていただけたらと思います。</p>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日12:00-14:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>e-mail: <a href="mailto:hmasaru@cc.hirosaki-u.ac.jp">hmasaru@cc.hirosaki-u.ac.jp</a>  home page URL:  <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/yuki/">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/biochem/yuki/</a></p>
(28)その他	<p>教科書の訳者の1人をゲストスピーカーとしてお招きする予定です。  担当教員は実務(財団法人の研究者)の経験を有しています。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	236
(2)区分番号	236
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－生物学を基盤とする技術革新－ － (The World of Biology－Technological innovation based on biology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○伊藤 巧一（保健学研究科）、細川 洋一郎（保健学研究科）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○生体（人間）の基本的な構造と機能と生理、そしてそれら構造に発生する疾患と最近の知見について学ぶ。 ○現在の生物学を基盤とする様々な産業や医学への貢献について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回：細胞生物学概説、細胞の構造（担当：細川洋一郎） 第2回：細胞膜の構造と働き、最近の知見（担当：細川洋一郎） 第3回：ミトコンドリアの働きと疾患、最近の知見（担当：細川洋一郎） 第4回：染色体と遺伝子とその異常（担当：細川洋一郎） 第5回：医療における生物学研究の役割（担当：細川洋一郎） 第6回：組織学総論、上皮組織と支持組織の構造と疾患（担当：細川洋一郎） 第7回：神経組織と筋組織の構造、生理と疾患（担当：細川洋一郎） 第8回：試験（担当：細川洋一郎） 第9回：感染症に挑む（1）（担当：伊藤巧一） 第10回：感染症に挑む（2）（担当：伊藤巧一） 第11回：がんを挑む（担当：伊藤巧一） 第12回：健康と腸内環境（1）（担当：伊藤巧一） 第13回：健康と腸内環境（2）（担当：伊藤巧一） 第14回：再生医療（1）生殖細胞を基盤とした再生医療（担当：伊藤巧一） 第15回：再生医療（2）新たな万能細胞を基盤とした再生医療と今後（担当：伊藤巧一） 第16回：復習および試験（担当：伊藤巧一）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内容はすべて関連性があるので、復習を重視すること。また疑問な点は、まず自分自身で調べて解決するよう心掛けること。

(18)学問分野1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定する教科書はない。 担当教員によって授業毎に資料を配布する。
(21)参考文献	必要に応じて参考となる文献等があれば紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は各担当者毎に行う。評価は「授業への参加度30%」と「期末筆記試験およびレポート70%」を合わせて100点満点で評価し、2名の教員の平均点を算出する。算出した平均得点が60点以上を合格とする。60点未満の場合は不合格となる。尚、合格には3分の2以上の出席が必要であるため、5回欠席した場合は上記評価の結果にかかわらず不合格とする。不合格の場合は再履修となる。再試験の予定はない。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式を基本とする。
(25)留意点・予備知識	特別な予備知識は必要ありませんが、授業で興味があることにめぐり合えたら積極的にサーチしてください。
(26)オフィスアワー	特に指定の時間帯はありませんが、メールで連絡を取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス 細川： <a href="mailto:hosokawa@hirosaki-u.ac.jp">hosokawa@hirosaki-u.ac.jp</a> 伊藤： <a href="mailto:kohito@hirosaki-u.ac.jp">kohito@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	237
(2)区分番号	237
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－生物多様性とその保全－ (The World of Biology－Biodiversity and its conservation－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○石川 幸男(農学生命科学部)、中村 剛之(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○さまざまなレベルにおける生物多様性、種 の概念、種間関係、さらには自然環境の中 での種のありようについて、分類学と生態学 の両面から学ぶ。 ○具体例をもとに生物多様性の保全のため に行われているさまざまな施策について紹介 する。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 生物多様性の考え方(石川/中村) 第2回 植物個体群の実例と個体間の相互作用(石川) 第3回 種間の相互作用(石川) 第4回 個体群の進化的重要性(石川) 第5回 植物群落、生態系の分布様式(石川) 第6回 植物群落の遷移(石川) 第7回 植物群落に地史的変遷(石川) 第8回 景観の定義と特徴(石川) 第9回 動物の多様性(中村) 第10回 種内の多様性(中村) 第11回 種多様性と分類学(中村) 第12回 標本資料の収集と博物館の役割(中村) 第13回 生物多様性の危機、ニホンジカの問題を例に(中村) 第14回 自然の現状と生物の絶滅(中村) 第15回 生物多様性保全の施策(中村) 第16回 期末試験(石川/中村) さまざまな都合により授業の順番などが変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布される資料をもとに、復習を行うこと。専門用語の意味などを理解すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	教科書は使用しません。適宜、プリント資料が配布されます。
(21)参考文献	参考になる図書等はその都度紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（講義の際に質問や意見などを記述するミニレポートを実施する） 30% 期末評価（筆記試験）：70% 上記の評価を合算して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で、プロジェクタを用いて行います。
(25)留意点・予備知識	高等学校「生物」の知識を前提にして開講します。
(26)オフィスアワー	金曜日 12:30~13:30 研究室はコラボ弘大5階、白神自然環境研究センター分室内にあります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	石川幸男 <a href="mailto:yishi@hirosaki-u.ac.jp">yishi@hirosaki-u.ac.jp</a> 中村剛之 <a href="mailto:dhalma@hirosaki-u.ac.jp">dhalma@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特に無い

## 教養教育科目

(1)整理番号	238
(2)区分番号	238
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－生物と地球の進化－ (The World of Biology－evolution of life and Earth－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	根本 直樹 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○過去に地球上に生息していた代表的生物の特徴を学修する ○地質時代の生物相を出現させた地球環境の変化を学修する
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 生命の誕生 第3回 光合成の開始 第4回 真核生物・多細胞生物の出現 第5回 カンブリア紀の生物爆発 第6回 古生代の海生動物 第7回 生物の陸上進出 第8回 植物の進化と石炭の形成 第9回 四肢動物の進化 第10回 大量絶滅 第11回 恐竜の出現と進化 第12回 顕花植物と昆虫の共進化 第13回 中生代の海生生物 第14回 哺乳類の発展 第15回 人類の進化, 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 講義で紹介された参考文献の中から、興味があるものには目を通しておくこと [復習] ノートをしっかり作り、復習すること
(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	教科書は使用されない
(21)参考文献	講義中にプリントにより紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (小テスト) 65% 期末評価 (期末試験) 35%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書による講義形式で行い、次にパワーポイントでまとめを行なった後、小テストを行う

(25)留意点・予備知識	生物学だけでなく地学にも興味を持つ受講生を歓迎する。予備知識は特に必要としない。
(26)オフィスアワー	火曜日16:00~17:30, 理工学部1号館129号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nemoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	239
(2)区分番号	239
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－遺伝子，ゲノム，DNA－（The World of Biology－Genes, Genomes and DNA－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	牛田 千里（農学生命科学部）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて，生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	以下について概説する。 ・遺伝子が私たちの体を規定する仕組み ・遺伝子がそれらが親から子へと伝えられる仕組み ・遺伝子の実体であるDNAと遺伝情報の総体であるゲノム ・ゲノムプロジェクト ・ヒトゲノム ・ゲノムプロジェクトの成果と応用__遺伝子検査、遺伝子治療等
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 遺伝とは 3. 私たちの体と細胞 4. 細胞を構成する分子 5. 遺伝子とDNA 6. DNAの構造 7. 遺伝子発現（1） 8. 遺伝子発現（2） 9. 遺伝子発現（3） 10. ゲノム（1） 11. ゲノム（2） 12. ゲノム（3） 13. ゲノムと遺伝子検査 14. 遺伝はゲノム情報だけで決まるのか？ 15. まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義で配布されたプリント等について見直し、理解できたか把握する。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	・カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学、デイヴィッド・サダヴァ（著）、クレイグ・H・ヘラー（著）、ゴードン・H・オーリアンズ（著）、他、ブルーバックス



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトゲノムマップ、加納圭 著、京都大学学術出版会</li> <li>・見てわかるDNAのしくみ、工藤光子／中村桂子 著、ブルーバックス</li> <li>・生命科学II 遺伝子の働きとその応用 第2版、渡辺公綱・姫野俵太 著、丸善出版</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト_10% 期末テスト_50% 授業への参加態度_40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントや板書を使用した講義により授業を行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20-11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:cushida@hirosaki-u.ac.jp">cushida@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	240
(2)区分番号	240
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－細胞の基礎生物学－ (The World of Biology－Basic biology of cells－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	三浦 富智(保健学研究科)、葛西 宏介(保健学研究科)、吉田 光明(被ばく医療総合研究所)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	・生命現象の基礎を理解することを目的とします。 ・前半は基本的な細胞の構造・働き・増殖、および細胞の増殖に伴うDNAの複製様式や遺伝子発現を学習します。 ・後半は、細胞学的・遺伝学的内容をふまえ、突然変異、遺伝性疾患、発癌の機構、生体防御機能などを学習します。
(16)授業の内容予定	第1回 イントロダクション/正常を理解して異常を知ろう 第2回 生命の構造単位である細胞のつくり(細胞の構造と細胞内小器官) 第3回 生命の構造単位である細胞のつくり(細胞骨格と核内構造) 第4回 細胞の増える仕組みと役割(体細胞分裂) 第5回 細胞の増える仕組みと役割(減数分裂) 第6回 細胞周期と染色体 第7回 DNAと遺伝子の役割(遺伝情報とDNA) 第8回 DNAと遺伝子の役割(遺伝子発現とタンパク質の生成) 第9回 DNAと遺伝子の役割() 第10回 DNAと遺伝子の役割(DNA複製) 第11回 染色体異常と突然変異 第12回 ヒトの遺伝性疾患 第13回 発ガンと癌遺伝子および癌抑制遺伝子 第14回 体をまもる仕組み 第15回 体をまもる仕組み・まとめ 期末試験  第1～6回、14,15回 三浦担当 第7～10回 葛西担当 第11～14回 吉田担当
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	講義時に次回のプリントを配布しますので、予習してきてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に使用しません。講義用プリントを配布します。
(21)参考文献	参考書：細胞の分子生物学 第5版（中村桂子、藤山秋佐夫、松原健一 監訳）教育社 分子細胞生物学(Gerald Karp 著、山本正幸、渡辺雄一郎 監訳)東京科学同人 Essential 細胞生物学(中村桂子、藤山秋佐夫、松原健一 監訳)南江堂 岩波講座—分子生物科学 4 細胞の増え方(岡田善雄 編)岩波書店 (上記図書は医学部分館にて閲覧・借用可)
(22)成績評価方法及び採点基準	出席が3分の2に満たない場合は自動的に不合格となります。 授業への参加度(10%) 平常評価：小テスト(10%) 期末評価：筆記試験を行い、評価します。(80%) 上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	3名のオムニバス方式で授業します。 基本的には、プリントと、その内容を解説・補充するスライドを用います。 また、一部の内容については、理解を深めるために、動画を利用します。
(25)留意点・予備知識	医学部保健学科放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻の1年後期で開講される医用生物学実験履修予定者は、本科目を受講してください。講義内容では、医療に関するトピックスを取り扱う機会が多くなります。
(26)オフィスアワー	月曜日 16:00~17:00 金曜日 17:00~19:00 その他、メールで相談していただければ、対応いたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三浦富智： <a href="mailto:tomisato@hirosaki-u.ac.jp">tomisato@hirosaki-u.ac.jp</a> 葛西宏介： <a href="mailto:kokasai@hirosaki-u.ac.jp">kokasai@hirosaki-u.ac.jp</a> 吉田光明： <a href="mailto:myoshida@hirosaki-u.ac.jp">myoshida@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

教養教育科目

(1)整理番号	241
(2)区分番号	241
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－作物からみた生物文化多様性－ (The World of Biology－Bio-cultural diversity involving to crop plants－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	石川 隆二(農学生命科学部)、田中 克典(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○作物の起源を明らかにし、それらの伝播がどのようにおこなわれたかについて講義する。 ○具体的には、農耕に至るまでの野生植物の利用、作物の栽培化、栽培化による植物の変化、作物の多様化、人類史に寄与した植物遺伝資源について話題を提供する。 ○栽培化の過程においては、遺伝的改良が行われるが、ヒトとの交互作用により栽培化が成し遂げられているため、その遺伝子機能や選抜過程について講義する。 ○野生種や近縁種、在来種は遺伝資源として、栽培種の改良に役立つため、これらの定義や実際の現場について紹介する。 ○それぞれの作物の遺伝変異や利用の仕方については例を挙げながら講義する。
(16)授業の内容予定	第1回 農耕の起源 第2回 作物と農耕文明 第3回 栽培種の伝播 第4回 野生種と栽培種との違い 第5回 植物の栽培化 第6回 人為選抜とその影響 第7回 植物遺伝資源 第8回 遺伝資源－カンキツ 第9回 遺伝資源－イネ 東南アジア 第10回 遺伝資源－イネ 南アジア 第11回 遺伝資源－イネ オセアニア 第12回 日本の遺伝資源－香り米 1) 言語と遺伝子 2) 水俣にみる香り米の利用 第13回 日本の遺伝資源－災害に耐えるイネ 第14回 日本の遺伝資源－過去の遺伝資源 第15回 日本の遺伝資源－現在の遺伝資源－鉄砲水に耐えるイネ、洪水に耐えるイネ、暑さに耐えるイネ 第16回 期末試験  ※ 前半の第1回から第7回の担当者は田中克典。 後半の第8回から第16回の担当者は石川隆二。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	提示されるパワーポイントなどに関する情報を復習すること
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特にないが、中尾佐助(1966)『栽培植物と農耕の起源』(岩波新書)や星川清親(1987)『改訂増補版 栽培植物の起源と伝播』(二宮書店)など、作物の起源や伝播について書かれた書籍を購読しておくことが望ましい。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点(評価全体の10%) 発表または期末テスト(評価全体の45%):人数により発表形式でまとめたものをプレゼンテーションするか、レポートにする。 レポート(評価全体の45%):各講義後に課す題へのレポート。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半では主に板書と配布する資料を用いて進める。 後半ではスライドにより説明、板書、配布する資料を用いて進める。

(25)留意点・予備知識	講義後の復習や講義内にて疑問に思ったことは適宜調べること。
(26)オフィスアワー	各担当のオフィスアワーは以下の通り。 田中克典 月曜16-17時 農学生命科学部246号室 石川隆二 月曜16-17時 農学生命科学部241号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス・HPアドレス 田中克典 <a href="mailto:k-tana3@hirosaki-u.ac.jp">k-tana3@hirosaki-u.ac.jp</a> 石川隆二 <a href="mailto:ishikawa@hirosaki-u.ac.jp">ishikawa@hirosaki-u.ac.jp</a> , <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/1/plantbrd/genetics.html">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/1/plantbrd/genetics.html</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	242
(2)区分番号	242
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－生命の起源と進化－ (The World of Biology－Origin and evolution of life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○姫野 俵太(農学生命科学部)、伊東 健(医学研究科)、松宮 朋穂(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	昨今の科学技術の進歩により、生命が如何に緻密にできており素晴らしいものであるかの理解が進むにつれ、その起源についての謎は深まるばかりである。この講義では、原始宇宙(地球)において生命が生じた奇跡、そしてそれが現存する生物にまでに進化してきた軌跡を考察し、それを通して生化学、分子生物学、細胞生物学を学ぶ。
(16)授業の内容予定	<p>生命の起源と遺伝システムの進化(姫野5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論(宇宙の起源、元素の起源、太陽系の起源、そして生命の起源)</li> <li>2. 生命の基本原則(遺伝、代謝、細胞)</li> <li>3. ゲノムの起源と進化(RNAからDNAへ、突然変異、複製と修復)</li> <li>4. 化学進化から生物進化へ</li> <li>5. タンパク質合成系(遺伝暗号)の起源と進化</li> </ol> <p>エネルギーと進化(伊東5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞におけるエネルギー産生の現在と進化におけるエネルギー的考察</li> <li>2. 生物進化と酸素</li> <li>3. 原核細胞、真核細胞および多細胞生物の進化</li> <li>4. 性と死の進化</li> <li>5. ヒト進化論的考察を踏まえての加齢性疾患防御への展望</li> </ol> <p>膜と細胞の進化(松宮5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共生とは</li> <li>2. ミトコンドリアの起源と進化</li> <li>3. 生体膜の起源と進化</li> <li>4. ウイルスの進化を考える</li> <li>5. 共生がもたらす病気</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当教員から指示があります
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	生体分子化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	「生命、エネルギー、進化」ニック・レーン、みすず書房 「生命の跳躍 進化の10大発明」ニック・レーン、みすず書房 「アストロバイオロジーとはなにか」瀧澤美奈子著、サイエンス・アイ新書
(22)成績評価方法及び採点基準	試験60%、平常点40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	高校レベルの生物学と化学を理解しておくこと
(26)オフィスアワー	月曜16:00-17:00 (姫野)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	himeno@hirosaki-u.ac.jp・ <a href="http://hirosaki-rna.org/himeno/">http://hirosaki-rna.org/himeno/</a> (姫野)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	243
(2)区分番号	243
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－生物の進化と環境適応－ (The World of Biology－Evolution and environmental adaptation of organisms－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○川崎 通夫(農学生命科学部)、葛西 身延(農学生命科学部)、佐野 輝男(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○植物の進化・環境適応について体の構造と機能の面から解説する。 ○生物のエネルギー獲得様式の適応進化と体内資源の分配制御もついて解説する。 ○微生物の進化と適応について解説する。
(16)授業の内容予定	川崎通夫(農学生命科学部) 1. 植物とは何か、植物進化の概要 2. 植物形態の基本、および、根における構造と機能の多様性 3. 植物形態の基本、および、根における構造と機能の多様性 4. 植物形態の基本、および、葉における構造と機能の多様性 5. 植物の環境応答・防御応答  葛西身延(農学生命科学部) 6. 生物のエネルギー代謝の概要と分類 7. 生物のエネルギー代謝の分配制御 8. 生物のエネルギー獲得方法の概要と分類 9. 生物のエネルギー獲得方法の適応・進化(1) 10. 生物のエネルギー獲得方法の適応・進化(2)  佐野輝男(農学生命科学部) 11. 微生物の環境適応(寄生、腐生、共生) 12. 微生物の適応進化(実験的進化「微生物に学ぶ生存競争」) 13. 微生物の進化(微生物の適応・進化) 14. 微生物の進化と科学技術の進歩(微生物の適応・進化と医療・農業技術) 15. まとめ(微生物の適応・進化をコントロールする)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当教員が講義の中で指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連



(18)学問分野3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	各担当教員が実施する試験・課題(100%)の結果で評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配布した講義資料や液晶プロジェクターを用いて授業内容を提示し、授業を進めます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	教員が在室している時は、いつでも来て下さい。メールにて予約して頂くと大変助かります。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	川崎: <a href="mailto:kawasaki@hirosaki-u.ac.jp">kawasaki@hirosaki-u.ac.jp</a> 葛西: <a href="mailto:minobu@hirosaki-u.ac.jp">minobu@hirosaki-u.ac.jp</a> 佐野: <a href="mailto:sano@hirosaki-u.ac.jp">sano@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	244
(2)区分番号	244
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界ーキノコ学入門ー (The World of BiologyーIntroduction of Mushroom Scienceー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	殿内 暁夫 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	キノコの分類・生態・機能・文化について講義する。
(16)授業の内容予定	キノコについての基本的な講義をした上で上記概要の項目について詳細に講義する。また、少人数の場合は実習的な講義も行う。授業は以下の予定で行うが進行程度により適宜変更する。  1: ガイダンス 2: キノコは菌類であることとその定義 3: キノコの進化と系統 4: キノコの基本構造と分類との関係 5: キノコの最新分類 6: キノコの生態・機能1 (樹木を育てる) 7: キノコの生態・機能2 (樹木を分解する) 8: キノコの生態・機能4 (樹木に寄生する) 9: キノコの生態・機能4 (動物に寄生する) 10: キノコの利用1 (人間以外の動物によるきのこ狩りとキノコ栽培) 12: キノコの利用2 (人間以外の動物の生活環境改善) 13: キノコの利用4 (人間によるきのこ狩りとキノコ栽培) 14: キノコの利用5 (人間による利用ー暗殺・濫用・医療) 15: 期末テストと振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	準備学習は特に指定しないが、専門用語が多いので復習により確実に記憶すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	森林園科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	特に指定しないが、菌類の入門書(漫画でも新書でもよい)を読んでおくことが望ましい。

(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト1回：10% 授業への参加態度：10% 期末テスト1回：80%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書、スライド、資料配布
(25)留意点・予備知識	生物学の基礎的な知識があること。また、分類学・生態学に興味があることが望ましい。
(26)オフィスアワー	適宜
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:symbio@hirosaki-u.ac.jp">symbio@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	受講人数は10～15名程度に制限する。制限を超えた場合は抽選により選抜するが農学生命科学部の学生を優先する。農学生命科学部の中では分子生命科学科と生物学科の学生を優先する。

## 教養教育科目

(1)整理番号	245
(2)区分番号	245
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－ウイルスの世界－ (The World of Biology－The world of viruses－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	森田 英嗣 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	ウイルスは、ヒトに対する病原因子としてだけでなく、生物間を移動する遺伝子の断片として、自然界に広く存在し、生物の進化に大きな影響を及ぼす存在だと考えられています。本講義では、これまでエイズウイルスやC型肝炎ウイルスなどの病原ウイルスの研究に長く携わってきた研究者が、ウイルスとは何か？から始まり、ウイルスによってもたらされる脅威だけでなく、ウイルスと自然界との関わり、ウイルスを利用した最新技術などを初心者でも理解できるようにわかりやすく解説します。
(16)授業の内容予定	第1回:ウイルスとは？ 第2回:ウイルスは変化する ～インフルエンザウイルス～ 第3回:細胞の中に残り続けるウイルス ～エイズウイルス～ 第4回:ウイルスは生物を進化させてきた 第5回:ウイルスはいろんな場所に潜んでいる ～デングウイルス～ 第6回:ウイルスの巧みな増殖戦略 ～C型肝炎ウイルス～ 第7回:ウイルス感染は細胞をがん化させる ～がんウイルス～ 第8回:多くの生き物はウイルスを排除する仕組みを持っている 第9回:脊椎動物はウイルスと共存するために高度なシステムを進化させてきた 第10回:ウイルス感染を予防する ～ワクチンの開発～ 第11回:ウイルス感染症を治す ～抗ウイルス薬の開発～ 第12回:ウイルス感染症を治す ～抗ウイルス薬の開発2～ 第13回:ウイルスを利用して人工遺伝子を細胞の中に送り込む 第14回:ウイルス感染を利用した新たな技術 第15回:ウイルス感染を利用した新たな技術2
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に配布する資料の学習
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	感染・免疫学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	毎回資料を配布します
(21)参考文献	生命科学のためのウイルス学—感染と宿主応答のしくみ、医療への応用 南江堂 ISBN-10: 4524268375
(22)成績評価方法及び採点基準	レポートによる評価
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プレゼンテーションファイルを用いて解説する
(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	9:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	moritae@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/moritalab/index.html">http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/moritalab/index.html</a>
(28)その他	特にありません

## 教養教育科目

(1)整理番号	246
(2)区分番号	246
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学の世界－環境と昆虫の表現型－ (The World of Biology－Phenotypic plasticity in insects－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	管原 亮平 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生物学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生命現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○環境が昆虫などの生物に及ぼす影響について学ぶ ○昆虫が環境に適応するために獲得した分子機構について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス, 遺伝子情報だけでは説明できない生物の世界 第2回 環境要因と正常な表現型 第3回 環境が与える分子的な変化 第4回 発生と共生 1 第5回 発生と共生 2 第6回 厳しい世界での生存 第7回 トビバッタの相変異 1 第8回 トビバッタの相変異 2 第9回 奇形の形成 第10回 内分泌攪乱要因 第11回 対立遺伝子にかかる自然選択 第12回 昆虫の生物時計, 光周性 第13回 昆虫の耐寒性 第14回 殺虫剤抵抗性 第15回 学習状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の内容をノートを基に復習すること。興味があるものは参考文献に目を通しておくことが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。
(21)参考文献	○生態進化発生学エコーエボージェノムの夜明け (スコット ギルバート/デイビッド イーペル 著 正木進三/竹田真木生/田中誠二訳 2012年 東海大学出版会) ○分子昆虫学ポストゲノムの昆虫研究 (神村学ら編 2009年 共立出版)
(22)成績評価方法及び採点基準	

	平常評価（小テスト）70% 期末評価（最終回テスト）30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行われます。主にパワーポイントで行います。
(25)留意点・予備知識	高校レベルの生物の知識があると理解しやすいと思われます。
(26)オフィスアワー	平日 11:50~12:40（事前に下記e-mailアドレスに連絡頂けると助かります）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	rsugahara [at] hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	247
(2)区分番号	247
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門A－医学・医療における情報処理入門－（Introduction to Information Processing A－Information processing in medicine－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	松谷 秀哉（医学研究科）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること ○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること
(15)授業の概要	○情報リテラシーを獲得する ○大学生活や研究・医療の分野で必要となる情報技術を修得する
(16)授業の内容予定	1. 情報リテラシー（4回） ・ Wordによる文書作成 ・ Excelの基本操作とデータ処理 2. 情報科学の基礎（3回） ・ デジタルデータ（2進数、10進数、16進数） ・ 文字情報、画像情報、音声情報 3. 画像処理の基礎（4回） ・ ImageJの基本操作と画像処理 ・ 生命科学・医療における画像計測・画像処理 4. 医療情報の検索・活用技術（4回） ・ 統計処理の基礎 ・ PubMedなどによる文献検索 ・ 遺伝子データベース検索
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習を行い、知識や技能を定着する事を想定しています。 特に初学の分野、授業で理解出来なかった内容は十分な時間を使い復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	教科書はありません。
(21)参考文献	必要に応じて、その都度、紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：30% レポート評価（3～4回を予定）：70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	パソコンを用いた演習形式

(25)留意点・予備知識	高等学校までで扱う程度の、パソコンの操作、簡単な文書作成や表計算などはマスターしていることを前提とします。
(26)オフィスアワー	随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:shu@hirosaki-u.ac.jp">shu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	248
(2)区分番号	248
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門A－社会科学系のための情報処理①－ (Introduction to Information Processing A－Information processing for social sciences－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	大橋 忠宏 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>情報の表現方法、処理方法、利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶことは、社会人として活躍するために重要です。本講義では、情報リテラシーを演習により修得するとともに、効率よく使いこなす方法を身につけます。</p> <p>(1) コンピュータのログイン・ログアウト、電子メールの設定と送受信、インターネットを活用した情報検索、文章の作成・編集、表計算と作図、ホームページ作成、数式処理などの基本操作（情報リテラシー）を習得します。</p> <p>(2) 社会科学系の専門科目において必要とされるデータの加工や活用に関する基礎について理解し、実際に利用できるようになります。</p> <p>(3) インターネット利用における情報倫理について理解します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：総合情報処理センターの利用方法ガイダンスの復習</p> <p>第3回：日本語入力・変換、メールの設定と送受信</p> <p>第4回：webブラウザを利用した情報検索</p> <p>第5回：MS-WORDによる文書作成</p> <p>第6回：MS-WORDによる文書作成と印刷、メールへのファイル添付</p> <p>第7回：MS-Excelの基本的な操作</p> <p>第8回：MS-Excelを利用したデータ処理と図の作成</p> <p>第9回：MS-Wxcelのデータベース機能を利用したデータ読み込み・並び替え・抽出</p> <p>第10回：MS-PowerPointによるスライドの作成</p> <p>第11回：画像ファイルの作成と編集</p> <p>第12回：ホームページ作成</p> <p>第13回：Maximaを利用した常微分</p> <p>第14回：Maximaを利用した偏微分と全微分</p> <p>第15回：Maximaを利用した行列の計算の基礎</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義前にレジュメを閲覧できるようにするので、コンピュータの操作に不安のある人は事前に目を通し、講義内容の復習をして下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経済学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の時に資料を提示する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	講義毎に課題を提示し、課題に関する提出物を総合的に判断して成績を評価する。なお各提出物の評価は、内容の理解度や論理的な思考力、処理方法の的確さを総合的に判断する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義及びコンピュータを利用した演習
(25)留意点・予備知識	高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などは理解していることを前提とします。
(26)オフィスアワー	木曜日10:30-11:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tada-oh(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@で置き換えて下さい。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	249
(2)区分番号	249
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門A－社会科学系のための情報処理②－ (Introduction to Information Processing A－Information processing for social sciences－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○増山 篤(人文社会科学部)、花田 真一(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること ○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること
(15)授業の概要	情報の表現方法、処理方法、利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶことは、社会人として活躍するために重要です。本講義では、情報リテラシーを演習により修得するとともに、効率よく使いこなす方法を身につけます。 (1) コンピュータのログイン・ログアウト、電子メールの設定と送受信、インターネットを活用した情報検索、文章の作成・編集、表計算と作図、ホームページ作成、数式処理などの基本操作(情報リテラシー)を習得します。 (2) 社会科学系の専門科目において必要とされるデータの加工や活用に関する基礎について理解し、実際に利用できるようになります。 (3) インターネット利用における情報倫理について理解します。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス 第2回：総合情報処理センターの利用方法ガイダンスの復習 第3回：日本語入力・変換、メールの設定と送受信 第4回：webブラウザを利用した情報検索 第5回：MS-WORDによる文書作成の基本(フォント・文字サイズ、余白等の設定) 第6回：MS-WORDによる実践的な文書作成(ヘッダー・フッターの設定、段組、表作成) 第7回：MS-WORDによる実践的な文章執筆(校閲機能) 第8回：ペイントによる画像ファイルの作成と編集 第9回：LibreOffice Drawによる作図 第10回：MS-PowerPointによるスライドの作成 第11回：Excelの基本操作(セルの書式設定、セル上での計算、関数の使い方、簡単な表の

	<p>作成)</p> <p>第12回：Excel上でのデータ処理（データの読み込み、区切り位置の指定、フィルター、条件付き書式、絶対参照と相対参照）</p> <p>第13回：Excelを用いたグラフの作成（グラフの挿入、グラフの書式の調整、複合グラフの作成）</p> <p>第14回：より高度な分析の準備（if関数の利用、vlookupによる検索、分析ツールの紹介）</p> <p>第15回：Excelを用いた実践（東北地方の人口動態データを用いた図表の作成と考察）</p> <p>※ 担当者は第1回が増山・花田、第2～10回が増山、第11～15回が花田</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習としては、講義資料に事前に目を通しておくこと。</p> <p>復習としては、担当教員から指示があった練習問題などに取り組むこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	担当教員が作成した資料を教材として用いる。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>増山担当分：2つの課題によって評価する</p> <p>花田担当分：各回の小課題（毎回提出）50%、最終回のレポート50%</p> <p>まずは、上記の通りの方法・基準にしたがって、二人の担当者がそれぞれ採点する。</p> <p>次に、二つの採点結果の、担当回数によって重み付けた加重平均を求める。</p> <p>この加重平均を最終成績とする。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義及びコンピュータを利用した演習
(25)留意点・予備知識	高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などは理解していることを前提とします。
(26)オフィスアワー	初回にアナウンスします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>増山：masuyama(at)hirosaki-u.ac.jp</p> <p>花田：shanada(at)hirosaki-u.ac.jp</p> <p>(at)を@で置き換えて下さい。</p>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	250
(2)区分番号	250
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作①-【H, S 自然エネルギー学科】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	内海 淳 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>情報化社会において必須である情報リテラシーを演習により修得するとともに、効率よく使いこなす方法を身につけます。</p> <p>(1) パソコンのログイン・ログアウトの仕方、電子メールの送信・受信、ホームページの閲覧、文章の作成・編集・印刷、画像の作成・編集、表計算とグラフ作成、ホームページの作成などの基本操作（情報リテラシー）を修得します。</p> <p>(2) インターネット利用における責任とモラル、セキュリティーを理解します。</p> <p>(3) 専門科目において必要とされる文書処理ソフトなどの使用法を理解し、実際に使用できるようになります。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>第1回 パソコンのログイン・ログアウトの仕方等のWindowsの基本的操作</p> <p>第2回 電子メールの送信・受信、ホームページの閲覧</p> <p>第3回 文字入力・出力などの文字処理の基本的知識</p> <p>第4回 ペイント系およびドロー系ソフトを用いた画像の作成・編集</p> <p>第5回 ワードプロを用いた文章の作成・編集・印刷 1</p> <p>第6回 ワードプロを用いた文章の作成・編集・印刷 2</p> <p>第7回 プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成・編集 1</p> <p>第8回 プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成・編集 2</p> <p>第9回 表計算ソフトを使用した数値・デー</p>

	<p>タ処理 1 第10回 表計算ソフトを使用した数値・データ処理 2 第11回 HTMLの仕組とホームページの作成 1 第12回 HTMLの仕組とホームページの作成 2 第13回 Javascriptを用いたプログラミング 1 第14回 Javascriptを用いたプログラミング 2 第15回 情報倫理とセキュリティー 内容および順番は、適宜変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】事前に指定された教科書や資料等を読んでおきます。 【復習】講義で学んだことを実践し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「オープンソースソフトウェア情報リテラシー」(共立出版)
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度：40% 課題の提出：60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および実習
(25)留意点・予備知識	授業時間以外の予習・復習は必須です。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	utsumi (at) hirosaki-u. ac. jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	251
(2)区分番号	251
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作②-【P小学校コース】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山本 逸郎(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>○社会人として活躍するために必要となる現代社情報の表現方法、処理方法、利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶ。</p> <p>○情報化社会において必須である情報リテラシーを演習により修得するとともに、効率よく使いこなす方法を身につける。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、実習室の使い方、Windows 8 の操作</p> <p>第2回 電子メールの利用、インターネットを用いた情報の検索</p> <p>第3回 Wordを用いた文章の作成・編集・印刷の基本操作</p> <p>第4回 ペイント系およびドロー系ソフトを用いた画像の作成と編集</p> <p>第5回 Wordと画像ソフトを用いた文書作成1(演習)</p> <p>第6回 Wordと画像ソフトを用いた文書作成2(演習)</p> <p>第7回 Power Pointの基本操作</p> <p>第8回 Power Pointを用いたスライド作成1(演習)</p> <p>第9回 Power Pointを用いたスライド作成2(演習)</p> <p>第10回 Excelを用いたデータ処理</p> <p>第11回 Excekを用いたグラフ作成および演習</p> <p>第12回 ホームページの仕組み(HTML言語)</p> <p>第13回 ホームページの作成1(演習)</p> <p>第14回 ホームページの作成2(演習)</p> <p>第15回 情報倫理とセキュリティー</p> <p>内容および順番は、適宜変更する場合があります。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	課題が授業時間内に完成しない場合、空き時間を利用して課題の作成に取り組む必要があります。 加えて、授業で学んだことを普段のレポート作成等に積極的に活用するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。 教員が用意したプリント (file) に沿って、進めていきます。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度：40% 課題 (file) の提出とその内容：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習 (実習)
(25)留意点・予備知識	授業内容の多くは、高校で学んだ「情報」の内容と重なります。 したがって、教員の説明は最小にして、演習の時間を多く取っています。 しかしながら、一人ひとりの技能の差が大きいのも事実です。 この授業には、T Aが付きますので、わからない事はどんどんT Aに聞いてください。
(26)オフィスアワー	月曜日から金曜日の12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:itsuro@hirosaki-u.ac.jp">itsuro@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	252
(2)区分番号	252
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作③-【P中学校コース・養護教諭養成課程】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	遠藤 明(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>情報の表現方法、処理方法、利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶことは学校教員として活躍するために重要なことである。本授業科目の受講学生は高等学校在籍中に情報系科目を履修してきたが、大学においてはこれらの知見についてより深く理解することが必要であるため、以下の情報技術に関する授業内容に沿って基礎的・基本的事項を修得していく。本授業科目では情報化社会において必須である情報リテラシーを演習により修得するとともに、効率よく使いこなす方法を身につける。したがって、受講学生は本講義時間外に別途時間を作り、情報機器と向き合って自分の手を動かす(実際にPC操作を行って確かめる)ことが重要である。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス・Webメールおよび教育用PCの使用法</p> <p>第2回 情報の発信(1) Webページの作成</p> <p>第3回 情報の発信(2) 情報セキュリティ・Webページの作成の続き</p> <p>第4回 情報の発信(3) 情報セキュリティ・情報倫理</p> <p>第5回 文書の作成・編集・印刷(1) 構造式の描画等を含む</p> <p>第6回 文書の作成・編集・印刷(2) 複雑な数式の入力等を含む</p> <p>第7回 表計算の基礎</p> <p>第8回 表計算とグラフの作成</p> <p>第9回 統計量の算出と様々な関数のグラフの作成</p> <p>第10回 最小二乗法によるデータ処理の概要</p> <p>第11回 行列式・連立方程式と最小二乗法によるデータ処理</p> <p>第12回 VBAによるプログラミングの概要</p>

	<p>第13回 wxMaximaを使った数式処理の概要  第14回 プレゼンテーション(1) プレゼンテーションの基本と操作方法  第15回 プレゼンテーション(2) 課題の実施</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>「本時における受講 → 授業時間外での復習」の過程を実行することが本科目を履修する前提である。したがって、普段から勉強するクセを付け「復習」を行うことが必須となる。「PCの操作が早くて授業に追いつけない」旨のクレームには応じない。PC操作が遅いと感じている受講生は、自身ができないことに対して責任を転嫁したり言い訳したりすることなく、普段からPC操作の練習を繰り返し行うこと。自身で努力し続けてもその成果が表れにくい場合は教員に相談すること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	応用情報学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>「オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー」(共立出版)を使用する。毎回の講義において使用しないものの、本授業科目の内容を予習・復習する際に役立つので、当該授業に関連するページの予習・復習のため参照すること。講義時に配布する紙媒体教材も使用する。これらの他、受講学生が自らインターネットを活用し、自身で理解しやすいようなWebページを積極的に検索・閲覧することを望む。</p>
(21)参考文献	なし。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成果品の内容や出欠状況は受講学生の努力の軌跡が反映されている。したがって、毎回の成果品(電子メールでの報告とレポート)80%と別途出題する課題の成果品の内容20%の合計100%で評価する。学生の将来のため受講生には規範意識と社会性を高めてもらうことが必要と考えている。このため、欠席および遅刻は減点の対象とする。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライド等を使用し講義を進める。
(25)留意点・予備知識	<p>出欠確認を毎回実施する。受講学生は授業開始時刻の8時40分までにPCを操作し「教育システムへのログインが完了」していること。開始時刻までにログインが終了していないものは遅刻扱いとする。高等学校で履修済である簡単な文書作成や表計算等のスキルはマスターしていることを前提としている。当たり前のことであるが、講義中の携帯電話の使用・スマートフォン等を用いてスクリーンに投影したスライド・板書・教員研究室の前に貼り出した掲示物の撮影は禁止である。また、常識的なことではあるが、講義中の飲食・他科目の宿題やレポートを行うこと当然厳禁である。これらのルール違反を行った場合は厳正に対処する。</p>
(26)オフィスアワー	<p>金曜日の午前中。当該時間外でも研究室に在室のときは訪問に差し支えない(訪問前にメールで連絡することが望ましい)。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:aendo777@hirosaki-u.ac.jp">aendo777@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	253
(2)区分番号	253
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作④-【S機械科学科】 (Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	笹川 和彦(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学の設備(総合情報処理センターのインターネット接続パソコン)を利用して、パソコンのログイン・ログアウトの仕方、電子メールの送信・受信、ホームページの閲覧、文章の作成・編集・印刷、画像の作成・編集、表計算とグラフ作成、ホームページの作成などの基本操作(情報リテラシー)について学習します。</li> <li>○インターネット利用における責任とモラル、セキュリティーについて学習します。</li> <li>○理系学部専門科目などにおいて必要とされるプレゼンテーション用ソフト、作図ソフト、数式エディタ、数式処理ソフトなどの使用法を学習し、実際に使用できるように演習を行います。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>1回目 基本操作について学びます。オペレーション・ソフトとして Windows 8 を使用して演習を行います。</p> <p>2回目 基本操作について学びます。オペレーション・ソフトとして Windows 8 を使用して演習を行います。</p> <p>3回目 文章の作成・編集・印刷について学びます。文章作成ソフトとして Word, (LibreOffice Writer)を使用して演習を行います。</p> <p>4回目 文章の作成・編集・印刷について学びます。文章作成ソフトとして Word, (LibreOffice Writer)を使用して演習を行います。</p> <p>5回目 インターネットの背景・概要・使用法・情報倫理とセキュリティーについて学びます。また電子メールの送受信についても学びます。電子メールとしてOffice 365 Educationを使用して演習を行います。</p> <p>6回目 プレゼンテーションの作成・実行について学びます。プレゼンテーション・ソフトとして PowerPoint, (LibreOffice Impress)を使用して演習を行います。</p> <p>7回目 プレゼンテーションの作成・実行について学びます。プレゼンテーション・ソフトとして PowerPoint, (LibreOffice Impress)を使用して演習を行います。</p> <p>8回目 画像の作成・処理とコンピュータによる作図の基礎について学びます。画像ソフトとしてペイント(GIMP)と LibreOffice Drawを使用して演習を行います。</p> <p>9回目 画像の作成・処理とコンピュータによる作図の基礎について学びます。画像ソフトとしてペイント(GIMP)と LibreOffice Drawを使用して演習を行います。</p> <p>10回目 データの表計算とグラフ作成について学びます。表計算ソフトとして Excel, (LibreOffice Calc)を使用して演習を行います。</p> <p>11回目 データの表計算とグラフ作成について学びます。表計算ソフトとして Excel, (LibreOffice Calc)を使用して演習を行います。</p> <p>12回目 インターネットを用いた情報検索およびホームページの作成について学びます。ホームページ作成ソフトとして BlueGriffonを使用して演習を行います。</p> <p>13回目 インターネットを用いた情報検索およびホームページの作成について学びます。ホームページ作成ソフトとして BlueGriffonを使用して演習を行います。</p> <p>14回目 情報倫理とセキュリティーなどの注意事項について学びま</p>

	す。 15回目 数式を記述するためのエディタ、数式を計算処理するソフトの操作について学びます。MS Officeの数式エディタと図形描画ソフト、wxMaximaを使用して演習を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	内容の区切りの授業終了時に示す課題(6回を予定)についてレポートを作成し、課題内容に習熟するよう各自で練習しておくこと。特に、コンピュータの扱いに慣れていない人は授業で習った内容を次回までにマスターできるように実習室等を利用して授業時間以外でも練習しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ著『オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー』第2版(共立出版株式会社)
(21)参考文献	独立行政法人情報処理推進機構ホームページ <a href="https://www.ipa.go.jp/">https://www.ipa.go.jp/</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常の演習に臨む姿勢を30%、主要項目ごとに行われる課題(計6回を予定)の提出状況および内容を70%として評価し、これらを合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	本授業は、講義が一部ありますが、パソコンを実際に使った演習が主体です。演習の進行に合わせて合計6回程度の課題を提出することにより、基礎の理解を向上させるとともに、自発的に演習を実施していきます。
(25)留意点・予備知識	パソコンの操作や各種ソフトを使いこなすには慣れることが一番です。よって、本授業は演習が主体です。時間割で決まった演習時間だけでなく、時間外においても実習室などを利用して予習と復習をし、パソコンになるべく長く触れて慣れてください。また、授業時間中は先生だけでなく、ティーチング・アシスタントもいますので、ちょっとでもつまずいたり、わからないことがあったら、すぐに質問をしてください。なお、授業を欠席した場合、次の時間までに同じ内容を各自でやって遅れを取り戻してもらいます。その場合、1回の演習時間の約3倍の時間がかかると言われていいます。つまり1回の遅れを取り戻すのもかなり大変ですので、欠席はしないでください。 平均的なパソコンの習熟度に合わせて授業を進行します。パソコンに習熟している人は、別途課題を設定しますので、申し出てください。
(26)オフィスアワー	火曜日16:00-18:00 理工1号館325室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail : <a href="mailto:sasa-cla@hirosaki-u.ac.jp">sasa-cla@hirosaki-u.ac.jp</a> このクラスの授業のHP : <a href="http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~sasagawa/index.html">http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~sasagawa/index.html</a> 笹川のHP : <a href="http://www.mech.hirosaki-u.ac.jp/~sasagawa/labhp/index.html">http://www.mech.hirosaki-u.ac.jp/~sasagawa/labhp/index.html</a>
(28)その他	本授業は理工学部機械科学科の教育目標(B)に関連しています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	254
(2)区分番号	254
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑤-【S機械科学科】 (Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	星野 隆行(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学の設備(総合情報処理センターのインターネット接続パソコン)を利用して、パソコンのログイン・ログアウトの仕方、電子メールの送信・受信、ホームページの閲覧、文章の作成・編集・印刷、画像の作成・編集、表計算とグラフ作成、ホームページの作成などの基本操作(情報リテラシー)について学習します。</li> <li>○インターネット利用における責任とモラル、セキュリティについて学習します。</li> <li>○理系学部の専門科目などにおいて必要とされるプレゼンテーション用ソフト、作図ソフト、数式エディタ、数式処理ソフトなどの使用法を学習し、実際に使用できるように演習を行います。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>1回目 基本操作について学びます。オペレーション・ソフトとして Windows 8 を使用して演習を行います。</p> <p>2回目 基本操作について学びます。オペレーション・ソフトとして Windows 8 を使用して演習を行います。</p> <p>3回目 文章の作成・編集・印刷について学びます。文章作成ソフトとして Word, (LibreOffice Writer) を使用して演習を行います。</p> <p>4回目 文章の作成・編集・印刷について学びます。文章作成ソフトとして Word, (LibreOffice Writer) を使用して演習を行います。</p> <p>5回目 インターネットの背景・概要・使用法・情報倫理とセキュリティについて学びます。また電子メールの送受信についても学びます。電子メールとして Office 365 Education を使用して演習を行います。</p> <p>6回目 プレゼンテーションの作成・実行について学びます。プレゼンテーション・ソフトとして PowerPoint, (LibreOffice Impress) を使用して演習を行います。</p> <p>7回目 プレゼンテーションの作成・実行について学びます。プレゼンテーション・ソフトとして PowerPoint, (LibreOffice Impress) を使用して演習を行います。</p> <p>8回目 画像の作成・処理とコンピュータによる作図の基礎について学びます。画像ソフトとしてペイント(GIMP)と LibreOffice Draw を使用して演習を行います。</p> <p>9回目 画像の作成・処理とコンピュータによる作図の基礎について学びます。画像ソフトとしてペイント(GIMP)と LibreOffice Draw を使用して演習を行います。</p> <p>10回目 データの表計算とグラフ作成について学びます。表計算ソフトとして Excel, (LibreOffice Calc) を使用して演習を行います。</p> <p>11回目 データの表計算とグラフ作成について学びます。表計算ソフトとして Excel, (LibreOffice Calc) を使用して演習を行います。</p>

	<p>12回目 インターネットを用いた情報検索およびホームページの作成について学びます。ホームページ作成ソフトとしてBlueGriffonを使用して演習を行います。</p> <p>13回目 インターネットを用いた情報検索およびホームページの作成について学びます。ホームページ作成ソフトとしてBlueGriffonを使用して演習を行います。</p> <p>14回目 情報倫理とセキュリティなどの注意事項について学びます。</p> <p>15回目 数式を記述するためのエディタ、数式を計算処理するソフトの操作について学びます。MS Officeの数式エディタと図形描画ソフト、wxMaximaを使用して演習を行います。</p> <p>予定している講義内容は進度に応じて適宜変更することがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>内容の区切りの授業終了時に示す課題(6回を予定)についてレポートを作成し、課題内容に習熟するよう各自で練習しておくこと。特に、コンピュータの扱いに慣れていない人は授業で習った内容を次回までにマスターできるように実習室等を利用して授業時間以外でも練習しておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ著『オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー』第2版(共立出版株式会社)
(21)参考文献	独立行政法人情報処理推進機構ホームページ <a href="https://www.ipa.go.jp/">https://www.ipa.go.jp/</a>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常の演習に臨む姿勢を30%、主要項目ごとに行われる課題(計6回を予定)の提出状況および内容を70%として評価し、これらを合算して、最終的な成績評価が行われます。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>本授業は、講義が一部ありますが、パソコンを実際に使った演習が主体です。演習の進行に合わせて合計6回程度の課題を提出することにより、基礎の理解を向上させるとともに、自発的に演習を実施していきます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>パソコンの操作や各種ソフトを使いこなすには慣れることが一番です。よって、本授業は演習が主体です。時間割で決まった演習時間だけでなく、時間外においても実習室などを利用して予習と復習をし、パソコンになるべく長く触れて慣れてください。また、授業時間中は先生だけでなく、ティーチング・アシスタントもいますので、ちょっとでもつまずいたり、わからないことがあったら、すぐに質問をしてください。なお、授業を欠席した場合、次の時間までに同じ内容を各自でやって遅れを取り戻してもらいます。その場合、1回の演習時間の約3倍の時間がかかると言われています。つまり1回の遅れを取り戻すのもかなり大変ですので、欠席はしないでください。</p> <p>平均的なパソコンの習熟度に合わせて授業を進行します。パソコンに習熟している人は、別途課題を設定しますので、申し出てください。</p>
(26)オフィスアワー	月曜12-13時 理工1号館328室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>thoshino[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@にかえること このクラスの授業のHP: <a href="http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~thoshino/index.htm">http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~thoshino/index.htm</a></p>
(28)その他	本授業は理工学部機械科学科の教育目標(B)に関連していません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	255
(2)区分番号	255
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑥-【S数物科学科】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 裕史(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の表現方法, 処理方法, 利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学びます。</li> <li>・情報リテラシーおよび情報技術を演習により修得するとともに, 効率よく使いこなす方法を身につけます。</li> <li>・情報倫理、Windowsおよびweb mailなどの基本的な操作を通してコンピュータ操作の基礎を学びます。</li> <li>・ホームページの作製を通して、HyperText Markup Languageやjavascriptを学び、情報社会を理解します。</li> <li>・LaTeXやMaximaを学ぶことによりコンピュータ言語に関する基礎的な知識を学びます。</li> <li>・上記で学んだことを通して情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 情報倫理とセキュリティー</p> <p>第2回 Windows 8 の操作</p> <p>第3回 web mailを用いた電子メール</p> <p>第4回 表計算ソフトを用いたデータ処理</p> <p>第5回 インターネットを用いた情報の検索</p> <p>第6回 ホームページの作成：基礎</p> <p>第7回 ホームページの作成：画像の作成・処理</p> <p>第8回 ホームページの作成：JavaScriptプログラミング(基礎)</p> <p>第9回 ホームページの作成：JavaScriptプログラミング(応用1)</p> <p>第10回 ホームページの作成：JavaScriptプログラミング(応用2)</p> <p>第11回 グラフ作成</p> <p>第12回 LaTeXによる文章の作成・編集</p> <p>第13回 Maximalによる数式処理(基礎)</p>

	<p>第14回 Maximaによる数式処理(応用) 第15回 まとめ</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	総合情報処理センター端末室の空き時間を利用して、復習を中心に、習ったことをしっかり身につけてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	応用情報学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	応用物理物性関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「オープンソースソフトウェア情報リテラシー」(共立出版)
(21)参考文献	授業中に適宜紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>複数の課題を課します。それらのレポートは作製されたホームページ上に提出していただきます。それを含め、製作されたホームページを総合的に評価し期末評価とします(80%)。平常評価(授業への参加度。毎回の課題提出状況とその内容に基づく。単なる出席回数ではない。20%)</p> <p>注意: 2/3以上の出席がない場合は期末評価の対象となりません。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	総合情報処理センターの端末室を使用した講義と演習
(25)留意点・予備知識	<p>高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などはマスターしていることを前提とします。</p> <p>2年生で本格的なプログラミングの授業があります。これらは必修単位ですので、プログラミングに自身のある方以外は必ず受講して下さい。</p>
(26)オフィスアワー	金曜日 10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>uc@hirosaki-u.ac.jp</p> <p><a href="http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~vszk/">http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~vszk/</a></p>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	256
(2)区分番号	256
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑦-【A生物学科・分子生命科学科】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	市村 雅一 (理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の表現方法、処理方法、利用方法、ネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶ</li> <li>○情報化社会において必須である情報リテラシーを演習により修得し、効率よく使いこなす方法を身につける</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス、Windows の操作方法、電子メール、Webブラウジング</p> <p>第2回 文章の作成・編集・印刷（ワープロの基本操作）</p> <p>第3回 文章の作成・編集・印刷（文書の加工）</p> <p>第4回 画像の作成・処理（ペイント）</p> <p>第5回 画像の作成・処理（ドロー）</p> <p>第6回 表計算とグラフ作成（表計算ソフトの基本操作）</p> <p>第7回 表計算とグラフ作成（表計算）</p> <p>第8回 表計算とグラフ作成（グラフ作成）</p> <p>第9回 表計算とグラフ作成（度数分布、集計）</p> <p>第10回 ホームページの作成（HTML）</p> <p>第11回 プログラミングの初歩（プログラムの書き方、文字列の表示）</p> <p>第12回 プログラミングの初歩（関数の作成、HTMLからのリンク）</p> <p>第13回 プログラミングの初歩（条件分岐）</p> <p>第14回 プログラミングの初歩（繰り返し処理）</p> <p>第15回 プログラミングの初歩（フォーム入力）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	パソコンの操作はとにかく慣れることが重要です。特に初心者は、パソコンの前に座っている時間に比例して上達します。授業時間以

	外でも空いている時間に端末室へ足を運んで、予習・復習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	自作の教材を使用します。授業中、適宜配付されます。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	ほぼ毎回求められる課題の提出状況とその内容で評価されます。(100%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	端末室を使用した演習
(25)留意点・予備知識	高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などはマスターしていることを前提とします。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー： 毎週月曜日 16:00~17:30 場所： 理工学部1号館4階 430号室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ichimu@hirosaki-u.ac.jp">ichimu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	257
(2)区分番号	257
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑧-【S地球環境防災学科, A食料資源学科・国際園芸農学科】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	藤崎 和弘(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について, 学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて, 情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要となる情報技術やその活用, 情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学生生活で必要とされる, インターネット活用術, メール管理, レポート作成技術などを身につける。</li> <li>○理系学部の専門科目などにおいて必要とされるソフトウェアや情報処理に関する基礎知識を習得する。</li> <li>○大学の施設を使って責任を持って情報を扱う能力(情報リテラシー)を身につける。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス、諸注意、基本操作  第2回 電子メールの利用  第3回 文書作成の基礎  第4回 文書作成の応用  第5回 プレゼンテーションソフトの利用  第6回 画像と音声  第7回 プレゼンテーション技術  第8回 表計算ソフトの利用  第9回 数式処理と表計算  第10回 インターネットの活用  第11回 ホームページ作成の基礎  第12回 ホームページとJavaスクリプト  第13回 情報倫理  第14回 その他のツール  第15回 最終課題  第16回 課題提出など</p> <p>受講者の理解度に合わせて内容が前後することがあります。  ガイダンスの際に紹介する講義用ホームページにて最新の日程や課題の締切に関する情報を提示していきます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 講義用ホームページにて実施内容を事前に把握し, スムーズに作業できるように準備をしておいてください。

	〔復習〕利用したソフトウェアの操作方法の復習や、関連する技術について自習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ著『オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー』第2版(共立出版株式会社)
(21)参考文献	講義で利用するソフトウェアの操作マニュアル、解説本なども参考になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常の演習課題に臨む姿勢を30%、主要項目ごとに行われるレポートの提出状況および内容を70%として評価し、これらを合算して、最終的な成績評価が行われます。ただし、課されたレポートはすべて提出する必要があります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	本授業は、講義とともにパソコンを使いながらの演習も行います。
(25)留意点・予備知識	各回パソコンを利用した作業を行いますので、何か支障がある場合は担当教員に相談してください。
(26)オフィスアワー	月曜日16:00~18:00 理工学部1号館323室(藤崎教員室)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:fujii3598@hirosaki-u.ac.jp">fujii3598@hirosaki-u.ac.jp</a> 講義用ホームページ：講義の進捗に合わせ実施日程に変更があるかもしれませんのでご注意ください。 <a href="http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~fujiiwax/">http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~fujiiwax/</a> (学内のみ閲覧可)
(28)その他	総合情報処理センターの端末(パソコン)にログインできないと講義中の課題ができません。 設定したログインパスワードを忘れないようにしてください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	258
(2)区分番号	258
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑨-【P特支, S物質創成化学科, A地域環境工学科】 (Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	櫻田 安志(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>・専門領域の学習するために必要となる情報処理のスキルや情報モラル、セキュリティの基礎について学習する。</p> <p>・学習した情報処理のスキルを活用するために演習を行う。</p> <p>・特に学校教員に必要とされる情報表現に関する知識を修得し、教員を意識した題材について演習を行う。</p> <p>なお、ここで取り上げる情報処理のスキルとしては、検索、電子メール、文書作成、画像処理、表計算、プレゼンテーションのスライド作成、webによる情報発信などがある。これらに加えて、情報モラル教育、情報セキュリティの基礎、色覚多様性への配慮などが教員には必要となる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、実習室の使い方、Windows の操作、情報倫理の基礎（りんりん姫）</p> <p>第2回 電子メールの利用、インターネットを用いた情報検索の基本（主に教科書3章）</p> <p>第3回 Wordを用いた文章の作成・編集・印刷の基本操作（主に教科書2章）</p> <p>第4回 Wordを用いた文章（主に教科書2章）</p> <p>第5回 色覚多様性への対応</p> <p>第6回 ペイント系ソフトを用いた画像の作成（主に教科書5章）</p> <p>第7回 ドロー系ソフトを用いた画像の作成（主に教科書5章）</p> <p>第8回 Excelを用いたデータ処理（主に教科書6章）</p> <p>第9回 Excelを用いたグラフ作成（主に教科書6章）</p>

	<p>第10回 レポートの作成（主に教科書2章）</p> <p>第11回 Power Pointの基本操作（主に教科書4章）</p> <p>第12回 学校教育における著作権</p> <p>第13回 ホームページの仕組み（HTML言語）（主に教科書7章）</p> <p>第14回 ホームページの作成（主に教科書7章）</p> <p>第15回 JavaScriptプログラミング（主に教科書8章）、課題の整理とまとめ</p> <p>内容等は、適宜変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習 あらかじめシラバスに授業内容を示しているのので、教科書の該当部分を熟読しておくこと。</p> <p>復習 毎回の課題を確実に提出すること。併せて、学んだ結果を他の授業に積極的に活用することで自然にスキルが身に付きます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	応用情報学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	情報科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>テキスト</p> <p>「オープンソースソフトウェア情報リテラシー」第2版(共立出版)</p> <p>適宜、補足資料を配布します。</p>
(21)参考文献	”情報リテラシー”と銘打ってある本はいずれも参考になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（各回の作成物・課題、授業への参加状況など）：80%</p> <p>期末評価（期末レポートなど）：20%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習内容に対する講義、個別の演習および実習を必要に応じて行います。
(25)留意点・予備知識	留意点 出席そのもので評価をする訳ではありませんが、授業時の演習内容（参加状況を含む）を評価の対象としているため、欠席は成績に影響を与えます。
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限(14:20～15:50)（前期） 予めメールでご連絡をいただければ、都合を調整して適宜対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ysakura@hirosaki-u.ac.jp">ysakura@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	この授業は、将来教員を目指す人を意識した題材で進めます。教員免許状の取得を目指さない学生は、他の適当な授業を履修することをお勧めします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	259
(2)区分番号	259
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑩-【M保検査】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	野坂 大喜(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>コンピュータは大学での学習において必須のツールであり、様々な医療情報システムの取り扱いにおいて、情報リテラシーの習得は必須となっています。</p> <p>本授業においては理系専門科目において必要とされる情報技術を演習を通じて習得します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第01回:医療における情報処理の活用方法(オリエンテーション) 4月11日 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習1(数式) 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第02回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習2(数式) 4月18日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第03回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習3(関数) 4月25日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第04回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習4(関数) 5月 9日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第05回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習5(グラフ) 5月16日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第06回:プレゼンテーション演習1 5月23日 プレゼンテーションの構成について学びます</p> <p>第07回:プレゼンテーション演習2</p>

	<p>5月30日  プレゼンテーションテーマを決めて資料を作成します  第08回：プレゼンテーション発表会  6月 6日  プレゼンテーションテーマごとにグループ発表を行います。  第09回：プレゼンテーション発表会  6月13日  プレゼンテーションテーマごとにグループ発表を行います。  第10回：プログラミング言語演習1 (Microsoft Visual C#) 6月20日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第11回：プログラミング言語演習2 (Microsoft Visual C#) 6月27日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第12回：プログラミング言語演習3 (Microsoft Visual C#) 7月 4日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第13回：プログラミング言語演習4 (Microsoft Visual C#) 7月11日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第14回：プログラミング言語演習5 (Microsoft Visual C#) 7月25日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第15回：プログラミング言語演習6 (Microsoft Visual C#) 8月 1日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第16回：期末試験  8月 8日</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>課題を配布しますので、翌週までに課題を各自で行ってください。  課題内容に習熟するよう各自で予習・復習してください。  コンピュータの扱いに慣れていない人は授業の内容を次回までにマスターできるように練習しておき、授業の進行に遅れないよう留意してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>1)猫でもわかるC#プログラミング 第3版 SB クリエイティブ  2)Excel入門5冊分！〈基本操作と計算+関数+グラフ+データベース+マクロ〉  出版社：技術評論社</p>
(21)参考文献	<p>1)医療者のためのExcel入門 医学書院  ISBN:978-4-260-01845-6  2)ゼロからはじめるプログラミング ソフトバンク クリエイティブ株式会社  ISBN:4-7973-3704-4  3)Visual C#.NET 毎日コミュニケーションズ  ISBN:4-8399-0992-X  4)世界でいちばん簡単な Visual C#のe本  [最新第2版] 秀和システム  ISBN 978-4-7980-2945-0</p>



(22)成績評価方法及び採点基準	課題30点、期末試験70点として総合評価を行います。 課題、試験それぞれ6割以上を合格基準とします。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習が主体です。
(25)留意点・予備知識	日常的により多くの時間、端末に触れることが重要です。 課題が提出されなかった場合は減点となります。
(26)オフィスアワー	水曜日:12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hnozaka@hirosaki-u.ac.jp">hnozaka@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/">http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/</a> 本授業で使用する授業資料へのリンクがあります。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	260
(2)区分番号	260
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作①-【M保理学・作業】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	丹波 澄雄(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>現代社会は情報化社会と言われますが、情報の表現方法、処理方法、利用方法またネットワークの仕組みなどを系統的に学ぶことは、社会人として活躍するために重要なことです。そこで、高等学校までの教育に引き続き大学においてもそれらを学ぶことが必要となります。</p> <p>学ぶべき要点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会において必須である情報リテラシーを演習により修得する</li> <li>・アプリケーションソフトウェアを効率よく使いこなす方法を修得する</li> <li>・目的に応じた処理方法を選ぶ力を修得する</li> <li>・情報倫理とセキュリティーについて本質を理解する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. WindowsOSの操作方法について学びます。</li> <li>2. 文章の作成・編集・印刷について学びます。文章作成ソフトとしてLibreOfficeまたはWordを使用します。</li> <li>3. 電子メール、Webブラウジングについて学びます。電子メール・ソフトとしてWebMail等を使用します。</li> <li>4. 画像の作成・処理について学びます。画像ソフトとしてgimpを使用します。</li> <li>5. ホームページの作成について学びます。</li> <li>6. 表計算とグラフ作成について学びます。表計算ソフトとしてLibreOfficeまたはExcelを使用します。</li> <li>7. 作図について学びます。作図ソフトとしてLibreOfficeを使用します。</li> <li>8. プレゼンテーション資料の作成、発表の仕方について学びます。LibreOfficeまたはPowerPointを使用します。</li> <li>9. グラフ作成ソフトgnuplotの使用方法につ</li> </ol>

	<p>いて学びます。</p> <p>10. 統計解析ソフトRについて学びます。</p> <p>11. 数式エディタの使用方法について学びます。</p> <p>12. 数式処理ソフトについて学びます。Maximaを使用します。</p> <p>13. データベースについて学びます。データベースソフトとしてLibreOfficeを使用します。</p> <p>14. 情報倫理とセキュリティーについて学びます。</p> <p>15. 地図ソフトウェアの利用方法について学びます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で出された課題が時間内に終わらなかった場合は、次回の授業までに必ず終えておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	応用情報学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「オープンソースソフトウェア情報リテラシー」(共立出版)
(21)参考文献	授業中に適宜紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート(50%)、演習、授業への参加度(50%)により最終的な成績評価を行う予定です
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	総合情報処理センターの端末室を使用した演習
(25)留意点・予備知識	高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などはマスターしていることを前提とします。
(26)オフィスアワー	月曜日 17:30~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~tanba/">http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~tanba/</a> <a href="mailto:tanba_stu@hirosaki-u.ac.jp">tanba_stu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	261
(2)区分番号	261
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑫-【M保看護、M医】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	佐川 貢一(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</p> <p>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要な情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>○大学の設備(総合情報処理センターのインターネット接続パソコン)を利用して、パソコンのログイン・ログアウトの仕方、電子メールの送信・受信、ホームページの閲覧、文章の作成・編集・印刷、画像の作成・編集、表計算とグラフ作成、ホームページの作成などの基本操作(情報リテラシー)について学習します。</p> <p>○インターネット利用における責任とモラル、セキュリティーについて学習します。</p> <p>○文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーション用ソフト、作図ソフト、数式エディタ、プログラミング言語などの使用法を学習し、実際に使用できるように演習を行います。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1回目 Windowsの基本的な操作</p> <p>2回目 電子メール</p> <p>3回目 文章の作成・編集・印刷 1</p> <p>4回目 文章の作成・編集・印刷 2</p> <p>5回目 画像と音声 1</p> <p>6回目 画像と音声 2</p> <p>7回目 情報倫理</p> <p>8回目 表計算とグラフ作成 1</p> <p>9回目 表計算とグラフ作成 2</p> <p>10回目 インターネット 1</p> <p>11回目 インターネット 2</p> <p>12回目 表計算とグラフ作成/インターネット</p> <p>13回目 プレゼンテーション 1</p> <p>14回目 プレゼンテーション 2</p> <p>15回目 JAVAscriptプログラミング</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	内容の区切りの授業終了時に示す課題(9回を予定)についてレポートを作成し、課題内容に習熟するよう各自で練習しておくこと。

	特に、コンピュータの扱いに慣れていない人は授業で習った内容を次回までにマスターできるように実習室等を利用して授業時間以外でも練習しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ著『オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー』（共立出版株式会社）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	主要項目ごとに行われる課題（計9回を予定）の提出状況および内容を評価し、成績評価が行われます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	本授業は、パソコンを実際に使った演習が主体です。演習の進行に合わせて合計9回程度の課題を提出することにより、基礎の理解を向上させるとともに、自発的に演習を実施していきます。
(25)留意点・予備知識	パソコンの操作や各種ソフトを使いこなすには慣れることが一番です。よって、本授業は演習が主体です。時間割で決まった演習時間だけでなく、時間外においても実習室などを利用して予習と復習をし、パソコンになるべく長く触れて慣れてください。また、授業時間中は先生だけでなく、ティーチング・アシスタントもいますので、ちょっとでもつまずいたり、わからないことがあったら、すぐに質問をしてください。なお、授業を欠席した場合、次の時間までに同じ内容を各自で実施し、遅れを取り戻してもらいます。その場合、1回の演習時間の約3倍の時間がかかると言われています。つまり1回の遅れを取り戻すのもかなり大変ですので、欠席はしないでください。
(26)オフィスアワー	金曜日17:00-18:00 理工学部1号館317室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sagawa.stu@hirosaki-u.ac.jp http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~sagawa/
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	262
(2)区分番号	262
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑬-【全学部】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	水田 智史(理工学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報機器の操作や基本的なアプリケーションソフトの使用方法について学ぶ</li> <li>○演習で得た知識や技能を実社会において活用できるような応用方法について学ぶ</li> <li>○情報倫理とセキュリティーについて、実際の事例に基づき現状と対応について学ぶ</li> </ul>
(16)授業の内容予定	第1回 Windows の操作、電子メール 第2回 文書の作成・編集・印刷（ワープロの基本操作） 第3回 文書の作成・編集・印刷（レイアウトの編集） 第4回 文書の作成・編集・印刷（スタイルを用いた文書作成） 第5回 画像の作成・処理（ペイント系ツール） 第6回 画像の作成・処理（ドロー系ツール） 第7回 表計算とグラフ作成（データの入力） 第8回 表計算とグラフ作成（関数の利用） 第9回 表計算とグラフ作成（並べ替えと抽出） 第10回 表計算とグラフ作成（グラフ作成と3D集計） 第11回 表計算とグラフ作成（実践演習） 第12回 プレゼンテーション資料の作成 第13回 情報倫理とセキュリティー 第14回 プログラミング入門 第15回 ホームページの作成
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] テキストの該当部分にあらかじめ目を通し、演習内容を把握しておくことが必要です。 [復習] 演習で学んだ内容を活用し、授業時間中に提示された課題に取り組むことが必要です。

(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	下記教科書の購入が必要です。 ○「オープンソースソフトウェアによる 情報リテラシー」(共立出版)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	下記を合算して、最終的な成績評価を行います。 ○授業への参加度：50% ○提出されたレポート内容：50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	総合情報処理センターのパソコンを使用して授業を行います。
(25)留意点・予備知識	高等学校で扱う程度の、簡単な文書作成や表計算などはマスターしていることを前提とします。
(26)オフィスアワー	月曜日 17:30~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:slmizu@hirosaki-u.ac.jp">slmizu@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	263
(2)区分番号	263
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人間の尊厳－人間の尊厳B－ (Human Dignity－Human dignity B－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○川崎 くみ子(保健学研究科)、則包 和也(保健学研究科)、田中 真(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生命倫理ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生と死をめぐる諸問題について理解できるようになること
(15)授業の概要	○「いのち」にまつわる人間の行為、倫理的問題や課題の考察に必要な基礎的知識を修得する ○現代社会の「いのち」にまつわる具体的な事例について議論をすることで、人間の尊厳について理解を深める ○1・2の過程において、全体やグループの中で自らの考えを自分の言葉で表現する
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション (川崎他) 第2回 対話関係から考える人間の尊厳1 (田中) 第3回 対話関係から考える人間の尊厳2 (田中) 第4回 対話関係から考える人間の尊厳3 (田中) 第5回 対話関係から考える人間の尊厳4 (田中) 第6回 “死”と向き合う (則包) 第7回 死別と悲嘆－“二人称の死”を基にして (則包) 第8回 生と死を考える1 (則包) 第9回 生と死を考える2 (則包) 第10回 “死”と向き合うこととは? (則包) 第11回 “いのち”とは (川崎) 第12回 安楽死・尊厳死 (川崎) 第13回 脳死・臓器提供 (川崎) 第14回 告知と患者の権利 (川崎) 第15回 人間の尊厳 (川崎)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・事前に配付された資料は読んで授業に臨みましょう。 ・授業課題に関する用語の意味や内容等を理解した上で授業に臨みましょう。 ・担当教員によっては少人数によるグループ討議を行うため、活発な発言・討論ができるように、





## 教養教育科目

(1)整理番号	264
(2)区分番号	264
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人間の尊厳－人間の尊厳A－ (Human Dignity－Human Dignity－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	小山内 隆生 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○生命倫理ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、生と死をめぐる諸問題について理解できるようになること
(15)授業の概要	○ノーマライゼーションという視点から人間の尊厳について考える授業です。 ○人間の尊厳についての考え方を学ぶとともに、現代の医療技術の進歩の抱える倫理面の問題や、現代社会の多様化する人々の構成や、多様化する価値観を学びます。 ○障害者の処遇の変遷を通して、人間の尊厳を侵害した事例を学ぶとともに障害者の処遇改善の取り組みを紹介し、人間の尊厳を尊重する考え方を学びます。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション この授業の方向性 人間の尊厳について 2. 人間の尊厳についての歴史 3. 医療上の人間の尊厳 4. 人間の尊厳と研究 5. 医療技術の進歩と人間の尊厳 6. 資源の分配の問題 7. 個人の価値観と医療 8. 疾患の帰結としての障害 9. 障害者観の変遷 10. 優生思想 11. 命の選別 12. ノーマライゼーション 13. バリアフリーとユニバーサルデザイン 14. 障害者の差別 15. 人間の尊厳についてのまとめ 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスの各講義のタイトルとなっている用語について、調べておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業直前に資料を配布します
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の40%） 期末評価（8回の授業終了後に、レポートを課す。評価全体の60%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心として進めます。
(25)留意点・予備知識	遅刻は3回で欠席とします。 30分以上の遅刻は欠席として扱います。
(26)オフィスアワー	月曜日：10：30～12：00　火曜日：なし 水曜日：13：00～14：30　木曜日：なし　金曜日：なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	osanai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	265
(2)区分番号	265
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人間の尊厳－The Voice of Life (命の声)－ (Human Dignity－The Voice of Life－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	石山 新太郎(理工学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○生命倫理ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、生と死をめぐる諸問題について理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>・我が国では2人中1名のがん患者となる異常事態を現在迎え、特命倫理ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること、特にに青森県は男性では大腸癌、女性では乳癌についての発症件数が全国比率で他県を圧倒する勢いにある「短命県」である。</p> <p>・本講座ではこの事態に対して私たち日本人がいかなる態度で今後向き合い明日を生き抜くのかについて、がん治療に関する最前線の医療現場で治療・活躍されている患者、医師、県・市政、研究開発者等様々な分野から下記ゲストスピーカーを招聘し、青森県におけるがん罹患患者の状況、がんに立ち向かうための備え、今後の医療制度の在り方(内容解説、選択方法など)から始まり、青森県の「短命県返上」への取り組みやがんを克服したsurvivorからのがん治療後の尊厳的生き方、そして弘前大学で現在新規開発中の加速器技術による最新治療技術A(先進青森)－BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)及びその後の再生治療・リハビリ技術の最新研究開発の現状ならびそのための人材育成の方策について、これらの新治療技術を支えてゆく青森県量子科学研究センターの紹介を含めて講演・講義し、今後の青森県県是である「短命県返上」に対する具体的方策について議論し提言案をまとめてゆく。</p> <p>・本講義内容は人文・教育、理工、医学部等学生向きで、他学部混合のグループディスカッション制を取り入れ、様々な分野からの意見や提案を提言案としてまとめてゆく。</p> <p>・本講義では、対象講義内容に対峙している実務担当者をゲストスピーカーとして招聘し(生命倫理ならびにこれらの学問の近接領域についての学識を得ること)、その活動内容を中心に議論するとともに独自特異な提言書を提出してもらう(記学問の知識や技能に基づいて、生と死をめぐる諸問題について理解できるようになること)。</p>

(16)授業の内容予定	<p>本講義は、がん疾病に係るさまざまなゲストスピーカーを招聘し、体験を踏まえた講義を行うとともに、その後グループディスカッションを行い各自の青森県県是「短命県」返上に対する具体的方策について提言をまとめてゆく。</p> <p>第1回オリエンテーション（石山）  第2回明治安田生命（株）がんへの備えについて（高柳康祐（明治生命）+石山）  第3回青森県健康福祉部がん生活習慣病対策室 青森県におけるがんの現状とその対策（奥村智子（青森県健康福祉部がん生活習慣病対策課）+石山）  第4回がん患者の会 がんとの対峙とそこの生還（新岡浩一（一般）+石山）  第5回青森県量子科学センター 青森県量子科学センターの概要（平尾恵美（青森県量子科学センター）+石山）  第6回弘前大学における先進がん治療研究（I）（石山）  第7回弘前大学における先進がん治療研究（II）（石山）  第8回A（先進青森）-BNCTプロジェクトについて（治療技術）（石山）  第9回A-BNCTプロジェクトについて（再生治療）（石山）  第10回A-BNCTプロジェクトについて（リハビリテーション）（石山）  第11回想起アイディアの発表/ディスカッション（I）（石山）  第12回想起アイディアの発表/ディスカッション（II）（石山）  第13回想起アイディアの発表/ディスカッション（III）（石山）  第14回県是「短命県」返上の提言書に関するディスカッション（石山）  第15回最終レポート提出（石山）</p> <p>※なお、ゲストスピーカーの都合により講義順番は変更になる場合がある。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に、がんに関する情報を収集しておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	腫瘍学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	講義中に適時教材を配布する。
(21)参考文献	講義内において随時紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>受講態度（発表/ディスカッション）、各回ならびに最終レポートを総合的に評価。  〔平常評価〕授業への参加度、授業中の受講・議論態度ならびにレポート提出をもって評価する（評価全体の30%）  〔期末評価〕最終授業後、最終レポート提出を要請する（評価全体の70%）。特にレポートにおいてはその創出アイディアの独自性、特異性を重点的に評価する。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。講義/ディスカッションを通じて独自のアイディア創出に努めてください。

(25)留意点・予備知識	事前にがん（特に青森県下における）に関する情報を集めるとともに、独自アイデアがこれらの既存情報と重複しないよう心掛けてください。
(26)オフィスアワー	月曜日17：00-17：30 理工学2号館902号室にて
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ishiyama.shintaro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	本講義は、現状において最も深刻な現実問題に対峙するものであり、インターネット等を事前検索して最新技術情報を得るとともに本課題について問題意識を持つようにしておいてください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	266
(2)区分番号	266
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み－育児と子どもの発達B－ (Human Development－child development and care(b)－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○増田 貴人(教育学部)、深作 拓郎(生涯学習教育センター)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	育児について、子どもが健やかに育っていくために必要な環境に焦点をあてて論じる。 ○前半は、乳幼児期の社会的発達と育児環境を中心に、「子育て・子育て・親育ち」の支援をミクロの視点、発達心理学的視点から概説する。 ○後半は、子どもが育つ地域社会環境を中心に、「子育て・子育て・親育ち」の支援をマクロの視点、教育学的視点から概説する。
(16)授業の内容予定	以下の順で進行予定だが、状況次第で変更する場合もある。 1. オリエンテーション 2. ～8. 乳幼児期の社会的発達と育児環境、保育発達学的アプローチ(増田) 2. 離乳食の国際比較 3. テレビの視聴 4. バイリンガル 5. 育児におけるコスト 6. 叱り方 7. 虐待 8. 公園デビュー 9. ～15. 子どもが育つ地域社会環境・「育児・育自」論の教育学的アプローチ(深作) 9. 子ども観の変遷 10. 子どもの遊び 11. 家族機能の変遷 12. 子どもと地域 13. 子どもの権利 14. 子どもと福祉 15. 子どもと教育
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業ノートや資料を読み返すなど復習に努め、疑問点などは次の講義の際等に質問するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない
(21)参考文献	適宜授業中に紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	前半（2～8回）と後半（9～15回）でそれぞれ課されるレポート課題（各50点分）をもとに、総合的に評価する。60点以上を合格とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を基本とする
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	事前に連絡がある限りは随時対応する
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	増田： <a href="mailto:tmasuda@hirosaki-u.ac.jp">tmasuda@hirosaki-u.ac.jp</a> 深作： <a href="mailto:takurou@hirosaki-u.ac.jp">takurou@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	267
(2)区分番号	267
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み—家族の機能と役割— (Human Development—Family functions and roles—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○藤田 あけみ(保健学研究科)、北宮 千秋(保健学研究科)、
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○人間の成長・発達において重要な家族の機能と役割を学びます。 ○家族を取り巻く社会と自己の課題を探求する能力を得るための学びを深めます。
(16)授業の内容予定	第1回 : オリエンテーション、家族とは(担当: 藤田) 第2回 : 家族の概念、家族形態(担当: 藤田) 第3回 : 家族の変化—家制度の崩壊～現代の日本の家族(担当: 藤田) 第4回 : 家族の変化—人口構造と家族構造(担当: 藤田) 第5回 : 家族の役割—夫婦(担当: 藤田) 第6回 : 家族の役割—母性、父性、祖父母(担当: 藤田) 第7回 : 家族の機能(担当: 藤田) 第8回 : 地域と家族、職場と家族(担当: 藤田) 第9回 : 家族の健康(担当: 藤田) 第10回 : 家族の問題・課題(担当: 藤田) 第11回 : 家族を取り巻く社会(担当: 北宮) 第12回 : 家族における自己を考える(担当: 北宮) 第13回 : 社会と自己を考える(グループワーク)(担当: 北宮) 第14回 : 家族を考える(グループワーク)(担当: 北宮) 第15回 : 家族を考える(発表とまとめ)(担当: 北宮)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 新聞やテレビで家族に関するニュースから家族の機能や役割について考えて授業に臨んで下さい。 復習: 授業の内容を復習して家族の機能や役割に関する考えを深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業で配布するプリントで適宜紹介します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況：40%、グループワーク：30%、レポート：30%、これらを合算して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義とグループワークを行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	藤田あけみ：随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	藤田あけみ：a_fujita@hirosaki-u.ac.jp 北宮千秋：chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師、保健師としての実務経験を踏まえ、授業内容を工夫しています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	268
(2)区分番号	268
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み－教育と社会－ (Human Development－Education and Society－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○「教育問題」といわれるものの因果関係の説明が、本当に当を得たものなのかについて検証する</p> <p>○学校を中心とした教育と社会との関わりを、前期近代から後期近代へと至る歴史的な過程のなかに位置づけ、教育の現在を捉える「視座」について考える</p> <p>○学校と社会に関わるひとつのテーマ（言説）を取り上げ、様々なデータや資料を活用しながらその意味や妥当性を検討する</p>
(16)授業の内容予定	<p>現代社会においては、いじめや不登校、非行や犯罪、フリーターやニートと呼ばれる若者たち、さらには小学生から大学生にまで至る学力低下といったことまで、子どもや青少年と教育の関わりから生まれるものごとを「社会問題」として捉える議論があふれんばかりになっています。大人たちが子どもや青少年を理解しようとすればするほど、多くの言説が産み出され、そのことがかえってますます彼ら彼女らをみえにくくしているように思われます。</p> <p>「教育問題」といわれるものの原因は、往々にして「教育の失敗」、すなわち学校に求められることがあります。子どもや青少年による事件が起きるたびに、メディアが学校に押しかけるといった光景は、それを端的に表しています。「学校がちゃんとしなから子どもや青少年が乱れるのだ」といった捉え方は、必ずしも現代に特有のものではありません。しかしながら、われわれにとって当たり前のような因果関係の説明が、本当に当を得たものなのかについて検証することがこの授業の目的です。</p> <p>この講義では、学校を中心とした教育と社会との関わりを、前期近代から後期近代へと至る歴史的な過程のなかに位置づけ、教育の現在を捉える「視座」というものについて、受講生の皆さんとともに考えます。具体的には、各回ごとに学校と社会に関わるひとつのテーマ（言説）を取り上げ、様々なデータや</p>

	<p>資料を活用しながらその意味や妥当性を検討するという形をとります。</p> <p>一連の講義を通して、現代の「教育問題」を自らの視点に立って、批判的に考察できるようになることを目的とします。</p> <p>第1回 イン트로ダクション  第2回 「育ち」の場（1）—共同体から「教育家族」へ—  第3回 「育ち」の場（2）—学校の黄金時代から現代へ—  第4回 「学び」の空間（1）—近代学校という場—  第5回 「学び」の空間（2）—学級という特殊な空間—  第6回 学校と「文化」（1）—教育と国民化—  第7回 学校と「文化」（2）—制服の意味—  第8回 学校と「文化」（3）—「反学校」の文化—  第9回 学校と「競争」（1）—学歴主義の成立—  第10回 学校と「競争」（2）—学歴社会の虚像と実像—  第11回 学校と「競争」（3）—格差社会と学歴主義—  第12回 「仕事へ」の変容（1）—学校から職業への移行—  第13回 「仕事へ」の変容（2）—大学生の就職活動—  第14回 「関わり合い」の意味（1）—教室空間の人間関係—  第15回 「関わり合い」の意味（2）—コミュニケーションへの依存と不安—  第16回 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業テーマについて、新聞やテレビのニュースやインターネットなどを通じて積極的に情報収集し、現代の子どもや若者、そして学校をめぐる問題について理解を深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。毎回の授業についてのリアクションペーパーに基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%）と期末評価（理解度の確認。同70%）とを合算して評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義・映像の内容についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学

	生の履修は固くお断りします。受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	第1回授業の際にお伝えします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回授業の際にお伝えします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	269
(2)区分番号	269
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営みー子どもの健康ー (Human Developmentーchild's healthー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	扇野 綾子 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○看護学や保健学の領域について、子どもの健康を身体や心の発達、家族や社会との関わり等から学びます。 ○看護学や保健学の知識や技能に基づいて、小児期にある人を育む営みについて、講義と演習を通して学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス・子どものとらえ方 第2回 子どもの成長・発達 (新生児・乳幼児) 第3回 子どもの成長・発達 (学童以降) 第4回 子どもと家族 第5回 子どもと社会との関わり 第6回 演習 (沐浴) 第7回 子どもに多くみられる症状と対応 (発熱やけいれん) 第8回 子どもに多くみられる症状と対応 (嘔吐や発疹) 第9回 子どもの病気と生活 (慢性疾患) 第10回 子どもの病気と生活 (入院した場合) 第11回 演習 (児童書) 第12回 子どものメンタルヘルス 第13回 子どもの肥満と生活習慣病 第14回 子どもの歯の衛生 第15回 演習 (観察) 第16回 ふりかえり (45分)、試験 (45分) 履修生の人数等に応じて日程を変更することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習に力を入れ、不明点や難解だった用語について、疑問を解決しながら授業に臨むことです。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中に資料が配布されます。
(21)参考文献	授業中に紹介されます。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加、平常レポート）： 40% 試験：30% レポート：30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が中心ですが、演習を交えながら行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月・金曜日 12:00～14:00（要事前連絡）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ohgino@hirosaki-u.ac.jp">ohgino@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	看護師及び保健師の実務経験を活かした講義となっています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	270
(2)区分番号	270
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営みー幼児教育への誘いー (Human Development-Introduction to Early Childhood Education-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	武内 裕明 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○育児の判断プロセスを追体験するパフォーマンス課題に取り組むことで、基本的な幼児教育の位置づけや役割を理解する</p> <p>○基準を定めて、自律的に幼児教育を判断できるようになる</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業は2回を1セットにしたパフォーマンス課題のセットに取り組むものです。ここでは弘前市に住む一人の人間として、家族の計画を立てながら子育ての疑似体験を通じて幼児教育を理解していきましょう。課題は人数によって個人で考えるか、グループを単位にするかを変える予定です。それぞれのテーマの回目には、まずは大まかな考えをまとめて暫定的な解を作ってみましょう。それを教員と打ち合わせるなかでいろいろ考慮しないといけない話や不十分な点を確認します。それを受けて次週までに課題にどのように答えるか発表内容を練り上げてもらいます。その内容を発表したあとで、同じことを考えた受講者同士でディスカッションを行います。最後に教員からの講評が行われます。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 家族をもつ（構想と教員との予備打ち合わせ）  第3回 家族をもつ（発表とディスカッション／講評）  第4回 子どもをもつ・子どもが生まれる（構想と教員との予備打ち合わせ）  第5回 子どもをもつ・子どもが生まれる（発表とディスカッション／講評）  第6回 仕事・家事・育児のバランスをどう取るか（構想と教員との予備打ち合わせ）  第7回 仕事・家事・育児のバランスをどう取るか（発表とディスカッション／講評）  第8回 子育て支援・育児に関連する制度をどう使うか（構想と教員との予備打ち合わせ）  第9回 子育て支援・育児に関連する制度を</p>



	<p>どう使うか（発表とディスカッション／講評）</p> <p>第10回 保育所・幼稚園・認定こども園？どこに子どもを通わせるか（構想と教員との予備打ち合わせ）</p> <p>第11回 保育所・幼稚園・認定こども園？どこに子どもを通わせるか（発表とディスカッション／講評）</p> <p>第12回 子どもの教育方針を考える（構想と教員との予備打ち合わせ）</p> <p>第13回 子どもの教育方針を考える（発表とディスカッション／講評）</p> <p>第14回 小学校に向けて（構想と教員との予備打ち合わせ）</p> <p>第15回 小学校に向けて（発表とディスカッション／講評とまとめ）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>〔予習〕 事前にパフォーマンス課題を出すので、それぞれのテーマの1回目までに考えを整理できるよう必要な情報を集めます。テーマの2回目には、来週の発表に向けた最終準備や資料作りが必要です。</p> <p>〔復習〕 テーマの1回目の後は、打ち合わせを受けて必要な追加の情報収集を行います。2回目の内容に関しては、考えを整理して発表できるようにすることが復習になります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	弘前市『子育て応援BOOK にこにこひろさき』第6版、2018
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回のパフォーマンス課題への取り組みと発表・ディスカッションで評価を行います。評価割合としては平常評価（100%）となりますが、テーマごとに課題が変わるので、授業期間中全体で総合的に評価されます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	パフォーマンス課題に取り組み、発表とディスカッションを行います。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	木7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Email : <a href="mailto:hiloakit@hirosaki-u.ac.jp">hiloakit@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	271
(2)区分番号	271
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み－乳幼児の教育と社会－ (Human Development－Early Childhood Education and Society－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	武内 裕明 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○将来育児や教育に何らかの形で関わる者として、乳幼児の養育やその教育が社会的にどのように扱われてきたかを学ぶ</p> <p>○社会で子どもを育むという営みをどのように考えればよいか理解を深める</p>
(16)授業の内容予定	<p>この授業では、現代の幼児教育について理解を深めるために、幼稚園、保育所、認定こども園などの施設を含めた保育の概要、法的位置づけや幼児教育分野の基本的な発想法や教育を構想する枠組み、幼児教育に深く関連する周縁領域、背景となる歴史や理論的側面の4側面に関して、授業を通して基本的な理解を築くことをめざします。シラバスは基本的な方針であり、授業の進捗や人数等によって授業内容は適宜変更が行われます。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第I部 概論 第2回：学校教育の一貫性から再編される幼稚園 第3回：親の就労という側面から保育を考える 第4回：認定こども園の登場背景と課題 第5回：保育とはどのような営みか 第II部 幼児教育の制度 第6回：現在の幼児教育の根拠になる規定 第7回：幼児期に相応しい生活と主体的な活動について 第8回：資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、5領域のねらいと内容について 第III部 幼児教育を取り巻く周縁 第9回：親の教育期待と早期教育について 第10回：子育て支援 第11回：創造性の教育について 第IV部 理論編 第12回：幼児教育の成立と乳幼児にまつわる歴史 第13回：学習観の変化と保育者の役割</p>

	第14回：自由保育思想の原理と枠組み 第15回：エピソードから考える子どもの学び
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕それぞれのテーマを参考に、関連しそうな内容についてニュースや新聞、本、雑誌などを通じて知識を得てください。 〔復習〕毎回の授業で理解が不十分であった点を自分で学びなおしてください。また、学んだ内容を基に平常の課題や期末レポートの準備の時間も復習時間に含まれます。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」文部科学省、2018 その他授業において示されるものも参考にしてください。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常の課題(40%)(選択での課題の提出) 期末レポート(60%)で評価します。 期末レポートは配布するルーズリーフによって評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心ですが、必要に応じてディスカッションなども行います
(25)留意点・予備知識	受講に際して幼児教育に関する予備知識は求めません。 ただし、レポートの書き方や引用に関しては、基礎ゼミでも基本的なルールを学んでいるはずですが毎年不十分なものが多いので、気をつけてください。
(26)オフィスアワー	木7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hiloakit@hirosaki-u.ac.jp(武内)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	272
(2)区分番号	272
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み－女性の健康－ (Human Development－Women's health－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	葛西 敦子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○看護学・教育学領域における女性の解剖生理学的特徴、妊娠・分娩・産褥、母性関連法規などについての学識を得ること。 ○上記学問の知識や技能に基づいて、生涯女性として健康に過ごすことができるような人を育み営みを理解できるようになること。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 女性の解剖学的特徴 3. 基礎体温の測定の意義と方法、女性の生理学的特徴 (関係法規) 4. 生命誕生 5. 妊娠の成立、避妊法 6. 卵子の老化 7. 不妊症 8. 人工妊娠中絶 9. 性感染症 (関係法規)、基礎体温測定値の分析 (1ヶ月分) 10. 妊娠期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴 (1) (関係法規) 11. 妊娠期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴 (2) (関係法規) 12. 分娩の解剖学的特徴や生理学的特徴 13. 産褥期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴 (関係法規) 14. 少子化を考える 15. 加齢による性機能の変化、基礎体温測定値の分析 (3ヶ月分) 16. 総括・試験 授業の進行状況等により、内容を変更する場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(1) シラバスに記載された各回の授業内容について、授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。 (2) 講義内容に応じて、事前の課題を出すこともあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	女子学生は、毎日の基礎体温測定のため、基礎体温計を準備してもらいます。 資料は配付します。
(21)参考文献	適宜、参考図書や文献を紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>(1) 平常評価（授業への参加度）：10%</p> <p>(2) 中間評価（課題）：20%</p> <p>1) 女子学生：基礎体温測定データの提出、基礎体温表の分析 約3ヶ月間、毎日朝に、目覚めた時に基礎体温の測定をしてもらいます。</p> <p>2) 男子学生：レポート課題（A4用紙、手書き、提出期限：12月後半の講義日）</p> <p>(1) 男性の解剖・生理（解剖図を示す）</p> <p>(2) 男性の心と体</p> <p>(3) 参考文献</p> <p>(3) 期末評価（期末試験）：70%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、演習、DVD視聴、グループディスカッション
(25)留意点・予備知識	女子学生：毎日朝に、目覚めた時に基礎体温の測定をしてもらいます。しかし、忘れる時もあるかもしれません。測定できないことがあるかもしれません。とにかく継続して測定して下さい。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	273
(2)区分番号	273
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み—人の成長— (Human Development—Educational Approach to Human Development—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○松本 大(教育学部)、森本 洋介(教育学部)、桐村 豪文(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○教育方法学、教育行政学、社会教育学それぞれの基礎的な知識や視点を学ぶ。 ○教育方法学、教育行政学、社会教育学それぞれの観点から、学校内外の教育や学習に関わる現代的な事象を考察する。
(16)授業の内容予定	授業日程及び計画は、次に挙げるとおりです。順番や回数は変わる可能性があります。 第1回 イン트로ダクション(松本大、森本洋介、桐村豪文)  「学校の中と外の文化をつなげる教育方法」(森本洋介) 第2回 学校の「中」と「外」の文化とは何か 第3回 学校の「外」の文化に向き合うために 第4回 ニュースの構成について考える 第5回 ニュースを分析する  「社会教育とは何か」(松本大) 第6回 学校だけが学ぶ場なのか 第7回 「居場所」と社会教育(1) —「居場所」とは何か— 第8回 「居場所」と社会教育(2) —「居場所」と学び— 第9回 地域づくりと社会教育 第10回 NPOと社会教育  「教育と制度」(桐村豪文) 第11回 教育に対する国家の介入(1) 歴史的変遷 第12回 教育に対する国家の介入(2) 教科書をめぐる議論 第13回 教育への公費投入は十分か 第14回 教育の効果を評価する  第15回 テスト・解説と講義のまとめ(松本大、森本洋介、桐村豪文)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	日常的に多様な形で報道される教育問題について、的確な情報を入手し自らの考えを形成するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントを配付します。
(21)参考文献	授業中、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）30%、期末評価（期末試験）70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式ですが、グループディスカッションや調べ学習等も行う予定です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	（松本）木曜12～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	（松本）dai%hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	274
(2)区分番号	274
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み－教育学への誘い－ (Human Development－Introduction to Education－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	田中 義久(教育学部)、武内 裕明(教育学部)、鈴木 愛理(教育学部)、佐藤 崇之(教育学部)、小瑤 史朗(教育学部)、松本 大(教育学部)、森本 洋介(教育学部)、小野 恭子(教育学部)、福島 裕敏(教育学部)、○増田 貴人(教育学部)、深作 拓郎(生涯学習教育研究センター)、新任教員(教育学部)、新任教員(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○各教科の教育の目的や方法、意義、特徴を論じます。 ○教科を横断する教育科学諸分野の目的や方法、意義、特徴を論じます。 ○学校外教育分野の目的や方法、意義、特徴を論じます。  教育学に関する多様な分野のいずれかを専門とする教員が、分野ごと各1回ずつ講義を行います。全15回の講義それぞれにおいて、各分野の研究概要(研究概要と研究の意義)および研究方法(学び方)が示されます。なおその際、分野別の講義とはいえ、「教育」とは「こうありたい・こうあるべきだ」という人間ないし人間関係の実現を目指した営み」と言えることから、どのような教育問題であっても、全く無関係な講義は一つもなく、何らかのヒントが得ることができるという姿勢が重要です。
(16)授業の内容予定	状況によっては内容の変更も考えられるが、その際は早急にその旨提示する。  ① 4月11日 ガイダンス(主任) ② 4月18日 教育方法(森本洋介) ③ 4月25日 社会教育(松本 大) ④ 5月9日 教育行政(桐村豪文) ⑤ 5月16日 教育学(宮崎充治) ⑥ 5月23日 特別活動(吉崎聡子) ⑦ 5月30日 家政教育(小野恭子) ⑧ 6月6日 幼児教育(武内裕明)



	⑨ 6月13日 理科教育 (佐藤崇之) ⑩ 6月20日 社会科教育 (小瑠史朗) ⑪ 6月27日 国語科教育 (田中拓郎) ⑫ 7月4日 数学科教育 (田中義久) ⑬ 7月11日 特別支援教育 (増田貴人) ⑭ 7月25日 生涯学習論 (深作拓郎) ⑮ 8月1日 学校外教育 (深作拓郎) ⑯ 8月8日 テスト (主任)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の内容をただ覚えるのではなく、講義の内容を自分自身で問い直すこと。そのためには、紹介された文献に目を通したり、日ごろから書籍や新聞に目を通すことが必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	各講義において適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	学期末試験 (各分野から2題選択し回答する。60点以上を合格とします)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を基本とする
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜14:20~15:50 (増田) オフィスアワーの時間帯で相談等の都合が合わない場合には別日程で調整しますので、メールにてお問い合わせください。 授業内容についてはそれぞれの教員にお問い合わせ下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tmasuda@hirosaki-u.ac.jp">tmasuda@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	275
(2)区分番号	275
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	人を育む営み—心の進化と発達— (Human Development—Psychological Evolution and Development—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	野寄 茉莉 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人を育む営みを理解できるようになること
(15)授業の概要	○「進化」という観点を通して、ヒトらしい心とは何かについて学ぶ。 ○「発達」という観点を通して、ヒトらしい心とは何かについて学ぶ。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 進化とは 3. ヒトらしさについて考える (1) 進化の道筋 4. ヒトらしさについて考える (2) 性淘汰 5. ヒトらしさについて考える (3) 配偶者選択 6. ヒトらしさについて考える (4) 助け合い、協力する心 7. 発達とは 8. 他者と関わる心の発達 (1) 心への気づき 9. 他者と関わる心の発達 (2) 自分を知る 10. 他者と関わる心の発達 (3) 他者の心を知る 11. 他者と関わる心の発達 (4) うそとあざむき 12. 社会関係の発達 (1) 愛着の形成 13. 社会関係の発達 (2) 大人と子ども 14. 社会関係の発達 (3) 子どもどうし 15. まとめ *進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	身の周りのできごとや報道に注意深く目を向け、進化的な意義や発達の意義について考える。 配布資料に目を通し、授業内容をふり返る。 *予習・復習は、最低でも各2時間程度行う必要がある。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない 資料を適宜配布する
(21)参考文献	授業内で適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	

	①講義内容に関する最終レポート(70%) ②授業内で適宜提出を求めるリアクション ペーパー(20%) ③授業への参加度(10%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心、必要に応じてディスカッションを 行う
(25)留意点・予備知識	ディスカッションへの積極的な参加を求める
(26)オフィスアワー	木曜 16:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:nozaki@hirosaki-u.ac.jp">nozaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	276
(2)区分番号	276
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	心理学の世界－心理学入門B－ (The World of Psychology－Introduction to psychology B－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○田名場 美雪 (保健管理センター)、高橋 恵子 (保健管理センター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人の心や行動について理解できるようになること
(15)授業の概要	○心理学の基礎的な概念および応用的なテーマ等について学習し、理解を深める。 ○心理学の視点から、日々の体験や現象等について分析する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 感覚・知覚  第3回 知能  第4回 記憶  第5回 対人認知  第6回 個人と集団 (基礎理論)  第7回 個人と集団 (応用編)  第8回 心理学とは何か および 理解度の確認  第1回から第8回 (田名場美雪)</p> <p>第9回 学習 (レスポナント条件づけ)  第10回 学習 (オペラント条件づけ)  第11回 学習の臨床応用  第12回 パーソナリティの理論  第13回 マスローの欲求階層説、適応と防衛のメカニズム  第14回 心理アセスメント (観察・面接)  第15回 心理アセスメント (心理検査)  第16回 理解度の確認 (試験) とふりかえり  第9回から第16回 (高橋恵子)</p> <p>上記内容は授業の進行具合等により変更されることもあります</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業中に示されたテーマについて、日常生活と照らし合わせながら具体的に振り返ってみること。 授業でプリントを配布するので内容の理解に努め、不明点を残さないように復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は特に指定しません。講義中に資料を適宜配布して使用します。
(21)参考文献	・久保良敏『心理学図説』（北大路書房） ・齋藤勇『イラストレート心理学入門』（誠信書房） その他、随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	担当教員ごと以下に基づき、総合的に成績評価します。 ①平常評価（授業への参加度。授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%）②試験による評価（理解度の確認。同70%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後にその日の学習内容についてのリアクションペーパーを提出してもらったことがあります。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	月曜日1コマ目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス <a href="mailto:tanaba@hirosaki-u.ac.jp">tanaba@hirosaki-u.ac.jp</a> (田名場美雪)
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	277
(2)区分番号	277
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	心理学の世界－心理学の基礎－ (The World of Psychology－Introduction to Psychology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○吉中 淳(教育学部)、野寄 茉莉(教育学部)、田名場 忍(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人の心や行動について理解できるようになること
(15)授業の概要	心理学の基本的な知識を概説的に紹介します。社会心理学・教育心理学の領域を中心に、援助行動、パーソナリティ、記憶、動機づけなどといったトピックスや、心理学の研究法について広く心理学を学びます。講義の中では心理現象への関心を深めるため実際の研究例を紹介することで、考える授業にしていきたいと思います。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 吉中 淳(教育学部) 第2～6回 心理学の方法 田名場 忍(教育学部) # 2 実験 # 3 フィールド実験, 準実験, 観察 # 4 質問紙調査 # 5 面接 # 6 中間試験(田名場担当分), 試験解説 第7～11回 学びと個人差の心理学 野寄 茉莉(教育学部) # 7 記憶のしくみ # 8 知的能力を考える # 9 パーソナリティを理解する # 10 心の個人差における遺伝と環境 # 11 試験(野寄担当分) 第12～16回 動機づけ 吉中 淳(教育学部) # 12 人間の欲求 # 13 動機づけの諸理論 # 14 動機づけと原因帰属 # 15 劣等感と学習性無力感 # 16 試験(吉中担当分), 試験解説  授業の進行状況等により、シラバスと実際の

	内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	基礎知識に関する授業内容の復習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。プリントなどの資料を配布します。
(21)参考文献	講義中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	担当教員ごとに試験等を行います。担当教員ごとの成績を合算して、最終的な成績評価とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式が中心です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	吉中のメールアドレス <a href="mailto:yosinaka@hirosaki-u.ac.jp">yosinaka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	278
(2)区分番号	278
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	心理学の世界－障害児の心理と支援－ (The World of Psychology－Psychology of disabled children and support for them－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	天海 丈久 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人の心や行動について理解できるようになること
(15)授業の概要	様々な障害のある子供についての理解を深め、必要な配慮や支援について検討する基礎的な知識及び技能を習得します。 授業では、グループワークにより様々な障害を擬似的に体験しながら障害についての理解を深め、障害による学習上又は生活上の困難に対する必要な配慮や支援を検討します。
(16)授業の内容予定	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 特別支援教育について 第 3 回 特別な教育的支援を必要とする子供の心理と理解 第 4 回 読むことが苦手な子供への支援<1>(グループワーク) 第 5 回 読むことが苦手な子供への支援<2>(グループワーク) 第 6 回 書くことが苦手な子供への支援(グループワーク) 第 7 回 計算することが苦手な子供への支援(グループワーク) 第 8 回 聞くことが苦手な子供への支援(グループワーク) 第 9 回 話すことが苦手な子供への支援(グループワーク) 第 10 回 不器用な子供への支援(グループワーク) 第 11 回 不注意のある子供への支援(グループワーク) 第 12 回 対人関係の形成が苦手な子供への支援(グループワーク) 第 13 回 視覚障害者への支援(グループワーク) 第 14 回 聴覚障害者への支援(グループワーク) 第 15 回 本人の願いを踏まえた支援の充実(グループワーク)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	グループワークでは、次の講義時にグループとしてのまとめを発表するとともに、レポートを毎回提出していただきます。



(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。
(21)参考文献	必要に応じて参考文献を紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。グループワークでの発表とレポート。評価全体の50%） 期末評価（授業終了後、レポートを提出していただきます。評価全体の50%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	第1回から第3回までは講義、第4回からはグループワークが中心となります。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては、特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	木曜日、12時から12時40分の間においでください。研究室は教育学部3-54です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	279
(2)区分番号	279
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	心理学の世界－カウンセリング心理学の基礎 ①－ (The World of Psychology－counseling psychology－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	安達 知郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人の心や行動について理解できるようになること
(15)授業の概要	心理学の歴史、カウンセリングのさまざまな考えなどについての講義です。  * 実習などは行いません。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 カウンセリングの実際 (DVD) 第3回 カウンセリングの定義 第4回 カウンセリングの歴史 第5回 カウンセリングの諸理論の概要 第6回 心理テスト論 第7回 心理テスト体験解説、カウンセリング技法論 (来談者中心療法) 第8回 カウンセリング技法論 (DVD) 第9回 カウンセリング技法論 (認知行動療法) 第10回 カウンセリング技法論 (DVD) 第11回 カウンセリング技法論 (精神分析) 第12回 カウンセリング技法論 (DVD) 第13回 カウンセリング技法論 (家族療法) 第14回 カウンセリングの基本的技法 (基本的関わり技法) 第15回 まとめ  進度、受講者数により授業内容は変更になる可能性があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業後、自らの身の回りの出来事をカウンセリング諸派の視点からふりかえってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	－
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	特にありません。 適宜、授業中に配布します。
(21)参考文献	適宜、授業中に知らせます。

(22)成績評価方法及び採点基準	授業内に行う小テストの結果で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi (アットマーク) hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	280
(2)区分番号	280
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	心理学の世界－身近な対人関係の維持と崩壊 ①－ (The World of Psychology－ maintenance and dissolution of interpersonal relationships－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	古村 健太郎 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、人の心や行動について理解できるようになること
(15)授業の概要	心理学は、社会生活の様々な場面で人々の心がどのように機能しうるのかを実証的研究によって明らかにしてきました。本授業では、日常生活における様々な場面、特に対人関係を取り上げ、我々の心がどのように動くのかについて学んでいきます。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：○○なやつは××だ - ステレオタイプと偏見 第3回：ステレオタイプや偏見といかに付き合うか 第4回：対人関係の量と質 第5回：大切な人との関係性 第6回：青年を取り巻く性のお話 (1) 第7回：青年を取り巻く性のお話 (2) 第8回：前半のまとめ、中間課題 第9回：適応基盤としての恋愛関係 第10回：不適応をもたらす恋愛関係 第11回：大切な何かを失う：喪失体験と意味づけ 第12回：失われる関係性：関係崩壊やストーカー 第13回：大切な人を失う：遺族とwell-being 第14回：被災者を援助した被災者 第15回：授業のまとめ  * 授業の進捗や受講生の意見や感想によって内容を変更する場合がある
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業を受けて興味を持った内容や疑問はそのままにせず、参考文献などを調べて知識を深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	教科書は指定しない。毎時プリントを配布する。
(21)参考文献	授業内容に関連する参考文献は適宜紹介していく。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート50%、中間課題35%、感想カード15%の総合点で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式を中心に授業を行いますが、必要に応じてグループワークも行います。また、授業の冒頭では、受講生の疑問や意見に対する回答をします。感想カードには積極的に意見・疑問・感想を書いてください。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	火曜日5・6時限。他の時間帯も問い合わせがあれば、可能な限り対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	281
(2)区分番号	281
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	メンタルヘルスーメンタルヘルス Iー (Mental HealthーMental Health Iー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○則包 和也(保健学研究科)、米内山 千賀子(保健学研究科)、田中 真(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や臨床心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、メンタルヘルスおよびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	○人間の心の健康を、自我発達、人格形成、生涯発達との関連から学識を深める ○様々なアプローチで自己分析を行い、自己および身近な人達との関係の持ち方を見直すきっかけとなる ○心の健康についての理解を深める
(16)授業の内容予定	下記の内容について、各担当者が専門の立場から、オムニバス形式で授業を行います。 1. オリエンテーション: 担当: 則包 10月7日 2. 自己認知と他者認知1(メンタルヘルスと対人関係) 担当: 則包 10月21日 3. 自己認知と他者認知2(コミュニケーションの構成と対人関係) 担当: 則包 10月29日(火) 4. 自己認知と他者認知3(対人関係のズレとメンタルヘルス) 担当: 則包 11月6日(水) 5. 自己認知と他者認知4(コラージュ療法演習) 担当: 則包 11月11日 6. 自己認知と他者認知5(メタ認知トレーニング演習) 担当: 則包 11月18日 7. 心の健康からみた正常と異常1 担当: 田中 11月25日 8. 心の健康からみた正常と異常2 担当: 田中 12月2日 9. 心の健康からみた正常と異常3 担当: 田中 12月9日 10. 心の健康からみた正常と異常4 担当: 田中 12月16日 11. 心の健康からみた正常と異常5 担当: 田中 12月23日 12. エゴグラム1 担当: 米内山 1月6日 13. エゴグラム2 担当: 米内山 1月15日(水) 14. エゴグラム3 担当: 米内山 1月20日 15. エゴグラム4 担当: 米内山 1月27日 注) 授業の進行状況等により、シラバスと実

	際の内容とが異なる場合には、その都度説明します
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業終了後に復習点、および、次回の予習点についてお知らせします(予習と復習は最低でも2時間ずつ行う必要があります)。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。随時、資料を配付します。
(21)参考文献	適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業態度や参加度、小レポートなど)30%と担当教員毎の課題レポート評価(授業回数5回の教員の場合25%、授業回数4回の教員の場合20%)を総合的に判断して行います。但し、各担当者の授業時数の2/3以上出席しなければ、当該担当者の課題レポートを提出することができません。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主に行いますが、演習やグループワークも取り入れていきます。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは随時受け付けます。但し、事前に連絡して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	則包 和也 : <a href="mailto:norikane@hirosaki-u.ac.jp">norikane@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	282
(2)区分番号	282
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	メンタルヘルス—アサーショントレーニング— (Mental Health—assertion training—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	安達 知郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や臨床心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、メンタルヘルスおよびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	アサーショントレーニングの体験学習
(16)授業の内容予定	集中形式のアサーショントレーニングの体験学習です。  第1回 アサーションとは (講義) 第2回 アサーションとは (実習) 第3回 アサーションにおける基本的権利 (講義) 第4回 アサーションにおける基本的権利 (実習) 第5回 日常場面でのアサーション (講義) 第6回 日常場面でのアサーション (実習) 第7回 認知上のアサーション (講義) 第8回 認知上のアサーション (実習) 第9回 問題解決場面でのアサーション (講義) 第10回 問題解決場面でのアサーション (実習) 第11・12回 アサーションの活用 (グループワーク) 第13回 日常場面でのコミュニケーションのふりかえり 第14回 日常場面での自己概念のふりかえり 第15回 まとめ  * 授業日は後日、掲示します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に 平木典子 (2009) 『改訂版 アサーション・トレーニング—さわやかな〈自己表現〉のために』 金子書房 を購入し、読んでおいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	



	平木典子（2009）『改訂版 アサーション・トレーニング ―さわやかな〈自己表現〉のために』 金子書房
(21)参考文献	授業内で適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	トレーニングへの参加態度（80%）、事後課題（20%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、および、実習
(25)留意点・予備知識	<p>* 実習形式の授業であるため、履修学生は24名を上限とします。</p> <p>* ワークシート代が700円かかります（実習当日に集金します）。</p> <p>* 教育学部小学校コースの学生については、学部授業で同じ内容を実施する可能性があるため、受講しないでください（中学校コースの学生は受講可です）。</p>
(26)オフィスアワー	水 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi（アットマーク）hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	283
(2)区分番号	283
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	メンタルヘルスー心と体の健康を考えるー (Mental HealthーPhysical and Mental Healthー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	○高橋 恵子(保健管理センター)、高梨信吾(保健管理センター)、田名場 美雪(保健管理センター)
(11)地域志向科目	ー
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や臨床心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、メンタルヘルスおよびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	○メンタルヘルスとは何か、心と体のつながりについて考えます ○疾病や心身の不調の予防的見地から、健康管理への意識を高めます ○健康維持・増進に向けた実践的な理論や方法論を学びます
(16)授業の内容予定	初回はイントロダクション(ガイダンス)、2回目以降はオムニバス形式で授業を展開します。  1. イントロダクション(高橋)  第2回～第7回(田名場 美雪) 2. 精神的健康の考え方と青年期の特徴 3. アイデンティティと人間関係 4. 親密化過程 5. コミュニケーション 6. 集団とアイデンティティ 7. 他者認知  第8回～第10回(高梨 信吾) 8. 睡眠障害について 9. 喫煙の問題について 10. 依存症について 学習状況の確認: 毎回講義のあとに小テストを施行し学習状況を確認する。  第11回～第16回(高橋 恵子) 11. ストレスの理解 12. ストレスマネジメント① 13. ストレスマネジメント② 14. 交流分析 15. カウンセリング論からみた心の健康 16. 学習状況の確認(試験等)

	※ 授業状況により内容の順番が変更されることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料やノートなどから授業内容を整理し課題に取り組んでください</li> <li>・ 復習では授業内容を振り返り、学んだ知識が腑に落ちるまで学習してください</li> <li>・ 講義で学んだことを日常生活の中で実践し、理解を深めることが必要です</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中、資料やプリントを適宜配布します。
(21)参考文献	国立大学等保健管理施設協議会(編)『学生と健康』(南江堂) ※本学図書館で閲覧可能です
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>各担当者毎に学習状況の確認(小テスト、試験等)を施行し、その総合点で評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常評価(30%) : 授業への参加度(ミニレポート、小テスト、リアクションペーパーなど)</li> <li>・ 期末評価(70%) : 試験、もしくはレポートで評価</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>基本は講義形式です。適宜、ワークなどの体験学習を取り入れます。</p> <p>保健管理センターの実務教員(高梨医師、田名場・高橋カウンセラー)によるオムニバス授業です。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>受講にあたって特段の予備知識は問いませんが、教えられるだけではなく、自らの体験を通して学び、理解する姿勢が大切です。知識レベル(既に知っている)の思い込みから離れて、ぜひ実際に取り組んでみて下さい。</p>
(26)オフィスアワー	保健管理センターの窓口で適宜、予約して申し込んでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/hokekan/">https://www.hirosaki-u.ac.jp/hokekan/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	284
(2)区分番号	284
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	メンタルヘルスー幼少期トラウマの癒しと栄養による精神的健康の増進ー (Mental HealthーMental health promotion by healing of trauma received in childhood and nutritionー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	阿部 由紀子 (保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○保健学や臨床心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、メンタルヘルスおよびその維持や増進を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○幼少期に日常的に繰り返しマルトリートメント(不適切な養育)を受けた経験が、その後の精神的健康に及ぼす影響について理解するとともに、幼少期トラウマの癒し方について学習する。</p> <p>○栄養素の吸収過程など、生理学のうち、メンタルヘルスに関わる領域を中心に学習し、それらの知識に基づき、食生活および栄養が精神的健康に関わっていることを理解する。</p> <p>○認知療法、精油、音楽聴取など、メンタルヘルスの維持および増進に役立つと考えられる方法について学習する。</p> <p>○上記の知識および技能に基づいて、自主学習によりメンタルヘルスの維持および増進について理解を深める。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 うつ病について</p> <p>第3回 食物の消化</p> <p>第4回 栄養素の吸収と代謝〈1〉</p> <p>第5回 栄養素の吸収と代謝〈2〉</p> <p>第6回 栄養素の吸収と代謝〈3〉</p> <p>第7回 ホメオスタシスとホルモン</p> <p>第8回 愛着について</p> <p>第9回 マルトリートメントによるトラウマ〈1〉</p> <p>第10回 マルトリートメントによるトラウマ〈2〉</p> <p>第11回 マルトリートメントによるトラウマ〈3〉</p> <p>第12回 マルトリートメントによるトラウマ〈4〉</p> <p>第13回 栄養とメンタルヘルス</p> <p>第14回 自記式認知療法</p> <p>第15回 精油・音楽聴取・呼吸法・瞑想など</p>

	授業の進行状況等により、実際の内容がシラバスと異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	○授業実施後、復習を行ってください。 ○授業で紹介したことで、関心のあることやさらに深く知りたいことについて、図書等を利用して自主的に学習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業でプリントを適宜配布します。
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	以下の割合で評価します。 授業への参加度：44% レポート：56%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の最後に、その日の講義の内容に関するレポートを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって、特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yabe5615@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	授業中は静粛に、出入りは必要最小限にしてください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	285
(2)区分番号	285
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康—食と健康— (Life and Health—Food and Health—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○藤田 あけみ(保健学研究科)、佐藤 之紀(農学生命科学部)、高間木 静香(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	○健康な生活を送るために重要な食事と排泄の関係を理解し、健康を維持するための食生活と排泄コントロールについての学びを深めます。(藤田) ○中等教育で学んできたことをもう一度思い浮かべることや定義を確認することにより、いかにあいまいな中で食品の役割を捉えているかを認識する。(佐藤) ○健康な生活を送るための食行動がとれるよう、食をめぐる問題や取り組みについての理解を深め、食生活について考えます。(高間木)
(16)授業の内容予定	第1回(4/12):オリエンテーション、食とは(担当:藤田) 第2回(4/19):栄養と食事、消化・吸収、排泄の基本知識(担当:藤田) 第3回(4/26):食物選択に影響する要因(担当:藤田) 第4回(5/10):主な排泄障害(便秘、下痢)(担当:藤田) 第5回(5/17):排泄障害と食生活(担当:藤田) 第6回(5/24):健康を維持するための食生活と排泄コントロール(担当:藤田) 第7回(5/31):健康を維持するための食生活と排泄コントロールのまとめ(担当:藤田) 第8回(6/7):食品には機能が存在しない?(担当:佐藤) 第9回(6/14):水は食品か?水はH <sub>2</sub> Oか?(担当:佐藤) 第10回(6/21):野菜は本当に健康に良いのか?(担当:佐藤) 第11回(6/28):ある飲料は骨を黒くする—食品の印象はこうやって作られる—(担当:佐藤) 第12回(7/5):食事で運動パフォーマンスを高めることができるのか?(担当:佐藤)

	<p>第13回(7/12):現代の“食”をめぐる諸問題 (担当:高間木)</p> <p>第14回(7/19):自分の食生活を振り返ってみよう(担当:高間木)</p> <p>第15回(7/26):健康の維持・増進のための食生活(担当:高間木)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習:新聞やテレビ、インターネットなどから健康や食に関する情報を得て授業に臨んでください。</p> <p>復習:授業の内容を踏まえて自己の食生活について振り返り、学びを深めてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使いません。適宜プリントを配布します。また、教科書や参考書は授業中に紹介します。
(21)参考文献	大鶴勝編、佐藤之紀ら著、食品学・食品機能学、朝倉書店など
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況:50%、レポート:50%、これらを合算して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主体に行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	藤田あけみ:随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	藤田あけみ:a_fujita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医療機関での実務経験のある教員は、実務経験を踏まえた授業を行います。

## 教養教育科目

(1)整理番号	286
(2)区分番号	286
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康－生活習慣と健康－ (Life and Health－Lifestyle related disease and health management－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○小倉 能理子(保健学研究科)、富澤 登志子(保健学研究科)、漆坂 真弓(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	人生を健康的に生きるために、疾病(生活習慣病を中心に)を予防し、健康を維持・増進するための具体的な生活習慣について学ぶ。 また、自分の生活を振り返り、よりよい生活習慣を考える。
(16)授業の内容予定	1回. 4/12 オリエンテーション 健康・生活習慣病について(小倉) 2回. 4/19 メタボリックシンドロームとその予防(小倉) 3回. 4/26 慢性閉塞性肺疾患とその予防(小倉) 4回. 5/10 脳血管疾患とその予防(小倉) 5回. 5/17 青年期と生活習慣(小倉) 6回. 5/24 睡眠(漆坂) 7回. 5/31 喫煙(漆坂) 8回. 6/ 7 飲酒(漆坂) 9回. 6/14 生活習慣(睡眠・喫煙・飲酒)と健康グループワーク①(漆坂) 10回. 6/21 生活習慣(睡眠・喫煙・飲酒)と健康グループワーク②(漆坂) 11回. 6/28 生活習慣と自己管理(富澤) 12回. 7/ 5 グループワーク(富澤) 13回. 7/12 運動・糖尿病(富澤) 14回. 7/19 グループワーク(富澤) 15回. 7/26 発表(富澤)  定期試験は行わない
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	○授業で疑問に思ったことなどについて、自分で調べ、考察するなどの学習を続けて下さい。新聞等の健康に関する内容に注目し、授業の理解に役立ててください。 ○弘大Moodle <a href="https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php">https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php</a> からログインして、事前・事後学習の課題を確認してください また、復習は、前回の講義部分について聴衆応答システム(クリッカー)を用いてクイズ形式で確認をします。 また、講義の後、弘大Moodle <a href="https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php">https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php</a> にて課題を提示しておきますので、各自指示に従って行ってください。



(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてその都度紹介します。
(21)参考文献	必要に応じてその都度紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	各教員がそれぞれの担当時間内に試験またはレポートで採点し、それを総合して成績とします。 一部の教員のみ、 弘大Moodle <a href="https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php">https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php</a> にて課題を提示 しますので、期日までに提出ください。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式で行いますが、一部に演習を含みます（グループワークが主の授業も複数あります）。
(25)留意点・予備知識	授業の内容は多少変更になる場合があります。
(26)オフィスアワー	随時対応しますが、事前にメール等で予約ください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小倉 : <a href="mailto:ogu1224@hirosaki-u.ac.jp">ogu1224@hirosaki-u.ac.jp</a> 漆坂 : <a href="mailto:urushima@hirosaki-u.ac.jp">urushima@hirosaki-u.ac.jp</a> 富澤 : <a href="mailto:tmtott@hirosaki-u.ac.jp">tmtott@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	287
(2)区分番号	287
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康—人間発達とリハビリテーション— (Life and Health—Human Development and Rehabilitation—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小枝 周平(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>ヒトが生まれてから生じる心身の変化を人間発達といいます。</p> <p>この講義では、子どもがどのように寝返る・座る・歩くといった運動や、話すこと・友達と遊ぶことといった社会性を身につけていくのかといった発達期の変化に関する内容についてお話しします。</p> <p>また、高齢者が老化によって心身にどのような変化を生じるのかといった高齢期に生じる変化について講義します。</p> <p>さらに、リハビリテーションではこれらの人間発達にどのように関わっていくのかについて、具体的事例を通して解説していきます。</p> <p>この講義を通して以下の理解を深めることを目指しています。(見通す力)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人間発達についての理解を深める <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの運動やこころ、日常生活の発達について知る</li> <li>高齢者の老化による運動や認知機能の低下について知る</li> </ul> </li> <li>人間発達の支援に対するリハビリテーション職種の役割について理解を深める</li> </ol>
(16)授業の内容予定	<p>この授業では前半を子どもの発達、後半を高齢者の老化の構成となっています。</p> <p>講義ではこれらの時期に生じるヒトの心身の変化について解説していき、発達に問題を抱えた子どもや認知症などをもつ高齢者に対するリハビリテーションの内容などについて解説していきます。</p> <p>毎回の講義の最後には15分程度の小テストを実施し、学習内容について振り返りを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション、人間発達について</li> <li>子どもの発達① 身体とこころの成</li> </ol>

	<p>長、生活の変化</p> <p>3. 子どもの発達② からだの運動（寝返り、座る、歩く など）</p> <p>4. 子どもの発達③ からだの運動（走る、投げる、飛ぶ など）</p> <p>5. 子どもの発達④ 手の運動（握る、つまむ など）</p> <p>6. 子どもの発達⑤ 知的機能（知る、まねる など）、社会性（日常生活の動作、遊ぶ など）</p> <p>7. 子どもの発達⑥ 障がいをもつ子どもの成長</p> <p>8. 子どもの発達⑦ 障がいをもつ子どもに対する援助</p> <p>9. 高齢者の老化① 身体の変化</p> <p>10. 高齢者の老化② こころの変化</p> <p>11. 高齢者の老化③ 日常生活の変化</p> <p>12. 高齢者の老化④ 安静臥床の悪影響</p> <p>13. 高齢者の老化⑤ 高齢者の健康と運動</p> <p>14. 高齢者の老化⑥ 高齢者の運動と外傷</p> <p>15. 高齢者の老化⑦ 高齢者に対する援助</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】参考文献やインターネットなどを利用して各テーマに関連する用語などについて事前学習をします</p> <p>【復習】講義内容を再度振り返り、講義で得た知識についてを整理します</p> <p>(予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	講義資料
(21)参考文献	<p>福田恵美子編集「人間発達学（改訂4版）」（2017）中外医学社</p> <p>上杉雅之監修「イラストでわかる人間発達学」（2015）医歯薬出版株式会社</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（実習への参加度。単なる出席回数ではない。評価全体の40%）</p> <p>テストの評価（各講義の最後に行う確認テストの点数。評価全体の60%）</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。</p> <p>授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としません。</p> <p>授業中の学習意欲に欠ける態度等については参加態度の得点から大きく減点します。</p> <p>出席態度、期末試験の合計点が6割以上の者に単位を付与します。</p> <p>なお、授業出席時間数が授業時間数の3分の2に達していない者は「不合格」となるので注意してください。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	<p>遅刻は2回で欠席とします。</p> <p>講義開始から30分以上の遅刻は欠席として扱いますので注意してください。</p>
(26)オフィスアワー	<p>毎週火・水曜日9：00～17：00</p> <p>※日程・時間を事前に調整してください（メールでよいです）</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ot_koeda@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他

講義内容には作業療法士としての実務経験に関する内容が含まれる。

## 教養教育科目

(1)整理番号	288
(2)区分番号	288
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康ーストレスと健康ー (Life and HealthーStress and Healthー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高橋 恵子 (保健管理センター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようになること
(15)授業の概要	(1) ストレスについて学びます。 (2) 心身相関の気づきを体験的に理解します。 (3) 健康増進に向けた自律的なリラクゼーション法を修得します。
(16)授業の内容予定	1. イントロダクション ～ストレスと健康 基礎編：ストレスについて考える 2. ストレス反応 3. ストレスと情動・身体 4. ストレス関連疾患 実践編：心と身体の話 (リラクゼーショントレーニング/エクササイズ) 5. 呼吸の観察、漸進性筋弛緩法① 6. 呼吸の観察、漸進性筋弛緩法② 7. 自律訓練法① 8. 自律訓練法② 9. 自律訓練法③ 10. フォーカシング 11. マインドフルネス他 応用編：健康カウンセリング～各種心理療法的アプローチ 12. 交流分析 (構造分析) 13. 交流分析 (ストローク、基本的構え) 14. 交流分析 (ラケット、ドライバー、ミニ脚本) 15. 認知の働き、行動活性化その他 16. 理解度の確認 (試験) とふりかえり ※授業の進行状況によって順番や内容の変更がありえます。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	○授業で基本事項を理解し、体験を通じて学びを深めてゆきます。 ○既に知っているとの思い込みは理解を損な

	<p>います。初心に返って学ぶ姿勢が必要です。  ○授業で学習したことを日常生活で繰り返しかえし練習して、記録をつけていきます。  ○授業の最後に体験レポートの報告および修得度の試験を行い全体を振り返ります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	講義の配付資料を中心に、参考書なども随時紹介します。
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>下記について総合評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（30％）：授業への参加度、リフレクションペーパーの提出</li> <li>・試験（70％）：まとめの報告、体験記録、中間レポート、期末テスト</li> </ul>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>理論編の講義の後で体験的なエクササイズを行います。ワーク等を行っていきますので、日々の生活のなかで繰り返し練習し、振りかえります。エクササイズ自体は難しいものではありませんが、からだに落とし込むために繰り返し、コツコツと時間をかけてじっくり取り組む姿勢が必要です。聞くだけ、出席だけ、教わるだけの受講はお勧めしません。体験を通じて心身相関の気づき深めます。</p>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義とエクササイズを並行して授業を進めます。日々のなかで繰り返し練習を重ねてゆきます。</li> <li>・内容上、30名程度を履修の上限とします。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	保健管理センターの窓口で、随時申し込んでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： <a href="mailto:takak@hirosaki-u.ac.jp">takak@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	289
(2)区分番号	289
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康－薬用植物・生薬概論－ (Life and Health－Introduction to medicinal plants and natural medicines－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	勝川 健三 (教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようにすること
(15)授業の概要	○薬用植物の各論に加え現代の生活のなかで関わる生薬・薬用植物について概説します。 ○薬用植物・生薬について薬学的・農学的見地から解説するのはもとより民俗学的見地からも解説します。
(16)授業の内容予定	各講では下記のタイトルに沿った講義を行うほか、適宜薬用植物の各論も行います。 1 ガイダンス 2 生薬・生薬学とその研究領域 3 ゲストスピーカーによる講義 (薬用植物と栽培化) 4 植物とは／植物の分類と器官の形態 5 植物の器官の形態 6 人類と薬用植物との関わり 7 薬用植物療法を最高度に体系化した中医と漢方 8 現代医学で見直される漢方薬の効能・効果 9 セルフメディケーション／健康食品・サプリメントとしても使われる薬用植物 10 薬毒同源 11 薬用植物を保護し栽培する 12 漢方-基礎の基礎- 13 漢方の考え方 (1) 漢方で未病を治す 14 漢方の考え方 (2) 漢方で生活習慣病を治す 15 授業の総括と理解度の確認
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに該当する箇所の事前学習として、事前にインターネットで関連する語句を検索し、イメージを膨らませてください。 授業後は、講義内容の理解に努めるべく復習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	薬学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生産環境農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	必要に応じて適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	日本薬局方 厚生労働省 ( <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunva/0000066530.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunva/0000066530.html</a> ) 『資源・応用薬用植物学』(978-4-567411-23-3) 『薬草の科学』(978-4-526-07021-1) 『生薬単』(978-4-860431-79-2) 『生薬学への誘い』(978-4-901789-27-1) 書籍は研究室で閲覧できます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度。リアクションペーパーの内容に基づくもので単なる出席回数ではない。評価全体の30%)と期末レポート評価(理解度の確認。同70%) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本はスライドによる講義形式です。授業の最後にその日の講義についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出し次回授業時に紹介・回答する場合があります。また薬用植物や生薬の実物を教室に持ち込み紹介する場合があります。
(25)留意点・予備知識	本授業は薬用植物・生薬を農学的・薬学的・民族植物学的見地から紹介するものであり、受講にあたって特段の予備知識を必要とするものではありません。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日の12:00-12:30, 教育学部棟2階 技術教員研究室(1)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp (#を@に変更してください)
(28)その他	薬学部薬用植物園の研究者(実務家教員)をゲストスピーカーとして招聘する予定です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	290
(2)区分番号	290
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	生活と健康－食と栄養と薬の関係－ (Life and Health－Interaction of foods, nutrition and pharmaceuticals－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	岩井 邦久 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○保健学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、健康およびその維持や増進を理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>「なぜ食べるのか」、「『栄養がある』とはどういうことか」、「なぜお茶で薬を飲んではいけないのか」など、健康な食生活に関する基礎的なことを科学的に学びます。また、健康な生活を送るために必要な情報を取捨選択できるようになるために、食品の働きを学び、栄養や健康との関係、薬への影響を解説します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 人間と食品 ・人と食品の関係について学びます。</p> <p>第2回 食品の分類と食品成分表 ・食品の分類、成分の情報について学びます。</p> <p>第3回 食品の一次機能の科学-1 ・水分、炭水化物の科学的性質を学びます。</p> <p>第4回 食品の一次機能の科学-2 ・脂質、タンパク質の科学的性質を学びます。</p> <p>第5回 食品の一次機能の科学-3 ・ビタミン、ミネラルの科学的性質を学びます。</p> <p>第6回 食品の二次機能の科学-1 ・色、味など食品のおいしさに関わる科学的性質を学びます。</p> <p>第7回 食品の二次機能の科学-2 ・匂い、かたさなど食品のおいしさに関わる科学的性質を学びます。</p> <p>第8回 食品の三次機能の科学 ・食品成分の生体調節機能を学びます。</p> <p>第9回 有害成分 ・有毒成分と発症や経路を学びます。</p> <p>第10回 食品の表示と規格・基準 ・食品につけられる表示の基準や制度を理解します。</p> <p>第11回 摂食行動、消化・吸収と栄養素 ・食べる行動のメカニズム、食べた食品成分が吸収される過程を学びます。</p>



	<p>第12回 栄養と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品成分が持つ栄養と健康の関係を学びます。</li> </ul> <p>第13回 栄養と遺伝</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品成分の遺伝やがんへの影響を学びます。</li> </ul> <p>第14回 食品と医薬品の関係-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬が効き目を現す仕組みを体内挙動から学びます。</li> </ul> <p>第15回 食品と医薬品の関係-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬の効き目に影響を及ぼす食品成分について学びます。</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を中心に予習してください。復習は各回の学びの振り返りと自分の食生活の見直し、章単位のレポート作成を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	薬学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書を使用しますので購入してください。カレント食べ物と健康1: 食品の化学と機能, 青柳康夫, 津田孝範編著, 建帛社, ISBN 978-4-7679-0594-5, 2017年.
(21)参考文献	イラストでわかる! 特定保健用食品と医薬品, 藤本浩毅, 篠塚和正, 文光堂, ISBN 978-4-8306-6049-8, 2016年. 基礎栄養学改訂第5版, 奥恒行, 柴田克己編, 南江堂, ISBN 978-4-524-25825-3, 2015年.
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価で評価します。評価は各章の内容に関する課題レポートです(9回, 随時)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書を使用して進めます。パワーポイントを資料として配布し、空欄の質問に答えてもらいます。
(25)留意点・予備知識	身の回りにある食品や薬の情報に注意を払うと学習が効果的です。
(26)オフィスアワー	月曜11:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:iwai-kuni@hirosaki-u.ac.jp">iwai-kuni@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実務(医薬品開発)経験のある教員が担当します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	291
(2)区分番号	291
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康A－ヨガの理論と実践－ (Exercise and Health A－Theory and practice of yoga－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高間木 静香(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	○日常生活に応用できるヨガの理論について学習する。 ○ヨガのアーサナやプラーナヤーマを実践する。 ○自己の心身の状態に目を向け、より良い状態にするための意識や態度を養う。
(16)授業の内容予定	第1回(4/12) ガイダンス 第2回(4/26) ヨーガの実践(1) 基本のアーサナ 第3回(5/10) ヨーガの実践(2) 座位のアーサナ 第4回(5/17) ヨーガの実践(3) 仰向けのアーサナ 第5回(5/24) ヨーガの実践(4) うつぶせのアーサナ 第6回(5/31) ヨーガの知識を深める(1) ヨーガの歴史、概念 第7回(6/7) ヨーガの知識を深める(2) 課題学習 第8回(6/14) ヨーガの実践(5) 立位のアーサナ 第9回(6/21) ヨーガの実践(6) バランスのアーサナ 第10回(6/28) ヨーガの実践(7) 太陽礼拝 第11回(7/5) ヨーガの知識を深める(3) ヨーガと健康 第12回(7/12) ヨーガの実践(8) アーサナとプラーナヤーマ 第13回(7/19) ヨーガの実践(9) アームバランスのアーサナ 第14回(7/26) ヨーガの実践(10) コアのアーサナ 第15回(8/2) ヨーガの実践(11) まとめ  ※4/19は担当教員の都合により休講となります。また授業日程や内容に変更がある場合には授業の中でお知らせします。 ※ヨガの実践内容は各回のテーマのアーサ

	ナを中心に行いますが、実践の状況により変更・調整して行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・授業で行った実技を自宅でも行ってみること、学んだ理論を自己の生活の中で活用して見る必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて、授業中に資料が配布されます。
(21)参考文献	以下の書籍は図書館で閲覧可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・立川武蔵『ヨーガの哲学』（講談社）</li> <li>・山下博司『ヨーガの思想』（講談社）</li> <li>・Satori Sankara, 久保玲子監修『YOGAポーズ大全』（成美堂出版）</li> <li>・木村慧心『ヨーガ療法とストレス・マネージメント：人間の構造論と機能論』（ガイアブックス）</li> <li>・向井田みお『やさしく学ぶYOGA哲学ヨーガストラ』（YOGA BOOKS）</li> </ul>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、平常レポート）：60% 中間評価（中間レポート）：20% 期末評価（期末レポート）：20% 上記を合算して、最終的な評価が行われる予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	実技および講義によって進めます。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備知識は特に必要ありません。ヨーガが初めてでも大丈夫です。</li> <li>・動きやすい服装で参加してください。室内用シューズは不要です。</li> <li>・第6回（5/31）および第11回（7/5）は、場所が変更になる予定です。授業での説明、掲示に注意してください。</li> <li>・用具および実施場所の都合上、履修者の上限を40名とします。履修希望者多数の場合には抽選を行い決定しますので、受講希望者は第1回目の授業開始時刻にお集まりください。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	随時対応します。事前にメール等で連絡をお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:takamagi@hirosaki-u.ac.jp">takamagi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	担当教員はヨーガのインストラクターの資格を所有しています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	292
(2)区分番号	292
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康 A－健康運動実践－ (Exercise and Health A－Practice of the exercise for health－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○上野 秀人 (教育学部)、戸祭 潤 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	・学習活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実施方法を学習することを目指します。 ・バドミントンの動きづくりやスポーツ傷害・外傷の予防のためのフットワークやストレッチングも実施する。
(16)授業の内容予定	1 オリエンテーション、基礎打ち・実技:戸祭 2 ストレッチング・バドミントンの基礎知識、実技:戸祭 3 技能実習Ⅰ(グリップワーク、回内、回外動作):戸祭 4 技能実習Ⅱ(ラケットワーク・フットワーク)、脈拍・体重・体脂肪測定①:上野、戸祭 5 技能実習Ⅲ(ドライブ・ヘアピン・クリアー):戸祭 6 技能実習Ⅳ(ドロップ・スマッシュ・ヘアピン):戸祭 7 技能実習Ⅴ(ストロークまとめ):戸祭 8 運動時の心拍数・血圧測定、技能実習Ⅵ(簡易ラリー):戸祭 9 筋力トレーニング基礎知識、脈拍・体重・体脂肪測定②、技能実習Ⅶ(まとめ):戸祭 10 半面シングルス(ゲーム進行・ルールを覚える):戸祭 11 運動時の心拍数・血圧測定、半面シングルスゲーム(相手をよく見る):戸祭 12 運動時の心拍数・血圧測定、半面シングルスゲーム(相手を動かす):上野、戸祭 13 ダブルス(ゲーム進行、ルールを覚える):戸祭 14 ダブルスゲーム(ゲームの戦略を学ぶ):戸祭 15 脈拍・体重・体脂肪測定③、ダブルス(問題点の修正):上野、戸祭 16 実技テスト:戸祭

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	体力に関する知識習得のための予習・復習、健康と運動に関する知識習得のための予習・復習、演習・実技で学んだ運動・スポーツ・トレーニングの実践、生活習慣の振り返り
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	○平常評価：50点 ・学習態度 ○期末テスト：50点 ・技能テスト ・知識テスト
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・実技・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ueno@hirosaki-u.ac.jp">ueno@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	運動着・体育館用シューズは持参してください。 ラケット・シャトルは大学で用意しています。 ※ラケットを持参するのは可

## 教養教育科目

(1)整理番号	293
(2)区分番号	293
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康 A－健康運動実践－ (Exercise and Health A－Practice of the exercise for health－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○上野 秀人 (教育学部)、戸祭 潤 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	・学習活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実施方法を学習することを目指します。 ・バドミントンの動きづくりやスポーツ傷害・外傷の予防のためのフットワークやストレッチングも実施する。
(16)授業の内容予定	1 オリエンテーション、基礎打ち・実技：戸祭 2 ストレッチング・バドミントンの基礎知識、実技：戸祭 3 技能実習Ⅰ（グリップワーク、回内、回外動作）：戸祭 4 技能実習Ⅱ（ラケットワーク・フットワーク）、脈拍・体重・体脂肪測定①：上野、戸祭 5 技能実習Ⅲ（ドライブ・ヘアピン・クリアー）：戸祭 6 技能実習Ⅳ（ドロップ・スマッシュ・ヘアピン）：戸祭 7 技能実習Ⅴ（ストロークまとめ）：戸祭 8 運動時の心拍数・血圧測定、技能実習Ⅵ（簡易ラリー）：戸祭 9 筋力トレーニング基礎知識、脈拍・体重・体脂肪測定②、技能実習Ⅶ（まとめ）：戸祭 10 半面シングルス（ゲーム進行・ルールを覚える）：戸祭 11 運動時の心拍数・血圧測定、半面シングルスゲーム（相手をよく見る）：戸祭 12 運動時の心拍数・血圧測定、半面シングルスゲーム（相手を動かす）：上野、戸祭 13 ダブルス（ゲーム進行、ルールを覚える）：戸祭 14 ダブルスゲーム（ゲームの戦略を学ぶ）：戸祭 15 脈拍・体重・体脂肪測定③、ダブルス（問題点の修正）：上野、戸祭 16 実技テスト：戸祭

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	体力に関する知識習得のための予習・復習、健康と運動に関する知識習得のための予習・復習、演習・実技で学んだ運動・スポーツ・トレーニングの実践、生活習慣の振り返り
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	○平常評価：50点 ・学習態度 ○期末テスト：50点 ・技能テスト ・知識テスト
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・実技・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ueno@hirosaki-u.ac.jp">ueno@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	運動着・体育館用シューズは持参してください。 ラケット・シャトルは大学で用意しています。 ※ラケットを持参するのは可

## 教養教育科目

(1)整理番号	294
(2)区分番号	294
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康Aー運動とリハビリテーションAー (Exercise and Health AーExercise and rehabilitation Aー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	尾田 敦(保健学研究科)、○藤田 あけみ (保健学研究科)、高見 彰淑(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	○障がい者を理解するため、障がい者のスポーツ活動の現況を教授し、障がい者について考えてもらうとともに、健常者のスポーツ活動で生じるけがの種類と原因を理解しリハビリテーションの基本的な考え方を理解してもらいます。(尾田) ○脳卒中のリハビリテーションの概要について学びます。骨折やスポーツ障害、末梢神経損傷など整形外科的疾患との違いを伝え、中枢神経の回復を講義やVTRなどを通して学習し、後遺症を持った障害者の生活スタイルについて理解を深めます。(高見) ○運動機能の障害と支援、リハビリテーション看護の専門性について理解し、リハビリテーションケアの役割について考えてもらいます。(藤田)
(16)授業の内容予定	第1回 : 切断と義足 : 義足のメカニズムを知る(担当 : 尾田) 第2回 : 障がい者のスポーツ活動について(担当 : 尾田) 第3回 : オリンピックとパラリンピックについて(担当 : 尾田) 第4回 : スポーツに活動に伴うけがの危険因子とリハビリテーションの概要(担当 : 尾田) 第5回 : 運動連鎖に伴う足部機能の重要性と身体バランスとの関連(担当 : 尾田) 第6回 : 脳卒中の病態、障害像(担当 : 高見) 第7回 : 脳卒中のおもな症状(担当 : 高見) 第8回 : 脳卒中のおもな併存症(担当 : 高見) 第9回 : 高次脳機能障害(担当 : 高見) 第10回 : 脳卒中のリハビリテーション(担当 : 高見) 第11回 : 運動機能の障害と支援(起座困難、体位変換困難、歩行困難、把持困難、網羅性の低下)(担当 : 藤田) 第12回 : 運動機能の障害と支援(日常生活活動困難、運動機能に関係する痛み、廃用性変



	<p>化) (担当：藤田)</p> <p>第13回：リハビリテーション看護の専門性 (生活機能障害のアセスメント、チーム・アプローチの役割、廃用予防) (担当：藤田)</p> <p>第14回：リハビリテーション看護の専門性 (回復過程の促進、学習支援、リハビリテーション医療の阻害因子の発見や効果の評価) (担当：藤田)</p> <p>第15回：リハビリテーションケアの実際(口腔ケア) (担当：藤田)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	オムニバス授業のため、渡されたプリント資料などを毎回復習し、疑問点などは次の講義の際に質問するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。授業で配布するプリントで適宜紹介します。
(21)参考文献	授業時間内に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況：30%、小テスト：70%、これらを合算して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主体に行います。
(25)留意点・予備知識	運動生理学・障害とリハビリテーション・生活習慣病の知識を持って講義に望むことを希望します。(尾田)
(26)オフィスアワー	藤田あけみ：随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	尾田敦： <a href="mailto:atusioda@hirosaki-u.ac.jp">atusioda@hirosaki-u.ac.jp</a> 高見淑彰： <a href="mailto:a-takami@hirosaki-u.ac.jp">a-takami@hirosaki-u.ac.jp</a> 藤田あけみ： <a href="mailto:a_fujita@hirosaki-u.ac.jp">a_fujita@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	医療機関での実務経験を踏まえた授業内容としています。

## 教養教育科目

(1)整理番号	295
(2)区分番号	295
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康Aー運動とリハビリテーションCー (Exercise and Health AーExercise and rehabilitation Cー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	○若山 佐一(保健学研究科)、平川 裕一 (保健学研究科)、野戸 結花(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	この授業では、障害とその理解、運動と生活習慣病、理学療法や作業療法のこと、運動が身体や心に及ぼす影響等について学びます。
(16)授業の内容予定	以下に記載の順で担当します。 若山 佐一 5回目に試験を行う 第1回4/15 理学療法とは？ 第2回4/22 理学療法、運動とリハビリテーション 第3回5/11 障害事例からリハビリを考える_神経難病、障害者総合支援法の改訂と指定難病 第4回5/13 障害事例からリハビリを考える_脳血管障害 第5回5/20 障害事例からリハビリを考える_高齢者、まとめと試験30分間  野戸 結花 3回目に試験を行う 第1回5/27 障害の理解(1) 第2回6/ 3 障害の理解(2) 第3回6/10 障害とともに生きる、まとめと試験30分間  平川 裕一 7回目に試験を行う 第1回6/17 ひとの生活、障害、リハビリテーション 第2回6/24 医学的リハビリテーション 第3回7/ 1 作業療法 第4回7/ 8 作業療法の対象者 第5回7/18 福祉用具 第6回7/22 身体疾患別作業療法 ~脳血管障害、脊髄損傷、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷~ 第7回7/29 介護予防と健康、まとめと試験30分間
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	授業で渡されたプリント資料などを毎回復習し、疑問点などは次の講義の際に質問するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	授業時間内に適宜紹介します。また必要に応じてプリントなどを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	原則として各教員による試験により評価します。各教員の担当時間配分にて配点します。各教員の評価について、各々6割を超えることが単位取得の条件となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	原則として講義形式で行います。時には演習を行う場合もあります。
(25)留意点・予備知識	本科目は3人の教員によるオムニバス形式の授業であり、各教員がそれぞれ担当の最終回に試験を行う場合や毎回の授業で評価する場合があります。本シラバスの「授業の内容予定」欄に記載されている試験のある授業回数に十分留意してください。また、予備知識として、リハビリテーションや障害(者)、運動が身体に及ぼす影響などに関心や興味を持ち、知識を得ていることが望ましいでしょう。
(26)オフィスアワー	若山：月・水・木曜日；17:40～18:30 平川：火・水・金曜日；9:00～11:30 野戸：メールで事前連絡をしてください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	若山佐一；swaka@ 野戸結花；noto@ 平川裕一；yhira@
(28)その他	理学療法士や作業療法士、看護師として医療現場にて勤務した経験から、理学療法、作業療法、リハビリテーション、リハビリテーション看護について経験を踏まえた講義内容としている。

## 教養教育科目

(1)整理番号	296
(2)区分番号	296
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康 A－運動とリハビリテーションB (子どもから老人まで)－(Exercise and Health A－Exercise and rehabilitation focused on motor development and aging－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	○石川 玲(保健学研究科)、石川 大瑛(保健学研究科)、高橋 純平(保健学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	○子ども、成人、高齢者における身体的特徴と健康維持のための運動の意義について学習し、理解を深める。 ○各年齢層におけるスポーツ傷害および不活動等の弊害と予防的なりハビリテーションについての理解を深める ○上記の学習を通して、将来の子育て、健康の維持増進、運動指導に必要な基礎知識を身につける。
(16)授業の内容予定	3人の教員によるオムニバス授業です。  石川玲 第1回 授業オリエンテーション、子どものからだと成長(原始反射と運動発達) 第2回 子どものからだと成長(スキヤモンの臓器別の発育曲線) 第3回 子どもの運動機能の発達(骨・関節・筋、呼吸・循環機能) 第4回 子どもにみられるスポーツ傷害とその特徴 第5回 成長段階を考慮した運動指導の基本、第1回～第5回のまとめ(筆記試験40分)  石川大瑛 第6回 筋の機能について 第7回 不活動と疼痛 第8回 腰痛とリハビリテーション 第9回 上肢のスポーツ障害 第10回 下肢のスポーツ障害、第6回～第7回のまとめ(筆記試験40分)  高橋純平 第11回 加齢と廃用症候群 第12回 メタボリック症候群とロコモティブ症候群

	<p>第13回 老年期症候群、閉じこもり症候群、転倒後症候群</p> <p>第14回 柔軟運動、バランス運動の基礎</p> <p>第15回 筋力増強運動、有酸素運動の基礎、第11回～第15回のまとめ（筆記試験40分）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業内容予定を参考とし、図書館に配架されている図書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に配布されたプリントや紹介された文献等を基に復習を行ってください。（予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。）
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。毎回プリントを配布します。
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。単なる出席回数ではなく、授業中の発言や問いかけへの応答に基づく。評価全体の30%） 教員ごとに課す小テスト、課題レポートまたは筆記試験により理解度を評価します。（評価全体の70%） 上記を教員個々に100%で評価し、3人の評価結果を平均して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式であり、プリントや視聴覚教材を用いて授業を進めます。
(25)留意点・予備知識	子供の成長については運動機能の発達に着目し、心の発達を扱わないので注意してください。 受講にあたって特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	授業開始前8:30～8:40と終了後10:10～10:20 Eメールでの質問も可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	石川 玲 : <a href="mailto:aishi@hirosaki-u.ac.jp">aishi@hirosaki-u.ac.jp</a> 石川大瑛 : <a href="mailto:takaaki@hirosaki-u.ac.jp">takaaki@hirosaki-u.ac.jp</a> 高橋純平 : <a href="mailto:junpei@hirosaki-u.ac.jp">junpei@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	講義内容には病院等での理学療法士としての実務経験に関する内容が含まれる。 受講に当たって疾病や障害などによる配慮を必要とする場合は、事前にEメールで石川玲に相談してください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	297
(2)区分番号	297
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康Aーリハビリテーションとメンタルヘルスー (Exercise and Health Aー Rehabilitation and mental healthー)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	○井瀧 千恵子(保健学研究科)、澄川 幸志(保健学研究科)、佐藤 ちひろ(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること
(15)授業の概要	この授業では、多様な人の健康づくりとスポーツやリハビリテーションとメンタルヘルスについての講義を行い、みなさん自身が学んだことを自分自身の人生の中で活かしていけるよう、健康や障害について考えるきっかけを作ります。
(16)授業の内容予定	井瀧担当分 1. 4月15日：ガイダンス・リハビリテーションとメンタルヘルスとは 2. 4月22日：メンタルヘルス（小テストあり） 3. 5月10日：運動は感情にどう影響するのか（小テストあり） 4. 5月13日：ランニングとメンタルヘルス（小テストあり） 5. 5月20日：ストレスとメンタルヘルス（小テストあり） 澄川担当分 6. 5月27日：健康と運動（筆記試験あり） 7. 6月3日：運動とリハビリテーション（筆記試験あり） 8. 6月10日：リハビリテーションの歴史（筆記試験あり） 9. 6月17日：リハビリテーションの実際（筆記試験あり） 10. 6月24日：リハビリテーションの将来（筆記試験あり） 佐藤担当分 11. 7月1日：健康とメンタルヘルス（筆記試験あり） 12. 7月8日：病気とメンタルヘルスー身体疾患ー（筆記試験あり） 13. 7月18日：病気とメンタルヘルスー精神疾患ー（筆記試験あり） 14. 7月22日：発達・老化とメンタルヘルス（筆記試験あり） 15. 7月29日：メンタルヘルスに関連する研究

	の動向（筆記試験あり） 16.8月5日：予備日
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	スポーツ科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	担当教員毎に試験を行います。試験日程については授業時間内に詳細を示します。授業への参加状況30%、試験70%で評価します。 井瀧担当分：毎回の授業に小テストを行います。小テストの結果で試験部分の評価を行います。 澄川・佐藤担当分：各回の講義終了後に出席確認を兼ねて講義内容に関するテストを行います。そのテストの合計点で澄川担当分、佐藤担当分の成績を出します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で行います。
(25)留意点・予備知識	授業時間で指示された予習、復習は必ず行いましょう。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは決まっていませんので、各教員にメールで確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	井瀧千恵子： <a href="mailto:itakichi@hirosaki-u.ac.jp">itakichi@hirosaki-u.ac.jp</a> 澄川幸志： <a href="mailto:ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp">ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp</a> 佐藤ちひろ： <a href="mailto:ot_sato@hirosaki-u.ac.jp">ot_sato@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	作業療法士、看護師として医療現場にて勤務した経験から、メンタルヘルス、作業療法、リハビリテーションについて経験を踏まえた講義内容としている。

## 教養教育科目

(1)整理番号	298
(2)区分番号	298
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－医学研究の進歩－ (The World of Medical Science and Treatment－Progress in medical research－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○土岐 力(医学研究科)、丹治 邦和(医学研究科)、麓 敏雄(医学研究科)、多田羅 洋太(医学研究科)、藤田 敏次(医学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	オムニバス形式で、各領域の研究者が専門分野(医学研究)における進歩について情報を提供します。
(16)授業の内容予定	土岐 力(小児血液学) : (1)DNA塩基配列の決定法の進歩 (2)RNA解析の進歩 (3)タンパク質解析の進歩 麓 敏雄(脳神経外科学) : (1)脳腫瘍治療の現状 (2)最新治療を支える脳腫瘍研究の歩み (3)脳腫瘍研究の最前線 丹治邦和(神経病理学) : (1)脳の機能と構造 (2)脳研究の進歩1 (3)脳研究の進歩2 (4)脳研究の進歩3 多田羅洋太(糖鎖工学) : (1)糖質の構造 (2)糖質の医学研究1 (3)糖質の医学研究2 藤田敏次(ゲノム生化学) : (1)ゲノム編集の基礎 (2)ゲノム編集の応用1 (3)ゲノム編集の応用2
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当教員ごとに小テストあるいはミニレポートを課します。予習や復習はプリントを参考に行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	腫瘍学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	特に指定はありません。適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	特に指定はありません。各講師が講義中に紹介することがあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度(50%)と各担当教員による小テスト・ミニレポートの結果(50%)を参考に成績を評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	



	基本は講義形式です。16回の講義を5人の講師が担当するオムニバス形式です。それぞれの専門分野について資料を用意して講義を行います。リアクションペーパーを取る場合があります。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって特段の予備知識は必要としませんが、高校の生物学の知識があると理解しやすいと思います。講師ごとに小テスト等を行います。復習を十分して下さい。テストや出席に関する不正行為が確認された場合は規則により単位は無効になります。
(26)オフィスアワー	土岐 力 毎週金曜日 15:00-16:00, 丹治邦和 毎週金曜日 12:00-13:00, 多田羅洋太 毎週火曜日 13:00-14:00, 藤田敏次 毎週火曜日 13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	土岐 力 : <a href="mailto:toki0824@hirosaki-u.ac.jp">toki0824@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	299
(2)区分番号	299
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－感染症から身を守る－ (The World of Medical Science and Treatment－Infectious diseases－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○浅野 クリスナ (医学研究科)、松宮 朋穂 (医学研究科)、成田 浩司 (医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	感染症は、細菌、ウイルス、真菌など肉眼では見ることができない微生物によって起きる疾患です。他の疾患と大きく異なることは、感染が拡大し、時には世界的な流行を起こすことです。世界では、エイズ、新型インフルエンザ、MERS、エボラ出血熱、ジカ熱など次々と新しい感染症が問題となっています。一方、結核、デング熱など過去の感染症と考えられていた感染症も復活してきています。この授業では、感染症を起こす微生物とはどのようなものであるかを知った上で、感染及び感染症のメカニズム、感染症の予防について学んでください。
(16)授業の内容予定	第1回 感染症のメカニズムと予防(浅野クリスナ)_① 第2回 感染症のメカニズムと予防(浅野クリスナ)_② 第3回 血液や体液を介する感染症(AIDSを中心として)(松宮朋穂)_① 第4回 血液や体液を介する感染症(AIDSを中心として)(松宮朋穂)_② 第5回 血液や体液を介する感染症(AIDSを中心として)(松宮朋穂)_③ 第6回 食物や水を介する感染症(浅野クリスナ)_① 第7回 食物や水を介する感染症(浅野クリスナ)_② 第8回 食物や水を介する感染症(浅野クリスナ)_③ 第9回 身近な動物を介する感染症(浅野クリスナ、廣瀬昌平)_① 第10回 身近な動物を介する感染症(浅野クリスナ、廣瀬昌平)_② 第11回 身近な動物を介する感染症(浅野クリスナ、廣瀬昌平)_③ 第12回 皮膚を介する感染症(成田浩司)_① 第13回 皮膚を介する感染症(成田浩司)_②

	第14回 皮膚を介する感染症(成田浩司)_③ 第15回 皮膚を介する感染症(成田浩司)_④
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	感染症についての記事はしばしばテレビ、ラジオ、新聞、ネット等で報道されていますので、そのような記事がでたかどうか日常生活の中でチェックしてください。また、授業後は知識として身につくように振り返り学習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	感染・免疫学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業は基本的にスライドを使用します。特に教科書は指定しません。
(21)参考文献	授業の中で、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	4つのテーマに分かれますが、それぞれのテーマの最終回に小テストを行い、各テーマの平均点を算出し、最終的な成績評価が行われる予定です。 単位取得には各々のテーマで2/3以上の出席が必要です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業は基本的にスライドを使用します。一方的な授業ではなく、双方向の授業を心がけます。
(25)留意点・予備知識	授業に出席する以上は、きちんと情報を吸収してください。報道等で感染症に関する記事に興味を持ってください。
(26)オフィスアワー	原則祝祭日を除く月曜日～金曜日17時半～18時半
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	浅野クリスナ krisana@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	300
(2)区分番号	300
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界ーがんを知るー (The World of Medical Science and Treatment—Cancer—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○山田 勝也 (医学研究科)、二神 正行 (医学研究科)、青木 昌彦 (医学研究科)、大鹿 周佐 (医学研究科)、清野 浩子 (医学研究科)
(11)地域志向科目	—
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	<p>私達の身体は細胞の集まりでできており、細胞は身体の部位により異なる構造や機能を持ちます。</p> <p>本授業では、様々な身体部分におきるがんの特徴や経過、がん化を誘発する要因、がんの診断方法ならびに診断基準、治療法とその有効性、限界などについて学びます。</p> <p>がんを題材として、正常と異常の違いについて学ぶことは、人体の構造や機能に関する理解を深めることにもつながります。</p> <p>そこで、授業では、様々ながんについて、現場でがんの診断や治療、研究に第一線でご活躍されている弘前大学の各科の先生方にそれぞれ専門のがんに関するご講義をお願いしました。日本人の二人に一人が一生涯のうちのがんに罹患する現在、特に医学部以外の学生さんにとって、自分自身やご家族、友人、知人が経験することになる可能性のあるがんについて深く知り、考え、専門家に直接疑問をぶつける稀有な機会になると思います。</p> <p>一方、がんの医療や研究は日々進歩し、拡大を続けており、10年前の定説は今でも通用するとは限りません。本授業で得られたものを固定概念とせず、より普遍的と思われるものを嗅ぎ分け、細胞の集合体としての人間をより良く理解する為の一助にしてもらえればと思います。</p> <p>授業には、例年、医学部や保健学科の学生さんも含めて全学部から満遍なく参加しており、他学部の学生さんと互いに相談しながらグループで一緒に関心のある特定のがんについてアクティブに掘り下げ、発表を行う中で様々な経験をしてもらい、がんに関する興味と知識を深めてもらえればと思っています。</p>
(16)授業の内容予定	第1回 山田勝也 (統合機能生理学講座) オリエンテーション

	<p>第2回 青木昌彦 (放射線科学講座) 画像によるがん診断  第3回 山田勝也 (統合機能生理学講座) アクティブラーニング  第4回 西村顕正 (消化器外科学講座) 乳がん  第5回 二神真行 (産科婦人科学講座) 子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん  第6回 土岐 力 (小児科学講座) 白血病に関連して  第7回 渡邊 純 (保健学研究科生命科学領域) がんの病理診断総論  第8回 青木昌彦 (放射線科学講座) 放射線治療の最前線  第9回 鬼島 宏 (病理生命科学講座) がんの病理診断各論  第10回 二神真行 (産科婦人科学講座) 外陰がん、膣がん、絨毛性疾患、子宮筋腫  第11回 澤谷 学 (消化器血液内科学講座) 胃・腸のがんの内視鏡診断  第12回 鬼島 宏 (病理生命科学講座) がんの病理診断各論  第13回 大鹿周佐 (整形外科学講座) 骨・軟部腫瘍(肉腫について)  第14回 山田勝也 (統合機能生理学講座) 試験(アクティブラーニング グループ発表)  第15回 山田勝也 (統合機能生理学講座) 試験(アクティブラーニング グループ発表)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>本当の専門家が集まっていますので、必要十分な予習を行うことにより、普通日常生活や病院ではなかなかできないようなつまんだ質問や初歩的な質問でも丁寧に答えていただける機会となりますので、講義を最大限に活用するためにもできる限り予習と復習をしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	腫瘍学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>特定の教科書は使用しません。先生方から講義内容のレジュメが配布される場合がありますので参考にしてください。</p>
(21)参考文献	<p>DVDブック NHKスペシャル「立花隆 思索ドキュメント がん 生と死の謎に挑む」(株)文芸春秋 発行  自分が興味をもったがん種に関する「がん取り扱い規約」が参考になります。例えば婦人科がんであれば、日本産科婦人科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会編「婦人科がん取り扱い規約」金原出版(株)</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>第3回目(5/11)のアクティブラーニングにおいて、グループ発表の班分け等を実施するので、必ず出席するようにお願いします。担当が決まったがんに関して、第14回目(7/22)ならびに第15回目(7/29)にグループ発表を実施しますので、少なくともどちらかには必ず出席するようにお願いします。成績は出席日数が規定を満たしており、かつグループ発表を行った場合に可とし、グループ発表時の内容あるいは質疑応答内容により加点を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	

	<p>「医学・医療の世界-がんを知る-」  オムニバス形式  統合機能生理学講座 山田勝也  放射線科学講座 青木昌彦  消化器外科学講座 西村顕正  産科婦人科学講座 二神真行  小児科学講座 土岐力  保健学研究科生命科学領域 渡邊純  病理生命科学講座 鬼島宏  消化器血液内科学講座 澤谷学  整形外科科学講座 大鹿周佐</p> <p>様々ながんについて、現場でがんの診断や治療、研究に第一線でご活躍されている弘前大学の各科の先生方にそれぞれ専門のがんに関して講義してもらいます。また、学生さんが学部横断的なチームを作り、自ら調べ、共同で発表し、会場から自由に質疑し、また応答する機会を設けるアクティブラーニングを取り入れています。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>留意点 第3回目(5/11)のアクティブラーニングにおいて、グループ発表の班分け等を実施するので必ず出席するようにお願いします。どうしても出席できない場合には、班をこちらで決定しますので担当教官のEメールアドレスに第4回目(5/13)までに必ず連絡してください。担当が決まったがんに関して、第14回目(7/22)ならびに第15回目(7/29)にグループ発表を実施しますので、必ず出席するようにお願いします。特にがんの病理学については、最初しばらくは難しいと感じるかも知れませんが、知識が増えるに従って見方が変わってくることに気づくでしょう。</p>
(26)オフィスアワー	<p>Eメールで担当教官にアポイントメントをとってください</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>山田勝也 <a href="mailto:kyamada@hirosaki-u.ac.jp">kyamada@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	<p>特になし</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	301
(2)区分番号	301
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－最新医学の現状A－ (The World of Medical Science and Treatment－Recent advances in Medicine A－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	久保田 耕世(医学研究科)、対馬 史泰(医学研究科)、米山 高弘(医学研究科)、阿部 尚央(医学研究科)、和田 簡一郎(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	各分野の専門家が、医療と医学の現状・限界・問題点に関する情報を提供します。
(16)授業の内容予定	4月12日 歯科口腔外科領域について①(医学部附属病院 歯科口腔外科 久保田耕世 先生) 4月19日 歯科口腔外科領域について②(医学部附属病院 歯科口腔外科 久保田耕世 先生) 4月26日 歯科口腔外科領域について③(医学部附属病院 歯科口腔外科 久保田耕世 先生) 5月10日 放射線科学領域について①(医学部附属病院 放射線診断科 対馬 史泰 先生) 5月17日 放射線科学領域について②(医学部附属病院 放射線診断科 対馬 史泰 先生) 5月24日 放射線科学領域について③(医学部附属病院 放射線診断科 対馬 史泰 先生) 5月31日 先進移植再生医学領域について①(大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 米山 高弘 先生) 6月7日 先進移植再生医学領域について②(大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 米山 高弘 先生) 6月14日 先進移植再生医学領域について③(大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 米山 高弘 先生) 6月21日 耳鼻咽喉科領域について①(医学部附属病院 耳鼻咽喉科 阿部 尚央 先生) 6月28日 耳鼻咽喉科領域について②(医学部附属病院 耳鼻咽喉科 阿部 尚央 先生) 7月5日 耳鼻咽喉科領域について③(医学部附属病院 耳鼻咽喉科 阿部 尚央 先生) 7月12日 整形外科領域について①(大学院医

	<p>学研究科 整形外科学講座 和田 簡一郎 先生)</p> <p>7月19日 整形外科領域について② (大学院医学研究科 整形外科学講座 和田 簡一郎 先生)</p> <p>7月26日 整形外科領域について③ (大学院医学研究科 整形外科学講座 和田 簡一郎 先生)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習や復習はプリントを参考に行い、理解を深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。ただし、各講師が授業中に紹介することがあります。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の講義で行なう小テストで評価します。この小テストで6割以上の正解で単位を取得できますが、全体の2/3以上の出席が前提条件です。小テストは、各講師の判断により必ずしも毎回ではないこともあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	1 Semesterあたり15回の講義をそれぞれの専門分野から講義を行ないます。
(25)留意点・予備知識	小テストの不正行為が確認された場合は、規則によりその学期の単位は全て無効になります。欠席したにもかかわらず他の学生の代筆で回答された場合は、欠席者と代筆者の両方に不正行為に関する規則が適応されます。
(26)オフィスアワー	急患、手術、病棟業務がありますので担当教官にその都度確認して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	全体的な質問は小林恒(わたる)まで <a href="mailto:wako@hirosaki-u.ac.jp">wako@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	講義内容には病院等での医師としての実務経験に関する内容が含まれる。



## 教養教育科目

(1)整理番号	302
(2)区分番号	302
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－最新医学の現状B－ (The World of Medical Science and Treatment－Recent advances in Medicine B－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	齋藤 紀先(医学研究科)、二神 真行(医学研究科)、木村 太(医学研究科)、北山 眞任(医学研究科)、橋場 英二(医学研究科)、浅野 研一郎(医学研究科)、平林 健(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	各分野の専門家が医療と医学の現状・限界・問題点について情報を提供します。
(16)授業の内容予定	1回目 10月4日 感染症に関する講義1 臨床検査学講座 齋藤 紀先 2回目 10月11日 感染症に関する講義2 同上 3回目 10月25日 感染症に関する講義3 同上 4回目 11月1日 産婦人科に関する講義1 産婦人科学講座 二神 真行 5回目 11月8日 産婦人科に関する講義2 同上 6回目 11月15日 緩和ケアに関する講義 附属病院麻酔科 木村 太 7回目 11月22日 産婦人科に関する講義3 産婦人科学講座 二神 真行 8回目 11月29日 麻酔に関する講義 1 附属病院麻酔科 北山 眞任 9回目 12月6日 麻酔に関する講義 2 附属病院麻酔科 橋場 英二 10回目 12月13日 脳神経外科に関する講義1 脳神経外科学講座 浅野 研一郎 11回目 12月20日 脳神経外科に関する講義2 脳神経外科学講座 浅野 研一郎 12回目 1月10日 脳神経外科に関する講義3 脳神経外科学講座 浅野 研一郎 13回目 1月16日 小児外科に関する講義1 附属病院小児外科 平林 健 14回目 1月24日 小児外科に関する講義2 附属病院小児外科 平林 健 15回目 1月31日 小児外科に関する講義3 附属病院小児外科 平林 健
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習や復習はプリントを参考に行って理解を深めてください。

(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特にありません
(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の講義で行う小テストで評価します。この小テストで6割以上の正解で単位を取得出来ますが、全体の2/3以上の出席が前提条件です。小テストは各講師の判断により必ずしも毎回でないこともあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライドを用いた講義形式で行います。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	急患、手術、病棟業務がありますので担当教官に直接確認して下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	全体的な質問は小林恒（わたる）まで。 <a href="mailto:wako@hirosaki-u.ac.jp">wako@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	講義内容には病院等での医師としての実務経験に関する内容が含まれる。

## 教養教育科目

(1)整理番号	303
(2)区分番号	303
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－人体のしくみA－ (The World of Medical Science and Treatment－Function of human body A－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○三村 純正(医学研究科)、渡邊 誠二(医学研究科)、盛 和行(医学研究科)、鎌滝 章央(医学研究科)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	4人の担当教員により、人体のしくみについてそれぞれの専門分野の観点から解説します。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション、人体のしくみの概要(三村) 第2回 消化器系の働き(三村) 第3回 内分泌系の働き(三村) 第4回 栄養素と代謝異常症(三村) 第5回 ヒト生殖の特徴(その高い流産率について考察する)(渡邊) 第6回 女性に見る生殖の問題点(卵子はどう作られる)(渡邊) 第7回 男性に見る生殖の問題点(精子はどう作られる)(渡邊) 第8回 不妊治療の現在(渡邊) 第9回 循環器系の概要(鎌滝) 第10回 循環障害1(鎌滝) 第11回 循環障害2(鎌滝) 第12回 腎移植(盛) 第13回 免疫療法(盛) 第14回 腸内フローラ(盛) 第15回 ゲノム編集(盛)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	－
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	とくに指定しません。但し、各講師が授業中に紹介することがあります。
(21)参考文献	とくに指定しません。但し、各講師が授業中に紹介することがあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 100% (授業への参加度:60%, 小テストまたはレポート:40%) 但し、各担当教員が担当する授業(4回ないし

	3回) それぞれに対して出席が3分の2に満たない場合は不可となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。15回の講義を4名の講師が3ないし4回ずつ行います。授業内で小テストまたはレポートを科します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、日頃から医学関連の情報について興味を持つ事によって講義内容の理解が深まると思います。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは随時。ただし、事前に連絡してください。科目担当代表者：三村 純正
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三村 純正： <a href="mailto:jimimura@hirosaki-u.ac.jp">jimimura@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	304
(2)区分番号	304
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－人体のしくみB－ (The World of Medical Science and Treatment－Function of human body B－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○浅野 義哉(医学研究科)、山寄 博未(医学研究科)、成田 大一(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	担当教員が医学専門分野(細胞組織学、遺伝子工学、解剖学)の立場から人体のしくみについて講義を行い、生命・人体に関する知識がどのように医療に関わっているのか、さらにそれらの展望と問題点について学習します。様々な分野の学生に、上記について「一歩踏み込んだ常識」を身につけてもらうと同時に、人間・生命について幅広く深く洞察する機会を提供することを目標に講義を行いません。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス；全体の講義内容の概要、講義の進め方などについての説明(浅野) 第2回 細胞の構造としくみ(浅野) 第3回 組織の構造としくみ(浅野) 第4回 幹細胞概論(浅野) 第5回 幹細胞を用いた再生医療(浅野) 第6回 組織工学と再生医療(浅野) 第7回 遺伝子の構造・機能、遺伝子発現制御(山寄) 第8回 遺伝子疾患(山寄) 第9回 遺伝子工学、遺伝子改変動物の作製(山寄) 第10回 遺伝子工学の技術の医療への応用(山寄) 第11回 人体の構造としくみ①(成田) 第12回 人体の構造としくみ②(成田) 第13回 高齢者の身体的特徴(成田) 第14回 高齢者の障害とリハビリテーション(成田) 第15回 講義内容のまとめと振り返り、試験(浅野)  (授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	2単位 授業30時間+授業時間外学修60時間 予習としては、これまで学習してきた関連事

	項があれば再確認しておくとい良いでしょう。講義中、講義後の積極的な質問は内容のより良い理解に繋がります。そして、得られた知識を持って様々な情報に接し、自身の考察を深めることが最良の復習となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定はしません。但し、担当教員が講義の中で紹介することがあります。
(21)参考文献	特に指定はしません。但し、担当教員が講義の中で紹介することがあります。
(22)成績評価方法及び採点基準	試験あるいはレポートの点数により評価します。3名の担当教員による点数評価の合算で60%以上を合格とします。授業への参加度は30%となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバス形式で3名の教員が講義を担当します。主にパワーポイント、資料により講義は進められます。
(25)留意点・予備知識	試験・レポートの不正行為には厳正に対処します。
(26)オフィスアワー	随時対応しますが、事前にメール等で連絡をして下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asanoy@hirosaki-u.ac.jp (大学院医学研究科 神経解剖・細胞組織学講座 浅野義哉)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	305
(2)区分番号	305
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－人体のしくみと健康－ (The World of Medical Science and Treatment－Function of human body and health－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○齊藤 絵里奈(医学研究科)、葛西 秋宅(医学研究科)、高橋 識志(医学研究科)、川口 章吾(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	ありふれた病気や重い病気が起こる人体のしくみの概要について、生理学・解剖学・法医学・消化器内科学・血液内科学などの切り口から学び、それらの医学・医療知識を、今後の自分自身や自分と関わる人達の病気予防や健康的な生活の維持・向上に活かす。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 活性酸素と酸化ストレス(葛西 秋宅：分子生体防御学講座) 活性酸素がどのように生じ、どのように害をもたらすのか、また生体における酸化ストレスの概念について学びます。</p> <p>第2回 酸化ストレスと疾患(葛西 秋宅) 炎症における活性酸素の産生と酸化ストレスによる生活習慣病や加齢性疾患への影響について学びます。</p> <p>第3回 抗酸化による疾患の予防(葛西 秋宅) ビタミンなどの抗酸化物質や生体内の抗酸化機構について学び、それを利用することによる疾患の予防について学びます。</p> <p>第4回 生体内の抗酸化システム(葛西 秋宅) 生体内において酸化ストレスに応答して抗酸化システムを活性化するKeap1-Nrf2経路について学び、臨床応用の事例を紹介します。</p> <p>第5回 腸内細菌が支配する健康(川口 章吾：消化器血液内科学講座) さまざまな疾患の発症や健康状態の維持に腸内細菌がいかに関与しているのか学びます。</p> <p>第6回 サルコペニア肥満とは何か(川口 章吾)</p>

	<p>肥満とサルコペニアはいずれも生活習慣病の基盤となります。両者がどのように健康障害と関連するのかについて学びます。</p> <p>第7回 高血圧を放置すると脳卒中になるのか（川口 章吾） 高血圧について知り、脳血管障害の病態に関与するのか、その機序について学びます。</p> <p>第8回 「普通でない死」の行く末（高橋 識志：法医学講座） 病院で自然に亡くなるのが死の全てではありません。それ以外の死が医学的にどう扱われるのか、実例をまじえて説明します。</p> <p>第9回 アルコールの法医学（高橋 識志） 酒は百薬の長といわれる一方、さまざまな形で「予期せぬ死」をもたらします。その一端を紹介します。</p> <p>第10回 突然死とは？（高橋 識志） 本人も周囲の人も気づかぬうちに、病気が命を奪うことがあります。そのような死にはどのようなものがあるか、お話しします。</p> <p>第11回 DNA鑑定で何がわかるのか？（高橋 識志） DNAは遺伝情報の担い手ですが、身元の特定のためにも使われます。その理論のあらましを解説します。</p> <p>第12回 人体の構造①（齊藤 絵里奈：神経解剖・細胞組織学講座） 人の身体にはどのような器官（臓器）があり、どのような働きをしているか、その概要を学びます。</p> <p>第13回 人体の構造②（齊藤 絵里奈） 人の身体にはどのような器官（臓器）があり、どのような働きをしているか、その概要を学びます。</p> <p>第14回 循環器の構造と疾患（齊藤 絵里奈） 循環器（心臓や血管）に焦点をあて、その構造を理解し、循環器系の疾患時にどのような変化が起こるかを学びます。</p> <p>第15回 リンパ系と疾患（齊藤 絵里奈） リンパ系（リンパ管とリンパ組織）に焦点をあて、その機能と構造を理解し、疾患とどのようなかわりがあるかを学びます。</p> <p>なお、授業の進行状況等によりシラバスと実際の授業内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	上記の授業内容予定を参考にし、自分自身の興味をもとに積極的に予習し、授業実施後は復習を行うことで自分の興味を深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-



(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントを配付します。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：50% 小テスト：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員4人によるオムニバス形式の講義です。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	齊藤絵里奈（代表）：木曜日12:15～13:00 ただし、事前連絡があればこの限りではありません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esaito@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	うち3回は病院での医師としての勤務経験を基に、4回は法医学者としての解剖経験を基に講義をする。

## 教養教育科目

(1)整理番号	306
(2)区分番号	306
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－身体をはかる－（The World of Medical Science and Treatment－Think about health through the physical measurement－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員（所属）	○井瀧 千恵子（保健学研究科）、川崎 くみ子（保健学研究科）、漆坂 真弓（保健学研究科）、北島 麻衣子（保健学研究科）、三上 佳澄（保健学研究科）
(11)地域志向科目	－
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	健康の維持・増進のためには自分自身の今の状態を知ることが大切です。ふだんから簡単に測定できるものから、特別な機器を使用して測定できるものまで、いろいろとあります。 本科目は、みなさんが自分自身の身体を知るために、測定数値の基本を示す意味を考えながら、自分の身体に興味を持つこと、実際に自分たちで機器を用いて測定が経験できることを中心としています。また、その測定数値をもとに、生活習慣について考えるきっかけとし、少しでも自分の生活を工夫する力を持つことを望みます。
(16)授業の内容予定	1. 4月12日：ガイダンス 2. 4月19日：身体計測の基礎1（身長、体重の数値から考える）（三上） 3. 4月26日：身体計測の基礎2（動脈硬化を示す数値、血圧・脈拍の数値から考える）（北島） 4. 5月10日：身体計測の基礎3（骨密度を示す数値から考える）（漆坂） 5. 5月17日：健康日本21（第二次）、青森県の健康課題について（川崎） 6. 5月24日：血圧、脈拍を測定してみよう（演習）（全員） 演習① 四肢血圧を測定してみよう 7. 5月31日：血圧、脈拍を測定してみよう（演習）（全員） 演習② 四肢血圧を測定してみよう 8. 6月7日：生活習慣の工夫1（目標の設定）（井瀧） 9. 6月14日：ロコモティブシンドロームについて（井瀧） 10. 6月21日：体組成計を使って自分の体組成を知ろう（三上・漆坂・川崎・北島）

	<p>演習③ 骨密度を測定してみよう</p> <p>11. 6月28日：ロコモ度テストを体験しよう (演習) (全員)</p> <p>演習④</p> <p>12. 7月5日：課題レポート作成 (全員)</p> <p>13. 7月12日：生活習慣の工夫2 (自分が立案した目標を分析してみよう) (全員)</p> <p>14. 7月19日：生活習慣の工夫3 (自分の数値から目標を再設定しよう) (井瀧)</p> <p>15. 7月26日：期末試験</p> <p>16. 8月2日：試験結果返却と科目のまとめ (全員)</p> <p>*担当教員の他の授業との関係で順序が変わる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習については、事前に連絡をします。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	指定の教科書はありません。 必要な教材は準備します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加態度30%、レポート30%、期末試験40%として評価をします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習を組み合わせ実施します。30人までとします。 演習①、②、③は本町キャンパスで実施します。演習の場所はガイダンスおよび演習①、②、③の前の時間にお伝えします。
(25)留意点・予備知識	授業の中で適宜お伝えします。
(26)オフィスアワー	適宜設けます。Eメールでお問い合わせください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	井瀧千恵子 itakichi@川崎くみ子 kawayu@ 漆坂真弓urushima@ 北島麻衣子 kitajima@ 三上佳澄 k-mikami@ (@以下は共通 hirosaki-u.ac.jp)
(28)その他	看護師として医療現場にて勤務した経験を踏まえた講義内容としている。

## 教養教育科目

(1)整理番号	307
(2)区分番号	307
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－脳のしくみ－ (The World of Medical Science and Treatment－Function of brain－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○上野 伸哉(医学研究科)、木下 正治(医学研究科)、古川 智範(医学研究科)、下山 修司(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	神経系の機能と形態の導入から、神経系の情報伝達機構の基礎を理解する。これらの知識のうえに薬の効果、疾患、高次脳機能のメカニズムの理解を目指す。
(16)授業の内容予定	1) 脳の構造と機能 総論 上野 2) 脳を構成する細胞の種類とその働き 下山 3) 神経細胞の構造と機能 下山 4) 神経細胞の情報伝達のしくみ 電気的シグナルを中心に 古川 5) シナプス伝達機構 古川 6) 嗅覚 味覚 聴覚 上野 7) 記憶・学習・シナプス可塑性 上野 8) 脳に働く薬剤 上野 9) 行動解析 上野 10) 脳の疾患 上野 11) 視覚 木下 12) 視覚 木下 13) 運動の制御 木下 14) 運動の制御 木下 15) 高次脳機能 木下
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Moodleから、参考資料、理解度テストを利用して予習・復習に役立てること

(18)学問分野1(主学問分野)	神経科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しないが 参考資料を提供する
(21)参考文献	宮川博義・井上雅司；ニューロンの生物物理 田所作太郎編；行動薬理学の実践 日本薬理学会編；実践行動薬理学 Levita & Kaczmarek；The Neuron: Cell and Molecular Biology 甘利俊一・古市貞一；分子・細胞・シナプス からみる脳 ボロン/ブールペーパー；生理学 工藤佳久；図説 神経薬理学入門 朝倉書 店 田中千賀子・加藤隆一編；New薬理学 高柳一成編；薬物受容体 細胞膜にある受容 体の基礎知識 Liquan Luo；Principles of Neurobiology
(22)成績評価方法及び採点基準	各講師の小テストの結果と授業参加度をそれぞれ の比率を70% 30%として評価す る。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントによる授業およびMoodleを利用 した復習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	連絡の上調整します
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	shinyau@hirosaki-u.ac.jp 上野伸哉
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	308
(2)区分番号	308
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界ー人体のしくみと病気のなりたちー (The World of Medical Science and Treatment—Function of human body and diseases—)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○若林 孝一(医学研究科)、鬼島 宏(医学研究科)、今 智矢(医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	この講義では3名の教員によって、人体の構造と機能、さらに基本的な病変や病態について説明します。
(16)授業の内容予定	(1) 4月11日(木) 病気のしくみ: 人体の構造・機能、その乱れ(鬼島) (2) 4月18日(木) 細胞の構造と機能(今) (3) 4月25日(木) 腫瘍のなりたち(定義と発生)(鬼島) (4) 5月9日(木) 遺伝のしくみ(今) (5) 5月16日(木) がん(癌)のなりたち(鬼島) (6) 5月23日(木) 病気を治すしくみ(鬼島) (7) 5月30日(木) 炎症と感染症(若林) (8) 6月6日(木) 呼吸器の病気(若林) (9) 6月13日(木) 日本に多い病気と少ない病気(鬼島) (10) 6月20日(木) 脳のしくみ(今) (11) 6月27日(木) 感覚のしくみ(若林) (12) 7月4日(木) 運動のしくみ(今) (13) 7月11日(木) 心臓と血管(若林) (14) 7月25日(木) 脳卒中について(若林) (15) 8月1日(木) 認知症について(今) (16) 8月8日(木) 予備日
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習に力を入れ、基本的な概念や定義をきちんとマスターすること。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度によって評価します。

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用い説明します。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	若林孝一（担当代表教員/シラバス作成者） 月曜日17:00～18:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	若林孝一（ <a href="mailto:koichi@hirosaki-u.ac.jp">koichi@hirosaki-u.ac.jp</a> ）
(28)その他	講義内容には病院等での医師としての実務経験に関する内容が含まれる。

## 教養教育科目

(1)整理番号	309
(2)区分番号	309
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	医学・医療の世界－薬の科学－ (The World of Medical Science and Treatment－Pharmacological action－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	西塚 誠 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、医療を理解できるようになること
(15)授業の概要	高齢化社会の到来や医療費の高騰等への対応のために、予防医学やセルフメディケーションへの期待が高まっているが、広く社会に浸透するためには、各個人が薬の作用と副作用を理解することが必要不可欠である。本講義では、薬の作用機序を今後理解していくことの重要性や汎用されている薬の基本的な作用機序について解説する。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 総合感冒薬について 3. 感染症(1) 4. 感染症(2) 5. 感染症(3) 6. 感染症(4) 7. 肥満と糖尿病(1) 8. 肥満と糖尿病(2) 9. 肥満と糖尿病(3) 10. 肥満と糖尿病(4) 11. 骨粗鬆症(1) 12. 骨粗鬆症(2) 13. 抗がん剤(1) 14. 抗がん剤(2) 15. 抗がん剤(3) 16. 総括もしくは総合討論
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容の中で興味を持った事項について自主的に学習し理解を深めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	薬学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	感染・免疫学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	－
(20)教材・教科書	適宜、プリントを配布する。
(21)参考文献	授業内で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (平常ミニレポートなど) 50 % 期末評価 (期末レポート、口頭発表など) 50 %



	上記を合算して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義形式
(25)留意点・予備知識	特段の予備知識は必要ありません。
(26)オフィスアワー	在室時に随時対応。あらかじめメールをください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:nishizuka@hirosaki-u.ac.jp">nishizuka@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	310
(2)区分番号	310
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	情報と健康・医学－健康のためのデータ解析学－（Information and Health/Medical Science－Data analysis for health sciences－）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	對馬 栄輝（保健学研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学, 情報科学, 統計学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 医学・保健データについて理解できるようになること
(15)授業の概要	数学の領域と認識されている統計学は, 医学の分野でも非常に多く活用されています。また, 大量の医療データから有効な情報を得るためにも, 医療従事者が統計学の知識と活用法を知っておく必要があります。これから医学の専門的技術を学ぶ者として, 統計学の基礎を学び, 統計学的手法の応用方法を知る必要があります。この講義では, 統計学を医学へ応用するための初歩的な考えを身につけることが目的となります。
(16)授業の内容予定	第1回：記述統計学. 代表値と散布度の求め方 第2回：記述統計学. 代表値と散布度の意味 第3回：記述統計学. 代表値と散布度の選択方法① 第4回：記述統計学. 代表値と散布度の選択方法② 第5回：記述統計学. 代表値と散布度の選択方法③ 第6回：統計的検定の意味① 第7回：統計的検定の意味② 第8回：統計的検定の意味① 第9回：検定の基礎－差の検定① 第10回：検定の基礎－差の検定② 第11回：検定の基礎－差の検定③ 第12回：検定の基礎－差の検定④ 第13回：検定の基礎－相関・回帰① 第14回：検定の基礎－相関・回帰② 第15学習状況の確認（試験含む）と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習]各講義前に該当する内容について教科書を読んでおくこと。 [復習]講義後に, 実際に他のデータを活用してパソコンを利用して計算してみることに。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	解析学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	対馬栄輝：SPSSで学ぶ医療系データ解析 第2版. 東京図書, 2016.
(21)参考文献	対馬栄輝：よくわかる医療統計 - 「なぜ？」にこたえる道しるべ. 東京図書, 2015.
(22)成績評価方法及び採点基準	○授業の参加度 30% ○中間評価（講義中に行う小問題の回答など） 40% ○期末評価（学期末に総合形式の試験） 30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義とパソコンを使用した演習
(25)留意点・予備知識	パソコンを使用して演習を行いますので、インターネットブラウザの使用方法、スプレッドシートソフト（MS excelなど）の使用に関する基本は習得しておいてください。
(26)オフィスアワー	毎週火曜日17：30-18：00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	対馬栄輝：pteiki@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	311
(2)区分番号	311
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	情報と健康・医学－保健・医療とデータ解析－ (Information and Health/Medical Science－Basic statistics for Health Science and Medicine－)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野坂 大喜(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学, 情報科学, 統計学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 医学・保健データについて理解できるようになること
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析学は医学・保健学分野での研究や地域施策の立案などにおいて求められる基礎知識であり、</li> <li>・医学的有効性の判断、保健政策や健康プログラムの効果の評価に必須の知識になっています。</li> <li>・様々な保健指標や厚生労働統計資料の見方や考え方、医療系データの実務分析において必要な統計学に関する知識や手法を学びます。</li> <li>・医療機関において医療情報システムの開発・運用に関わった経験があり医療情報技師と第2種情報処理技術者資格を有している。</li> <li>・医療機関での臨床検査データの運用経験を元に保健・医療分野におけるデータ解析について講義します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第01回 医療保健統計の考え方 ～ 取り扱うデータと統計学的関数 ～</p> <p>第02回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習1(数式)</p> <p>第03回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習2(数式)</p> <p>第04回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習3(関数)</p> <p>第05回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習4(関数)</p> <p>第06回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習5(グラフ)</p> <p>第07回 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習6(グラフ)</p> <p>第08回 統計の基本と検定の手順 ～EBMの考え方と統計学的検定～</p> <p>第09回 2つの平均値の比較 ～よく用いられる検定方法1～</p> <p>第10回 2つの平均値の比較(演習)</p> <p>第11回 2つの比率の比較 ～よく用いられる検定方法2～</p>

	<p>第12回 2つの比率の比較(演習)  第13回 保健情報と率の調整方法 ~基礎的  用語の解説と注意事項~  第14回 保健情報と率の調整方法(演習)  第15回 地域関連の分析と演習 ~相関・回  帰分析と因果関係~  第16回 患者予後の分析と演習 ~生命表法  の基礎と応用について~</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	課題を配布するので、翌週までに提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	代数学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	ぜんぶ絵で見る医療統計 羊土社
(21)参考文献	厚生労働統計
(22)成績評価方法及び採点基準	提出課題をもって評価します。60点以上を合格とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習により進めます。
(25)留意点・予備知識	高校数学I・Aにおいて学習した統計学の基礎を復習すること。 統計ソフトとExcelを使用するため、情報処理入門AまたはBを受講している又は同等以上のスキルを有していることが必要です。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hnozaka@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/">http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	312
(2)区分番号	312
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康B【H・M・S・A2年次以上】－ ①－ (Exercise and Health B)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高橋 俊哉(教育学部)、戸塚 学(教育学部)、清水 紀人(教育学部)、杉本 和那美(教育学部)、益川 満治(教育学部)
(11)地域志向科目	－
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○体育学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること ○学校教員に必要となる情運動や健康に関する知識を体得すること
(15)授業の概要	(1) 健康教育についての基本的な考え方や学校健康教育の目標、機会、方法等について学びます。子どもが健康に生きる力を高めるための支援のあり方について考えていきましょう。 (2) 健康科学に関する基礎的な知識を学習するとともに、各ライフステージにおいて実生活へ活用するための方策について概観します。 (3) 体づくり運動を中心とした実技を実際に体験します。 (4) 学校現場における運動指導について学びます。 (5) 将来、学校教員として生徒・児童の健康と運動についての知識を体得し、自分自身の健康についても考察します。
(16)授業の内容予定	1. 健康の概念(高橋) 2. ヘルスリテラシーとは(高橋) 3. 学校における健康教育(高橋) 4. 子どもたちの健康の現状(高橋) 5. 学校体育(清水) 6. 体づくり運動(清水) 7. 集団行動(清水) 8. 学校現場における運動指導：運動部活動の現状(杉本) 9. 学校現場における運動指導：運動部活動指導の充実のために(杉本) 10. 健康指標を読み解く(戸塚) 11. 各ライフステージにおける健康(戸塚) 12. 体力科学の基礎理論、健康維持増進のための栄養学の基礎(戸塚) 13. スポーツ心理学の観点からみた運動と健康(益川) 14. 運動継続の鍵とは(益川) 15. 運動行動変容ステージへ(益川)

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各担当教員ごとに、授業の内容を示していますので、関連した内容を事前に予習して講義に臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	授業中、適宜参考図書や文献が紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	5人の教員の総合点で評価されます。また、5人の教員それぞれの授業で一度も出席しない授業があった場合は、成績を出すことができません。 (1) 平常評価：20% 授業への参加度。授業に対するリアクションペーパーに基づくもので、単なる出席回数ではありません。 (2) 期末評価：80% 各教員の授業内容や達成目標に応じて課したレポート、または筆記試験で評価されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、実技
(25)留意点・予備知識	講義担当者の順番が変更になる場合があります。変更する場合は、事前に連絡します。
(26)オフィスアワー	高橋 月、水 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:toshiya@hirosaki-u.ac.jp">toshiya@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	313
(2)区分番号	313
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康B【P小学校】－②－ (Exercise and Health B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高橋 俊哉(教育学部)、戸塚 学(教育学部)、清水 紀人(教育学部)、杉本 和那美(教育学部)、益川 満治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○体育学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要となる情運動や健康に関する知識を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>(1) 健康教育についての基本的な考え方や学校健康教育の目標、機会、方法等について学びます。子どもが健康に生きる力を高めるための支援のあり方について考えていきましょう。</p> <p>(2) 健康科学に関する基礎的な知識を学習するとともに、各ライフステージにおいて実生活へ活用するための方策について概観します。</p> <p>(3) 体づくり運動を中心とした実技を実際に体験します。</p> <p>(4) 学校現場における運動指導について学びます。</p> <p>(5) 将来、学校教員として生徒・児童の健康と運動についての知識を体得し、自分自身の健康についても考察します。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念(高橋)</li> <li>2. ヘルスリテラシーとは(高橋)</li> <li>3. 学校における健康教育(高橋)</li> <li>4. 子どもたちの健康の現状(高橋)</li> <li>5. 学校体育(清水)</li> <li>6. 体づくり運動(清水)</li> <li>7. 集団行動(清水)</li> <li>8. 学校現場における運動指導：運動部活動の現状(杉本)</li> <li>9. 学校現場における運動指導：運動部活動指導の充実のために(杉本)</li> <li>10. 健康指標を読み解く(戸塚)</li> <li>11. 各ライフステージにおける健康(戸塚)</li> <li>12. 体力科学の基礎理論、健康維持増進のための栄養学の基礎(戸塚)</li> <li>13. スポーツ心理学の観点からみた運動と健康(益川)</li> <li>14. 運動継続の鍵とは(益川)</li> <li>15. 運動行動変容ステージへ(益川)</li> </ol>



(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各担当教員ごとに、授業の内容を示していませんので、関連した内容を事前に予習して講義に臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	授業中、適宜参考図書や文献が紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	5人教員の総合点で評価されます。また、5人の教員それぞれの授業で一度も出席しない授業があった場合は、成績を出すことができません。 (1) 平常評価：20% 授業への参加度。授業に対するリアクションペーパーに基づくもので、単なる出席回数ではありません。 (2) 期末評価：80% 各教員の授業内容や達成目標に応じて課したレポート、または筆記試験で評価されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、実技
(25)留意点・予備知識	講義担当者の順番が変更になる場合があります。変更する場合は、事前に連絡します。
(26)オフィスアワー	高橋 月、水 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:toshiya@hirosaki-u.ac.jp">toshiya@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	314
(2)区分番号	314
(3)科目種別	人間・生命
(4)授業科目名〔英文名〕	運動と健康B【P中学校・特支・養教】－③－ (Exercise and Health B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	高橋 俊哉(教育学部)、戸塚 学(教育学部)、清水 紀人(教育学部)、杉本 和那美(教育学部)、益川 満治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○体育学や体育学ならびにその近接領域についての学識を得ること</p> <p>○上記学問の知識や技能に基づいて、運動と健康を理解できるようになること</p> <p>○学校教員に必要となる情運動や健康に関する知識を体得すること</p>
(15)授業の概要	<p>(1) 健康教育についての基本的な考え方や学校健康教育の目標、機会、方法等について学びます。子どもが健康に生きる力を高めるための支援のあり方について考えていきましょう。</p> <p>(2) 健康科学に関する基礎的な知識を学習するとともに、各ライフステージにおいて実生活へ活用するための方策について概観します。</p> <p>(3) 体づくり運動を中心とした実技を実際に体験します。</p> <p>(4) 学校現場における運動指導について学びます。</p> <p>(5) 将来、学校教員として生徒・児童の健康と運動についての知識を体得し、自分自身の健康についても考察します。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念(高橋)</li> <li>2. ヘルスリテラシーとは(高橋)</li> <li>3. 学校における健康教育(高橋)</li> <li>4. 子どもたちの健康の現状(高橋)</li> <li>5. 学校体育(清水)</li> <li>6. 体づくり運動(清水)</li> <li>7. 集団行動(清水)</li> <li>8. 学校現場における運動指導：運動部活動の現状(杉本)</li> <li>9. 学校現場における運動指導：運動部活動指導の充実のために(杉本)</li> <li>10. 健康指標を読み解く(戸塚)</li> <li>11. 各ライフステージにおける健康(戸塚)</li> <li>12. 体力科学の基礎理論、健康維持増進のための栄養学の基礎(戸塚)</li> <li>13. スポーツ心理学の観点からみた運動と健康(益川)</li> <li>14. 運動継続の鍵とは(益川)</li> <li>15. 運動行動変容ステージへ(益川)</li> </ol>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各担当教員ごとに、授業の内容を示していますので、関連した内容を事前に予習して講義に臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	体育関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	授業中、適宜参考図書や文献が紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	5人の教員の総合点で評価されます。また、5人の教員それぞれの授業で一度も出席しない授業があった場合は、成績を出すことができません。 (1) 平常評価：20% 授業への参加度。授業に対するリアクションペーパー等に基づくもので、単なる出席回数ではありません。 (2) 期末評価：80% 各教員の授業内容や達成目標に応じて課したレポート、または筆記試験で評価されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、実技
(25)留意点・予備知識	講義担当者の順番が変更になる場合があります。変更する場合は、事前に連絡します。
(26)オフィスアワー	高橋 月、水 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:toshiya@hirosaki-u.ac.jp">toshiya@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	315
(2)区分番号	315
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎A①【S数物・地球・自然】※奇数回 (Foundations of Career Development A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	山下 梓（男女共同参画推進室）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探索していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>本授業では、自己理解を深めながら学生一人ひとりが将来のビジョンについて考え、大学生活における学びの目標や行動計画を立てます。また、多様な職業や生き方について職業人と接することを通じて学び、地域社会との関わりにおける自分の役割などについても考えます。</p> <p>なお、本講義では、キャリアを「職業との関連における個人の具体的な行動や選択によって作り上げられる、その人独自のもの。時間をかけて形成、生涯にわたって展開される。一生の間にはいろいろなことが起こり、さまざまな経験をするが、それらがすべて織り込まれて作り上げられるもの」(財団法人 日本女性学習財団『女性のキャリア形成支援ハンドブック』(2011))ととらえます。これ以外のキャリアのさまざまなとらえ方についても、授業中にみていきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を予定しています。授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度ご説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス, R-Ship2Campusの説明と登録作業</li> <li>第2回 雇用の多様化, 働く意義, 大切にしたい労働条件</li> <li>第3回 地域の職業人の多様な生き方, 働き方</li> <li>第4回 自己理解を深める(SPI性格検査の活用)</li> <li>第5回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第6回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第7回 大学生活での目標・行動計画の作成</li> <li>第8回 ふりかえりと期末試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>第4回の授業に先立ち、自己理解ツールSPI性格検査を宿題として受検していただきます。受検のための登録作業や受検方法については、第1回・第3回の授業でご説明する予定です。</p> <p>授業の内容を中心として復習するほかに、キャリアセンターや男女共同参画推進室など学内外で開かれる多様な働き方や生き方に関連するセミナーや講演会などに積極的に参加することをおすすめします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業の中でご紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。平常評価70% (毎回授業内容に関する平常ミニレポート、グループディスカッションへの参加など。単なる出席回数ではありません。) 期末評価30% (期末試験)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義とグループディスカッションによって進めます。授業の最後にその日の授業内容について平常ミニレポートの提出が課されますが、このレポートは毎回採点・コメントを付して次の授業の際に返却する予定です。次の平常ミニレポートや期末試験での論述に活かしてください。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	固定のオフィスアワーはありません。原則として平日8:30~17:00はオフィス(総合教育棟1階 自学・自修室向かい)にありますが、不在の場合もありますので、面会を希望される方はメールか電話で事前に面会予約をとってから来室されるようお願いいたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	azusa[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください。 弘前大学男女共同参画推進室ウェブサイト <a href="http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/">http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/</a>
(28)その他	弘前大学には、各種相談窓口が設けられています。詳細は以下のページで確認することができます。必要に応じて積極的に活用されることをおすすめします。 <a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html">https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html</a> 本授業における忌引きややむを得ない事情による欠席の取扱い、追試験の申し出、不正行為等については、弘前大学の定めによります。詳しくは第1回の授業でご説明する予定です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	316
(2)区分番号	316
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎A②【S物質・電子・機械】※偶数回 (Foundations of Career Development A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	山下 梓（男女共同参画推進室）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探索していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>本授業では、自己理解を深めながら学生一人ひとりが将来のビジョンについて考え、大学生活における学びの目標や行動計画を立てます。また、多様な職業や生き方について職業人と接することを通じて学び、地域社会との関わりにおける自分の役割などについても考えます。</p> <p>なお、本講義では、キャリアを「職業との関連における個人の具体的な行動や選択によって作り上げられる、その人独自のもの。時間をかけて形成、生涯にわたって展開される。一生の間にはいろいろなことが起こり、さまざまな経験をするが、それらがすべて織り込まれて作り上げられるもの」(財団法人 日本女性学習財団『女性のキャリア形成支援ハンドブック』(2011))ととらえます。これ以外のキャリアのさまざまなとらえ方についても、授業中にみていきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を予定しています。授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度ご説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス, R-Ship2Campusの説明と登録作業</li> <li>第2回 雇用の多様化, 働く意義, 大切にしたい労働条件</li> <li>第3回 地域の職業人の多様な生き方, 働き方</li> <li>第4回 自己理解を深める(SPI性格検査の活用)</li> <li>第5回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第6回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第7回 大学生活での目標・行動計画の作成</li> <li>第8回 ふりかえりと期末試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>第4回の授業に先立ち、自己理解ツールSPI性格検査を宿題として受検していただきます。受検のための登録作業や受検方法については、第1回・第3回の授業でご説明する予定です。</p> <p>授業の内容を中心として復習するほかに、キャリアセンターや男女共同参画推進室など学内外で開かれる多様な働き方や生き方に関連するセミナーや講演会などに積極的に参加することをおすすめします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業の中でご紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。平常評価70% (毎回授業内容に関する平常ミニレポート、グループディスカッションへの参加など。単なる出席回数ではありません。) 期末評価30% (期末試験)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義とグループディスカッションによって進めます。授業の最後にその日の授業内容について平常ミニレポートの提出が課されますが、このレポートは毎回採点・コメントを付して次の授業の際に返却する予定です。次の平常ミニレポートや期末試験での論述に活かしてください。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	固定のオフィスアワーはありません。原則として平日8:30~17:00はオフィス(総合教育棟1階 自学・自修室向かい)にありますが、不在の場合もありますので、面会を希望される方はメールか電話で事前に面会予約をとってから来室されるようお願いいたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	azusa[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください。 弘前大学男女共同参画推進室ウェブサイト <a href="http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/">http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/</a>
(28)その他	弘前大学には、各種相談窓口が設けられています。詳細は以下のページで確認することができます。必要に応じて積極的に活用されることをおすすめします。 <a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html">https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html</a> 本授業における忌引きややむを得ない事情による欠席の取扱い、追試験の申し出、不正行為等については、弘前大学の定めによります。詳しくは第1回の授業でご説明する予定です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	317
(2)区分番号	317
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎A①【H文化】※奇数回 (Foundations of Career Development A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	山下 梓（男女共同参画推進室）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探索していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>本授業では、自己理解を深めながら学生一人ひとりが将来のビジョンについて考え、大学生活における学びの目標や行動計画を立てます。また、多様な職業や生き方について職業人と接することを通じて学び、地域社会との関わりにおける自分の役割などについても考えます。</p> <p>なお、本講義では、キャリアを「職業との関連における個人の具体的な行動や選択によって作り上げられる、その人独自のもの。時間をかけて形成、生涯にわたって展開される。一生の間にはいろいろなことが起こり、さまざまな経験をするが、それらがすべて織り込まれて作り上げられるもの」(財団法人 日本女性学習財団『女性のキャリア形成支援ハンドブック』(2011))ととらえます。これ以外のキャリアのさまざまなとらえ方についても、授業中にみていきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を予定しています。授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度ご説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス、R-Ship2Campusの説明と登録作業</li> <li>第2回 雇用の多様化、働く意義、大切にしたい労働条件</li> <li>第3回 地域の職業人の多様な生き方、働き方</li> <li>第4回 自己理解を深める(SPI性格検査の活用)</li> <li>第5回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第6回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第7回 大学生活での目標・行動計画の作成</li> <li>第8回 ふりかえりと期末試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>第4回の授業に先立ち、自己理解ツールSPI性格検査を宿題として受検していただきます。受検のための登録作業や受検方法については、第1回・第3回の授業でご説明する予定です。</p> <p>授業の内容を中心として復習するほかに、キャリアセンターや男女共同参画推進室など学内外で開かれる多様な働き方や生き方に関連するセミナーや講演会などに積極的に参加することをおすすめします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-



(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業の中でご紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。平常評価70%(毎回授業内容に関する平常ミニレポート、グループディスカッションへの参加など。単なる出席回数ではありません。)期末評価30%(期末試験)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義とグループディスカッションによって進めます。授業の最後にその日の授業内容について平常ミニレポートの提出が課されますが、このレポートは毎回採点・コメントを付して次の授業の際に返却する予定です。次の平常ミニレポートや期末試験での論述に活かしてください。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	固定のオフィスアワーはありません。原則として平日8:30~17:00はオフィス(総合教育棟1階 自学・自修室向かい)にありますが、不在の場合もありますので、面会を希望される方はメールか電話で事前に面会予約をとってから来室されるようお願いいたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	azusa[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください。 弘前大学男女共同参画推進室ウェブサイト <a href="http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/">http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/</a>
(28)その他	弘前大学には、各種相談窓口が設けられています。詳細は以下のページで確認することができます。必要に応じて積極的に活用されることをおすすめします。 <a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html">https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html</a> 本授業における忌引きややむを得ない事情による欠席の取扱い、追試験の申し出、不正行為等については、弘前大学の定めによります。詳しくは第1回の授業でご説明する予定です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	318
(2)区分番号	318
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名[英文名]	キャリア形成の基礎A②【H社会】※偶数回 (Foundations of Career Development A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	山下 梓（男女共同参画推進室）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探索していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>本授業では、自己理解を深めながら学生一人ひとりが将来のビジョンについて考え、大学生活における学びの目標や行動計画を立てます。また、多様な職業や生き方について職業人と接することを通じて学び、地域社会との関わりにおける自分の役割などについても考えます。</p> <p>なお、本講義では、キャリアを「職業との関連における個人の具体的な行動や選択によって作り上げられる、その人独自のもの。時間をかけて形成、生涯にわたって展開される。一生の間にはいろいろなことが起こり、さまざまな経験をするが、それらがすべて織り込まれて作り上げられるもの」(財団法人 日本女性学習財団『女性のキャリア形成支援ハンドブック』(2011))ととらえます。これ以外のキャリアのさまざまなとらえ方についても、授業中にみていきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を予定しています。授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度ご説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス、R-Ship2Campusの説明と登録作業</li> <li>第2回 雇用の多様化、働く意義、大切にしたい労働条件</li> <li>第3回 地域の職業人の多様な生き方、働き方</li> <li>第4回 自己理解を深める(SPI性格検査の活用)</li> <li>第5回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第6回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</li> <li>第7回 大学生活での目標・行動計画の作成</li> <li>第8回 ふりかえりと期末試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>第4回の授業に先立ち、自己理解ツールSPI性格検査を宿題として受検していただきます。受検のための登録作業や受検方法については、第1回・第3回の授業でご説明する予定です。</p> <p>授業の内容を中心として復習するほかに、キャリアセンターや男女共同参画推進室など学内外で開かれる多様な働き方や生き方に関連するセミナーや講演会などに積極的に参加することをおすすめします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業の中でご紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。平常評価70%(毎回授業内容に関する平常ミニレポート、グループディスカッションへの参加など。単なる出席回数ではありません。)期末評価30%(期末試験)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義とグループディスカッションによって進めます。授業の最後にその日の授業内容について平常ミニレポートの提出が課されますが、このレポートは毎回採点・コメントを付して次の授業の際に返却する予定です。次の平常ミニレポートや期末試験での論述に活かしてください。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	固定のオフィスアワーはありません。原則として平日8:30~17:00はオフィス(総合教育棟1階 自学・自修室向かい)にありますが、不在の場合もありますので、面会を希望される方はメールか電話で事前に面会予約をとってから来室されるようお願いいたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	azusa[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください。 弘前大学男女共同参画推進室ウェブサイト <a href="http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/">http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/</a>
(28)その他	弘前大学には、各種相談窓口が設けられています。詳細は以下のページで確認することができます。必要に応じて積極的に活用されることをおすすめします。 <a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html">https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html</a> 本授業における忌引きややむを得ない事情による欠席の取扱い、追試験の申し出、不正行為等については、弘前大学の定めによります。詳しくは第1回の授業でご説明する予定です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	319
(2)区分番号	319
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎A【A】※奇数回 (Foundations of Career Development A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限 不定期開催(隔週)
(10)担当教員(所属)	野口 拓郎(非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探求していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること。</li> <li>・自らの強みや課題を考え、キャリアプランニングに役立てる。</li> <li>・職業人と接することを通じ、地域の多様な職業を知る。</li> <li>・学びの目標を立てること(PDCAの理解)。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 働く意義、雇用の多様化、自分が大切にしたい労働条件</p> <p>第3回 自己理解ツール「SPI性格検査」の実施</p> <p>第4回 自己理解を深める(適性検査の活用)</p> <p>第5回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</p> <p>第6回 地域の職業人をゲストスピーカーにお迎えします</p> <p>第7回 大学生活での目標・行動計画の作成</p> <p>第8回 期末試験、ふり返り</p> <p>※状況によって若干の変更があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	就職活動に関する本を自分自身の力で一冊選 び、熟読しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会経済農学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業後のレポート (40点)</p> <p>期末試験 (60点)</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価がおこなわれます。</p> <p>※期末試験持ち込み不可</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に座学中心となります。
(25)留意点・予備知識	授業回数が計8回なので、欠席は評価に大きく影響します。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:noguchi@hirosaki-u.ac.jp">noguchi@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	障害等により履修上何らかの配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	320
(2)区分番号	320
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎B【P】 (Foundations of Career Development B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	宮崎 充治(教育学部)、福島 裕敏(教育学部)、桐村 豪文(教育学部)、吉崎 聡子(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</p> <p>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探求していくこと</p> <p>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</p>
(15)授業の概要	<p>将来の目標を設定し、自己理解の上、学びの目標を立てる。地域の多様な職業について職業人と接することを通じて学び、地域社会との関わりの中で自分の役割や将来ビジョンを考えることを目的とする。</p> <p>教育学部学生を対象とするこの授業では、対人援助職として、教職、福祉、地域作りなどに携わっている方をお招きし、教育関係職の枠組みを広げて理解することを求める。</p> <p>授業では、グループを作り、講義内容でのディスカッションやワークショップ形式での活動を行う。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1. キャリア教育概論(4回分)</p> <p>第1回:一ガイダンスー【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第2回:キャリア、キャリア発達とは。【○吉崎、宮崎、福島、桐村】</p> <p>第3回:社会人基礎力、キャリア・インサイト(適性検査)自己理解ツールの実施【○吉崎、宮崎、福島、桐村】</p> <p>第4回:キャリア・インサイト結果の読み取りと説明 その活用【○吉崎、宮崎、福島、桐村】</p> <p>2. 教職についての理解を広げる(3回分)</p> <p>第5回:教職ライン 教師の職能的成長【福島】</p> <p>第6回:対人援助職としての教職、子ども支援のネットワーク【宮崎】</p> <p>3. 地域の多様な対人援助職について知る(職業人を迎えてキャリアを考える)(4回分)</p> <p>第7回:実業高校で教える。【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p>

	<p>第 8 回：スクールソーシャルワーカーの仕事【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第 9 回：地域で子どもを育てる。-学童保育、コミュニティ・カフェ【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第 10 回：児童福祉の現場 -児童相談所-【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第 11 回：人を育てる仕事とは。ゲストスピーカーの話をつりかえる。【宮崎】</p> <p>4. 教職の実際（2 回分）</p> <p>第 12 回：教員の労働をめぐる実態 ①【桐村】</p> <p>第 13 回：教員の労働をめぐる実態 ②【桐村】</p> <p>5. 自分の進路とキャリアデザイン（3 回分）</p> <p>第 14 回：教育という仕事をとらえなおす。【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第 15 回：学生時代にどのような学びを行っていくのか。まとめ。【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p> <p>第 16 回：-総括レポート-【○宮崎、福島、桐村、吉崎】</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 50%（授業で行われる演習、討論に参加し、かつ、ミニレポートを提出すること）</p> <p>中間レポート 20%（提出は必須）</p> <p>期末レポート 30%（提出は必須）</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習 グループを作り、ディスカッションやアクティビティを行うことがある。また、毎回、ミニレポートが課される。
(25)留意点・予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(26)オフィスアワー	火曜日 授業終了後
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	michi.miyazaki [at] hirosaki-u. ac. jp atを@に変えて利用してください。
(28)その他	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	321
(2)区分番号	321
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎B【M保】 (Foundations of Career Development B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探求していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己分析、自己理解を通し、学びの目標と将来への展望を考える</li> <li>○医療分野だけでなく地域で活躍する職業人と接することを通じて学ぶ</li> <li>○地域社会とのかかわりの中で自分の役割、キャリアビジョンを考えることを目的とする</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス～自己理解、他者理解～</p> <p>第2回：キャリア形成とは何か～自己分析ワーク～</p> <p>第3回：キャリア形成とは何か～様々なキャリア理論から考える～</p> <p>第4回：社会人基礎力とは～自分の強みを知る～</p> <p>第5回：働く意義とワークライフバランス</p> <p>第6回：働くルール～労働法と事例紹介～</p> <p>第7回：地域課題と地方創生</p> <p>第8回：ゲストスピーカーを迎えて職業講話</p> <p>①</p> <p>第9回：ゲストスピーカーを迎えて職業講話</p> <p>②</p> <p>第10回：ゲストスピーカーを迎えて職業講話</p> <p>③</p> <p>第11回：ライフキャリアを考える～女性の働き方から～</p> <p>第12回：社会課題から自らの在り方、働き方を考える</p> <p>第13回：ライフキャリアを考える～最期という視点から～</p> <p>第14回：やりたいこと、やれること、やるべきこと</p> <p style="text-align: center;">～3つの輪とキャリアデザイン～</p> <p>第15回：キャリアプランニングと全体振り返り</p> <p>第16回：試験</p> <p>※学生の習熟度やゲストの都合により、テーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	



	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価50% (授業への参加度、積極性) 期末評価50% (理解度の確認) 毎回授業内容についてリフレクションペーパーに記入を行います。 振り返り内容、授業への参加度、期末課題等を合算して評価します。 期末課題を提出しない場合は不可とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回前半は講義、後半はグループワークと発表等を行います。 他者とのコミュニケーション、ディスカッションの機会が多いため、積極性と課題の本質をとらえる力を求めます。
(25)留意点・予備知識	外部から職業人の方を迎えての講義があります。 また、進捗状況により授業の順番と内容が変更になることがあります。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	青森県内の労働問題等の事例紹介と検討、青森県内の医療と福祉の連携等について具体的取り組みを紹介します。 →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	322
(2)区分番号	322
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の基礎B【M医】 (Foundations of Career Development B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を具体的な事例を通して理解すること</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、自らのキャリアを探求していくこと</li> <li>○将来のキャリアの観点から、大学生活における学びの目標を、自律的に策定すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること</li> <li>○自らの強みや課題を考え、キャリアプランニングに役立てる</li> <li>○職業人と接することを通じ、地域の多様な職業を知る</li> <li>○学びの目標自律的にを立て、PDCAを実践すること</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア教育概論 (4回分)             <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回: ガイダンスー</li> <li>第2回: ルーブリックとe-ポートフォリオ (弘大Moodle)によるPDCA (弘前大学の学習成果)</li> <li>第3回: "働くこと"を知る</li> <li>第4回: 「働くルール」を知る</li> </ol> </li> <li>2. 自己の理解 (4回分)             <ol style="list-style-type: none"> <li>第5回: 地元で働く意義を考える</li> <li>第6回: 自分史やポートフォリオを作成し、自らの強みや課題を分析する</li> <li>第7回: 「やりたいこと、やれること、やりべきこと」</li> <li>第8回: キャリア・インサイト (適性検査) 自己理解ツールの実施</li> </ol> </li> <li>3. 地域の多様な職業について知る (職業人を迎えてキャリアを考える) (3回分)             <ol style="list-style-type: none"> <li>第9回: 地域の職業人をゲストスピーカーに迎えて (1)</li> <li>第10回: 地域の職業人をゲストスピーカーに迎えて (2)</li> <li>第11回: 地域の職業人をゲストスピーカーに迎えて (3)</li> </ol> </li> <li>4. 大学で学ぶべきことを知る (2回分)             <ol style="list-style-type: none"> <li>第12回: キャリア・インサイト (適性検査) 自己理解を深める</li> <li>第13回: 地域の雇用を知る、地域の多様な職業について知る</li> </ol> </li> <li>5. 自分の進路とキャリアデザイン (3回)</li> </ol>

	分) 第14回：大学生生活での目標や行動計画の作成 第15回：大学生生活での目標や行動計画の学生間での意見交換 第16回：－試験－
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度及び平常ミニレポート等）、期末試験30%（期末試験）上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義方式を基本とします。課題の作成やその振り返りを学生同士で行うこともあります。
(25)留意点・予備知識	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	第9回から第11回において、青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について語っていただきます

## 教養教育科目

(1)整理番号	323
(2)区分番号	323
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ー地域で働くということ ①ー※奇数回 (Career Development-Working Within the Community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	大西 晶子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域」とはどこなのか。「地域で働くということ」について考え、理解する</li> <li>○自己理解を深める作業を通じて、自己の興味関心・能力を理解し、自己と他者との関係性の構築システムについての理解を深める</li> <li>○課題を発見し、解決するためにチームビルディングを行うPBL型学習</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス「地域で働くということ」について</p> <p>第2回 自己分析・自己理解ペーパーと個人ワークについて(講義)</p> <p>第3回 自分プレゼンテーション(講義とワーク)</p> <p>第4回 チーム形成や協働の有用性について(講義)</p> <p>第5回 チーム形成と課題発見(講義とワーク)</p> <p>第6回 地域について考える(PBL①)</p> <p>第7回 地域について考える(PBL②)</p> <p>第8回 期末テスト(プレゼンテーション)とキャリアデザインペーパーの作成</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度・グループワークへの参加度及び発表・ミニレポート等） 期末試験30%（プレゼンテーション） 上記を合算し、最終的な成績評価を行います
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基礎講義及び実践的ワーク（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション）
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:onishishoko333@gmail.com">onishishoko333@gmail.com</a>
(28)その他	「キャリア形成の発展－地域で働くということ②」と同一内容です。 地域志向科目・実務経験のある教員による授業科目 青森県内における起業・組織形成、協働関係の構築という経験をベースに、経営学的視点からキャリアデザイン思考及び地域課題発見と解決の手法への理解をすすめます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	324
(2)区分番号	324
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ー地域で働くということ ②ー※偶数回 (Career Development-Working Within the Community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	大西 晶子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域」とはどこなのか。「地域で働くということ」について考え、理解する</li> <li>○自己理解を深める作業を通じて、自己の興味関心・能力を理解し、自己と他者との関係性の構築システムについての理解を深める</li> <li>○課題を発見し、解決するためにチームビルディングを行うPBL型学習</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス「地域で働くということ」について</p> <p>第2回 自己分析・自己理解ペーパーと個人ワークについて(講義)</p> <p>第3回 自分プレゼンテーション(講義とワーク)</p> <p>第4回 チーム形成や協働の有用性について(講義)</p> <p>第5回 チーム形成と課題発見(講義とワーク)</p> <p>第6回 地域について考える(PBL①)</p> <p>第7回 地域について考える(PBL②)</p> <p>第8回 期末テスト(プレゼンテーション)とキャリアデザインペーパーの作成</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度・グループワークへの参加度及び発表・ミニレポート等） 期末試験30%（プレゼンテーション） 上記を合算し、最終的な成績評価を行います
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基礎講義及び実践的ワーク（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション）
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:onishishoko333@gmail.com">onishishoko333@gmail.com</a>
(28)その他	「キャリア形成の発展ー地域で働くということ①」と同一内容です。 地域志向科目・実務経験のある教員による授業科目 青森県内における起業・組織形成、協働関係の構築という経験をベースに、経営学的視点からキャリアデザイン思考及び地域課題発見と解決の手法への理解をすすめます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	325
(2)区分番号	325
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性×キャリア①－※ 奇数回（Career Development-Women Empowerment-）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己分析ワークを通して、自分を深く見つめる</li> <li>○女性のキャリア形成、キャリア支援における課題について現状を知る</li> <li>○女性が社会で活躍するために何が必要かを考える</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス～女性を取り巻く雇用環境～</p> <p>第2回：キャリア形成とは何か～自己分析ワーク～</p> <p>第3回：キャリア形成とは何か～様々なキャリア理論から考える～</p> <p>第4回：社会人基礎力とは～自分の強みを知る～</p> <p>第5回：女性のキャリア形成～日本のロールモデルとワークライフバランス～</p> <p>第6回：女性のキャリア形成～海外のロールモデルとワークライフバランス～</p> <p>第7回：女性が活躍するために～ジェンダーダイバーシティにおける課題～</p> <p>第8回：期末課題提出と全体振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域



(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価50%（授業への参加度、積極性） 期末評価50%（理解度の確認） 毎回授業内容についてリフレクションペーパーに記入を行います。 振り返り内容、授業への参加度、期末課題等を合算して評価します。 期末課題を提出しない場合は不可とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回前半は講義、後半はグループワークと発表を行います。 他者とのコミュニケーション、ディスカッションの機会が多いため、積極性と課題の本質をとらえる力を求めます。
(25)留意点・予備知識	隔週開催のため日程にご注意ください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	定員20名 ※授業開始日程の第1週目から隔週開催 キャリア形成の発展-女性×キャリア②と同一内容です。 青森県内での女性活躍推進企業の具体的な取り組み、また労働問題について紹介します。 →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	326
(2)区分番号	326
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－アントレプレナーチャレンジ①－※偶数回 (Career Development-Entrepreneur Challenge-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決型ワークの中でデザイン思考プロセスを体験する</li> <li>○イベント、商品企画の為のコンセプト作りの方法とマインドを実践を通し行う</li> <li>○地域、社会の課題を知り、チームで考え、新たな価値をアウトプットすることを目的とする</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス～デザイン思考とは～  第2回：デザイン思考プロセスを知る～オリエンテーションとグループワーク～  第3回：インタビューワーク～ユーザーとクライアントの真意～  第4回：インサイト抽出、ブレインストーミング、コンセプト作り①  第5回：コンセプト作り②  第6回：プロトタイピング～試作～①  第7回：プロトタイピング～試作～②  第8回：プレゼンテーションと振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価70%（授業への参加度、積極性）          期末評価30%（チームプレゼンテーション）</p> <p>上記を合算して最終的な成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>グループワークを中心に行います。          コミュニケーションワーク、ダイアログが多いため          他者とのかかわりも大切にしながら、課題解決を行っていきます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>課題の本質をとらえる力を求めます。また各          回グループワークや発表をしてもらいますの          で積極的に授業に参加することを求めます。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>定員は16名          ※授業開始日程の第2週目から隔週開催          キャリア形成の発展-アントレプレナーチャレ          ンジ②と同一内容です。          青森県の人口減少対策の一環として、県の事          業を受託しているNPOの方をゲストに迎え、コ          ミュニケーションの仕組み作りを行います。          →「実務経験のある教員による授業科目」に          も該当</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	327
(2)区分番号	327
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性のキャリア形成① －※奇数回（Career Development-Womens's Career Development-）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○女性のライフコースにおけるリスクとサポートという視点から社会を捉える視点を身につける。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>女性のキャリア形成を概観しながら、最新のキャリア理論を参照し、自己のキャリア観に向き合ってもらいます。仕事と家庭という対立軸での考えではなく、幸福感を中心に答えのないものに取り組みます。ディスカッションが中心となるので、履修に関しては自発的な参加を望みます。ディスカッションが得意である必要はありませんが、自身のことを語ることに抵抗のある学生には向きません。論点の広がりが期待できる男子学生の参加も歓迎します。自由で活発な発言を期待し、他者の価値観を受け入れる、堅苦しくない講座を目指します。</p> <p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～  第2回：自己のキャリアを振り返る ～普通の人生なんてない～  第3回：結婚観・家族観の時代的変容 ～ライフコースの考え方を通して～  第4回：女性のキャリアと企業の支援  第5回：女性とこころ ～認知の観点から～</p>

	<p>第 6 回：地域で働く女性と語り合う ～ゲストスピーカーを迎えて～</p> <p>第 7 回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p> <p>第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えるのではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	<p>ジョン・D・クランボルツ「その幸運は偶然ではないんです！」ダイヤモンド社、2005年</p> <p>筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社、2015年</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性）</p> <p>中間評価20%（小レポート 2回を予定）</p> <p>期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢）</p> <p>期末レポートの未提出、総括ディスカッションとまとめ試験の不参加は不可とする。</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」の資料等や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、女性活躍推進などについて普段から関心を持つようにしましょう。</p> <p>まだまだ新しい講座ですので、皆さんからも取り上げたいことを聞きながら、講座を一緒に作り上げていきたいです。</p>

	※ 女性を中心とした内容を多く含みますが、履修者の性別は問いません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名  ※キャリア形成の発展-女性のキャリア形成②③④-と同一内容です。  ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に①②合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。以降、隔週開催（第2回は第3週目）となります。  ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。  ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く女性をゲストに迎え、交流の機会を設けます。  ※ディスカッションの広がり期待しているため、男子学生の受講を歓迎します。  ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。  ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。  ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターンの経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	328
(2)区分番号	328
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性のキャリア形成② －※偶数回（Career Development-Womens's Career Development-）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○女性のライフコースにおけるリスクとサポートという視点から社会を捉える視点を身につける。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>女性のキャリア形成を概観しながら、最新のキャリア理論を参照し、自己のキャリア観に向き合ってもらいます。仕事と家庭という対立軸での考えではなく、幸福感を中心に答えのないものに取り組みます。ディスカッションが中心となるので、履修に関しては自発的な参加を望みます。ディスカッションが得意である必要はありませんが、自身のことを語ることに抵抗のある学生には向きません。論点の広がりが期待できる男子学生の参加も歓迎します。自由で活発な発言を期待し、他者の価値観を受け入れる、堅苦しくない講座を目指します。</p> <p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～  第2回：自己のキャリアを振り返る ～普通の人生なんてない～  第3回：結婚観・家族観の時代的変容 ～ライフコースの考え方を通して～  第4回：女性のキャリアと企業の支援  第5回：女性とこころ ～認知の観点から～</p>

	<p>第 6 回：地域で働く女性と語り合う ～ゲストスピーカーを迎えて～</p> <p>第 7 回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p> <p>第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えるのではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	<p>ジョン・D・クランボルツ「その幸運は偶然ではないんです！」ダイヤモンド社、2005年</p> <p>筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社、2015年</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性）</p> <p>中間評価20%（小レポート 2回を予定）</p> <p>期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢）</p> <p>期末レポートの未提出、総括ディスカッションとまとめ試験の不参加は不可とする。</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」の資料等や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、女性活躍推進などについて普段から関心を持つようにしましょう。</p> <p>まだまだ新しい講座ですので、皆さんからも取り上げたいことを聞きながら、講座を一緒に作り上げていきたいです。</p> <p>※ 女性を中心とした内容を多く含みますが、履修者の性別は問いません。</p>
(26)オフィスアワー	なし



(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	<p>定員は20名  ※キャリア形成の発展-女性のキャリア形成①③④-と同一内容です。  ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に①②合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。(女性のキャリア形成①の開講時に必ず出席してください)その後、第4週目から隔週開講になります。  ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。  ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く女性をゲストに迎え、交流の機会を設けます。  ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。  ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。  ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターン経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	329
(2)区分番号	329
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ーがんばる青森の企業① ー※奇数回 (Career Development-Campany of Aomori doing its best-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	篠崎 有香 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青森県内の企業等における様々な取組とその背景について、男女共同参画の視点で考えます。</li> <li>○日本や地域が抱える問題や課題を「働く」というテーマを通して明らかにし、自身の豊かな人生や豊かな社会実現に向けた具体策を考えます。</li> <li>○グループディスカッション等への積極的な参画のなかで、自身のキャリア観を深めるとともに、多様な価値観を尊重できる考え方を醸成します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 職員がやめないために がんばる</li> <li>第3回 これまでになかった視点を活かすために がんばる</li> <li>第4回 「これまでになかった視点」について考える</li> <li>第5回 青森でがんばる</li> <li>第6回 青森の企業が(で) がんばるために</li> <li>第7回 「ワールドカフェ」に挑戦</li> <li>第8回 試験と振り返り</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、授業内容と関連づけて自分自身のキャリア形成について考えることを求めます。</p> <p>第7回では各自が調べてきた企業の取組について情報交換を行う予定です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しません。授業中、適宜プリントを配布します。

(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）70% 期末評価（期末試験）30% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心ですがグループディスカッションも行います。授業の最後にその日の講義の内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	○授業開催日程の第1週目から隔週開催されます。 ○「キャリア形成の発展ーがんばる青森の企業〈2〉ー」と同一内容です。 ○青森県の企業等の取組について学びます。 ○教員は、キャリアカウンセラー（国家資格）、青森市男女共同参画プラザ「カダール」副館長、NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会副理事長です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	330
(2)区分番号	330
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－ワークライフバランス ①－※偶数回 (Career Development-work-life balance-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	篠崎 有香 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ワーク・ライフ・バランス」について男女共同参画の視点で考え、具体的な事例を学びます。</li> <li>○「ワーク・ライフ・バランス」を通して日本や地域が抱える問題や課題を明らかにし、自身の豊かな人生や豊かな社会実現に向けた具体策を考えます。</li> <li>○グループディスカッション等への積極的な参画のなかで、自身のキャリア観を深めるとともに、多様な価値観を尊重できる考え方を醸成します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 ワーク・ライフ・バランスはなぜ必要か</li> <li>第3回 ワーク・ライフ・バランスじゃない現状の背景にあるもの</li> <li>第4回 ワーク・ライフ・バランス実現のために&lt;1&gt;企業の取組</li> <li>第5回 ワーク・ライフ・バランス実現のために&lt;2&gt;さまざまな資源</li> <li>第6回 一人ひとりのキャリア形成のために</li> <li>第7回 「ワールドカフェ」に挑戦</li> <li>第8回 試験と振り返り</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、授業内容と関連づけて自分自身のキャリア形成について考えることを求めます。</p> <p>第7回では各自が調べてきた企業の取組について情報交換を行う予定です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	使用しません。授業中、適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）70% 期末評価（期末試験）30% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心ですがグループディスカッションも行います。授業の最後にその日の講義の内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業開催日程の第2週目から隔週開催されます。</li> <li>○「キャリア形成の発展－ワーク・ライフ・バランス〈2〉－」と同一内容です。</li> <li>○青森県の企業等の取組について学びます。</li> <li>○教員は、キャリアカウンセラー（国家資格）、青森市男女共同参画プラザ「カダール」副館長、NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会副理事長です。</li> </ul>

## 教養教育科目

(1)整理番号	331
(2)区分番号	331
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域のキャリアを考える①－※奇数回 (Career Development-Think about the career in the local community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	石戸谷 繁 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</p> <p>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>(1)「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。</p> <p>(2)人生において抱える課題を、「役割」の視点から考える。</p> <p>(3)「地域」の雇用・職種の現状を理解し、「地域」が抱える課題を「当事者意識」をもってとらえる。</p> <p>(4)「地域(地方)」で「生活」する魅力を理解する。</p> <p>(5)自己肯定感を高めるとともに、職業に対する興味関心・適性を理解し、将来の生き方を構想する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 「キャリア形成とは」</p> <p>第2回：「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。(事例)～ある少女の生き方から～</p> <p>第3回：「自己の確立と生き方」を考える。(事例)～地方出身者の都会における自己喪失～</p> <p>第4～6回：人生における課題を「役割」から考える。</p> <p>(ア)就職(職業社会で求められるもの) (イ)結婚と子育て (ウ)扶養と介護等</p> <p>第7回：自己を理解する(検査)</p> <p>(ア)肯定的に自己を認識する。(イ)職業に対する興味関心・適性を知る</p> <p>第8回：「地域(地方)」に生きる。(地域理解)</p> <p>(ア)人口減少と求められる地域人材、(イ)雇用・職種の現状、弘前大生の進路選択 (ウ)(事例)「地域」で活躍す</p>

	<p>る人たち  将来の総合的な構想 ～「自立」に向けて～</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] テーマについて、自分の考えをまとめる。  [復習] 授業後、自分の考え方の変容をまとめる。  (記入用紙を配布します。回収はしません。)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。資料は授業のなかで配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度60% レポート等：40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業の中での話し合い、演習(検査)等
(25)留意点・予備知識	授業における話し合いでは、積極的に発言してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>※受講生数は40名限定です。例年、受講希望者が多数となるため、抽選となる可能性が高いです。第一希望の人だけ受講して下さい。</p> <p>※授業は基本的に隔週開催です。第1週の授業の最初に受講希望者全員に履修届を提出してもらい、理工学部(工学部)の学生に対してだけ第1回目の授業を行います。それ以外の学部の学生(抽選で受講可能となった学生)に対しては、第2週目に第1回目の授業を行います。担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p> <p>※担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	332
(2)区分番号	332
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域のキャリアを考える②－※偶数回 (Career Development-Think about the career in the local community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	石戸谷 繁 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</p> <p>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>(1)「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。</p> <p>(2)人生において抱える課題を、「役割」の視点から考える。</p> <p>(3)「地域」の雇用・職種の現状を理解し、「地域」が抱える課題を「当事者意識」をもってとらえる。</p> <p>(4)「地域(地方)」で「生活」する魅力を理解する。</p> <p>(5)自己肯定感を高めるとともに、職業に対する興味関心・適性を理解し、将来の生き方を構想する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 「キャリア形成とは」</p> <p>第2回：「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。(事例)～ある少女の生き方から～</p> <p>第3回：「自己の確立と生き方」を考える。(事例)～地方出身者の都会における自己喪失～</p> <p>第4～6回：人生における課題を「役割」から考える。 (ア)就職(職業社会で求められるもの) (イ)結婚と子育て (ウ)扶養と介護等</p> <p>第7回：自己を理解する(検査) (ア)肯定的に自己を認識する。 (イ)職業に対する興味関心・適性を知る</p> <p>第8回：「地域(地方)」に生きる。(地域理解) (ア)人口減少と求められる地域人材、 (イ)雇用・職種の現状、弘前大生の進路選択 (ウ)(事例)「地域」で活躍す</p>



	<p>る人たち  将来の総合的な構想 ～「自立」に向けて～</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] テーマについて、自分の考えをまとめる。  [復習] 授業後、自分の考え方の変容をまとめる。  (記入用紙を配布します。回収はしません。)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。資料は授業のなかで配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度60% レポート等：40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業の中での話し合い、演習(検査)等
(25)留意点・予備知識	授業における話し合いでは、積極的に発言してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>※受講生数は40名限定です。例年、受講希望者が多数となるため、抽選となる可能性が高いです。第一希望の人だけ受講して下さい。</p> <p>※授業は基本的に隔週開催です。第1週の授業の最初に受講希望者全員に履修届を提出してもらい、理工学部(工学部)の学生に対してだけ第1回目の授業を行います。それ以外の学部の学生(抽選で受講可能となった学生)に対しては、第2週目に第1回目の授業を行います。担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p> <p>※担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	333
(2)区分番号	333
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域のキャリアを考える③－※奇数回 (Career Development-Think about the career in the local community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	石戸谷 繁 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</p> <p>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>(1)「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。</p> <p>(2)人生において抱える課題を、「役割」の視点から考える。</p> <p>(3)「地域」の雇用・職種の現状を理解し、「地域」が抱える課題を「当事者意識」をもってとらえる。</p> <p>(4)「地域(地方)」で「生活」する魅力を理解する。</p> <p>(5)自己肯定感を高めるとともに、職業に対する興味関心・適性を理解し、将来の生き方を構想する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 「キャリア形成とは」</p> <p>第2回：「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。(事例)～ある少女の生き方から～</p> <p>第3回：「自己の確立と生き方」を考える。(事例)～地方出身者の都会における自己喪失～</p> <p>第4～6回：人生における課題を「役割」から考える。</p> <p>(ア)就職(職業社会で求められるもの) (イ)結婚と子育て (ウ)扶養と介護等</p> <p>第7回：自己を理解する(検査)</p> <p>(ア)肯定的に自己を認識する。(イ)職業に対する興味関心・適性を知る</p> <p>第8回：「地域(地方)」に生きる。(地域理解)</p> <p>(ア)人口減少と求められる地域人材、(イ)雇用・職種の現状、弘前大生の進路選択 (ウ)(事例)「地域」で活躍す</p>

	<p>る人たち  将来の総合的な構想 ～「自立」に向けて～</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] テーマについて、自分の考えをまとめる。  [復習] 授業後、自分の考え方の変容をまとめる。  (記入用紙を配布します。回収はしません。)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。資料は授業のなかで配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度60% レポート等：40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業の中での話し合い、演習(検査)等
(25)留意点・予備知識	授業における話し合いでは、積極的に発言してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>※受講生数は40名限定です。例年、受講希望者が多数となるため、抽選となる可能性が高いです。第一希望の人だけ受講して下さい。</p> <p>※授業は基本的に隔週開催です。第1週の授業の最初に受講希望者全員に履修届を提出してもらい、理工学部(工学部)の学生に対してだけ第1回目の授業を行います。それ以外の学部の学生(抽選で受講可能となった学生)に対しては、第2週目に第1回目の授業を行います。担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p> <p>※担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	334
(2)区分番号	334
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域のキャリアを考える④－※偶数回 (Career Development-Think about the career in the local community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	石戸谷 繁 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</p> <p>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>(1)「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。</p> <p>(2)人生において抱える課題を、「役割」の視点から考える。</p> <p>(3)「地域」の雇用・職種の現状を理解し、「地域」が抱える課題を「当事者意識」をもってとらえる。</p> <p>(4)「地域(地方)」で「生活」する魅力を理解する。</p> <p>(5)自己肯定感を高めるとともに、職業に対する興味関心・適性を理解し、将来の生き方を構想する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 「キャリア形成とは」</p> <p>第2回：「生きる・働く・学ぶ」意味を考える。(事例)～ある少女の生き方から～</p> <p>第3回：「自己の確立と生き方」を考える。(事例)～地方出身者の都会における自己喪失～</p> <p>第4～6回：人生における課題を「役割」から考える。</p> <p>(ア)就職(職業社会で求められるもの) (イ)結婚と子育て (ウ)扶養と介護等</p> <p>第7回：自己を理解する(検査)</p> <p>(ア)肯定的に自己を認識する。(イ)職業に対する興味関心・適性を知る</p> <p>第8回：「地域(地方)」に生きる。(地域理解)</p> <p>(ア)人口減少と求められる地域人材、(イ)雇用・職種の現状、弘前大生の進路選択 (ウ)(事例)「地域」で活躍す</p>

	<p>る人たち  将来の総合的な構想 ～「自立」に向けて～</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] テーマについて、自分の考えをまとめる。  [復習] 授業後、自分の考え方の変容をまとめる。  (記入用紙を配布します。回収はしません。)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。資料は授業のなかで配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度60% レポート等：40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業の中での話し合い、演習(検査)等
(25)留意点・予備知識	授業における話し合いでは、積極的に発言してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>※受講生数は40名限定です。例年、受講希望者が多数となるため、抽選となる可能性が高いです。第一希望の人だけ受講して下さい。</p> <p>※授業は基本的に隔週開催です。第1週の授業の最初に受講希望者全員に履修届を提出してもらい、理工学部(工学部)の学生に対してだけ第1回目の授業を行います。それ以外の学部の学生(抽選で受講可能となった学生)に対しては、第2週目に第1回目の授業を行います。担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p> <p>※担当者は、埼玉県(都会)と青森県(地方)で教職に就いたUターン経験者です。その経験、出会った人たち(子どもや大人)の生き方から学んだことを紹介します。教職を目指す人にとっては、生徒に対するキャリア教育の在り方を考えることにつながります。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	335
(2)区分番号	335
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性が活躍するために ①－※奇数回 (Career Development- Promotion of Women' s Participation and Advancement-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域での労働や社会保障の場面において、両性の区分が行なわれている実態を知る。 ○両性の区分がどのような場面においてどのような区分が必要とされてきたのかを歴史的に考察し、自身のキャリア形成のこれまでを振り返る。 ○両性の区分を社会－文化的な側面から捉えなおすことで、自身のキャリア形成について考える。
(16)授業の内容予定	1. ジェンダーの見方の成り立ち 第1回 「n個の性」という考え方 第2回 社会がもとめる性の区分－ジェンダーという見方 2. ジェンダーの見方がもたらした課題 第3回 シャドウ・ワーカー生物学的な性に基づく労働の区分 第4回 性のダブル・スタンダード－M字型就労形態と社会保障 3. 労働法制や社会保障制度におけるジェンダーの見方の取り込み 第5回 女性保護規定の変遷～労働基準法 第6回 女性の「社会」進出～男女雇用機会均等法の現実 育児休暇・育児休暇の取得 第7回 「第3号」の理由～年金法制 第8回 授業状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示します
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験（区分ごとに小レポートを課すこともある）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義方式を基本とします
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展－女性が活躍するために②」と同一内容です。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第1週目から隔週開催されます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	336
(2)区分番号	336
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域課題というニッチ ①－※偶数回 (Career Development-Niche of Regional Issue-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域社会を捉えるにあたって、社会学における地域概念について検討する。 ○地域概念を用いると今日の地域社会は、農村と都市とに二分されたものとして捉えることが難しくなっていることを考察する。 ○人々が実際に創りあげる地域社会には多様な組合せによる社会関係が存在することを説明し、地域の課題はそれら既存の社会関係を用いて解決できることを明らかにする。
(16)授業の内容予定	1. 地域と地域社会 第1回 イントロダクションー地域のイメージ 第2回 地域社会の現局面 第3回 地域と地域社会の違い 2. 地域社会の具体例 第4回 都市化とはーアーバニズムとアーバン・クライシス 第5回 社会調査の事例から1ー郊外化と混住化 第6回 社会調査の事例から2ー家族(生活)と地域 3. 社会問題と地域課題 第7回 少子化・高齢化と地域 第8回 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示します
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します



(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験（区分ごとに小レポートを課すこともある）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義方式を基本とします
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展－地域課題というニッチ①」と同一内容です
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス <code>suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp</code> [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第2週目から隔週開催されます

## 教養教育科目

(1)整理番号	337
(2)区分番号	337
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－自分×仕事×地域①－ ※奇数回 (Career Development-Local Society-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な自己分析ワークを通し、自分自身を深く見つめる</li> <li>○グループワークを通し、自分と他者の価値観を知る、共有する</li> <li>○地域課題を通し、自分の生き方、働き方について考える</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：キャリア形成とは何か～自己分析ワーク～ 第3回：キャリア形成とは何か～様々なキャリア理論から考える～ 第4回：社会人基礎力とは～自分の強みを知る～ 第5回：働く意義とワークライフバランス～地方と都会という視点で～ 第6回：地域課題と地方創生 第7回：青森県内の労働問題～事例紹介と検討～ 第8回：期末課題提出と全体振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価50%（授業への参加度、積極性） 期末評価50%（理解度の確認） 毎回授業内容についてリフレクションペーパーに記入を行います。 振り返り内容、授業への参加度、期末課題等を合算して評価します。 期末課題を提出しない場合は不可とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回前半は講義、後半はグループワークと発表を行います。 他者とのコミュニケーション、ディスカッションの機会が多いため、積極性と課題の本質をとらえる力を求めます。
(25)留意点・予備知識	隔週開催のため日程にご注意ください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	定員20名 ※授業開始日程の第1週目から隔週開催されます。 キャリア形成の発展-自分×仕事×地域②と同一内容です。 青森県の雇用状況、労働問題について事例検討を行います。 →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	338
(2)区分番号	338
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－自分×仕事×地域②－ ※偶数回 (Career Development-Local Society-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な自己分析ワークを通し、自分自身を深く見つめる</li> <li>○グループワークを通し、自分と他者の価値観を知る、共有する</li> <li>○地域課題を通し、自分の生き方、働き方について考える</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：キャリア形成とは何か～自己分析ワーク～ 第3回：キャリア形成とは何か～様々なキャリア理論から考える～ 第4回：社会人基礎力とは～自分の強みを知る～ 第5回：働く意義とワークライフバランス～地方と都会という視点で～ 第6回：地域課題と地方創生 第7回：青森県内の労働問題～事例紹介と検討～ 第8回：期末課題提出と全体振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価50%（授業への参加度、積極性） 期末評価50%（理解度の確認） 毎回授業内容についてリフレクションペーパーに記入を行います。 振り返り内容、授業への参加度、期末課題等を合算して評価します。 期末課題を提出しない場合は不可とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回前半は講義、後半はグループワークと発表を行います。 他者とのコミュニケーション、ディスカッションの機会が多いため、積極性と課題の本質をとらえる力を求めます。
(25)留意点・予備知識	隔週開催のため日程にご注意ください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	定員20名 ※授業開始日程の第2週目から隔週開催されます。 キャリア形成の発展-自分×仕事×地域①と同一内容です。 青森県の雇用状況、労働問題について事例検討を行います。 →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	339
(2)区分番号	339
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展—地域という視点から①—※奇数回 (Career Development-From regional perspectives-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</p> <p>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</p> <p>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</p> <p>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</p> <p>○卒業後の進路を主体的に選択するために、職業観を育成し就業意識を高める。そのために、各回の具体的な課題を通して、自己と社会の理解を深めると共に、毎回、グループワークやディスカッションを行いながら、コミュニケーション能力の向上を図り、自分が望むキャリアプランを明確にしていく。ディスカッションが本質的に深まるよう、主体的な参加を求めます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～</p> <p>第2回：職業選択における自己の価値観について</p> <p>第3回：地域コミュニティと家族 ～定位家族と生殖家族/ワークライフバランスについて～</p> <p>第4回：地域の産業・文化・技術について ～出身地域のプレゼンテーションを通して学ぶ～</p> <p>第5回：地域と企業 ～青森の働き方改革事例について～</p> <p>第6回：地域で働く職業人と語り合う ～キャリアのトランジションを考える～</p> <p>第7回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p>

	第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えることではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	脇坂明「労働経済学入門」日本評論者，2011年 筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社，2015年
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性を評価します） 中間評価20%（中間レポート/2回を予定） 期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢） 期末レポートの未提出、第4回のプレゼンテーション、第7回の総括ディスカッション、第8回まとめ試験の不参加は不可とする。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ディスカッション中心の授業です。プレゼンテーションやディスカッションが得意であることは求めませんが、自己開示と積極性が求められます。 小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。
(25)留意点・予備知識	用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」等の資料や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。 ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、就職活動の動向などについて普段から関心を持つようにしましょう。 総括ディスカッションのために、地元で働く人とそれ以外の人に対してキャリアインタビューを実施し、レポート作成をしていただく

	<p>きます。        8回の授業としては、課題は多いですが、まだ新しい講座ですので、堅苦しい内容ではなく相互に楽しみながら行っていきたいと思います。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名        ※キャリア形成の発展-地域という視点から②③④-と同一内容です。        ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に①②合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。以降、隔週開催（第2回は第3週目）となります。        ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。        ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く職業人をゲストに迎え、内的キャリアを考えます。「青森を学ぶ」姿勢というより「青森で学ぶ」という姿勢で進行します。        ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。        ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。        ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、Iターン経験者です。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	340
(2)区分番号	340
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展—地域という視点から②—※偶数回 (Career Development-From regional perspectives-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> <li>○卒業後の進路を主体的に選択するために、職業観を育成し就業意識を高める。そのために、各回の具体的な課題を通して、自己と社会の理解を深めると共に、毎回、グループワークやディスカッションを行いながら、コミュニケーション能力の向上を図り、自分が望むキャリアプランを明確にしていく。ディスカッションが本質的に深まるよう、主体的な参加を求めます。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～</p> <p>第2回：職業選択における自己の価値観について</p> <p>第3回：地域コミュニティと家族 ～定位家族と生殖家族/ワークライフバランスについて～</p> <p>第4回：地域の産業・文化・技術について ～出身地域のプレゼンテーションを通して学ぶ～</p> <p>第5回：地域と企業 ～青森の働き方改革事例について～</p> <p>第6回：地域で働く職業人と語り合う ～キャリアのトランジションを考える～</p> <p>第7回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p>

	第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えることではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	脇坂明「労働経済学入門」日本評論者，2011年 筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社，2015年
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性を評価します） 中間評価20%（中間レポート/2回を予定） 期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢） 期末レポートの未提出、第4回のプレゼンテーション、第7回の総括ディスカッション、第8回まとめ試験の不参加は不可とする。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ディスカッション中心の授業です。プレゼンテーションやディスカッションが得意であることは求めませんが、自己開示と積極性が求められます。 小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。
(25)留意点・予備知識	用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」等の資料や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。 ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、就職活動の動向などについて普段から関心を持つようにしましょう。 総括ディスカッションのために、地元で働く人とそれ以外の人に対してキャリアインタビューを実施し、レポート作成をしていただ

	<p>きます。        8回の授業としては、課題は多いですが、まだ新しい講座ですので、堅苦しい内容ではなく相互に楽しみながら行っていきたいと思います。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名        ※キャリア形成の発展-地域という視点から①③④-と同一内容です。        ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に①②合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。(地域という視点から①の開講時に必ず出席してください)その後、第4週目から隔週開講になります。        ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。        ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く職業人をゲストに迎え、内的キャリアを考えます。「青森を学ぶ」姿勢というより「青森で学ぶ」という姿勢で進行します。        ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。        ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。        ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターンの経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	341
(2)区分番号	341
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ー地域で働くということ ③ー※奇数回 (Career Development-Working Within the Community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域の産業・企業を知り、日本の産業構造や雇用構造を理解する。 ○自己理解を深める作業を通じて、自己の興味関心と能力を理解する。 ○キャリアをデザインするという視点で将来的ビジョンを描いてみる。
(16)授業の内容予定	以下は過年度の実績です。変更もありえます。 1. 自分を知る 第1回：ガイダンス 「地域で働くということ」について (講義) 第2回：自己分析 (ワークシートを使った客観的自己分析) 第3回：自己分析 (経験や体験を分析し、自分を知るワークショップ) 2. 社会を知る 第4回：社会や企業の仕組みを知る (講義) 第5回：地域で働くことやその意義、求められる人物像について考える (ワークショップ) 3. キャリアデザイン 第6回：社会人に必要な能力=やりたいことを叶えるために必要な能力 (講義) 第7回：ワークライフバランスと職業観について (講義とグループディスカッション) 第8回：キャリアデザインについて 学習状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 70% (授業への参加度及びグループ発表、ミニレポート等) 期末試験 30% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式ですが、ワークショップも含まれます。
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展—地域で働くということ④」と同一内容です。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u. ac. jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第1週目から隔週開催されます。 受講希望者数によっては「キャリア形成の発展—地域で働くということ④」と同一日程で開講されることがあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	342
(2)区分番号	342
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ー地域で働くということ ④ー※偶数回 (Career Development-Working Within the Community-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域の産業・企業を知り、日本の産業構造や雇用構造を理解する。 ○自己理解を深める作業を通じて、自己の興味関心と能力を理解する。 ○キャリアをデザインするという視点で将来的ビジョンを描いてみる。
(16)授業の内容予定	以下は過年度の実績です。変更もありえます。 1. 自分を知る 第1回：ガイダンス 「地域で働くということ」について (講義) 第2回：自己分析 (ワークシートを使った客観的自己分析) 第3回：自己分析 (経験や体験を分析し、自分を知るワークショップ) 2. 社会を知る 第4回：社会や企業の仕組みを知る (講義) 第5回：地域で働くことやその意義、求められる人物像について考える (ワークショップ) 3. キャリアデザイン 第6回：社会人に必要な能力=やりたいことを叶えるために必要な能力 (講義) 第7回：ワークライフバランスと職業観について (講義とグループディスカッション) 第8回：キャリアデザインについて 学習状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 70% (授業への参加度及びグループ発表、ミニレポート等) 期末試験 30% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式ですが、ワークショップも含まれます
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展—地域で働くということ③」と同一内容です。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第2週目から隔週開催されます。 受講希望者数によっては「キャリア形成の発展—地域で働くということ③」と同一日程で開講されることがあります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	343
(2)区分番号	343
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展ーがんばる青森の企業② ー※奇数回 (Career Development-Campany of Aomori doing its best-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	篠崎 有香 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青森県内の企業等における様々な取組とその背景について、男女共同参画の視点で考えます。</li> <li>○日本や地域が抱える問題や課題を「働く」というテーマを通して明らかにし、自身の豊かな人生や豊かな社会実現に向けた具体策を考えます。</li> <li>○グループディスカッション等への積極的な参画のなかで、自身のキャリア観を深めるとともに、多様な価値観を尊重できる考え方を醸成します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 職員がやめないために がんばる</li> <li>第3回 これまでになかった視点を活かすために がんばる</li> <li>第4回 「これまでになかった視点」について考える</li> <li>第5回 青森でがんばる</li> <li>第6回 青森の企業が(で) がんばるために</li> <li>第7回 「ワールドカフェ」に挑戦</li> <li>第8回 試験と振り返り</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、授業内容と関連づけて自分自身のキャリア形成について考えることを求めます。</p> <p>第7回では各自が調べてきた企業の取組について情報交換を行う予定です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しません。授業中、適宜プリントを配布します。



(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）70% 期末評価（期末試験）30% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心ですがグループディスカッションも行います。授業の最後にその日の講義の内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業開催日程の第1週目から隔週開催されます。</li> <li>○「キャリア形成の発展ーがんばる青森の企業〈1〉ー」と同一内容です。</li> <li>○青森県の企業等の取組について学びます。</li> <li>○教員は、キャリアカウンセラー（国家資格）、青森市男女共同参画プラザ「カダール」副館長、NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会副理事長です。</li> </ul>

## 教養教育科目

(1)整理番号	344
(2)区分番号	344
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－ワークライフバランス ②－※偶数回 (Career Development-work-life balance-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	篠崎 有香 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ワーク・ライフ・バランス」について男女共同参画の視点で考え、具体的な事例を学びます。</li> <li>○「ワーク・ライフ・バランス」を通して日本や地域が抱える問題や課題を明らかにし、自身の豊かな人生や豊かな社会実現に向けた具体策を考えます。</li> <li>○グループディスカッション等への積極的な参画のなかで、自身のキャリア観を深めるとともに、多様な価値観を尊重できる考え方を醸成します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 ワーク・ライフ・バランスはなぜ必要か</li> <li>第3回 ワーク・ライフ・バランスじゃない現状の背景にあるもの</li> <li>第4回 ワーク・ライフ・バランス実現のために&lt;1&gt;企業の取組</li> <li>第5回 ワーク・ライフ・バランス実現のために&lt;2&gt;さまざまな資源</li> <li>第6回 一人ひとりのキャリア形成のために</li> <li>第7回 「ワールドカフェ」に挑戦</li> <li>第8回 試験と振り返り</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、授業内容と関連づけて自分自身のキャリア形成について考えることを求めます。</p> <p>第7回では各自が調べてきた企業の取組について情報交換を行う予定です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	使用しません。授業中、適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	特にありません
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）70% 期末評価（期末試験）30% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心ですがグループディスカッションも行います。授業の最後にその日の講義の内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特にありません
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業開催日程の第2週目から隔週開催されます。</li> <li>○「キャリア形成の発展－ワーク・ライフ・バランス〈1〉－」と同一内容です。</li> <li>○青森県の企業等の取組について学びます。</li> <li>○教員は、キャリアカウンセラー（国家資格）、青森市男女共同参画プラザ「カダール」副館長、NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会副理事長です。</li> </ul>

## 教養教育科目

(1)整理番号	345
(2)区分番号	345
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性が活躍するために ②－※奇数回 (Career Development- Promotion of Women' s Participation and Advancement-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域での労働や社会保障の場面において、両性の区分が行なわれている実態を知る。 ○両性の区分がどのような場面においてどのような区分が必要とされてきたのかを歴史的に考察し、自身のキャリア形成のこれまでを振り返る。 ○両性の区分を社会－文化的な側面から捉えなおすことで、自身のキャリア形成について考える。
(16)授業の内容予定	1. ジェンダーの見方の成り立ち 第1回 「n個の性」という考え方 第2回 社会がもとめる性の区分－ジェンダーという見方 2. ジェンダーの見方がもたらした課題 第3回 シャドウ・ワーカー生物学的な性に基づく労働の区分 第4回 性のダブル・スタンダード－M字型就労形態と社会保障 3. 労働法制や社会保障制度におけるジェンダーの見方の取り込み 第5回 女性保護規定の変遷～労働基準法 第6回 女性の「社会」進出～男女雇用機会均等法の現実 育児休暇・育児休暇の取得 第7回 「第3号」の理由～年金法制 第8回 授業状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示します
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験（区分ごとに小レポートを課すこともある）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義方式を基本とします
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展－女性が活躍するために①」と同一内容です。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u. ac. jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第2週目から隔週開催されます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	346
(2)区分番号	346
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－地域課題というニッチ ②－※偶数回 (Career Development-Niche of Regional Issue-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること ○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○地域社会を捉えるにあたって、社会学における地域概念について検討する。 ○地域概念を用いると今日の地域社会は、農村と都市とに二分されたものとして捉えることが難しくなっていることを考察する。 ○人々が実際に創りあげる地域社会には多様な組合せによる社会関係が存在することを説明し、地域の課題はそれら既存の社会関係を用いて解決できることを明らかにする。
(16)授業の内容予定	1. 地域と地域社会 第1回 イン트로ダクションー地域のイメージ 第2回 地域社会の現局面 第3回 地域と地域社会の違い 2. 地域社会の具体例 第4回 都市化とはーアーバニズムとアーバン・クライシス 第5回 社会調査の事例から1ー郊外化と混住化 第6回 社会調査の事例から2ー家族(生活)と地域 3. 社会問題と地域課題 第7回 少子化・高齢化と地域 第8回 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内で指示します
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します

(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験（区分ごとに小レポートを課すこともある）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義方式を基本とします
(25)留意点・予備知識	「キャリア形成の発展－地域課題というニッチ①」と同一内容です
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス <code>suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp</code> [at]を@に置き換えてください
(28)その他	※授業開始日程の第1週目から隔週開催されます

## 教養教育科目

(1)整理番号	347
(2)区分番号	347
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展—地域という視点から③—※奇数回 (Career Development-From regional perspectives-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> <li>○卒業後の進路を主体的に選択するために、職業観を育成し就業意識を高める。そのために、各回の具体的な課題を通して、自己と社会の理解を深めると共に、毎回、グループワークやディスカッションを行いながら、コミュニケーション能力の向上を図り、自分が望むキャリアプランを明確にしていく。ディスカッションが本質的に深まるよう、主体的な参加を求めます。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～</p> <p>第2回：職業選択における自己の価値観について</p> <p>第3回：地域コミュニティと家族 ～定位家族と生殖家族/ワークライフバランスについて～</p> <p>第4回：地域の産業・文化・技術について ～出身地域のプレゼンテーションを通して学ぶ～</p> <p>第5回：地域と企業 ～青森の働き方改革事例について～</p> <p>第6回：地域で働く職業人と語り合う ～キャリアのトランジションを考える～</p> <p>第7回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p>



	第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えることではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	脇坂明「労働経済学入門」日本評論者，2011年 筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社，2015年
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性を評価します） 中間評価20%（中間レポート/2回を予定） 期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢） 期末レポートの未提出、第4回のプレゼンテーション、第7回の総括ディスカッション、第8回まとめ試験の不参加は不可とする。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ディスカッション中心の授業です。プレゼンテーションやディスカッションが得意であることは求めませんが、自己開示と積極性が求められます。 小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。
(25)留意点・予備知識	用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」等の資料や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。 ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、就職活動の動向などについて普段から関心を持つようにしましょう。 総括ディスカッションのために、地元で働く人とそれ以外の人に対してキャリアインタビューを実施し、レポート作成をしていただ

	<p>きます。        8回の授業としては、課題は多いですが、まだ新しい講座ですので、堅苦しい内容ではなく相互に楽しみながら行っていきたいと思います。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名        ※キャリア形成の発展-地域という視点から①②④-と同一内容です。        ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に③④合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。以降、隔週開催（第2回は第3週目）となります。        ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。        ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く職業人をゲストに迎え、内的キャリアを考えます。「青森を学ぶ」姿勢というより「青森で学ぶ」という姿勢で進行します。        ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。        ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。        ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターン経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	348
(2)区分番号	348
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展—地域という視点から④ —※偶数回 (Career Development-From regional perspectives-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> <li>○卒業後の進路を主体的に選択するために、職業観を育成し就業意識を高める。そのために、各回の具体的な課題を通して、自己と社会の理解を深めると共に、毎回、グループワークやディスカッションを行いながら、コミュニケーション能力の向上を図り、自分が望むキャリアプランを明確にしていく。ディスカッションが本質的に深まるよう、主体的な参加を求めます。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～</p> <p>第2回：職業選択における自己の価値観について</p> <p>第3回：地域コミュニティと家族 ～定位家族と生殖家族/ワークライフバランスについて～</p> <p>第4回：地域の産業・文化・技術について ～出身地域のプレゼンテーションを通して学ぶ～</p> <p>第5回：地域と企業 ～青森の働き方改革事例について～</p> <p>第6回：地域で働く職業人と語り合う ～キャリアのトランジションを考える～</p> <p>第7回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p>

	第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えることではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	脇坂明「労働経済学入門」日本評論者，2011年 筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社，2015年
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性を評価します） 中間評価20%（中間レポート/2回を予定） 期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢） 期末レポートの未提出、第4回のプレゼンテーション、第7回の総括ディスカッション、第8回まとめ試験の不参加は不可とする。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ディスカッション中心の授業です。プレゼンテーションやディスカッションが得意であることは求めませんが、自己開示と積極性が求められます。 小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。
(25)留意点・予備知識	用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」等の資料や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。 ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、就職活動の動向などについて普段から関心を持つようにしましょう。 総括ディスカッションのために、地元で働く人とそれ以外の人に対してキャリアインタビューを実施し、レポート作成をしていただく

	<p>きます。        8回の授業としては、課題は多いですが、まだ新しい講座ですので、堅苦しい内容ではなく相互に楽しみながら行っていきたいと思います。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名        ※キャリア形成の発展-地域という視点から①②③-と同一内容です。        ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に③④合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。(地域という視点から③の開講時に必ず出席してください)その後、第4週目から隔週開講になります。        ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。        ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く職業人をゲストに迎え、内的キャリアを考えます。「青森を学ぶ」姿勢というより「青森で学ぶ」という姿勢で進行します。        ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。        ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。        ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターン経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	349
(2)区分番号	349
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性のキャリア形成③ －※奇数回（Career Development-Womens's Career Development-）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員（所属）	吾妻 珠紀（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新のキャリア理論をベースに、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を考える。</li> <li>○職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学ぶ。</li> <li>○女性のライフコースにおけるリスクとサポートという視点から社会を捉える視点を身につける。</li> <li>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につける。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>女性のキャリア形成を概観しながら、最新のキャリア理論を参照し、自己のキャリア観に向き合ってもらいます。仕事と家庭という対立軸での考えではなく、幸福感を中心に答えのないものに取り組みます。ディスカッションが中心となるので、履修に関しては自発的な参加を望みます。ディスカッションが得意である必要はありませんが、自身のことを語ることに抵抗のある学生には向きません。論点の広がりが期待できる男子学生の参加も歓迎します。自由で活発な発言を期待し、他者の価値観を受け入れる、堅苦しくない講座を目指します。</p> <p>第1回：ガイダンス ～長期計画的キャリア計画と環境適応的キャリア計画～  第2回：自己のキャリアを振り返る ～普通の人生なんてない～  第3回：結婚観・家族観の時代的変容 ～ライフコースの考え方を通して～  第4回：女性のキャリアと企業の支援  第5回：女性とこころ ～認知の観点から～</p>

	<p>第 6 回：地域で働く女性と語り合う ～ゲストスピーカーを迎えて～</p> <p>第 7 回：総括ディスカッション ～キャリアインタビューを通して～</p> <p>第 8 回：アクションプランの策定、振り返り（まとめ試験を含む）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えるのではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ガイダンス時に、第2回の授業で使うワークシートを配布しますので、記入して持参してください。もし、ガイダンスに欠席した場合は、教務へお問い合わせください。他に小レポートを2つ予定しています。第7回のディスカッションのために期末レポートを課します。レポートは、職業人に対するインタビュー等を課題にしていきます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない。配布物のほとんどはワークシートです。
(21)参考文献	<p>ジョン・D・クランボルツ「その幸運は偶然ではないんです！」ダイヤモンド社、2005年</p> <p>筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社、2015年</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性）</p> <p>中間評価20%（小レポート 2回を予定）</p> <p>期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢）</p> <p>期末レポートの未提出、総括ディスカッションとまとめ試験の不参加は不可とする。</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>用語の基礎知識として、昨年度の必修科目「キャリア形成の基礎A」の資料等や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、女性活躍推進などについて普段から関心を持つようにしましょう。</p> <p>まだまだ新しい講座ですので、皆さんからも取り上げたいことを聞きながら、講座を一緒に作り上げていきたいです。</p>

	※ 女性を中心とした内容を多く含みますが、履修者の性別は問いません。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名  ※キャリア形成の発展-女性のキャリア形成①②④-と同一内容です。  ※ガイダンスは、授業開始日程の第1週に③④合同で行い、定員を超えた場合は抽選とします。以降、隔週開催（第2回は第3週目）となります。  ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。  ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く女性をゲストに迎え、交流の機会を設けます。  ※ディスカッションの広がり期待しているため、男子学生の受講を歓迎します。  ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。  ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。  ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターンの経験者です。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	350
(2)区分番号	350
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－女性×キャリア②－※ 奇数回（Career Development-Women Empowerment-）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限 不定期開催（隔週）
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己分析ワークを通して、自分を深く見つめる</li> <li>○女性のキャリア形成、キャリア支援における課題について現状を知る</li> <li>○女性が社会で活躍するために何が必要かを考える</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス～女性を取り巻く雇用環境～</p> <p>第2回：キャリア形成とは何か～自己分析ワーク～</p> <p>第3回：キャリア形成とは何か～様々なキャリア理論から考える～</p> <p>第4回：社会人基礎力とは～自分の強みを知る～</p> <p>第5回：女性のキャリア形成～日本のロールモデルとワークライフバランス～</p> <p>第6回：女性のキャリア形成～海外のロールモデルとワークライフバランス～</p> <p>第7回：女性が活躍するために～ジェンダーダイバーシティにおける課題～</p> <p>第8回：期末課題提出と全体振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価50%（授業への参加度、積極性） 期末評価50%（理解度の確認） 毎回授業内容についてリフレクションペーパーに記入を行います。 振り返り内容、授業への参加度、期末課題等を合算して評価します。 期末課題を提出しない場合は不可とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回前半は講義、後半はグループワークと発表を行います。 他者とのコミュニケーション、ディスカッションの機会が多いため、積極性と課題の本質をとらえる力を求めます。
(25)留意点・予備知識	隔週開催のため日程にご注意ください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	定員20名 ※授業開始日程第1週目から隔週開催 キャリア形成の発展-女性×キャリア①と同一内容です。 青森県内での女性活躍推進企業の具体的な取り組み、また労働問題について紹介します。 →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当

## 教養教育科目

(1)整理番号	351
(2)区分番号	351
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－アントレプレナーチャレンジ②－※偶数回 (Career Development-Entrepreneur Challenge-)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限 不定期開催 (隔週)
(10)担当教員(所属)	小笠原 ふじこ (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決型ワークの中でデザイン思考プロセスを体験する</li> <li>○イベント、商品企画の為のコンセプト作りの方法とマインドを実践を通し行う</li> <li>○地域、社会の課題を知り、チームで考え、新たな価値をアウトプットすることが目的とする</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス～デザイン思考とは～  第2回：デザイン思考プロセスを知る～オリエンテーションとグループワーク～  第3回：インタビューワーク～ユーザーとクライアントの真意～  第4回：インサイト抽出、ブレインストーミング、コンセプト作り①  第5回：コンセプト作り①  第6回：プロトタイピング～試作～①  第7回：プロトタイピング～試作～②  第8回：プレゼンテーションと振り返り</p> <p>※学生の習熟度によってテーマが前後したり変更する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間外において自分自身の将来への展望を考えることで、授業内のワークに積極的に参加することができます。授業後はワークの振り返りを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しない
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価70%（授業への参加度、積極性）          期末評価30%（チームプレゼンテーション）</p> <p>上記を合算して最終的な成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>グループワークを中心に行います。          コミュニケーションワーク、ダイアログが多いため          他者とのかかわりも大切にしながら、課題解決を行っていきます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>課題の本質をとらえる力を求めます。また各回グループワークや発表をしてもらいますので積極的に授業に参加することを求めます。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	<p>定員16名          ※授業開始日程の第2週目から隔週開催          キャリア形成の発展-アントレプレナーチャレンジ①と同一内容です。          青森県の人口減少対策の一環として、県の事業を受託しているNPOの方をゲストに迎え、コミュニケーションの仕組み作りを行います。          →「実務経験のある教員による授業科目」にも該当</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	352
(2)区分番号	352
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－社会と私①－【H文化】 (Career Development-Society and I-)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	吉田 美穂(教育学研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス 第2回：働き方の基礎基本 第3回：自己理解を深める①職業適性検査 第4回：キャリア形成再考 第5回：弘前大学での学習成果についての省察 第6回：地域で働く人を知る① 第7回：地域で働く人を知る② 第8回：地域で働く人を知る③ 第9回：自己理解を深める②PROG実施 第10回：業界別 働き方・生き方の研究① 第11回：業界別 働き方・生き方の研究② 第12回：業界別 働き方・生き方の研究③ 第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討 第14回：8月以降のアクション・プランづくり 第15回：まとめ 第16回：試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業終了後、次の授業前日までに、各自、授業内容を省察したレポートまたは授業内で課された課題についてのレポートを作成し、提出することを求める(提出先は弘大Moodleのフォルダ)
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。補助教材として「e-portfolio guidebook」「弘前大学の学習成果」を配布します。

(21)参考文献	授業内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度35%及び平常ミニレポート35%）、期末試験30% 上記を合算して、終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(25)留意点・予備知識	小レポートの提出に弘大Moodleを用います。
(26)オフィスアワー	水7・8限。出張が多いため、必ず事前に下記のメールアドレスにご連絡の上、来訪いただくようお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス m-yoshida[at]hirosaki-u. ac. jp [at]を@に置き換えてください。
(28)その他	第5回から第7回にかけて青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について 語っていただきます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	353
(2)区分番号	353
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－社会と私②－【H社会】 (Career Development-Society and I-)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	山下 梓(男女共同参画推進室)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を予定しています。授業の進行状況等によりシラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度ご説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：ガイダンス</li> <li>第2回：働き方の基礎基本</li> <li>第3回：自己理解を深める①職業適性検査</li> <li>第4回：キャリア形成再考</li> <li>第5回：弘前大学での学習成果についての省察</li> <li>第6回：地域で働く人を知る①</li> <li>第7回：地域で働く人を知る②</li> <li>第8回：地域で働く人を知る③</li> <li>第9回：自己理解を深める②PROG実施</li> <li>第10回：業界別 働き方・生き方の研究①</li> <li>第11回：業界別 働き方・生き方の研究②</li> <li>第12回：業界別 働き方・生き方の研究③</li> <li>第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討</li> <li>第14回：8月以降のアクション・プランづくり</li> <li>第15回：まとめ</li> <li>第16回：試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の内容を中心として復習するほかに、キャリアセンターや男女共同参画推進室など学内外で開かれる多様な働き方や生き方に関連するセミナーや講演会などに積極的に参加することをおすすめします。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	授業の中でご紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>下記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。          平常評価70% (毎回授業内容に関する平常ミニレポート、グループディスカッションへの参加など。単なる出席回数ではありません。)          期末評価30% (期末試験)</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義とグループディスカッションによって進めます。授業の最後にその日の授業内容について平常ミニレポートの提出が課されますが、このレポートは毎回採点・コメントを付して次の授業の際に返却する予定です。次の平常ミニレポートや期末試験での論述に活かしてください。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	固定のオフィスアワーはありません。原則として平日8:30~17:00はオフィス(総合教育棟1階 自学・自修室向かい)にありますが、不在の場合もありますので、面会を希望される方はメールか電話で事前に面会予約をとってから来室されるようお願いいたします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>azusa[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください。          弘前大学男女共同参画推進室ウェブサイト  <a href="http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/">http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/</a></p>
(28)その他	<p>弘前大学には、各種相談窓口が設けられています。詳細は以下のページで確認することができます。必要に応じて積極的に活用されることをおすすめします。  <a href="https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html">https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/soudan.html</a>          本授業における忌引きややむを得ない事情による欠席の取扱い、追試験の申し出、不正行為等については、弘前大学の定めによります。詳しくは第1回の授業でご説明する予定です。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	354
(2)区分番号	354
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－社会と私①－【S地球・電子・機械・自然】（Career Development-Society and I-）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来（キャリアセンター）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：ガイダンス</li> <li>第2回：働き方の基礎基本</li> <li>第3回：自己理解を深める①職業適性検査</li> <li>第4回：キャリア形成再考</li> <li>第5回：弘前大学での学習成果についての省察</li> <li>第6回：地域で働く人を知る①</li> <li>第7回：地域で働く人を知る②</li> <li>第8回：地域で働く人を知る③</li> <li>第9回：自己理解を深める②PROG実施</li> <li>第10回：業界別 働き方・生き方の研究①</li> <li>第11回：業界別 働き方・生き方の研究②</li> <li>第12回：業界別 働き方・生き方の研究③</li> <li>第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討</li> <li>第14回：8月以降のアクション・プランづくり</li> <li>第15回：まとめ</li> <li>第16回：試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ミニレポートの提出を求めます（提出先は弘大Moodleのフォルダ）
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。補助教材として「e-portfolio guidebook」「弘前大学の学習成果」を配布します。
(21)参考文献	授業内で紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度35%及び平常ミニレポート35%）、期末試験30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。 また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(25)留意点・予備知識	ミニレポートの提出に弘大Moodleを用います。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u. ac. jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	第6回から第8回にかけて青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について語っていただきます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	355
(2)区分番号	355
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展—社会と私②—【S数物・物質】（Career Development—Society and I—）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来（キャリアセンター）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：ガイダンス</li> <li>第2回：働き方の基礎基本</li> <li>第3回：自己理解を深める①職業適性検査</li> <li>第4回：キャリア形成再考</li> <li>第5回：弘前大学での学習成果についての省察</li> <li>第6回：地域で働く人を知る①</li> <li>第7回：地域で働く人を知る②</li> <li>第8回：地域で働く人を知る③</li> <li>第9回：自己理解を深める②PROG実施</li> <li>第10回：業界別 働き方・生き方の研究①</li> <li>第11回：業界別 働き方・生き方の研究②</li> <li>第12回：業界別 働き方・生き方の研究③</li> <li>第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討</li> <li>第14回：8月以降のアクション・プランづくり</li> <li>第15回：まとめ</li> <li>第16回：試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ミニレポートの提出を求めます（提出先は弘大Moodleのフォルダ）
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。補助教材として「e-portfolio guidebook」「弘前大学の学習成果」を配布します。
(21)参考文献	授業内で紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度35%及び平常ミニレポート35%）、期末試験30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。 また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(25)留意点・予備知識	ミニレポートの提出に弘大Moodleを用います。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u. ac. jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	第6回から第8回にかけて青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について語っていただきます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	356
(2)区分番号	356
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－社会と私①－【A生物・分子・地域】 (Career Development-Society and I-)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス  第2回：働き方の基礎基本  第3回：自己理解を深める①職業適性検査  第4回：キャリア形成再考  第5回：弘前大学での学習成果についての省察  第6回：地域で働く人を知る①  第7回：地域で働く人を知る②  第8回：地域で働く人を知る③  第9回：自己理解を深める②PROG実施  第10回：業界別 働き方・生き方の研究①  第11回：業界別 働き方・生き方の研究②  第12回：業界別 働き方・生き方の研究③  第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討  第14回：8月以降のアクション・プランづくり  第15回：まとめ  第16回：試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回の授業の最後や、次の授業前日までに授業内容を省察したレポートまたは授業内で課された課題についてのレポートを作成してもらいます。提出先は弘大Moodleのフォルダです。ゲストスピーカーの話や、ガイダンスの参加については、自己のキャリア観を振り返り、どのような考察を行ったかについてレポートを求めます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。補助教材として「e-portfolio guidebook」「弘前大学の学習成果」を配布します。
(21)参考文献	授業内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度35%及び平常ミニレポート35%）、期末試験30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。 また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(25)留意点・予備知識	ミニレポートの提出に弘大Moodleを用います。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	第6回から第8回にかけて青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について語っていただきます。

## 教養教育科目

(1)整理番号	357
(2)区分番号	357
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリア形成の発展－社会と私②－【A食料・国際】（Career Development-Society and I-）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	松田 侑子（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解すること</li> <li>○自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクションプランを検討・立案すること</li> <li>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする</li> <li>○地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育む</li> <li>○学ぶ目標を再確認する</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：ガイダンス</li> <li>第2回：働き方の基礎基本</li> <li>第3回：自己理解を深める①職業適性検査</li> <li>第4回：キャリア形成再考</li> <li>第5回：弘前大学での学習成果についての省察</li> <li>第6回：地域で働く人を知る①</li> <li>第7回：地域で働く人を知る②</li> <li>第8回：地域で働く人を知る③</li> <li>第9回：自己理解を深める②PROG実施</li> <li>第10回：業界別 働き方・生き方の研究①</li> <li>第11回：業界別 働き方・生き方の研究②</li> <li>第12回：業界別 働き方・生き方の研究③</li> <li>第13回：自己理解を深める③PROGの結果の検討</li> <li>第14回：8月以降のアクション・プランづくり</li> <li>第15回：まとめ</li> <li>第16回：試験</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ミニレポートの提出を求めます（提出先は弘大Moodleのフォルダ）
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。補助教材として「e-portfolio guidebook」「弘前大学の学習成果」を配布します。
(21)参考文献	授業内で紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価70%（授業への参加度35%及び平常ミニレポート35%）、期末試験30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	外部から職業人の方々を迎えての講義があります。 また、授業内容の順番が入れ替わる可能性があります。
(25)留意点・予備知識	小レポートの提出に弘大Moodleを用います。
(26)オフィスアワー	木曜3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ymatsuda@hirosaki-u.ac.jp">ymatsuda@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	第6回から第8回にかけて青森県内の職業人をゲストスピーカーとしてお迎えし、地域でキャリア形成を行う意義について語っていただきます。



## 教養教育科目

(1)整理番号	358
(2)区分番号	358
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインーキャリアと資産形成ー (Career DesignーAsset Management and Finance: Introductionー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	飯島 裕胤 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>人生は長くまた不確実で、あなたが社会人になれば、資産形成を考えることが必要になります。一般には難しいとされる資産形成を、経済理論を手掛かりにして、できるだけ簡明に理解することを目指します。</p> <p>たとえば、銀行に行けば預金以外にさまざまな金融商品が提供されています。それら金融商品の知識を得ることはもちろん、そのお金がどこへ行ってどう使われるかを理解することで、金融商品の良し悪しをよりの確に判断できるようにしたいと思います。</p> <p>授業では、その上で、あなたなりの具体的な資産形成をグループワーク形式で計画してもらい、主体的に資産形成を考えていきます。(キャリアとは、「職業」だけでなく「人生・生涯」を含む豊かな概念です。)</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 消費平準化と貯蓄の選択①</p> <p>第3回 消費平準化と貯蓄の選択②</p> <p>第4回 消費平準化と貯蓄の選択③</p> <p>第5回 リスクと保険の選択①</p> <p>第6回 リスクと保険の選択②</p> <p>第7回 リスクと保険の選択③</p> <p>第8回 住宅の購入と繰り上げ返済①</p> <p>第9回 住宅の購入と繰り上げ返済②</p> <p>第10回 住宅の購入と繰り上げ返済③</p> <p>第11回 貸付と負債の理論①</p> <p>第12回 貸付と負債の理論②</p> <p>第13回 分散投資と証券の選択①</p> <p>第14回 分散投資と証券の選択②</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	具体的な資産形成に関する演習問題を提示します。それに取り組んでもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	法学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	渡辺茂『しっかりわかるファイナンス』中央経済社
(21)参考文献	古川浩一他著『基礎からのコーポレート・ファイナンス』中央経済社
(22)成績評価方法及び採点基準	試験とグループワークの取組（事前レポートを含む）で評価します（それぞれ、70%、30%の評価割合を基本とします）。試験は最終試験のみ実施する予定です。試験問題は、講義中に適宜配布する練習問題から出題します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式の他、グループワーク（資産形成に関する能動的学習）を含みます。
(25)留意点・予備知識	人文社会科学部科目の「金融論」「国際金融論」もあわせて受講すると、理解が深まるでしょう。
(26)オフィスアワー	月曜日11:30-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iiijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※ (at)は@に置き換えてください
(28)その他	とくにありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	359
(2)区分番号	359
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインーライフデザインー (Career DesignーLife Designー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	李 秀眞(教育学部)、小野 恭子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○生活設計の基礎となる主要概念と理論、方法を応用し、個人、家族生活および社会生活における生活設計能力の活用方法を考える。</p> <p>○生活設計の意義を理解するとともに、生活設計の活用方法を取得し、自分の生活に応用できる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ライフプランを描く (李・小野)</p> <p>第2回 生活診断 ー私は誰か?どう生きるか? (李)</p> <p>第3回 個人の発達とライフデザイン (小野)</p> <p>第4回 家族の発達とライフデザイン (小野)</p> <p>第5回 生活時間設計 (李・小野)</p> <p>第6回 余暇設計 (李・小野)</p> <p>第7回 財務設計 (李)</p> <p>第8回 青年期の生活設計ー家族形成①:結婚する?しない? (李)</p> <p>第9回 青年期の生活設計ー家族形成②:出産・育児を考える (李)</p> <p>第10回 青年期の生活設計ー職業設計①:どんな仕事を選ぶか (李)</p> <p>第11回 青年期の生活設計ー職業設計②:仕事と自己成長 (李)</p> <p>第12回 家族の生活設計①:家族のステージと生活課題 (李)</p> <p>第13回 家族の生活設計②:家族の生活課題を解決するには (李)</p> <p>第14回 私のライフプランの作成 (李・小野)</p> <p>第15回 私のライフプランの発表 (李・小野)</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	普段の自分の生活を記録してみる。例えば、目標を立てる、時間使用を記録する、お金の使用を記録するなどをして、自分の生活を見える化してみる。近未来の自分の生活をシミュレーションしてみる。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経済学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料配布
(21)参考文献	小杉礼子・堀有喜衣編『キャリア教育と就業支援 フリーター・ニート対策の国際比較』, 勁草書房, 2007. 第一生命経済研究所編『ライフデザイン白書2015』, 株式会社 ぎょうせい, 2015. センディル・ムツライナタン&エルダー・シャフィール著、大田直子訳『いつも「時間のない」あなたに 欠乏の行動経済学』, 早川書房, 2015. 道幸哲也・原田順子編著『多様なキャリアを考える』, 放送大学教育振興会, 2015.
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加(30%)、小レポート2回(30%)、中間・期末発表(40%)を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習形式で進める。最終的に自分のライフプランを作成し、発表する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜 10:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:leesujin@hirosaki-u.ac.jp">leesujin@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	360
(2)区分番号	360
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインー知的財産教育ー (Career DesignーIntroduction to Intellectual Propertyー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○長南 幸安(教育学部)、木村 友久(山口大学・非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○1. 知的財産の全体像を理解すること</p> <p>○2. レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに初歩的な知的財産対応能力を形成すること</p> <p>○3. 社会活動における知的財産の価値を実感すること</p> <p>知識・理解の観点： 知的財産の全体像を把握することができる。</p> <p>思考・判断の観点： 知的財産に関する事象を、合理的に整理できる。</p> <p>関心・意欲の観点： 知的財産が関係する新たな事象等に、積極的に対応することができる。</p> <p>態度の観点： 知的財産に関して、関係者の真の利害関係を把握したうえで、自発的に適切な対応をすることができる。</p> <p>技能・表現の観点： 知的財産に関する各種の情報を体系的に検索し、その内容をまとめることができる。</p> <p>その他の観点： 自己の専門領域に関して、知的財産の知識とスキルを応用する基礎的な能力を獲得する。</p> <p>知的財産基本法は、知的財産を『発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの、商標、商号その他事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの及び営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報』と規定しています。知的財産は、土地や机・椅子のように形がある財産（有体物）とは異なり、同時に別の場所で使用することも可能であり直接的支配が難しい無体物（アイデア等の情報）として存在しています。従って、権利の獲得、保護、活用の各局面で無体物と</p>

	<p>しての特性に応じた権利者側のコントロールが必要になります。また、知的財産の受け手側にも、何処に知的財産が存在しどこまで利用できるのかという適切な判断が求められています。本講義では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産対応力の形成を図るものとします。</p>
(16)授業の内容予定	<p>受講者が、身近に存在する知的財産の全体像を俯瞰できるように知的財産モラルまで含めた内容です。冒頭で、知的財産法の入門的内容を扱った後に、各種知的財産制度を具体的な事件をテーマに講義します。後半では、学生の学習領域に合わせた初歩的な対応力育成も考えた授業を行います。授業は法理論だけでなく、基礎的な実務能力獲得も目指した内容であり、全ての時間で教員と学生が双方向で議論する授業を行います。</p> <p>1) 知的財産の全体像 : 木村・長南  2) 著作権の基礎知識 : 木村  3) 著作権法に定められた権利 : 木村  4) 著作権の権利制限・研究者マナー : 木村  5) 産業財産権の基礎知識 (主に特許制度) : 木村  6) 意匠制度 : 木村  7) 商標制度 : 木村  8) 確認テスト (1回～7回) とまとめ : 長南</p> <p>2019年度は1回目のガイダンス (長南担当) は、4月12日 (金) 17:40～ 総合教育棟406講義室で行います。  集中講義は  9月26日 (木) 1～4コマ目  9月27日 (金) 1～3コマ目  で実施の予定です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として、身の回りの知的財産物について調べてまとめておくこと。  復習として、調べた知的財産物が法的にどの事例に当たるかを検証してみることに。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識 (国立大学法人山口大学 研究推進機構 知的財産センター)  日経BP社 ISBN 978-4-8222-3642-7</p>
(21)参考文献	講義中にお知らせします。
(22)成績評価方法及び採点基準	確認テスト50% 授業内小テスト・レポート50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	集中講義
(25)留意点・予備知識	<p>教科書は必ず一回目の講義開始までに購入して、授業で持参してください。この教科書の中に、授業で使用するワークシートと宿題が入っています。授業時にそれを切り離して、課題を記入後に授業後半で回収します。欠席等で授業時点以外に提出することは、忌引き等の場合以外は認めません。この提出と各回の評価は、そのまま成績評価に積み上げ</p>

	ます。また、ワークシートと宿題シートをコピー等で提出することも、著作権侵害になるため認めていません。
(26)オフィスアワー	まとめ役：長南 月～金 8：00～8：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	まとめ役：長南 <a href="mailto:cho@hirosaki-u.ac.jp">cho@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	実務（企業・公的機関・高等学校・高専）経験のある教員が担当する。

## 教養教育科目

(1)整理番号	361
(2)区分番号	361
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインー農業インターンシップ① ー (Career DesignーAgricultural Internshipー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	藤崎 浩幸 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○次の1)2)を通じて、農業に必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得します。</p> <p>1) 受入農業者が行っている農業や農業を行っている農村の状況を理解する。</p> <p>2) 受入農業者の農業に対する考え方を理解する。</p> <p>○受入先での農業体験を通じて、自分自身の農業に関する職業選択を考える。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 事前研修会 訪問希望する地域の農業について自ら調べた結果を元に、農業者体験計画書を作成し、内容を報告します。 計画書に基づき、学生自身が(必要に応じ教員の協力を得て)受入農業者を探します。</p> <p>3. 農業者体験 土日、祝日や授業の休業期間を活用して、延べ5～10日間程度、農業者体験を行います。 異なる季節に体験を行うと、農作物の生育状況に応じた生産体験が可能です。 農作業体験のみならず、出荷・販売といった農業者体験を行う場合もあります。 5日間体験した場合は1単位、10日間体験した場合は2単位とします。 最低一度は農業者宅に宿泊します。 体験中は作業日誌を作成します。計画した一連の体験がすべて終了した後に、報告書を作成します。 農作業に必要な作業着・長靴・帽子など、宿泊時に必要な寝間着・洗面用具などは自ら準備します。 農業者の指導のもと農業者体験を行い、農業者との会話を通じて、農業や農村の状況を体感し理解すると同時に、自分自身の農業に関する職業選択に対する考えを深めます。</p> <p>4. 事後報告会</p>



	作業日誌・報告書に基づき、農業者体験報告を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	農業者体験計画書作成に際しては、ある地域の農業や農業者について情報収集し、体験計画について報告準備を行います。報告後は、他の受講者や教員等からの意見を踏まえて、計画書の修正を行います。 農業者体験中は、作業日誌を作成します。また、必要に応じて、体験に関する予習や復習として情報収集を行うこともあります。 すべての農業者体験終了後は、報告書を作成し、事後報告準備を行います。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。
(21)参考文献	必要に応じて、関係する情報を自ら収集します。
(22)成績評価方法及び採点基準	農業者体験計画書の内容と事前研修会での報告を10%、受入れ農業者からの評価50%、作業日誌と報告書の内容20%、事後報告での報告を20%の比率で評価します。 自発的な情報収集力、体験した農業や農村の状況および受入れ農業者の考え方の理解状況、今後の自分自身の農業に関する職業選択に対する考察状況、計画書や報告の表現力を評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	受入れ農業者の現場で行われる体験が主です。事前と事後に大学で研修会と報告会が行われます。
(25)留意点・予備知識	必ず傷害保険と賠償責任保険に加入しておいてください。加入していない場合は受講できません。 なお、原則として農業者との間で金銭の授受はありません。農業者体験中の指導料は不要です。農作業に対する労賃を受け取ることもありません。状況により農業者体験中の食費、宿泊費を負担いただく場合があります。前期の授業開始後すぐにガイダンスと事前研修会を開催します。掲示に注意してください。 事後報告会は、10月頃に体験終了者が一定数になった時点で開催します。
(26)オフィスアワー	火曜日11:40~13:10 としていますが、これ以外の日時でも対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fusa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	教員研究室は、農生棟317室 です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	362
(2)区分番号	362
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインー農業インターンシップ② ー (Career DesignーAgricultural Internshipー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	藤崎 浩幸 (農学生命科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○次の1)2)を通じて、農業に必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得します。</p> <p>1) 受入農業者が行っている農業や農業を行っている農村の状況を理解する。</p> <p>2) 受入農業者の農業に対する考え方を理解する。</p> <p>○受入先での農業体験を通じて、自分自身の農業に関する職業選択を考える。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 事前研修会 訪問希望する地域の農業について自ら調べた結果を元に、農業者体験計画書を作成し、内容を報告します。 計画書に基づき、学生自身が(必要に応じ教員の協力を得て)受入農業者を探します。</p> <p>3. 農業者体験 土日、祝日や授業の休業期間を活用して、延べ5～10日間程度、農業者体験を行います。 異なる季節に体験を行うと、農作物の生育状況に応じた生産体験が可能です。 農作業体験のみならず、出荷・販売といった農業者体験を行う場合もあります。 5日間体験した場合は1単位、10日間体験した場合は2単位とします。 最低一度は農業者宅に宿泊します。 体験中は作業日誌を作成します。計画した一連の体験がすべて終了した後に、報告書を作成します。 農作業に必要な作業着・長靴・帽子など、宿泊時に必要な寝間着・洗面用具などは自ら準備します。 農業者の指導のもと農業者体験を行い、農業者との会話を通じて、農業や農村の状況を体感し理解すると同時に、自分自身の農業に関する職業選択に対する考えを深めます。</p> <p>4. 事後報告会</p>

	作業日誌・報告書に基づき、農業者体験報告を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	農業者体験計画書作成に際しては、ある地域の農業や農業者について情報収集し、体験計画について報告準備を行います。報告後は、他の受講者や教員等からの意見を踏まえて、計画書の修正を行います。 農業者体験中は、作業日誌を作成します。また、必要に応じて、体験に関する予習や復習として情報収集を行うこともあります。 すべての農業者体験終了後は、報告書を作成し、事後報告準備を行います。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会経済農学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用されません。
(21)参考文献	必要に応じて、関係する情報を自ら収集します。
(22)成績評価方法及び採点基準	農業者体験計画書の内容と事前研修会での報告を10%、受入れ農業者からの評価50%、作業日誌と報告書の内容20%、事後報告での報告を20%の比率で評価します。 自発的な情報収集力、体験した農業や農村の状況および受入れ農業者の考え方の理解状況、今後の自分自身の農業に関する職業選択に対する考察状況、計画書や報告の表現力を評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	受入れ農業者の現場で行われる体験が主です。事前と事後に大学で研修会と報告会が行われます。
(25)留意点・予備知識	必ず傷害保険と賠償責任保険に加入しておいてください。加入していない場合は受講できません。 原則として農業者との間で金銭の授受はありません。農業者体験中の指導料は不要です。農作業に対する労賃を受け取ることもありません。状況により農業者体験中の食費、宿泊費を負担いただく場合があります。 後期の授業開始後すぐにガイダンスと事前研修会を開催します。掲示に注意してください。 事後報告会は、4月頃に体験終了者が一定数になった時点で開催します。
(26)オフィスアワー	火曜日11:40~13:10 としていますが、これ以外の日時でも対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fusa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	教員研究室は、農生棟317室 です。

## 教養教育科目

(1)整理番号	363
(2)区分番号	363
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザイン－インターンシップ－ (Career Design－internship－)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	鈴木 未来 (キャリアセンター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○雇用社会を理解し、自分自身について知り、社会にあるいろいろな職業・企業を知り、自分の進路を歩むための方法を学ぶ</p> <p>○インターンシップ(就業体験)を行う前段階の知識を得て、将来への適切な展望と職業意識を持てるように学ぶ</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス「インターンシップ」で何を学ぶか</p> <p>第2回：民間企業、公務系、NPOなど、色々な就業体験とは</p> <p>第3回：就職活動とインターンシップの関係</p> <p>第4回：自分のやりたい事を考える(総論)</p> <p>第5回：自分のやりたい事を考える(事例)</p> <p>第6回：自分のやりたい事を考える(各論1)</p> <p>第7回：自分のやりたい事を考える(各論2)</p> <p>第8回：インターンシップ先を探す(業界研究1)</p> <p>第9回：インターンシップ先を探す(業界研究2)</p> <p>第10回：インターンシップ先を探す(業界研究3)</p> <p>第11回：インターンシップ先を探す(グループ発表)</p> <p>第12回：社会人基礎力を高める(1)</p> <p>第13回：社会人基礎力を高める(2)</p> <p>第14回：自己のパーソナリティを分析する</p> <p>第15回：まとめ レポート作成</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>グループワークの際に、事前の準備(ワークシートの作成)と実施後のミニレポートの作成を求めます。</p> <p>また授業内で実施する業界研究・企業研究については、自身の関心のある領域を授業時間外に考えミニレポートにまとめてもらいます。</p> <p>その他、授業内にも随時指示します。</p> <p>ワークシートやミニレポートの作成にあたっ</p>

	ては、授業時間外に開催されるインターンシップセミナーなどキャリアセンターが主催するセミナーやガイダンスの機会も活用してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しません
(21)参考文献	授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 70% (授業への参加度及びグループ発表、ミニレポート等) 期末レポート30% を合算して、最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループワーク・ディスカッション、企業研究等
(25)留意点・予備知識	この授業はインターンシップの基礎を学ぶものです。 実際のインターンシップは「キャリアデザイン-インターンシップ実習A・B・C」として、後日に受入企業等を決めて別途履修する形になります。 (インターンシップに関するキャリアセンターや学部からの掲示を確認してください)
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス suzuki-m[at]hirosaki-u.ac.jp [at]を@に置き換えてください
(28)その他	5年次以降の学生は「21世紀教育 特設テーマ科目」として履修してください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	364
(2)区分番号	364
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザイン－インターンシップ（実習）A・B・C－（Career Design－Career design internship（practical training） A・B・C－）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	「授業の内容予定」記載
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員（所属）	鈴木 未来（キャリアセンター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること ○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
(15)授業の概要	○インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学ぶ。 ○事前研修会や事後報告会で準備や振り返りを行う。（詳細内容は受入企業等ごとに異なります。）
(16)授業の内容予定	1. インターンシップ・オリエンテーション インターンシップ制度の説明会に参加してください ・夏休みを中心とするインターンシップは5月下旬頃に開催予定（1回） ・春休みを中心とするインターンシップは1月上旬頃に開催予定（1回） 2. 事前研修会 インターンシップのための事前研修会に参加してください ・夏休みを中心とするインターンシップは7月下旬、8月上旬に開催予定（1回） ・春休みを中心とするインターンシップは2月中旬に開催予定（1回） 3. インターンシップの実施 各自、受入先企業や官公庁を探し、手続きし、実施します インターンシップの内容は、受入先企業や官公庁によって異なります（実習30時間（6時間×5日等）） 4. 事後報告会 インターンシップの報告会に参加してください ・夏休みを中心とするインターンシップは10月下旬頃に開催予定（1回） ・春休みを中心とするインターンシップは3月下旬頃に開催予定（1回）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	受入企業や官公庁を、自ら探し、手続きし、実施します。 どのような就業体験を行いたいのか考え、計画書や報告書を作成します。 ※キャリアセンター前掲示物で、インターンシップ情報を確認してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	受入先企業等で適宜提供されます。

(21)参考文献	受入先企業等で適宜提供されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	事前研修会（10%）、事後報告会（10%）、インターンシップ日報及び企業からの評定書（70%）、計画書及び報告書の作成（10%）をもとに最終的な成績評価が行われます。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	インターンシップ（就業体験） 実習30時間（6時間×5日等）を基本に1単位となります。
(25)留意点・予備知識	※受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。 受入企業等が決定した後に正式な履修登録となります。
(26)オフィスアワー	キャリアセンターにて随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス <a href="mailto:suzuki-m@hirosaki-u.ac.jp">suzuki-m[at]hirosaki-u. ac. jp</a> [at]を@に置き換えてください 教育推進機構キャリアセンター <a href="http://www.hirosaki-u.ac.jp/shushoku/index.html">http://www.hirosaki-u. ac. jp/shushoku/index. html</a>
(28)その他	インターンシップ期間中は受入先企業等の担当者からの指導が行われます ※履修手続きについてはキャリアセンターが発行する「INTERNSHIP GUIDE BOOK 2019」を熟読してください。 ※※5年次以降の学生は「21世紀教育 特設テーマ科目」又は「企業等実習」として履修してください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	365
(2)区分番号	365
(3)科目種別	キャリア教育
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアデザインー女性のライフキャリアを考えるー (Career Design-Thinking of the Life Careers of Womenー)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	吾妻 珠紀 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること</p> <p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
(15)授業の概要	<p>○最新のキャリア理論を元に、女性のキャリア形成を題材にしながら、自己の職業観を明確にすることで、職業選択の軸を一緒に考えます。</p> <p>○女性の職業的キャリア形成のみならず、家族のあり方、幸福感と職業を考えながら、自己のライフプランを模索します。</p> <p>○親、特に母親の生き方が多くの学生にとってロールモデルになり得ない現代、多くの職業人との出会いを通して、職業の内発的キャリアについての捉え方を体験として学べるようにプログラムしました。</p> <p>○女性のライフコースにおけるリスクとサポートという視点から社会を捉える視点を身につけ、将来を少しでも可視化します。</p> <p>○正解のないグループディスカッションを通して、自分の考えを表現する力と人の意見を取り込む力を身につけていきます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>女性のキャリア形成を概観しながら、自己のキャリア観にも向き合ってもらいます。仕事と家庭という対立軸での考えではなく、幸福感を中心に答えのないものに取り組みます。各回テーマに沿ったディスカッション中心の講義なので、履修に関しては自発的な参加を望みます。ディスカッションが得意である必要はありませんが、自身のことを語ることに抵抗のある学生には向きません。ディスカッションの広がりが期待できる男子学生の参加も歓迎します。自由で活発な発言を期待し、多様な意見を受け入れる、堅苦しくない講座を目指します。</p> <p>ゲストスピーカーや、座談会、また、職業人インタビューの実施を通して、ロールモデルを見つけたら、ぼんやりとしたライフキャリア観を形作る、または揺るがず体験をしてみたいです。グループディスカッションやグループワークを通して、他者の考えを知る</p>



	<p>と共に、自己についての理解を深め、職業観の育成をはかります。</p> <p>第1回：ガイダンス～職業キャリアからライフキャリアへ～  第2回：自己のキャリアを考える～小さなキャリアプランの策定～  第3回：自己探索ゲームの実施①  第4回：自己探索ゲームの実施②  第5回：主体的に考えるライフキャリアとは～自分がたりの効果～  第6回：自己のキャリア形成における価値観を探る  第7回：キャリアデザインとキャリア理論  第8回：女性の働き方を考える①～ゲストスピーカーを迎えて～  第9回：女性の働き方を考える②～WLBを進める企業の制度～  第10回：認知とセルフカウンセリング～自分で自分を苦しめないために～  第11回：子育て中の女性との出会いの中から自己のライフキャリアを考察する①  第12回：子育て中の女性との出会いの中から自己のライフキャリアを考察する②  第13回：女性のリスク①身体～女性疾病について～知っていますか～  第14回：女性のリスク①マネープラン  第15回：総括ディスカッション～キャリアインタビューを通して～  第16回：アクションプランの策定、講義振り返り（まとめ試験を含む）</p>
<p>(17)準備学習(予習・復習)等の内容</p>	<p>授業時間外において、自分自身の将来への展望を考えることを求めます。ここでいう将来とは、ただ単に職業選択を考えることではなく、人生においてどのような価値を得たいのか、半年かけて少しずつ考えてもらいます。学内外でのキャリア形成に関するセミナー等に積極的に参加することをおすすめします。ディスカッションで必要な基礎知識を自身で調べたり、職業人へのインタビューをレポートでまとめらもらったり等、ほぼ毎回、課題に取り組んでもらいます。演習中心ですので、皆さんの自主性に期待し、一緒に講座を作り上げていきたいです。  第15回の総括ディスカッションのために期末レポートを課します。女性のロールモデルに対するインタビュー等を課題にしていきたいと思います。</p>
<p>(18)学問分野1(主学問分野)</p>	<p>学際・新領域</p>
<p>(18)学問分野2(副学問分野)</p>	<p>心理学関連</p>
<p>(18)学問分野3(副学問分野)</p>	<p>社会学関連</p>
<p>(19)実務経験のある教員による授業科目について</p>	<p>実務教員</p>
<p>(20)教材・教科書</p>	<p>使いません。配布物のほとんどはワークシートです。</p>
<p>(21)参考文献</p>	<p>青島祐子「女性のキャリアデザイン」学文社、2007年  ジョン・D・クランボルツ「その幸運は偶然ではないんです！」ダイヤモンド社、2005年  筒井淳也「仕事と家族」中央公論新社、2015年</p>
<p>(22)成績評価方法及び採点基準</p>	<p>平常評価40%（出席回数ではなく、リアクションペーパーと授業への参加度、積極性）  中間評価20%（小レポート）</p>

	<p>期末評価40%（期末レポートとまとめ試験による自己のキャリア形成に取り組む姿勢）          期末レポートの未提出、総括ディスカッションとまとめ試験の不参加は不可とする。          上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>小講義にてテーマの提示（もしくはワークシートへ記入）をした後、その他のほとんどの時間がディスカッションとなります。毎回のテーマから、自己表現して感じたこと、他者との意見交換で起こった変化など自己洞察を深め、毎回リアクションペーパーへ記入してもらいます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>用語の基礎知識として、必修科目「キャリア形成の基礎A」の資料等や、阿部正浩・松繁寿和「キャリアのみかた改訂版」有斐閣2014等を参考にしてください。ディスカッションを中心とした学びのため、積極性を求めます。新聞等により、キャリア形成、政治・経済、働き方改革、女性活躍推進などについて普段から関心を持つようにしましょう。まだまだ新しい講座ですので、皆さんからも取り上げたいことを聞きながら、講座を一緒に作り上げていきたいです。</p> <p>※ 女性を中心とした内容を多く含みますが、履修者の性別は問いません。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t_azuma <at> hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	<p>定員は20名          ※選択必修で「女性のキャリア形成」に関する授業を選択した学生が望ましいですが、必須ではありません。（十分、理解できる内容です）          ※青森県のワークライフバランスに取り組む企業の紹介、青森県で働く女性、子育て中の女性をゲストに迎え、交流の機会を設けます。          ※12月の土曜に、第11回と第12回の集中講義として、学内で座談会を実施します。ガイダンスで日時をお伝えしますので、必ず出席してください。講義2回分になりますので、欠席とすると評価に影響します。          ※各回の内容はゲストスピーカー招致等の関係で、前後することがあります。その場合は、授業内でアナウンスします。          ※ディスカッションの広がり期待しているため、男子学生の受講を歓迎します。          ※2,3年生の合同授業のため、就職活動の情報交換も盛んです。          ※教員以外のキャリアに触れる機会が少ない教育学部生を歓迎します。（30年度は約半数が教育学部生）          ※合理的配慮が必要な学生は申し出てください。個別に対応します。          ※「実務経験のある教員による授業科目」にも該当。担当者はキャリアコンサルタントで、就労支援及び、小学校から高等教育まで教育現場での支援を中心に活動しています。東京での就労経験を持つ、1ターンの経験者です。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	366
(2)区分番号	366
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	木村 宣美 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 It's nice to meet you 第2回 That's a great hairstyle 第3回 Shopping trip 第4回 What are you doing this weekend? 第5回 Have you been to San Francisco? 第6回 My best friend 第7回 I'm taller than you are 第8回 Where shall we eat? 第9回 Going to the movies 第10回 Shopping for the perfect gift 第11回 What's your favorite? 第12回 Hard work 第13回 I was so embarrassed! 第14回 What should I do? 第15回 A room with a view ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 使用するテキストは、15のユニット（各ユニットは4ページ構成）で構成されています。1回の授業で最低1ユニットは進みます。複数のユニットの予習をしてください。 [復習] 学習内容の理解度を確認するために、小テストが毎回行われます。小テストに向けて、復習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	James Bean 2004年 Listen to this! [BASIC] 『リスニングスキルの総合演習（初級）』成美堂
(21)参考文献	必要に応じて、適宜授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式（演習問題の解答及び解説）
(25)留意点・予備知識	授業内容を深く理解するために、予習及び復習等の課外学習が必要です。高等学校で活用した英語の参考書を読み直してみましょう。
(26)オフィスアワー	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hukumura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	367
(2)区分番号	367
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	堀 智弘 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス（授業の説明等） 第2回 Unit 1: Spain 第3回 Unit 2: China 第4回 Unit 3: Peru 第5回 Unit 4: Tokyo 第6回 Unit 5: New York City 第7回 Unit 6: Antarctica 第8回 Review 1 第9回 Unit 7: India 第10回 Unit 8: New Zealand 第11回 Unit 9: Africa 第12回 Unit 10: Cambodia 第13回 Unit 11: Egypt 第14回 Unit 12: Italy 第15回 Unit 13: Mars 第16回 期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各ユニットの内容のディクテーションを毎回行いますので、しっかり復習することが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Carmella Lieske, _Globe Trotters_ (Gengage)
(21)参考文献	授業時に適宜紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	問題演習を中心として授業を行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	火曜日12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	368
(2)区分番号	368
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	澤田 真一 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 第3回：Unit 2 第4回：Unit 3 第5回：Unit 4 第6回：Unit 5 第7回：Unit 6 第8回：Unit 7 第9回：Unit 8 第10回：Unit 9 第11回：Unit 10 第12回：Unit 11 第13回：Unit 12 第14回：Unit 13 第15回：Unit 14 第16回：期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストの予習を前提に、授業をすすめていきます。自己表現の幅を広げる為に、復習は欠かさず行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Tadashi Shizawa, Gregory A. King: Global Activator, 金星堂
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20

	<p>%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式になります。
(25)留意点・予備知識	なぜ自分は外国語を勉強するのかという問いに自ら答えを見つけ、明確な目的意識をもって授業に参加してください。
(26)オフィスアワー	昼休み及び金曜日 4 コマ目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ssawada@hirosaki-u.ac.jp">ssawada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。



## 教養教育科目

(1)整理番号	369
(2)区分番号	369
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Unit 1 Spain 第3回 Unit 2 China 第4回 Unit 3 Peru + group presentation (1) 第5回 Unit 4 Tokyo + group presentation (2) 第6回 Unit 5 New York City + group presentation (3) 第7回 Unit 6 Antarctica + group presentation (4) 第8回 Midterm + Review 第9回 Unit 7 India + group presentation (5) 第10回 Unit 8 New Zealand + group presentation (6) 第11回 Unit 9 Africa + group presentation (7) 第12回 Unit 10 Cambodia + group presentation (8) 第13回 Unit 11 Egypt 第14回 Unit 12 Italy 第15回 Unit 13 Mars 第16回 期末試験 Final Exam + Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	プレゼンテーションの原稿の添削、助言などを受けに、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Globe Trotters" Practical English with Video by Carmella Lieske, Cengage Learning
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation: 25% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study:25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。

(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に音声活動：視聴覚メディアを使用したリスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、会話練習、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の大きな部分(25%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。イングリッシュ・ラウンジのセミナーには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいでください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tadameg@hirosaki-u.ac.jp">tadameg@hirosaki-u.ac.jp</a> イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・ラウンジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	370
(2)区分番号	370
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小野寺 進 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回授業ガイダンス（授業方法、成績評価、リスニング方法など） 第2回Unit 1 Same and Different Lesson A & Video 第3回Unit 1 Same and Different Lesson B 第4回Unit 2 Love Your Job Lesson A & Video 第5回Unit 2 Love Your Job Lesson B 第6回Unit 1&2 Review Test and Unit 3 Unusual Destinations Lesson A & Video 第7回Unit 3 Unusual Destinations Lesson B 第8回Unit 4 High Tech, No Tech Lesson A & Video 第9回Unit 4 High Tech, No Tech Lesson B 第10回Unit 3&4 Review Test and Unit 5 Risk and Reward Lesson A & Video 第11回Unit 5 Risk and Reward Lesson B 第12回Unit 6 Taking Action Lesson A & Video 第13回Unit 6 Taking Action Lesson B 第14回Unit 5&6 Review Test and Unit 7 Lost and Found Lesson A & Video 第15回Unit Unit 7 Lost and Found Lesson B 第16回期末テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に予習箇所を授業で指示します。また授業の終わりに次回までの復習点を指示いたします。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Cyndy Fetting & Kathy Najafi, Pathways (Listening, Speaking, and Critical Thinking): Foundation A (CENGAGE Learning)
(21)参考文献	適宜授業で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	CDの音声やDVDの映像を用いた演習授業および学生同士のペアワークなどによるアクティブ・ラーニング形式。
(25)留意点・予備知識	授業に積極的に参加することを求めます。当事者意識をもって主体的に臨んでください。毎回出席することは義務となります。欠席の場合減点となりますので注意してください。また評価でParticipationとあるのは出席点ではなく、Review Testの成績になります。
(26)オフィスアワー	水曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。
(28)その他	質問がある場合は授業中にお願いいたします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	371
(2)区分番号	371
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	土屋 陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(授業内容は予定と異なる可能性もあります)</p> <p>第1回：オリエンテーション Music Dictationについて</p> <p>第2回：Music① Unit1 Food</p> <p>第3回：Music① Unit1 Food</p> <p>第4回：Music② Unit2 Festival</p> <p>第5回：Music② Unit2 Festival</p> <p>第6回：Music③ Unit3 Cities プレゼンテーションについて</p> <p>第7回：Music③ プレゼンテーション準備</p> <p>第8回：中間プレゼンテーション、まとめ、ディスカッション</p> <p>第9回：Music④ Unit4 Jobs</p> <p>第10回：Music④ Unit4 Jobs</p> <p>第11回：Music⑤ Unit5 Music</p> <p>第12回：Music⑤ Unit5 Music</p> <p>第13回：Music⑥ Unit6 Journey</p> <p>第14回：Music⑥ Unit6 Journey プレゼンテーションについて</p> <p>第15回：Music Dictation Test プレゼンテーション準備</p> <p>第16回：期末プレゼンテーション</p> <p>・毎回冒頭でEnglish Hip Hopを用いた歌詞の聴き取りを行います。</p> <p>・毎回授業の最後に、その日の授業で疑問に思ったこと、その他感想などを記したレスポンスシートを提出してもらいます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Music Dictationで扱う音楽を授業外でも毎日聴くようにしてください。

	授業でのグループ活動に備えてあらかじめ教科書の内容をしっかりと読んでおくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Inspire Level 2 (Gengage learning) センゲージラーニング
(21)参考文献	適宜指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project: 40% 4. Assignments/Self-study: 20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループワーク、ペアワークを中心とした演習方式
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	372
(2)区分番号	372
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	笹森 圭子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション（授業の進め方、シラバス、学習方法について） 第2回 Unit 1 Spain 第3回 Unit 2 China 第4回 Unit 3 Peru 第5回 Unit 4 Tokyo 第6回 Unit 5 New York City 第7回 Unit 6 Antarctica 第8回 Unit 7 India 第9回 Unit 8 New Zealand 第10回 Unit 9 Africa 第11回 Unit 10 Cambodia 第12回 Unit 11 Egypt 第13回 Unit 12 Italy 第14回 Unit 13 Mars 第15回 期末試験 第16回 Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書の予習・復習は毎回必ず行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Carmella Lieske, GLOBE TROTTERS (CENGAGE Learning)
(21)参考文献	適宜授業内でお知らせします。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30%

	<p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	学生を中心としたグループワークやペアワークを中心に、補足として演習や講義などを取り入れていきます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	初回授業にて連絡します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kay*hirosaki-u. ac. jp (*を@に変更してください。)
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	373
(2)区分番号	373
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Unit 1 Spain 第3回 Unit 2 China 第4回 Unit 3 Peru + group presentation (1) 第5回 Unit 4 Tokyo + group presentation (2) 第6回 Unit 5 New York City + group presentation (3) 第7回 Unit 6 Antarctica + group presentation (4) 第8回 Midterm + Review 第9回 Unit 7 India + group presentation (5) 第10回 Unit 8 New Zealand + group presentation (6) 第11回 Unit 9 Africa + group presentation (7) 第12回 Unit 10 Cambodia + group presentation (8) 第13回 Unit 11 Egypt 第14回 Unit 12 Italy 第15回 Unit 13 Mars 第16回 期末試験 Final Exam + Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	プレゼンテーションの原稿の添削、助言などを受けに、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Globe Trotters" Practical English with Video by Carmella Lieske, Cengage Learning
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation: 25% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study:25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。

(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に音声活動：視聴覚メディアを使用したリスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、会話練習、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の大きな部分(25%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。イングリッシュ・ラウンジのセミナーには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいでください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tadameg@hirosaki-u.ac.jp">tadameg@hirosaki-u.ac.jp</a> イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・ラウンジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	374
(2)区分番号	374
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	南 修平 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Warming up 第3回 Unit 1 Food 第4回 Unit 1 Sugar, Slow Food 第5回 Describe Your Favorite Food 第6回 Unit 2 Festivals in the World 第7回 Unit 2 Talk about Local Festivals 第8回 Research into Various Festivals 第9回 Unit 3 Cities 第10回 Unit 3 Many Types of Cites 第11回 Walk and Find Something in Cities 第12回 Unit 4 Jobs 第13回 Unit 4 In Your Future 第14回 Unit 5 Music from around the World 第15回 Unit 5 Music with a Message 第16回 Final Exam.
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：講義内で行うリスニングセクションを除くその他の教科書の内容を必ず予習した上で講義に臨んでください。 英語の総合的なスキルアップについては、イングリッシュ・ラウンジの活用がとても役に立ちます。各自のレベルや強化ポイントに応じた教材が備わっているだけでなく、具体的なアドバイスももらえるので、積極的な利用を強く推奨します。 復習：講義内で行った演習によって強化ポイントが明確になってきますので、その点にフォーカスしたトレーニングを行うようにしましょう。

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Inspire Level 2 (Cengage Learning)
(21)参考文献	授業外での学習に有益なリソースについては講義の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークを織り交ぜた演習形式で行います。教科書を中心に、それ以外の教材も使いながら、適宜リスニングのテストを行います。 なお、講義の進度や難易度は受講生の状況によって変更することがあります。
(25)留意点・予備知識	講義では適宜小テストを実施します。成績評価に関わるものなので、それらは必ず受けるようにしてください。 遅刻や欠席に注意しましょう。遅刻2回で欠席1回になります。 講義内容や講義の進め方は受講生の状況などによって変更することがあります。
(26)オフィスアワー	火曜日9・10時限です。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることをお勧めします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の講義にてお伝えします。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	375
(2)区分番号	375
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	畑中 杏美 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 イン트로ダクション・ガイダンスおよび Unit 1 College Life:Greetings/Getting to Know Each Other</p> <p>第2回 Unit 2 Mobile Phones: Making Appointments</p> <p>第3回 Unit 3 Movies:Inviting/Accepting and Refusing</p> <p>第4回 Unit 4 Dating: Describing Someone</p> <p>第5回 Unit 5 International Food:Requesting/Restaurant Conversations</p> <p>第6回 Unit 6 World Englishes:Asking for Repetition/Clarification</p> <p>第7回 Unit 7 Weekends/Vacations: Talking about Free Time</p> <p>第8回 Unit 8 Music/Songs:Expressing Likes/Dislikes</p> <p>第9回 Unit 9 Sports: Commenting/Expressing Feelings</p> <p>第10回 Unit 10 Shopping: Negotiating/Expressions for shopping</p> <p>第11回 Unit 11 Traveling/Studying Overseas: Expressions for Traveling</p> <p>第12回 Festivals/Parties: Asking Favors/Asking for Permission</p> <p>第13回 Part-time/Future Jobs: Convey Intentions/Future Plans</p> <p>第14回 Experiences: Asking for Help/Talking about Experiences</p> <p>第15回 Cool Japana: Giving Suggestions/Opinions</p> <p>第16回 期末試験</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、ユニットに関する小テストを行いますので、必ず予習をしてきてください。復習箇所についても、授業時に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Global Acivator (金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に1回の授業でユニットをひとつずつ学びます。
(25)留意点・予備知識	予習を前提とします。予習箇所は毎回指示します。また、小テストについても準備してください
(26)オフィスアワー	初回授業時にお伝えします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業時にお伝えします
(28)その他	特になし

教養教育科目

(1)整理番号	376
(2)区分番号	376
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 剛 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 UNIT 1 Food 第3回 UNIT 2 Festival 第4回 BIG PICTURE プレゼンテーション 1 第5回 UNIT 3 CITIES 第6回 UNIT 4 JOBS 第7回 教科書を使った活動 第8回 BIG PICTURE プレゼンテーション 2 第9回 UNIT 5 MUSIC 第10回 UNIT 6 JOURNEYS 第11回 BIG PICTURE プレゼンテーション 3 第12回 UNIT 7 FAMILY 第13回 UNIT 8 NATURE 第14回 BIG PICTURE プレゼンテーション 4 第15回 UNIT 9 HAPPINESS 第16回 期末試験  ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の授業について、以下の予習および復習を実施してください。(予習・復習は最低でも各2時間以上行う必要があります) 予習 ・じゃれマガhttp://catchawave.jp/im/に登録し、前の週の内容を理解し、英文を聞いて書きとれるように準備してくる。(そこから毎回小テストを実施します) ・BIG PICTUREのトピックについて英語でプレゼンテーションができるように準備・練習をしてくる。 復習 ・授業で行ったリスニングの活動の音源を各自ウェブサイト (http://www.cengage.com/resource/uploads/static_resources/1133963684/46345/inspire2.html) からダウンロードし、同じ速さでシャドーイングできるようになるまで練習してくる。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『Inspire Level 2』 (Cengage learning, センゲージラーニング)
(21)参考文献	授業中適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	・授業は基本的に全て英語で行います。ただし、文法・語法の解説、試験などについての説明は日本語で行います。 ・また、英語での話し合い、ディスカッション、プレゼンテーションをする場面があります。
(25)留意点・予備知識	・授業は英語で行うので、特に最初は多少聞き取れないところや理解できないところがあるかもしれませんが、頑張って英語音声に慣れるとともに、自らも間違いを恐れず積極的に英語を「使う」ように努めましょう。 ・じゃれマガに登録して、授業外でも英語を読み、英語表現を取り入れる習慣をつけましょう。 ・毎回の小テストと課題が評価につながります。無断欠席や遅刻は絶対にしないでください。
(26)オフィスアワー	月曜日：12：40～14：10 金曜日：12：40～14：10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	http://db_im_hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db_exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2823&text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=

## 教養教育科目

(1)整理番号	377
(2)区分番号	377
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Unit 1 Spain 第3回 Unit 2 China 第4回 Unit 3 Peru + group presentation (1) 第5回 Unit 4 Tokyo + group presentation (2) 第6回 Unit 5 New York City + group presentation (3) 第7回 Unit 6 Antarctica + group presentation (4) 第8回 Midterm + Review 第9回 Unit 7 India + group presentation (5) 第10回 Unit 8 New Zealand + group presentation (6) 第11回 Unit 9 Africa + group presentation (7) 第12回 Unit 10 Cambodia + group presentation (8) 第13回 Unit 11 Egypt 第14回 Unit 12 Italy 第15回 Unit 13 Mars 第16回 期末試験 Final Exam + Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	プレゼンテーションの原稿の添削、助言などをを受けに、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Globe Trotters" Practical English with Video by Carmella Lieske, Cengage Learning
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation: 25% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study:25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。



(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に音声活動：視聴覚メディアを使用したリスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、会話練習、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の大きな部分(25%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認し、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。イングリッシュ・ラウンジのセミナーには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいでください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tadameg@hirosaki-u.ac.jp イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・ラウンジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	378
(2)区分番号	378
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (初級) (Listening for Beginners)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等)</p> <p>第2回 リスニング 3レッスン ①</p> <p>第3回 リスニング 3レッスン ②</p> <p>第4回 リスニング 3レッスン ③</p> <p>第5回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 6</p> <p>第6回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 7</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 リスニング 3レッスン ④</p> <p>第9回 リスニング 3レッスン ⑤</p> <p>第10回 リスニング 3レッスン ⑥</p> <p>第11回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 8</p> <p>第12回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 9</p> <p>第13回 リスニング総合演習 (NetAcademy2以外の教材を用いた演習をします)</p> <p>第14回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 10</p> <p>第15回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン（通常モード）は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	379
(2)区分番号	379
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	内海 淳 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation 第2回 Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon 第3回 Blood-Testing: Charged with Massive Fraud 第4回 Millionaire Millennial 第5回 Fighting Robocalls 第6回 The Blue World 第7回 Moment of Impact 第8回 Father's New Hand 第9回 Trump's Weapon Ban? 第10回 American Men's Bobsledding Team 第11回 Made in America: Recycling Discarded Water Bottles 第12回 The Children of Syria 第13回 Honoring Martin Luther King Jr. 第14回 Inside the Drug Cartel 第15回 Data Grab: Elections and Facebook
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】事前に指定されたユニットを読んでおきます。 【復習】授業で学んだことを整理し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	Broadcast : ABC World News Tonight ISBN:978-4-7647-4073-0
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Moodleを使い、課題の提出・評価等を行い、Self-Portfolioを作り上げていきます。
(25)留意点・予備知識	授業時間以外の予習・復習は必須です。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	utsumi (at) hirosaki-u. ac. jp ※ (at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	380
(2)区分番号	380
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation (シラバスの説明、教養教育英語科目パンフレット『Hiroasaki University Liberal Arts English Courses』・英語プレースメントテストについて、e-Learning教材について等) 第2回 Pathway to Academic Readiness 第3回 Unit 1 Living for Work Lesson A 第4回 Unit 1 Living for Work Lesson B 第5回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson A 第6回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson B 第7回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson A 第8回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson B 第9回 Review & Midterm Exam 第10回 Unit 4 Wild Weather Lesson A 第11回 Unit 4 Wild Weather Lesson B 第12回 Unit 5 Focus on Food Lesson A 第13回 Unit 5 Focus on Food Lesson B 第14回 Review & Final Exam 第15回 Final Exam Feedback & Wrap-up
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習:教科書の各LessonにあるVocabularyを解き、次に教科書の付属Online Workbook (MyELT)の課題を全問正解するまで解いてから授業に参加してください(Assignments)。  復習:Listening skillを理解し、それらを習

	<p>得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。</p> <p>Self-study：各自でe-Learning教材を活用します。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：Becky Tarver Chase (2018) 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking Book 1 (Split 1A) Second Edition』 CENGAGE Learning</p> <p>e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』 Reallyenglish (第1回で購入方法を説明します。)</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00</p> <p>木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	381
(2)区分番号	381
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、Moodleの使い方、予復習についての説明）・リスニング演習</p> <p>第2回：Unit 1 Long-Established Businesses</p> <p>第3回：Unit 2 Uniforms</p> <p>第4回：Unit 3 Volunteer Work</p> <p>第5回：Unit 4 High-Tech Living (Automobiles)</p> <p>第6回：Unit 5 Japanese Tableware</p> <p>第7回：Unit 6 Homemakers of Japan</p> <p>第8回：中間試験 / 振り返り</p> <p>第9回：Unit 7 Seafood</p> <p>第10回：Unit 8 Voice Actors</p> <p>第11回：Unit 9 Japanized Foreign Dishes</p> <p>第12回：Unit 10 Bags</p> <p>第13回：Unit 11 Senior Citizens (Medical Checkups)</p> <p>第14回：Unit 12 Money</p> <p>第15回：Unit 13 Monkeys</p> <p>第16回：期末試験</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：Moodleに各単元の重要表現や語彙をまとめた資料を掲載します。それを授業前までに必ず確認してください。</p> <p>復習：Moodleに単元ごとの復習テストをアップロードします。決められた期間内に必ず回答してください。この復習テストは成績評価の一部に組み込まれます。また、教科書付属</p>



	の音声を聞き、何度もディクテーションやシャドーイングを行うようにしてください。ディクテーションやシャドーイングの成果はSelf-studyの得点として成績の一部になります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A. Tsuda., K. Kinshi., & C. Valvona. (2019). Discovering Cool Japan. Seibido.
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書に付属の動画を見ながらリスニングの訓練をします。また、教員の指定した動画やラジオを聞き、様々な発音の英語を聞きながらリスニング能力の向上を目指します。また、聞いた音源の内容についての討論など、ペアワーク・グループワーク等も実施します。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加して構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 復習テストは指定された期間内のみ受験可能です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	382
(2)区分番号	382
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 イントロダクション（授業の進め方など）</p> <p>第2回: News Story 1: Sister Jean</p> <p>第3回: News Story 2: Blood Testing</p> <p>第4回: News Story 3: Millionaire Millennial</p> <p>第5回: News Story 4: Fighting Robocalls</p> <p>第6回: News Story 5: The Blue World</p> <p>第7回: News Story 6: Moment of Impact</p> <p>第8回: News Story 7: Father's New Hand</p> <p>第9回: News Story 9: American Men's Bobsledding Team</p> <p>第10回: News Story 10: Made in America</p> <p>第11回: News Story 11: The Children of Syria</p> <p>第12回: News Story 12: Honoring Martin Luther King Jr.</p> <p>第13回: News Story 13: Inside the Drug Cartel</p> <p>第14回: News Story 14: Triggering a Trade War</p> <p>第15回: News Story 15: Data Grab</p> <p>第16回 Final exam</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Broadcast: ABC World News Tonight, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4071-6
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	383
(2)区分番号	383
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1</p> <p>第3回 Unit 2</p> <p>第4回 Unit 3</p> <p>第5回 Unit 4</p> <p>第6回 Unit 5</p> <p>第7回 Unit 6</p> <p>第8回 Review, Unit 7 &lt;1&gt;</p> <p>第9回 Mid-term test, Unit 7 &lt;2&gt;</p> <p>第10回 Unit 8</p> <p>第11回 Unit 9</p> <p>第12回 Unit 10</p> <p>第13回 Unit 11</p> <p>第14回 Unit 12</p> <p>第15回 Review</p> <p>第16回 Final Test</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業で配布するhandoutとストーリーミング配信される動画を用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。(予習・復習合わせて4時間はかかる内容を予定しています。)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	津田 晶子・金志 佳代子・Christopher Valvona 『Discovering Cool Japan』 成美堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	384
(2)区分番号	384
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	須々田 友子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 guidance, ice breaking, self-introduction</p> <p>第2回 英語音声の基礎知識、母音の発音</p> <p>第3回 テキスト(Unit1)、子音の発音</p> <p>第4回 テキスト(Unit2)、tの音変化、破裂音の消失</p> <p>第5回 テキスト(Unit3)、同化、短縮</p> <p>第6回 テキスト(Unit4)、連結1</p> <p>第7回 テキスト(Unit5)、連結2</p> <p>第8回 中間テスト、review</p> <p>第9回 テキスト(Unit6)、音節、強勢</p> <p>第10回 テキスト(Unit7)、リズム、イントネーション</p> <p>第11回 テキスト(Unit8)、repeating</p> <p>第12回 テキスト(Unit9)、overlapping</p> <p>第13回 テキスト(Unit10)、shadowing</p> <p>第14回 テキスト(Unit11)</p> <p>第15回 テキスト(Unit12)</p> <p>第16回 期末テスト、review</p> <p>テキストのUnitの選択は、クラスで相談の上変更することがあります</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習プリントあり。授業の初めに復習のListening Quizあり。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	CNN Student News vol.5 関戸、木暮ほか (朝日出版社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	解説、演習、ペアワークなど
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	385
(2)区分番号	385
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など）</p> <p>第2回 ニュース英語の特徴、英語リスニングの様々な方法について、News Story1をモデルに予習の仕方について、第4回以降の学習News Storyを選択</p> <p>第3回 News Story 1 Sister Jean: Basketball Team's Secret Fraud</p> <p>第4回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り①</p> <p>第5回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り②</p> <p>第6回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り③</p> <p>第7回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り④</p> <p>第8回 Dialogue Practice 1 &amp; Review</p> <p>第9回 前半の学習状況の確認（試験を含む）&amp; 振り返り</p> <p>第10回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑤</p> <p>第11回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑥</p> <p>第12回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑦</p> <p>第13回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑧</p> <p>第14回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑨</p> <p>第15回 Dialogue Practice 2 &amp; Review</p>



	第16回 Final Listening Test & まとめ 学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕各時間で学習が予定されているNews Storyについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください。具体的には、ニュースの理解に必要な語彙を調べることなどです。学習時間2時間程度。 〔復習〕授業では時間の都合上、ニュースを見る回数に限られてしまいます。授業で学習したニュースのビデオクリップをさらに5回程度見ること。教科書のスクリプト、プリント等がなくてもニュースが聞き取れることを確認してください。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Shigeru Yamane & Kathleen Yamane, Broadcast ABC World News Tonight, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	386
(2)区分番号	386
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 マクナス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: Orientation</p> <p>Week2: Basketball Team's Secret Weapon</p> <p>Week3: Blood Testing: Charged with Massive Fraud</p> <p>Week4: Fighting Robocalls</p> <p>Week5: The Blue World</p> <p>Week6: Father's New Hand</p> <p>Week7: Trump's Weapon Ban?</p> <p>Week8: Quiz</p> <p>Week9: Made in America: Recycling Discarded Water Bottles</p> <p>Week10: Review and Discussion</p> <p>Week11: The Children of Syria</p> <p>Week12: Honoring Martin Luther King Jr.</p> <p>Week13: Inside the Drug Cartel</p> <p>Week14: Triggering a Trade War?</p> <p>Week15: Election and Facebook</p> <p>Week16: Final Exam and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：ニュースを収録した映像を専用のウェブサイト上で見ることができるので繰り返し見ること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	abc NEWS Broadcast ABC World News Tonight KINSEIDO

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストに沿ってリスニング、スピーキング、リーディングをバランスよく学習。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、マルチメディア化に対応できる準備として多くのニュースに触れて欲しい。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	387
(2)区分番号	387
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回Orientation and Introduction 第2回 Unit 1 Sleep and Compliments 第3回 Unit 2 Space Junk 第4回 Unit 3 Teenagers and Digital Media 第5回 Unit 7 Saving Dogs 第6回 Unit 8 Air Pollution in Asian Cities 第7回 Review, Special Listening Activity 第8回 Midterm Exam, Feedback 第9回 Unit 9 Meet the Millennials 第10回Unit 10 The Price of Oil 第11回Unit 13 Hip Hop Therapy 第12回Unit 14 Venture Capital 第13回Unit 15 Women' s Rights in Saudi Arabia 第14回Review, Special Listening Activity 第15回Final Exam 第16回Feedback, Wrap-up
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として各課の最初の方にある”Vocabulary”と”Vocabulary Exercise”のみ完成させて来る。聞き取りに集中するため、スクリプトは読まずにおくこと（読解の授業ではないので）。復習の際にはスクリプト無しでもニュースを理解できるまで何度も音声教材を聞いて練習する。各課の最後にある”Summary”を完成させ、スクリプト内の語彙・表現もよく復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Fuyuhiko Sekido 他著 『CNN Student News (5)』 (Asahi Press)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワークを含みます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 必ず辞書を持って来ること(スマートフォン等での代用は不可)。</p> <p>2. 予習がされているものとして授業を進めます。</p> <p>3. 積極的に参加し、間違いを恐れずに発言、もしくは自由に質問をしてください。</p> <p>4. 遅刻2回で欠席1回にカウントされます。</p> <p>5. 全授業回数の3分の1以上休んだ場合、「不可」となり単位は出ません。</p> <p>6. 休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。(クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。)</p>
(26)オフィスアワー	決まった時間はありませんが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業初回にお知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	388
(2)区分番号	388
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：Introduction (授業方針の説明)</p> <p>第2回：Sales can be like acting.</p> <p>第3回：Travel opens up the world.</p> <p>第4回：Love spells cars.</p> <p>第5回：Serve up the best possible service</p> <p>第6回：Toast your success.</p> <p>第7回：Teaching is helping others perform their best.</p> <p>第8回：Build a happy life.</p> <p>第9回：Life is like riding a bicycle.</p> <p>第10回：Trade ideas for positive change.</p> <p>第11回：Connect workers to companies.</p> <p>第12回：Necessity is the mother of invention.</p> <p>第13回：What's the recipe for success?</p> <p>第14回：Help animals for a better society</p> <p>第15回：Review</p> <p>第16回：Exam, 解説</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については各時間ごとにその内容を指定します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Working in Japan (Alice Gordonker and John Rucynski著) Gengage Learning (センゲージラーニング株式会社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 40% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	389
(2)区分番号	389
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ペランド ジョン ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Unit 1A 第3回 Unit 1B 第4回 Unit 1A&B Projectと小テスト 第5回 Unit 2A 第6回 Unit 2B 第7回 Unit 2A&B Projectと小テスト 第8回 Unit 3A 第9回 Unit 3B 第10回 Unit 3A&B Projectと小テスト 第11回 Unit 4A 第12回 Unit 4B 第13回 Unit 4A&B Projectと小テスト 第14回 Unit 5A 第15回 Unit 5B 第16回 Final Projectと小テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳(スマホ版も紹介します)を5~10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Becky Tarver Chase 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking 1A』



	『Second Edition』 (National Geographic Learning / CENGAGE Learning, 2018)
(21)参考文献	特になし（適宜、授業でユーチューブのビデオなどを紹介します）。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：25% 4. Assignments/Self-study：25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	390
(2)区分番号	390
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、教養教育英語科目パンフレット『Hirotsaki University Liberal Arts English Courses』・英語プレースメントテストについて、e-Learning教材について等)</p> <p>第2回 Pathway to Academic Readiness</p> <p>第3回 Unit 1 Living for Work Lesson A</p> <p>第4回 Unit 1 Living for Work Lesson B</p> <p>第5回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson A</p> <p>第6回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson B</p> <p>第7回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson A</p> <p>第8回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson B</p> <p>第9回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第10回 Unit 4 Wild Weather Lesson A</p> <p>第11回 Unit 4 Wild Weather Lesson B</p> <p>第12回 Unit 5 Focus on Food Lesson A</p> <p>第13回 Unit 5 Focus on Food Lesson B</p> <p>第14回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第15回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：教科書の各LessonにあるVocabularyを解き、次に教科書の付属Online Workbook (MyELT)の課題を全問正解するまで解いてから授業に参加してください (Assignments)。</p> <p>復習：Listening skillを理解し、それらを習</p>

	<p>得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。</p> <p>Self-study：各自でe-Learning教材を活用します。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：Becky Tarver Chase (2018) 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking Book 1 (Split 1A) Second Edition』 CENGAGE Learning</p> <p>e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』 Reallyenglish (第1回で購入方法を説明します。)</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00</p> <p>木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	391
(2)区分番号	391
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、Moodleの使い方、予復習についての説明）・リスニング演習</p> <p>第2回：Unit 1 Long-Established Businesses</p> <p>第3回：Unit 2 Uniforms</p> <p>第4回：Unit 3 Volunteer Work</p> <p>第5回：Unit 4 High-Tech Living (Automobiles)</p> <p>第6回：Unit 5 Japanese Tableware</p> <p>第7回：Unit 6 Homemakers of Japan</p> <p>第8回：中間試験 / 振り返り</p> <p>第9回：Unit 7 Seafood</p> <p>第10回：Unit 8 Voice Actors</p> <p>第11回：Unit 9 Japanized Foreign Dishes</p> <p>第12回：Unit 10 Bags</p> <p>第13回：Unit 11 Senior Citizens (Medical Checkups)</p> <p>第14回：Unit 12 Money</p> <p>第15回：Unit 13 Monkeys</p> <p>第16回：期末試験</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：Moodleに各単元の重要表現や語彙をまとめた資料を掲載します。それを授業前までに必ず確認してください。</p> <p>復習：Moodleに単元ごとの復習テストをアップロードします。決められた期間内に必ず回答してください。この復習テストは成績評価の一部に組み込まれます。また、教科書付属</p>

	の音声を聞き、何度もディクテーションやシャドーイングを行うようにしてください。ディクテーションやシャドーイングの成果はSelf-studyの得点として成績の一部になります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：A. Tsuda., K. Kinshi., & C. Valvona. (2019). Discovering Cool Japan. Seibido.
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書に付属の動画を見ながらリスニングの訓練をします。また、教員の指定した動画やラジオを聞き、様々な発音の英語を聞きながらリスニング能力の向上を目指します。また、聞いた音源の内容についての討論など、ペアワーク・グループワーク等も実施します。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 復習テストは指定された期間内のみ受験可能です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	392
(2)区分番号	392
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 1 Hello Kitty Part 1 - Part 2</p> <p>第3回 Lesson 1 Hello Kitty Part 2 - Part 3</p> <p>第4回 Lesson 2 Life with No Technology Part 1 - Part 2</p> <p>第5回 Lesson 2 Life with No Technology Part 2 - Part 3</p> <p>第6回 小テスト(1)および Lesson 4 Climate Change Part 1 - Part 2</p> <p>第7回 Lesson 4 Climate Change Part 2 - Part 3</p> <p>第8回 小テスト(1)の解説および Lesson 6 Alternative Energy Part 1 - Part 2</p> <p>第9回 Lesson 6 Alternative Energy Part 2 - Part 3</p> <p>第10回 Lesson 8 Smartphones Part 1 - Part 2</p> <p>第11回 Lesson 8 Smartphones Part 2 - Part 3</p> <p>第12回 小テスト(2)および Lesson 10 Fight after Work Part 1 - Part 2</p> <p>第13回 Lesson 10 Fight after Work Part 2 - Part 3</p> <p>第14回 小テスト(2)の解説および Lesson 12 The Berlin Wall Part 1 - Part 2</p> <p>第15回 Lesson 12 The Berlin Wall Part 2 - Part 3</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p>

	テキストはLesson 1をやったあと、Lesson 2, Lesson 4と偶数の番号で進んでいきます。ポキャブラリーのプリントをやる場合もあるので上記と多少ずれる場合があります。あらかじめご了承ください。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回授業でやるところを予習してきてください(とくにReadingの部分)。予習の際、テキストに付いているCDも聞いて、前もって耳をならしておいてください。授業のあとは、わからない単語や訳せない文がないように復習しておくこと。ポキャブラリーを増やすために、テキストのほかプリントなど使用の予定です。毎回ではありませんが宿題もあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	AFP World News Report 3、宍戸 真、Kevin Murphy, 高橋真理子共著、成美堂
(21)参考文献	英文法の参考書(高校時代に使っていたものでもよい)。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワーク、演習形式(クラス全体)
(25)留意点・予備知識	以下の場合には評価の対象から外れます(不可となります)ので注意してください。 1 出席が全体の3分の2ない場合 2 授業中に授業と関係のないことをしていた場合。授業の参加態度も評価の対象となります。 その他、原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。これについては初回の授業で説明しますので注意してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	393
(2)区分番号	393
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	フォーサイ エドワード (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回: イントロダクション（授業の進め方など） 第2回: Lesson 1: Small Actions, Big Results 第3回: Lesson 1: Small Actions, Big Results 第4回: Lesson 2: Connecting to Nature 第5回: Lesson 2: Connecting to Nature 第6回: Lesson 3: Going Places 第8回: Lesson 3: Going Places 第9回: Lesson 4: Music, Music Everywhere 第10回: Lesson 4: Music, Music Everywhere 第11回: Lesson 5: Give Thanks 第12回: Lesson 5: Give Thanks 第13回: Lesson 6: Tell Me Why... 第14回: Lesson 6: Tell Me Why... 第15回: Review and Final Exam、 第16回: Final Exam Feedback and World Culture Discussion
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。 復習: 授業の内容を十分に復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-



(20)教材・教科書	21st Century Communication, Listening, Speaking and Critical Thinking (ISBN: 978-1-305-94592-0)
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	21世紀のグローバルなトピックスを学びながら英語のリスニングスキルを向上します。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」とな</p> <p>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。</p> <p>遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p> <p>3. 毎回の授業参加と十分な予習が必要です。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:forsythe@hirogaku-u.ac.jp">forsythe@hirogaku-u.ac.jp</a>
(28)その他	授業中スマートフォンやタブレットパソコンを使うこととなります。持っていない学生は1回目の授業で先生に教えてください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	394
(2)区分番号	394
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒュ・ゴン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 イントロダクション（授業の進め方など） 第2回: News Story 1: Sister Jean 第3回: News Story 2: Blood Testing 第4回: News Story 3: Millionaire Millennial 第5回: News Story 4: Fighting Robocalls 第6回: News Story 5: The Blue World 第7回: News Story 6: Moment of Impact 第8回: News Story 7: Father's New Hand 第9回: News Story 9: American Men's Bobsledding Team 第10回: News Story 10: Made in America 第11回: News Story 11: The Children of Syria 第12回: News Story 12: Honoring Martin Luther Kind Jr. 第13回: News Story 13: Inside the Drug Cartel 第14回: News Story 14: Triggering a Trade War 第15回: News Story 15: Data Grab 第16回 Final exam
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Broadcast: ABC World News Tonight, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4071-6
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	395
(2)区分番号	395
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 第8回 Review, Unit 7 <1> 第9回 Mid-term test, Unit 7 <2> 第10回 Unit 8 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 第13回 Unit 11 第14回 Unit 12 第15回 Review 第16回 Final Test ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutとストーリーミング配信される動画を用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	津田 晶子・金志 佳代子・Christopher Valvona 『Discovering Cool Japan』 成美堂

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	396
(2)区分番号	396
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など）</p> <p>第2回 ニュース英語の特徴、英語リスニングの様々な方法について、News Story1をモデルに予習の仕方について、第4回以降の学習News Storyを選択</p> <p>第3回 News Story 1 Sister Jean: Basketball Team's Secret Fraud</p> <p>第4回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り①</p> <p>第5回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り②</p> <p>第6回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り③</p> <p>第7回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り④</p> <p>第8回 Dialogue Practice 1 &amp; Review</p> <p>第9回 前半の学習状況の確認（試験を含む）&amp; 振り返り</p> <p>第10回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑤</p> <p>第11回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑥</p> <p>第12回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑦</p> <p>第13回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑧</p> <p>第14回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑨</p> <p>第15回 Dialogue Practice 2 &amp; Review</p>

	第16回 Final Listening Test & まとめ 学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕各時間で学習が予定されているNews Storyについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください。具体的には、ニュースの理解に必要な語彙を調べることなどです。学習時間2時間程度。 〔復習〕授業では時間の都合上、ニュースを見る回数が限られてしまいます。授業で学習したニュースのビデオクリップをさらに5回程度見ること。教科書のスクリプト、プリント等がなくてもニュースが聞き取れることを確認してください。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Shigeru Yamane & Kathleen Yamane, Broadcast ABC World News Tonight, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	397
(2)区分番号	397
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 マクナス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: Orientation Week2: Basketball Team's Secret Weapon Week3: Blood Testing: Charged with Massive Fraud Week4: Fighting Robocalls Week5: The Blue World Week6: Father's New Hand Week7: Trump's Weapon Ban? Week8: Quiz and review Week9: Made in America: Recycling Discarded Water Bottles Week10: The Children of Syria Week11: Honoring Martin Luther King Jr. Week12: Inside the Drug Cartel Week13: Review and discussion Week14: Triggering a Trade War? Week15: Elections and Facebook Week16: Final Exam
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習：授業内で指示します。 予習：ニュースを収録した映像を専用のウェブサイト上で見ることができるので繰り返し見ること。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Broadcast ABC World News Tonight KINSEIDO



(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストに沿ってリスニング、スピーキング、リーディングをバランスよく学習。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、マルチメディア化に対応できる準備として多くのニュースに触れて欲しい。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	398
(2)区分番号	398
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 志織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. Welcome to Britain 2. London: A Living History 3. London: Busy Streets, Busy People 4. London: The Play's the Thing 5. In the Heart of England 6. Manchester 7. York and Haworth 8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. The Lake District 10. The Roman Frontier 11. Edinburgh 12. Loch Ness 13. Islay and Skye 14. Orkney 15. Review 16. Exam
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストの下読みをしてくること
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Looking Around England <Revised Edition>, Terry O' Brien et. Al. (南雲堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) :

	20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	399
(2)区分番号	399
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回：Introduction (授業方針の説明) 第2回：Sales can be like acting. 第3回：Travel opens up the world. 第4回：Love spells cars. 第5回：Serve up the best possible service 第6回：Toast your success. 第7回：Teaching is helping others perform their best. 第8回：Build a happy life. 第9回：Life is like riding a bicycle. 第10回：Trade ideas for positive change. 第11回：Connect workers to companies. 第12回：Necessity is the mother of invention. 第13回：What's the recipe for success? 第14回：Help animals for a better society 第15回：Review 第16回：Exam, 解説
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Working in Japan (Alice Gordonker and John Rucynski著) Gengage Learning (センゲージラーニング株式会社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 40% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	400
(2)区分番号	400
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ペランド ジョン ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1A</p> <p>第3回 Unit 1B</p> <p>第4回 Unit 1A&amp;B Projectと小テスト</p> <p>第5回 Unit 2A</p> <p>第6回 Unit 2B</p> <p>第7回 Unit 2A&amp;B Projectと小テスト</p> <p>第8回 Unit 3A</p> <p>第9回 Unit 3B</p> <p>第10回 Unit 3A&amp;B Projectと小テスト</p> <p>第11回 Unit 4A</p> <p>第12回 Unit 4B</p> <p>第13回 Unit 4A&amp;B Projectと小テスト</p> <p>第14回 Unit 5A</p> <p>第15回 Unit 5B</p> <p>第16回 Final Projectと小テスト</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Becky Tarver Chase 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking 1A』

	『Second Edition』 (National Geographic Learning / CENGAGE Learning, 2018)
(21)参考文献	特になし（適宜、授業でユーチューブのビデオなどを紹介します）。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：25% 4. Assignments/Self-study：25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	401
(2)区分番号	401
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	サワダ ハナ ジョイ (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1: Introduction</p> <p>2: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit one</p> <p>3: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit two</p> <p>4: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit three</p> <p>5: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit four</p> <p>6: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit five</p> <p>7: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit six</p> <p>8: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit seven</p> <p>9: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit eight</p> <p>10: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit nine</p> <p>11: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit ten</p> <p>12: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit eleven</p> <p>13: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit thirteen</p> <p>14: Video interviews with 14 professionals working in Japan - Unit fourteen</p>



	15: Review and submission of final project
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Students are required to prepare for the activities from the textbook conducted in each class. Review: They are expected to make use of the skills they acquire to complete their final project.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Video interviews with 14 professionals working in Japan ISBN 978-4-86312-2482
(21)参考文献	Video interviews with 14 professionals working in Japan ISBN 978-4-86312-2482
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 40% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will have a strong emphasis on student participation.
(25)留意点・予備知識	Students will undertake a project which involves interaction with international students.
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	402
(2)区分番号	402
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、教養教育英語科目パンフレット『Hiroasaki University Liberal Arts English Courses』・英語プレースメントテストについて、e-Learning教材について等)</p> <p>第2回 Pathway to Academic Readiness</p> <p>第3回 Unit 1 Living for Work Lesson A</p> <p>第4回 Unit 1 Living for Work Lesson B</p> <p>第5回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson A</p> <p>第6回 Unit 2 Good Times, Good Feelings Lesson B</p> <p>第7回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson A</p> <p>第8回 Unit 3 The Marketing Machine Lesson B</p> <p>第9回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第10回 Unit 4 Wild Weather Lesson A</p> <p>第11回 Unit 4 Wild Weather Lesson B</p> <p>第12回 Unit 5 Focus on Food Lesson A</p> <p>第13回 Unit 5 Focus on Food Lesson B</p> <p>第14回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第15回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：教科書の各LessonにあるVocabularyを解き、次に教科書の付属Online Workbook (MyELT)の課題を全問正解するまで解いてから授業に参加してください (Assignments)。</p> <p>復習：Listening skillを理解し、それらを習</p>

	<p>得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。</p> <p>Self-study：各自でe-Learning教材を活用します。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：Becky Tarver Chase (2018) 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking Book 1 (Split 1A) Second Edition』 CENGAGE Learning</p> <p>e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』 Reallyenglish (第1回で購入方法を説明します。)</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00</p> <p>木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	403
(2)区分番号	403
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 1 Hello Kitty Part 1 - Part 2</p> <p>第3回 Lesson 1 Hello Kitty Part 2 - Part 3</p> <p>第4回 Lesson 3 College Major Part 1 - Part 2</p> <p>第5回 Lesson 3 College Major Part 2 - Part 3</p> <p>第6回 小テスト(1)および Lesson 5 Food Safety Part 1 - Part 2</p> <p>第7回 Lesson 5 Food Safety Part 2 - Part 3</p> <p>第8回 小テスト(1)の解説および Lesson 7 Women and Education Part 1 - Part 2</p> <p>第9回 Lesson 7 Women and Education Part 2 - Part 3</p> <p>第10回 Lesson 9 Wildlife and Development Part 1 - Part 2</p> <p>第11回 Lesson 9 Wildlife and Development Part 2 - Part 3</p> <p>第12回 小テスト(2)および Lesson 11 Bilingual Education Part 1 - Part 2</p> <p>第13回 Lesson 11 Bilingual Education Part 2 - Part 3</p> <p>第14回 小テスト(2)の解説および Lesson 13 Luxurious Items Part 1 - Part 2</p> <p>第15回 Lesson 13 Luxurious Items Part 2 - Part 3</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p>

	テキストはLesson 1をやったあと、Lesson 3, Lesson 5と奇数の番号で進んでいきます。ポキャブラリーのプリントをやる場合もあるので上記と多少ずれる場合があります。あらかじめご了承ください。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回授業でやるところを予習してきてください(とくにReadingの部分)。予習の際、テキストに付いているCDも聞いて、前もって耳をならしておいてください。授業のあとは、わからない単語や訳せない文がないように復習しておくこと。ポキャブラリーを増やすために、テキストのほかプリントなど使用の予定です。毎回ではありませんが宿題もあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	AFP World News Report 3、宍戸 真、Kevin Murphy, 高橋真理子共著、成美堂
(21)参考文献	英文法の参考書(高校時代に使っていたものでよい)。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果: 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワーク、演習形式(クラス全体)
(25)留意点・予備知識	以下の場合には評価の対象から外れます(不可となります)ので注意してください。 1 出席が全体の3分の2ない場合 2 授業中に授業と関係のないことをしていた場合。授業の参加態度も評価の対象となります。 その他、原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。これについては初回の授業で説明しますので注意してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	404
(2)区分番号	404
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 イントロダクション（授業の進め方など） 第2回: News Story 1: Sister Jean 第3回: News Story 2: Blood Testing 第4回: News Story 3: Millionaire Millennial 第5回: News Story 4: Fighting Robocalls 第6回: News Story 5: The Blue World 第7回: News Story 6: Moment of Impact 第8回: News Story 7: Father's New Hand 第9回: News Story 9: American Men's Bobsledding Team 第10回: News Story 10: Made in America 第11回: News Story 11: The Children of Syria 第12回: News Story 12: Honoring Martin Luther Kind Jr. 第13回: News Story 13: Inside the Drug Cartel 第14回: News Story 14: Triggering a Trade War 第15回: News Story 15: Data Grab 第16回 Final exam
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Broadcast: ABC World News Tonight, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4071-6
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	405
(2)区分番号	405
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Unit 6 第8回 Review, Unit 7 <1> 第9回 Mid-term test, Unit 7 <2> 第10回 Unit 8 第11回 Unit 9 第12回 Unit 10 第13回 Unit 11 第14回 Unit 12 第15回 Review 第16回 Final Test ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutとストーリーミング配信される動画を用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	津田 晶子・金志 佳代子・Christopher Valvona 『Discovering Cool Japan』 成美堂



(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	406
(2)区分番号	406
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など）</p> <p>第2回 ニュース英語の特徴、英語リスニングの様々な方法について、News Story1をモデルに予習の仕方について、第4回以降の学習News Storyを選択</p> <p>第3回 News Story 1 Sister Jean: Basketball Team's Secret Fraud</p> <p>第4回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り①</p> <p>第5回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り②</p> <p>第6回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り③</p> <p>第7回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り④</p> <p>第8回 Dialogue Practice 1 &amp; Review</p> <p>第9回 前半の学習状況の確認（試験を含む）&amp; 振り返り</p> <p>第10回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑤</p> <p>第11回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑥</p> <p>第12回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑦</p> <p>第13回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑧</p> <p>第14回 学生が選択した教科書News Storyを聞き取り⑨</p> <p>第15回 Dialogue Practice 2 &amp; Review</p>

	第16回 Final Listening Test & まとめ 学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	〔予習〕各時間で学習が予定されているNews Storyについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください。具体的には、ニュースの理解に必要な語彙を調べることなどです。学習時間2時間程度。 〔復習〕授業では時間の都合上、ニュースを見る回数が限られてしまいます。授業で学習したニュースのビデオクリップをさらに5回程度見ること。教科書のスクリプト、プリント等がなくてもニュースが聞き取れることを確認してください。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Shigeru Yamane & Kathleen Yamane, Broadcast ABC World News Tonight, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	407
(2)区分番号	407
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 マクナス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: Orientation</p> <p>Week2: Basketball Team's Secret Weapon</p> <p>Week3: Blood Testing: Charged with Massive Fraud</p> <p>Week4: Fighting Robocalls</p> <p>Week5: The Blue World</p> <p>Week6: Father's New Hand</p> <p>Week7: Trump's Weapon Ban</p> <p>Week8: Quiz and review</p> <p>Week9: Made in America: Recycling Discarded Water Bottles</p> <p>Week10: The Children of Syria</p> <p>Week11: Honoring Martin Luther King Jr.</p> <p>Week12: Inside the Drug Cartel</p> <p>Week13: Review and discussion</p> <p>Week14: Triggering a Trade War?</p> <p>Week15: Elections and Facebook</p> <p>Week16: Final Exam</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：ニュースを収録した映像を専用のウェブサイト上で見ることができるので繰り返し見ること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Broadcast ABC World News Tonight KINSEIDO

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストに沿ってリスニング、スピーキング、リーディングをバランスよく学習。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、マルチメディア化に対応できる準備として多くのニュースに触れて欲しい。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	408
(2)区分番号	408
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 志織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. Welcome to Britain 2. London: A Living History 3. London: Busy Streets, Busy People 4. London: The Play's the Thing 5. In the Heart of England 6. Manchester 7. York and Haworth 8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. The Lake District 10. The Roman Frontier 11. Edinburgh 12. Loch Ness 13. Islay and Skye 14. Orkney 15. Review 16. Exam
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストの下読みをしてくること
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Looking Around England <Revised Edition>, Terry O' Brien et. Al. (南雲堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) :

	20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	409
(2)区分番号	409
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：Introduction (授業方針の説明)</p> <p>第2回：Sales can be like acting.</p> <p>第3回：Travel opens up the world.</p> <p>第4回：Love spells cars.</p> <p>第5回：Serve up the best possible service</p> <p>第6回：Toast your success.</p> <p>第7回：Teaching is helping others perform their best.</p> <p>第8回：Build a happy life.</p> <p>第9回：Life is like riding a bicycle.</p> <p>第10回：Trade ideas for positive change.</p> <p>第11回：Connect workers to companies.</p> <p>第12回：Necessity is the mother of invention.</p> <p>第13回：What's the recipe for success?</p> <p>第14回：Help animals for a better society</p> <p>第15回：Review</p> <p>第16回：Exam, 解説</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-



(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Working in Japan (Alice Gordenker and John Rucynski著) Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 40%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	410
(2)区分番号	410
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ペランド ジョン ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Unit 1A 第3回 Unit 1B 第4回 Unit 1A&B Projectと小テスト 第5回 Unit 2A 第6回 Unit 2B 第7回 Unit 2A&B Projectと小テスト 第8回 Unit 3A 第9回 Unit 3B 第10回 Unit 3A&B Projectと小テスト 第11回 Unit 4A 第12回 Unit 4B 第13回 Unit 4A&B Projectと小テスト 第14回 Unit 5A 第15回 Unit 5B 第16回 Final Projectと小テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Becky Tarver Chase 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking 1A』

	『Second Edition』 (National Geographic Learning / CENGAGE Learning, 2018)
(21)参考文献	特になし（適宜、授業でユーチューブのビデオなどを紹介します）。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：25% 4. Assignments/Self-study：25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	411
(2)区分番号	411
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (中級) (Intermediate Listening)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等)</p> <p>第2回 リスニング 3レッスン ①</p> <p>第3回 リスニング 3レッスン ②</p> <p>第4回 リスニング 3レッスン ③</p> <p>第5回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 6</p> <p>第6回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 7</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 リスニング 3レッスン ④</p> <p>第9回 リスニング 3レッスン ⑤</p> <p>第10回 リスニング 3レッスン ⑥</p> <p>第11回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 8</p> <p>第12回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 9</p> <p>第13回 リスニング総合演習 (NetAcademy2以外の教材を用いた演習をします)</p> <p>第14回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 10</p> <p>第15回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン（通常モード）は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	412
(2)区分番号	412
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	アスタア パトラー (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどについての比較的長い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Unit 1 (Animals) Week 3: Unit 1 (Animals) Week 4: Unit 2 (Customs and traditions) Week 5: Unit 2 (Customs and traditions) Week 6: Unit 3 (History) Week 7: Unit 3 (History) Week 8: Midterm Presentations, Review Week 9: Unit 4 (Transport) Week 10: Unit 4 (Transport) Week 11: Unit 7 (Discovery and invention) Week 12: Unit 7 (Discovery and invention) Week 13: Unit 8 (Fashion) Week 14: Unit 8 (Fashion) Week 15: Unit 10 (The brain) Week 16: Final exam, Reflection
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Read the relevant textbook unit for the current week. Listen to downloadable sound files. Review: Review textbook unit content from prior weeks.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Unlock Level 3 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook), CAMBRIDGE, 978-1-107-68728-8
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between textbook activities, group work, presentations, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	413
(2)区分番号	413
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ラッシュ アンソニー スコット (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどについての比較的長い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1 Textbook Unit 1: Unit Title-The Science of Shopping</p> <p>Week 2 Textbook Unit 2: Unit Title-Mother Nature</p> <p>Week 3 Textbook Unit 3: Unit Title-On the Move</p> <p>Week 4 Review of Textbook Unit 1-2-3 and Listening Quiz</p> <p>Week 5 Textbook Unit 4: Unit Title-Our Changing Planet</p> <p>Week 6 Textbook Unit 5: Unit Title-Making a Living, Making a Difference</p> <p>Week 7 Textbook Unit 6: Unit Title-Design with Purpose</p> <p>Week 8 Review of Textbook Unit 4-5-6 and Listening Quiz</p> <p>Week 9 Textbook Unit 7: Unit Title-Inspired to Protect</p> <p>Week 10 Textbook Unit 8: Unit Title-Traditional and Modern Medicine</p> <p>Week 11 Review of Textbook Unit 7-8 and Listening Quiz</p> <p>Week 12 Textbook Unit 9: Unit Title-Uncovering the Past</p> <p>Week 13 Textbook Unit 10: Unit Title-Emotions and Personality</p> <p>Week 14 Review of Textbook Unit 9-10 and Listening Quiz</p> <p>Week 15 Review of Textbook All Units Listening Activities</p> <p>Week 16 Final Test: Textbook Listening Activities</p>



(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation for class by pre-reading the textbook and review of class activities through use of textbook activities will be expected. The review activities will be assessed by the instructor.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Pathways 3 (Chase and Lee), Gengage
(21)参考文献	無し
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The manner of the class will reflect the textbook layout, including pre-listening activities, listening activities and post-listening activities.
(25)留意点・予備知識	無し
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:asrausch@hirosaki-u.ac.jp">asrausch@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	無し

## 教養教育科目

(1)整理番号	414
(2)区分番号	414
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	アスタア パトラー (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること ○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどについての比較的長い説明や会話を聞いて理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Unit 1 (Animals) Week 3: Unit 1 (Animals) Week 4: Unit 2 (Customs and traditions) Week 5: Unit 2 (Customs and traditions) Week 6: Unit 3 (History) Week 7: Unit 3 (History) Week 8: Midterm Presentations, Review Week 9: Unit 4 (Transport) Week 10: Unit 4 (Transport) Week 11: Unit 7 (Discovery and invention) Week 12: Unit 7 (Discovery and invention) Week 13: Unit 8 (Fashion) Week 14: Unit 8 (Fashion) Week 15: Unit 10 (The brain) Week 16: Final exam, Reflection
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Read the relevant textbook unit for the current week. Listen to downloadable sound files. Review: Review textbook unit content from prior weeks.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Unlock Level 3 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook), CAMBRIDGE, 978-1-107-68728-8
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：30%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between textbook activities, group work, presentations, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	415
(2)区分番号	415
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどについての比較的長い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>英語発音を学び、身近な出来事や意見、考えなどに関する比較的長い内容について、多様な英語を聞いて理解できるようになる。また、各自がイングリッシュ・ラウンジにて特別な発表(プレゼンテーション)を準備し、その宣伝を行い、発表を行い、同様にクラスメートの発表を聞く。大きな目標としては留学生に興味深い、身近な「日本的なもの」についての解説をするプレゼンテーションを行うこととする。Students will review the fundamentals of pronunciation. They will learn to speak about topics of everyday importance and practice listening in a variety of situations. Everyone will prepare, promote and deliver special presentations and listen to the presentations of fellow students in the English Lounge at lunch time. A major goal is to interact with students from around the world and learn how to get the most out of listening to presentations.</p> <p>Week 1: Orientation; Moodle and CLMS Assignments  Week 2: Unit 1; Moodle and CLMS Assignments  Week 3: Unit 1 cont. Moodle Assignment and CLMS Assignments  Week 4: UNIT 2; Oral Reports A; Moodle Assignment and CLMS Assignments  Week 5: UNIT 2 cont.; Oral Reports B Moodle and CLMS Assignments  Week 6: UNIT 3; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments  Week 7: UNIT 4; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments  Week 8: UNIT 5; Vocabulary Exam; Moodle and CLMS Assignments  Week 10: UNIT 6 Video Report proposal; Moodle and CLMS Assignments  Week 11: UNIT 7 Video Reports; Moodle and CLMS Assignments  Week 12: UNIT 8 PechaKucha Assignment; Additional Video Reports; Moodle and CLMS Assignments  Week 13: UNIT 9 PechaKucha Projects; Moodle and CLMS Assignments  Week 14: UNIT 10 PechaKucha Projects; Video Work  Week 15: Review, Super Quiz Bowl; Moodle and CLMS Assignments  Week 16: Special Activity; Reflection Report Assignment on Moodle</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students are required to attend two or more presentations in the English Lounge (EL) at lunch time.

	<p>Furthermore, they are strongly encouraged to visit the EL at other times to expand their horizons by interacting with people from other cultures. They should also use this venue to get assistance and advice when revising their writing for their presentations. Students are expected to read the unit and do exercises on the parts assigned by the teacher prior to each lesson. Students are also expected to contribute to the class Moodle page and use the online workbook. (THESE TASKS ARE NOT OPTIONAL.) Outside of class exercises make up a large part of the grade in this class. 学生はイングリッシュ・ラウンジ (EL) で発表を行い、他のクラスメートの発表を聞くことが必須となります。さらに、ELに行き、ほかの文化圏から来ている人たちとの交流をすることで自分の視野を広げることを強く推奨します。ELを利用することで、プレゼンテーションの文章を書くためのサポートやアドバイスを受けることができます。毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてきてください。またクラスの Moodle 上での書き込みをし、オンラインのワークブックを使用してください。この授業では授業以外での練習が大きく成績の部分を占めることとなります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Unlock Level 3 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook)
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (class activities) : 20%</li> <li>3. Examinations/Presentations/Papers/Projects : 25%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 35%</li> </ol>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>Aural/Oral Activities: listening &amp; pronunciation practice, pair/group work, oral presentations in class and in the English Lounge, discussions and some written assignments</p> <p>(partial translation) リスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動</p>
(25)留意点・予備知識	<p>Classroom participation, both in groups and in pairs, is essential to learning how to communicate in a foreign language and, along with presentations and tests, makes up a large part (40%) of the final grade for the class. In other words, attending every class is very important. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. A major project will be conducted in the EL at lunch time for which students are required both to present and to attend the presentation of other groups from the class. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened and attend a make-up class in the English Lounge, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class. The final Reflection Report is an absolute requirement for a reasonable grade in this class.</p> <p>授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分(40%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。</p>
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty; check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail for special guidance or individual assistance. (partial

	translation) イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:sjberman@hirosaki-u.ac.jp">sjberman@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a>
(28)その他	<a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	416
(2)区分番号	416
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3-4時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどについての比較的長い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>英語発音を学び、身近な出来事や意見、考えなどに関する比較的長い内容について、多様な英語を聞いて理解できるようになる。また、各自がイングリッシュ・ラウンジにて特別な発表(プレゼンテーション)を準備し、その宣伝を行い、発表を行い、同様にクラスメートの発表を聞く。大きな目標としては留学生に興味深い、身近な「日本的なもの」についての解説をするプレゼンテーションを行うこととする。</p> <p>Students will review the fundamentals of pronunciation. They will learn to speak about topics of everyday importance and practice listening in a variety of situations. Everyone will prepare, promote and deliver special presentations and listen to the presentations of fellow students in the English Lounge at lunch time. A major goal is to interact with students from around the world and learn how to get the most out of listening to presentations.</p> <p>Week 1: Orientation; Moodle and CLMS Assignments  Week 2: Unit 1; Moodle and CLMS Assignments  Week 3: Unit 1 cont. Moodle Assignment and CLMS Assignments  Week 4: UNIT 2; Oral Reports A; Moodle Assignment and CLMS Assignments  Week 5: UNIT 2 cont.; Oral Reports B Moodle and CLMS Assignments  Week 6: UNIT 3; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments  Week 7: UNIT 4; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments  Week 8: UNIT 5; Vocabulary Exam; Moodle and CLMS Assignments  Week 10: UNIT 6 Video Report proposal; Moodle and CLMS Assignments  Week 11: UNIT 7 Video Reports; Moodle and CLMS Assignments  Week 12: UNIT 8 PechaKucha Assignment; Additional Video Reports; Moodle and CLMS Assignments  Week 13: UNIT 9 PechaKucha Projects; Moodle and CLMS Assignments  Week 14: UNIT 10 PechaKucha Projects; Video Work  Week 15: Review, Super Quiz Bowl; Moodle and CLMS Assignments  Week 16: Special Activity; Reflection Report Assignment on Moodle</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	<p>Students are required to attend two or more presentations in the English Lounge (EL) at lunch time. Furthermore, they are strongly encouraged to visit the EL at other times to expand their horizons by interacting with people from other cultures. They should also use this venue to get assistance and advice when revising their writing for their presentations. Students are expected to read the unit and do exercises on the parts assigned by the teacher prior to each lesson. Students are also expected to contribute to the class Moodle page and use the online workbook. (THESE TASKS ARE NOT OPTIONAL.) Outside of class exercises make up a large part of the grade in this class. 学生はイングリッシュ・ラウンジ (EL) で発表を行い、他のクラスメートの発表を聞くことが必須となります。さらに、ELに行き、ほかの文化圏から来ている人たちとの交流をすることで自分の視野を広げることを強く推奨します。ELを利用することで、プレゼンテーションの文章を書くためのサポートやアドバイスを受けることができます。毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてきてください。またクラスの Moodle 上での書き込みをし、オンラインのワークブックを使用してください。この授業では授業以外での練習が大きく成績の部分に占めることとなります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Unlock Level 3 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook)
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (class activities) : 20%</li> <li>3. Examinations/Presentations/Papers/Projects : 25%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 35%</li> </ol>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>Aural/Oral Activities: listening &amp; pronunciation practice, pair/group work, oral presentations in class and in the English Lounge, discussions and some written assignments</p> <p>(partial translation) リスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動</p>
(25)留意点・予備知識	<p>Classroom participation, both in groups and in pairs, is essential to learning how to communicate in a foreign language and, along with presentations and tests, makes up a large part (40%) of the final grade for the class. In other words, attending every class is very important. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. A major project will be conducted in the EL at lunch time for which students are required both to present and to attend the presentation of other groups from the class. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened and attend a make-up class in the English Lounge, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class. The final Reflection Report is an absolute requirement for a reasonable grade in this class.</p> <p>授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分(40%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。</p>
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty; check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail



	for special guidance or individual assistance. (partial translation) イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	siberman@hirosaki-u.ac.jp <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a>
(28)その他	<a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	417
(2)区分番号	417
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Listening (上級) (Advanced Listening)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること</p> <p>○身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリスニングを他の3技能（リーディング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等)</p> <p>第2回 リスニング 3レッスン ①</p> <p>第3回 リスニング 3レッスン ②</p> <p>第4回 リスニング 3レッスン ③</p> <p>第5回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 6</p> <p>第6回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 7</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 リスニング 3レッスン ④</p> <p>第9回 リスニング 3レッスン ⑤</p> <p>第10回 リスニング 3レッスン ⑥</p> <p>第11回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 8</p> <p>第12回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 9</p> <p>第13回 リスニング総合演習 (NetAcademy2以外の教材を用いた演習をします)</p> <p>第14回 リスニング 1レッスン + TOEIC®テスト演習 10</p> <p>第15回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン（通常モード）は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習す

	ることができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	418
(2)区分番号	418
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小野寺 進 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回授業ガイダンス（授業方法、成績評価、リーディング方法などについて） 第2回Unit 1: Amazing Animals A 第3回Unit 1: Amazing Animals B 第4回Unit 2: Travel and Adventure A 第5回Unit 2: Travel and Adventure B 第6回Unit 1&2 Review Test and Unit 3: The Power of Music A 第7回Unit 3: The Power of Music B 第8回Unit 4: Into Space A 第9回Unit 4: Into Space B 第10回Unit 3&4 Review Test and Unit 5: City Life A 第11回Unit 5: City Life B 第12回Unit 6: Small Worlds A 第13回外部試験 第14回Unit 6: Small Worlds B 第15回Unit 5&6 Review Test and Unit 7: When Dinosaurs Ruled A 第16回授業のReview+期末テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に予習箇所を授業で指示します。また授業の終わりに次回までの復習点を指示いたします。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Nancy Douglas & David Bohlke, Reading Explorer 1 (Second Edition) (CENGAGE Learning)
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	音読によるリーディング練習、練習問題を学生が順番に解答していく方法、場合によっては訳読もあります。
(25)留意点・予備知識	積極的な授業参加が求められます。当事者意識をもって主体的に臨んでください。毎回出席が義務となります。欠席の場合は減点となりますので注意してください。また Participationは出席点ではありませんので、Review Testの結果が評価となります。
(26)オフィスアワー	水曜日 3・4時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。
(28)その他	質問がある場合は授業中にお願いします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	419
(2)区分番号	419
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 徳治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 授業ガイダンス, 教科書 Unit 1 Teddy Bears (Task 1~9 + Intensive Reading) 第2回 教科書 Unit 2 April Fools' Day (Task 1~9 + Intensive Reading) 第3回 教科書 Unit 3 The Biggest Birthday Present (Task 1~9 + Intensive Reading) 第4回 教科書 Unit 4 Funny English Jokes (Task 1~9 + Intensive Reading) 第5回 教科書 Unit 5 Adélie Penguins (Task 1~9 + Intensive Reading) 第6回 教科書 Unit 6 Eat Well, Eat Smart (Task 1~9 + Intensive Reading) 第7回 教科書 Unit 7 Three Popular Mysteries (Task 1~9 + Intensive Reading) 第8回 第7回までの学習のまとめ, 中間試験・試験解説 第9回 教科書 Unit 8 Protect Our Environment (Task 1~9 + Intensive Reading) 第10回 教科書 Unit 9 Laughing and Thinking (Task 1~9 + Intensive Reading) 第11回 教科書 Unit 10 Body Art (Task 1~9 + Intensive Reading) 第12回 教科書 Unit 11 The Most Extreme Marathons (Task 1~9 + Intensive Reading) 第13回 外部試験 第14回 教科書 Unit 12 Fortune Cookie (Task 1~9 + Intensive Reading) 第15回 教科書 Unit 13 Gap Year (Task 1~

	9 + Intensive Reading) 第16回 第15回までの学習のまとめ、期末試験・試験解説 なお、授業の進行状況等により上記の授業内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(予習) ・毎回の授業で学習する教科書の各Unitの本文を読み、内容理解に努める ・理解できない語句や表現については辞書等でその意味を調べる ・各Unitに設けられてある問題を解答する(復習) ・意味を考えながら音読練習をする ・与えられた課題を完成する
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	佐藤明彦, Valerie Tidwell (著) 「Reading Success 1—リーディングサクセス 1」(成美堂)
(21)参考文献	適宜授業において指示をします。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業は基本的に全て英語で行います。ただし、パラグラフリーディング及び文法・語法の解説、試験などについての説明は日本語で行います。 ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験は受験できません。
(25)留意点・予備知識	授業は英語で行うので、特に最初は多少聞き取れないところや理解できないところがあるかもしれませんが、頑張って英語音声に慣れるとともに、自らも間違いを恐れず積極的に英語を「使う」ように努めましょう。
(26)オフィスアワー	毎週水曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:norotoku@hirosaki-u.ac.jp">norotoku@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	420
(2)区分番号	420
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション(シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について) 第2回 Unit 1 Our World Reading 1 The Face of Seven Villion 第3回 Unit 1 Video: 7 Billion 第4回 Unit 1 Our World Reading 2 A Connected World 第5回 Unit 2 Career Paths Reading 1 Reaching for the Sky 第6回 Unit 2 Video: Cave Scientist 第7回 Unit 2 Career Paths Reading 2 Life in the Ring 第8回 Mid-term test, Unit 1~2のまとめ 第9回 Unit 3 Adventure Reading 1 Adventures Anywhere 第10回 Unit 3 Video: Hooked on Adventure 第11回 Unit 3 Adventure Reading 2 A Movie-Gower's Guide to London 第12回 Unit 4 The Visual Age Reading 1 Sharing Success 第13回: 英語外部試験(VELC Test) 第14回 Unit 4 Video: 'Likes' 第15回 Unit 4 The Visual Age Reading 2 Is It Real? 第16回 Term-end test, Unit 3~4のまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	学生は授業の準備と復習にイングリッシュ・ラウンジに行くこと。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。授業ではディスカッションなどのアクティビティーを中心に行うので、授業前にはエクササイズを含めて、必ず予習をしてください。また宿題や課題のレ



	ポートが与えられるので、必ず提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Pathways-Reading, Writing, and Critical Thinking, Foundations A, Second ed. Gengage. ISBN 978-0-357-36603-5
(21)参考文献	授業の中で指定します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを多用し、議論を通じて読解力を養います。
(25)留意点・予備知識	予習・復習・課題・試験などの連絡はすべてMoodle(授業ポータル)を通じて通知するので、頻繁にクラスのMoodleサイトをチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	421
(2)区分番号	421
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回: 授業方針の説明と Introduction 第2回: Teddy Bears 第3回: April Fool's Day 第4回: The Biggest Birthday Present 第5回: Funny English Jokes 第6回: Adelie Penguins 第7回: Eat Well, eat Smart 第8回: Three Popular Mysteries 第9回: Protect Our Environment 第10回: Laughing and Thinking 第11回: Body Art 第12回: The Most Extreme Marathons 第13回: VELC Test 第14回: Fortune Cookies 第15回: Review 第16回: Exam, 解説
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Success (Akihiko Sato and Valerie Tidwell著) (成美堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果: 20% 2. Participation (Class activities): 40%

	<p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	422
(2)区分番号	422
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	畑中 杏美(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 授業ガイダンス(教養教育英語科目について、授業の進め方について等) 第2回 Amazing Animals A: The Incredible Dolphin +Book Reviewについて 第3回 Amazing Animals B:Musical Elephants +Vocabulary Journalについて 第4回 Travel and Adventure 第5回 The Power of Music 第6回 Into Space 第7回 City Life 第8回 中間試験および Small Worlds A: In One Cubic Foot 第9回 Small Worlds B: A World Within Us および 中間テストの振り返り 第10回 When Dinosaurs Ruled 第11回 Stories and Storytellers 第12回 Unusual Jobs 第13回 外部試験 第14回 Uncovering the Past 第15回 Legends of the Sea 第16回 期末試験およびまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、予習・復習箇所については指示します。そのほか、Book Reviewと、vocabulary journalのチェックが隔週でありますので準備してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Explorer, 2nd ed. Level 1. Cengage Learning

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1-2回の授業で1ユニットを進めていきます。
(25)留意点・予備知識	予習を前提とします。予習課題についてわからないことがあったら必ず確認してください。
(26)オフィスアワー	初回授業時にお伝えします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業時にお伝えします
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	423
(2)区分番号	423
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	近藤 亮一 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation 第2回 Unit 1 Teddy Bears (代名詞や副詞に注意して、Teddy Bearsの由来について英語で理解する) 第3回 Unit 2 April Fools' Day(エイプリルフールの由来について英語で理解する) 第4回 Unit 3 The Biggest Birthday Present(自由の女神の歴史について英語で理解する) 第5回 Unit 4 Funny English Jokes(英文で示された状況を想像し、英語のジョークのオチを理解する) 第6回 Unit 5 Adélie Penguins (代名詞の指示や助動詞に注意して、Adélie Penguinsの生態について英語で理解する) 第7回 Unit 6 Eat Well, Eat Smart(無生物主語に注意して、健康に良い食べ物について英語で理解する) 第8回 中間試験・その解説・英語の歴史 第9回 Unit 7 Three Popular Mysteries(ミステリーに関するさまざまな説について英語で理解する) 第10回 Unit 8 Protect Our Environment(環境保護にはどのようなことが必要となるかということについて英語で理解する) 第11回 Unit 9 Laughing and Thinking (完了形に注意して、興味深い発明について英語で理解する) 第12回 Unit 10 Body Art(Body Artの由来や意味について英語で理解する) 第13回 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Unit 11 The Most Extreme

	<p>Marathons (いくつかの過酷なマラソンについて英語で理解する)</p> <p>第15回 Unit 12 Fortune Cookies (Fortune Cookiesの由来について英語で理解する)</p> <p>第16回 これまでのまとめ・期末試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)</p> <p>特に、問題はあらかじめ解いておいてください。長文は和訳しておいてください。予習ができていない場合は、欠席扱いとすることがあります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Akihiko Sato, Valerie Tidwell "Reading Success 1" 2016年 成美堂
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	本文で用いられる単語の意味や使用法について確認し、本文を精読し、関連する問題を解きます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	金曜日 13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	424
(2)区分番号	424
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Unit 1 Our World Reading 1 The Face of Seven Villion 第3回 Unit 1 Video: 7 Billion 第4回 Unit 1 Our World Reading 2 A Connected World 第5回 Unit 2 Career Paths Reading 1 Reaching for the Sky 第6回 Unit 2 Video: Cave Scientist 第7回 Unit 2 Career Paths Reading 2 Life in the Ring 第8回 Mid-term test, Unit 1~2のまとめ 第9回 Unit 3 Adventure Reading 1 Adventures Anywhere 第10回 Unit 3 Video: Hooked on Adventure 第11回 Unit 3 Adventure Reading 2 A Movie-Gower's Guide to London 第12回 Unit 4 The Visual Age Reading 1 Sharing Success 第13回: 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Unit 4 Video: 'Likes' 第15回 Unit 4 The Visual Age Reading 2 Is It Real? 第16回 Term-end test, Unit 3~4のまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	学生は授業の準備と復習にイングリッシュ・ラウンジに行くこと。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。授業ではディスカッションなどのアクティビティーを中心に行うので、授業前にはエクササイズを含めて、必ず



	予習をしてください。また宿題や課題のレポートを必ず提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Pathways-Reading, Writing, and Critical Thinking, Foundations A, Second ed. Gengage. ISBN 978-0-357-36603-5
(21)参考文献	授業の中で指定します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを多用し、議論を通じて読解力を養います。
(25)留意点・予備知識	予習・復習・課題・試験などの連絡はすべてMoodle(授業ポータル)を通じて通知するので、頻繁にクラスのMoodleサイトをチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	425
(2)区分番号	425
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回：授業方針の説明と Introduction 第2回：Teddy Bears 第3回：April Fool's Day 第4回：The Biggest Birthday Present 第5回：Funny English Jokes 第6回：Adelie Penguins 第7回：Eat Well, eat Smart 第8回：Three Popular Mysteries 第9回：Protect Our Environment 第10回：Laughing and Thinking 第11回：Body Art 第12回：The Most Extreme Marathons 第13回：VELC Test 第14回：Fortune Cookies 第15回：Review 第16回：Exam, 解説
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Success (Akihiko Sato and Valerie Tidwell著) (成美堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% Participation (Class activities) : 40% 3.

	Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	426
(2)区分番号	426
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	畑中 杏美(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 授業ガイダンス(教養教育英語科目について、授業の進め方について等) 第2回 Amazing Animals A: The Incredible Dolphin +Book Reviewについて 第3回 Amazing Animals B:Musical Elephants +Vocabulary Journalについて 第4回 Travel and Adventure 第5回 The Power of Music 第6回 Into Space 第7回 City Life 第8回 中間試験および Small Worlds A: In One Cubic Foot 第9回 Small Worlds B: A World Within Us および 中間テストの振り返り 第10回 When Dinosaurs Ruled 第11回 Stories and Storytellers 第12回 Unusual Jobs 第13回 外部試験 第14回 Uncovering the Past 第15回 Legends of the Sea 第16回 期末試験およびまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、予習・復習箇所については指示します。そのほか、Book Reviewと、vocabulary journalのチェックが隔週でありますので準備してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	Reading Explorer, 2nd ed. Level 1. Cengage Learning
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1-2回の授業で1ユニットを進めていきます。
(25)留意点・予備知識	予習を前提とします。予習課題についてわからないことがあったら必ず確認してください。
(26)オフィスアワー	初回授業時にお伝えします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業時にお伝えします
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	427
(2)区分番号	427
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	近藤 亮一 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation 第2回 Unit 1 Teddy Bears (代名詞や副詞に注意して、Teddy Bearsの由来について英語で理解する) 第3回 Unit 2 April Fools' Day(エイプリルフールの由来について英語で理解する) 第4回 Unit 3 The Biggest Birthday Present(自由の女神の歴史について英語で理解する) 第5回 Unit 4 Funny English Jokes(英文で示された状況を想像し、英語のジョークのオチを理解する) 第6回 Unit 5 Adélie Penguins (代名詞の指示や助動詞に注意して、Adélie Penguinsの生態について英語で理解する) 第7回 Unit 6 Eat Well, Eat Smart(無生物主語に注意して、健康に良い食べ物について英語で理解する) 第8回 中間試験・その解説・英語の歴史 第9回 Unit 7 Three Popular Mysteries(ミステリーに関するさまざまな説について英語で理解する) 第10回 Unit 8 Protect Our Environment(環境保護にはどのようなことが必要となるかということについて英語で理解する) 第11回 Unit 9 Laughing and Thinking (完了形に注意して、興味深い発明について英語で理解する) 第12回 Unit 10 Body Art(Body Artの由来や意味について英語で理解する) 第13回 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Unit 11 The Most Extreme

	<p>Marathons (いくつかの過酷なマラソンについて英語で理解する)</p> <p>第15回 Unit 12 Fortune Cookies (Fortune Cookiesの由来について英語で理解する)</p> <p>第16回 これまでのまとめ・期末試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)</p> <p>特に、問題はあらかじめ解いておいてください。長文は和訳しておいてください。予習ができていない場合は、欠席扱いとすることがあります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Akihiko Sato, Valerie Tidwell "Reading Success 1" 2016年 成美堂
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	本文で用いられる単語の意味や使用法について確認し、本文を精読し、関連する問題を解きます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	金曜日 13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	428
(2)区分番号	428
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Unit 1 Our World Reading 1 The Face of Seven Villion 第3回 Unit 1 Video: 7 Billion 第4回 Unit 1 Our World Reading 2 A Connected World 第5回 Unit 2 Career Paths Reading 1 Reaching for the Sky 第6回 Unit 2 Video: Cave Scientist 第7回 Unit 2 Career Paths Reading 2 Life in the Ring 第8回 Mid-term test, Unit 1~2のまとめ 第9回 Unit 3 Adventure Reading 1 Adventures Anywhere 第10回 Unit 3 Video: Hooked on Adventure 第11回 Unit 3 Adventure Reading 2 A Movie-Gower's Guide to London 第12回 Unit 4 The Visual Age Reading 1 Sharing Success 第13回: 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Unit 4 Video: 'Likes' 第15回 Unit 4 The Visual Age Reading 2 Is It Real? 第16回 Term-end test, Unit 3~4のまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	学生は授業の準備と復習にイングリッシュ・ラウンジに行くこと。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてください。授業ではディスカッションなどのアクティビティーを中心に行うので、授業前にはエクササイズを含めて、必ず



	予習をしてください。また宿題や課題のレポートを必ず提出してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Pathways-Reading, Writing, and Critical Thinking, Foundations A, Second ed. Gengage. ISBN 978-0-357-36603-5
(21)参考文献	授業の中で指定します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを多用し、議論を通じて読解力を養います。
(25)留意点・予備知識	予習・復習・課題・試験などの連絡はすべてMoodle(授業ポータル)を通じて通知するので、頻りにクラスのMoodleサイトをチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	429
(2)区分番号	429
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回：授業方針の説明とIntroduction 第2回：Teddy Bears 第3回：April Fool's Day 第4回：The Biggest Birthday Present 第5回：Funny English Jokes 第6回：Adelie Penguins 第7回：Eat Well, eat Smart 第8回：Three Popular Mysteries 第9回：Protect Our Environment 第10回：Laughing and Thinking 第11回：Body Art 第12回：The Most Extreme Marathons 第13回：VELC Test 第14回：Fortune Cookies 第15回：Review 第16回：Exam, 解説
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Success (Akihiko Sato and Valerie Tidwell著) (成美堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：40%

	<p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	430
(2)区分番号	430
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (初級) (Reading for Beginners)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation(シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等) 第2回 リーディング 3レッスン ① 第3回 リーディング 3レッスン ② 第4回 リーディング 3レッスン ③ 第5回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 1 第6回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 2 第7回 Review & Midterm Exam 第8回 リーディング 3レッスン ④ 第9回 リーディング 3レッスン ⑤ 第10回 リーディング 3レッスン ⑥ 第11回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 3 第12回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 4 第13回 外部試験 第14回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 5 第15回 Review & Final Exam 第16回 Final Exam Feedback & Wrap-up  第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン(通常モード)は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用し

	て、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	431
(2)区分番号	431
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation (シラバスの説明、教養教育英語科目パンフレット『Hirosaki University Liberal Arts English Courses』・英語プレースメントテストについて、e-Learning教材について等) 第2回 Pathway to Academic Readiness 第3回 Unit 1 Life in a Day Reading 1 第4回 Unit 1 Life in a Day Reading 2 第5回 Unit 2 Don' t Give up Reading 1 第6回 Unit 2 Don' t Give up Reading 2 第7回 Unit 3 Why We Buy Reading 1 第8回 Unit 3 Why We Buy Reading 2 第9回 Review & Midterm Exam 第10回 Unit 4 Green Living Reading 1 第11回 Unit 4 Green Living Reading 2 第12回 Unit 5 Food Journeys Reading 1 & 2 第13回 外部試験 第14回 Extensive Reading & e-Learning 第15回 Review & Final Exam 第16回 Final Exam Feedback & Wrap-up
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：教科書の各ReadingにあるBuilding Vocabularyを解き、次に教科書の付属Online Workbook (MyELT) の課題を全問正解するまで解いてから授業に参加してください (Assignments)。  復習：Reading skillを理解し、それらを習得

	<p>できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。</p> <p>Self-study：各自でe-Learning教材で学習し、また、弘前大学図書館2Fの多読コーナーにある英語多読本を活用します。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：Mari Vargo and Laurie Blass (2018) 『Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking Book 1 (Split 1A) Second Edition』 CENGAGE Learning</p> <p>e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』 Reallyenglish (第1回で購入方法を説明します。)</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00</p> <p>木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	432
(2)区分番号	432
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（教養教育英語科目についての説明・授業の進め方・予復習についての説明）・リーディング演習</p> <p>第2回：Topic 1 Stereotypes and Racism</p> <p>第3回：Topic 2 Information and Communication</p> <p>第4回：Topic 3 Culture and Fashion</p> <p>第5回：Topic 4 Health</p> <p>第6回：Topic 5 Food</p> <p>第7回：Topic 6 A Sound Material-Cycle Society/ 読書感想文Peer review</p> <p>第8回：中間試験/ 読書感想文提出/ Topic 7 Global Warming</p> <p>第9回：Topic 8 Energy</p> <p>第10回：Topic 9 Ecosystems and Humans</p> <p>第11回：Topic 10 Endangered Species</p> <p>第12回：Topic 11 International Relationships</p> <p>第13回：外部試験</p> <p>第14回：Topic 12 War and Peace</p> <p>第15回：Topic 13 Human Rights/ 読書感想文Peer review</p> <p>第16回：期末試験/ 読書感想文提出/ 振り返り</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：未知語の単語帳作成</p> <p>復習：各単元の要約を作成し、Moodleに投稿してもらいます</p>



	その他課題：図書館にある多読用図書の感想文作成（第8・16回の授業で提出）
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Sasajima, S., Ikeda, M., Yamazaki, M., Chida, T., Fijisawa, T., Fukushima, J., Nakaya, M., Yukita, M., & Schramm, A. (2018). CLIL Global Issues. Tokyo: Sanshusha.
(21)参考文献	図書館2階所蔵の英語多読用教材を多読課題として使用します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書の翻訳・要約を行い、受講生同士で内容を議論したり、教科書に記載された内容についての自分の意見を英文で書きMoodleに投稿してもらう活動を行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 単語テストは指定された期間内のみ受験可能です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	433
(2)区分番号	433
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Chapter 1 Herbivorous Males 本文</p> <p>第3回 Chapter 1 Herbivorous Males 本文および設問</p> <p>第4回 Chapter 3 Uniformity 本文</p> <p>第5回 Chapter 3 Uniformity 本文および設問</p> <p>第6回 小テスト(1)および Chapter 5 English as a Lingua Franca 本文</p> <p>第7回 Chapter 5 English as a Lingua Franca 本文および設問</p> <p>第8回 Chapter 5 補足 および Chapter 7 Immigrants Needed 本文</p> <p>第9回 小テスト(1)の解説 および Chapter 7 Immigrants Needed 本文および設問</p> <p>第10回 Chapter 7 補足 および Chapter 2 Galapagized Japan 本文</p> <p>第11回 Chapter 2 Galapagized Japan 本文および設問</p> <p>第12回 小テスト(2) および Chapter 2 補足</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 小テスト(2)の解説、今までの章の振り返り、および新聞記事の速読</p> <p>第15回 新聞記事の速読</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p> <p>上記のように奇数番号の章を進んでいき、Chapter 7のあとはChapter 2をやります。このほか、期の終わりに新聞か雑誌の短めの</p>

	英文記事を読む予定（速読の練習）。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回授業でやるところを予習してきてください(本文とそのあとの設問)。授業のあとは、わからない単語や訳せない文がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Good-bye, Galapagos『変わる日本、変わらない日本』、Paul Stapleton 著、CENGAGE Learning
(21)参考文献	英文法の参考書（高校時代に使っていたものでよい）。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式（クラス全体）およびペアワークとグループワークもあり。  発表は一人で行い、本文を読んで和訳し、こちらの質問に答えることで一回分となります。 原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。期が終わるまでに必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く発表できない可能性が高いので、できるだけ早めに発表を終わらせてください。  本文のあとの設問は、一人ひとりまたはペアかグループで毎回ほぼ全員にあたりますので予習してきてください。
(25)留意点・予備知識	以下の場合には評価の対象から外れます(不可となります)ので注意してください。 1 出席が全体の3分の2ない場合 2 授業中に授業と関係のないことをしていた場合。授業の参加態度も評価の対象となります。 その他、原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。これについては初回の授業で説明しますので注意してください。  欠席や遅刻のために得られなかった情報は、人に聞くなどして必ず確認しておいてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし

(28)その他

特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	434
(2)区分番号	434
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回イントロダクション(授業の進め方など) 第2回: Unit 1: Animals: Part 1 第3回: Unit 1: Animals: Part 2 第4回: Unit 2: The EnvironmentI: Part 1 第5回: Unit 2: The EnvironmentI: Part 2 第6回: Unit 3: Transportation: Part 1 第7回: Unit 3: Transportation: Part 2 第8回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 1 第9回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 2 第10回: Unit 5: Health and Fitness: Part 1 第11回: Unit 5: Health and Fitness: Part 2 第12回: Unit 6: Discovery and Invention: Part 1 第13回: 英語外部試験(VELC Test) 第14回: Unit 8: Economics: Part 1 第15回: Unit 8: Economics: Part 1 第16回: 授業の内容まとめ+期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	PRISM Reading Student's Book 2、 CAMBRIDGE、ISBN 978-1-108-62200-4
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	435
(2)区分番号	435
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Chapter 2 第3回 Chapter 3 第4回 Chapter 4 第5回 Chapter 5 第6回 Chapter 6 第7回 Review, Chapter 7 <1> 第8回 Mid-term Test, Chapter 7 <2> 第9回 Chapter 9 第10回 Chapter 10 第11回 Chapter 11 第12回 Chapter 12 第13回 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Chapter 14 第15回 Review 第16回 Final Test, Review ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutを用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	渡邊 あをい 『ニュース英語で視野を広げる Broaden Your Horizon through News in English』 三修社

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	436
(2)区分番号	436
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	須々田 友子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 orientation, ice breaking, self-introduction 第2回 前半のchapter選択、英語構文の基礎 第3回 chapter (1)、基本文型 第4回 chapter (2)、基本文型 第5回 chapter (3)、動詞の時制 第6回 chapter (4)、動詞の時制 第7回 chapter (5)、名詞句・節 第8回 中間テスト、review 第9回 chapter (6)、関係詞 第10回 chapter (7)、関係詞 第11回 chapter (8)、副詞句、節 第12回 chapter (9)、受動態 第13回 外部テスト 第14回 chapter (10)、受動態 第15回 chapter (11)、仮定法 第16回 期末テスト、review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストの予習プリント、主に文法の復習プリントあり
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Insight2019 村尾純子ほか(金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果: 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project :

	40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	解説、演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	437
(2)区分番号	437
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Unit 1 原因と結果を述べる</p> <p>第3回 Unit 2 事実を時系列に沿って説明する</p> <p>第4回 Unit 3 トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する</p> <p>第5回 Unit 4 物語の文体に慣れる</p> <p>第6回 Unit 5 比較する</p> <p>第7回 Unit 6 分類しながら説明する</p> <p>第8回 前半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;振り返り</p> <p>第9回 Unit 7 目的を持って尋ねる(インタビュー)</p> <p>第10回 Unit 8 手順を説明する</p> <p>第11回 Unit 9 定義を示して例示する</p> <p>第12回 Unit 10 スピーチの文体に慣れる</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Unit 11 異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文)</p> <p>第15回 Unit 12 グラフなどを使いながら説明する</p> <p>第16回 後半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;まとめ</p> <p>学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください

	い。具体的には本文の重要語句を調べること、担当部分の要約などです。学習時間2時間程度。 [復習] 再度、重要語句など分からなかった語彙が理解できているか意識しながら、本文を読んでみましょう。また本文の音声ダウンロードできます。音声を聞きながらのシャドーイングをしてみましょう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他, English Stream Intermediate, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	”1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。”
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明し、Cooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	438
(2)区分番号	438
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: Orientation / Millennials Week2: Green Profits/Well-Loved Pets Week3: Italy' s Fashion Kings Week4: Viral Marketing /TED Talks Week5: The Gossip Media Week6: Replanting the World' s Forests Week7: Quiz (1~6) Week8: Adventure Tourism Week9: The Cannes Film Festival Week10: Giving Away Billions Week11: Computer Actors/ New York City Week12: Fresh Water: A Growing Crisis/ Exporting Culture Week13: VELC Test Week14: The Power of You Tube Week15: Yoga/ Crime-Fighting Scientists Week16: Final Exam (8~15) and review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習：授業内で指示します。 予習：各unitのPre-Reading Questionsに目を通し、クラスでディスカッション出来るように準備しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Pass 2 (second edition) NAN' UN-DO社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をシステムチックにバランスよく学習。ロールプレイやショートスピーチも導入。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、たくさんの質問をしましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	439
(2)区分番号	439
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 志織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. The UK in the World Today 2. The British Royal Family 3. British Politics 4. People Profile 1 5. The Suburbs of London 6. British Food is Delicious 7. Park Life 8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. Britain' S Favorite Writers 10. British Art 11. What Do the British Watch on TV 12. People Profile 3 13. 外部試験 (VELC) 14. Street Demonstrations 15. Nuclear Power in Britain 16. Exam試験の解説、及び後半期授業の復習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習、復習については、毎授業時に指定する。 テキストの下読みをしていくことは必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A Fresh Look at Britain, Jonathan Lynch and 委文光太郎, 成美堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	440
(2)区分番号	440
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	*Units 7, 10, 11は今回扱わない予定です。 第1回 Orientation 第2回 Unit 1 The Power of Imagination and Effort 第3回 Unit 2 The History of Jeans 第4回 Unit 3 To Long Life! 第5回 Unit 4 Be Careful What You Wish For 第6回 Unit 5 Baseball and Cricket 第7回 Unit 6 In Our Blood or in Our Minds? 第8回 Midterm Exam + Review 第9回 Unit 8 Brainstorming 第10回 Unit 9 A Good Consumer 第11回 Unit 12 Lies and Statistics 第12回 Unit13 Builders Break Ground on Blackwood Bridge Project 第13回 External English Test (VELC Test) 第14回 Unit 14 Coded Communication 第15回 Unit 15 Lucid Dreaming 第16回 Final Exam + Wrap-up * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定されるユニットの本文を読み、セクションAからセクションCの問題を解いてくる。 復習として、本文を最低3回読み、語彙と表現を覚える。ダウンロード可の音声ファイルも活用する。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他著、English Stream (Kinseido 金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク及びグループ・ワークを含む
(25)留意点・予備知識	1. 必ず辞書を持って来ること（スマートフォン等での代用は不可）。 2. 予習がされているものとして授業を進めます。 3. 積極的に参加し、自由に質問をしてください。 4. 遅刻2回で欠席1回にカウントされます。 5. 全授業回数の3分の1以上休んだ場合、「不可」となり単位は出ません。 6. 休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。（クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。）
(26)オフィスアワー	決まった時間はありませんが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の授業の際お知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	441
(2)区分番号	441
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ペランド ジョン ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Chapter 1: Being on Time</p> <p>第3回 Chapter 2: Changing Lifestyles and New Eating Habits</p> <p>第4回 Chapter 3: Technology Competes for Family Time</p> <p>第5回 Unit 1 - ワークショップ・小テスト</p> <p>第6回 Chapter 4: Language: Is It Always Spoken?</p> <p>第7回 Chapter 5: Loneliness: How Can We Overcome It?</p> <p>第8回 Chapter 6: Technology Competes for Family Time</p> <p>第9回 Unit 2 - ワークショップ・小テスト</p> <p>第10回 Chapter 7: The Reliability of Eyewitnesses</p> <p>第11回 Chapter 8: Innocent Until Proven Guilty</p> <p>第12回 Chapter 9: Solving Crimes with Modern Technology</p> <p>第13回 VELC Test (外部試験)</p> <p>第14回 Unit 3 - ワークショップ・小テスト</p> <p>第15回 Chapter 11: Medical Technology</p> <p>第16回 Chapter 12: Mars Our Neighbor in Space ・小テスト</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、毎日授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Miwako Yamashina et. al. 『Reading Choice』 (Cengage, 2013)
(21)参考文献	特になし（適宜、授業で紹介します）。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：25% 4. Assignments/Self-study：25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	442
(2)区分番号	442
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation (シラバスの説明、教養教育英語科目パンフレット『Hirosaki University Liberal Arts English Courses』・英語プレースメントテストについて、e-Learning教材について等) 第2回 Pathway to Academic Readiness 第3回 Unit 1 Life in a Day Reading 1 第4回 Unit 1 Life in a Day Reading 2 第5回 Unit 2 Don' t Give up Reading 1 第6回 Unit 2 Don' t Give up Reading 2 第7回 Unit 3 Why We Buy Reading 1 第8回 Unit 3 Why We Buy Reading 2 第9回 Review & Midterm Exam 第10回 Unit 4 Green Living Reading 1 第11回 Unit 4 Green Living Reading 2 第12回 Unit 5 Food Journeys Reading 1 & 2 第13回 外部試験 第14回 Extensive Reading & e-Learning 第15回 Review & Final Exam 第16回 Final Exam Feedback & Wrap-up
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：教科書の各ReadingにあるBuilding Vocabularyを解き、次に教科書の付属Online Workbook (MyELT) の課題を全問正解するまで解いてから授業に参加してください (Assignments)。  復習：Reading skillを理解し、それらを習得

	<p>できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。</p> <p>Self-study：各自でe-Learning教材で学習し、また、弘前大学図書館2Fの多読コーナーにある英語多読本を活用します。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：Mari Vargo and Laurie Blass (2018) 『Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking Book 1 (Split 1A) Second Edition』 CENGAGE Learning</p> <p>e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』 Reallyenglish (第1回で購入方法を説明します。)</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</p> <p>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00</p> <p>木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	443
(2)区分番号	443
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（教養教育英語科目についての説明・授業の進め方・予復習についての説明）・リーディング演習</p> <p>第2回：Topic 1 Stereotypes and Racism</p> <p>第3回：Topic 2 Information and Communication</p> <p>第4回：Topic 3 Culture and Fashion</p> <p>第5回：Topic 4 Health</p> <p>第6回：Topic 5 Food</p> <p>第7回：Topic 6 A Sound Material-Cycle Society/ 読書感想文Peer review</p> <p>第8回：中間試験/ 読書感想文提出/ Topic 7 Global Warming</p> <p>第9回：Topic 8 Energy</p> <p>第10回：Topic 9 Ecosystems and Humans</p> <p>第11回：Topic 10 Endangered Species</p> <p>第12回：Topic 11 International Relationships</p> <p>第13回：外部試験</p> <p>第14回：Topic 12 War and Peace</p> <p>第15回：Topic 13 Human Rights/ 読書感想文Peer review</p> <p>第16回：期末試験/ 読書感想文提出/ 振り返り</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：未知語の単語帳作成</p> <p>復習：各単元の要約を作成し、Moodleに投稿してもらいます</p>

	その他課題：図書館にある多読用図書の感想文作成（第8・16回の授業で提出）
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Sasajima, S., Ikeda, M., Yamazaki, M., Chida, T., Fijisawa, T., Fukushima, J., Nakaya, M., Yukita, M., & Schramm, A. (2018). CLIL Global Issues. Tokyo: Sanshusha.
(21)参考文献	図書館2階所蔵の英語多読用教材を多読課題として使用します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書の翻訳・要約を行い、受講生同士で内容を議論したり、教科書に記載された内容についての自分の意見を英文で書きMoodleに投稿してもらう活動を行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 単語テストは指定された期間内のみ受験可能です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	444
(2)区分番号	444
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 Chapter 2 Galapagized Japan 本文 第3回 Chapter 2 Galapagized Japan 本文 および設問 第4回 Chapter 4 Universities in Japan 本文 第5回 Chapter 4 Universities in Japan 本文および設問 第6回 小テスト(1)および Chapter 6 Disaster Spirit 本文 第7回 Chapter 6 Disaster Spirit 本文お よび設問 第8回 Chapter 6 補足 および Chapter 8 Manga 本文 第9回 小テスト(1)の解説 および Chapter 8 Manga 本文および設問 第10回 Chapter 8 補足 および Chapter 10 Distinctive Kansai 本文 第11回 Chapter 10 Distinctive Kansai 本 文および設問 第12回 小テスト(2) およびChapter 10 補 足 第13回 外部試験 第14回 小テスト(2)の解説、今までの章の振 り返し、および新聞記事の速読 第15回 新聞記事の速読 第16回 期末試験と振り返り  上記のように偶数番号の章を進んでいきま す。 このほか、期の終わりに新聞か雑誌の短めの

	英文記事を読む予定（速読の練習）。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回授業でやるところを予習してきてください(本文とそのあとの設問)。授業のあとは、わからない単語や訳せない文がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Good-bye, Galapagos『変わる日本、変わらない日本』, Paul Stapleton 著、GENGAGE Learning
(21)参考文献	英文法の参考書（高校時代に使っていたものでよい）。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式（クラス全体）およびペアワークとグループワークもあり。  発表は一人で行い、本文を読んで和訳し、こちらの質問に答えることで一回分となります。 原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。期が終わるまでに必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く発表できない可能性が高いので、できるだけ早めに発表するようにしてください。  本文のあとの設問は、一人ひとりまたはペアかグループで毎回ほぼ全員にあたりますので予習してきてください。
(25)留意点・予備知識	以下の場合には評価の対象から外れます(不可となります)ので注意してください。 1 出席が全体の3分の2ない場合 2 授業中に授業と関係のないことをしていた場合。授業の参加態度も評価の対象となります。 その他、原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。これについては初回の授業で説明しますので注意してください。  欠席や遅刻のために得られなかった情報は、人に聞くなどして必ず確認しておいてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし

(28)その他

特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	445
(2)区分番号	445
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回イントロダクション(授業の進め方など) 第2回: Unit 1: Animals: Part 1 第3回: Unit 1: Animals: Part 2 第4回: Unit 2: The Environment1: Part 1 第5回: Unit 2: The Environment1: Part 2 第6回: Unit 3: Transportation: Part 1 第7回: Unit 3: Transportation: Part 2 第8回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 1 第9回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 2 第10回: Unit 5: Health and Fitness: Part 1 第11回: Unit 5: Health and Fitness: Part 2 第12回: Unit 6: Discovery and Invention: Part 1 第13回: 英語外部試験(VELC Test) 第14回: Unit 8: Economics: Part 1 第15回: Unit 8: Economics: Part 1 第16回: 授業の内容まとめ+期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	PRISM Reading Student's Book 2、 CAMBRIDGE、ISBN 978-1-108-62200-4
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	446
(2)区分番号	446
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction 第2回 Chapter 2 第3回 Chapter 3 第4回 Chapter 4 第5回 Chapter 5 第6回 Chapter 6 第7回 Review, Chapter 7 <1> 第8回 Mid-term Test, Chapter 7 <2> 第9回 Chapter 9 第10回 Chapter 10 第11回 Chapter 11 第12回 Chapter 12 第13回 英語外部試験 (VELC Test) 第14回 Chapter 14 第15回 Review 第16回 Final Test, Review ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutを用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	渡邊 あをい 『ニュース英語で視野を広げる Broaden Your Horizon through News in English』 三修社

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	447
(2)区分番号	447
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	川浪 亜弥子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 インTRODakションー全体の流れについて 第2回 The British Royal Family: A New Era (1) 第3回 The British Royal Family: A New Era (2) 第4回 A British University Student (1) 第5回 A British University Student (2) 第6回 Summary + Examination (1) 第7回 British Food Is Delicious! (1) 第8回 British Food Is Delicious! (2) 第9回 Britain's Favorite Writers (1) 第10回 Britain's Favorite Writers (2) 第11回 Street Demonstrations (1) 第12回 Street Demonstrations (2) 第13回 外部試験 第14回 Mysterious Britain (1) 第15回 Mysterious Britain (2) 第16回 Summary + Examination (2)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	辞書を引きながらの読解学習を、毎回の授業の予習として行って欲しい。 復習として、授業で行った文法的な解説を確認して欲しい。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A Fresh Look at Britain, Seibido, 2013
(21)参考文献	特になし



(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project (Examination 2回) : 20%x2 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	発表、解説、ディスカッション
(25)留意点・予備知識	予習必須
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	448
(2)区分番号	448
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	曾我 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(1回目) イントロダクション (Chapter 1 What's So Free about Freeways?)</p> <p>(2回目) Chapter 2 Riding a Horse While Drunk Is Illegal?</p> <p>(3回目) Chapter 3 Walk Your Dog Three Times a Day!</p> <p>(4回目) Chapter 4 Hungary Introduces a Tax on Chips</p> <p>(5回目) Chapter 5 Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!</p> <p>(6回目) Chapter 6 Marriage and Divorce in Different Cultures</p> <p>(7回目) Chapter 7 Smile!</p> <p>(8回目) Chapter 8 Silent Sunday?</p> <p>(9回目) Chapter 9 Want to Be a Pilot?</p> <p>(10回目) Chapter 10 Napoleon, the Pig?</p> <p>(11回目) Chapter 11 Don't Drop Dead Here!</p> <p>(12回目) Chapter 12 Cheating Does Not Pay</p> <p>(13回目) 外部試験 (VELC Test)</p> <p>(14回目) Chapter 13 Putting a Stop to Traffic Jams</p> <p>(15回目) Chapter 14 The Laws of the Jungle</p> <p>(16回目) 講義の振り返り+期末評価</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○毎回の講義で扱う章の英文をすべて読み、訳してきてください。</p> <p>○その章の練習問題1~3を、指定したとおりに解いてきてください(1回目の講義でその説明をします)。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	石井隆之他『Funny Laws in the World 世界おもしろ比較文化 —法律から学ぶ文化事情—』(南雲堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination : 30% 4. Assignments/Self-study : 30% 上記を合算して成績評価を行います。 ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の中では、テキストの問題以外にもいくつか練習問題を行いながら、英文の形式や考え方に慣れていきます。
(25)留意点・予備知識	出席回数が授業回数の3分の2以上なければ「不可」となります。予習をきちんと行うこと。各講義時に宿題(課題)を与えるので、その提出を怠らないこと。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	449
(2)区分番号	449
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Unit 1 原因と結果を述べる</p> <p>第3回 Unit 2 事実を時系列に沿って説明する</p> <p>第4回 Unit 3 トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する</p> <p>第5回 Unit 4 物語の文体に慣れる</p> <p>第6回 Unit 5 比較する</p> <p>第7回 Unit 6 分類しながら説明する</p> <p>第8回 前半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;振り返り</p> <p>第9回 Unit 7 目的を持って尋ねる(インタビュー)</p> <p>第10回 Unit 8 手順を説明する</p> <p>第11回 Unit 9 定義を示して例示する</p> <p>第12回 Unit 10 スピーチの文体に慣れる</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Unit 11 異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文)</p> <p>第15回 Unit 12 グラフなどを使いながら説明する</p> <p>第16回 後半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;まとめ</p> <p>学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください

	い。具体的には本文の重要語句を調べること、担当部分の要約などです。学習時間2時間程度。 [復習] 再度、重要語句など分からなかった語彙が理解できているか意識しながら、本文を読んでみましょう。また本文の音声ダウンロードできます。音声を聞きながらのシャドーイングをしてみましょう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他, English Stream Intermediate, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明し、Cooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	450
(2)区分番号	450
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: Orientation / Millennials Week2: Green Profits/Well-Loved Pets Week3: Italy' s Fashion Kings Week4: Viral Marketing /TED Talks Week5: The Gossip Media Week6: Replanting the World' s Forests Week7: Quiz (1~6) Week8: Adventure Tourism Week9: The Cannes Film Festival Week10: Giving Away Billions Week11: Computer Actors/ New York City Week12: Fresh Water: A Growing Crisis/ Exporting Culture Week13: VELC Test Week14: The Power of You Tube Week15: Yoga/ Crime-Fighting Scientists Week16: Final Exam (8~15) and review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習：授業内で指示します。 予習：各unitのPre-Reading Questionsに目を通し、クラスでディスカッション出来るように準備しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Pass 2 (second edition) NAN' UN-DO社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をシステムチックにバランスよく学習。 ロールプレイやショートスピーチも導入。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、たくさんの質問をしましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	451
(2)区分番号	451
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 志織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. The UK in the World Today 2. The British Royal Family 3. British Politics 4. People Profile 1 5. The Suburbs of London 6. British Food is Delicious 7. Park Life 8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. Britain' S Favorite Writers 10. British Art 11. What Do the British Watch on TV 12. People Profile 3 13. 外部試験 (VELC) 14. Street Demonstrations 15. Nuclear Power in Britain 16. Exam 論点の解説、後半の復習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習、復習については、毎授業時に指定する。 テキストの下読みをしていくことは必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A Fresh Look at Britain, Jonathan Lynch and 委文光太郎, 成美堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	



	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	452
(2)区分番号	452
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	*Units 7, 10, 11は今回扱わない予定です。 第1回 Orientation 第2回 Unit 1 The Power of Imagination and Effort 第3回 Unit 2 The History of Jeans 第4回 Unit 3 To Long Life! 第5回 Unit 4 Be Careful What You Wish For 第6回 Unit 5 Baseball and Cricket 第7回 Unit 6 In Our Blood or in Our Minds? 第8回 Midterm Exam + Review 第9回 Unit 8 Brainstorming 第10回 Unit 9 A Good Consumer 第11回 Unit 12 Lies and Statistics 第12回 Unit13 Builders Break Ground on Blackwood Bridge Project 第13回 External English Test (VELC Test) 第14回 Unit 14 Coded Communication 第15回 Unit 15 Lucid Dreaming 第16回 Final Exam + Wrap-up * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定されるユニットの本文を読み、セクションAからセクションCの問題を解いてくる。 復習として、本文を最低3回読み、語彙と表現を覚える。ダウンロード可の音声ファイルも活用する。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他著、English Stream (Kinseido 金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク及びグループ・ワークを含む
(25)留意点・予備知識	<p>1. 必ず辞書を持って来ること（スマートフォン等での代用は不可）。</p> <p>2. 予習がされているものとして授業を進めます。</p> <p>3. 積極的に参加し、自由に質問をしてください。</p> <p>4. 遅刻2回で欠席1回にカウントされます。</p> <p>5. 全授業回数の3分の1以上休んだ場合、「不可」となり単位は出ません。</p> <p>6. 休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。（クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。）</p>
(26)オフィスアワー	決まった時間はありませんが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の授業の際お知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	453
(2)区分番号	453
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading（中級）（Intermediate Reading）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	横内 裕一郎（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（教養教育英語科目についての説明・授業の進め方・予復習についての説明）・リーディング演習</p> <p>第2回：Topic 1 Stereotypes and Racism</p> <p>第3回：Topic 2 Information and Communication</p> <p>第4回：Topic 3 Culture and Fashion</p> <p>第5回：Topic 4 Health</p> <p>第6回：Topic 5 Food</p> <p>第7回：Topic 6 A Sound Material-Cycle Society/ 読書感想文Peer review</p> <p>第8回：中間試験/ 読書感想文提出/ Topic 7 Global Warming</p> <p>第9回：Topic 8 Energy</p> <p>第10回：Topic 9 Ecosystems and Humans</p> <p>第11回：Topic 10 Endangered Species</p> <p>第12回：Topic 11 International Relationships</p> <p>第13回：外部試験</p> <p>第14回：Topic 12 War and Peace</p> <p>第15回：Topic 13 Human Rights/ 読書感想文Peer review</p> <p>第16回：期末試験/ 読書感想文提出/ 振り返り</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：未知語の単語帳作成</p> <p>復習：各単元の要約を作成し、Moodleに投稿してもらいます</p>

	その他課題：図書館にある多読用図書の感想文作成（第8・16回の授業で提出）
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Sasajima, S., Ikeda, M., Yamazaki, M., Chida, T., Fijisawa, T., Fukushima, J., Nakaya, M., Yukita, M., & Schramm, A. (2018). CLIL Global Issues. Tokyo: Sanshusha.
(21)参考文献	図書館2階所蔵の英語多読用教材を多読課題として使用します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書の翻訳・要約を行い、受講生同士で内容を議論したり、教科書に記載された内容についての自分の意見を英文で書きMoodleに投稿してもらう活動を行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 単語テストは指定された期間内のみ受験可能です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	454
(2)区分番号	454
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Chapter 2 Galapagized Japan 本文</p> <p>第3回 Chapter 2 Galapagized Japan 本文 および設問</p> <p>第4回 Chapter 12 Japanese Quality Food 本文</p> <p>第5回 Chapter 12 Japanese Quality Food 本文および設問</p> <p>第6回 小テスト(1)および Chapter 13 Craze Culture 本文</p> <p>第7回 Chapter 13 Craze Culture 本文および設問</p> <p>第8回 Chapter 13 補足 および Chapter 14 Monster Parents 本文</p> <p>第9回 小テスト(1)の解説 および Chapter 14 Monster Parents 本文および設問</p> <p>第10回 Chapter 14 補足 および Chapter 15 Good News Japan 本文</p> <p>第11回 Chapter 15 Good News Japan 本文および設問</p> <p>第12回 小テスト(2) および Chapter 15 補足</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 小テスト(2)の解説、今までの章の振り返り、および新聞記事の速読</p> <p>第15回 新聞記事の速読</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p> <p>上記のように最初にChapter 2をやったあと、Chapter 12に飛んで進んでいきます。このほか、期の終わりに新聞か雑誌の短めの</p>

	英文記事を読む予定（速読の練習）。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回授業でやるところを予習してきてください(本文とそのあとの設問)。授業のあとは、わからない単語や訳せない文がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Good-bye, Galapagos『変わる日本、変わらない日本』, Paul Stapleton 著、CENGAGE Learning
(21)参考文献	英文法の参考書（高校時代に使っていたものでよい）。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式（クラス全体）およびペアワークとグループワークもあり。  発表は一人で行い、本文を読んで和訳し、こちらの質問に答えることで一回分となります。 原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。学期中必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く希望者全員が発表できない可能性が高いので、早めに発表をしておくことが重要です。  本文のあとの設問は、一人ひとりまたはペアかグループで毎回ほぼ全員にあたりますので予習してきてください。
(25)留意点・予備知識	以下の場合には評価の対象から外れます(不可となります)ので注意してください。 1 出席が全体の3分の2ない場合 2 授業中に授業と関係のないことをしていた場合。授業の参加態度も評価の対象となります。 その他、原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。これについては初回の授業で説明しますので注意してください。  欠席や遅刻のために得られなかった情報は、人に聞くなどして必ず確認しておいてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし

(28)その他

特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	455
(2)区分番号	455
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	フォーサイス エドワード (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回: イン트로ダクション（授業の進め方など）、 第2回: Unit 1: Cyber Romance 第3回: Unit 2: Internet and Society 第4回: Unit 3: Influences 第5回: Unit 4: Making a Difference 第6回: Unit 5: Tales from Egypt 第7回: Unit 6: Uncovered Secrets 第8回: Unit 7: Do You Like What You See? 第9回: Unit 8: Food of the Future 第10回: Unit 9: Are Animals Intelligent? 第11回: Unit 10: Animals in Traditional Stories 第12回: Unit 11: What Makes us Laugh? 第13回: VELC Examination 第14回: Unit 12: Private Lives of Comedians 第15回: Review and Final Exam、 第16回: Final Exam Feedback and World Culture Discussion
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。 復習: 授業の内容を十分に復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Reading Keys New Edition Student Book 3 (ISBN: 978-0-230-72485-3)
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (Class activities) : 20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 20%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	21世紀のグローバルなトピックスを学びながら英語のリディングスキルを向上します。授業中で学生は自分のスマートフォンを使うこととなります。
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」とな</li> <li>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> <li>3. 毎回の授業参加と十分な予習が必要です。</li> </ol>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:forsythe@hirogaku-u.ac.jp">forsythe@hirogaku-u.ac.jp</a>
(28)その他	授業中スマートフォンやタブレットパソコンを使うこととなります。持っていない学生は1回目の授業で先生に教えてください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	456
(2)区分番号	456
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回イントロダクション(授業の進め方など) 第2回: Unit 1: Animals: Part 1 第3回: Unit 1: Animals: Part 2 第4回: Unit 2: The EnvironmentI: Part 1 第5回: Unit 2: The EnvironmentI: Part 2 第6回: Unit 3: Transportation: Part 1 第7回: Unit 3: Transportation: Part 2 第8回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 1 第9回: Unit 4: Customs and Traditions: Part 2 第10回: Unit 5: Health and Fitness: Part 1 第11回: Unit 5: Health and Fitness: Part 2 第12回: Unit 6: Discovery and Invention: Part 1 第13回: 英語外部試験(VELC Test) 第14回: Unit 8: Economics: Part 1 第15回: Unit 8: Economics: Part 1 第16回: 授業の内容まとめ+期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about the textbook topics.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	PRISM Reading Student's Book 2、 CAMBRIDGE、ISBN 978-1-108-62200-4
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	457
(2)区分番号	457
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	川浪 亜弥子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 インTRODakションー全体の流れについて 第2回 The British Royal Family: A New Era (1) 第3回 The British Royal Family: A New Era (2) 第4回 A British University Student (1) 第5回 A British University Student (2) 第6回 Summary + Examination (1) 第7回 British Food Is Delicious! (1) 第8回 British Food Is Delicious! (2) 第9回 Britain' s Favorite Writers (1) 第10回 Britain' s Favorite Writers (2) 第11回 Street Demonstrations (1) 第12回 Street Demonstrations (2) 第13回 外部試験 第14回 Mysterious Britain (1) 第15回 Mysterious Britain (2) 第16回 Summary + Examination (2)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	辞書を引きながらの読解学習を、毎回の授業の予習として行って欲しい。 復習として、授業で行った文法的な解説を確認して欲しい。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A Fresh Look at Britain, Seibido, 2013
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project (Examination 2回) : 20% x 2 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	発表、解説、ディスカッション
(25)留意点・予備知識	予習必須
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	458
(2)区分番号	458
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	曾我 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	(1回目) イントロダクション (Chapter 1 What's So Free about Freeways?) (2回目) Chapter 2 Riding a Horse While Drunk Is Illegal? (3回目) Chapter 3 Walk Your Dog Three Times a Day! (4回目) Chapter 4 Hungary Introduces a Tax on Chips (5回目) Chapter 5 Don't Tie Alligators to Fire Hydrants! (6回目) Chapter 6 Marriage and Divorce in Different Cultures (7回目) Chapter 7 Smile! (8回目) Chapter 8 Silent Sunday? (9回目) Chapter 9 Want to Be a Pilot? (10回目) Chapter 10 Napoleon, the Pig? (11回目) Chapter 11 Don't Drop Dead Here! (12回目) Chapter 12 Cheating Does Not Pay (13回目) 外部試験 (VELC Test) (14回目) Chapter 13 Putting a Stop to Traffic Jams (15回目) Chapter 14 The Laws of the Jungle (16回目) 講義の振り返り+期末評価
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	○毎回の講義で扱う章の英文をすべて読み、訳してきてください。 ○その章の練習問題1~3を、指定したとおりに解いてきてください(1回目の講義でその説明をします)。

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	石井隆之他『Funny Laws in the World 世界おもしろ比較文化 —法律から学ぶ文化事情—』(南雲堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination : 30% 4. Assignments/Self-study : 30% 上記を合算して成績評価を行います。 ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の中では、テキストの問題以外にもいくつか練習問題を行いながら、英文の形式や考え方に慣れていきます。
(25)留意点・予備知識	出席回数が授業回数の3分の2以上なければ「不可」となります。予習をきちんと行うこと。各講義時に宿題(課題)を与えるので、その提出を怠らないこと。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	459
(2)区分番号	459
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Unit 1 原因と結果を述べる</p> <p>第3回 Unit 2 事実を時系列に沿って説明する</p> <p>第4回 Unit 3 トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する</p> <p>第5回 Unit 4 物語の文体に慣れる</p> <p>第6回 Unit 5 比較する</p> <p>第7回 Unit 6 分類しながら説明する</p> <p>第8回 前半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;振り返り</p> <p>第9回 Unit 7 目的を持って尋ねる(インタビュー)</p> <p>第10回 Unit 8 手順を説明する</p> <p>第11回 Unit 9 定義を示して例示する</p> <p>第12回 Unit 10 スピーチの文体に慣れる</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Unit 11 異なる方法で情報を伝える(e-mailと会話文)</p> <p>第15回 Unit 12 グラフなどを使いながら説明する</p> <p>第16回 後半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;まとめ</p> <p>学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して授業に参加してください

	い。具体的には本文の重要語句を調べること、担当部分の要約などです。学習時間2時間程度。 [復習] 再度、重要語句など分からなかった語彙が理解できているか意識しながら、本文を読んでみましょう。また本文の音声ダウンロードできます。音声を聞きながらのシャドーイングをしてみましょう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他, English Stream Intermediate, 2019, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、英英辞書など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明し、Cooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	460
(2)区分番号	460
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: Orientation / Millennials Week2: Green Profits/Well-Loved Pets Week3: Italy' s Fashion Kings Week4: Viral Marketing /TED Talks Week5: The Gossip Media Week6: Replanting the World' s Forests Week7: Quiz (1~6) Week8: Adventure Tourism Week9: The Cannes Film Festival Week10: Giving Away Billions Week11: Computer Actors/ New York City Week12: Fresh Water: A Growing Crisis/ Exporting Culture Week13: VELC Test Week14: The Power of You Tube Week15: Yoga/ Crime-Fighting Scientists Week16: Final Exam (8~15) and review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習：授業内で指示します。 予習：各unitのPre-Reading Questionsに目を通しクラスディスカッション出来るよう準備しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Reading Pass 2 (second edition) NAN' UN-DO社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をシステムチックにバランスよく学習。 ロールプレイやショートスピーチも導入。
(25)留意点・予備知識	積極的にクラスに参加し、たくさんの質問をしましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	461
(2)区分番号	461
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading（中級）（Intermediate Reading）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	佐々木 志織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. The UK in the World Today 2. The British Royal Family 3. British Politics 4. People Profile 1 5. The Suburbs of London 6. British Food is Delicious 7. Park Life 8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. Britain' S Favorite Writers 10. British Art 11. What Do the British Watch on TV 12. People Profile 3 13. 外部試験（VELC） 14. Street Demonstrations 15. Nuclear Power in Britain 16. Exam、試験の解説、及び後半期授業の復習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習、復習については、毎授業時に指定する。 テキストの下読みをしていくことは必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	A Fresh Look at Britain, Jonathan Lynch and 委文光太郎, 成美堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	462
(2)区分番号	462
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	*Units 7, 10, 11は今回扱わない予定です。 第1回 Orientation 第2回 Unit 1 The Power of Imagination and Effort 第3回 Unit 2 The History of Jeans 第4回 Unit 3 To Long Life! 第5回 Unit 4 Be Careful What You Wish For 第6回 Unit 5 Baseball and Cricket 第7回 Unit 6 In Our Blood or in Our Minds? 第8回 Midterm Exam + Review 第9回 Unit 8 Brainstorming 第10回 Unit 9 A Good Consumer 第11回 Unit 12 Lies and Statistics 第12回 Unit13 Builders Break Ground on Blackwood Bridge Project 第13回 External English Test (VELC Test) 第14回 Unit 14 Coded Communication 第15回 Unit 15 Lucid Dreaming 第16回 Final Exam + Wrap-up * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定されるユニットの本文を読み、セクションAからセクションCの問題を解いてくる。 復習として、本文を最低3回読み、語彙と表現を覚える。ダウンロード可の音声ファイルも活用する。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Osamu Takeuchi他著、English Stream (Kinseido 金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク及びグループ・ワークを含む
(25)留意点・予備知識	<p>1. 必ず辞書を持って来ること（スマートフォン等での代用は不可）。</p> <p>2. 予習がされているものとして授業を進めます。</p> <p>3. 積極的に参加し、自由に質問をしてください。</p> <p>4. 遅刻2回で欠席1回にカウントされます。</p> <p>5. 全授業回数の3分の1以上休んだ場合、「不可」となり単位は出ません。</p> <p>6. 休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。（クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。）</p>
(26)オフィスアワー	決まった時間はありませんが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の授業の際お知らせします。
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	463
(2)区分番号	463
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (中級) (Intermediate Reading)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation(シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等) 第2回 リーディング 3レッスン ① 第3回 リーディング 3レッスン ② 第4回 リーディング 3レッスン ③ 第5回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 1 第6回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 2 第7回 Review & Midterm Exam 第8回 リーディング 3レッスン ④ 第9回 リーディング 3レッスン ⑤ 第10回 リーディング 3レッスン ⑥ 第11回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 3 第12回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 4 第13回 外部試験 第14回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 5 第15回 Review & Final Exam 第16回 Final Exam Feedback & Wrap-up  第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン(通常モード)は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用し

	て、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	464
(2)区分番号	464
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	アスタア パトラー (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: Orientation</p> <p>Week 2: Skills and strategies 1, Reading 1 (The State of the World's Health)</p> <p>Week 3: Skills and strategies 2, Reading 4 (Malaria: Portrait of a Disease)</p> <p>Week 4: Skills and strategies 3, Reading 5 (The Health Care Divide)</p> <p>Week 5: Skills and strategies 4, Reading 1 (The Age of Immigration)</p> <p>Week 6: Skills and strategies 5, Reading 4 (One World: One Culture?)</p> <p>Week 7: Skills and strategies 6, Reading 5 (The Challenge of Diversity)</p> <p>Week 8: Midterm Presentations, Review</p> <p>Week 9: Skills and strategies 7, Reading 1 (When does Language Learning Begin?)</p> <p>Week 10: Skills and strategies 8, Reading 3 (Rules of Speaking)</p> <p>Week 11: Skills and strategies 9, Reading 5 (The Advantages of Multilingualism)</p> <p>Week 12: Skills and strategies 10, Reading 1 (Ecology, Overpopulation, and Economic Development)</p> <p>Week 13: VELC Test</p> <p>Week 14: Skills and strategies 11, Reading 4 (The Water Crisis)</p> <p>Week 15: Skills and strategies 12, Reading 5 (Managing Earth's Greenhouse)</p> <p>Week 16: Final exam, Reflection</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Preparation: Read the relevant textbook unit for the current week. Listen to downloadable sound files.

	Review: Review textbook unit content from prior weeks.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Making Connections Level 3 3rd edition, CAMBRIDGE, 978-1-108-66226-0
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will follow textbook activities. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	465
(2)区分番号	465
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	バード・セル フライアン ジョン (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1 Introduction to the Class</p> <p>Week 2 Reading 1: Preservation   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 3 Reading 1: Preservation   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 4 Reading 2: Design   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 5 Reading 2: Design   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8 (** Essay #1 Due)</p> <p>Week 6 Reading 4: Business   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 7 Reading 4: Business   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 8 Reading 5: Psychology   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 9 * * POSTER PRESENTATIONS and Feedback* *</p> <p>Week 10 Reading 5: Psychology   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 11 Reading 7: Health Sciences   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 12 Reading 7: Health Sciences   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8 (** Essay #2 Due)</p> <p>Week 13 *** VELC TEST ***</p> <p>Week 14 Reading 8: Collaboration   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 15 Reading 8: Collaboration   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 16 Test and Feedback</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Each week you will be required to complete a reading and exercises from the textbook using an online platform.</p> <p>There are 2 academic essays for this class that you will need to prepare and hand in.</p> <p>You will also be required to complete a poster presentation.</p> <p>You will also be expected to actively take part in the class activities (so it is important to complete the readings before class)</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	PRISM READING 4
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (Class activities) : 20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 30%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will actively read material from the textbook and learn how to discuss this in small groups. Students will also have to complete reading exercises online using material designed for Cambridge PRISM Reading textbook. This form of self-study an important part of the class. In addition, we will focus on connecting the materials in the textbook to the local world around us through writing activities and a poster presentation.
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に参加してください。</li> <li>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> </ol>
(26)オフィスアワー	Tuesdays 15:00 ~ 17:00 Thursdays 15:00 ~ 17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Email: <a href="mailto:brian@hirosaki-u.ac.jp">brian@hirosaki-u.ac.jp</a> Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	466
(2)区分番号	466
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ソモン ショシア (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Unit 1 Preservation (argument and details) Week 3: Unit 1 Preservation (argument and details), cont. Week 4: Unit 2 Education (inferences and outlines) Week 5: Unit 2 Education (inferences and outlines), cont. Week 6: Unit 3 Privacy (purpose and tone) Week 7: Unit 3 Privacy (purpose and tone), cont. Week 8: Progress Test & in-class activities Week 9: Unit 5 Psychology (graphic organizers and quotations) Week 10: Unit 5 Psychology (graphic organizers and quotations), cont. Week 11: Unit 7 Health Sciences (discourse organization) Week 12: Unit 7 Health Sciences (discourse organization), cont. Week 13: VELC exam (外部試験) Week 14: Class choice Week 15: Class choice, cont. Week 16: Final exam & in-class activities
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate. [復習] Review class notes
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Williams, Prism Reading 4 (Cambridge, 2018)
(21)参考文献	特にない
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.

(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:jsolomon@hirosaki-u.ac.jp">jsolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>



## 教養教育科目

(1)整理番号	467
(2)区分番号	467
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	バード・セル フライアン ジョン (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること</p> <p>○社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1 Introduction to the Class</p> <p>Week 2 Reading 1: Preservation   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 3 Reading 1: Preservation   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 4 Reading 2: Design   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 5 Reading 2: Design   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8 (** Essay #1 Due)</p> <p>Week 6 Reading 4: Business   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 7 Reading 4: Business   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 8 Reading 5: Psychology   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 9 * * POSTER PRESENTATIONS and Feedback* *</p> <p>Week 10 Reading 5: Psychology   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 11 Reading 7: Health Sciences   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 12 Reading 7: Health Sciences   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8 (** Essay #2 Due)</p> <p>Week 13 *** VELC TEST ***</p> <p>Week 14 Reading 8: Collaboration   HOMEWORK: Online READING: Exercise 1, 2 &amp; 3; KEY VOCABULARY Exercise 4 &amp; 5</p> <p>Week 15 Reading 8: Collaboration   HOMEWORK: Online LANGUAGE DEVELOPMENT Exercise 6, 7, &amp; 8</p> <p>Week 16 Test and Feedback</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Each week you will be required to complete a reading and exercises from the textbook using an online platform.</p> <p>There are 2 academic essays for this class that you will need to prepare and hand in.</p> <p>You will also be required to complete a poster presentation.</p> <p>You will also be expected to actively take part in the class activities (so it is important to complete the readings before class)</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	PRISM READING 4
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (Class activities) : 20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 30%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will actively read material from the textbook and learn how to discuss this in small groups. Students will also have to complete reading exercises online using material designed for Cambridge PRISM Reading textbook. This form of self-study an important part of the class. In addition, we will focus on connecting the materials in the textbook to the local world around us through writing activities and a poster presentation.
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に参加してください。</li> <li>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> </ol>
(26)オフィスアワー	Tuesdays 15:00 ~ 17:00 Thursdays 15:00 ~ 17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Email: <a href="mailto:brian@hirosaki-u.ac.jp">brian@hirosaki-u.ac.jp</a> Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	468
(2)区分番号	468
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ソモン ショシア (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能（リスニング、スピーキング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Unit 1 Preservation (argument and details) Week 3: Unit 1 Preservation (argument and details), cont. Week 4: Unit 2 Education (inferences and outlines) Week 5: Unit 2 Education (inferences and outlines), cont. Week 6: Unit 3 Privacy (purpose and tone) Week 7: Unit 3 Privacy (purpose and tone), cont. Week 8: Progress Test & in-class activities Week 9: Unit 5 Psychology (graphic organizers and quotations) Week 10: Unit 5 Psychology (graphic organizers and quotations), cont. Week 11: Unit 7 Health Sciences (discourse organization) Week 12: Unit 7 Health Sciences (discourse organization), cont. Week 13: VELC exam (外部試験) Week 14: Class choice Week 15: Class choice, cont. Week 16: Final exam & in-class activities
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate. [復習] Review class notes
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Williams, Prism Reading 4 (Cambridge, 2018)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.

(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:jsolomon@hirosaki-u.ac.jp">jsolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	469
(2)区分番号	469
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Reading (上級) (Advanced Reading)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること ○基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるようになること
(15)授業の概要	○中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation(シラバスの説明、『ALC NetAcademy2』について等) 第2回 リーディング 3レッスン ① 第3回 リーディング 3レッスン ② 第4回 リーディング 3レッスン ③ 第5回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 1 第6回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 2 第7回 Review & Midterm Exam 第8回 リーディング 3レッスン ④ 第9回 リーディング 3レッスン ⑤ 第10回 リーディング 3レッスン ⑥ 第11回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 3 第12回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 4 第13回 外部試験 第14回 リーディング 1レッスン + TOEIC® テスト演習 5 第15回 Review & Final Exam 第16回 Final Exam Feedback & Wrap-up  第1回に『ALC NetAcademy2』の診断テストを行い、自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降のリーディングレッスン(通常モード)は、診断テストの結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの中から好きなレッスンを選択して英語学習を行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用し

	て、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：『ALC NetAcademy2』アルク スーパースタンダードコース（通常モード）
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	470
(2)区分番号	470
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	木村 宣美 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Communicating in English  第2回 All kinds of People  第3回 Free time  第4回 People  第5回 Money 及び小テスト  第6回 Travel and tourism  第7回 Food and drink  第8回 Entertainment  第9回 Health  第10回 Self-improvement 及び小テスト  第11回 In the city  第12回 Customs  第13回 Famous people  第14回 Home, sweet home  第15回 Then and now ; The future 及び小テスト</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 使用するテキストは、16のユニット（各ユニットは4ページ構成）で構成されています。1回の授業で最低1ユニットは進みます。複数のユニットの予習をしてください。</p> <p>[復習] 学習内容の理解度を確認するために、小テストが3回行われます。小テストに向けて、復習をしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones 2008年 Let's Talk 1 Second Edition, Cambridge University Press
(21)参考文献	必要に応じて、適宜授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式(演習問題の解答及び解説)
(25)留意点・予備知識	授業内容を深く理解するために、予習及び復習等の課外学習が必要です。高等学校で活用した英語の参考書を読み直してみましよう。
(26)オフィスアワー	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hukumura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	471
(2)区分番号	471
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山本 秀樹 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>教科書のDVD映像を利用して問題を解いていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 Los Angeles: Introduction  第3回 Los Angeles: Documentary  第4回 Scotland: Introduction  第5回 Scotland: Documentary  第6回 Canada: Introduction  第7回 Canada  第8回 中間試験とReview Section I  第9回 New Zealand: Introduction  第10回 New Zealand  第11回 England: Introduction  第12回 England: Documentary  第13回 The Bahamas: Introduction  第14回 The Bahamas: Documentary  第15回 期末試験とReview Section II</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回、前回の授業の内容を復習し、次回の授業範囲について教科書にあらかじめ目を通しておき、指名された時にその場で考え込まずにすぐに答えられるようにしておいて下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	World Wide English on DVD Volume 1 – Revised Edition 成美堂
(21)参考文献	必要が生じれば、授業で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でランダムに指名します。
(25)留意点・予備知識	毎回必ず予習した上で授業に臨むことが重要です。
(26)オフィスアワー	金曜日 12:00から13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hideyama@hirosaki-u.ac.jp">hideyama@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	472
(2)区分番号	472
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	澤田 真一 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回：イントロダクション 第2回：Working Together 第3回：Unit 1A 第4回：Unit 1B 第5回：Unit 2A 第6回：Unit 2B 第7回：Unit 3A 第8回：Unit 3B 第9回：Unit 4A 第10回：Unit 4B 第11回：Unit 5A 第12回：Unit 5B 第13回：Unit 6A 第14回：Unit 6B 第15回：Unit 7A 第16回：期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストの予習を前提に、授業をすすめていきます。自己表現の幅を広げる為に、復習を欠かさず行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones, Let's Talk 1 second edition, Cambridge University Press
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20

	<p>%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式になります。
(25)留意点・予備知識	なぜ自分は外国語を勉強するのかという問いに自ら答えをみつけ、明確な目的意識をもって授業に参加してください。
(26)オフィスアワー	昼休み時間及び金曜日4コマ目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:ssawada@hirosaki-u.ac.jp">ssawada@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	473
(2)区分番号	473
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について）</p> <p>第2回 Unit 1 Communicating in English</p> <p>第3回 Unit 2 All Kinds of People</p> <p>第4回 Unit 3 Free Time</p> <p>第5回 Unit 4 People</p> <p>第6回 Unit 5 Money</p> <p>第7回 Unit 6 Travel and Tourism</p> <p>第8回 Mid-term Test, Unit 1～6のまとめ</p> <p>第9回 Unit 7 Food and Drink</p> <p>第10回 Unit 8 Entertainment</p> <p>第11回 Unit 9 Health</p> <p>第12回 Unit 10 Self-improvement</p> <p>第13回 Unit 11 In the City</p> <p>第14回 Unit 12 Customs</p> <p>第15回 Term-end Test, Unit 7～Unit 12のまとめ</p> <p>第16回 グループプレゼンテーションとディスカッション</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>ディスカッションの練習やプレゼンテーションの準備、助言などを受けに、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、必ず十分な準備をして授業に臨むこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Let' s Talk (second edition). Cambridge U. P. ISBN 978-0-521-69281-6.
(21)参考文献	授業の中で指定します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを通じて活発に発言することを求めます。スピーチ、プレゼンテーションも定期的に求められます。
(25)留意点・予備知識	授業に関する連絡はすべてMoodleのクラス・ポータルサイトを通じて行います。課題もこのサイトを通じて提出することになるので、定期的にチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	474
(2)区分番号	474
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	南 修平 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Getting ready</p> <p>第3回 Unit 1 A good friend</p> <p>第4回 Unit 1 Talk about your friends</p> <p>第5回 Ready for 1st presentation</p> <p>第6回 First presentation and review</p> <p>第7回 Unit 2 A Favorite Place</p> <p>第8回 Unit 2 Write an outline</p> <p>第9回 Ready for 2nd presentation</p> <p>第10回 Second presentation and review</p> <p>第11回 Unit 3 A prized possession</p> <p>第12回 Unit 3 Organize your speech</p> <p>第13回 Unit 4 A memorable experience</p> <p>第14回 Unit 4 Share your personal experience</p> <p>第15回 Ready for 3rd presentation</p> <p>第16回 Third presentation and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>テキストの予習・復習は必ず行いましょう。特に予習は次の講義でのアクティビティが必要になるため、毎回欠かさず準備しましょう。</p> <p>スピーキングのスキルアップのためには複数人での実践的なトレーニングが不可欠です。そのためには、講義外の時間にイングリッシュ・ラウンジを積極的に訪れ、留学生やスタッフとコミュニケーションをはかることが最適ですので、強く推奨します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Present Yourself Level 1 2nd Edition (Cambridge UP)
(21)参考文献	スキルアップに役に立つリソースについては 適宜講義内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修して いる学生については、外部試験の結果を除い た評価方法（期末試験等）により100点満点 で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式で進めます。ペアや小グループなど 様々な単位によるグループワークが中心にな ります。それらを通じてプレゼンテーショ ン力のアップを目指します。
(25)留意点・予備知識	教科書で提示されている課題に沿って講義内 で頻繁にグループワークを行います。そのた めの準備をしっかりと行い、グループワークを 積極的に行うことが求められます。 講義は1・2時限から始まるので、遅刻や欠席 に注意しましょう。遅刻2回で欠席1回になり ます。 講義内容や講義の進め方は受講生の状況など によって変更することがあります。
(26)オフィスアワー	火曜日9・10時限です。ただし、不在の場合も あるので、事前にアポイントメントをとるこ とをお勧めします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の講義にてお伝えします。
(28)その他	特になし。



## 教養教育科目

(1)整理番号	475
(2)区分番号	475
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	土屋 陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回冒頭でEnglish Hip Hopを用いた歌詞の聴き取りを行います。</li> <li>・ 毎回授業の最後に、その日の授業で疑問に思ったこと、その他感想などを記したレスポンスシートを提出してもらいます。</li> <li>・ 授業内容は予定と異なる可能性もあります。</li> </ul> <p>第1回オリエンテーション Music Dictationについて</p> <p>第2回Music 1 Unit 1 Orientation and getting to class</p> <p>第3回Music 1 Unit 2 In the classroom</p> <p>第4回Music 2 Unit 3 In the cafeteria</p> <p>第5回Music 2 Unit 4 On the way to school</p> <p>第6回Music 3 Unit 5 Getting to know each other</p> <p>第7回Music 3 Unit 6 Working part-time プレゼンテーションについて</p> <p>第8回Music 4 プレゼンテーション準備</p> <p>第9回中間プレゼンテーション、まとめ、ディスカッション</p> <p>第10回Music 4 Unit 7 Talking about your future</p> <p>第11回Music 5 Unit 8 A summer trip to London -Plans and departure</p> <p>第12回Music 5 Unit 9 A summer trip to London - Shopping with friends</p> <p>第13回Music 6 Unit 10 A summer trip to London -Eating out</p> <p>第14回Music 6 Unit 11 Introducing Japan to overseas friends - Food</p> <p>第15回Music Dictation Test, プレゼンター</p>

	シヨン準備 第16回期末プレゼンテーション
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Music Dictationで扱う音楽は授業外でも毎日聴くようにしてください。授業に出席する前に教科書の内容をしっかりと把握しておいてください。予習には1時間程度の時間を要してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Express Yourself in English: A Fresh Start to Your College Life. 八木克正、Richard Hodson、井上亜衣、Sebastian Fuller著 英宝社
(21)参考文献	適宜指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project:40% 4. Assignments/Self-study:20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを取り入れながら教科書に沿ってスピーキングの練習をします。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	476
(2)区分番号	476
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	笹森 圭子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 インTRODakション（シラバス、グループ作り、授業の進め方について）</p> <p>第2回 Unit 1 Communicating in English</p> <p>第3回 Unit 2 All Kinds of People</p> <p>第4回 Unit 3 Free Time</p> <p>第5回 Unit 4 People</p> <p>第6回 Unit 5 Money</p> <p>第7回 Unit 6 Travel and Tourism</p> <p>第8回 Unit 1～6のまとめ</p> <p>第9回 Unit 7 Food and Drink</p> <p>第10回 Unit 8 Entertainment</p> <p>第11回 Unit 9 Health</p> <p>第12回 Unit 10 Self-improvement</p> <p>第13回 Unit 11 In the City</p> <p>第14回 Unit 12 Customs</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>第16回 Review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	初回授業にて連絡します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones, Let's Talk 1 Second Edition (Cambridge University Press)
(21)参考文献	適宜授業内でお知らせします。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：30%</p> <p>3.</p>

	Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	学生を中心としたグループワークやペアワークを中心に、補足として演習や講義などを取り入れていきます。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	初回授業にて連絡します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kay*hirosaki-u.ac.jp(*を@に変更してください。)
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	477
(2)区分番号	477
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について）</p> <p>第2回 Unit 1 Communicating in English</p> <p>第3回 Unit 2 All Kinds of People</p> <p>第4回 Unit 3 Free Time</p> <p>第5回 Unit 4 People</p> <p>第6回 Unit 5 Money</p> <p>第7回 Unit 6 Travel and Tourism</p> <p>第8回 Mid-term Test, Unit 1～6のまとめ</p> <p>第9回 Unit 7 Food and Drink</p> <p>第10回 Unit 8 Entertainment</p> <p>第11回 Unit 9 Health</p> <p>第12回 Unit 10 Self-improvement</p> <p>第13回 Unit 11 In the City</p> <p>第14回 Unit 12 Customs</p> <p>第15回 Term-end Test, Unit 7～Unit 12のまとめ</p> <p>第16回 グループプレゼンテーションとディスカッション</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>ディスカッションの練習やプレゼンテーションの準備、助言などを受け、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、必ず十分な準備をして授業に臨むこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Let' s Talk (second edition). Cambridge U. P. ISBN 978-0-521-69281-6.
(21)参考文献	授業の中で指定します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを通じて活発に発言することを求めます。スピーチ、プレゼンテーションも定期的に求められます。
(25)留意点・予備知識	課題、試験など授業に関する連絡はすべてMoodleのクラス・ポータルサイトを通じて行います。課題もこのサイトを通じて提出することになるので、定期的にチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	478
(2)区分番号	478
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小野寺 進 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回How to use the textbook &amp; Unit 0 Looking ahead - course orientation</p> <p>第2回Unit 1 Orientation and getting to class</p> <p>第3回Unit 2 In the classroom</p> <p>第4回Unit 3 In the cafeteria</p> <p>第5回Unit 4 On the way to school</p> <p>第6回Unit 5 Getting to know each other</p> <p>第7回Unit 6 Working part-time</p> <p>第8回Unit 7 Talking about your future</p> <p>第9回Unit 8 A summer trip to London -Plans and departure</p> <p>第10回Unit 9 A summer trip to London - Shopping with friends</p> <p>第11回Unit 10 A summer trip to London -Eating out</p> <p>第12回Unit 11 Introducing Japan to overseas friends - Food</p> <p>第13回Unit 12 Introducing Japan to overseas friends - Culture and Customs</p> <p>第14回Unit 13 Introducing Japan to overseas friends - Visiting historic sites</p> <p>第15回Unit 14 Review</p> <p>第16回(1/30) 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に予習箇所を授業で指示します。また授業の終わりに次回までの復習点を指示いたします。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Express Yourself in English: A Fresh Start to Your College Life. 八木克正、Richard Hodson、井上亜衣、Sebastian Fuller著 英宝社
(21)参考文献	Not particular
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	スピーチ、プレゼンテーション、ペアワークなどによるアクティブ・ラーニング形式
(25)留意点・予備知識	授業に毎回出席することは義務となります。欠席は減点となりますので注意してください。またParticipationは出席点ではありません。授業でのパフォーマンスの評価となります。
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。
(28)その他	質問がある場合は授業中にお願いします。



## 教養教育科目

(1)整理番号	479
(2)区分番号	479
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	畑中 杏美 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Unit 0 Looking Ahead</p> <p>第2回 Unit 1 Orientation and getting to class</p> <p>第3回 Unit 2 In the classroom</p> <p>第4回 Unit 3 In the cafeteria</p> <p>第5回 Unit 4 On the way to school</p> <p>第6回 Unit 5 Getting to know each other</p> <p>第7回 Unit 6 Working Part-time</p> <p>第8回 中間試験およびUnit 0から6のまとめ</p> <p>第9回 Unit 7 Talking about your future</p> <p>第10回 Unit 8 A summer trip to London-Plans and Departure</p> <p>第11回 Unit 9 A summer trip to London-Shopping with friends</p> <p>第12回 Unit 10 A summer trip to London-Eating out</p> <p>第13回 Unit 11 Introducing Japan to overseas friends-Food</p> <p>第14回 Unit 12 Introducing Japan to overseas friends-Culture</p> <p>第15回 Unit 13 Introducing Japan to overseas friends-Visiting historic sites</p> <p>第16回 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、ユニットに関する小テストを行いますので必ず予習をしてきてください。復習箇所についても、授業時に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Express Yourself in English (英宝社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1回の授業で1ユニットを学習します。グループワークや短いプレゼンテーションを授業内で行ってまいります。
(25)留意点・予備知識	予習を前提とします。また、授業内のグループワーク等には積極的にのぞんでください。
(26)オフィスアワー	初回授業時にお伝えします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業時にお伝えします
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	480
(2)区分番号	480
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	土屋 陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回冒頭でEnglish Hip Hopを用いた歌詞の聴き取りを行います。</li> <li>・ 毎回授業の最後に、その日の授業で疑問に思ったこと、その他感想などを記したレスポンスシートを提出してもらいます。</li> <li>・ 授業内容な予定と異なる可能性もあります。</li> </ul> <p>第1回オリエンテーション Music Dictationについて</p> <p>第2回Music 1 Unit 1 Orientation and getting to class</p> <p>第3回Music 1 Unit 2 In the classroom</p> <p>第4回Music 2 Unit 3 In the cafeteria</p> <p>第5回Music 2 Unit 4 On the way to school</p> <p>第6回Music 3 Unit 5 Getting to know each other</p> <p>第7回Music 3 Unit 6 Working part-time プレゼンテーションについて</p> <p>第8回Music 4 プレゼンテーション準備</p> <p>第9回中間プレゼンテーション、まとめ、ディスカッション</p> <p>第10回Music 4 Unit 7 Talking about your future</p> <p>第11回Music 5 Unit 8 A summer trip to London -Plans and departure</p> <p>第12回Music 5 Unit 9 A summer trip to London - Shopping with friends</p> <p>第13回Music 6 Unit 10 A summer trip to London -Eating out</p> <p>第14回Music 6 Unit 11 Introducing Japan to overseas friends - Food</p> <p>第15回Music Dictation Test, プレゼンター</p>

	シヨン準備 第16回期末プレゼンテーション
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Music Dictationで扱う音楽は授業外でも毎日聴くようにしてください。授業に出席する前に教科書の内容をしっかりと把握しておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Express Yourself in English: A Fresh Start to Your College Life. 八木克正、Richard Hodson、井上亜衣、Sebastian Fuller著 英宝社
(21)参考文献	適宜指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project: 40% 4. Assignments/Self-study: 20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを取り入れながら教科書に沿ってスピーキングの練習をします。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水曜日 : 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	481
(2)区分番号	481
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	中村 裕昭 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle、グループ作り、授業の進め方について）</p> <p>第2回 Unit 1 Communicating in English</p> <p>第3回 Unit 2 All Kinds of People</p> <p>第4回 Unit 3 Free Time</p> <p>第5回 Unit 4 People</p> <p>第6回 Unit 5 Money</p> <p>第7回 Unit 6 Travel and Tourism</p> <p>第8回 Mid-term Test, Unit 1～6のまとめ</p> <p>第9回 Unit 7 Food and Drink</p> <p>第10回 Unit 8 Entertainment</p> <p>第11回 Unit 9 Health</p> <p>第12回 Unit 10 Self-improvement</p> <p>第13回 Unit 11 In the City</p> <p>第14回 Unit 12 Customs</p> <p>第15回 Term-end Test, Unit 7～Unit 12のまとめ</p> <p>第16回 グループプレゼンテーションとディスカッション</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>ディスカッションの練習やプレゼンテーションの準備、助言などを受けに、イングリッシュ・ラウンジに行ってください。また、毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、必ず十分な準備をして授業に臨むこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Let' s Talk (second edition). Cambridge U. P. ISBN 978-0-521-69281-6.
(21)参考文献	授業の中で指定します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20 ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを通じて活発に発言することを求めます。スピーチ、プレゼンテーションも定期的に求められます。
(25)留意点・予備知識	課題、試験など授業に関する連絡はすべてMoodleのクラス・ポータルサイトを通じて行います。課題もこのサイトを通じて提出することになるので、定期的にチェックすること。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジのスケジュールを見てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hiroaki@hirosaki-u.ac.jp">hiroaki@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	482
(2)区分番号	482
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (初級) (Speaking for Beginners)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス（音声の録音方法、各活動の評価基準の説明）・音読・シャドーイング</p> <p>第2回 independent task I（自分のことについて話す）</p> <p>第3回 independent task II（身近な話題について話す）</p> <p>第4回 independent task III（社会的な事項について意見を述べる）</p> <p>第5回 independent task IV（社会的な事項について自分の立場を定めて意見を述べる）</p> <p>第6回 independent task V（提示された問題の解決法を考えて述べる）</p> <p>第7回 中間試験・これまでの振り返り</p> <p>第8回 Integrated task I（物語文を読んで話す）</p> <p>第9回 Integrated task II（容易な説明文を読んで話す）</p> <p>第10回 Integrated task III（容易な説明文を聞いて話す）</p> <p>第11回 Integrated task IV（説明文を聞いて話す）</p> <p>第12回 Integrated task V（短いレクチャーを聞いて話す）</p> <p>第13回 総合演習（これまでに行った様々なタスクを行います）</p> <p>第14回 期末試験・身近な英会話I</p> <p>第15回 身近な英会話II</p> <p>第16回 期末試験フィードバック・振り返り</p>

	※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：Moodleに掲載した話題について事前に発表内容について考えておく 復習：授業中に録音した発話を書き起こし、文法や表現などで誤りのあった部分をまとめる
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 講師が毎週提示する課題をこなしてもらいます。課題はMoodleで掲示します。
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	指定された課題について全員一斉にPCに向かい音声を吹き込み、その内容(言語面を含めて)を自身で振り返りながら弱点を補強します。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 書き起こし活動やPeer reviewの活動は指定された期間内に必ず提出してください。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	483
(2)区分番号	483
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	内海 淳（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	テキストを基に英語でプレゼンテーションを組み立て実行します。  第1回 Orientation 第2回 Introducing yourself 1 第3回 Introducing yourself 2 第4回 Introducing yourself 3 第5回 Social networking 1 第6回 Social networking 2 第7回 Social networking 3 第8回 Daily news 1 第9回 Daily news 2 第10回 Daily news 3 第11回 Global topics 1 第12回 Global topics 2 第13回 Global topics 3 第14回 Global topics 4 第15回 Global topics 5
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	【予習】事前に指定されたユニットを読んでおきます。 【復習】事業で学んだことを整理し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Presentation Workshop ISBN 978-4-7647-3929-1

(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>グループワークによるプレゼンテーションおよび個人によるプレゼンテーションを行います。</p> <p>Moodleを使い、課題の提出・評価等を行い、Self-Portfolioを作り上げていきます。</p>
(25)留意点・予備知識	授業時間以外の予習・復習は必須です。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp</p> <p>※(at)は@に置き換えてください</p>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	484
(2)区分番号	484
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 剛 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の説明およびGetting Ready 第2回 Getting Ready スピーチ 第3回 Unit 1 A person to admire スピーチ用意 第4回 Unit 1 スピーチの基本構成 第5回 Unit 1 A person to admire スピーチ実演 第6回 Unit 2 A great vacation idea スピーチ準備 第7回 Unit 2 A great vacation idea スピーチ実演 第8回 Unit 3 Young people today スピーチ準備 第9回 Unit 3 Young people today スピーチ実演 第10回 Unit 4 Let me explain スピーチ準備 第11回 Unit 4 Let me explain スピーチ実演 第12回 Unit 5 In my opinion スピーチ準備 第13回 Unit 5 In my opinion スピーチ実演 第14回 Unit 6 In the news スピーチ準備 第15回 Unit 6 In the news スピーチ実演 第16回 期末試験  ※授業の進行状況により、シラバスと地齋の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定について、毎回以下のような予習と復習を行ってください。（予習、復習は最低でも各2時間以上行う必要があります） 予習 ・じゃれマガ <a href="http://catchawave.jp/jm/">http://catchawave.jp/jm/</a> に登録し、その週の内容を理解してくる（そこから毎回小テストを実施します） ・授業で扱ったモデルスピーチやテクニックを活用し、スピーチを用意する。 ・用意したスピーチを堂々と発表できるようになるまで練習してくる。 復習

	・自分のスピーチの動画を見て、ミスや誤りを修正、次のスピーチへの課題などレポートを書く。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『Present Yourself 2』 (Cambridge (ケンブリッジ))
(21)参考文献	授業中適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	・授業は基本的に全て英語で行います。ただし、文法・語法の解説、試験などについての説明は日本語で行います。 ・また、英語でペアでの話し合い、ディスカッションをする場面があります。 ・クラスの前で英語でスピーチをすることが主な授業の活動になります。 ・1時間目にスピーチやり方やコツを学び、その内容を生かして2時間目にひとり一人が実際にスピーチを行うという流れで授業が進みます。
(25)留意点・予備知識	・記録した動画を保存するため、授業専用のUSBメモリを用意してください8GB程度 ・授業は基本的に英語で行います。皆さんも教室に入ったら、日本語は使わない、積極的に英語を使うという姿勢で授業に参加してください。 ・指定のじゃれマガを読んだり、スピーチを組み立て練習をするなど、授業外でも英語を使うよう心がけてください。 ・上記評価方法にも書いてありますが、毎回の小テストとスピーチ、レポートが非常に大きな割合を占めています。無断欠席や遅刻は絶対にしないでください。
(26)オフィスアワー	月曜日：12：40～14：10 金曜日：12：40～14：10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	<a href="http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2823&amp;text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=">http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2823&amp;text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	485
(2)区分番号	485
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	横内 裕一郎（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（音声の録音方法、大学生の目指すべきスピーキング能力について講義）/Unit 1 Introducing Yourself</p> <p>第2回：Unit 2 The Global Peace Index</p> <p>第3回：Unit 3 Japan's Global Responsibility</p> <p>第4回：Unit 4 Social Networking</p> <p>第5回：Unit 5 UNESCO</p> <p>第6回：Unit 6 Improving Primary School Education</p> <p>第7回：Unit 8 The Daily News</p> <p>第8回：中間試験・振り返り</p> <p>第9回：期末課題（ミニリサーチ）説明・調査</p> <p>第10回：Unit 9 Japan's Low Birth Rate</p> <p>第11回：Unit 10 Nuclear Power</p> <p>第12回：Unit 11 The Internationalization of Japan's Universities</p> <p>第13回：Unit 12 Japan and the United Nations Security Council</p> <p>第14回：Unit 13 Artificial Intelligence</p> <p>第15回：期末課題（ミニリサーチ）準備・peer review</p> <p>第16回：期末試験・期末課題（ミニリサーチ）発表</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：毎回授業時に指示します。第8回以降は期末課題の準備をしてもらいます。</p> <p>復習：授業時に録音した自分の音声を書き起こし、次回に向けての改善点を考えてもらい</p>

	ます。または、クラスメイトの発話を聞き、それらを書き起こした上で助言をしてもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Smith, C., Tsubota, Y., Ishikawa, Y., & Dantsuji, M. (2012). Presentation workshop: Oral communication for academic purposes. Tokyo: Kinseido.
(21)参考文献	適宜授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	スピーキング活動では、全員一斉にPCに向かい音声を吹き込み、その内容(言語面を含めて)を受講生同士で講評し合う活動を行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 書き起こし活動やPeer reviewの活動は指定された期間内に必ず提出してください。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	486
(2)区分番号	486
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	ウォーターズ 雅代（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1 Getting to know you</p> <p>第2回 Unit 1 Getting to know you</p> <p>第3回 Unit 2 Making a good impression</p> <p>第4回 Unit 3 Food and cooking</p> <p>第5回 Unit 4 Weather</p> <p>第6回 Unit 5 Working for a living Class discussion</p> <p>第7回 Unit 6 Leisure time, Unit 7 Sports and games Class discussion</p> <p>第8回 Unit 8 Transportation and travel</p> <p>第9回 Review Quiz Unit 9 Vacation time</p> <p>第10回 Unit 10 Inventions and gadgets</p> <p>第11回 Unit 11 The environment</p> <p>第12回 Unit 12 News and current events</p> <p>第13回 Unit 13 City life Class discussion</p> <p>第14回 Unit 14 Entertainment and art Class discussion</p> <p>第15回 Unit 15 The past, Review Presentation</p> <p>第16回 Review Presentation まとめ</p> <p>* 授業の進行状況によりシラバスと実際の内容と異なる場合は、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	意味や発音、文法等の十分な予習（120分以上）をして授業に出てください。予習前提で授業が進みます。復習（120分以上）は授業の内容を再度確認し、練習問題で間違えた箇所があれば、答え合わせで得た正解を単

	語だけでなくフレーズまたはセンテンスで覚え、自信を持って英語の受け答えができるように努力することが重要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones 『Let' s Talk 2 Second Edition』 CAMBRIDGE
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個々での発表以外にペアワークやグループワークで行います。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯、スマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまってください。第1回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	487
(2)区分番号	487
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回イントロダクション（授業の進め方など）（The Three Messages in a Speech）</p> <p>第2回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Theory）</p> <p>第3回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Practice）</p> <p>第4回UNIT 2（Gestures）（Theory）</p> <p>第5回UNIT 2（Gestures）（Practice）</p> <p>第6回UNIT 3（Voice Inflection）（Theory）</p> <p>第7回UNIT 3（Voice Inflection）（Practice）</p> <p>第8回UNIT 4（Effective Visuals）</p> <p>第9回UNIT 5（Explaining Visuals）</p> <p>第10回UNIT 6（The Introduction）（Theory）</p> <p>第11回UNIT 6（The Introduction）（Practice）</p> <p>第12回UNIT 7（The Body）（Theory）</p> <p>第13回UNIT 7（The Body）（Practice）</p> <p>第14回UNIT 7（The Conclusion）（Theory）</p> <p>第15回UNIT 7（The Conclusion）（Practice）</p> <p>第16回期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about and make presentations on the textbook topics.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	488
(2)区分番号	488
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	高杉 純子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?</p> <p>第3回 Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?</p> <p>第4回 Unit 4 A Rewarding Pastime or a Waste of Time?</p> <p>第5回 Unit 6 Hopes and Fears around Casinos</p> <p>第6回 Unit 7 Should High Schoolers Work Part-Time?</p> <p>第7回 Preparation for the test (Unit 1-2, 4, 6-7)</p> <p>第8回 Mid-term Test, Review of the test</p> <p>第9回 Unit 8 The Pros and Cons of Globalization</p> <p>第10回 Unit 9 Humans or AI?</p> <p>第11回 Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?</p> <p>第12回 Unit 12 Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?</p> <p>第13回 Unit 13 Severe Punishment or Rehabilitation?</p> <p>第14回 Unit 14 Open Borders or Closed Societies?</p> <p>第15回 Preparation for the test (Unit 8-10, 12-14)</p> <p>第16回 Final Test</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutとダウンロードした音声を用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	植田一三・上田敏子・田岡千明・中坂あき子・栢本左智 『Take a Stance - Discussing Today's Controversial Issues 2』 CENGAGE Learning
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません(特別な事情がある場合を除く)。 2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。 3. 辞書を必ず持参してください(携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません)。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	489
(2)区分番号	489
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	須々田 友子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 orientation, ice breaking, self-introduction 第2回 テキスト(Unit3) group discussion 第3回 group discussion practice 第4回 テキスト(Unit4) panel discussion 第5回 panel discussion practice 第6回 テキスト(Unit8) workshop 第7回 workshop preparation 第8回 workshop practice 第9回 中間テスト、review 第10回 テキスト(Unit10) debate 第11回 debate preparation 第12回 debate practice 第13回 テキスト (Unit13) public speech 第14回 public speech practice 第15回 public speech practice 第16回 期末テスト、review
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習プリント、復習としてPresentationのまとめ、文法プリントあり
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Presentation Workshop（金星堂）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3.

	Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	解説、演習、発表など
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	490
(2)区分番号	490
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	片桐 早苗（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など）</p> <p>第2回 Unit 1 Audience Analysis</p> <p>第3回 Unit 2 The 3 by 3 Presentation Structure</p> <p>第4回 Unit 3 Small-Group Discussion</p> <p>第5回 Unit 5 Slide Show</p> <p>第6回 Lecture Preparation on Unit 4, 8, &amp; 9</p> <p>第7回 Various Forms of Presentation, Lecture by student group（パフォーマンスが評価されます）&amp; Reflection</p> <p>第8回 Unit 10 Debate</p> <p>第9回 Debate Preparation</p> <p>第10回 Debate（パフォーマンスが評価されます）&amp; Reflection</p> <p>第11回 Unit 13 Three Oral Presentation Structures</p> <p>第12回 Speech Structureについて</p> <p>第13回 Speech Draft Peer Review</p> <p>第14回 Final Presentation Preparation</p> <p>第15回 Final Presentation（パフォーマンスが評価されます）</p> <p>第16回 Final Examination &amp; Reflection</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して参加してください。学習時間2時間程度。</p> <p>[復習] 板書されたことなどを参考に、さまざまなプレゼンテーションの形式について理解</p>

	を確認し、どのように自分の専門分野で役立てられるか考えてみよう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Craig Smith他, Presentation Workshop: Oral Communication for Academic Purposes, 2012, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、和英辞書、インターネット、書籍、雑誌、新聞（発表準備のための資料として）など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection（振り返り）を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	491
(2)区分番号	491
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	荒田 弘美 ママス（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: People and Places Week2: The Mind Week3: Changing Planet Week4: Money vs. Wealth Week5: Survival Week6: Art Week7: Quiz1(1~6) and Free discussion Week8: Getting Around Week9: Review Week10: Danger Week11: Mysteries Week12: Learning Week13: TED TALKS Video Week14: Free discussion Week15: Presentation Week16: Quiz2(8~15) and review
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	復習：授業内で指示します。 予習：各unitのVocabulary A/Bをやっておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	WORLD ENGLISH 3 (second edition) TED TALK CENGAGE Learning社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20

	<p>%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	492
(2)区分番号	492
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	小笠原 淑子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回Orientation and Introduction  第2回Unit 1 Where is the PC room?  第3回Unit 2 What does term mean?  第4回Unit 4 I' m a member of the International Exchange Club.  第5回Unit 5 I' ve got a part-time job at the International Foods Market.  第6回Unit 8 When is the due date?  第7回Unit 9 May I take a bath every night?  第8回Special discussion program  第9回Unit 12 It looks like my GPA has improved.  第10回Unit 14 He got a job offer with a copy machine company.  第11回Unit 15 How do you make them?  第12回Unit 18 What is Christmas like in your country?  第13回Unit 17 What is your favorite dish at the cafeteria?  第14回Unit 24 I have set three goals for myself.  第15回 Presentations  第16回 Presentations, Feedback, Wrap-up  * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>学習するユニットの語彙学習と聞き取り練習を予習として完成させて来る。学習したユニットに関連するミニスピーチを次の授業の始めにするので、準備と練習をする。</p>

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Hiroko Nishikage 他、Campus English (センゲージラーニング株式会社)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワーク、グループワークを含む
(25)留意点・予備知識	・間違いを恐れずに、自分にとって最高のパフォーマンスを目指すこと。 ・休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。(クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。)
(26)オフィスアワー	決まった時間はありませんが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業初回でお知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	493
(2)区分番号	493
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヘランド ジョン ニコラス（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1: A Good Friend</p> <p>第3回 Unit 1, Continued</p> <p>第4回 Unit 1 Presentations</p> <p>第5回 Unit 2: A Favorite Place</p> <p>第6回 Unit 2, Continued</p> <p>第7回 Unit 2 Presentations</p> <p>第8回 Unit 3: A Prized Possession</p> <p>第9回 Unit 3, Continued.</p> <p>第10回 Unit 3 Presentations</p> <p>第11回 Unit 4: A Memorable Experience</p> <p>第12回 Unit 4, Continued</p> <p>第13回 Unit 4 Presentations</p> <p>第14回 Unit 5: I' ll Show You How</p> <p>第15回 Unit 5, Continued</p> <p>第16回 Unit 5 Presentations</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Steven Gershon 『Present Yourself 1: Experiences, Second Edition』 (Cambridge, 2015)

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：25%</p> <p>4. Assignments/Self-study：25%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	494
(2)区分番号	494
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	立田 夏子（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation（シラバスの説明、前期末外部試験について等）</p> <p>第2回 Unit 1 Architecture</p> <p>第3回 Unit 2 Psychology</p> <p>第4回 Unit 3 Behavioral Science</p> <p>第5回 Halloween</p> <p>第6回 Unit 4 Game Studies</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 Unit 5 Sociology</p> <p>第9回 Unit 6 Business</p> <p>第10回 Christmas</p> <p>第11回 Movie Discussion</p> <p>第12回 Unit 7 Environmental Studies</p> <p>第13回 Unit 8 Public Health</p> <p>第14回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第15回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：教科書の各UnitにあるUnit Questionに対して英語で答えられるように準備してください。</p> <p>復習：Speaking skillを理解し、それらを習得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。また、教科書の付属iQ Onlineの課題を第14回までに全問正解してください（Assignments）。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Margaret Brooks (2015) 『Q: Skills for Success Listening and Speaking Level 2, Second Edition Student Book with iQ Online』 Oxford University Press
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	495
(2)区分番号	495
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	横内 裕一郎（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（音声の録音方法、大学生の目指すべきスピーキング能力について講義）/Unit 1 Introducing Yourself</p> <p>第2回：Unit 2 The Global Peace Index</p> <p>第3回：Unit 3 Japan's Global Responsibility</p> <p>第4回：Unit 4 Social Networking</p> <p>第5回：Unit 5 UNESCO</p> <p>第6回：Unit 6 Improving Primary School Education</p> <p>第7回：Unit 8 The Daily News</p> <p>第8回：中間試験・振り返り</p> <p>第9回：期末課題（ミニリサーチ）説明・調査</p> <p>第10回：Unit 9 Japan's Low Birth Rate</p> <p>第11回：Unit 10 Nuclear Power</p> <p>第12回：Unit 11 The Internationalization of Japan's Universities</p> <p>第13回：Unit 12 Japan and the United Nations Security Council</p> <p>第14回：Unit 13 Artificial Intelligence</p> <p>第15回：期末課題（ミニリサーチ）準備・peer review</p> <p>第16回：期末試験・期末課題（ミニリサーチ）発表</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：毎回授業時に指示します。第8回以降は期末課題の準備をしてもらいます。</p> <p>復習：授業時に録音した自分の音声を書き起こし、次回に向けての改善点を考えてもらい</p>

	ます。または、クラスメイトの発話を聞き、それらを書き起こした上で助言をしてもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Smith, C., Tsubota, Y., Ishikawa, Y., & Dantsuji, M. (2012). Presentation workshop: Oral communication for academic purposes. Tokyo: Kinseido.
(21)参考文献	適宜授業内で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	スピーキング活動では、全員一斉にPCに向かい音声を吹き込み、その内容(言語面を含めて)を受講生同士で講評し合う活動を行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 書き起こし活動やPeer reviewの活動は指定された期間内に必ず提出してください。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	496
(2)区分番号	496
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Chapter 1 How to Avoid Silence (1)</p> <p>第3回 Chapter 1 How to Avoid Silence (2) およびカタカナ語グループワーク (1)</p> <p>第4回 Chapter 1 補足 およびChapter 2 How to Show Interest in Others' Topics (1)</p> <p>第5回 Chapter 2 How to Show Interest in Others' Topics (2)</p> <p>第6回 Chapter 2 補足 およびカタカナ語グループワーク (2)</p> <p>第7回 小テスト(1) およびChapter 3 How to Give and Accept Compliments (1)</p> <p>第8回 Chapter 3 How to Give and Accept Compliments (2)</p> <p>第9回 カタカナ語グループ発表(前半) およびChapter 3 (3)</p> <p>第10回 カタカナ語グループ発表(後半) およびChapter 4 How to Make Suggestions (1)</p> <p>第11回 Chapter 4 How to Make Suggestions (2)</p> <p>第12回 小テスト (2) およびChapter 4 How to Make Suggestions (3)</p> <p>第13回 Chapter 11 How to Give Information (1)</p> <p>第14回 Chapter 11 How to Give Information (2)</p> <p>第15回 期末試験と振り返り</p> <p>第16回 トピックについてのペアワークおよ</p>

	<p>びInterview</p> <p>Chapter 4のあとはChapter 11をやります。テキストの他にカタカナ語のグループワークがあります。進み具合により、上記の予定は多少ずれることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>会話文の和訳や設問など、予習できるところの予習は毎回必須です。設問や言い換えなどのスピーキング練習部分は毎回全員にあたります。授業のあとは、言えなかったところや、わからない単語や熟語がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題も出ます。各章の最後のAdvanced Applications (発展編)のところは自分で必ずやっておいてください。授業時にうまく話せないと思ったら、まずは言いたいことをノートに書くことから始めてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	How to Avoid Silence 『沈黙なしの英語コミュニケーション』、小林純子、Brian Bond、三修社
(21)参考文献	英文法の参考書（高校時代に使っていたものでもよい）。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>主にペアワークでスピーキングの練習をします。グループワークもありますのでいずれも積極的に取り組んでください。設問やスピーキングの練習は毎回全員にあたります。期末に1人ずつ短いインタビュー（口頭でのテスト）があります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>出席が3分の2ない場合や、授業中に授業と関係のないことをしていた場合は、評価の対象とはなりませんので注意してください。授業を受ける姿勢も評価されます。原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。詳しくは最初の時間に説明します。スピーキングはとにかくしゃべろうとする姿勢が大事です。間違いは気にしないでまずは声を出してみましよう！</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	497
(2)区分番号	497
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	ウォーターズ 雅代（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1 Getting to know you</p> <p>第2回 Unit 1 Getting to know you</p> <p>第3回 Unit 2 Making a good impression</p> <p>第4回 Unit 3 Food and cooking</p> <p>第5回 Unit 4 Weather</p> <p>第6回 Unit 5 Working for a living Class discussion</p> <p>第7回 Unit 6 Leisure time, Unit 7 Sports and games Class discussion</p> <p>第8回 Unit 8 Transportation and travel</p> <p>第9回 Review Quiz Unit 9 Vacation time</p> <p>第10回 Unit 10 Inventions and gadgets</p> <p>第11回 Unit 11 The environment</p> <p>第12回 Unit 12 News and current events</p> <p>第13回 Unit 13 City life Class discussion</p> <p>第14回 Unit 14 Entertainment and art Class discussion</p> <p>第15回 Unit 15 The past, Review Presentation</p> <p>第16回 Review Presentation まとめ</p> <p>* 授業の進行状況によりシラバスと実際の内容と異なる場合は、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	意味や発音、文法等の十分な予習（120分以上）をして授業に出てください。予習前提で授業が進みます。復習（120分以上）は授業の内容を再度確認し、練習問題で間違えた箇所があれば、答え合わせで得た正解を単

	語だけでなくフレーズまたはセンテンスで覚え、自信を持って英語の受け答えができるように努力することが重要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones 『Let' s Talk 2 Second Edition』 CAMBRIDGE
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個々での発表以外にペアワークやグループワークで行います。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯、スマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまって下さい。第1回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	498
(2)区分番号	498
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	フォーサイス エドワード（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回： イントロダクション（授業の進め方など）</p> <p>第2回： Lesson 1: Knowing me, Knowing You</p> <p>第3回： Lesson 2: My Hometown</p> <p>第4回： Lesson 3: Japanese Food</p> <p>第5回： Lesson 4: Mind your Manners!</p> <p>第6回： Lesson 5: Explaining Japanese Things</p> <p>第7回： Lesson 6: The Japanese Language</p> <p>第8回： Lesson 1-6 Review and Discussion</p> <p>第9回： Lesson 7: Visiting Temples and Shrines</p> <p>第10回： Lesson 8: Traditional Japanese House</p> <p>第11回： Lesson 9: Special Days and Events</p> <p>第12回： Lesson 10: School and College Life</p> <p>第13回： Lesson 11: Famous Japanese People</p> <p>第14回： Lesson 12: Japanese Movies &amp; TV</p> <p>第15回： Review and Final Exam</p> <p>第16回： Final Exam Feedback and Intercultural Discussions</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。

	復習：授業の内容を十分に復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	This is Japan (ISBN: 9784777363834)
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	日本文化的なトピックスを学びながら英語のスピーキングスキルを向上します。授業中で学生は自分のスマートフォンを使うこととなります。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」とな</li> <li>・遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。</li> <li>遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> <li>・毎回の授業参加と十分な予習が必要です。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	forsythe@hirogaku-u.ac.jp
(28)その他	授業中スマートフォンやタブレットパソコンを使うこととなります。持っていない学生は1回目の授業で先生に教えてください。



## 教養教育科目

(1)整理番号	499
(2)区分番号	499
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回イントロダクション（授業の進め方など）（The Three Messages in a Speech）</p> <p>第2回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Theory）</p> <p>第3回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Practice）</p> <p>第4回UNIT 2（Gestures）（Theory）</p> <p>第5回UNIT 2（Gestures）（Practice）</p> <p>第6回UNIT 3（Voice Inflection）（Theory）</p> <p>第7回UNIT 3（Voice Inflection）（Practice）</p> <p>第8回UNIT 4（Effective Visuals）</p> <p>第9回UNIT 5（Explaining Visuals）</p> <p>第10回UNIT 6（The Introduction）（Theory）</p> <p>第11回UNIT 6（The Introduction）（Practice）</p> <p>第12回UNIT 7（The Body）（Theory）</p> <p>第13回UNIT 7（The Body）（Practice）</p> <p>第14回UNIT 7（The Conclusion）（Theory）</p> <p>第15回UNIT 7（The Conclusion）（Practice）</p> <p>第16回期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about and make presentations on the textbook topics.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	500
(2)区分番号	500
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	須々田 友子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 orientation, ice breaking, self-introduction 第2回 テキスト(Unit3) group discussion 第3回 group discussion practice 第4回 テキスト(Unit4) panel discussion 第5回 panel discussion practice 第6回 テキスト(Unit8) workshop 第7回 workshop preparation 第8回 workshop practice 第9回 中間テスト、review 第10回 テキスト(Unit10) debate 第11回 debate preparation 第12回 debate practice 第13回 テキスト (Unit13) public speech 第14回 public speech practice 第15回 public speech practice 第16回 期末テスト、review
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習プリント、復習としてPresentationのまとめ、文法プリントあり
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Presentation Workshop（金星堂）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3.

	Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	解説、演習、発表など
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	501
(2)区分番号	501
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能(リスニング、リーディング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Unit 1 Audience Analysis</p> <p>第3回 Unit 2 The 3 by 3 Presentation Structure</p> <p>第4回 Unit 3 Small-Group Discussion</p> <p>第5回 Unit 5 Slide Show</p> <p>第6回 Lecture Preparation on Unit 4, 8, &amp; 9</p> <p>第7回 Various Forms of Presentation, Lecture by student group(パフォーマンスが評価されます)&amp; Reflection</p> <p>第8回 Unit 10 Debate</p> <p>第9回 Debate Preparation</p> <p>第10回 Debate(パフォーマンスが評価されます)&amp; Reflection</p> <p>第11回 Unit 13 Three Oral Presentation Structures</p> <p>第12回 Speech Structureについて</p> <p>第13回 Speech Draft Peer Review</p> <p>第14回 Final Presentation Preparation</p> <p>第15回 Final Presentation(パフォーマンスが評価されます)</p> <p>第16回 Final Examination &amp; Reflection</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して参加してください。学習時間2時間程度。</p> <p>[復習] 板書されたことなどを参考に、さまざまなプレゼンテーションの形式について理解</p>

	を確認し、どのように自分の専門分野で役立てられるか考えてみよう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Craig Smith他, Presentation Workshop: Oral Communication for Academic Purposes, 2012, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、和英辞書、インターネット、書籍、雑誌、新聞（発表準備のための資料として）など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection（振り返り）を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	502
(2)区分番号	502
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 マクナス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: People and Places</p> <p>Week2: The Mind</p> <p>Week3: Changing Planet</p> <p>Week4: Money vs. Wealth</p> <p>Week5: Survival</p> <p>Week6: Art</p> <p>Week7: Quiz1(1~6) and Free discussion</p> <p>Week8: Getting Around</p> <p>Week9: Review</p> <p>Week10: Danger</p> <p>Week11: Mysteries</p> <p>Week12: Learning</p> <p>Week13: TED TALKS Video</p> <p>Week14: Free discussion</p> <p>Week15: Presentation</p> <p>Week16: Quiz2(8~15) and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：各unitのVocabulary A/Bをやっておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	WORLD ENGLISH 3 (second edition) TED TALK CENGAGE Learning社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20</p>

	<p>%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	503
(2)区分番号	503
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	佐々木 志織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. Knowing Me, Knowing You 2. My Hometown 3. Japanese Food 4. Mind Your Manners 5. Explaining Japanese Things 6. The Japanese Language 7. Visiting Temples and Shrines 8. Mid-Term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. The Traditional Japanese House 10. Special Days and Events 11. School and College Life 12. Famous Japanese People 13. Japanese Movies and TV 14. Review 1 15. Review 2 16. Final Examination
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習、復習については、毎授業時に指定する。 テキストの下読みをしてくることは必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Simon Capper 著 THIS IS JAPAN—Your Culture, Your Life MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	504
(2)区分番号	504
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	ペラント ション ニコラス（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1: A Good Friend</p> <p>第3回 Unit 1, Continued</p> <p>第4回 Unit 1 Presentations</p> <p>第5回 Unit 2: A Favorite Place</p> <p>第6回 Unit 2, Continued</p> <p>第7回 Unit 2 Presentations</p> <p>第8回 Unit 3: A Prized Possession</p> <p>第9回 Unit 3, Continued.</p> <p>第10回 Unit 3 Presentations</p> <p>第11回 Unit 4: A Memorable Experience</p> <p>第12回 Unit 4, Continued</p> <p>第13回 Unit 4 Presentations</p> <p>第14回 Unit 5: I' ll Show You How</p> <p>第15回 Unit 5, Continued</p> <p>第16回 Unit 5 Presentations</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Steven Gershon 『Present Yourself 1: Experiences, Second Edition』 (Cambridge, 2015)

(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：25%</p> <p>4. Assignments/Self-study：25%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	505
(2)区分番号	505
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	カワダ ハナ ジョイ（国際連携本部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1: Introduction</p> <p>2: This is Japan - your culture yourlife Unit One</p> <p>3: This is Japan - your culture yourlife Unit Two</p> <p>4: This is Japan - your culture yourlife Unit Three</p> <p>5: This is Japan - your culture yourlife Unit Four</p> <p>6: This is Japan - your culture yourlife Unit Five</p> <p>7: This is Japan - your culture yourlife - Review of Units one to five</p> <p>8: This is Japan - your culture yourlife Unit Seven</p> <p>9: This is Japan - your culture yourlife Unit Eight</p> <p>10: This is Japan - your culture yourlife Unit Nine</p> <p>11: This is Japan - your culture yourlife - Review of units seven to nine</p> <p>12: This is Japan - your culture yourlife Unit Ten</p> <p>13: This is Japan - your culture yourlife Unit Eleven</p> <p>14: This is Japan - your culture yourlife Unit Twelve</p> <p>15: Review of all units studied and submission of final project</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	

	Preparation: Students are required to prepare for the activities of each chapter covered in class. Review: They are expected to make use of the skills they acquire to complete their project.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	This is Japan: your culture, your life ISBN978-4-7773-6383-4
(21)参考文献	This is Japan: your culture, your life ISBN978-4-7773-6383-4
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 40% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will have a strong emphasis on student participation.
(25)留意点・予備知識	Students will undertake a project that involves interaction with International students.
(26)オフィスアワー	Wed 5・6 By appointment
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hannah@hirosaki-u.ac.jp">hannah@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません

## 教養教育科目

(1)整理番号	506
(2)区分番号	506
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	立田 夏子（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation（シラバスの説明、前期末外部試験について等）</p> <p>第2回 Unit 1 Architecture</p> <p>第3回 Unit 2 Psychology</p> <p>第4回 Unit 3 Behavioral Science</p> <p>第5回 Halloween</p> <p>第6回 Unit 4 Game Studies</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 Unit 5 Sociology</p> <p>第9回 Unit 6 Business</p> <p>第10回 Christmas</p> <p>第11回 Movie Discussion</p> <p>第12回 Unit 7 Environmental Studies</p> <p>第13回 Unit 8 Public Health</p> <p>第14回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第15回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：教科書の各UnitにあるUnit Questionに対して英語で答えられるように準備してください。</p> <p>復習：Speaking skillを理解し、それらを習得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。また、教科書の付属iQ Onlineの課題を第14回までに全問正解してください（Assignments）。</p> <p>自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Margaret Brooks (2015) 『Q: Skills for Success Listening and Speaking Level 2, Second Edition Student Book with iQ Online』 Oxford University Press
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	507
(2)区分番号	507
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	野呂 佐枝子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Chapter 1 How to Avoid Silence (1)</p> <p>第3回 Chapter 1 How to Avoid Silence (2) およびカタカナ語グループワーク (1)</p> <p>第4回 Chapter 1 補足 およびChapter 2 How to Show Interest in Others' Topics (1)</p> <p>第5回 Chapter 2 How to Show Interest in Others' Topics (2)</p> <p>第6回 Chapter 2 補足 およびカタカナ語グループワーク (2)</p> <p>第7回 小テスト(1) およびChapter 3 How to Give and Accept Compliments (1)</p> <p>第8回 Chapter 3 How to Give and Accept Compliments (2)</p> <p>第9回 カタカナ語グループ発表(前半) およびChapter 3 (3)</p> <p>第10回 カタカナ語グループ発表(後半) およびChapter 4 How to Make Suggestions (1)</p> <p>第11回 Chapter 4 How to Make Suggestions (2)</p> <p>第12回 小テスト (2) およびChapter 4 How to Make Suggestions (3)</p> <p>第13回 Chapter 11 How to Give Information (1)</p> <p>第14回 Chapter 11 How to Give Information (2)</p> <p>第15回 期末試験と振り返り</p> <p>第16回 トピックについてのペアワークおよ</p>

	<p>びInterview</p> <p>Chapter 4のあとはChapter 11をやります。テキストの他にカタカナ語のグループワークがあります。進み具合により、上記の予定は多少ずれることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>会話文の和訳や設問など、予習できるところの予習は毎回必須です。設問や言い換えなどのスピーキング練習部分は毎回全員にあたります。授業のあとは、言えなかったところや、わからない単語や熟語がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題も出ます。各章の最後のAdvanced Applications (発展編)のところは自分で必ずやっておいてください。授業時にうまく話せないと思ったら、まずは言いたいことをノートに書くことから始めてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	How to Avoid Silence 『沈黙なしの英語コミュニケーション』、小林純子、Brian Bond、三修社
(21)参考文献	英文法の参考書（高校時代に使っていたものでもよい）。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>主にペアワークでスピーキングの練習をします。グループワークもありますのでいずれも積極的に取り組んでください。設問やスピーキングの練習は毎回全員にあたります。期末に1人ずつ短いインタビュー（口頭でのテスト）があります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>出席が3分の2ない場合や、授業中に授業と関係のないことをしていた場合は、評価の対象とはなりませんので注意してください。授業を受ける姿勢も評価されます。原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止します。詳しくは最初の時間に説明します。スピーキングはとにかくしゃべろうとする姿勢が大事です。間違いは気にしないでまずは声を出してみましよう！</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	508
(2)区分番号	508
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	ウォーターズ 雅代（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1 Getting to know you</p> <p>第2回 Unit 1 Getting to know you</p> <p>第3回 Unit 2 Making a good impression</p> <p>第4回 Unit 3 Food and cooking</p> <p>第5回 Unit 4 Weather</p> <p>第6回 Unit 5 Working for a living Class discussion</p> <p>第7回 Unit 6 Leisure time, Unit 7 Sports and games Class discussion</p> <p>第8回 Unit 8 Transportation and travel</p> <p>第9回 Review Quiz Unit 9 Vacation time</p> <p>第10回 Unit 10 Inventions and gadgets</p> <p>第11回 Unit 11 The environment</p> <p>第12回 Unit 12 News and current events</p> <p>第13回 Unit 13 City life Class discussion</p> <p>第14回 Unit 14 Entertainment and art Class discussion</p> <p>第15回 Unit 15 The past, Review Presentation</p> <p>第16回 Review Presentation まとめ</p> <p>* 授業の進行状況によりシラバスと実際の内容と異なる場合は、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	意味や発音、文法等の十分な予習（120分以上）をして授業に出てください。予習前提で授業が進みます。復習（120分以上）は授業の内容を再度確認し、練習問題で間違えた箇所があれば、答え合わせで得た正解を単

	語だけでなくフレーズまたはセンテンスで覚え、自信を持って英語の受け答えができるように努力することが重要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Leo Jones 『Let' s Talk 2 Second Edition』 CAMBRIDGE
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個々での発表以外にペアワークやグループワークで行います。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯、スマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまって下さい。第1回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	509
(2)区分番号	509
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ヒューゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回イントロダクション（授業の進め方など）（The Three Messages in a Speech）</p> <p>第2回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Theory）</p> <p>第3回UNIT 1（Posture and Eye Contact）（Practice）</p> <p>第4回UNIT 2（Gestures）（Theory）</p> <p>第5回UNIT 2（Gestures）（Practice）</p> <p>第6回UNIT 3（Voice Inflection）（Theory）</p> <p>第7回UNIT 3（Voice Inflection）（Practice）</p> <p>第8回UNIT 4（Effective Visuals）</p> <p>第9回UNIT 5（Explaining Visuals）</p> <p>第10回UNIT 6（The Introduction）（Theory）</p> <p>第11回UNIT 6（The Introduction）（Practice）</p> <p>第12回UNIT 7（The Body）（Theory）</p> <p>第13回UNIT 7（The Body）（Practice）</p> <p>第14回UNIT 7（The Conclusion）（Theory）</p> <p>第15回UNIT 7（The Conclusion）（Practice）</p> <p>第16回期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students should prepare homework assignments before coming to class and practice speaking the topic assigned. Homework will focus on preparing students to speak about and make presentations on the textbook topics.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でディスカッションなどを交えたりします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	510
(2)区分番号	510
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	高杉 純子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?</p> <p>第3回 Unit 2 Women's Protection or Gender Equality?</p> <p>第4回 Unit 4 A Rewarding Pastime or a Waste of Time?</p> <p>第5回 Unit 6 Hopes and Fears around Casinos</p> <p>第6回 Unit 7 Should High Schoolers Work Part-Time?</p> <p>第7回 Preparation for the test (Unit 1-2, 4, 6-7)</p> <p>第8回 Mid-term Test, Review of the test</p> <p>第9回 Unit 8 The Pros and Cons of Globalization</p> <p>第10回 Unit 9 Humans or AI?</p> <p>第11回 Unit 10 A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?</p> <p>第12回 Unit 12 Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?</p> <p>第13回 Unit 13 Severe Punishment or Rehabilitation?</p> <p>第14回 Unit 14 Open Borders or Closed Societies?</p> <p>第15回 Preparation for the test (Unit 8-10, 12-14)</p> <p>第16回 Final Test</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で配布するhandoutとダウンロードした音声を用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	植田一三・上田敏子・田岡千明・中坂あき子・栢本左智 『Take a Stance - Discussing Today's Controversial Issues 2』 CENGAGE Learning
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません(特別な事情がある場合を除く)。 2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。 3. 辞書を必ず持参してください(携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません)。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	511
(2)区分番号	511
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	須々田 友子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 orientation, ice breaking, self-introduction</p> <p>第2回 テキスト(Unit3) group discussion</p> <p>第3回 group discussion practice</p> <p>第4回 テキスト(Unit4) panel discussion</p> <p>第5回 panel discussion practice</p> <p>第6回 テキスト(Unit8) workshop</p> <p>第7回 workshop preparation</p> <p>第8回 workshop practice</p> <p>第9回 中間テスト、review</p> <p>第10回 テキスト(Unit10) debate</p> <p>第11回 debate preparation</p> <p>第12回 debate practice</p> <p>第13回 テキスト (Unit13) public speech</p> <p>第14回 public speech practice</p> <p>第15回 public speech practice</p> <p>第16回 期末テスト、review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習プリント、復習としてPresentationのまとめ、文法プリントあり
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Presentation Workshop (金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3.</p>

	Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	解説、演習、発表など
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	512
(2)区分番号	512
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	片桐 早苗（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション（授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など） 第2回 Unit 1 Audience Analysis 第3回 Unit 2 The 3 by 3 Presentation Structure 第4回 Unit 3 Small-Group Discussion 第5回 Unit 5 Slide Show 第6回 Lecture Preparation on Unit 4, 8, & 9 第7回 Various Forms of Presentation, Lecture by student group（パフォーマンスが評価されます）& Reflection 第8回 Unit 10 Debate 第9回 Debate Preparation 第10回 Debate（パフォーマンスが評価されます）& Reflection 第11回 Unit 13 Three Oral Presentation Structures 第12回 Speech Structureについて 第13回 Speech Draft Peer Review 第14回 Final Presentation Preparation 第15回 Final Presentation（パフォーマンスが評価されます） 第16回 Final Examination & Reflection
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	[予習] 各時間で学習が予定されているUnitについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して参加してください。学習時間2時間程度。 [復習] 板書されたことなどを参考に、さまざまなプレゼンテーションの形式について理解

	を確認し、どのように自分の専門分野で役立てられるか考えてみよう。学習時間2時間程度。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Craig Smith他, Presentation Workshop: Oral Communication for Academic Purposes, 2012, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、和英辞書、インターネット、書籍、雑誌、新聞（発表準備のための資料として）など
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、もしくは個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection（振り返り）を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	513
(2)区分番号	513
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (中級) (Intermediate Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: People and Places</p> <p>Week2: The Mind</p> <p>Week3: Changing Planet</p> <p>Week4: Money vs. Wealth</p> <p>Week5: Survival</p> <p>Week6: Art</p> <p>Week7: Quiz1(1~6) and Free discussion</p> <p>Week8: Getting Around</p> <p>Week9: Review</p> <p>Week10: Danger</p> <p>Week11: Mysteries</p> <p>Week12: Learning</p> <p>Week13: TED TALKS Video</p> <p>Week14: Free discussion</p> <p>Week15: Presentation</p> <p>Week16: Quiz2(8~15) and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：各unitのVocabulary A/Bをやっておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	WORLD ENGLISH 3 (second edition) TED TALK CENGAGE Learning社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20</p>

	<p>%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mcharata@yahoo.co.jp">mcharata@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	513
(2)区分番号	513
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	荒田 弘美 ママス（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week1: People and Places Week2: The Mind Week3: Changing Planet Week4: Money vs. Wealth Week5: Survival Week6: Art Week7: Quiz1(1~6) and Free discussion Week8: Getting Around Week9: Review Week10: Danger Week11: Mysteries Week12: Learning Week13: TED TALKS Video Week14: Free discussion Week15: Presentation Week16: Quiz2(8~15) and review
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	復習：授業の進行状況により課題を提出してもらうことがあります。 予習：各unitのVocabulary A/Bをやっておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	WORLD ENGLISH 3 (second edition) TED TALK CENGAGE Learning社
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 %</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20 %</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	514
(2)区分番号	514
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	佐々木 志織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	1. Knowing Me, Knowing You 2. My Hometown 3. Japanese Food 4. Mind Your Manners 5. Explaining Japanese Things 6. The Japanese Language 7. Visiting Temples and Shrines 8. Mid-Term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習 9. The Traditional Japanese House 10. Special Days and Events 11. School and College Life 12. Famous Japanese People 13. Japanese Movies and TV 14. Review 1 15. Review 2 16. Final Examination
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習、復習については、毎授業時に指定する。 テキストの下読みをしていくことは必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Simon Capper 著 THIS IS JAPAN—Your Culture, Your Life MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	515
(2)区分番号	515
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（中級）（Intermediate Speaking）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	横内 裕一郎（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス（音声の録音方法、各活動の評価基準の説明）・音読・シャドーイング</p> <p>第2回 independent task I（自分のことについて話す）</p> <p>第3回 independent task II（身近な話題について話す）</p> <p>第4回 independent task III（社会的な事項について意見を述べる）</p> <p>第5回 independent task IV（社会的な事項について自分の立場を定めて意見を述べる）</p> <p>第6回 independent task V（提示された問題の解決法を考えて述べる）</p> <p>第7回 中間試験・これまでの振り返り</p> <p>第8回 Integrated task I（物語文を読んで話す）</p> <p>第9回 Integrated task II（容易な説明文を読んで話す）</p> <p>第10回 Integrated task III（容易な説明文を聞いて話す）</p> <p>第11回 Integrated task IV（説明文を聞いて話す）</p> <p>第12回 Integrated task V（短いレクチャーを聞いて話す）</p> <p>第13回 総合演習（これまでに行った様々なタスクを行います）</p> <p>第14回 期末試験・身近な英会話I</p> <p>第15回 身近な英会話II</p> <p>第16回 期末試験フィードバック・振り返り</p>

	※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：Moodleに掲載した話題について事前に発表内容について考えておく 復習：授業中に録音した発話を書き起こし、文法や表現などで誤りのあった部分をまとめる
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 講師が毎週提示する課題をこなしてもらいます。課題はMoodleで掲示します。
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	指定された課題について全員一斉にPCに向かい音声を吹き込み、その内容(言語面を含めて)を自身で振り返りながら弱点を補強します。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 書き起こし活動やPeer reviewの活動は指定された期間内に必ず提出してください。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	516
(2)区分番号	516
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (上級) (Advanced Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ラッシュ アンソニー スコット (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>The course will cover the contents of the textbook.</p> <p>Week 1 Unit 1</p> <p>Week 2 Unit 2</p> <p>Week 3 Unit 3</p> <p>Week 4 Unit 4</p> <p>Week 5 Unit 5</p> <p>Week 6 Review of Units 1-5 with Speaking Tasks</p> <p>Week 7 Unit 6</p> <p>Week 8 Unit 7</p> <p>Week 9 Unit 8</p> <p>Week 10 Unit 9</p> <p>Week 11 Unit 10</p> <p>Week 12 Unit 11</p> <p>Week 13 Unit 12</p> <p>Week 14 Review of Units 6-12 with Speaking Tasks</p> <p>Week 15 Review of Textbook with Preparation for Final Speaking Tasks</p> <p>Week 16 Final Speaking Tasks</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students will be expected to prepare for class activities and practice for speaking tasks outside of class.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Communication Upgrade: Extended Reading Aloud, Anthony Rausch, DTP Publishing

(21)参考文献	None
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Use of textbook based on Extended Reading Aloud followed by speaking practice, speaking tasks, and speaking expansion.
(25)留意点・予備知識	None
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:asrausch@hirosaki-u.ac.jp">asrausch@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	None

## 教養教育科目

(1)整理番号	517
(2)区分番号	517
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（上級）（Advanced Speaking）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員（所属）	ソモン ショシア（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Unit 1 Globalization Week 3: Unit 1 Globalization, cont. Week 4: Unit 2 Education Week 5: Unit 2 Education, cont. Week 6: Unit 3 Medicine Week 7: Unit 3 Medicine, cont. Week 8: Midterm Projects & in-class activities Week 9: Unit 6 Environment Week 10: Unit 6 Environment, cont. Week 11: Unit 7 Architecture Week 12: Unit 7 Architecture, cont. Week 13: Unit 9 Art and Design Week 14: Unit 9 Art and Design, cont. Week 15: Class choice Week 16: Poster Session
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate. [復習] Review class notes
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Lansford, Unlock: Listening & Speaking Skills 4 (Cambridge, 2014)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：30% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	isolomon@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>



## 教養教育科目

(1)整理番号	518
(2)区分番号	518
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (上級) (Advanced Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	アスタア パトラー (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: Orientation</p> <p>Week 2: Unit 1 (Identity)</p> <p>Week 3: Unit 1 (Identity)</p> <p>Week 4: Unit 2 (Design)</p> <p>Week 5: Unit 2 (Design)</p> <p>Week 6: Unit 3 (Thought)</p> <p>Week 7: Unit 3 (Thought)</p> <p>Week 8: Midterm Presentations, Review</p> <p>Week 9: Unit 5 (Movement)</p> <p>Week 10: Unit 5 (Movement)</p> <p>Week 11: Unit 6 (Disease)</p> <p>Week 12: Unit 6 (Disease)</p> <p>Week 13: Unit 7 (Survival)</p> <p>Week 14: Unit 7 (Survival)</p> <p>Week 15: Unit 10 (Tomorrow)</p> <p>Week 16: Final exam, Reflection</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Preparation: Read the relevant textbook unit for the current week. Listen to downloadable sound files.</p> <p>Review: Review textbook unit content from prior weeks.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Skillful 2nd Edition: Listening Speaking 3, Macmillan, 978-1-3800-1071-1
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between textbook activities, group work, presentations, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

教養教育科目

(1)整理番号	519
(2)区分番号	519
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Speaking (上級) (Advanced Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation; Moodle and CLMS Assignments Week 2: Unit 1; Moodle and CLMS Assignments Week 3: Unit 1 cont. Moodle Assignment and CLMS Assignments Week 4: UNIT 2; Oral Reports A; Moodle Assignment and CLMS Assignments Week 5: UNIT 2 cont.; Oral Reports B Moodle and CLMS Assignments Week 6: UNIT 3; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments Week 7: UNIT 4; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments Week 8: UNIT 5; Vocabulary Exam; Moodle and CLMS Assignments Week 10: UNIT 6 Discussion; Video Report proposal; Moodle and CLMS Assignments Week 11: UNIT 7 ShalPak Group PechaKucha Assignment; Skit Assignment; Moodle and CLMS Assignments Week 12: Video Report and Summary Showdown; Moodle and CLMS Assignments Week 13: UNIT 8 ShalPak Group PechaKucha Projects; Moodle and CLMS Assignments Week 14: UNIT 9 PechaKucha Projects; Video Work; Moodle and CLMS Assignments Week 15: UNIT 10 Skits; Moodle and CLMS Assignments Week 16: Review, Super Quiz Bowl; Reflection Report Assignment on Moodle
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students are required to make full use of the English Lounge (EL). This means attending extra seminars there and participating in the Conversation Circle. They should also use the EL to get assistance and advice when revising their writing for their presentations. Students are expected to read the unit and do exercises on the parts assigned by the teacher prior to each lesson. Students are also expected to contribute to the class Moodle page and use the online workbook. (THESE TASKS ARE NOT OPTIONAL.) Outside of class exercises make up a large part of the grade in this class. Completing the final Reflection Report is also a prerequisite for passing the course. 学生はイングリッシュ・ラウンジ(EL)で発表を行い、他のクラスメートの発表を聞くことが必須となります。さらに、ELに行き、ほかの文化圏から来ている人たちとの交流をすることで自分の視野を広げることが強く推奨します。ELを利用することで、プレゼンテーションの文章を書くためのヒントやアドバイスを受けることができます。毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてきてください。またクラスのモデル上での書き込みをし、カウンターのワークブックを使用してください。この授業では授業以外での練習が大きく成績の部分を占めることとなります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について-

(20)教材・教科書	Unlock Level 4 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook)
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (class activities) : 20% 3. Examinations/Presentations/Papers/Projects : 25% 4. Assignments/Self-study : 35%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Aural/Oral Activities: speaking, listening and pronunciation practice, pair/group work, oral presentations and other project work, discussions and some written assignments  (partial translation) リスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	Classroom participation both in groups and in pairs is essential to learning how to communicate in a foreign language and will be a large part (40%) of the final grade for the class. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class. They are also encouraged to attend an EL seminar as a make-up opportunity for a missed class.  (partial translation) 授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分(40%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty; check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail for special guidance or individual assistance. (partial translation) イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:siberman@hirosaki-u.ac.jp">siberman@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a>
(28)その他	<a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a>

教養教育科目

(1)整理番号	520
(2)区分番号	520
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking (上級) (Advanced Speaking)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること ○状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation; Moodle and CLMS Assignments Week 2: Unit 1; Moodle and CLMS Assignments Week 3: Unit 1 cont. Moodle Assignment and CLMS Assignments Week 4: UNIT 2; Oral Reports A; Moodle Assignment and CLMS Assignments Week 5: UNIT 2 cont.; Oral Reports B Moodle and CLMS Assignments Week 6: UNIT 3; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments Week 7: UNIT 4; Model Conversations; Moodle and CLMS Assignments Week 8: UNIT 5; Vocabulary Exam; Moodle and CLMS Assignments Week 10: UNIT 6 Discussion; Video Report proposal; Moodle and CLMS Assignments Week 11: UNIT 7 ShalPak Group PechaKucha Assignment; Skit Assignment; Moodle and CLMS Assignments Week 12: Video Report and Summary Showdown; Moodle and CLMS Assignments Week 13: UNIT 8 ShalPak Group PechaKucha Projects; Moodle and CLMS Assignments Week 14: UNIT 9 PechaKucha Projects; Video Work; Moodle and CLMS Assignments Week 15: UNIT 10 Skits; Moodle and CLMS Assignments Week 16: Review, Super Quiz Bowl; Reflection Report Assignment on Moodle
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students are required to make full use of the English Lounge (EL). This means attending extra seminars there and participating in the Conversation Circle. They should also use the EL to get assistance and advice when revising their writing for their presentations. Students are expected to read the unit and do exercises on the parts assigned by the teacher prior to each lesson. Students are also expected to contribute to the class Moodle page and use the online workbook. (THESE TASKS ARE NOT OPTIONAL.) Outside of class exercises make up a large part of the grade in this class. Completing the final Reflection Report is also a prerequisite for passing the course. 学生はイングリッシュ・ラウンジ(EL)で発表を行い、他のクラスメートの発表を聞くことが必須となります。さらに、ELに行き、ほかの文化圏から来ている人たちとの交流をすることで自分の視野を広げることを強く推奨します。ELを利用することで、プレゼンテーションの文章を書くためのヒントやアドバイスを受けることができます。毎回、次の授業での教科書の予習箇所を指示しますので、予習をしてきてください。またクラスのムードル上での書き込みをし、オンラインのワークブックを使用してください。この授業では授業以外での練習が大きく成績の部分を含めることとなります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Unlock Level 4 Listening and Speaking Skills (Student's Book and Online Workbook)
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (class activities): 20% 3. Examinations/Presentations/Papers/Projects: 25% 4. Assignments/Self-study: 35%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Aural/Oral Activities: speaking, listening and pronunciation practice, pair/group work, oral presentations and other project work, discussions and some written assignments  (partial translation) リスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	Classroom participation both in groups and in pairs is essential to learning how to communicate in a foreign language and will be a large part (40%) of the final grade for the class. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class. They are also encouraged to attend an EL seminar as a make-up opportunity for a missed class.  (partial translation) 授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分(40%)を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty; check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail for special guidance or individual assistance. (partial translation) イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:siberman@hirosaki-u.ac.jp">siberman@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a>
(28)その他	<a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	521
(2)区分番号	521
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Speaking（上級）（Advanced Speaking）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	横内 裕一郎（教育推進機構）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○会話を続けるために必要となる方略を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになる</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるスピーキングを他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス（音声の録音方法、各活動の評価基準の説明）・音読・シャドーイング</p> <p>第2回 independent task I（自分のことについて話す）</p> <p>第3回 independent task II（身近な話題について話す）</p> <p>第4回 independent task III（社会的な事項について意見を述べる）</p> <p>第5回 independent task IV（社会的な事項について自分の立場を定めて意見を述べる）</p> <p>第6回 independent task V（提示された問題の解決法を考えて述べる）</p> <p>第7回 中間試験・これまでの振り返り</p> <p>第8回 Integrated task I（物語文を読んで話す）</p> <p>第9回 Integrated task II（容易な説明文を読んで話す）</p> <p>第10回 Integrated task III（容易な説明文を聞いて話す）</p> <p>第11回 Integrated task IV（説明文を聞いて話す）</p> <p>第12回 Integrated task V（短いレクチャーを聞いて話す）</p> <p>第13回 総合演習（これまでにいった様々なタスクを行います）</p> <p>第14回 期末試験・身近な英会話I</p> <p>第15回 身近な英会話II</p> <p>第16回 期末試験フィードバック・振り返り</p>

	※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：Moodleに掲載した話題について事前に発表内容について考えておく 復習：授業中に録音した発話を書き起こし、文法や表現などで誤りのあった部分をまとめる
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 講師が毎週提示する課題をこなしてもらいます。課題はMoodleで掲示します。
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	指定された課題について全員一斉にPCに向かい音声を吹き込み、その内容（言語面を含めて）を自身で振り返りながら弱点を補強します。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。 4. 書き起こし活動やPeer reviewの活動は指定された期間内に必ず提出してください。
(26)オフィスアワー	それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp（★を半角@に置き換えてください）
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	522
(2)区分番号	522
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	木村 宣美 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Overcoming Disasters / Going Digital</p> <p>第2回 Judging Others / Ping-pong Hero</p> <p>第3回 Marry me, Robot / Remember Not to Forget</p> <p>第4回 Alienated on Earth / Daylight Savings</p> <p>第5回 Society Service 及び小テスト</p> <p>第6回 The First Lady / Homesick for Earth</p> <p>第7回 'Anime' is English / Money &amp; Taxes</p> <p>第8回 Individual Appeal / Exercise against Stress!</p> <p>第9回 Social Networking / Bob and Annie</p> <p>第10回 Paying with Plastic 及び小テスト</p> <p>第11回 CCTV / Galapagos Syndrome</p> <p>第12回 Finding and Finishing Employment</p> <p>第13回 外部試験：VELC Test</p> <p>第14回 Censorship</p> <p>第15回 Impatience!</p> <p>第16回 An Important Patient 及び小テスト</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 使用するテキストは、24ユニット（各ユニットは4ページ構成）で構成されています。1回の授業で複数のユニットを学びます。受講に際し、複数のユニットの予習をしてください。</p> <p>[復習] 学習内容の理解度を確認するために、</p>

	小テストが3回行われます。小テストに向けて、復習をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	奥田隆一・Anthony Allan 2012年 Writing Points!-Basic Grammar for Better Writing 『文法を活かす英文ライティング入門』金星堂
(21)参考文献	必要に応じて、適宜授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式(文法事項や語彙に関する練習問題の解答・解説)
(25)留意点・予備知識	授業内容を深く理解するために、予習及び復習等の課外学習が必要です。高等学校で活用した英語の参考書を読み直してみましょう。
(26)オフィスアワー	火曜日5・6 時限 [12:40-14:10]
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hukumura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	523
(2)区分番号	523
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	堀 智弘 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス（授業の説明他）</p> <p>第2回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - What is a Sentence?</p> <p>第3回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Parts of a Sentence: Subjects, Verbs, and Objects</p> <p>第4回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Prepositions of Place; Capitalization and Punctuation</p> <p>第5回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Vocabulary &amp; Collocations</p> <p>第6回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Using Adjectives</p> <p>第7回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - What is a Paragraph?</p> <p>第8回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Parts of a Paragraph: The Topic Sentence</p> <p>第9回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Parts of a Paragraph: The Concluding Sentence</p> <p>第10回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Vocabulary &amp; Collocations</p> <p>第11回 Unit 3: Writing about the Present - The Simple Present Tense: Statements</p> <p>第12回 Unit 3: Writing about the Present - There Is/ There Are</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Unit 3: Writing about the Present - The Simple Present Tense: Negative Statements</p> <p>第15回 Unit 3: Writing about the Present</p>

	- Connecting Words in Compound Sentences 第16回 期末試験/Review 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 毎回、問題演習の宿題を出しますので、それをやった上で授業に臨むことが必要となります。 [復習] 毎回の内容をきちんと復習して試験に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	_The Great Writing 1: Great Sentences from Great Paragraphs_ (Cengage)
(21)参考文献	授業時に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	問題演習を中心とします。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	524
(2)区分番号	524
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 剛 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること ○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション（従業の進め方やシラバスの説明、じゃれマガについて、オンラインプラクティス・教材について等） 第2回 My First Writing 第3回 Unit 1 (Relationship) Chapter 1 (How do people meet?) 第4回 Unit 1 (Relationship) Chapter 2 (Who has good social skills?) 第5回 Unit 1 (Relationship) Chapter 3 (How do places change us?) 第6回 Unit 1のReviwとUnit Test 第7回 Unit 2 (Cities) Chapter 1 (What makes a strong community?) 第8回 Unit 2 (Cities) Chapter 2 (What did your city build?) 第9回 Unit 2 (Cities) Chapter 3 (How did a place surprise you?) 第10回 Unit 2のReviwとUnit Test 第11回 Unit 3 (Lifestyle) Chapter 1 (Who are 21-century teenagers?) 第12回 Unit 3 (Lifestyle) Chapter 2 (What does your future look like?) 第13回 外部試験 第14回 Unit 3 (Lifestyle) Chapter 3 (Who is your country proud of?) 第15回 Unit 3のReviwとUnit Test 第16回 Final Exam & Review  ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定について、毎回以下のような予習と復習を行ってください。（予習、復習は最低でも各2時間以上行う必要があります） （予習）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃれマガ<a href="http://catchawave.jp/jm/">http://catchawave.jp/jm/</a>に登録し、その週の内容を理解し、書き取りができるように繰り返し練習する。(そこから毎回小テストを実施します)</li> <li>・毎回の授業で学習する教科書の各Unitを読み、理解できない語句や表現については辞書等でその意味を調べる(復習)</li> <li>・添削ビデオを見ながら、自分の英作文の校正を行う。(オリエンテーションで説明します)</li> <li>・オンラインプラクティスを活用して授業の内容を各自で復習する。(オリエンテーションで説明します)</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『TRIO WRITING 2』 OXFORD
(21)参考文献	授業中適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果：20%</li> <li>2. Participation (Class activities)：20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</li> <li>4. Assignments/Self-study：20%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>授業は基本的に全て英語で行います。ただし、文法・語法の解説、試験などについての説明は日本語で行います。</p> <p>また、それぞれが書いた英文について英語でペアやグループでの話し合い、ディスカッションをする場面があります。自分の使える英語を総動員する気持ちで授業に参加して下さい。</p>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は英語で行うので、特に最初は多少聞き取れないところや理解できないところがあるかもしれませんが、頑張って英語音声に慣れるとともに、自らも間違いを恐れず積極的に英語を「使う」ように努めましょう。</li> <li>・じゃれマガに登録して、授業外でも英語を読み、英語表現を取り入れる習慣をつけましょう。</li> <li>・教科書に付属しているオンラインプラクティスを自主的に活用して、授業で扱った内容を復習する習慣をつけましょう。</li> <li>・毎回の小テストと、課題が評価につながります。無断欠席や遅刻は絶対にしないでください。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日：12：40～14：10</p> <p>木曜日：14：20～16：00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	<a href="http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2823&amp;text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=">http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&amp;did=1988&amp;vid=718&amp;rid=2823&amp;text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&amp;Head=&amp;hid=&amp;sid=n&amp;rev=0&amp;ssid=</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	525
(2)区分番号	525
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること ○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle, Online Practice, グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Readiness Unit 第3回 Chapter 1 How do people meet? 第4回 Chapter 2 Who has good social skills? 第5回 Chapter 3 How do places change us? 第6回 Review (Chapter 1-3) 第7回 Chapter 4 What makes a strong community? 第7回 Chapter 5 What did your city build? 第8回 Chapter 6 How did a place surprise you? 第9回 中間試験と復習 第10回 Chapter 7 Who are 21st-Century Teenagers? 第11回 Chapter 8 What does your future look like? 第12回 Chapter 9 Who is your country proud of? 第13回 VELC試験 第14回 Review (Chapters 7-9) 第15回 Group Presentations 第16回 期末試験と復習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】 教科書の部分を指示しますので、新しい単語や表現は辞書などで調べ、練習問題を行ってください。予習箇所はムードルでも確認できます。学びは人のためになることでさらに促進されます。グループでよく学び、互いに助け合ってください。  【復習】 課題の作文（各Chapter 最後のWritingのところ）は必ず提出してください。課題の作文の添削にイングリッシュ・ラウンジを活用してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Trio Writing 2" by Alice Savage & Colin Ward, Oxford University Press
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study: 30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ライティング練習問題、ペアまたはグループ・ワークによるライティング活動、プレゼンテーション、ディスカッション
(25)留意点・予備知識	授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の20%を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・라운ジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認し、イングリッシュ・라운ジでの補講を受けてください。イングリッシュ・라운ジのセミナーには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・라운ジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいでください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tadameg@hirosaki-u.ac.jp">tadameg@hirosaki-u.ac.jp</a> イングリッシュ・라운ジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・라운ジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。



## 教養教育科目

(1)整理番号	526
(2)区分番号	526
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	堀 智弘 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス（授業の説明他）</p> <p>第2回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - What is a Sentence?</p> <p>第3回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Parts of a Sentence: Subjects, Verbs, and Objects</p> <p>第4回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Prepositions of Place; Capitalization and Punctuation</p> <p>第5回 Unit 1: Understanding Sentence Basics - Vocabulary &amp; Collocations</p> <p>第6回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Using Adjectives</p> <p>第7回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - What is a Paragraph?</p> <p>第8回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Parts of a Paragraph: The Topic Sentence</p> <p>第9回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Parts of a Paragraph: The Concluding Sentence</p> <p>第10回 Unit 2: Understanding Paragraph Basics - Vocabulary &amp; Collocations</p> <p>第11回 Unit 3: Writing about the Present - The Simple Present Tense: Statements</p> <p>第12回 Unit 3: Writing about the Present - There Is/ There Are</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Unit 3: Writing about the Present - The Simple Present Tense: Negative Statements</p> <p>第15回 Unit 3: Writing about the Present</p>

	- Connecting Words in Compound Sentences 第16回 期末試験/Review 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 毎回、問題演習の宿題を出しますので、それをやった上で授業に臨むことが必要となります。 [復習] 毎回の内容をきちんと復習して試験に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	_The Great Writing 1: Great Sentences from Great Paragraphs_ (Cengage)
(21)参考文献	授業時に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	問題演習を中心とします。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	527
(2)区分番号	527
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	南 修平 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Warm up: Get to know each other</p> <p>第3回 Unit 1 People</p> <p>第4回 Unit 1 Write a personal profile</p> <p>第5回 Unit 2 Seasons</p> <p>第6回 Unit 2 Learn expressions for weather</p> <p>第7回 Songs about weather and review test 1</p> <p>第8回 Unit 3 Lifestyle</p> <p>第9回 Unit 3 Compare your lifestyle</p> <p>第10回 Unit 4 Places</p> <p>第11回 Unit 4 Vocabularies for places</p> <p>第12回 Write the names of cities in the world and review test 2</p> <p>第13回 外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回 Unit 6 Jobs</p> <p>第15回 Unit 6 Write a curriculum vitae</p> <p>第16回 Final test and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：講義では毎回テキストの演習問題のReviewを行います。そのため、必ず次回範囲の演習問題に取り組んだ上で講義に参加するようにしてください。</p> <p>復習：教科書の演習問題や Review Test でエラーがあった個所を見直すと同時に、教科書の末尾にあるUnitごとのGlossaryを常にチェックし、単語の意味を英語で理解する習慣をつけ、語彙力の強化を心がけてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Unlock Level 1 Reading and Writing Skills (Cambridge UP)
(21)参考文献	講義外の学習で役に立つ教材については、適宜講義の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを通じて基本的な文法を学びながらトピックに関連した文章の作成に取り組みます。また、さまざまなタイプの英文を読むことで、読解力と語彙力の強化を行います。その他、リスニングのトレーニングやテキストに関連した各種トピックについてのディスカッションなど、グループワークも行う予定です。 最終試験を含め、定期的に理解力をはかるテストを行い、語彙力を確認する小テストも実施する予定です。
(25)留意点・予備知識	普段から新聞記事、文学、手紙などいろんなタイプの英文に馴染むことを心がけてください。イングリッシュ・ラウンジにはそうした教材が揃っており、スタッフからもアドバイスを受けられますので、積極的に活用することを推奨します。 講義は1・2限に始まりますので、遅刻・欠席には十分注意してください。遅刻2回で欠席1回とします。 講義内容や講義の進度は受講生の状況などによって変更することがあります。
(26)オフィスアワー	火曜日9・10時限です。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることをお勧めします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回の講義にてお伝えします。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	528
(2)区分番号	528
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 徳治 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業ガイダンス, 教科書 Chapter 1 Fast Food: Nothing New under the Sun!</p> <p>第2回 教科書 Chapter 2 Famous Dogs</p> <p>第3回 教科書 Chapter 3 When Was it Invented</p> <p>第4回 教科書 Chapter 4 Never Give Up: An Anti-Bullying Song</p> <p>第5回 教科書 Chapter 5 The Migration of the Monarch Butterflies</p> <p>第6回 教科書 Chapter 6 New Foods from the New World</p> <p>第7回 教科書 Chapter 7 Foreign Language Study Makes You a Global Citizen</p> <p>第8回 第7回までの学習のまとめ, 中間試験・試験解説</p> <p>第9回 教科書 Chapter 8 Isaac Lufkin: The Armless Football Player</p> <p>第10回 教科書 Chapter 9 Atlantis, the Lost Empire: Fact or Fiction?</p> <p>第11回 教科書 Chapter 10 Pope Francis: A New Kind of Pope</p> <p>第12回 教科書 Chapter 11 The Power of Meditation</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 教科書 Chapter 12 Sedona: Harmony with Nature</p> <p>第15回 教科書 Chapter 13 Malala: Champion of Education</p> <p>第16回 第15回までの学習のまとめ, 期末試験・試験解説</p> <p>なお、授業の進行状況等により上記の授業内容が異なる場合がある。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(予習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で学習する教科書の各Chapterの本文を読み、内容理解に努める</li> <li>・理解できない語句や表現については辞書等でその意味を調べる</li> <li>・各Chapterに設けられてある問題を解答する(復習)</li> <li>・意味を考えながら音読練習をする</li> <li>・与えられた課題を完成する</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Joan McConnell, Shuichi Takeda, Kiyoshi Yamauchi (著)「Read Well, Write Better—リーディングで鍛える英作文」(成美堂)
(21)参考文献	適宜授業において指示をします。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. ExaminationE/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業は基本的に全て英語で行います。ただし、パラグラフライティング及び文法・語法の解説、試験などについての説明は日本語で行います。 ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験は受験できません。
(25)留意点・予備知識	授業は英語で行うので、特に最初は多少聞き取れないところや理解できないところがあるかもしれませんが、頑張って英語音声に慣れるとともに、自らも間違いを恐れず積極的に英語を「使う」ように努めましょう。
(26)オフィスアワー	毎週水曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:norotoku@hirosaki-u.ac.jp">norotoku@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません。

## 教養教育科目

(1)整理番号	529
(2)区分番号	529
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること ○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle, Online Practice, グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Readiness Unit 第3回 Chapter 1 How do people meet? 第4回 Chapter 2 Who has good social skills? 第5回 Chapter 3 How do places change us? 第6回 Review (Chapter 1-3) 第7回 Chapter 4 What makes a strong community? 第7回 Chapter 5 What did your city build? 第8回 Chapter 6 How did a place surprise you? 第9回 中間試験と復習 第10回 Chapter 7 Who are 21st-Century Teenagers? 第11回 Chapter 8 What does your future look like? 第12回 Chapter 9 Who is your country proud of? 第13回 VELC試験 第14回 Review (Chapters 7-9) 第15回 Group Presentations 第16回 期末試験と復習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】 教科書の部分を指示しますので、新しい単語や表現は辞書などで調べ、練習問題を行ってください。予習箇所はムードルでも確認できます。学びは人のためになることでさらに促進されます。グループでよく学び、互いに助け合ってください。  【復習】 課題の作文（各Chapter 最後のWritingのところ）は必ず提出してください。課題の作文の添削にイングリッシュ・ラウンジを活用してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Trio Writing 2" by Alice Savage & Colin Ward, Oxford University Press
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%  2. Participation：20%  3. Examination/Quizzes：30%  4. Assignments/Self-study：30%  ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	"Trio Writing 2" by Alice Savage & Colin Ward, Oxford University Press
(25)留意点・予備知識	<p>授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の20%を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認し、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。イングリッシュ・ラウンジのセミナーには積極的に参加してください。</p>
(26)オフィスアワー	<p>イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>tadameg@hirosaki-u.ac.jp  イングリッシュ・ラウンジ  <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a></p>
(28)その他	<p>外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・ラウンジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	530
(2)区分番号	530
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	山本 秀樹 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>教科書の構成に沿って、Model Essayを読んだ後、「英文法のポイント」で英語を書く上での基本的な文法事項を確認し、Mastering Collocations、Practicing Basic Grammar、Using Important Words and Expressions、Confirming the Grammar Pointsといった練習問題を行う。なお、授業の進行状況によって毎回2課分進むとは限らないが、毎回、終わった箇所から2課分先まで予習しておくこと。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 第1課、第2課  第3回 第3課、第4課  第4回 第5課、第6課  第5回 第7課、第8課  第6回 第9課、第10課  第7回 第11課、第12課  第8回 中間試験と授業  第9回 第13課、第14課  第10回 第15課、第16課  第11回 第17課、第18課  第12回 第19課、第20課  第13回 第21課、第22課  第14回 第23課、第24課  第15回 期末試験と授業</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、前回の授業の内容を復習し、次回の授業範囲について、指名された時にその場で考え込まずにすぐに答えられるよう、十分に予習しておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing Points! 金星堂
(21)参考文献	必要が生じれば、授業で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式でランダムに指名します。
(25)留意点・予備知識	毎回必ず予習した上で授業に臨むことが重要です。
(26)オフィスアワー	金曜日 12:00から13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hideyama@hirosaki-u.ac.jp">hideyama@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	531
(2)区分番号	531
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	近藤 亮一 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation</p> <p>第2回 Chapter 1 Fast Food: Nothing New under the Sun! (whyの使い方)</p> <p>第3回 Chapter 2 Famous Gods (who, whomの使い方)</p> <p>第4回 Chapter 3 When Was it Invented? (whenの使い方)</p> <p>第5回 Chapter 4 Never Give Up: An Anti-Bullying Song (howの使い方)</p> <p>第6回 Chapter 5 The Migration of the Monarch Butterflies (whereの使い方)</p> <p>第7回 Chapter 6 New Foods from the New World (whatの使い方)</p> <p>第8回 中間試験・その解説・英語の歴史</p> <p>第9回 Chapter 7 Foreign Language Study Makes You a Global Citizen (助動詞の使い方)</p> <p>第10回 Chapter 8 Isaac Lufkin: The Armless Football Player (動名詞と現在分詞の使い方)</p> <p>第11回 Chapter 9 Atlantis, the Lost Empire: Fact or Fiction? (現在完了と現在完了進行形の使い方)</p> <p>第12回 Chapter 10 Pope Francis: A New Kind of Pope (接続詞の使い方)</p> <p>第13回 英語外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回 Chapter 11 The Power of Meditation (比較級の使い方)</p> <p>第15回 Chapter 12 Sedona: Harmony with Nature (仮定法現在のifの使い方)</p> <p>第16回 これまでのまとめ・期末試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際</p>

	の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)特に、問題はあらかじめ解いておいてください。長文は和訳しておいてください。予習ができていない場合は、欠席扱いとすることがあります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Joan MacConnell, Shuichi Takeda, Kiyoshi Yamauchi "Read Well Write Better" 2016年 成美堂
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	まず本文を精読し、内容に関する問題を解きます。その後、英作文の部分に移ります。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00-15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	532
(2)区分番号	532
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	多田 恵実 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること ○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	第1回 クラス・オリエンテーション（シラバス、Moodle, Online Practice, グループ作り、授業の進め方について） 第2回 Readiness Unit 第3回 Chapter 1 How do people meet? 第4回 Chapter 2 Who has good social skills? 第5回 Chapter 3 How do places change us? 第6回 Review (Chapter 1-3) 第7回 Chapter 4 What makes a strong community? 第7回 Chapter 5 What did your city build? 第8回 Chapter 6 How did a place surprise you? 第9回 中間試験と復習 第10回 Chapter 7 Who are 21st-Century Teenagers? 第11回 Chapter 8 What does your future look like? 第12回 Chapter 9 Who is your country proud of? 第13回 VELC試験 第14回 Review (Chapters 7-9) 第15回 Group Presentations 第16回 期末試験と復習
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】 教科書の部分を指示しますので、新しい単語や表現は辞書などで調べ、練習問題を行ってください。予習箇所はムードルでも確認できます。学びは人のためになることでさらに促進されます。グループでよく学び、互いに助け合ってください。  【復習】 課題の作文（各Chapter 最後のWritingのところ）は必ず提出してください。課題の作文の添削にイングリッシュ・ラウンジを活用してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	"Trio Writing 2" by Alice Savage & Colin Ward, Oxford University Press
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある英語の図書、書籍、ソフトウェア、DVDを利用してください
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：30%</p> <p>4. Assignments/Self-study：30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ライティング練習問題、ペアまたはグループ・ワークによるライティング活動、プレゼンテーション、ディスカッション
(25)留意点・予備知識	授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要で、授業の最終評価の20%を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じグループの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認し、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。イングリッシュ・ラウンジのセミナーには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間を下のHPアドレスに掲示のスケジュール欄で確認して、おいでください。メールで研究室でのお約束も受け付けます。下の欄で確認・連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:tadameg@hirosaki-u.ac.jp">tadameg@hirosaki-u.ac.jp</a> イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Welcome.html</a>
(28)その他	外資系企業に勤務しておりましたので英語で仕事をしておりました実務経験があります。ビジネス英語が専門分野のひとつです。イングリッシュ・ラウンジのキャリア英語の講座に、また就職の準備にTOEICやTOEFL受験を考えている方、どうぞご相談ください。

## 教養教育科目

(1)整理番号	533
(2)区分番号	533
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	奥野 忠徳 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：授業方針の説明とIntroduction</p> <p>第2回：remind, 関係節構文、there構文の練習</p> <p>第3回：contrary to, to不定詞、現在完了進行形の練習</p> <p>第4回：形容詞、have to、使役構文の練習</p> <p>第5回：withの構文、all over、adapt、instead ofなどの練習</p> <p>第6回：Toast your success.</p> <p>第7回：進行形、原料を表すof、keep -ingなどの練習</p> <p>第8回：some…others、hold、形容詞の最上級の練習</p> <p>第9回：序数、動詞name、so … that構文の練習</p> <p>第10回：形容詞比較級、thanks to、let's、in one's own wayなどの練習</p> <p>第11回：take for granted、部分否定、受動態の練習</p> <p>第12回：時の前置詞、call、start -ing、as well as、if構文の練習</p> <p>第13回：英語外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回：否定命令文、動名詞の練習</p> <p>第15回：副詞句、理由を表す表現、様々な前置詞の練習</p> <p>第16回：試験、解説</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語のトレーニングを徹底的に行います。授業の90分は全力投球してください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Read Well, Write Better (Joan McConnell 他著) 成美堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 40%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hirodainorichan@gmail.com">hirodainorichan@gmail.com</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	534
(2)区分番号	534
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (初級) (Writing for Beginners)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『Writing for Business』について等)</p> <p>第2回 Level 4: Accepting an invitation to an event/Level 5: Arranging a first-time meeting</p> <p>第3回 Level 4: Announcing the agenda of a meeting/Level 5: Complaining about errors with a faulty product</p> <p>第4回 Level 4: Apologizing for a delay in delivery/Level 5: Complaining about late delivery</p> <p>第5回 Level 4: Arranging a meeting/Level 5: Following up on a request for information</p> <p>第6回 Level 4: Confirming attendance at a meeting/Level 5: Inviting someone to an event</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 Level 4: Confirming/explaining travel arrangements/Level 5: Negotiating business terms</p> <p>第9回 Level 4: Explaining a process/Level 5: Notifying co-workers of a change in procedure</p> <p>第10回 Level 4: Following up on a first meeting/cold call/Level 5: Proposing a new product or service</p> <p>第11回 Level 4: Invoicing for a product or service/Level 5: Reminding a colleague about something (while you are on vacation)</p> <p>第12回 Level 4: Notifying co-workers of</p>

	<p>company news/Level 5: Reporting back on a meeting  第13回 外部試験  第14回 Level 4: Ordering a product or service/Level 5: Reporting progress on a project  第15回 Review &amp; Final Exam  第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降は、レベル診断の結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：なし</p> <p>教材：『Writing for Business』  Reallyenglish（第1回で購入方法を説明します。）</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%  2. Participation (Class activities)：30%  3. Examination/Presentation/Paper/Project：30%  4. Assignments/Self-study：20%  ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。  2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。  3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00  木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	535
(2)区分番号	535
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	内海 淳 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 Introduction to Process Writing</p> <p>2 Home Is Where Your Heart Is</p> <p>3 You Only Live Once</p> <p>4 The Apple of Your Eye</p> <p>5 Actions Speak Louder than Words</p> <p>6 Once in a Blue Moon</p> <p>7 Saved by The Bell</p> <p>8 “X” Marks the Spot</p> <p>9 Format &amp; Structure Review</p> <p>10 Variety Is the Spice of Life</p> <p>11 It’ s All Greek to Me</p> <p>12 Everything but the Kitchen Sink</p> <p>13 外部試験</p> <p>14 Haste Makes Waste</p> <p>15 Style Review</p> <p>16 Introduction to Essay Writing</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】事前に指定されたユニットを読んでおき、課題の作文を提出します。</p> <p>【復習】授業で学んだことを整理し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing Together ISBN 978-4-7647-3977-2
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	

	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Moodleを使い、課題の提出・評価等を行い、Self-Portfolioを作り上げていきます。
(25)留意点・予備知識	授業時間以外の予習・復習は必須です。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	536
(2)区分番号	536
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、前期末外部試験について等)</p> <p>第2回 Unit 1 Paragraphs</p> <p>第3回 Unit 2 Developing Ideas for Writing a Paragraph</p> <p>第4回 Unit 3 Topic Sentences</p> <p>第5回 Unit 4 Supporting and Concluding Sentences</p> <p>第6回 Unit 5 Paragraph Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第7回 Unit 6 Definition Paragraphs</p> <p>第8回 Unit 7 Process Paragraphs</p> <p>第9回 Unit 8 Descriptive Paragraphs</p> <p>第10回 Unit 9 Opinion Paragraphs</p> <p>第11回 Unit 10 Narrative Paragraph</p> <p>第12回 Unit 11 Paragraphs in an essay: Putting it all together</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Brief Writer's Handbook with Activities</p> <p>第15回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習:教科書の各UnitにあるGrammar for WritingとBuilding Better Vocabularyを解いてから授業に参加してください (Assignments)。</p> <p>復習:Writing skillを理解し、それらを習得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。教科書の付属Online Workbook (MyELT) の課題を第14回まで全問正解してください (Assignments)。</p>

	自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Vestri Solomon (2014) 『The Great Writing Series, 2014 Edition Level 2』 CENGAGE Learning
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	537
(2)区分番号	537
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 名詞の誤り(1) 前半 カタカナ語第1回グループワーク</p> <p>第3回 Unit 1 名詞の誤り(1) 後半</p> <p>第4回 Unit 1 名詞の誤り(1) 補足</p> <p>第5回 Unit 3 冠詞の誤り(1) 前半</p> <p>第6回 Unit 3 冠詞の誤り(2) 後半—カタカナ語第2回グループワーク</p> <p>第7回 Unit 3 およびUnit 5 動詞の誤り(2) 前半</p> <p>第8回 小テスト(1)および Unit 5 動詞の誤り(2) 後半</p> <p>第9回 カタカナ語発表(1) および Unit 5 動詞の誤り(2) 補足</p> <p>第10回 カタカナ語発表(2) および Unit 7 〈動詞＋名詞〉表現の誤り 前半</p> <p>第11回 Unit 7 〈動詞＋名詞〉表現の誤り 後半</p> <p>第12回 小テスト(2)および Unit 7 〈動詞＋名詞〉表現の誤り 補足</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 新聞記事(1) および Unit 9 形容詞の誤り 前半</p> <p>第15回 新聞記事(2) および Unit 9 形容詞の誤り 後半</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p> <p>ユニットは奇数番号で進んでいきます。 テキストの他にカタカナ語のグループワークがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	<p>毎回授業でやるところを予習してきてください。ユニット後半の英作文のExercise B, Exercise Cはもちろん、ユニットの最初のリーディングの部分も読んで訳していただきます。</p> <p>授業の後には、わからない単語や訳せない文(和訳、英訳)がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。</p> <p>期末に新聞記事を読みます。(速読の練習)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Common Errors in English Writing, 木塚春夫、Roger Northridge共著、Macmillan Language House
(21)参考文献	英文法の参考書(高校時代に使っていたものでよい)。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>演習形式(クラス全体)およびグループワークもあり。</p> <p>発表は一人で行い、作文を黒板に書いて読み、さらに質問に答えることで一回分となります。</p> <p>原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。学期中必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く希望者全員が発表できない可能性が高いので、早めに発表をしておくことが重要です。</p> <p>ユニットの最初の会話文も読んで日本語にすることで発表となりますので予習してきてください。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>出席が3分の2ない場合や、授業中に授業と関係のないことをしていた場合は、評価の対象とはなりませんので注意してください。授業を受ける姿勢も評価されます。</p> <p>原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止ですが、例外があります。詳しくは最初の時間に説明します。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	538
(2)区分番号	538
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ウォーターズ 雅代 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph</p> <p>第2回 Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph, Unit 2. Trying to be Polite</p> <p>第3回 Unit 3. What Do You Think?</p> <p>第4回 Unit 4. This May Work!</p> <p>第5回 Unit 5. Writing a Cause and Effect Paragraph</p> <p>第6回 Unit 6. What Is an Essay?</p> <p>第7回 Unit 7. Who Am I?</p> <p>第8回 Unit 8.&amp;9. Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1)(2)</p> <p>第9回 Review Writing a paragraph Unit 10 That's a Good Point!</p> <p>第10回 Unit 10. &amp;11. That's a Good Point! (1)(2)</p> <p>第11回 Unit 12.&amp;13. How Are They Different? (1)</p> <p>第12回 Unit 14. How Are They Different? (2)</p> <p>第13回 英語外部試験</p> <p>第14回 Unit 14. Let's Sort It Out! (1)</p> <p>第15回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>第16回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>Review Final Exam</p> <p>* 授業の進行状況により予定が変更になる場合はその都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（2時間以上）では各ユニットの本文を読んで、知らない語や文法は事前に調べ、本文を精読し、授業準備をしてから出席してください。復習（2時間以上）では、テキスト内容理解を深め、演習で書いた英文を再考</p>

	し、例文など応用しながら知識の定着に向けて努力することが大切です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Kate Elwood 『From Paragraph to Essay 』 (NAN' UN-DO)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習問題ではペア・ワーク、グループ・ワーク等、他の受講性とのコミュニケーションを積極的に図ることが要求されます。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯やスマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまって下さい。第一回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	539
(2)区分番号	539
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒュゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 イントロダクション &amp; Unit 1 (Starting from Scratch)</p> <p>第2回 Unit 2 (Home is Where Your Heart is)</p> <p>第3回 Unit 3 (You Only Live Once)</p> <p>第4回 Unit 4 (The Apple of Your Eye)</p> <p>第5回 Unit 5 (Actions Speak Louder than Words)</p> <p>第6回 Unit 6 (Once in a Blue Moon)</p> <p>第7回 Unit 7 (Saved by the Bell)</p> <p>第8回 Unit 8 (“X” Marks the Spot)</p> <p>第9回 Unit 9 (Format &amp; Structure Review) (Mid-term writing exam)</p> <p>第10回 Unit 10 (Variety is the Spice of Life)</p> <p>第11回 Unit 11 (It’s All Greek to Me)</p> <p>第12回 Unit 12 (Everything but the Kitchen Sink)</p> <p>第13回 英語外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回 Unit 13 (Haste Makes Waste)</p> <p>第15回 Unit 15 (Bigger is Better)</p> <p>第16回 授業の内容まとめ＋期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習は事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。</p> <p>復習として各ユニットのWriting in Actionの作成と確認。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Writing Together - From Sentence to Paragraph; Mark D. Stafford (Kinseido, 2014) ISBN: 978-4-7647-3977-2
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study : 30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	540
(2)区分番号	540
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	高杉 純子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction  第2回 Unit 1  第3回 Unit 2  第4回 Unit 3  第5回 Unit 4  第6回 Unit 5  第7回 Review 1  第8回 Unit 6  第9回 Unit 7  第10回 Unit 8  第11回 Unit 10  第12回 Unit 11  第13回 英語外部試験 (VELC Test)  第14回 Unit 12  第15回 Review 2  第16回 Final Test, Review 3</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業で配布するhandoutを用いて次回の内容を予習し、授業後はquiz/testに備えて復習をしてください。具体的内容は初回に指示します。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Mark D. Stafford 『Writing Together』 金星堂
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。pair/group workでは、学生一人一人が貢献する意志を持って参加し、お互いによく助け合うことが求められます。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 遅刻は授業開始後20分まで、それ以降は欠席扱いとします。欠席回のhomeworkを後日提出する、またはquizを後日受けることはできません（特別な事情がある場合を除く）。</p> <p>2. 携帯電話の使用、pair/group workへの不参加など、参加意欲の欠如はParticipationの評価に影響します。</p> <p>3. 辞書を必ず持参してください（携帯電話の辞書としての使用は通常認めていません）。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	541
(2)区分番号	541
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	曾我 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(1回目)オリエンテーション + Chapter 1 パラグラフとは( + Chapter 19 一貫性と流れ)</p> <p>(2回目) Chapter 2 列挙</p> <p>(3回目) Chapter 3 例示</p> <p>(4回目) Chapter 4 原因・結果</p> <p>(5回目) Chapter 5 結果・原因</p> <p>(6回目) Chapter 6 比較</p> <p>(7回目) Chapter 7 対象</p> <p>(8回目) Chapter 8 分類 + Chapter 9 分析 + Writing試験</p> <p>(9回目) Chapter 10 定義</p> <p>(10回目) Chapter 11 過程</p> <p>(11回目) Chapter 12 問題解決策 + Chapter 13 理由</p> <p>(12回目) Chapter 14 時間的順序 + Chapter 15 空間的配列</p> <p>(13回目) 外部試験(VELC Test)</p> <p>(14回目) Chapter 16 意見 + Chapter 17 類推</p> <p>(15回目) Chapter 18 エッセイ(1) + Chapter 19 エッセイ(2) + Chapter 20 要約</p> <p>(16回目) Writing試験返却・コメント + 期末評価</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○毎回の講義で扱う章のSample Paragraphをすべて読み、隣ページの問題を解いてきてください。</p> <p>○その章のFor Better Writing[A]~[C]の問題を、指定したとおり解いてきてください(1回目の講義でその説明をします)。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Saburo Yamamura他『Writing Techniques for College Students』（金星堂）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. VELC Test の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination : 30% (Writing : 12% + 期末試験 : 18%)</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。  ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の中では、テキストの問題以外にもいくつか練習問題を行いながら、英文の形式や考え方に慣れていきます。
(25)留意点・予備知識	出席回数が授業回数の3分の2以上なければ「不可」となります。予習をきちんと行うこと。各講義時に宿題（課題）を与えるので、その提出を怠らないこと。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	542
(2)区分番号	542
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Chapter 1 パラグラフとは、作文してみよう</p> <p>第3回 作文をチェックしてみる、Chapter 2 無生物主語</p> <p>第4回 Chapter 3 名詞構文 &amp; Chapter 13 「時」を表す表現を主語にして</p> <p>第5回 Chapter 4 動名詞 &amp; Chapter 7 不定詞</p> <p>第6回 Writing 1</p> <p>第7回 Chapter 5 副詞 &amp; Chapter 6 関係副詞</p> <p>第8回 前半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;振り返り</p> <p>第9回 Chapter 9 関係代名詞</p> <p>第10回 Chapter 10 分詞構文</p> <p>第11回 Chapter 11 分詞</p> <p>第12回 Chapter 16 時制</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 後半の学習状況の確認(試験を含む)&amp; Writing 2</p> <p>第15回 Writing 3</p> <p>第16回 パラグラフの書き方について(構成、トピックセンテンス、フォーマットについて自分の書いてきた全作文を用いて振り返る)、文法の弱点を振り返る</p> <p>学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 各時間で学習が予定されているChapterについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して参加してください。学習時間2時間程度。</p> <p>[復習] 板書されたことなどを参考に、学習した文法事項が理解できたか復習しましょう。作文は、添削、チェックリストなどを参考にし、書き直してみましょう。学習時間2時間程度。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Saburo Yamamura他, Writing Techniques for College Students, 2007, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、和英辞書、高校で使っていた文法書など
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	543
(2)区分番号	543
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: Introduction to process writing, paragraph format, and paragraph structure</p> <p>Week2: Hometown</p> <p>Week3: Lifestyle</p> <p>Week4: Influential people</p> <p>Week5: Character</p> <p>Week6: Memorable events</p> <p>Week7: Impressions of school life</p> <p>Week8: Favorite places</p> <p>Week9: Review and Quiz1(1~8)</p> <p>Week10: Styles &amp; fads</p> <p>Week11: Impressions of culture</p> <p>Week12: Important things</p> <p>Week13: VELC試験</p> <p>Week14: Decisions/ Review</p> <p>Week15: Introduction to essay writing</p> <p>Week16: Quiz2(9~15) and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：各unitのGetting Started Part Aに目を通しディスカッションに参加できるようにしっかりと質問に答えておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing Together From Sentence to Paragraph KINSEIDO社 Mark D. Stafford 著
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 % 4. Assignments/Self-study : 20 % ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	間違いを恐れずに積極的にクラスに参加しましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	544
(2)区分番号	544
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	佐々木 志織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Let me introduce myself</li> <li>2. Would you do me a favor?</li> <li>3. Please give me some advice.</li> <li>4. How about going to the museum?</li> <li>5. Let's decide when to meet.</li> <li>6. I have to apologize to you.</li> <li>7. Room for two?</li> <li>8. Mid-term Exam、試験の解説、及び前半期授業の復習</li> <li>9. We would like to invite you to a party.</li> <li>10. How to get to his place?</li> <li>11. This is just a reminder.</li> <li>12. Thank you for the invitation, but ...</li> <li>13. VELC</li> <li>14. Good luck.</li> <li>15. Congratulations.</li> <li>16. Final Examination 試験の解説、及び後半期授業の復習</li> </ol>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習、復習については、毎授業時に指定する。</p> <p>テキストの下読みをしていくことは必要である。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Naruoka Keiko, Kaoru Hayano and Sean M. Hackett著: Write Me Back Soon! (金星堂)
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：40% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	group workとpresentationが中心
(25)留意点・予備知識	辞書を必ず持参すること。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	545
(2)区分番号	545
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ペラント ション ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回:Introduction: Class overview, Paragraphs</p> <p>第2回:Chapter 2: Listing</p> <p>第3回:Chapter 3: Examples</p> <p>第4回:Chapter 4: Cause and Effect</p> <p>第5回:Chapter 5: Effect and Cause</p> <p>第6回:Chapter 6: Comparison</p> <p>第7回:Chapter 7: Contrast</p> <p>第8回:Chapter 8: Classification / Midterm Projects due</p> <p>第9回:Midterm Project Evaluations</p> <p>第10回:Chapter 9: Analysis</p> <p>第11回:Chapter 10: Definition</p> <p>第12回:Chapter 11: Process</p> <p>第13回:VELC Test (外部試験)</p> <p>第14回:Chapter 12: Problem - Solution</p> <p>第15回:Chapter 13: Reasons / Final Projects due</p> <p>第16回:Chapter 14: Time Order</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	Saburo Yamamura, et al. 『Writing Techniques for College Students』 (Kinseido, 2007)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 30%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 25%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 25%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。



## 教養教育科目

(1)整理番号	546
(2)区分番号	546
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、前期末外部試験について等)</p> <p>第2回 Unit 1 Paragraphs</p> <p>第3回 Unit 2 Developing Ideas for Writing a Paragraph</p> <p>第4回 Unit 3 Topic Sentences</p> <p>第5回 Unit 4 Supporting and Concluding Sentences</p> <p>第6回 Unit 5 Paragraph Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第7回 Unit 6 Definition Paragraphs</p> <p>第8回 Unit 7 Process Paragraphs</p> <p>第9回 Unit 8 Descriptive Paragraphs</p> <p>第10回 Unit 9 Opinion Paragraphs</p> <p>第11回 Unit 10 Narrative Paragraph</p> <p>第12回 Unit 11 Paragraphs in an essay: Putting it all together</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 Brief Writer's Handbook with Activities</p> <p>第15回 Review &amp; Final Exam</p> <p>第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習:教科書の各UnitにあるGrammar for WritingとBuilding Better Vocabularyを解いてから授業に参加してください (Assignments)。</p> <p>復習:Writing skillを理解し、それらを習得できるよう、授業中に行ったことを十分に復習してください。教科書の付属Online Workbook (MyELT) の課題を第14回までに全問正解してください (Assignments)。</p>

	自己評価と自律学習のためにPortfolioを活用します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Vestri Solomon (2014) 『The Great Writing Series, 2014 Edition Level 2』 CENGAGE Learning
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	547
(2)区分番号	547
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（WTの使用法について）/ パラグラフライティングの基本</p> <p>第2回：列挙、例示のパラグラフ/ 無生物主語</p> <p>第3回：因果関係のパラグラフ/ 動名詞と不定詞</p> <p>第4回：比較、対照のパラグラフ/ 関係代名詞</p> <p>第5回：分類、分析のパラグラフ/ 分詞</p> <p>第6回：定義、過程のパラグラフ/ 分詞構文</p> <p>第7回：時間的順序、理由のパラグラフ/ 省略、倒置</p> <p>第8回：中間試験/ 参考文献の書き方・引用の仕方I</p> <p>第9回：参考文献の書き方・引用の仕方II</p> <p>第10回：中間試験のフィードバック・期末課題調査</p> <p>第11回：メールの書き方・カジュアルな英文/ 時制</p> <p>第12回：期末課題調査・執筆I / 助動詞</p> <p>第13回：外部試験</p> <p>第14回：期末課題調査・執筆II / 副詞の位置</p> <p>第15回：期末課題 Peer review</p> <p>第16回：期末課題提出/ 総復習</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。          ※上記の教科書の内容に加え、時間制限もしくは語数制限ありのライティング課題を毎回課します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（第2回～第7回まで）</p> <p>・教科書の指定した範囲について内容を確認しておくこと。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Writing tutorを用い、1週間に2つ程度は確実に進めること。</li> <li>予習（第9回～第15回まで）</li> <li>・期末課題の作成のため、ブレインストーミング・文献調査・執筆を計画的に進めること。</li> <li>復習</li> <li>・授業時間内にクラスメイトに指摘されたエッセイの誤りや助言を修正し、推敲を重ねること。</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	山村三郎, 兼頭満里子, 小島章子. 『Writing Techniques for College Students—大学生の英語ライティング センテンスからパラグラフへ』, 金星堂.
(21)参考文献	<p>Writing学習用のe-learning system (Writing Tutor)を使用します。受講生全員に生協で約2000円で購入してもらいます。なお、使用できる期間は購入を指示した日から2ヶ月の間に限定されますので注意してください。</p> <p>本授業におけるライティングのフォーマットは下記のマニュアルに準拠します。図書館・イングリッシュラウンジに多数ありますので購入する必要はありません。</p> <p>American Psychological Association. (2010). Publication Manual of the American Psychological Association (Sixth Edition). Washington, D. C. : American Psychological Association.</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (Class activities) : 20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 20%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	文法項目やアカデミックライティングの説明は講義形式で行いますが、ライティング実習に関しては受講者同士でチェックし合った上で最終成果物を作成していくプロジェクト型の授業となります。受講者同士の積極的な意見交換が望まれます。
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</li> <li>2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。</li> <li>3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場</li> </ol>

	合、欠席とみなします。 4. 課題の提出は締切厳守です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	548
(2)区分番号	548
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 Unit 1 名詞の誤り(1) 前半 カタカナ語第1回グループワーク  第3回 Unit 1 名詞の誤り(1) 後半  第4回 Unit 1 名詞の誤り(1) 補足  第5回 Unit 2 名詞の誤り(2) 前半  第6回 Unit 2 名詞の誤り(2) 後半—カタカナ語第2回グループワーク  第7回 Unit 2 名詞の誤り(2) および Unit4 動詞の誤り(1) 前半  第8回 小テスト(1)および Unit 4 動詞の誤り(1) 後半  第9回 カタカナ語発表(1) および Unit 4 動詞の誤り(1) 補足  第10回 カタカナ語発表(2) および Unit 6 時制の誤り 前半  第11回 Unit 6 時制の誤り 後半  第12回 小テスト(2)および Unit 6 時制の誤り 補足  第13回 外部試験  第14回 新聞記事(1) および Unit 8 準動詞の誤り 前半  第15回 新聞記事(2) および Unit 8 準動詞の誤り 後半  第16回 期末試験と振り返り</p> <p>ユニットは最初に1、次に2、4と偶数番号で進んでいきます。  テキストの他にカタカナ語のグループワークがあります。期末に新聞記事を読みます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>毎回授業でやるところを予習してきてください。ユニット後半の英作文のExercise B,</p>

	<p>Exercise Cはもちろん、ユニットの最初のリーディングの部分も読んで訳していただきます。</p> <p>授業の後には、わからない単語や訳せない文(和訳、英訳)がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。</p> <p>期末に新聞記事を読みます。(速読の練習)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Common Errors in English Writing, 木塚春夫、Roger Northridge共著、Macmillan Language House
(21)参考文献	英文法の参考書(高校時代に使っていたものでもよい)。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果: 20%</p> <p>2. Participation (Class activities): 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project: 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study: 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>演習形式(クラス全体)およびグループワークもあり。</p> <p>発表は一人で行い、作文を黒板に書いて読み、さらに質問に答えることで一回分となります。</p> <p>原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。学期中必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く希望者全員が発表できない可能性が高いので、早めに発表をしておくことが重要です。</p> <p>ユニットの最初の会話文も読んで日本語にすることで発表となりますので予習してきてください。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>出席が3分の2ない場合や、授業中に授業と関係のないことをしていた場合は、評価の対象とはなりませんので注意してください。授業を受ける姿勢も評価されます。</p> <p>原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止ですが、例外があります。詳しくは最初の時間に説明します。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	549
(2)区分番号	549
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ウォーターズ 雅代 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph</p> <p>第2回 Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph, Unit 2. Trying to be Polite</p> <p>第3回 Unit 3. What Do You Think?</p> <p>第4回 Unit 4. This May Work!</p> <p>第5回 Unit 5. Writing a Cause and Effect Paragraph</p> <p>第6回 Unit 6. What Is an Essay?</p> <p>第7回 Unit 7. Who Am I?</p> <p>第8回 Unit 8.&amp;9. Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1)(2)</p> <p>第9回 Review Writing a paragraph Unit 10 That's a Good Point!</p> <p>第10回 Unit 10. &amp;11. That's a Good Point! (1)(2)</p> <p>第11回 Unit 12.&amp;13. How Are They Different? (1)</p> <p>第12回 Unit 14. How Are They Different? (2)</p> <p>第13回 英語外部試験</p> <p>第14回 Unit 14. Let's Sort It Out! (1)</p> <p>第15回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>第16回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>Review Final Exam</p> <p>*授業の進行状況により予定が変更になる場合はその都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（2時間以上）では各ユニットの本文を読んで、知らない語や文法は事前に調べ、本文を精読し、授業準備をしてから出席してください。復習（2時間以上）では、テキスト内容理解を深め、演習で書いた英文を再考</p>



	し、例文など応用しながら知識の定着に向けて努力することが大切です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Kate Elwood 『From Paragraph to Essay 』 (NAN' UN-DO)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習問題ではペア・ワーク、グループ・ワーク等、他の受講性とのコミュニケーションを積極的に図ることが要求されます。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯やスマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまって下さい。第一回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	550
(2)区分番号	550
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ヒュゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 イントロダクション &amp; Unit 1 (Starting from Scratch)</p> <p>第2回 Unit 2 (Home is Where Your Heart is)</p> <p>第3回 Unit 3 (You Only Live Once)</p> <p>第4回 Unit 4 (The Apple of Your Eye)</p> <p>第5回 Unit 5 (Actions Speak Louder than Words)</p> <p>第6回 Unit 6 (Once in a Blue Moon)</p> <p>第7回 Unit 7 (Saved by the Bell)</p> <p>第8回 Unit 8 (“X” Marks the Spot)</p> <p>第9回 Unit 9 (Format &amp; Structure Review) (Mid-term writing exam)</p> <p>第10回 Unit 10 (Variety is the Spice of Life)</p> <p>第11回 Unit 11 (It’s All Greek to Me)</p> <p>第12回 Unit 12 (Everything but the Kitchen Sink)</p> <p>第13回 英語外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回 Unit 13 (Haste Makes Waste)</p> <p>第15回 Unit 15 (Bigger is Better)</p> <p>第16回 授業の内容まとめ＋期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習は事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。</p> <p>復習として各ユニットのWriting in Actionの作成と確認。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Writing Together - From Sentence to Paragraph; Mark D. Stafford (Kinseido, 2014) ISBN: 978-4-7647-3977-2
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study : 30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	551
(2)区分番号	551
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	川浪 亜弥子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 Introduction コースの全体の流れについて解説します。</p> <p>2 Paragraphs (1)</p> <p>3 Paragraphs (2)</p> <p>4 Developing Ideas for Writing a Paragraph</p> <p>5 Topic Sentences (1)</p> <p>6 Topic Sentences (2)</p> <p>7 Supporting and Concluding Sentences (1)</p> <p>8 Supporting and Concluding Sentences (2)</p> <p>9 Definition Paragraphs</p> <p>10 Process Paragraphs</p> <p>11 Descriptive Paragraphs</p> <p>12 Opinion Paragraphs</p> <p>13 外部試験</p> <p>14 Narrative Paragraphs</p> <p>15 Summary + Examination</p> <p>16 Feedback</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各授業で学んだエッセイを書くための知識を、復習することでしっかりとみにつけてもらいたい。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Great Writing (Cengage Learning, 2014)
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p>

	<p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : (Examination 1回:20%、Paper 1回: 20%) 4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習、反復実践練習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	552
(2)区分番号	552
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	曾我 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(1回目)オリエンテーション + Chapter 1 パラグラフとは( + Chapter 19 一貫性と流れ)</p> <p>(2回目) Chapter 2 列挙</p> <p>(3回目) Chapter 3 例示</p> <p>(4回目) Chapter 4 原因・結果</p> <p>(5回目) Chapter 5 結果・原因</p> <p>(6回目) Chapter 6 比較</p> <p>(7回目) Chapter 7 対象</p> <p>(8回目) Chapter 8 分類 + Chapter 9 分析 + Writing試験</p> <p>(9回目) Chapter 10 定義</p> <p>(10回目) Chapter 11 過程</p> <p>(11回目) Chapter 12 問題解決策 + Chapter 13 理由</p> <p>(12回目) Chapter 14 時間的順序 + Chapter 15 空間的配列</p> <p>(13回目) 外部試験(VELC Test)</p> <p>(14回目) Chapter 16 意見 + Chapter 17 類推</p> <p>(15回目) Chapter 18 エッセイ(1) + Chapter 19 エッセイ(2) + Chapter 20 要約</p> <p>(16回目) Writing試験返却・コメント + 期末評価</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○毎回の講義で扱う章のSample Paragraphをすべて読み、隣ページの問題を解いてきてください。</p> <p>○その章のFor Better Writing[A]~[C]の問題を、指定したとおり解いてきてください(1回目の講義でその説明をします)。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Saburo Yamamura他『Writing Techniques for College Students』（金星堂）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. VELC Test の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination : 30% (Writing : 12% + 期末試験 : 18%)</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。  ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の中では、テキストの問題以外にもいくつか練習問題を行いながら、英文の形式や考え方に慣れていきます。
(25)留意点・予備知識	出席回数が授業回数の3分の2以上なければ「不可」となります。予習をきちんと行うこと。各講義時に宿題（課題）を与えるので、その提出を怠らないこと。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	553
(2)区分番号	553
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	片桐 早苗(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、Cooperative Learningについて、評価について、など)</p> <p>第2回 Chapter 1 パラグラフとは、作文してみよう</p> <p>第3回 作文をチェックしてみる、Chapter 2 無生物主語</p> <p>第4回 Chapter 3 名詞構文 &amp; Chapter 13 「時」を表す表現を主語にして</p> <p>第5回 Chapter 4 動名詞 &amp; Chapter 7 不定詞</p> <p>第6回 Writing 1</p> <p>第7回 Chapter 5 副詞 &amp; Chapter 6 関係副詞</p> <p>第8回 前半の学習状況の確認(試験を含む)&amp;振り返り</p> <p>第9回 Chapter 9 関係代名詞</p> <p>第10回 Chapter 10 分詞構文</p> <p>第11回 Chapter 11 分詞</p> <p>第12回 Chapter 16 時制</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 後半の学習状況の確認(試験を含む)&amp; Writing 2</p> <p>第15回 Writing 3</p> <p>第16回 パラグラフの書き方について(構成、トピックセンテンス、フォーマットについて自分の書いてきた全作文を用いて振り返る)、文法の弱点を振り返る</p> <p>学習状況、授業の進行状況により、シラバスと実際の授業の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>



(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 各時間で学習が予定されているChapterについて、予習すべき内容をお知らせしますので、必ず予習して参加してください。学習時間2時間程度。</p> <p>[復習] 板書されたことなどを参考に、学習した文法事項が理解できたか復習しましょう。作文は、添削、チェックリストなどを参考にし、書き直してみましょう。学習時間2時間程度。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Saburo Yamamura他, Writing Techniques for College Students, 2007, 金星堂
(21)参考文献	英和辞書、和英辞書、高校で使っていた文法書など
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習によって進めます。活動内容によっては、ペア、個人での学習となります。初回授業で説明するCooperative Learningの理論に基づき、自律した学習者となることを目指し、各自の学習、グループでの活動、学習記録、Reflection(振り返り)を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	554
(2)区分番号	554
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 ママス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: Introduction to process writing, paragraph format, and paragraph structure</p> <p>Week2: Hometown</p> <p>Week3: Lifestyle</p> <p>Week4: Influential people</p> <p>Week5: Character</p> <p>Week6: Memorable events</p> <p>Week7: Impressions of school life</p> <p>Week8: Favorite places</p> <p>Week9: Review and Quiz1(1~8)</p> <p>Week10: Styles &amp; fads</p> <p>Week11: Impressions of culture</p> <p>Week12: Important things</p> <p>Week13: VELC試験</p> <p>Week14: Decisions/ Review</p> <p>Week15: Introduction to essay writing</p> <p>Week16: Quiz2(9~15) and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：各unitのGetting Started Part Aに目を通しディスカッションに参加できるようにしっかりと質問に答えておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing Together From Sentence to Paragraph KINSEIDO社 Mark D. Stafford 著
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 % 4. Assignments/Self-study : 20 % ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	間違いを恐れずに積極的にクラスに参加しましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	555
(2)区分番号	555
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回Orientation and Introduction  第2回Unit 1 Process writing, paragraph format, paragraph structure  第3回Unit 2 Creating Topic Sentences  第4回Unit 3 Improving Topic Sentences  第5回Unit 4 Creating Supporting Sentences  第6回Unit 5 Improving Supporting Sentences  第7回Unit 6 Creating Detail Sentences  第8回Unit 7 Improving Detail Sentences  第9回Unit 8 Creating Concluding Sentences  第10回Unit 9 &amp;10 Format &amp; Structure Review, Unity  第11回Unit 11 Coherence  第12回Unit 12 Cohesion, Unit 13 Editing Techniques  第13回External English Test (VELC Test)  第14回Unit15 Paragraph to Essay  第15回Unit 14 Style Review, General Review  第16回Final Exam, Feedback, Wrap-up  * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指示されたユニットを、辞書もよく使って読んで来ててください。そのユニットの練習問題を解き、疑問点を把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Mark D. Stafford著, Writing Together (Kinseido金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 40% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワークを含む
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストはすべて英語で書かれていますので、予習は必須です。</li> <li>・疑問点など遠慮なく授業中・授業後に尋ねてください。</li> <li>・辞書を必ず持参すること。スマートフォン等での代用は不可です。</li> <li>・休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。(クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。)</li> </ul>
(26)オフィスアワー	決まっていますが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業初回にお知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	556
(2)区分番号	556
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ペランド ション ニコラス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回:Introduction: Class overview, Paragraphs</p> <p>第2回:Chapter 2: Listing</p> <p>第3回:Chapter 3: Examples</p> <p>第4回:Chapter 4: Cause and Effect</p> <p>第5回:Chapter 5: Effect and Cause</p> <p>第6回:Chapter 6: Comparison</p> <p>第7回:Chapter 7: Contrast</p> <p>第8回:Chapter 8: Classification / Midterm Projects due</p> <p>第9回:Midterm Project Evaluations</p> <p>第10回:Chapter 9: Analysis</p> <p>第11回:Chapter 10: Definition</p> <p>第12回:Chapter 11: Process</p> <p>第13回:VELC Test (外部試験)</p> <p>第14回:Chapter 12: Problem - Solution</p> <p>第15回:Chapter 13: Reasons / Final Projects due</p> <p>第16回:Chapter 14: Time Order</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>当日のChapterを事前に読み、授業で作成していく単語帳（スマホ版も紹介します）を5～10分ほどおさらいすること。授業で出された宿題はMoodleで提出する形となっています。授業を欠席した場合、その日の宿題をMoodleで確認し、提出してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	Saburo Yamamura, et al. 『Writing Techniques for College Students』 (Kinseido, 2007)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 30% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 25% 4. Assignments/Self-study : 25% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワークやグループ・ワークが中心となります。レクチャーは必要程度で、活動の説明や見本を受けてから、グループで教科書の活動、プロジェクト活動、発表などを行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語は実際に「使ってみる」ことで取得できます。楽しんで使っていればさらに上達します。授業内・外の活動に積極的に参加し、優しい・楽しい授業作りにご協力を願います。</li> <li>●外部試験や小テストは行いますが、授業内外の活動「参加度」を重視します。間違えても大丈夫という感覚で、授業の活動に積極的に参加してください。</li> <li>●理由なしの欠席は、その日のParticipation（参加度）点数が0%となります。授業3分の1以上（5回以上）欠席の場合は不可となりますので、ご注意ください。健康診断など、止むを得ずに欠席した場合は必ず講師に伝えてください。</li> <li>●遅刻は20分まで0.5回欠席となり、20分以上は欠席となります。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	bellando*hirosaki-u.ac.jp（「*」を「@」に置き換えてください。）
(28)その他	ゲスト参加や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。

## 教養教育科目

(1)整理番号	557
(2)区分番号	557
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス（WTの使用法について）/ パラグラフライティングの基本</p> <p>第2回：列挙、例示のパラグラフ/ 無生物主語</p> <p>第3回：因果関係のパラグラフ/ 動名詞と不定詞</p> <p>第4回：比較、対照のパラグラフ/ 関係代名詞</p> <p>第5回：分類、分析のパラグラフ/ 分詞</p> <p>第6回：定義、過程のパラグラフ/ 分詞構文</p> <p>第7回：時間的順序、理由のパラグラフ/ 省略、倒置</p> <p>第8回：中間試験/ 参考文献の書き方・引用の仕方I</p> <p>第9回：参考文献の書き方・引用の仕方II</p> <p>第10回：中間試験のフィードバック・期末課題調査</p> <p>第11回：メールの書き方・カジュアルな英文/ 時制</p> <p>第12回：期末課題調査・執筆I / 助動詞</p> <p>第13回：外部試験</p> <p>第14回：期末課題調査・執筆II / 副詞の位置</p> <p>第15回：期末課題 Peer review</p> <p>第16回：期末課題提出/ 総復習</p> <p>※授業予定はおおよその目安であり、進度によって内容が変更になることがあります。          ※上記の教科書の内容に加え、時間制限もしくは語数制限ありのライティング課題を毎回課します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（第2回～第7回まで）</p> <p>・教科書の指定した範囲について内容を確認しておくこと。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Writing tutorを用い、1週間に2つ程度は確実に進めること。</li> <li>予習（第9回～第15回まで）</li> <li>・期末課題の作成のため、ブレインストーミング・文献調査・執筆を計画的に進めること。</li> <li>復習</li> <li>・授業時間内にクラスメイトに指摘されたエッセイの誤りや助言を修正し、推敲を重ねること。</li> </ul>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	山村三郎, 兼頭満里子, 小島章子. 『Writing Techniques for College Students—大学生の英語ライティング センテンスからパラグラフへ』, 金星堂.
(21)参考文献	<p>Writing学習用のe-learning system (Writing Tutor)を使用します。受講生全員に生協で約2000円で購入してもらいます。なお、使用できる期間は購入を指示した日から2ヶ月の間に限定されますので注意してください。</p> <p>本授業におけるライティングのフォーマットは下記のマニュアルに準拠します。図書館・イングリッシュラウンジに多数ありますので購入する必要はありません。</p> <p>American Psychological Association. (2010). Publication Manual of the American Psychological Association (Sixth Edition). Washington, D. C. : American Psychological Association.</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部試験の結果 : 20%</li> <li>2. Participation (Class activities) : 20%</li> <li>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</li> <li>4. Assignments/Self-study : 20%</li> </ol> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	文法項目やアカデミックライティングの説明は講義形式で行いますが、ライティング実習に関しては受講者同士でチェックし合った上で最終成果物を作成していくプロジェクト型の授業となります。受講者同士の積極的な意見交換が望まれます。
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</li> <li>2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。</li> <li>3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場</li> </ol>

	合、欠席とみなします。 4. 課題の提出は締切厳守です。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 それ以外の時間帯は事前に下記メールアドレスに連絡を入れるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	558
(2)区分番号	558
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	野呂 佐枝子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 名詞の誤り(1) 前半 カタカナ語第1回グループワーク</p> <p>第3回 Unit 1 名詞の誤り(1) 後半</p> <p>第4回 Unit 1 名詞の誤り(1) 補足</p> <p>第5回 Unit 4 動詞の誤り(1) 前半</p> <p>第6回 Unit 4 動詞の誤り(1) 後半—カタカナ語第2回グループワーク</p> <p>第7回 Unit 4 動詞の誤り(1) および Unit 7 &lt;動詞+名詞&gt; 表現の誤り 前半</p> <p>第8回 小テスト(1) および Unit 7 &lt;動詞+名詞&gt; 表現の誤り 後半</p> <p>第9回 カタカナ語発表(1) および Unit 7 &lt;動詞+名詞&gt; 表現の誤り 補足</p> <p>第10回 カタカナ語発表(2) および Unit 9 形容詞の誤り(1) 前半</p> <p>第11回 Unit 9 形容詞の誤り(1) 後半</p> <p>第12回 小テスト(2) および Unit 9 形容詞の誤り(1) 補足</p> <p>第13回 外部試験</p> <p>第14回 新聞記事(1) および Unit 11 副詞の誤り 前半</p> <p>第15回 新聞記事(2) および Unit 11 副詞の誤り 後半</p> <p>第16回 期末試験と振り返り</p> <p>ユニットは1、4、7、9、11と進んでいきます。 テキストの他にカタカナ語のグループワークがあります。期末に新聞記事を読みます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	<p>毎回授業でやるところを予習してきてください。ユニット後半の英作文のExercise B, Exercise Cはもちろん、ユニットの最初のリーディングの部分も読んで訳していただきます。</p> <p>授業の後は、わからない単語や訳せない文(和訳、英訳)がないように復習しておくこと。毎回ではありませんが宿題もあります。</p> <p>期末に新聞記事を読みます。(速読の練習)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Common Errors in English Writing, 木塚春夫、Roger Northridge共著、Macmillan Language House
(21)参考文献	英文法の参考書(高校時代に使っていたものでよい)。あとは授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果: 20%</p> <p>2. Participation (Class activities): 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project: 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study: 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>演習形式(クラス全体)およびグループワークもあり。</p> <p>発表は一人で行い、作文を黒板に書いて読み、さらに質問に答えることで一回分となります。</p> <p>原則としてこちらから指名はせず、希望者には挙手をして発表していただきます。発表したい人は積極的に手を挙げてください。希望者が2名以上いる場合は、公平に機会が得られるようにその都度発表者を決めます。学期中必ず一度は発表する必要がありますが、期末は希望者が多く希望者全員が発表できない可能性が高いので、早めに発表をしておくことが重要です。</p> <p>ユニットの最初の会話文も読んで日本語にすることで発表となりますので予習してきてください。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>出席が3分の2ない場合や、授業中に授業と関係のないことをしていた場合は、評価の対象とはなりませんので注意してください。授業を受ける姿勢も評価されます。</p> <p>原則として授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止ですが、例外があります。詳しくは最初の時間に説明します。</p>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	559
(2)区分番号	559
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ウォーターズ 雅代 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph</p> <p>第2回 Unit 1. I Am Going to Write One Paragraph, Unit 2. Trying to be Polite</p> <p>第3回 Unit 3. What Do You Think?</p> <p>第4回 Unit 4. This May Work!</p> <p>第5回 Unit 5. Writing a Cause and Effect Paragraph</p> <p>第6回 Unit 6. What Is an Essay?</p> <p>第7回 Unit 7. Who Am I?</p> <p>第8回 Unit 8.&amp;9. Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1)(2)</p> <p>第9回 Review Writing a paragraph Unit 10 That's a Good Point!</p> <p>第10回 Unit 10. &amp;11. That's a Good Point! (1)(2)</p> <p>第11回 Unit 12.&amp;13. How Are They Different? (1)</p> <p>第12回 Unit 14. How Are They Different? (2)</p> <p>第13回 英語外部試験</p> <p>第14回 Unit 14. Let's Sort It Out! (1)</p> <p>第15回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>第16回 Unit 15. Let's Sort It Out! (2)</p> <p>Review Final Exam</p> <p>*授業の進行状況により予定が変更になる場合はその都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習（2時間以上）では各ユニットの本文を読んで、知らない語や文法は事前に調べ、本文を精読し、授業準備をしてから出席してください。復習（2時間以上）では、テキスト内容理解を深め、演習で書いた英文を再考</p>

	し、例文など応用しながら知識の定着に向けて努力することが大切です。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Kate Elwood 『From Paragraph to Essay 』 (NAN' UN-DO)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習問題ではペア・ワーク、グループ・ワーク等、他の受講性とのコミュニケーションを積極的に図ることが要求されます。
(25)留意点・予備知識	電子辞典以外の電子機器の使用禁止。携帯やスマホ、タブレット等の電源を切りカバンの中にしまって下さい。第一回目は発音練習のために手鏡を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	560
(2)区分番号	560
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	フォーサイ エドワード (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回： イントロダクション（授業の進め方など）</p> <p>第2回： Lesson 1: Narrative Paragraphs</p> <p>第3回： Lesson 2: Narrative Paragraphs</p> <p>第4回： Lesson 3: Descriptive Paragraphs</p> <p>第5回： Lesson 4: Descriptive Paragraphs</p> <p>第6回： Lesson 5: Comparison / Contrast Paragraphs</p> <p>第7回： Lesson 6: Comparison / Contrast Paragraphs</p> <p>第8回： Lesson 7: Cause and Effect Paragraphs</p> <p>第9回： Lesson 8: Cause and Effect Paragraphs</p> <p>第10回： Lesson 9: Summary Paragraphs</p> <p>第11回： Lesson 10: Summary Paragraphs</p> <p>第12回： Lesson 11: Opinion Paragraphs</p> <p>第13回： VELC Examination</p> <p>第14回： Lesson 12: Opinion Paragraphs</p> <p>第15回： Review and Final Exam</p> <p>第16回： Final Exam Feedback and Essays for Examinations Discussions</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。</p> <p>復習：授業の内容を十分に復習してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing for Fluency and Accuracy (ISBN: 978-4-86312-306-9)
(21)参考文献	特にありません。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>色々な英語ライティングスタイルを学びながら英語のライティングスキルを向上します。授業中で学生は自分のスマートフォンとパソコンを使うこととなります。</p>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となり</li> <li>・遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。</li> <li>遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> <li>・毎回の授業参加と十分な予習が必要です。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:forsythe@hirogaku-u.ac.jp">forsythe@hirogaku-u.ac.jp</a>
(28)その他	授業中スマートフォンやタブレットパソコンを使うこととなります。持っていない学生は1回目の授業で先生に教えてください。



## 教養教育科目

(1)整理番号	561
(2)区分番号	561
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	ヒュゴソン アルヴァル (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 イントロダクション &amp; Unit 1 (Starting from Scratch)</p> <p>第2回 Unit 2 (Home is Where Your Heart is)</p> <p>第3回 Unit 3 (You Only Live Once)</p> <p>第4回 Unit 4 (The Apple of Your Eye)</p> <p>第5回 Unit 5 (Actions Speak Louder than Words)</p> <p>第6回 Unit 6 (Once in a Blue Moon)</p> <p>第7回 Unit 7 (Saved by the Bell)</p> <p>第8回 Unit 8 (“X” Marks the Spot)</p> <p>第9回 Unit 9 (Format &amp; Structure Review) (Mid-term writing exam)</p> <p>第10回 Unit 10 (Variety is the Spice of Life)</p> <p>第11回 Unit 11 (It’s All Greek to Me)</p> <p>第12回 Unit 12 (Everything but the Kitchen Sink)</p> <p>第13回 英語外部試験 (VELC Test)</p> <p>第14回 Unit 13 (Haste Makes Waste)</p> <p>第15回 Unit 15 (Bigger is Better)</p> <p>第16回 授業の内容まとめ＋期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習は事前に指定されたユニットの英文を読み、練習問題を解いてください。</p> <p>復習として各ユニットのWriting in Actionの作成と確認。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Writing Together - From Sentence to Paragraph; Mark D. Stafford (Kinseido, 2014) ISBN: 978-4-7647-3977-2
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30% 4. Assignments/Self-study : 30% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	562
(2)区分番号	562
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	川浪 亜弥子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 Introduction コースの全体の流れについて解説します。</p> <p>2 Paragraphs (1)</p> <p>3 Paragraphs (2)</p> <p>4 Developing Ideas for Writing a Paragraph</p> <p>5 Topic Sentences (1)</p> <p>6 Topic Sentences (2)</p> <p>7 Supporting and Concluding Sentences (1)</p> <p>8 Supporting and Concluding Sentences (2)</p> <p>9 Definition Paragraphs</p> <p>10 Process Paragraphs</p> <p>11 Descriptive Paragraphs</p> <p>12 Opinion Paragraphs</p> <p>13 外部試験</p> <p>14 Narrative Paragraphs</p> <p>15 Summary + Examination</p> <p>16 Feedback</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各授業で学んだエッセイを書くための知識を、復習することでしっかりとみにつけてもらいたい。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Great Writing (Cengage Learning, 2014)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p>

	<p>3. Examination/Presentation/Paper/Project (Examination 1回:20%、Paper 1回:20%)</p> <p>4. Assignments/Self-study : 20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習、反復実践練習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	563
(2)区分番号	563
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	曾我 純子(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>(1回目)オリエンテーション + Chapter 1 パラグラフとは( + Chapter 19 一貫性と流れ)</p> <p>(2回目) Chapter 2 列挙</p> <p>(3回目) Chapter 3 例示</p> <p>(4回目) Chapter 4 原因・結果</p> <p>(5回目) Chapter 5 結果・原因</p> <p>(6回目) Chapter 6 比較</p> <p>(7回目) Chapter 7 対象</p> <p>(8回目) Chapter 8 分類 + Chapter 9 分析 + Writing試験</p> <p>(9回目) Chapter 10 定義</p> <p>(10回目) Chapter 11 過程</p> <p>(11回目) Chapter 12 問題解決策 + Chapter 13 理由</p> <p>(12回目) Chapter 14 時間的順序 + Chapter 15 空間的配列</p> <p>(13回目) 外部試験(VELC Test)</p> <p>(14回目) Chapter 16 意見 + Chapter 17 類推</p> <p>(15回目) Chapter 18 エッセイ(1) + Chapter 19 エッセイ(2) + Chapter 20 要約</p> <p>(16回目) Writing試験返却・コメント + 期末評価</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○毎回の講義で扱う章のSample Paragraphをすべて読み、隣ページの問題を解いてきてください。</p> <p>○その章のFor Better Writing[A]~[C]の問題を、指定したとおり解いてきてください(1回目の講義でその説明をします)。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Saburo Yamamura他『Writing Techniques for College Students』（金星堂）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. VELC Test の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination : 30% (Writing : 12% + 期末試験 : 18%)</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。  ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。授業の中では、テキストの問題以外にもいくつか練習問題を行いながら、英文の形式や考え方に慣れていきます。
(25)留意点・予備知識	出席回数が授業回数の3分の2以上なければ「不可」となります。予習をきちんと行うこと。各講義時に宿題（課題）を与えるので、その提出を怠らないこと。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	564
(2)区分番号	564
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	荒田 弘美 マクナス (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week1: Introduction to process writing, paragraph format, and paragraph structure</p> <p>Week2: Hometown</p> <p>Week3: Lifestyle</p> <p>Week4: Influential people</p> <p>Week5: Character</p> <p>Week6: Memorable events</p> <p>Week7: Impressions of school life</p> <p>Week8: Favorite places</p> <p>Week9: Review and Quiz1(1~8)</p> <p>Week10: Styles &amp; fads</p> <p>Week11: Impressions of culture</p> <p>Week12: Important things</p> <p>Week13: VELC試験</p> <p>Week14: Decisions/ Review</p> <p>Week15: Introduction to essay writing</p> <p>Week16: Quiz2(9~15) and review</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>復習：授業内で指示します。</p> <p>予習：各unitのGetting Started Part Aに目を通しディスカッションに参加できるようにしっかりと質問に答えておくこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Writing Together From Sentence to Paragraph KINSEIDO社 Mark D. Stafford 著
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (class activities) : 20 % 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40 % 4. Assignments/Self-study : 20 % ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している4年次以上の学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストを中心に読み、書き、聞き、話す4つのスキルをバランスよく導入。
(25)留意点・予備知識	間違いを恐れずに積極的にクラスに参加しましょう。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	565
(2)区分番号	565
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小笠原 淑子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回Orientation and Introduction  第2回Unit 1 Process writing, paragraph format, paragraph structure  第3回Unit 2 Creating Topic Sentences  第4回Unit 3 Improving Topic Sentences  第5回Unit 4 Creating Supporting Sentences  第6回Unit 5 Improving Supporting Sentences  第7回Unit 6 Creating Detail Sentences  第8回Unit 7 Improving Detail Sentences  第9回Unit 8 Creating Concluding Sentences  第10回Unit 9 &amp;10 Format &amp; Structure Review, Unity  第11回Unit 11 Coherence  第12回Unit 12 Cohesion, Unit 13 Editing Techniques  第13回External English Test (VELC Test)  第14回Unit15 Paragraph to Essay  第15回Unit 14 Style Review, General Review  第16回Final Exam, Feedback, Wrap-up  * 授業の進行状況により多少の変更あり。その都度お知らせします。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指示されたユニットを、辞書もよく使って読んで来ててください。そのユニットの練習問題を解き、疑問点を把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Mark D. Stafford著, Writing Together (Kinseido金星堂)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 20% 4. Assignments/Self-study : 40% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペアワークを含む
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストはすべて英語で書かれていますので、予習は必須です。</li> <li>・疑問点など遠慮なく授業中・授業後に尋ねてください。</li> <li>・辞書を必ず持参すること。スマートフォン等での代用は不可です。</li> <li>・休んだ場合、課題、宿題等についての確認を怠らないこと。(クラスメートに尋ねる、または講師にメールで確認。「休んだので宿題をやっていない」は理由になりません。)</li> </ul>
(26)オフィスアワー	決まっていますが、相談の上、日にちと時間を設定します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業初回にお知らせします。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	566
(2)区分番号	566
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	奥野 浩子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：授業方針の説明とIntroduction</p> <p>第2回 Unit 1 名詞の誤り（1）</p> <p>第3回 Unit 2 名詞の誤り（2）+ 小テスト</p> <p>第4回 Unit 3 冠詞の誤り+ 小テスト</p> <p>第5回 Unit 4 動詞の誤り（1）+ 小テスト</p> <p>第6回 Unit 5 動詞の誤り（2）+ 小テスト</p> <p>第7回 Unit 6 時制の誤り+ 小テスト</p> <p>第8回 Unit 7 &lt;動詞+名詞&gt;の誤り+ 小テスト</p> <p>第9回 Unit 8 準動詞の誤り+ 小テスト</p> <p>第10回 Unit 9 形容詞の誤り（1）+ 小テスト</p> <p>第11回 Unit 10 形容詞の誤り+ 小テスト</p> <p>第12回 Unit 11 副詞の誤り+ 小テスト</p> <p>第13回 英語外部試験テスト</p> <p>第14回 Unit 12 比較の誤り+ 小テスト</p> <p>第15回 Unit 13 関係詞の誤り+ 小テスト</p> <p>第16回 期末テストとまとめ</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	必ず予習をして授業に参加して下さい。毎週、前回の内容について小テストを行いますから復習も怠らないようにしてください。予習・復習については、各時間ごとにその内容を指定します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Common Errors in English Writing (Macmillan Languagehouse)
(21)参考文献	特になし

(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果：20% 2. Participation (Class activities)：40% 3. Examination/Presentation/Paper/Project：20% 4. Assignments/Self-study：20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	徹底的な英語のトレーニング
(25)留意点・予備知識	トレーニングなので、体調を万全にして出席に臨んでください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	huhokuno@gmail.com
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	567
(2)区分番号	567
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (中級) (Intermediate Writing)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『Writing for Business』について等)</p> <p>第2回 Level 4: Accepting an invitation to an event/Level 5: Arranging a first-time meeting</p> <p>第3回 Level 4: Announcing the agenda of a meeting/Level 5: Complaining about errors with a faulty product</p> <p>第4回 Level 4: Apologizing for a delay in delivery/Level 5: Complaining about late delivery</p> <p>第5回 Level 4: Arranging a meeting/Level 5: Following up on a request for information</p> <p>第6回 Level 4: Confirming attendance at a meeting/Level 5: Inviting someone to an event</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 Level 4: Confirming/explaining travel arrangements/Level 5: Negotiating business terms</p> <p>第9回 Level 4: Explaining a process/Level 5: Notifying co-workers of a change in procedure</p> <p>第10回 Level 4: Following up on a first meeting/cold call/Level 5: Proposing a new product or service</p> <p>第11回 Level 4: Invoicing for a product or service/Level 5: Reminding a colleague about something (while you are on vacation)</p> <p>第12回 Level 4: Notifying co-workers of</p>

	<p>company news/Level 5: Reporting back on a meeting  第13回 外部試験  第14回 Level 4: Ordering a product or service/Level 5: Reporting progress on a project  第15回 Review &amp; Final Exam  第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降は、レベル診断の結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：なし</p> <p>教材：『Writing for Business』  Reallyenglish（第1回で購入方法を説明します。）</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%  2. Participation (Class activities)：30%  3. Examination/Presentation/Paper/Project：30%  4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。  2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。  3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00  木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	568
(2)区分番号	568
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ラッシュ アンソニー スコット (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラフラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>The class will follow the textbook outline.</p> <p>Week 1 Unit 1 Describing Things</p> <p>Week 2 Unit 2 Describing People</p> <p>Week 3 Unit 3 Describing Process</p> <p>Week 4 Unit 4 Generalization</p> <p>Week 5 Unit 5 Definition</p> <p>Week 6 Unit 6 Instruction</p> <p>Week 7 Unit 7 Explanation</p> <p>Week 8 Unit 8 Comparison</p> <p>Week 9 Unit 9 Contrast</p> <p>Week 10 Unit 10 Cause and Result</p> <p>Week 11 Unit 11 Cause and Unexpected Result</p> <p>Week 12 Unit 12 Prediction</p> <p>Week 13 外部試験</p> <p>Week 14 Unit 13 Opinion</p> <p>Week 15 Review and Final Writing (1)</p> <p>Week 16 Review and Final Writing (2)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students will be expected to prepare themes on which to write prior to class and write as a review of class activities outside of class on the themes and organizational strategies that are studied in the class. These will be reviewed each week by the instructor.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	Composition Upgrade: Think, Organize and Write, Anthony Rausch, Sanshusha
(21)参考文献	None
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The class will involve reading the textbook accompanied by in-class writing. Assignments for writing will be given.
(25)留意点・予備知識	None
(26)オフィスアワー	everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:asrausch@hirosaki-u.ac.jp">asrausch@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	None



## 教養教育科目

(1)整理番号	569
(2)区分番号	569
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	バード・セル・ブライアン・ジョン (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: 10月3日 Introduction to the Class</p> <p>Week 2: 10月10日 Unit 1: Introduction to the Essay - Environmental Studies (Journal Entry #1)</p> <p>Week 3: 10月17日 Unit 2: Comparison and Contrast Essay 1 - Education (Journal Entry #2)</p> <p>Week 4: 10月24日 Unit 3: Comparison and Contrast Essay 1 - Sociology (Journal Entry #3)</p> <p>Week 5: 10月31日 Unit 3: Comparison and Contrast Essays 1 - Sociology (Compare &amp; Contrast Essay #1 Due)</p> <p>Week 6: 11月7日 Unit 4: Causes and Effects Essays - Technology: Sharing Online (Journal Entry #4)</p> <p>Week 7: 11月14日 Unit 4: Causes and Effects Essays - Technology: Sharing Online (Journal Entry #5)</p> <p>Week 8: 11月21日 Unit 5: Summary Essays - Health: Balanced Lifestyles (Cause &amp; Effect Essay #2 Due)</p> <p>Week 9: 11月28日 Unit 5: Summary Essays - Health (Journal Entry #6)</p> <p>Week 10: 12月5日 Unit 7: Argumentative Essays - Economics (Journal Entry #7)</p> <p>Week 11: 12月12日 Unit 7: Argumentative Essays - Economics (Journal Entry #8)</p> <p>Week 12: 12月19日 Unit 8: Argumentative Essays - Global Studies</p> <p>Week 13: 1月9日 *** VELC TEST ***</p> <p>Week 14: 1月23日 Unit 8: Argumentative Essays - Global Studies (Argumentative Essay #3 Due)</p> <p>Week 15: 1月30日 Unit 6: Summary - Response Essays - Behavioral Science</p> <p>Week 16: 2月6日 Review (Final Portfolios Due)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Each week you will be required to complete a reading and vocabulary practice from the textbook.</p> <p>There are 3 academic essays for this class that you will need to prepare and hand in.</p> <p>There are 8 journal entries that you need to complete throughout the term.</p> <p>You will also be required to complete a presentation.</p> <p>Finally you will need to turn in a final portfolio of your writings at the on the last day of class.</p> <p>You will also be expected to actively take part in the class activities (so it is important to complete the readings before class)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Final Draft 3
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will actively read material from the textbook and learn how to write different styles of academic essays and discuss them in small groups. In addition, we will also focus on journal writing or a more creative and free style of writing in English.
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>Tuesdays 15:00 ~ 17:00</p> <p>Thursdays 15:00 ~ 17:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>Email: <a href="mailto:brian@hirosaki-u.ac.jp">brian@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a></p>
(28)その他	<p>イングリッシュ・ラウンジ</p> <p><a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a></p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	570
(2)区分番号	570
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	ソモン ショシア (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること ○目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること
(15)授業の概要	○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。 ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。
(16)授業の内容予定	Week 1: Orientation Week 2: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays Week 3: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays, cont. Week 4: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays, cont. Week 5: Compare & Contrast Essays Week 6: Compare & Contrast Essays, cont. Week 7: Compare & Contrast Essays, cont. Week 8: Progress Test & in-class activities Week 9: Cause & Effect Essays Week 10: Cause & Effect Essays, cont. Week 11: Cause & Effect Essays, cont. Week 12: Cause & Effect Essays, cont. Week 13: VELC exam (外部試験) Week 14: Argumentative Essays Week 15: Argumentative Essays, cont. Week 16: Self Reflections
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate. [復習] Review class notes
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Lambert, Final Draft 3 (Cambridge, 2016)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 外部試験の結果 : 20% 2. Participation (Class activities) : 20% 3. Examination/Presentation/Paper/Project : 40% 4. Assignments/Self-study : 20% ※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	

	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:jsolomon@hirosaki-u.ac.jp">jsolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	571
(2)区分番号	571
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3-4時限
(10)担当教員(所属)	バード・セル・ブライアン・ジョン (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: 10月4日 Introduction to the Class</p> <p>Week 2: 10月11日 Unit 1: Introduction to the Essay - Environmental Studies (Journal Entry #1)</p> <p>Week 3: 10月18日 Unit 2: Comparison and Contrast Essay 1 - Education (Journal Entry #2)</p> <p>Week 4: 11月1日 Unit 3: Comparison and Contrast Essay 1 - Sociology (Journal Entry #3)</p> <p>Week 5: 11月8日 Unit 3: Comparison and Contrast Essays 1 - Sociology (Compare &amp; Contrast Essay #1 Due)</p> <p>Week 6: 11月15日 Unit 4: Causes and Effects Essays - Technology: Sharing Online (Journal Entry #4)</p> <p>Week 7: 11月22日 Unit 4: Causes and Effects Essays - Technology: Sharing Online (Journal Entry #5)</p> <p>Week 8: 11月29日 Unit 5: Summary Essays - Health: Balanced Lifestyles (Cause &amp; Effect Essay #2 Due)</p> <p>Week 9: 12月6日 Unit 5: Summary Essays - Health (Journal Entry #6)</p> <p>Week 10: 12月13日 Unit 7: Argumentative Essays - Economics (Journal Entry #7)</p> <p>Week 11: 12月20日 Unit 7: Argumentative Essays - Economics (Journal Entry #8)</p> <p>Week 12: 1月10日 Unit 8: Argumentative Essays - Global Studies</p> <p>Week 13: 1月16日 *** VELC TEST ***</p> <p>Week 14: 1月24日 Unit 8: Argumentative Essays - Global Studies (Argumentative Essay #3 Due)</p> <p>Week 15: 1月31日 Unit 6: Summary - Response Essays - Behavioral Science</p> <p>Week 16: 2月7日 Review (Final Portfolios Due)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Each week you will be required to complete a reading and vocabulary practice from the textbook.</p> <p>There are 3 academic essays for this class that you will need to prepare and hand in.</p> <p>There are 8 journal entries that you need to complete throughout the term.</p> <p>You will also be required to complete a presentation.</p> <p>Finally you will need to turn in a final portfolio of your writings at the on the last day of class.</p> <p>You will also be expected to actively take part in the class activities (so it is important to complete the readings before class)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Final Draft 3
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果 : 20%</p> <p>2. Participation (Class activities) : 20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project : 30%</p> <p>4. Assignments/Self-study : 30%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法(期末試験等)により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will actively read material from the textbook and learn how to write different styles of academic essays and discuss them in small groups. In addition, we will also focus on journal writing or a more creative and free style of writing in English.
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。</p> <p>2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>Tuesdays 15:00 ~ 17:00</p> <p>Thursdays 15:00 ~ 17:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>Email: <a href="mailto:brian@hirosaki-u.ac.jp">brian@hirosaki-u.ac.jp</a></p> <p>Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a></p>
(28)その他	<p>イングリッシュ・ラウンジ</p> <p><a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a></p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	572
(2)区分番号	572
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3-4時限
(10)担当教員(所属)	ソモン ショシア (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能（リスニング、リーディング、スピーキング）と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: Orientation</p> <p>Week 2: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays</p> <p>Week 3: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays, cont.</p> <p>Week 4: Brainstorming, Outlines, 5-Paragraph Essays, cont.</p> <p>Week 5: Compare &amp; Contrast Essays</p> <p>Week 6: Compare &amp; Contrast Essays, cont.</p> <p>Week 7: Compare &amp; Contrast Essays, cont.</p> <p>Week 8: Progress Test &amp; in-class activities</p> <p>Week 9: Cause &amp; Effect Essays</p> <p>Week 10: Cause &amp; Effect Essays, cont.</p> <p>Week 11: Cause &amp; Effect Essays, cont.</p> <p>Week 12: Cause &amp; Effect Essays, cont.</p> <p>Week 13: VELC exam (外部試験)</p> <p>Week 14: Argumentative Essays</p> <p>Week 15: Argumentative Essays, cont.</p> <p>Week 16: Self Reflections</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate.</p> <p>[復習] Review class notes</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Lambert, Final Draft 3 (Cambridge, 2016)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%</p> <p>2. Participation (Class activities)：20%</p> <p>3. Examination/Presentation/Paper/Project：40%</p> <p>4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	

	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:jsolomon@hirosaki-u.ac.jp">jsolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	イングリッシュ・ラウンジ <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCalendar.html</a>



## 教養教育科目

(1)整理番号	573
(2)区分番号	573
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Writing (上級) (Advanced Writing)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○英文法とパラグラフやエッセイの構成法を理解できるようになること</p> <p>○基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Orientation (シラバスの説明、『Writing for Business』について等)</p> <p>第2回 Level 4: Accepting an invitation to an event/Level 5: Arranging a first-time meeting</p> <p>第3回 Level 4: Announcing the agenda of a meeting/Level 5: Complaining about errors with a faulty product</p> <p>第4回 Level 4: Apologizing for a delay in delivery/Level 5: Complaining about late delivery</p> <p>第5回 Level 4: Arranging a meeting/Level 5: Following up on a request for information</p> <p>第6回 Level 4: Confirming attendance at a meeting/Level 5: Inviting someone to an event</p> <p>第7回 Review &amp; Midterm Exam</p> <p>第8回 Level 4: Confirming/explaining travel arrangements/Level 5: Negotiating business terms</p> <p>第9回 Level 4: Explaining a process/Level 5: Notifying co-workers of a change in procedure</p> <p>第10回 Level 4: Following up on a first meeting/cold call/Level 5: Proposing a new product or service</p> <p>第11回 Level 4: Invoicing for a product or service/Level 5: Reminding a colleague about something (while you are on vacation)</p> <p>第12回 Level 4: Notifying co-workers of</p>

	<p>company news/Level 5: Reporting back on a meeting  第13回 外部試験  第14回 Level 4: Ordering a product or service/Level 5: Reporting progress on a project  第15回 Review &amp; Final Exam  第16回 Final Exam Feedback &amp; Wrap-up</p> <p>第1回に自分の英語能力レベルを測定します。第2回以降は、レベル診断の結果を基に各自の英語能力に合ったレベルの英語学習を行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業で使用する『NetAcademy2』は学外からも自由にアクセスできますし、繰り返し学習することができます。『NetAcademy2』を活用して、授業の予習・復習やSelf-studyを行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>教科書：なし</p> <p>教材：『Writing for Business』  Reallyenglish（第1回で購入方法を説明します。）</p>
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 外部試験の結果：20%  2. Participation (Class activities)：30%  3. Examination/Presentation/Paper/Project：30%  4. Assignments/Self-study：20%</p> <p>※旧カリキュラムの読み替えとして履修している学生については、外部試験の結果を除いた評価方法（期末試験等）により100点満点で評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各自のペースで学習します。
(25)留意点・予備知識	<p>1. 積極的に授業に参加してください。  2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。  3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 10:30-12:00  木曜日 10:30-12:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	574
(2)区分番号	574
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated A
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	パートナーシップ・ブライアソン・ジョン(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の多様な英語 (Englishes) についての見識を深めること ○地域社会から世界情勢まで幅広い話題について、議論したり発信できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	Week 1: 4月16日   Introduction to the Class Week 2: 4月23日   Language 1 // Metaphorically speaking & the art of metaphor Week 3: 5月7日   Language 2 // How language shapes the way we think & the making of English Week 4: 5月14日   Culture 1 // Cross-cultural communication / Thailand Week 5: 5月21日   Culture 2 // Travel More & Buy Less (** Homework Assignment #1 Due **) Week 6: 5月28日   China // The Future of Good Food in China Week 7: 6月4日   USA // How Urban Agriculture is Transforming Detroit Week 8: 6月11日   *Poster Presentations and Feedback* Week 9: 6月18日   NYC-Global // A Garden in my Apartment Week 10: 6月25日   Nigeria // How I turned a Deadly Plant into a Thriving Benefit (** Homework Assignment #2 Due **) Week 11: 7月2日   Forests (Canada) // How Trees Talk to Each Other & Treeline Week 12: 7月9日   Mycology // 6 Ways Mushrooms can Save the World Week 13: 7月16日   GMOs: Good or Bad? // Pamela Ronald (Plant geneticist) & the case for engineering our food (** Homework Assignment #3 Due **) Week 14: 7月23日   Bio-mimicry Week 15: 7月30日   *** Final TEST ***

	Week 16: 8月6日   Review
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	TED Talksを教材とします。予習として、上記の授業内容に記載したTED Talks (+ other videos available on <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a> )で視聴し、内容とそれに対する自分の意見や、プレゼンテーション・スキルについてワーク・シートにまとめます。復習 (Assignments) としては、学習したVIDEOSについて英語でレポートにまとめます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：TED Talks: <a href="https://www.ted.com">https://www.ted.com</a> (available on my website <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a> )
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. Participation (Class activities) : 20% 2. Class Assignments: 50% 4. Final Exam: 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will watch videos, learn vocabulary and discuss in small groups a variety of global topics ranging from language, culture, farming, and the environment. In addition, we will focus on connecting the videos to the local world around us through writing activities and a poster presentation.
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	Tuesdays 15:00 ~ 17:00 Thursdays 15:00 ~ 17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Email: <a href="mailto:brian*hirosaki-u.ac.jp">brian*hirosaki-u.ac.jp</a> (*を@に置き換えてください) Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a>
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	575
(2)区分番号	575
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated A
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	立田 夏子(教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の多様な英語(Englishes)についての見識を深めること ○地域社会から世界情勢まで幅広い話題について、議論したり発信できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	第1回 Orientation 第2回 TED Talks 1: How to use a paper towel by Joe Smith 第3回 TED Talks 2: A skateboard with a boost by Sanjay Dastoor 第4回 TED Talks 3: Less stuff, more happiness by Graham Hill 第5回 HULEC CUP 1 第6回 Review: TED Talks 1-3 第7回 TED Talks 4: Should you donate differently? by Joy Sun 第8回 TED Talks 5: 3 rules to spark learning by Ramsey Musallan 第9回 TED Talks 6: A drone's-eye view of conservation by Lian Pin Koh 第10回 HULEC CUP 2 第11回 TED Talks 7: Students' choice 第12回 TED Talks 8: Students' choice 第13回 Review: TED Talks 4-8 第14回 Final Exam & Reflection 第15回 Final Exam Feedback & Wrap-up  第5回と第10回のHULEC CUPは、留学生をゲストに招き、他のIntegrated Aクラスと合同で行います。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	TED Talksを教材とします。予習として、上記の授業内容に記載したTED Talksを <a href="https://www.ted.com">https://www.ted.com</a> で視聴し、内容とそれに対する自分の意見や、プレゼンテーション・スキルについてワーク・シートにまとめます。復習(Assignments)としては、学習したTED Talksについて英語でレポートにまとめます。  Self-study: 各自でe-Learning教材を活用します。

(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし 教材：TED Talks: <a href="https://www.ted.com">https://www.ted.com</a> e-Learning教材：『Practical English 診断テスト付ミニコース50レッスン』(Reallyenglish)
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	Participation (Class activities) 30% + Final Exam 30% + Assignments 30% + e-Learning 10% Examの採点基準は、上記の到達目標に達したか否かです。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ペア・ワーク、グループ・ワーク
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	火曜日 10:30-12:00 木曜日 10:30-12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tatsuta*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	576
(2)区分番号	576
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated A
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 孝宏(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○世界の多様な英語(Englishes)についての見識を深めること ○地域社会から世界情勢まで幅広い話題について、議論したり発信できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	通常授業の前半は英語による発信、後半は英語ディベートに重点を置いて演習を行います。 また、第5回および10回目には、留学生をゲストに招き、中級クラスとの合同で演習を行います。  第1回 オリエンテーション 第2回 英語による発信① 第3回 英語による発信② 第4回 英語による発信③ 第5回 HULEC CUP 1 第6回 英語による発信④ 第7回 英語による発信⑤ 第8回 中間試験および前半部分のまとめ 第9回 英語ディベート① 第10回 HULEC CUP 2 第11回 英語ディベート② 第12回 英語ディベート③ 第13回 英語ディベート④ 第14回 英語ディベート⑤ 第15回 英語ディベート⑥ 第16回 期末試験  授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	英語による発信と議論には、1年次に学習した技能別4科目の更なる強化が不可欠です。そのため、e-learningシステムを利用した自習を週に4時間程度に行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜、授業で配布します。
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業・議論への参加 30% + e-learningシステムを用いた自習 10% + 中間試験 30% + 最終試験 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	プレゼンテーション、ペア・ワーク、グループワーク
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回としてカウントします。
(26)オフィスアワー	随時対応可能ですが、下記メールアドレスに連絡した上で、研究室（コラボ弘大811号室）に来てください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	t.sato@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし



教養教育科目

(1)整理番号	577
(2)区分番号	577
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated B Level1
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	パーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学術英語の基本的な語彙や文法を適切に使うことができるようになること ○大学の教養科目で扱われるような様々な学術分野について、特に聞く、読む活動を通して理解できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	Students will work in pairs and groups. They will make short and longer presentations. They will spend time in the English Lounge and practice interacting with international students. This is a flipped class meaning that much of the learning and participation will occur outside of the classroom. Week 1: Orientation; Moodle Assignments Week 2: Video work; Quick Speech "An Interesting Citrus"; Moodle Assignments Week 3: Group Discussions; Quick Speech "Farm to Table"; Moodle Assignments Week 4: Video work; Quick Speech "Plant-based diets"; Moodle Assignments Week 5: Group Discussions; Quick Speech "Molecular gastronomy" Moodle Assignments Week 6: Video work; Projects; Moodle Assignments Week 7: Group Discussions; Projects; Moodle Assignments Week 8: Video work; Vocabulary Exam Week 9: Presentations; Video Report proposals; Moodle Assignments Week 10: Video Work; Skit planning; Moodle Assignments Week 11: Video Work; Skit planning; Moodle Assignments Week 12: Rehearsal; Moodle Assignments Week 13: Skits; Moodle Assignments Week 14: Video Reports; Moodle Assignments Week 15: Video work; Quick Speech "Plant-based diets" Moodle Assignments Week 16: Review: Super Quiz Bowl; Moodle Reflection Report
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	Students must do all of the assignments and Moodle work. If group projects require outside meeting time, everyone should be sure to arrange to meet with their group. This is a priority over outside activities. Visiting the English Lounge and participating on Moodle are not optional.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Students will collect handouts and assignments and create a personal portfolio to turn in on the last day of class.
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	Participation 25% Examinations/Presentations/Papers/Projects 45 Assignments/Self-study 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Aural/Oral Activities: listening & pronunciation practice, grammar exercises (review/revision/augmentation), pair/group work, oral presentations in class and in the English Lounge, discussions, reading and some written assignments (partial translation) リスニング・発音練習、文保力をつける活動、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびリーディングとライティング活動
(25)留意点・予備知識	Classroom participation both in groups and in pairs is essential to learning how to communicate in a foreign language and will be a large part of the final grade for the class. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. A major project will be conducted in the EL at lunch time for which students are required both to present and to attend the presentation of other groups from the class. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened and attend a make-up class in the English Lounge, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class.  授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty, check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail for special guidance or individual assistance. (partial translation) イ

	<p>ングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イング リッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してくださ い。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p><a href="mailto:sberman@hirosaki-u.ac.jp">sberman@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a></p>
(28)その他	<p><a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a></p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	578
(2)区分番号	578
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated B Level1
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	横内 裕一郎 (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学術英語の基本的な語彙や文法を適切に使うことができるようになること ○大学の教養科目で扱われるような様々な学術分野について、特に聞く、読む活動を通して理解できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス・学力診断テスト・フィードバック 第2回 文型 第3回 動詞の活用・時制I 第4回 動詞の活用・時制II 第5回 動詞の活用・助動詞 第6回 実践演習I 第7回 名詞・代名詞 第8回 中間試験・振り返り 第9回 形容詞・副詞の用法I 第10回 形容詞・副詞の用法II 第11回 前置詞の用法 第12回 接続詞と関係詞 第13回 語順 第14回 実践演習II 第15回 期末試験 第16回 振り返り  ※授業予定はおおよその目安であり、進捗の状況によって内容が変更になることがあります。 ※上記の文法事項はあくまで教科書・教材の範囲であり、その他にリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの活動も実施します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：教科書の指定された範囲の問題に解答して来てください。予習が不十分である場合、予習課題点が与えられません。 復習：授業内で学習した文法事項について必ず個人で復習しておいてください。翌週の授業でその文法事項を含んだ小テストを実施します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	英語表現力養成 新・英作文ノート 英語運用力養成 新・英文法ノート ※上記2冊とも使用します。両方を必ず購入してください。
(21)参考文献	適宜授業内に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト：24% 中間試験：30% 期末試験：30% 予習課題：16%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業の前半は予習課題の確認とその解説を行う。その後、小テストを実施し、その振り返りと英作文問題に関しては学生同士での討論を実施する。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 20分以上遅刻した場合、授業には参加しても構いませんが欠席扱いとします。また、グループワーク等の進行状況次第では活動に参加できない場合があります。また、遅刻2回で欠席1回の扱いとします。 3. 第1回の授業はMoodleの設定など非常に重要な手続きを授業内で行います。初回の授業を欠席する場合は、第2回の授業までに講師に内容を確認するようにしてください。第2回以降の授業でMoodleが使えない状況であった場合、欠席とみなします。
(26)オフィスアワー	水曜5・6限 その他の時間帯は必ず事前にメールで予約を入れてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.yokouchi★hirosaki-u.ac.jp (★を半角@に置き換えてください)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	579
(2)区分番号	579
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated B Level1
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 孝宏(農学生命科学部)、佐藤 加寿子(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学術英語の基本的な語彙や文法を適切に使うことができるようになること ○大学の教養科目で扱われるような様々な学術分野について、特に聞く、読む活動を通して理解できるようになること
(15)授業の概要	○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く ○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる
(16)授業の内容予定	第1回 Introduction, リーディング・リスニング総合演習A① 第2回 リーディング・リスニング総合演習A② 第3回 リーディング・リスニング総合演習A③ 第4回 リーディング・リスニング総合演習A④ 第5回 リーディング・リスニング総合演習A⑤ 第6回 リーディング・リスニング総合演習A⑥ 第7回 リーディング・リスニング総合演習A⑦ 第8回 中間試験・振り返り 第9回 リーディング・リスニング総合演習B① 第10回 リーディング・リスニング総合演習B② 第11回 リーディング・リスニング総合演習B③ 第12回 中間テストおよびリーディング・リスニング総合演習B④ 第13回 リーディング・リスニング総合演習B⑤ 第14回 リーディング・リスニング総合演習B⑥ 第15回 リーディング・リスニング総合演習B⑦ 第16回 期末試験・振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	リーディング・リスニング総合演習A: 配布された資料を用いて、授業実施後に復習を行ってください。

	リーディング・リスニング総合演習B: John C. Hudson and Christopher R. Laingen "American Farms, American Food -A Geography of Agriculture and Food Production in the United States-" Lexington Books, 2016をテキストとして使用します。事前に読んで日本語で内容を要約しておいてください。また、文意のとれなかった文章をリストアップしておいてください。テキストは該当箇所を配布しますので購入の必要はありません。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	リーディング・リスニング総合演習A:授業時にプリントを配布します。 リーディング・リスニング総合演習B:授業時にプリントを配布します。
(21)参考文献	リーディング・リスニング総合演習A:①松本茂ほか 2018. 速読・速聴英単語 Basic2400、Z会 ②松本茂ほか 2018. 速読・速聴英単語 Core1900、Z会 リーディング・リスニング総合演習B: John C. Hudson and Christopher R. Laingen "American Farms, American Food -A Geography of Agriculture and Food Production in the United States-" Lexington Books, 2016
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加40%+中間試験30%+期末試験30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式で行います。
(25)留意点・予備知識	1. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回としてカウントします。
(26)オフィスアワー	リーディング・リスニング総合演習A(佐藤孝宏): 下記メールアドレスに随時連絡してください。調整のうえ対応します。 リーディング・リスニング総合演習B(佐藤加寿子): 火曜日7時限。それ以外で対応を希望する場合は下記のアドレスまでメールで連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	リーディング・リスニング総合演習A: t.sato@hirosaki-u.ac.jp (佐藤 孝宏) リーディング・リスニング総合演習B: kazuko_s@hirosaki-u.ac.jp (佐藤 加寿子)
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	580
(2)区分番号	580
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated B Level2
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	パートナーシッププログラム (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○学術英語の基本的な語彙や文法を適切に使うことができるようになること</p> <p>○大学の教養科目で扱われるような様々な学術分野について、特に書く、プレゼンテーションなどの形で発信できるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: 4月16   Introduction to the Class</p> <p>Week 2: 4月23   Humanities // Creativity and the Imagination    Introduction to vocabulary</p> <p>Week 3: 5月7   Sciences // Agriculture and Technology (VOCAB 1 homework due)</p> <p>Week 4: 5月14 ** Homework Assignment #1 Mind Mapping   Compare a university overseas with Hirosaki University Due **</p> <p>Week 5: 5月21   Psychology // The Senses (VOCAB 2 homework due)</p> <p>Week 6: 5月28   Psychology // Memory (VOCAB 3 homework due)</p> <p>Week 7: 6月4   Psychology // Social Influence on Behavior (VOCAB 4 homework due)</p> <p>Week 8: 6月11 ** Homework Assignment #2 Psychology &amp; Food Marketing Debate Due **</p> <p>Week 9: 6月18   Presentations and Feedback // How to give an effective presentation &amp; Introduction to Biomimicry</p> <p>Week 10: 6月25 ** Homework Assignment #3 Design “Biomimicry” Presentation Due **</p> <p>Week 11: 7月2   Writing // How to write and effective essay</p> <p>Week 12: 7月9   Sociology // Culture and Identity (VOCAB 5 homework due)</p> <p>Week 13: 7月16 ** Homework Assignment #4: Sociology “Cool Japan” &amp; Identity Essay Due **</p> <p>Week 14: 7月23   Tobitate: What is it?</p>

	Week 15: 7月30 * Final Test * Week 16: 8月6 REVIEW
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate. [復習] Review class notes
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書：なし Handouts and Videos
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	1. Participation (Class activities) : 20% 2. Assignments: 60% 3. Final Quiz: 20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	In this class students will watch videos, learn vocabulary (phrasal verbs and metaphors) and discuss various academic topics. We will also focus on learning how to debate these topics and how to give an effective presentation.
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	Tuesdays 15:00 ~ 17:00 Thursdays 15:00 ~ 17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Email: <a href="mailto:brian@hirosaki-u.ac.jp">brian@hirosaki-u.ac.jp</a> Homepage: <a href="http://bbirdsell.wixsite.com/index">http://bbirdsell.wixsite.com/index</a>
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	581
(2)区分番号	581
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Integrated C
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3-4時限
(10)担当教員(所属)	バーマン シャーリー ジョイ (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○実務場面で適切な英語表現や実社会でのプレゼンテーション力、交渉術などについて理解できるようになること</p> <p>○上記の知識や技能に基づいて、様々な話題について、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる</p>
(16)授業の内容予定	<p>Students will work in pairs and groups. They will make short and longer presentations. They will spend time in the English Lounge and practice interacting with international students. This is a flipped class meaning that much of the learning and participation will occur outside of the classroom. They will be instructed to keep track of their participation through their portfolio.</p> <p>Week 1: Orientation; Moodle Assignments</p> <p>Week 2: Career Talk; Project Meetings; Vocabulary with -ject-; Moodle Assignments</p> <p>Week 3: Video work; Project Meetings; Vocabulary with -vid-, -vis-; Moodle Assignments</p> <p>Week 4: Video work; Project Meetings; meetings; Vocabulary -tract-; Moodle Assignments</p> <p>Week 5: Group Discussions; Dress Rehearsal 1; Vocabulary with -duc-; Moodle Assignments</p> <p>Week 6: Video work; Group Discussions; Dress Rehearsal 2; Vocabulary with -dict-; Moodle Assignments</p> <p>Week 7: Group Discussions; Dress Rehearsal 3; Vocabulary with -chrono- Moodle Assignments</p> <p>Week 8: Video work; Group Discussions; Dress Rehearsal 4; Vocabulary Exam; Vocabulary with -geo-; Moodle Assignments</p> <p>Week 9: Group Discussions; Project Reflection; Video Report proposals; Vocabulary with -audi-; Moodle Assignments</p> <p>Week 10: Video Work; Vocabulary with -mand-; Moodle Assignments</p> <p>Week 11: Video Report Revisions; with -scrib-, -script-; Moodle Assignments</p> <p>Week 12: Video Reports; Moodle Assignments</p> <p>Week 13: Poster Presentations Prep.; Vocabulary with -bio-; Moodle Assignments</p> <p>Week 14: Poster Presentations 1; Vocabulary with -mis-, -mit-; Moodle Assignments</p> <p>Week 15: Poster Presentations 2; Vocabulary with -tele-; Moodle Assignments</p> <p>Week 16: Review 2; Super Quiz Bowl</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>Students must do all of the assignments and Moodle work. If group projects require outside meeting time, everyone should be sure to arrange to meet with their group. This class should take priority over outside activities. Visiting the English Lounge and participating on Moodle are not optional.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Students will collect handouts and assignments and create a personal portfolio to turn in on the last day of class.
(21)参考文献	イングリッシュ・ラウンジにある図書、ソフトウェア
(22)成績評価方法及び採点基準	Participation 25% Examinations/Presentations/Papers/Projects 45 Assignments/Self-study 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Aural/Oral Activities: listening & pronunciation practice, pair/group work, oral presentations in class and in the English Lounge, discussions and some written assignments (partial translation) リスニング・発音練習、ペアまたはグループ・ワークによるリスニング活動、プレゼンテーション、ディスカッション、およびライティング活動
(25)留意点・予備知識	Classroom participation both in groups and in pairs is essential to learning how to communicate in a foreign language and will be a large part of the final grade for the class. Students are strongly encouraged to come to the English Lounge (EL) for support and practice. A major project will be conducted in the EL at lunch time for which students are required both to present and to attend the presentation of other groups from the class. Students who are absent from a class will be required to contact a classmate to find out what happened and attend a make-up class in the English Lounge, so that they can do the necessary preparation, review, and homework before the next class.  授業でグループやペアの演習に参加することが外国語におけるコミュニケーション技術を学ぶ際にきわめて重要ですので、授業の最終評価の大きな部分を占めます。授業に関する支援や練習のため、イングリッシュ・ラウンジの利用をすすめます。授業を欠席したときは、次回までに必要な準備や復習、課題に取り組むため、同じクラスの人に連絡を取り、欠席した授業の内容を確認するか、イングリッシュ・ラウンジでの補講を受けてください。
(26)オフィスアワー	Students are welcome to visit the English Lounge when the teacher is on duty, check the schedule and/or make an appointment by contacting the instructor by e-mail for special guidance or individual assistance. (partial translation) イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールは【その他】欄で確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:sjberman@hirosaki-u.ac.jp">sjberman@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SBerman.html</a>
(28)その他	<a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/Calendar.html</a>

## 教養教育科目

(1)整理番号	582
(2)区分番号	582
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名[英文名]	Integrated C
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3-4時限
(10)担当教員(所属)	ソロモン ショシュア (教育推進機構)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○実務場面で適切な英語表現や実社会でのプレゼンテーション力、交渉術などについて理解できるようになること</p> <p>○上記の知識や技能に基づいて、様々な話題について、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる</p>
(16)授業の内容予定	<p>Week 1: Orientation</p> <p>Week 2: Unit 1 Research and Preparation</p> <p>Week 3: Unit 1 Research and Preparation, cont.</p> <p>Week 4: Unit 2 CV/Resume writing</p> <p>Week 5: Unit 2 CV/Resume writing, cont.</p> <p>Week 6: Unit 3 Cover Letters</p> <p>Week 7: Unit 3 Cover Letters, cont.</p> <p>Week 8: Quiz, Unit 4 Interviews</p> <p>Week 9: Unit 4 Interviews, cont.</p> <p>Week 10: Unit 5 Advanced interview techniques</p> <p>Week 11: Unit 5 Advanced interview techniques, cont.</p> <p>Week 12: Unit 6 Communication and Negotiation</p> <p>Week 13: Quiz, Unit 6 Communication and Negotiation, cont.</p> <p>Week 14: Review, Final Projects</p> <p>Week 15: Final Projects</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] Read and write assigned homework and come to class prepared to participate.</p> <p>[復習] Review class notes</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Cambridge English for Job Hunting (2008)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. Participation (Class activities) : 30%</p> <p>2. Examination/Presentation/Paper/Project : 50%</p> <p>3. Assignments/Self-study : 20%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Classes will vary between short lectures, group work, presentations, textbook activities, etc. Regular, active participation is mandatory.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	イングリッシュ・ラウンジでの担当者の時間または、メールで連絡してください。イングリッシュ・ラウンジのスケジュールはラウンジのホームページで確認してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:isolomon@hirosaki-u.ac.jp">isolomon@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	<p>イングリッシュ・ラウンジ</p> <p><a href="http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html">http://culture.cc.hirosaki-u.ac.jp/EL/SALCcalendar.html</a></p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	583
(2)区分番号	583
(3)科目種別	英語
(4)授業科目名〔英文名〕	Integrated C
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	佐藤 加寿子(農学生命科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○実務場面で適切な英語表現や実社会でのプレゼンテーション力、交渉術などについて理解できるようになること</p> <p>○上記の知識や技能に基づいて、様々な話題について、分かりやすく伝え合うことができるようになること</p>
(15)授業の概要	<p>○1年次に技能別4科目を学修したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨く</p> <p>○様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 Introduction コミュニケーションの基本</p> <p>第2回 プレゼンテーション演習1 準備 プレゼンテーションの技術</p> <p>第3回 プレゼンテーション演習1 準備</p> <p>第4回 プレゼンテーション演習1 実演</p> <p>第5回 プレゼンテーション演習1 実演</p> <p>第6回 プレゼンテーション演習2 準備</p> <p>第7回 プレゼンテーション演習2 実演</p> <p>第8回 プレゼンテーション演習2 実演</p> <p>第9回 コミュニケーション演習 手紙を 書く1</p> <p>第10回 コミュニケーション演習 手紙を 書く2</p> <p>第11回 コミュニケーション演習 電子 メールを書く</p> <p>第12回 コミュニケーション演習 誘う・ 誘いを受ける</p> <p>第13回 プレゼンテーション演習3 準備</p> <p>第14回 プレゼンテーション演習3 実演</p> <p>第15回 プレゼンテーション演習3 実演</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>期間を通じて各受講生に2回ないし3回、英語でのプレゼンテーションをおこなってもらいます。授業での指示に従ってプレゼンテーションの内容を準備してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布します
(21)参考文献	

	Steven Gershon "Present Yourself 2 Second Edition" Cambridge University Press 2015
(22)成績評価方法及び採点基準	準備状況・課題 30% 発表の成果 40% 授業への参加度(出席そのものではなく積極的に参加しているかを評価します) 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	発表はクラス全体でのグループワークで進めます。発表に対する講評を受けることができます。
(25)留意点・予備知識	受講生のプレゼンテーションの内容は本講参加者に向けてのものです。受講者以外の人に広めることは控えてください。
(26)オフィスアワー	火曜日5時限。これ以外の時間での対応を希望する場合は、電子メールで連絡をください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kazuko_s@hirosaki-u.ac.jp">kazuko_s@hirosaki-u.ac.jp</a>
(28)その他	特にありません

## 教養教育科目

(1)整理番号	584
(2)区分番号	584
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ドイツ語 I ①～⑦ (German I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	「授業の内容予定」記載
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該言語を初めて学ぶ学生を対象とする内容です。</li> <li>○その言語の発音や基本文法などを総合的に学ぶ内容です。</li> <li>○1人の教員が週2回を1セットとして担当する授業形態です。</li> <li>○複数のクラスが開講されますが、共通教科書、共通内容によって授業を運営します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通教科書にそって、第1課～第10課までの内容を学習します。</li> <li>第1回 発音</li> <li>第2回 あいさつ</li> <li>第3回 人称変化</li> <li>第4回 人物</li> <li>第5回 身分</li> <li>第6回 現在人称変化</li> <li>第7回 持ち物</li> <li>第8回 数</li> <li>第9回 性と格</li> <li>第10回 食事</li> <li>第11回 注文</li> <li>第12回 4格</li> <li>第13回 家族</li> <li>第14回 紹介</li> <li>第15回 所有冠詞</li> <li>第16回 趣味 中間試験</li> <li>第17回 勧誘</li> <li>第18回 不規則変化動詞</li> <li>第19回 休暇</li> <li>第20回 予定</li> <li>第21回 話法の助動詞</li> <li>第22回 着物・贈り物</li> <li>第23回 買い物</li> <li>第24回 3格</li> <li>第25回 街</li> <li>第26回 場所・行先</li> <li>第27回 3・4格支配</li> <li>第28回 私の日</li> </ul>

	<p>第29回 時刻  第30回 分離動詞・zu不定詞・再帰代名詞  第31回 期末試験  進行状況により内容が前後することがあります。  ○学部や課程の指定がある場合には、指示されたクラスで受講してください。  ○第1回目の授業時にクラスの人数調整をすることがあります。</p> <p>開講学期 曜日・時限 担当教員  指定学部（課程）</p> <p>前期 火・木5.6時限 ドイツ語I&lt;1&gt; 田  中寿子（非常勤） H/P/A</p> <p>ドイツ語I&lt;2&gt; 山  本由紀（非常勤） M保/S</p> <p>ドイツ語I&lt;3&gt; 福  島伸雄（非常勤） M医（学籍番号奇数）</p> <p>ドイツ語I&lt;4&gt; 相  馬伸子（非常勤） M医（学籍番号偶数）</p> <p>前期 水・金5.6時限  ドイツ語I&lt;5&gt; 相  馬伸子（非常勤）</p> <p>ドイツ語I&lt;6&gt; 田  中美由紀（非常勤）</p> <p>後期 水5.6・金7.8時限  ドイツ語I&lt;7&gt; 田  中寿子（非常勤）</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	この授業ではとくに指定された課題（予習）や授業内容の確認と反復練習（復習）が重視されます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語ノイ』（新倉真矢子ほか）第三書房
(21)参考文献	必要に応じて紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常・中間評価（授業へのとりくみ、小テスト、課題など）40% 期末評価（期末テストなど）60% 上記を総合して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきますが、語学の授業ですので発音練習やテキストの音読など積極的に声を出し、発言することが求められます。黙って座っているのではなく、積極的な授業への参加が必要です。
(25)留意点・予備知識	○週2回で1セットになっている授業ですので、必ず週2回（火・木あるいは水・金のセットで）受講してください。 ○初回授業は、学部や課程が指定されている場合は、そのクラスに行ってください。 ○みなさんにとって初めての外国語ですから、遅刻や欠席をすると基本的な部分を学習できなくなります。遅刻や欠席をしないようにしてください。
(26)オフィスアワー	

	月曜7・8時限または昼休み時間(ドイツ語コーディネーター：齋藤義彦(人文社会科学部))
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp(ドイツ語コーディネーター：齋藤義彦) *(at)を@に置き換えてください
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	585
(2)区分番号	585
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ドイツ語ⅡA①② (German IIA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅠで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルⅠで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	○レベルⅠを修得した学生を対象に、初級から中級へ進む力をつけていく内容です。 ○レベルⅡはAとBに分かれており、ⅡAは文法や読解力を中心とする総合力をのばす授業(週1回)です。
(16)授業の内容予定	前期と同一共通教科書を使います。11, 12課を学習したのちに各課を復習し総合力のアップをはかります。 第1回 休暇など 第2回 過去形 第3回 現在完了形 第4回 天候 第5回 従属の接続詞 第6回 比較・非人称表現 第7回 発音・挨拶の復習 第8回 動詞の人称変化の復習 中間試験 第9回 名詞・冠詞の復習 第10回 格変化の復習 第11回 不規則変化動詞の復習 第12回 命令形の復習 第13回 話法の助動詞の復習 第14回 前置詞の復習 第15回 分離動詞・zu不定詞・再帰代名詞の復習 第16回：期末テスト  開講学期 曜日・時限 担当教員 後期 木5・6時限 ドイツ語IIA<1> 齋藤義彦 (人文社会科学部) 後期 金7・8時限 ドイツ語IIA<2> 福島伸雄 (非常勤)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	この授業ではとくに指定された課題(予習)や授業内容の確認と反復練習(復習)が重視されます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『ゲナウ! コミュニケーションのドイツ語ノイ』(新倉真矢子ほか)第三書房(前期で使用した教科書)
(21)参考文献	必要に応じて紹介します

(22)成績評価方法及び採点基準	平常・中間評価（授業へのとりくみ、小テスト、課題など）40% 期末評価（期末テストなど）60% 上記を総合して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきますが、語学の授業ですので発音練習やテキストの音読など積極的に声を出し、発言することが求められます。黙って座っているのではなく、積極的な授業への参加が必要です。
(25)留意点・予備知識	○人文社会科学部で多文化共生コースへの所属を考えている学生は、ⅡBとあわせて履修してください。 ○クラス指定はありませんので、都合のよい時間帯いずれかを選んで履修してください。 ○クラス人数の調整を行う場合があります。
(26)オフィスアワー	月曜7・8時限または昼休み時間（ドイツ語コーディネーター：齋藤義彦（人文社会科学部））
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp（ドイツ語コーディネーター：齋藤義彦）  *(at)を@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	586
(2)区分番号	586
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ドイツ語ⅡB①② (German IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	日常使われる基本的な会話表現に習熟する授業です。
(16)授業の内容予定	レベルIで学んだことを復習して理解を確実なものにする授業です。  第1回 発音と挨拶の復習 第2回 人と知り合う (ichとSie) 第3回 人と知り合う (duの使い方) 第4回 言語と専攻について話す / 数字の復習 第5回 好きなこと・天候・曜日 第6回 物の名前・買い物 第7回 カフェで注文する、支払う 第8回 買い物に出かける 第9回 日々の生活、時間の表現 第10回 家族、職業について話す 第11回 パーティーと贈り物 第12回 場所と方向 第13回 主文と複文の使い方 第14回 家と大学でしたこと (過去形) 第15回 週末にしたこと、休みの計画 第16回 期末試験  ○開講曜日・時限、担当教員 後期 月曜日 1・2時限 ドイツ語IIB<1> フォルカー フルト (人文社会科学部) 水曜日 5・6時限 ドイツ語IIB<1> 田中美由紀 (非常勤)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(予習) テキストで学習する内容について、事前に把握し、準備することが大事です。 (復習) 授業で出される課題を通じてその日の内容の反復練習が求められます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	『アゲンダ1 アクティブ・ラーニングのドイツ語』（柏木貴久子 / Bettina Goesch）三修社
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価・中間試験（40%）、期末試験（60%）を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に会話形式
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	フォルカー フォルト 木曜日5・6時限（昼休みを含む）または予約で随時 田中美由紀 授業時に問い合わせてください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	フォルト fuhrt(at)hirosaki-u. ac. jp *atは@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	587
(2)区分番号	587
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ドイツ語Ⅲ (German III)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	齋藤 義彦 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅡで学習した内容をもとに、文法を中心とする総合的な理解が深まっていること ○レベルⅡで学習した内容をもとに、応用的な言語運用能力が身につけていること
(15)授業の概要	○レベルⅡを修得した学生を対象とする授業です ○さらなる文法や読解力など総合的な力を身につけるための授業です(週1回)
(16)授業の内容予定	レベルⅡで学んだことを復習してドイツ語の理解・運用能力を確実なものにします。  第1回～第15回 ドイツ語検定試験3級ないし2級相当のテキストを使用します。受講者の専攻にふさわしいテキストを毎回読解していきます。  (例) Robert Schinzinger:Rainer Maria Rilke. (リルケ) 1969を使用した場合 第1回 Einleitung 第2回 Herkunft und Kindheit 第3回 Kadettenschule 第4回 Der Student und junge Literat 第5回 Vorschau 第6回 Lou Andreas-Salome 第7回 Russland 第8回 Worpswede 中間試験(40分) 第9回 Rodin 第10回 Die andere Seite 第11回 Unruhe und Neubeginn 第12回 Krieg 第13回～第15回 Der späte Rilke 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	この授業ではとくに指定された課題(予習)や授業内容の確認と反復練習(復習)が重視されます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	Robert Schinzinger:リルケ.1969 第三書房 この教材は受講者の専攻により変更する場合があります。
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価・中間試験(40%)、期末試験(60%)を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきますが、語学の授業ですので発音練習やテキストの音読など積極的に声を出し、発言することが求められます。黙って座っているのではなく、積極的な授業への参加が必要です。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	月曜7・8時限または昼休み時間
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp *(at)を@に置き換えてください
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	588
(2)区分番号	588
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	フランス語 I ①～⑦ (French I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	「授業の内容予定」記載
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につくこと</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身につくこと</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フランス語を初めて学ぶ学生を対象とする内容です。</li> <li>○フランス語の発音や基本文法、基本表現、コミュニケーション能力などを総合的に学ぶ内容です。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>初回授業時にクラス分けをしますので、掲示で指示された所定の教室に集合してください。</p> <p>第1回目：授業の紹介・クラスの中で使う表現・フランス語の発音。  第2回目：フランス語の発音Activités自己紹介。  第3回目：Activités国籍を言う・元気かどうかを聞くGrammaire  主語人称代名詞と動詞（～です）。  第4回目：Activitésアルファベット・数字（0～20）Grammaire国籍を表す語・人称を強調する代名詞・ouiとnon。  第5回目：Activités職業・住んでいるところについて言う・数字（21～30）Grammaire C' est…[それは～です]・職業・身分を表す単語。  第6回目：Activités聞き取り・国籍と否定形・数字（30～69）  Grammaire -er型動詞habiter（住む）・名詞の性と数。  第7回目：Activités言語・数（0～69）  Grammaire不定冠詞・否定分ne+動詞+pas。  第8回目：Activités喫茶店の飲み物と食べ物・注文する・数（70～100）Grammaire -er型動詞parler（話す）・動詞avoir（～を持っている）。  第9回目：Activités身の回りのもの  Grammaire否定のde。  第10回目：Activités兄弟Grammaire疑問</p>

文・疑問詞（1） qui, où, comment, quel (quelle)。

第11回目： Activités何歳ですかGrammaire 所有形容詞・形容詞の性と数。

第12回目： Activités人物を描写する・国名 Grammaire「～は何?」「何を～?」。

第13回目： Activitésインタビュー

Grammaire場所を表す語句、

第14回目： Activitésこれは何ですか?

Grammaire縮約（1）・代名詞。

第15回目： Activités物の位置「ピコはどこ?」 Grammaire形容詞の性数一致・形容詞の位置（1）。

第16回目： Grammaire「～があります、～がいます」・指示形容詞「この、これらの」。

第17回目： Grammaire定冠詞。

第18回目： Activités比較するGrammaire比較級。

第19回目： Grammaire非人称構文（天候を表す言い方）・人称代名詞「～に」。

第20回目： Activités好き嫌いの程度を言う・好みGrammaire動詞 adorer, aimer, préférer, détester。

第21回目： Activités色・洋服・どんな天気ですかGrammaire中性代名詞en。

第22回目： Activités朝ごはん・部分冠詞。

第23回目： Grammaire Siとnon・動詞

prendre, faire。

第24回目： ActivitésスポーツGrammaire頻度の副詞。

第25回目： Activités曜日・場所Grammaire動詞aller, venir。

第26回目： Activités～へ行こうか：招待するGrammaire動詞mettre。

第27回目： Activités乗り物と期間

Grammaire縮約（2）。

第28回目： Grammaire疑問詞（2）。

第29回目： 動詞vouloir, pouvoir。

第30回目： 中性代名詞 Y。

第31回目： 期末試験。

以上がフランス語 I のおおよその内容と進み具合ですが、クラスによって異なることもありますので、詳しいことは担当の先生にお尋ねください。

開講学期・曜日・時限・担当教員

前期 火曜日・木曜日5・6時限

フランス語 I ① ジャンソン, M (人文社会科学部) M 医 (学籍番号奇数)

フランス語 I ② 小笠原 淑子 (非常勤) P/S/A/M 保

フランス語 I ③ 工藤 貴子 (非常勤) H

フランス語 I ④ 松山 和子 (非常勤) M 医 (学籍番号偶数)

前期 水曜日・金曜日5・6時限

フランス語 I ⑤ ジャンソン, M (人文社会科学部) 全学部

フランス語 I ⑥ マチュー・コキュラン (非常勤) 全学部

後期 水曜日5・6時限・金曜日7・8時限



	フランス語 I ⑦ ジャンソン, M (人文社会科学部) 全学部
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	語学学習は、日々の予習・復習が大切です。「予習」については、宿題等を課す場合がありますので、担当者の指示に従ってください。「復習」は語学学習では最も重要なポイントですので、授業で学んだことをしっかりと復習し身につけて、そして毎回の授業に臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『新装 カフェ・フランセ』 Café Français Nouveau (朝日出版社)
(21)参考文献	『かんたんフランス文法小辞典』(朝日出版社)：文法の予習・確認・整理・復習に便利です。その他、必要に応じて授業時に紹介します。 ※学習には辞書が必要です。次の学習仏和辞典(紙辞書)を推薦します。(優先順位はありません) 『クラウン仏和辞典』(第7版) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(第4版) 『小学館 プログレッシブ仏和辞典』(第2版) 『ディコ仏和辞典』(新装版)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(30パーセント)、小テスト(20パーセント)、期末試験(50パーセント)を総合的に評価します。小テストについては各授業でお知らせします。これはあくまでも基本的な目安でクラスによって異なることがあります。詳しいことは、各クラスの担当者が説明します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	○複数のクラスが開講されますが、統一教科書、統一進度によって授業を運営します。 ○1人の教員が「週2回を1セット」として担当する授業形態です。
(25)留意点・予備知識	○人文社会科学部の「多文化共生コース」では、「言語コミュニケーション実習」が選択必修科目ですので注意して下さい。 ○人文社会科学部で「言語コミュニケーション実習(フランス語)」を選択する場合は、教養教育の「フランス語I」、「フランス語IIA・IIB」を履修していることが前提となっています。人文社会科学部の1年生で「多文化共生コース」への所属を志望している人、その可能性を考えている人、その他「言語コミュニケーション実習(フランス語)」の履修を希望する人は、「フランス語I」をまず履修しましょう。 ○それ以外の人でも、この授業は「適宜修得単位」として認められます。
(26)オフィスアワー	各担当教員に直接確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし。
(28)その他	なし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	589
(2)区分番号	589
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	フランス語ⅡA①② (French IIA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	○フランス語Iで学んだことを基盤にし、教科書に沿って、未習の初級文法を学んでいきます。 ○また、演習問題や配布資料を通じて、さらにステップアップしたフランス語能力を総合的に学びます。
(16)授業の内容予定	第1回目：非人称構文（時刻の言い方） 第2回目：代名動詞 第3回目：直接目的語人称代名詞 第4回目：間接目的語人称代名詞 第5回目：目的語人称代名詞 第6回目：疑問詞（3）：pourquoi、quand 第7回目：動詞：connaître（～を知っている）voir（～が見える、～に会う） 第8回目：複合過去（1） 第9回目：半過去 第10回目：複合過去（2） 第11回目：主語代名詞on 第12回目：近い未来 第13回目：命令形 第14回目：近接未来と近接過去 第15回目：形容詞の位置（2）  開講学期・曜日・時限・担当教員  後期 月曜日1・2時限 フランス語ⅡA ① ジャソツ.M （人文社会科学部）  後期 水曜日5・6時限 フランス語ⅡA ② 泉谷 安規（人文社会科学部）
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	語学学習は、日々の予習・復習が大切です。「予習」については、宿題等を課す場合がありますので、担当者の指示に従ってください。「復習」は語学習得では最も重要なポイントですので、授業で学んだことを毎回しっかり

	と復習し身につけて、そして毎回の授業に臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	『カフェ・フランセ』 (Café Français) (朝日出版社)
(21)参考文献	『かんたんフランス文法小辞典』 (朝日出版社) : 文法の予習・確認・整理・復習に便利です。 その他、必要に応じて授業時に紹介します。  ※学習には辞書が必要です。次の学習仏和辞典(紙辞書)を推薦します。(優先順位はありません) 『クラウン仏和辞典』 (第7版) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』 (第4版) 『小学館 プログレッシブ仏和辞典』 (第2版) 『ディコ仏和辞典』 (新装版)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(30パーセント)、授業内で随時行われる小テスト(70パーセント)を総合的に評価します。これはあくまでも基本的な目安でクラスによって異なることがあります。詳しいことは、各クラスの担当者が説明します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	○演習形式で行われます。 ○開講されるフランス語ⅡA各クラスの授業は、同じ教科書、同じ達成目標ですすめられます。
(25)留意点・予備知識	○人文社会科学部の多文化共生コースでは、「言語コミュニケーション実習」が選択必修科目ですので注意して下さい。 ○人文社会科学部では「言語コミュニケーション実習(フランス語)」を選択する場合は、教養教育の「フランス語Ⅰ」、「フランス語ⅡA・ⅡB」を履修していることが前提となっています。 人文社会科学部の1年生で多文化共生コースへの所属を志望している人、その可能性を考えている人、その他「言語コミュニケーション実習(フランス語)」の履修を希望する人は、「フランス語Ⅰ」に引き続き、「フランス語ⅡA・ⅡB」を履修しておきましょう。 ○それ以外の人でも、この授業は「適宜修得単位」として認められます。
(26)オフィスアワー	各担当教員に直接確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし。
(28)その他	「フランス語Ⅰ」を終えただけでは、フランス語のおもしろさはほんの少ししかわかりません。ぜひ、フランス語初級の発展的な力を養う「フランス語Ⅱ」を引き続き履修し、フランス語に対する理解を深め、フランス語を使う喜びを味わって下さい。 総合的に学習した「フランス語Ⅰ」に対して、「フランス語Ⅱ」では、語学学習の目的別にⅡAとⅡBの2種類の授業に分かれます。ⅡAとⅡBを組み合わせることで総合的なフランス語力が養えます。

※授業状況によりシラバスと実際の内容が変更になる場合には、その都度説明します。

## 教養教育科目

(1)整理番号	590
(2)区分番号	590
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	フランス語ⅡB① (French IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	ジャンソ. M (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅠで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルⅠで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	○フランス語Ⅰを基盤にして、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を養成する授業です。 ○ⅡBのいずれのクラスにも共通した授業内容の主旨は、《実践フランス語》に慣れ親しんでいくことにあります。
(16)授業の内容予定	「フランス語ⅡB」は、フランス語Ⅰを基盤にして、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を強化しつつ、応用への橋渡しをする授業です。いずれの授業を履修するかは、各自の選択に委ねられます。重点的に伸ばしたいスキルをよく考えてから履修しましょう。  《実践フランス語》 ⅡB①：会話・オラル・コミュニケーション (communication orale)  第1回目：時間 第2回目：日常生活 第3回目：ドニの一日 第4回目：ある人について情報を得る 第5回目：自分のアルバイトについて話す 第6回目：フランスの食事の流れ 第7回目：レストランで 第8回目：料理の感想 第9回目：バカンスについて話す 第10回目：どのくらい時間がかかりますか 第11回目：近い未来の計画を話す 第12回目：メールの書き方 第13回目：郵便局で (1) 第14回目：郵便局で (2) 第15回目：ホテルで  ※大まかな進度は上記のとおりですが、クラスの状況により進度が異なる場合もあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	<p>(予習) 毎回、テキスト本文を予習してこ          ことで理解が深まります。          (復習) 学習した内容をきちんと復習し、課          題がある回は、きちんと準備してくるこ          が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『新装 カフェ・フランセ』 Café Français Nouveau (朝日出版社)
(21)参考文献	『かんたんフランス文法小辞典』(朝日出版 社) : 文法の予習・確認・整理・復習に便利 です。 その他、必要に応じて授業時に紹介しま す。
(22)成績評価方法及び採点基準	ⅡB①ジャンソ M : 平常評価 (30パーセン ト)、授業内で随時行う小テスト (70パーセ ント) 等を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。
(25)留意点・予備知識	<p>○総合的に学習した「フランス語Ⅰ」に対 して、「フランス語Ⅱ」では、語学学習の目的 別にⅡAとⅡBの2種類の授業に分かれます。 ○ⅡAとⅡBを組み合わせることで総合的なフ ランス語力が養えます。ⅡBのクラスはⅡAの クラスとペアで履修することを前提にしてい ます。 ○ⅡBは学習内容の機能別に分かれていて、授 業の内容と成績評価も異なります。「授業内 容予定」を確認してそれぞれ履修したいⅡBの クラスを決めてください。 ○人文社会科学部の多文化共生コースでは、 「言語コミュニケーション実習」が選択必修 科目ですので注意して下さい。「言語コミュ ニケーション実習(フランス語)」を選択す る場合は、教養教育の「フランス語Ⅰ」、 「フランス語ⅡA・ⅡB」を履修しているこ とが前提となっています。 ○人文社会科学部の1年生で多文化共生コース への所属を志望している人、その可能性を考 えている人、その他「言語コミュニケーション 実習(フランス語)」の履修を希望する人 は、「フランス語Ⅰ」に引き続き、「フラン ス語ⅡA・ⅡB」を履修しておきましょう。 ○それ以外の人でも、「適宜修得単位」とし て履修することが可能です。</p>
(26)オフィスアワー	授業時間内に直接確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ジャンソン ミッシェル : mjanson(at) hirosaki-u. ac. jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	<p>「フランス語Ⅰ」を終えただけでは、フラン ス語のおもしろさはほんの少ししかわかりま せん。 ぜひ、フランス語初級の発展的な力を養う 「フランス語Ⅱ」を引き続き履修し、フラン ス語に対する理解を深め、フランス語を使う 喜びを味わって下さい。 ※授業状況によりシラバスと実際の内容が変 更になる場合には、その都度説明します。</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	591
(2)区分番号	591
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	フランス語Ⅲ (French III)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	奈蔵 正之 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅡで学習した内容をもとに、文法を中心とする総合的な理解が深まっていること ○レベルⅡで学習した内容をもとに、応用的な言語運用能力が身についていること
(15)授業の概要	1) フランス語によるコミュニケーション能力を高めるために、フランス語文法の重要項目を確実に身につけます。 2) 「アクティヴ・ラーニング」の手法により、例文を分析して、受講生自らが重要な決まりを発見します。次いで、その決まりについて練習問題を行い、理解の定着を図ります。 3) 学習する文法事項は、主に次の5つとなります。 (1) 直説法現在形活用の仕組み (2) 直説法複合過去形と過去分詞、複合過去形と半過去の使い分け (3) 直説法単純未来形の活用と、単純未来形の用法 (4) 名詞の使い方と限定詞(冠詞, 所有形容詞, 指示形容詞など)の用法 (5) 代名詞のシステムとその用法 4) とりわけ直説法現在形の学習に時間が割かれます。現在形はフランス語文法の基本でありながら、一つ一つの活用を機械的に暗唱するだけではなかなか身に付きません。実は現在形の活用には基本的な仕組みがあり、それを学べば活用を覚えることは非常に楽になるのです。このことをこの授業で学びましょう。
(16)授業の内容予定	第1回: ガイダンス, 導入小テスト, グループ学習導入 第2回: 直説法現在形の決まりの探求 (1) 第3回: 直説法現在形の決まりの探求 (2) 第4回: 直説法現在形の決まりの探求 (3) 第5回: 直説法現在形の決まりの探求 (4) 第6回: 小テスト第1回, 限定詞と名詞の用法の探求 (1) 第7回: 限定詞と名詞の用法の探求 (2) 第8回: 小テスト第2回, 複合過去形と過去分詞 (1) 第9回: 複合過去形と過去分詞 (2) 第10回: 複合過去形と半過去形 第11回: 小テスト第3回, 代名詞のシステム

	<p>の探求（１）  第12回：代名詞のシステムの探求（１）  第13回：小テスト第４回，単純未来形の探求（１）  第14回：単純未来形の探求（２）  第15回：単純未来形の探求（３）  第16回：小テスト第５回，全体の総まとめ</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>フランス語だけではなく，異言語の学習においては，豊富な演習問題を繰り返し行う以外の勉強方法はありません。毎回，自宅における練習課題が配布されますので，しっかり取り組みましょう。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>1) 基本的に，教員が作成したプリントによる学習となります。  2) 探求プリント，自宅練習プリント，文法事項まとめプリント，の3種類が随時配布されます。</p>
(21)参考文献	<p>必要があれば，開講時あるいは授業中に紹介されます。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価：毎回の練習課題の提出（40%）  中間・期末評価：5回行われる小テスト（60%）  以上が合算されて評価が行われる予定です。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>教員が一方向的に解説を行うのではなく，可能な限り，「アクティヴ・ラーニング」の手法を取り入れていきます。  (1) 3名ぐらいずつでグループを作ります。  (2) 1つ1つの学習事項について，例文と質問を記載した「探求プリント」が配布されますので，グループ内で相談して，文法的な仕組みやその理由などを自分たちで見つけていきます。  (3) 見つけた内容や理由が適切かどうかを，全体で検討します。  (4) 以上を授業ごとに数回繰り返します。  (5) 最後に，その日の学習内容を定着させるための練習プリントが配布されます。  (6) 翌週の授業時に練習プリントを提出します。  (7) 練習プリントは添削され，その後の授業で返却され，追加の説明も行われます。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>1) この授業は，人文社会科学部の専門科目で「言語コミュニケーション実習（フランス語）」のサポート授業として実施します。「言語コミュニケーション実習（フランス語）」を履修する人は，必ずこの「フランス語III」も履修してください。  2) 人文社会科学部以外の学部の2年次以上学生でも，会話中心のフランス語の授業を受講したい人は，上記の「言語コミュニケーション実習（フランス語）」を自由科目として履修することを勧めます。  3) 文法の学習というどうしても退屈なイメージが付きまといますが，文法というのは言語の骨格です。とりわけフランス語は，日本語とは異なり，文法への依存度が極めて高</p>



	<p>い言語です。文法の理解があやふやなままでは、いくら口頭練習を繰り返しても、フランス語の会話や聞き取りの能力を高めることは望めません。</p> <p>フランス語によるコミュニケーション能力を高めるために、積極的にフランス語の文法力を養っていきましょう。</p>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日7・8時限</p> <p>学生の方が時間の自由が利きませんから、オフィスアワーの時間帯にかかわらず、研究室を来訪できる時間帯を記して、メールで事前にアポイントメントを取るようになしてください。遠慮なくどうぞ。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p><a href="mailto:nagura@hirosaki-u.ac.jp">nagura@hirosaki-u.ac.jp</a></p>
(28)その他	<p>1) 授業内容、およびフランス語の文法についての質問は、随時メールで受け付けます。なにか疑問が生じたら、遠慮なく質問メールを送信してください。</p> <p>2) 授業とは別に、次のような課外活動を行ってほしいという希望があれば、遠慮なく申し出てください。恒常的に出席してくれる人が2～3人以上まとまるようであれば、喜んで実施します。</p> <p>(1) フランス語検定試験受験のための勉強会</p> <p>(2) フランスに関する文献の読書会</p> <p>(3) フランス語の原書の講読会</p>

## 教養教育科目

(1)整理番号	592
(2)区分番号	592
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	中国語 I ①～⑧ (Chinese I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	「授業の内容予定」記載
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該言語を初めて学ぶ学生を対象とする内容です。</li> <li>○その言語の発音や基本文法などを総合的に学ぶ内容です。</li> <li>○1人の教員が週2回を1セットとして担当する授業形態です。</li> <li>○複数のクラスが開講されますが、統一教科書、統一進度によって授業を運営します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>【授業内容】</p> <p>◎統一テキストを使い、週2回（合計30回の授業時間）で授業を進め、第1課～第12課までの内容を学習します。</p> <p>* 学習範囲と試験範囲は各クラスともテキスト12課までに統一されています。</p> <p>* 大まかな進度は下記のとおりですが、クラスにより進捗状況が異なる場合もあります。</p> <p>* 授業時間内に理解度を確認するための小テストを行ったり課題発表などが求められる場合があります。</p> <p>第1回～第10回＝テキスト第1課～第4課…発音の基礎をかためます。</p> <p>第1回：導入  第2回：声調・単母音を学ぶ  第3回：単母音・複母音・ピンインのつけ方①を学ぶ  第4回：子音を学ぶ・ピンインのつけ方②を学ぶ  第5回：子音・鼻音を伴う母音を学ぶ①  第6回：鼻音を伴う母音を学ぶ②  第7回：声調変化を学ぶ  第8回：短いあいさつ文を学ぶ  第9回：発音の復習①  第10回：発音の復習②</p> <p>第11回～第20回＝テキスト第5課～第8課…中</p>

国語の基本的な文型を学びます。

第11回：人称代名詞、挨拶ことば  
第12回：“是”構文、疑問文の作り方  
第13回：姓名の言い方、語気助詞①  
第14回：呼びかけのことば、語気助詞②  
第15回：指示代名詞、“的”の使い方  
第16回：副詞、動詞述語文  
第17回：助動詞①  
第18回：疑問詞の使い方、  
第19回：反復疑問文、助動詞②  
第20回：第8課までのまとめ（進度調整を含む）

第21回～第30回＝テキスト第9課～第12課…中国語のさまざまな表現を学びます。

第21回：数詞、年齢の言い方  
第22回：量詞、“有”の使い方  
第23回：過去の経験表現、二重目的語をとる動詞  
第24回：選択疑問文、形容詞述語文  
第25回：助動詞③、主述述語文  
第26回：比較表現  
第27回：前置詞の使い方、助動詞④  
第28回：動詞の重ね方、方向補語  
第29回：連動文、お金の言い方（名詞述語文）  
第30回：第12課までのまとめ（進度調整を含む）

第31回：期末試験

#### 【クラス編成】

◎学部や課程の指定がありますので、指示されたクラスで受講してください。

開講学期	曜日・時限	担当教員
前期	火・木5.6時限	楊天 曦（人文社会科学部）
	M1/M2	中国語 I ①
		中国語 I ② 許紅 H（文化創生課程）
		中国語 I ③ 李淑 賢（非常勤）
		H（社会経営課程）
		中国語 I ④ 顧国 玉（非常勤）
		P/S/A（HとM以外）
前期	水・金5.6時限	中国語 I ⑤ 楊天 曦（人文社会科学部）
		P/S/A/M1/M2（H以外）
		中国語 I ⑥ 許紅 （非常勤）
		H（文化創生課程）
		中国語 I ⑦ 李淑 賢（非常勤）
		H（社会経営課程）
後期	水5.6・金7.8時限	中国語 I ⑧ 楊天 曦（人文社会科学部）
		全学部

\*前期①～⑦までのクラスは人数調整を行う可能性がありますが（後期は1クラスのみ開講のため調整なし）。  
\*初回授業後の人数調整によって、最終的な履修クラスが確定します。

(17)準備学習(予習・復習)等の内容

(予習) テキストで学習する内容について、事前に把握しておいてください。  
(復習) 正しい発音や声調を身につけていく

	ためには、学習後の反復練習が大事です。この授業ではとくに自宅での復習や課題演習が重視されますので、その日習った内容を自宅でよく復習し、授業で出される課題はきちんと準備してきてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『日中いぶこみ交差点』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子）朝日出版社
(21)参考文献	必要に応じて授業のなかで紹介しします。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常・中間評価（授業へのとりくみ、小テスト、課題、発表など）40% 期末評価（期末発表、期末テストなど）60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。詳しいことは担当者に確認してください。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきますが、語学の授業ですので発音練習やテキストの音読、課題の発表など積極的に声を出し、発言することが求められます。黙って座っているのではなく、積極的な授業への参加が必要です。
(25)留意点・予備知識	(1)週2回で1セットになっている授業ですので、必ず週2回（火・木あるいは水・金のセットで）受講してください。 (2)初回授業は学部や課程で指定されたクラスに行ってください。 (3)みなさんにとって初めての外国語ですから、遅刻や欠席をすると基本的な部分を学習できなくなります。遅刻や欠席をしないようにしてください。
(26)オフィスアワー	城本るみ(中国語コーディネータ・人文社会科学部)：(前後期とも)火曜・水曜 12:00~12:40 *メールで事前に連絡があれば、時間調整可能です。中国語の授業について何かあれば、ご相談ください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	城本るみ rumi(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)を@に置き換えてください。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	593
(2)区分番号	593
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	中国語ⅡA①② (Chinese IIA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅠで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルⅠで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	○レベルⅠを修得した学生を対象に、初級から中級へ進む力をつけていく内容です。 ○レベルⅡはAとBに分かれており、ⅡAは文法や読解力を中心とする総合力をのばす授業(週1回)です。
(16)授業の内容予定	<p>前期とは異なる新しいテキストを使って、総合力のアップをはかります。 下記はテキストにそったおおまかな目安ですので、クラスによって進度が異なる場合があります。 また授業時間内に理解度を確認するための小テストを行ったり課題発表などが求められる場合があります。</p> <p>第1回：導入、発音の復習など 第2回：第1課 第3回：第2課 第4回：第3課 第5回：第4課 第6回：第5課 第7回：第6課 第8回：1課～6課までの復習(進度調整を含む) 第9回：第7課 第10回：第8課 第11回：第9課 第12回：第10課 第13回：第11課 第14回：第12課 第15回：7課～12課までの復習(進度調整を含む) 第16回：期末試験</p> <p>開講学期 後期 曜日・時限 月1,2時限 担当教員 中国語ⅡA① 楊天曦 (人文社会科学部)</p>

	後期 水5.6時限 中国語ⅡA② 城本 るみ(人文社会科学部)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(予習) 毎回、テキスト本文の会話文と短文をきちんと予習していただくことが求められます。 (復習) その日に学習した内容をしっかり復習し、出された課題をきちんと準備していただく必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『オリンピックへようこそ(会話編)』(徐送迎著)朝日出版社
(21)参考文献	授業内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常・中間評価(授業へのとりくみ、小テスト、課題、発表など)30% 期末評価(期末テスト)70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。詳しいことは担当者に確認してください。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきます。予習した内容を発表してもらい、発言を求めますので双方向的な授業となります。
(25)留意点・予備知識	(1) 人文社会科学部で多文化共生コースへの所属を考えている学生は、ⅡBとあわせて履修してください。 (2) クラス指定はありませんので、都合のよい時間帯いずれかを選んで履修してください。 (3) クラス人数の調整を行う場合があります。
(26)オフィスアワー	楊天曦:(木)・(金)12:00~12:40 城本るみ:(火)・(水)12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	楊天曦: yang(at)hirosaki-u.ac.jp 城本るみ: rumi(at)hirosaki-u.ac.jp *(at)を@に置き換えてください。
(28)その他	特になし。

## 教養教育科目

(1)整理番号	594
(2)区分番号	594
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	中国語ⅡB①② (Chinese IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	「授業の内容予定」記載
(10)担当教員(所属)	「授業の内容予定」記載
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルⅠで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルⅠで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	○レベルⅠを修得した学生を対象に、初級から中級へ進む力をつけていく内容です。 ○レベルⅡはAとBに分かれており、レベルⅡBは会話力養成を中心とする授業(週1回)です。
(16)授業の内容予定	中国語Ⅰで使用したテキストの後半部分(第13課～第20課)の内容を学習します。 下記はテキストにそったおおまかな目安ですので、クラスによって進度が異なる場合があります。 また授業時間内に理解度を確認するための小テストを行ったり課題発表などが求められる場合があります。  第1回：導入、発音の復習など 第2回：疑問詞疑問文、隔たりや起点・方向をあらわす前置詞、所在を表す動詞 第3回：動作の実現や完了を表す“了”と変化や事態の発生をあらわす“了” 第4回：時刻の言い方、時間量の言い方、程度副詞の使い方 第5回：年月日・曜日の言い方、「もうすぐ～になる」という表現、前置詞 第6回：時刻の言い方、時間量の言い方 第7回：禁止表現、程度副詞 第8回：助動詞“会”、結果補語 第9回：否定表現、方位詞の使い方 第10回：助動詞“能”、前置詞“在” 第11回：追加・継続の表現、可能補語 第12回：様態補語、程度補語、前置詞 第13回：二重目的語をとる動詞、進行表現、「少し～」の表現 第14回：過去の強調構文、使役文、動作や状態の持続表現 第15回：“把”や“被”の使い方、存現文、祈る言葉 第16回：期末試験  開講学期 曜日・時限 担当教員

	後期 木5.6時限 中国語ⅡB① 楊天曦 (人文社会科学部) 後期 金7.8時限 中国語ⅡB② 李 梁 (人文社会科学部)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(予習) 毎回、テキスト本文をきちんと予習してることが求められます。 (復習) 学習した内容をしっかり復習し、授業で出された課題をきちんと準備してることが求められます。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『日中いぶこみ交差点』 (相原茂・陳淑梅・飯田敦子) 朝日出版社
(21)参考文献	必要に応じて紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常・中間評価(授業へのとりくみ、小テスト、課題、発表など) 30% 期末評価(期末テスト) 70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。詳細については担当者に確認してください。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	テキストにそって進めていきます。予習した内容や課題を発表してもらい、会話の練習をします。積極的な発言を求める双方向的な授業となります。
(25)留意点・予備知識	(1) 人文社会科学部で多文化共生コースへの所属を考えている学生は、ⅡAとあわせて履修してください。 (2) クラス指定はありませんので、都合のよい時間帯を選んで履修してください。 (3) クラス人数の調整を行う場合があります。
(26)オフィスアワー	楊天曦 : (木)・(金) 12:00~12:40 李 梁 : (月) 12:00~13:30、(木) 11:30~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	楊天曦 : yang(at)hirosaki-u.ac.jp 李 梁 : popo(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)を@に置き換えてください。
(28)その他	特になし。



## 教養教育科目

(1)整理番号	595
(2)区分番号	595
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ロシア語 I (Russian I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限、金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	レトバ` ルカ` (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	ロシア語の基本的な文法と読む力を養っていくことです。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 アルファベットを読むと書く練習(1) 第3回 アルファベットを読むと書く練習(2) 第4回 発音練習と単語を読み始めます。(1) 第5回 発音練習と単語を読み始めます。(2) 第6回 文法・名詞活用(1) 第7回 文法・名詞活用(2) 第9回 文法・人称代名詞(1) 第10回 文法・人称代名詞(2) 第11回 応用練習(1) 第12回 応用練習(2) 第13回 復習・まとめ 第14回 中間テストと振り返り 第15回 文法・動詞活用・現在形(1) 第16回 文法・動詞活用・現在形(2) 第17回 応用練習(1) 第18回 応用練習(2) 第19回 文法・動詞活用・未来形(1) 第20回 文法・動詞活用・未来形(2) 第21回 応用練習(1) 第22回 応用練習(2) 第23回 文法・動詞活用・過去形(1) 第24回 文法・動詞活用・過去形(2) 第25回 文を作って読む。(1) 第26回 文を作って読む。(2) 第27回 応用練習(1) 第28回 応用練習(2) 第29回 まとめ(1) 第30回 まとめ(2) 第31回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	

	基本として前の授業内容の復習をします。次の授業のための予習をします。宿題も出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ロシア語へのパスポート（白水社）
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：10% 中間評価（中間テスト）：40% 期末評価（期末試験）：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式です。授業の最後にその日の講義内容についての質問や感想を聞きます。ロシア文化と伝統をより深く理解するための映像と動画を見て解説します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、基本として授業時間と15分前後です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mamomacochi1d@yahoo.co.jp
(28)その他	授業の最後の15分の間に伝統と文化を紹介する動画視聴し解説を行います。意見交換をします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	596
(2)区分番号	596
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ロシア語ⅡA (Russian IIA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	レウバ` ルカ` (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	ロシア語による初歩的なコミュニケーションの力を養うことです。文法を中心として学習します。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 読むと書く練習 第3回 文法復習 第4回 文法・名詞 第5回 文法・名詞活用 第6回 応用練習 第7回 動詞・完了形 第8回 文法・動詞活用 第9回 応用練習 第10回 文法・動詞活用・未来形 第11回 応用練習 第12回 文法・動詞活用・過去形 第13回 文を作って読む。 第14回 応用練習 第15回 まとめ 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	基本として前の授業内容の復習をします。次の授業のための予習をします。宿題も出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ロシア語へのパスポート (白水社)
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度) : 10% 中間評価(中間テスト) : 40% 期末評価(期末試験) : 50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	

	講義形式です。授業の最後にその日の講義内容についての質問や感想を聞きます。ロシア文化と伝統をより深く理解するための映像と動画を見て解説します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。ロシア語の基礎的な知識のある学生が対象です。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、基本として授業時間と15分前後です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mamomacochi1d@yahoo.co.jp">mamomacochi1d@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	授業の最後の15分の間に伝統と文化を紹介する動画視聴し解説を行います。質問と意見交換をします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	597
(2)区分番号	597
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	ロシア語ⅡB (Russian IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	レトバ` ルカ` (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	ロシア語による初歩的なコミュニケーションの力を養うことです。会話を中心として学習します。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 読むと書く練習 第3回 文法・復習 第4回 応用練習 第5回 文法・人称代名詞 第6回 応用練習 第7回 復習・まとめ 第8回 文法・動詞活用・完了形 第9回 応用練習 第10回 文法・動詞活用・未来形 第11回 応用練習 第12回 文法・動詞活用・過去形 第13回 物語を読む。 第14回 復習 第15回 まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	基本として前の授業内容の復習をします。次の授業のための予習をします。宿題も出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ロシア語へのパスポート (白水社)
(21)参考文献	授業で配布するプリントにて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度) : 10% 中間評価(中間テスト) : 40% 期末評価(期末試験) : 50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式です。授業の最後にその日の講義内容についての質問や感想を聞きます。ロシア

	文化と伝統をより深く理解するための映像と動画を見て解説します。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。ロシア語の基礎的な知識のある学生が対象です。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日, 基本として授業時間と15分前後です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:mamomacochi1d@yahoo.co.jp">mamomacochi1d@yahoo.co.jp</a>
(28)その他	授業の最後の15分間に伝統と文化を紹介する動画視聴し解説を行います。意見交換をします。

## 教養教育科目

(1)整理番号	598
(2)区分番号	598
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	朝鮮語 I (Korean I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限、金曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	鹿嶋 英愛(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韓国語を始めて学ぶ学習者を対象にする入門コースです。</li> <li>○ 発音がしっかり再現でき、文字が正確に書けるようにする(要 自主ドリル)</li> <li>○ 基本となる文型をしっかりと身につけ簡単なやりとりが出来るようにする</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用テキストの前半部分を勉強します。他に、韓国の事情紹介・K-pop等も取り上げます。)</li> <li>○第1回 スケジュール配布、ハングル文字の紹介</li> <li>○第2回 文字練習① 母音・子音・音節</li> <li>○第3回 文字練習② 母音・バッチム</li> <li>○第4回 文字練習③ 教室用語・挨拶の言葉・発音ルール</li> <li>○第5回 Lesson1① (あいさつ)</li> <li>○第6回 Lesson1② (あいさつ)</li> <li>○第7回 Lesson1③ (あいさつ)</li> <li>○第8回 Lesson2① (自己紹介, 名詞作り)</li> <li>○第9回 Lesson2② (自己紹介, 名詞作り)</li> <li>○第10回 Lesson2③ (自己紹介, 名詞作り)</li> <li>○第11回 Lesson3① (物の名前を聞く)</li> <li>○第12回 Lesson3② (物の名前を聞く)</li> <li>○第13回 Lesson3③ (物の名前を聞く)</li> <li>○第14回 Lesson4① (家族紹介)</li> <li>○第15回 Lesson4② (家族紹介)</li> <li>○第16回 Lesson4③ (家族紹介), 中間テスト</li> <li>○第17回 Lesson5① (発表、家族紹介)</li> <li>○第18回 Lesson5② (発表、家族紹介)</li> <li>○第19回 Lesson5③ (発表、家族紹介)</li> <li>○第20回 Lesson6① (1週間の計画表を作る)</li> <li>○第21回 Lesson6② (1週間の計画表を作る)</li> </ul>

	<p>る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第22回 Lesson6③ (1週間の計画表を作る)</li> <li>○第23回 Lesson7① (友達に質問してみる)</li> <li>○第24回 Lesson7② (友達に質問してみる)</li> <li>○第25回 Lesson7③ (友達に質問してみる)</li> <li>○第26回 Lesson8① (濟州道で何をしましたか)</li> <li>○第27回 Lesson8② (濟州道で何をしましたか)</li> <li>○第28回 Lesson8③ (濟州道で何をしましたか)</li> <li>○第29回 Lesson9① (営業時間を聞く)</li> <li>○第30回 Lesson9② (営業時間を聞く)</li> <li>○第31回 期末テスト、発表</li> </ul>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・スケジュールに従い、毎回事前に予習用の課題を配布します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Easy Korean Academy 『Easy Korean for forfeigners』 (hangul Park)
(21)参考文献	授業中に用意します。(ワークシート、K-pop 歌詞 詩、童謡など)
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題・授業活動 20%</li> <li>○ 小テスト 40%</li> <li>○ 期末テスト 40%</li> </ul>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに小テスト(事前に課題を配布)を行います。</li> <li>・CDのモデル音声を聞きながら反復練習、文型練習を行います。</li> </ul>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休みが10回超えると、不可となります。</li> <li>・遅刻、早退を3回すると、休み1回とします。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	・授業中に問い合わせください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kashima2011@hotmail.co.jp">kashima2011@hotmail.co.jp</a>
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	599
(2)区分番号	599
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	朝鮮語ⅡA (Korean IIA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	鹿嶋 英愛(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること</p> <p>○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること</p>
(15)授業の概要	<p>・このクラスでは、基本的に前期を終えた学習者及び、それと同様の既習者を対象にします。</p> <p>○語彙、基本文型のドリルを中心に、正確に文字・音で再現出来る演習を行います。</p> <p>○文法や構文の基礎を身につけるよう応用演習を行います</p> <p>・本講座を修了後、独学学習も可能になる事を期待します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>・使用テキストの前半部分を勉強します。</p> <p>○第1回 Lesson10 導入(趣味について)</p> <p>○第2回 Lesson10 文型練習</p> <p>○第3回 Lesson11 導入(買い物をする)</p> <p>○第4回 Lesson11 文型練習①</p> <p>○第5回 Lesson11 文型練習②</p> <p>○第6回 Lesson12 導入(誰かを誘う)</p> <p>○第7回 Lesson12 文型練習①</p> <p>○第8回 Lesson12 文型練習②</p> <p>○第9回 Lesson13 導入(地下鉄の乗り方)</p> <p>○第10回 Lesson13 文型練習①</p> <p>○第11回 Lesson13 文型練習②</p> <p>○第12回 Lesson14 導入(自分の意思を表す)</p> <p>○第13回 Lesson14 文型練習</p> <p>○第14回 Lesson15 導入(提案をする, 希望する)</p> <p>○第15回 Lesson15 文型練習</p> <p>○第16回 期末テスト(作文)</p> <p>テキスト以外 短い詩の暗唱、伝来童話の朗読</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・スケジュールに従い、毎回事前に予習課題を配布します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Easy Korean Academy 『Easy Korean for foreigners』 (hangul Park)
(21)参考文献	授業中に用意します。(ワークシート、K-pop 歌詞 詩、童謡など)
(22)成績評価方法及び採点基準	<input type="radio"/> 課題・発表など 20% <input type="radio"/> 小テスト 40% <input type="radio"/> 期末テスト 40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに小テスト（事前に課題を配布）を行います。</li> <li>・CDのモデル音声を聞きながら反復練習、文型練習を行います。</li> <li>・ロールプレイで文型練習を行います。</li> </ul>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休みが5回超えると、不可となります。</li> <li>・遅刻、早退を3回すると、休み1回とします。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	・授業中に問い合わせください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kashima2011@hotmail.co.jp">kashima2011@hotmail.co.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	600
(2)区分番号	600
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	朝鮮語ⅡB (Korean IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	鹿嶋 英愛(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○レベルIで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること ○レベルIで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること
(15)授業の概要	・このクラスでは、基本的に前期を終えた学習者及び、それと同様の既習者を対象にします。 ○語彙、基本文型のドリルを中心に、正確に文字・音で再現出来る演習を行います。 ○詩や童話、K-pop等各自好きな課題を選び練習、期末に発表する
(16)授業の内容予定	・使用テキストの前半部分を勉強します。 ○第1回 Lesson10 (動詞2, ビンゴゲーム) ○第2回 Lesson10 (1日の予定, 韓国の1年) ○第3回 Lesson10 (文法) ○第4回 Lesson11 (対話文を作る, 誕生日, 領収書) ○第5回 Lesson11 (買い物をする) ○第6回 Lesson12 (形容詞) ○第7回 Lesson12 (計画を立てる, 発表する) ○第8回 Lesson13 (発表を聞き質問する, 返答する) ○第9回 Lesson13 (地下鉄に乗る) ○第10回 Lesson13 (食事中的対話, 伝統的なあそび) ○第11回 Lesson14 (動詞3) ○第12回 Lesson14 (文章を作る) ○第13回 Lesson14 (人生計画を立てる) ○第14回 Lesson15 (韓国でやりたいこと) ○第15回 Lesson15 (観光計画を立てる) ○第16回 期末テスト、発表会 テキスト以外 短い詩の暗唱、伝来童話の朗読, K-popの歌詞
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・スケジュールに従い、毎回事前に予習用の課題を配布します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Easy Korean Academy 『Easy Korean for forforeigners』 (hangul Park)
(21)参考文献	授業中に用意します。(ワークシート、K-pop 歌詞 詩、童謡など)
(22)成績評価方法及び採点基準	<input type="radio"/> 課題・授業活動・発表など 30% <input type="radio"/> 小テスト 30% <input type="radio"/> 期末テスト 40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに小テスト（事前に課題を配布）を行います。</li> <li>・2～4人組のロールプレイを中心とする Activity.</li> </ul>
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休みが5回超えると、不可となります。</li> <li>・遅刻、早退を3回すると、休み1回とします。</li> </ul>
(26)オフィスアワー	・授業中に問い合わせください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:kashima2011@hotmail.co.jp">kashima2011@hotmail.co.jp</a>
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	601
(2)区分番号	601
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A3 (Japanese A3)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山崎 達郎 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>このクラスでは、比較的短めの社会科学系の文章を読みながら、「読解のストラテジー」を学習します。また、文章を要約する練習も行います。</p> <p>専門的な文章を読むための「ストラテジー」を身につけます。          専門的な文章を読むための文法知識、構造に関する知識を身につけます。          社会科学系の文章に出てくる基本的な語彙の意味が理解でき、文中での使い方がわかるようになります。          文章の内容を200字程度で要約できるようになります。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業案内、第1課 何の話かをつかむ(1)</p> <p>第2回 第1課 何の話かをつかむ(2)</p> <p>第3回 第1課 何の話かをつかむ(3)</p> <p>第4回 第2課 何が問題になっているかをつかむ(1)</p> <p>第5回 第2課 何が問題になっているかをつかむ(2)</p> <p>第6回 中間テスト(1) 第3課 言いたいことは何かをつかむ(1)</p> <p>第7回 第3課 言いたいことは何かをつかむ(2)</p> <p>第8回 第4課 歴史を扱った文章を読む(1)</p> <p>第9回 第4課 歴史を扱った文章を読む(2)</p> <p>第10回 中間テスト(2) 第5課 二項対立を見ぬく(1)</p> <p>第11回 第5課 二項対立を見ぬく(2)</p> <p>第12回 第6課 筆者の立場を見ぬく(1)</p>

	<p>第13回 第6課 筆者の立場を見ぬく(2)  第14回 第7課 文章を整理して理解する(1)  第15回 第7課 文章を整理して理解する(2)  第16回 期末テスト</p> <p>授業予定は変更がある場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：テキストを読み、練習問題を解いてく  ること。  課題：学習した課に出てきた漢字、語彙、文  法を復習しておくこと。  学習した課の要約文を作成すること。”</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	一橋大学留学生センター『留学生のためのス トラテジーを使って学ぶ文章の読み方』(ス リーエーネットワーク)
(21)参考文献	必要があれば、授業時に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への参加度、課題：20%  小テスト(クイズ、漢字、文法・語彙)：  20%  中間テスト：30%  期末テスト：30%”</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。必要に応じてグルー プワークを行うこともあります。
(25)留意点・予備知識	予習でわからなかったことがあれば、積極的 に質問するようにしてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	602
(2)区分番号	602
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語B1 (Japanese B1)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	山崎 達郎 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</p> <p>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</p> <p>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</p>
(15)授業の概要	<p>このクラスでは、発表を理解する練習と発表する練習を行います。また、発表用の資料を作る練習も行います。</p> <p>発表を聞いて理解できるようになります。形式を守って発表ができるようになります。正しい文法、正しい発音で、スムーズに発表を行うことができるようになります。発表に必要な資料を作ることができるようになります。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業案内、ウォーミングアップ</p> <p>第2回 第1課 食中毒 (1)</p> <p>第3回 第1課 食中毒 (2)</p> <p>第4回 第2課 言葉と文化 (1)</p> <p>第5回 第2課 言葉と文化 (2)</p> <p>第6回 第3課 不登校 (1)</p> <p>第7回 第3課 不登校 (2)</p> <p>第8回 中間テスト、第4課 高校生とバイク (1)</p> <p>第9回 第4課 高校生とバイク (2)</p> <p>第10回 第5課 食料自給率 (1)</p> <p>第11回 第5課 食料自給率 (2)</p> <p>第12回 第6課 子どもの生活習慣病 (1)</p> <p>第13回 第6課 子どもの生活習慣病 (2)</p> <p>第14回 第7課 少子化 (1)</p> <p>第15回 第7課 少子化 (2)</p> <p>第16回 期末テスト</p> <p>予定は変化する場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：付属のCDの音声を用いて、学習予定の課の音声を聞き、内容を理解してくること。</p> <p>課題：授業で学習した内容から、発表用の資</p>

	料を作ること。 スムーズな発表ができるように、繰り返し発表の練習を行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』
(21)参考文献	必要があれば、授業時に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度：20% 中間テスト：30% 期末テスト：30% 提出物：20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、ペアワーク・グループワークを含む演習形式
(25)留意点・予備知識	授業への積極的な参加を求めます。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし



## 教養教育科目

(1)整理番号	603
(2)区分番号	603
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語B3 (Japanese B3)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</p> <p>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</p> <p>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</p>
(15)授業の概要	<p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で調べ物をしたり、レポートを書いたりするための読解スキルを練習します。</li> <li>・日本語で書かれた新聞記事や書籍を調べる際に必要な情報収集の方法を知り、実際に情報を収集して発表します。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>(1) 授業の進め方</p> <p>(2) 学術文献1</p> <p>(3) 学術文献2</p> <p>(4) 新聞の種類、紙面、構成</p> <p>(5) ポータルサイト、ニュースサイト</p> <p>(6) ブックレビューサイト</p> <p>(7) 中間テストと解説</p> <p>(8) 新聞記事を読む1 (取材記事)</p> <p>(9) 新聞記事を読む2 (対談や鼎談)</p> <p>(10) 新聞記事を読む3 (論説やコラム)</p> <p>(11) 新聞記事を読む4 (人生相談や投稿記事)</p> <p>(12) 参考文献や引用文献の書き方</p> <p>(13) テーマに沿った発表と相互コメント</p> <p>(14) テーマに沿った発表と相互コメント</p> <p>(15) テーマに沿った発表と相互コメント</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>課題の本の該当ページや記事を前もって読み、概要を事前に提出します。</p> <p>発表担当の学生は発表の準備をします。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布します。
(21)参考文献	<p><a href="https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/">https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/</a></p> <p><a href="http://database.asahi.com/index.shtml">http://database.asahi.com/index.shtml</a></p> <p>ただし、学内からのアクセスに限られます。</p>

	猪谷千香2019『その情報はどこから?』ちくま プリマー新書
(22)成績評価方法及び採点基準	課題提出 30% 中間試験 30% 発表とコメント 40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、講読、ワークシートの相互コメント、発表
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko(アットマーク)hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	604
(2)区分番号	604
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A7 (Japanese A7)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	新川 以智子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語文法の様々な機能を理解し、適切な場面で適切な日本語表現が使えるようになるよう導きます。</li> <li>○中級までの文法事項を正確に理解し、適切に使用するために、項目ごとに課題活動や練習を行います。</li> <li>○この他に上級表現を習得するための活動や中級日本語を使いこなすための活動を並行して行います。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 日本語の基本構造  第2回 構造的特徴 (品詞分類など)  第3回 品詞別特徴 (格助詞)  第4回 品詞的特徴 (動詞)  第5回 品詞的特徴 (形容詞、副詞)  第6回 品詞的特徴 (名詞、指示詞)  第7回 品詞的特徴 (とりたて助詞)  第8回 品詞的特徴 (様々な助詞)  第9回 日本語のヴォイス1  第10回 日本語のヴォイス2  第11回 日本語のアスペクト1  第12回 日本語のアスペクト2  第13回 複文の構造1 (名詞修飾節、補足節)  第14回 複文の構造2 (従属節)  第15回 45分テスト45分解説</p> <p>授業内容は予定であり、進行状況によって変更の可能性あり</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>翌週に学ぶ文法事項や、習った文法事項について与えられた課題に取り組む。また各回一人ずつ担当する課題に対しての準備をする。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>当面、購入する教科書は定めず、資料はコピーして配布します。</p>

(21)参考文献	中級日本語文法要点整理ポイント20、中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック、他 授業内でも提示
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト40%、課題発表、参加度20%、修了テスト40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式で基本的にグループで話し合う形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	605
(2)区分番号	605
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A1 (Japanese A1)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	笹森 圭子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○日本語の文章構成を学び、相手に伝わる表現力を身に付けること。</p> <p>○アカデミックな発表を聞き、作成したメモを元に発表ができること。</p> <p>○正しい発音、発表時の声の大きさ、速さ、トーンを習得すること。</p>
(15)授業の概要	<p>○発表の原稿やメモを作成するための文章表現を学ぶ。</p> <p>○学習した文章表現等を利用して、ノートのとり方を学ぶ。</p> <p>○ノートをとった内容をまとめ、口頭で説明する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>アカデミックな発表を聞いて理解すること、また自分で発表をし、質疑応答をするために、必要な基礎を勉強するクラスです。</p> <p>第1回 授業についての説明</p> <p>第2回 第1課 スピーチ1 (1)</p> <p>第3回 第1課 スピーチ1 (2)</p> <p>第4回 第2課 スピーチ2</p> <p>第5回 第3課 スピーチ3</p> <p>第6回 第4課 新聞・雑誌記事紹介</p> <p>第7回 第5課 意見の主張</p> <p>第8回 第6課 ディスカッション (1)</p> <p>第9回 第6課 ディスカッション (2)</p> <p>第10回 第7課 ディベート (1)</p> <p>第11回 第7課 ディベート (2)</p> <p>第12回 第8課 プレゼンテーション (1)</p> <p>第13回 第8課 プレゼンテーション (2)</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 期末試験 (発表) と講評</p> <p>第16回 期末試験 (発表) と講評</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：原稿を準備する 復習：授業の発表で指摘された部分を振り返る
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	銅直信子・坂東実子 著『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』(国書刊行会)

(21)参考文献	適宜授業内でお知らせします。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小テスト 20%</li> <li>2. 試験（模擬発表） 40%</li> <li>3. 課題 20%</li> <li>4. 授業への積極性 20%</li> </ol>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義とペアワークやグループワークを中心とした演習形式で行います。
(25)留意点・予備知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に参加してください。</li> <li>2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。</li> <li>3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。</li> </ol>
(26)オフィスアワー	月 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kay*hirosaki-u. ac. jp (*を@に変更してください。)
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	606
(2)区分番号	606
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A5 (Japanese A5)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	各国の観光スポットや、博物館にあるような物を写真入りで紹介する文を4回、また、意見文を3回作成します。
(16)授業の内容予定	<p>授業2回で、1つのトピックを扱います。トピックは学生の希望などに応じて変わる場合があります。</p> <p>1回目 授業の説明、提出方法、場所の説明                  2回目 有名な建物 1 (博物館など)                  3回目 有名な建物 2                  4回目 有名な古い物 1 (化石など)                  5回目 有名な古い物 2                  6回目 有名な新しい物、場所 1 (遊園地、テーマパークなど)                  7回目 有名な新しい物、場所 2                  8回目 有名な自然や景色 1 (山や海、川など)                  9回目 有名な自然や景色 2                  10回目 意見文・短命県 1                  11回目 意見文・短命県 2                  12回目 意見文・偏見と差別 1                  13回目 意見文・偏見と差別 2                  14回目 意見文・ワークライフバランス 1                  15回目 意見文・ワークライフバランス 2</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	作文作成は授業でも少し行いますが、授業外学修が主です。提出物はMSWordで作成し、印刷したものを紙で提出します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	

	田中・阿部2014『Good Writingへのパスポート-読み手と構成を意識した日本語ライティング』くろしお出版
(22)成績評価方法及び採点基準	すべての提出物が評価対象です。 アウトライン 30% 作文 50% ピアレビュー 20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、グループワーク
(25)留意点・予備知識	作文が締切に間に合わなかった人は授業に参加できません。
(26)オフィスアワー	火曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko(アットマーク)hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	607
(2)区分番号	607
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A4 (Japanese A4)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	山崎 達郎 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につくこと</p> <p>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身につくこと</p> <p>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</p>
(15)授業の概要	<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の専門分野の論文を独力で読んでいくための基礎的読解力を身につけます。</li> <li>・レポートや学術論文を読むための文法知識、構造に関する知識を身につけます。</li> <li>・レポート等によく出てくる言葉を理解し、使えるようになります。</li> <li>・文章の内容を200字程度で要約できるようになります。</li> </ul> <p>このクラスでは、さまざまな分野の説明文、報告文、論説文を読みながら、文章の論理構造に着目した読みのスキルを身につける練習をします。また、文章を要約する練習もします。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業案内、第1課 異文化適応 (1)</p> <p>第2回 第1課 異文化適応 (2)、第2課 いじめ (1)</p> <p>第3回 第2課 いじめ (2)</p> <p>第4回 中間テスト (1)、第3課 衝動買いを誘発する (1)</p> <p>第5回 第3課 衝動買いを誘発する (2)</p> <p>第6回 第4課 おいしい食感の理由 (1)</p> <p>第7回 第4課 おいしい食感の理由 (2)</p> <p>第8回 中間テスト (2)、第5課 日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容 (1)</p> <p>第9回 第5課 日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容 (2)</p> <p>第10回 第6課 フリーター問題 (1)</p> <p>第11回 第6課 フリーター問題 (2)</p> <p>第12回 第7課 安全でおいしい水を飲むために (1)</p> <p>第13回 第7課 安全でおいしい水を飲むために (2)</p>

	<p>第14回 第8課 「まじめ」という言葉 (1) 第15回 第8課 「まじめ」という言葉 (2) 第16回 期末テスト</p> <p>予定は変更の可能性があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習：テキストを読み、練習問題を解いてく ること。 課題：学習した課に出てきた漢字、語彙、文 法を復習しておくこと。 学習した課の要約文を作成すること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会(編著) 『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 3. 論文読解編』(アルク)
(21)参考文献	必要があれば、授業時に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への参加度、課題：20% 小テスト(クイズ、漢字、文法・語彙)： 20% 中間テスト：30% 期末テスト：30%</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式です。必要に応じてグルー プワークを行うこともあります。
(25)留意点・予備知識	予習でわからなかったことがあれば、積極的 に質問するようにしてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	608
(2)区分番号	608
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語B2 (Japanese B2)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	山崎 達郎 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>このクラスでは、ビジネスで必要な口頭表現のスキルを向上させる練習と、ビジネス会話を通じた異文化理解についての学習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ビジネス場面で使用する語彙・表現、会話の流れを身につけます。</li> <li>○正しい発音、正しい文法でビジネス会話を進めることができるようになります。</li> <li>○異文化理解を進め、問題の解決方法を考えることができるようになります。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業案内 第1課 自慢話と自己アピール(1)  第2回 第1課 自慢話と自己アピール(2) 第1課 仕事の範囲(1)  第3回 第1課 仕事の範囲(2)  第4回 第3課 休暇の申請(1)  第5回 第3課 休暇の申請(2)  第6回 第4課 指示の仕方(1)  第7回 第4課 指示の仕方(2)  第8回 中間試験、第5課 ミーティングでの発言(1)  第9回 第5課 ミーティングでの発言(2)  第10回 第6課 謝罪(1)  第11回 第6課 謝罪(2)  第12回 第7課 報告～解決済みの小さなトラブル(1)  第13回 第7課 報告～解決済みの小さなトラブル(2)  第14回 第8課 報告・連絡・相談(1)  第15回 第8課 報告・連絡・相談(2)  第16回 期末試験</p> <p>変更の可能性があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：教科書の学習予定部分を読み、練習問題等を考えてくること。

	復習：学習した会話文が流暢に話せるように、繰り返し練習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	村野節子・山辺真理子・向山陽子『ロールプレイで学ぶビジネス日本語 グローバル企業でのキャリア構築をめざして』
(21)参考文献	必要があれば、授業時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度：20% 中間試験（口頭）：30% 期末試験（口頭、筆記）：50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、ペア・グループワークを含む演習形式
(25)留意点・予備知識	授業への積極的な参加を求めます。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	609
(2)区分番号	609
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語B4 (Japanese B4)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1・2時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の構成や特徴を知り、新聞記事を読む練習をします。</li> <li>・論文の構成や特徴を知り、論文が読む練習をします。</li> </ul>
(16)授業の内容予定	<p>予定は学生等の事情に応じて変更の可能性があります。</p> <p>1回目 論文の読み方説明  2回目 論文1 1回目  3回目 論文1 2回目  4回目 論文2 1回目  5回目 論文2 2回目  6回目 論文3 1回目  7回目 論文3 2回目  8回目 新聞の読み方の説明 1回目  9回目 新聞の読み方の説明 2回目  10回目 新聞記事1 1回目  11回目 新聞記事1 2回目  12回目 新聞記事2 1回目  13回目 新聞記事2 2回目  14回目 新聞記事3 1回目  15回目 新聞記事3 2回目</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	自分が読みたい論文または新聞記事の要約を作成します。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	2007木山三佳『ニュースで増やす上級への語彙・表現』アルク 2015稲村・佐藤『改訂版留学生の日本語3論文読解編』アルク
(22)成績評価方法及び採点基準	

	論文や記事の要約 40% コメント 30% 全体発表 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義とグループワークと発表です。
(25)留意点・予備知識	論文を選ぶ時、自分で読んで、よく分からないものは選ばず、わかりやすいものを選ぶことが大事です。
(26)オフィスアワー	火曜日12:40~14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko(アットマーク) hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	610
(2)区分番号	610
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A8 (Japanese A8)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	新川 以智子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</p> <p>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</p> <p>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</p>
(15)授業の概要	<p>○全体を通して適切な場面で適切な日本語表現が使えるようになるための活動を行います。</p> <p>○日本語文法を表現機能別に整理し、適切な使い分けに向かうための様々な練習を行います。</p> <p>○毎回、学生からのアウトプット活動も並行して行います。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 日本語の表現機能の概要</p> <p>第2回 表現機能 「感覚」</p> <p>第3回 表現機能 「確信・主張」</p> <p>第4回 表現機能 「判断・推量」</p> <p>第5回 表現機能 「願望・依頼」</p> <p>第6回 表現機能 「伝聞・引用」</p> <p>第7回 表現機能 「感情」</p> <p>第8回 表現機能 「提案・拒否」</p> <p>第9回 表現機能 「義務」</p> <p>第10回 表現機能 「許可・禁止」</p> <p>第11回 表現機能 敬語1</p> <p>第12回 表現機能 敬語2</p> <p>第13回 類似機能の使い分け1</p> <p>第14回 類似機能の使い分け2</p> <p>第15回 45分テスト45分解説</p> <p>以上は予定であり、進行状況によって変更する可能性あり</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	各回の表現機能のテーマについて、授業外で解くべき練習問題を配布し、各自調べて記入してから授業に臨む。授業後、問題の訂正箇所について、朱書きで訂正したものを提出することを必須とする。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書はありません。授業時にプリントを配布します。

(21)参考文献	「日本語類義表現と使い方のポイント」市川保子(著), スリーエーネットワーク, 2018年9月 「どんなときどう使う日本語表現文型500」友松悦子 他(共著), アルク, 2010年6月 その他に授業内でも提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト40%、課題発表、参加度20%、修了テスト40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式で基本的にグループで話し合う形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし



## 教養教育科目

(1)整理番号	611
(2)区分番号	611
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A2 (Japanese A2)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	笹森 圭子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本でのビジネスに必要な基本となるもの(敬語表現、ビジネスマナー等)を身に付けること。 ○スムーズに発話できるようになること。
(15)授業の概要	○ビジネス場面に応じて使える短い談話を学習し、会話へと発展させる。 ○日本でのビジネスマナーについて学習し、見識を深める。
(16)授業の内容予定	第1回 授業についての説明、第1課 紹介する(1) 第2回 第1課 紹介する(2)、第2課 あいさつをする(1) 第3回 第2課 あいさつをする(2) 第4回 第3課 電話をかける・受ける(1) 第5回 第3課 電話をかける・受ける(2) 第6回 第4課 注意をする・受ける(1) 第7回 第4課 注意をする・受ける(2) 第8回 第5課 頼む・断る(1) 第9回 第5課 頼む・断る(2) 第10回 第6課 許可をもらう(1) 第11回 第6課 許可をもらう(2) 第12回 第7課 アポイントをとる(1) 第13回 第7課 アポイントをとる(2) 第14回 第8課 訪問する(1) 第15回 第8課 訪問する(2) 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: CDを聴き、教科書「クイズ」「表現」「言葉」を調べ、発音練習しておくこと。復習: 「談話」「会話」「ロールプレイ」をしっかりと口慣らししておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	宮崎道子・郷司幸子 著 『にほんごで働く！ビジネス日本語30時間』（スリーエーネットワーク）
(21)参考文献	適宜授業内でお知らせします。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 授業への積極性 40% 2. 試験 40% 3. 課題・宿題 20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義とペアワーク、グループワークなどの演習。
(25)留意点・予備知識	1. 積極的に授業に参加してください。 2. 全体の授業回数の3分の2以上出席しなければ、成績が「不可」となります。 3. 遅刻は授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとします。遅刻2回で欠席1回とカウントします。
(26)オフィスアワー	水 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kay*hirosaki-u.ac.jp (*を@に変更してください。)
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	612
(2)区分番号	612
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語A6 (Japanese A6)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	小山 宣子 (国際連携本部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること</li> <li>○基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること</li> <li>○基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>中上級レベル (N2) の作文で、レポート作成の基本となる文のまとまりを書く練習をします。</p> <p>同時に、まだ初歩的な間違いが多いレベルなので、間違いが多い項目を教科書を用いて勉強します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>内容予定は学生の希望などに応じて変わる場合があります。</p> <p>1回目 授業の進め方の説明                  2回目 第1課 書き言葉に統一する・第2課 文の意味を明確にする                  3回目 第3課 「こと」と「の」を使い分ける・第4課 文をシンプルにする                  4回目 第5課 語彙を適切に選択する・第6課 文を首尾一貫させる                  5回目 第7課 形が似ている表現を使い分ける・第8課 「は」と「が」を使い分ける                  6回目 第9課 書き手の視点を示す・第10課 過去と現在のつながりを示す                  7回目 第11課 文章の中の語を指し示す・第12課 前後の関係を表す                  8回目 第13課 前の文に関係づける・第14課 効果的に意見を述べる                  9回目 試験(40分)と解説(50分)                  10回目 問題提起と現状認識1                  11回目 問題提起と現状認識2                  12回目 グラフや表の説明1                  13回目 グラフや表の説明2                  14回目 結論・意見1                  15回目 結論・意見2</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>前半は水曜の正午までに、教科書の課題を Moodle に提出します。</p> <p>後半は水曜の正午までに、作文をMSWordで作成し、自分で印刷し、所定の場所に提出します(締切厳守)。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	小森・三井『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 1600円＋税
(21)参考文献	必要があれば紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	教科書の内容の筆記試験（9回目） 50% アウトライン 20% 作文とコメント 30%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	前半：講義と学生の答案に関する解説 後半：講義とグループ活動
(25)留意点・予備知識	後半の授業では、アウトラインや作文が締切に間に合わなかった人は授業に参加できません。
(26)オフィスアワー	火曜日12:40～14:10
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nobuko（アットマーク）hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

## 教養教育科目

(1)整理番号	613
(2)区分番号	613
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	化学の世界-光と物質- (The World of Chemistry-Molecular spectroscopy-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	島田 透 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○化学ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、化学現象を理解できるようになること
(15)授業の概要	○化学の基礎について学びます。 ○光と物質に関する科学的な見方を学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 量子力学概説 第3回 光と分子の相互作用 第4回 原子と周期表 第5回 分子の対称性 第6回 分光測定的基础 第7回 光電子分光法 第8回 紫外・可視分光法 第9回 分子振動の理論 第10回 赤外・ラマン分光法 第11回 回転分光法 第12回 電子スピン・核スピン 第13回 電子線回折・X線回折 第14回 時間分解分光法 第15回 空間分解分光法 ※授業の進行状況等によって内容や回数が変更になる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：参考文献などを利用して各回の講義内容に関するキーワード等に触れておくこと (120分) 復習：講義で学んだことを再確認すること (120分)
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	指定しません。
(21)参考文献	「アトキンス 物理化学(上・下)」P. W. Atkins著 (東京化学同人) 「アトキンス 物理化学要論」P. W. Atkins著 (東京化学同人) 「マッカーリ・サイモン 物理化学(上・下)」D. A. McQuarrie、J. D. Simon著 (東京化学同人)

(22)成績評価方法及び採点基準	中間評価（中間レポート）：40% 期末評価（期末レポート）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価が行われる予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式（受講生の人数によっては一部演習形式）
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要としませんが、授業への積極的な参加をお願いします。
(26)オフィスアワー	特に設定をしません。Eメールで日程調整をしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tshimada@弘前大
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	614
(2)区分番号	614
(3)科目種別	社会・文化
(4)授業科目名〔英文名〕	政治経済・社会-原価計算・管理会計入門- (Political Economy and Social Sciences- Introduction to Cost Accounting and Management Accounting-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	小杉 雅俊 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○政治学, 経済学, 経営学, 社会学ならびにこれら学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて, 社会への理解を深めること
(15)授業の概要	○ 原価計算および管理会計のツールが、企業管理のどのような場面で利用され、どのような機能を発揮するのか理解する ○ 原価計算・管理会計に関する基礎的な計算問題が解けるようになる
(16)授業の内容予定	この講義では、原価計算・管理会計の主要論点に関する基礎的な内容について、実務適用を想定した学習を行います。経営管理のための会計であるとされる管理会計や、管理会計と原価情報を共有する原価計算について、利用の過程や状況を示しながら、計算問題の演習を行い、構造や仕組みを把握していきます。簡単なストーリーの中で、実際に各ツールが使われる状況をイメージしながら進みますので、個別の問題を解きながら、主要なツールの活用場面や位置付け、各ツールの関連性や全体像が理解できるようになります。  第1回 授業ガイダンス・経営の基礎となる原価情報 第2回 実際原価計算による価格設定 第3回 受注生産のための個別原価計算 第4回 部門別原価計算による正確な原価情報の提供 第5回 大量生産のための総合原価計算(1)―総合原価計算の基礎 第6回 大量生産のための総合原価計算(2)―工程別・組別・等級別の総合原価計算 第7回 工場会計の独立と決算のための計算 第8回 原価管理(1)―コスト・コントロールのための原価計算 第9回 原価管理(2)―コスト・マネジメントのための原価計算 第10回 直接原価計算による貢献利益の測定 第11回 目標利益を達成するための計算

	<p>第12回 活動基準原価計算による製品戦略  第13回 特殊原価調査による経営意思決定  第14回 品質原価計算によるコスト・マネジメント  第15回 設備投資のための経済性計算  第16回 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として、教科書の該当範囲を事前に読み込み、理解できない点を明確にすると学習効率が上がります。授業中は、板書による計算演習が中心となります。問題を解くときの考え方や会計数値の動きに着目して、しっかりとノートを取ってください。復習の際は、授業中に行う設問や練習問題を中心に、反復練習をして計算構造を頭に入れましょう。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>村田直樹・相川奈美(編著)(2012)『会計による経営管理』税務経理協会。[弘前大学附属図書館 開架図書(本館2F), 336.84 Mu59k]</p>
(21)参考文献	<p>授業中に適宜紹介します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(授業への参加度): 10%  中間レポート: 40%  期末試験: 50%  上記により総合的な成績評価を行います。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>基本的に講義形式を想定しています。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>授業内で毎回、電卓を使用しますので、持参してください。事前の予備知識は必要ありません。今まで会計学を全く勉強したことがない初学者を対象とした授業です。会計学に興味がある人や、原価計算・管理会計の初歩的な考え方を理解したい人はもちろん、苦手意識を持っている人にも受講して欲しいと考えています。日商簿記2級の勉強をこれから始めてみたいという学生さんや、工業簿記の勉強をしているけども観念的に感じられて理解が進まないと思っている学生さんの受講もオススメです。日商簿記2級からはじめて、主要な論点をピックアップして扱います。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 12:00-12:30 この時間以外にも柔軟に対応していますので、授業前後に気軽にご相談ください。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>k*os*ug*i [at] hirosaki-u.ac.jp  上記の*を全て消去し、[at]をアットマークに変換してください。</p>
(28)その他	<p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>



## 教養教育科目

(1)整理番号	615
(2)区分番号	615
(3)科目種別	自然・科学
(4)授業科目名〔英文名〕	情報処理入門B-情報機器の操作⑭-【M保放射線】(Introduction to Information Processing B-Operation of Information Systems-)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	野坂 大喜(保健学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の専門領域を修めるために必要となる情報技術について、学識を得ること</li> <li>○情報技術の知識や技能に基づいて、情報技術の活用や情報社会を理解できるようになること</li> <li>○学校教員に必要となる情報技術やその活用、情報社会に関する知識および態度を体得すること</li> </ul>
(15)授業の概要	<p>コンピュータは大学での学習において必須のツールであり、様々な医療情報システムの取り扱いにおいて、情報リテラシーの習得は必須となっています。</p> <p>本授業においては理系専門科目において必要とされる情報技術を演習を通じて習得します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第01回:医療における情報処理の活用方法(オリエンテーション) 4月11日 表計算ソフトウェアによるデータ処理演習1(数式) 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第02回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習2(数式) 4月18日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第03回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習3(関数) 4月25日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第04回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習4(関数) 5月 9日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第05回:表計算ソフトウェアによるデータ処理演習5(グラフ) 5月16日 表計算ソフトウェアの使用方法について学びます</p> <p>第06回:プレゼンテーション演習1 5月23日 プレゼンテーションの構成について学びます</p> <p>第07回:プレゼンテーション演習2</p>

	<p>5月30日  プレゼンテーションテーマを決めて資料を作成します  第08回：プレゼンテーション発表会  6月 6日  プレゼンテーションテーマごとにグループ発表を行います。  第09回：プレゼンテーション発表会  6月13日  プレゼンテーションテーマごとにグループ発表を行います。  第10回：プログラミング言語演習1 (Microsoft Visual C#) 6月20日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第11回：プログラミング言語演習2 (Microsoft Visual C#) 6月27日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第12回：プログラミング言語演習3 (Microsoft Visual C#) 7月 4日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第13回：プログラミング言語演習4 (Microsoft Visual C#) 7月11日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第14回：プログラミング言語演習5 (Microsoft Visual C#) 7月25日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第15回：プログラミング言語演習6 (Microsoft Visual C#) 8月 1日  プログラミング技術としてC#言語の使用方法について学びます  第16回：期末試験  8月 8日</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>課題を配布しますので、翌週までに課題を各自で行ってください。  課題内容に習熟するよう各自で予習・復習してください。  コンピュータの扱いに慣れていない人は授業の内容を次回までにマスターできるように練習しておき、授業の進行に遅れないよう留意してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>1)猫でもわかるC#プログラミング 第3版 SB クリエイティブ  2)Excel入門5冊分！〈基本操作と計算+関数+グラフ+データベース+マクロ〉  出版社：技術評論社</p>
(21)参考文献	<p>1)医療者のためのExcel入門 医学書院  ISBN:978-4-260-01845-6  2)ゼロからはじめるプログラミング ソフトバンク クリエイティブ株式会社  ISBN:4-7973-3704-4  3)Visual C#.NET 毎日コミュニケーションズ  ISBN:4-8399-0992-X  4)世界でいちばん簡単な Visual C#のe本  [最新第2版] 秀和システム  ISBN 978-4-7980-2945-0</p>

(22)成績評価方法及び採点基準	課題30点、期末試験70点として総合評価を行います。 課題、試験それぞれ6割以上を合格基準とします。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習が主体です。
(25)留意点・予備知識	日常的により多くの時間、端末に触れることが重要です。 課題が提出されなかった場合は減点となります。
(26)オフィスアワー	水曜日:12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<a href="mailto:hnozaka@hirosaki-u.ac.jp">hnozaka@hirosaki-u.ac.jp</a> <a href="http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/">http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/</a> 本授業で使用する授業資料へのリンクがあります。
(28)その他	特になし

## 教養教育科目

(1)整理番号	616
(2)区分番号	616
(3)科目種別	多言語
(4)授業科目名〔英文名〕	フランス語ⅡB② (French IIB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	熊野 真規子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○レベルⅠで学習した内容をもとに、文法や構文などの基礎が身についていること</p> <p>○レベルⅠで学習した内容をもとに、基礎的なコミュニケーション能力が身についていること</p>
(15)授業の概要	<p>○フランス語Ⅰを基盤にして、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を養成する授業です。</p> <p>○ⅡBのいずれのクラスにも共通した授業内容の主旨は、《実践フランス語》に慣れ親しんでいくことにあります。</p>
(16)授業の内容予定	<p>「フランス語ⅡB」は、フランス語Ⅰを基盤にして、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を強化しつつ、応用への橋渡しをする授業です。どの授業を履修するかは、各自の選択に委ねられます。重点的に伸ばしたいスキルをよく考えてから履修しましょう。</p> <p>《実践フランス語》 ⅡB②：使える文法フランス語・音読〔仏検対応可〕(exercices et activités)</p> <p>第1回：導入、前期進度確認と使える前期文法(復習練習) 第2回：Leçon 11 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(時刻の表現、普段の生活) 第3回：Leçon 11 暗誦練習、関連文法・関連テーマ練習(時刻の表現、普段の生活) 第4回：Leçon 11 暗誦、関連文法・関連テーマ練習(時刻の表現、普段の生活、代名動詞) 第5回：Leçon 11 暗誦、関連文法・関連テーマ練習(時刻の表現、代名動詞) 第6回：Leçon 12 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(直接目的語人称代名詞) 第7回：Leçon 12 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(直接目的語人称代名詞・間接目的語人称代名詞) 第8回：Leçon 12 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(間接目的語人称代名詞) 第9回：Leçon 15 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(近接未来、命令形) 第10回：Leçon 15 音読練習、関連文法・関連テーマ練習(近接未来、年末年始の予定)</p>

	<p>第11回：Leçon 14 音読練習、関連文法・関連テーマ実践練習（複合過去 昨日したこと etc.）</p> <p>第12回：Leçon 14 音読練習、関連文法・関連テーマ実践練習（複合過去、昨日したこと etc.）</p> <p>第13回：Leçon 13～14関連文法応用練習（複合過去）</p> <p>第14回：Leçon 13～14関連文法応用練習（複合過去）</p> <p>第15回：Leçon 11～Leçon 15 関連文法・関連テーマ総合練習、質問等</p> <p>第16回：期末テスト</p> <p>※大まかな進度は上記のとおりですが、クラスの状況により進度が異なる場合もあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>(予習) 毎回、テキスト本文を予習してこることで理解が深まります。</p> <p>(復習) 学習した内容をきちんと復習し、課題がある回は、きちんと準備してこることが必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『新装 カフェ・フランセ』 Café Français Nouveau (朝日出版社)
(21)参考文献	『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版社）：文法の予習・確認・整理・復習に便利です。 その他、必要に応じて授業時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	ⅡB②熊野真規子：平常・中間評価（授業への参加度、小テスト、課題などを記録した簡易ポートフォリオ）30%+期末評価（期末テスト）70%で総合的に判断します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式です。 ペアワーク/グループワークを取り入れた実践練習も含まれます。
(25)留意点・予備知識	<p>○総合的に学習した「フランス語Ⅰ」に対して、「フランス語Ⅱ」では、語学学習の目的別にⅡAとⅡBの2種類の授業に分かれます。</p> <p>○ⅡAとⅡBを組み合わせることで総合的なフランス語力が養えます。ⅡBのクラスはⅡAのクラスとペアで履修することを前提にしています。</p> <p>○ⅡBは学習内容の機能別に分かれていて、授業の内容と成績評価も異なります。「授業内容予定」を確認してそれぞれ履修したいⅡBのクラスを決めてください。</p> <p>○人文社会科学部の多文化共生コースでは、「言語コミュニケーション実習」が選択必修科目ですので注意して下さい。「言語コミュニケーション実習（フランス語）」を選択する場合は、教養教育の「フランス語Ⅰ」、「フランス語ⅡA・ⅡB」を履修していることが前提となっています。</p> <p>○人文社会科学部の1年生で多文化共生コースへの所属を志望している人、その可能性を考えている人、その他「言語コミュニケーション実習（フランス語）」の履修を希望する人</p>

	<p>は、「フランス語Ⅰ」に引き続き、「フランス語ⅡA・ⅡB」を履修しておきましょう。 ○それ以外の人でも、「適宜修得単位」として履修することが可能です。</p>
(26)オフィスアワー	<p>授業時間内に直接確認してください。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>熊野 真規子 : kumano(at)hirosaki-u. ac. jp ※(at)は@に置き換えてください。</p>
(28)その他	<p>「フランス語Ⅰ」を終えただけでは、フランス語のおもしろさはほんの少ししかわかりません。 ぜひ、フランス語初級の発展的な力を養う「フランス語Ⅱ」を引き続き履修し、フランス語に対する理解を深め、フランス語を使う喜びを味わってください。 ※授業状況によりシラバスと実際の内容が変更になる場合には、その都度説明します。</p>